

# 2018年度 九州大学IRデータ集



Office of  
Institutional  
Research  
Kyushu University





## IR 室長メッセージ

九州大学インスティテューショナル・リサーチ(IR)室は、平成 28 年 4 月に設置された。大学の諸活動の自己点検・評価とその結果の分析に基づいた改革・改善は、大学の機能強化に不可欠である。このため国立大学法人には、自らが定めた中期目標・計画の達成度に関する法人評価、教育の質保証のための認証評価への対応が法的な義務となっている。本学では、法人化以前の平成 13 年に大学評価を推進する評価情報開発室を設置し、その後、業務の拡張に伴って、平成 16 年に大学評価情報室に改組して体制を強化し、「国立大学法人評価」や「大学機関別認証評価」等の業務を担当してきた。大学評価情報室は、このような評価業務には対応できるが、自己点検・評価の結果を分析し、数値指標やエビデンスを伴った定性的な指標に基づいて、大学の改革・改善の推進を支援する機能は殆ど備わっていなかった。九州大学 IR 室は、総長のリーダーシップの下で、大学の運営や経営を戦略的にマネジメントできるガバナンス体制の充実を支援する目的で、評価業務に加え、この機能を強化した部署として設置されたものである。

中央教育審議会大学分科会によれば、IR とは、「教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究」とされている。「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」に基づいて改善改革の方針を示すことによって、大学の構成員が、改善改革の必要性を共通に理解でき、また、改善改革の方針への合意形成も進むと考えられる。

このような観点からは、IR 室の最初のそして最も重要な業務の一つは、「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」を集積することである。

これまで大学の各部署には、多種多様で膨大な数のデータが蓄積されてきた。しかも担当部署（時には担当者）が最も収集しやすい形、利用しやすい形、あるいは提出要請先の要求に沿う形などで集積されてきた。さらには、同じ種類の同じ期間を対象にしたデータであっても、データの定義が違っている場合も少なくない。このような状況下では、単にデータの提供元から IR 室が収集しただけでは、「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」にはなり得ない。IR 室では、事務部各部署の尽力のもとで、学内に散在するデータを「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」にするべく集積をしてきた。一方で、データの情報公開には格段の留意が求められる。この点も公開範囲の区分を精査し、データの集積元とも協議をしながら区分けを進めてきた。

この「九州大学 IR 室データ集」は集積・整理したデータの一部ではあるが、大学や各部局等の現状を把握し、改革改善や将来計画策定に利用していただくことを目的に作成されており、Web 上で公開されている電子データは随時更新するなど使いやすくなっている。さらに、大学の研究力分析の一例も掲載しているが、これを参考に部局等は SciVal や Pure を活用して是非自らの部局等の研究力分析を行っていただきたい。

Web 上で公開しているので、九州大学の構成員はもとより、学外から九州大学を支えていただいている諸ステークホルダーの皆様にも、九州大学の現状をご覧いただける。IR 室がなすべき評価と改革改善支援の機能を充実させるためにも、皆様方からのご協力をご指導を賜りたい。

本データ集は、IR 室員、IR 室協力室員、拡充メンバー、IR 室アドバイザーのご尽力の賜物である。心から感謝申し上げたい。

平成 30 年 11 月 IR 室長

荒 殿 誠



# 九州大学 I R データ集

## 目次

目次	1
第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況	6

### 1. 概要・他大学との比較

1-1. 九州大学の概要	1 1
1-1-1. 学部等の構成	1 1
1-1-2. 学生数及び教職員数	1 1
1-2. 主要キャンパス	1 2
1-3. 他大学との比較－規模－（国立大学間）	1 3
1-4. 他大学との比較－教育－（国公立大学間）	1 7
1-5. 他大学との比較－就職－（国公立大学間）	1 9
1-6. 他大学との比較－国際－	2 1
1-7. 他大学との比較－評価－	2 3
1-8. 他大学との比較－その他－	2 5

### 2. 教職員数等

2-1. 教職員数	2 7
2-2. 教員数	2 8
2-2-1. 教員数（全体）	2 8
2-2-2. 外国籍を有する教員数	2 9
2-2-3. 女性教員数	3 1
2-2-4. 主幹教授数	3 2
2-2-5. 教員組織の年齢構成	3 2
2-2-6. 教員数（部局別）	3 3
2-3. 特定有期教員数	4 4
2-3-1. 特定有期教員数（全体）	4 4
2-3-2. 特定有期教員数（外国人教員）	4 4
2-3-3. 特定有期教員数（女性教員）	4 4
2-4. 特命教授数	4 5
2-5. 招へい外国人教師等数	4 5
2-6. 非常勤講師数	4 5
2-7. 学術研究員等数	4 6
2-7-1. 学術研究員等数（全体）	4 6
2-7-2. 学術研究員等数（外国籍及び女性数）	4 6
2-7-3. 特任教授等数	4 6

2-8.	事務職員・技術職員等数	47
2-8-1.	事務職員・技術職員等数（全体）	47
2-8-2.	事務職員・技術職員等数（女性数及び女性比率）	47
2-8-3.	事務職員・技術職員等数（部局別）	48
2-9.	特定有期事務・技術系職員数	54
2-10.	事務・技術補佐員等数	54
2-11.	高度専門職員数	54

### 3. 学生数

3-1.	学士課程	55
3-1-1.	学部（全体）	55
3-1-2.	学部（学部別・在籍学生数）	56
3-2.	修士課程	58
3-2-1.	修士課程（全体）	58
3-2-2.	修士課程（学府別・在籍学生数）	59
3-3.	専門職学位課程	62
3-3-1.	専門職学位課程（全体）	62
3-3-2.	専門職学位課程（学府別・在籍学生数）	63
3-4.	博士後期課程	64
3-4-1.	博士後期課程（全体）	64
3-4-2.	博士後期課程（学府別・在籍学生数）	65

### 4. 志願状況

4-1.	志願状況（学部）	68
4-1-1.	志願状況推移（学部・一般選抜）	68
4-1-2.	志願状況推移（学部・一般選抜／日程別）	69
4-1-3.	志願状況推移（学部・一般選抜／学部別）	70
4-2.	志願状況（大学院）	72
4-2-1.	志願状況推移（大学院__修士課程）	72
4-2-2.	志願状況推移（大学院__専門職学位課程）	76
4-2-3.	志願状況推移（大学院__博士後期課程）	77

### 5. 入学状況

5-1.	入学状況（学部）	82
5-1-1.	入学者数推移（全体）	82
5-1-2.	入学者数推移（学部別）	83
5-1-3.	出身地域別入学者状況の経年推移	85
5-2.	入学状況（修士課程）	88
5-2-1.	入学者数推移（全体）	88
5-2-2.	入学者数推移（学府別）	89
5-3.	入学状況（専門職学位課程）	93

5-3-1.	入学者数推移（全体）	9 3
5-3-2.	入学者数推移（学府別）	9 4
5-4.	入学状況（博士後期課程）	9 5
5-4-1.	入学者数推移（全体）	9 5
5-4-2.	入学者数推移（学府別）	9 6

## 6. 学位取得状況

6-1.	学部卒業者状況	1 0 1
6-1-1.	学部卒業者状況（全体）	1 0 1
6-1-2.	学部卒業者状況（学部別）	1 0 2
6-2.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況	1 0 4
6-2-1.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況（全体）	1 0 4
6-2-2.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況（学府別）	1 0 5
6-3.	専門職学位課程修了者状況	1 0 7
6-3-1.	専門職学位課程修了者状況（全体）	1 0 7
6-3-2.	専門職学位課程修了者状況（学府別）	1 0 8
6-4.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況	1 0 9
6-4-1.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況（全体）	1 0 9
6-4-2.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況（学府別）	1 1 0

## 7. 進路・就職状況

7-1.	学部卒業者の進路・就職状況	1 1 2
7-1-1.	学部卒業者の進路・就職状況（全体）	1 1 2
7-1-2.	学部卒業者の進路・就職状況（学部別）	1 1 3
7-2.	修士課程修了者の進路・就職状況	1 1 5
7-2-1.	修士課程修了者の進路・就職状況（全体）	1 1 5
7-2-2.	修士課程修了者の進路・就職状況（学府別）	1 1 6
7-3.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況	1 1 9
7-3-1.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（全体）	1 1 9
7-3-2.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（学府別）	1 2 0

## 8. 資格試験等合格状況

8-1.	司法試験合格状況	1 2 3
8-2.	各種資格試験・採用試験合格状況	1 2 5

## 9. 研究

9-1.	ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向	1 3 0
9-2.	論文の量と質についての比較	1 3 2
9-3.	国際共著論文	1 4 0

## 10. 国際

10-1.	海外大学との交流状況	143
10-1-1.	海外大学との交流状況（大学間交流協定）	143
10-1-2.	海外大学との交流状況（部局間交流協定）	143
10-2.	本学学生の海外留学状況	144
10-2-1.	本学学生の海外留学状況（全体）	144
10-2-2.	本学学生の海外留学状況（部局別）	145
10-2-3.	本学学生の海外留学状況（地域別）	146
10-2-4.	本学学生の海外留学状況（部局別・地域別）	147
10-3.	外国人留学生の受入状況	150
10-3-1.	外国人留学生の受入状況（全体）	150
10-3-2.	外国人留学生の受入状況（部局別）	151
10-3-3.	外国人留学生の受入状況（課程別）	151
10-3-4.	外国人留学生の受入状況（出身地域別）	152

## 11. 産学官連携

11-1.	共同研究の状況	153
11-1-1.	共同研究実績の推移	153
11-1-2.	共同研究実績の推移（分野別）	154
11-2.	受託研究の状況	155
11-2-1.	受託研究実績の推移	155
11-2-2.	受託研究実績の推移（分野別）	156
11-3.	知的財産関連	157
11-4.	共著関係から見る産学官連携状況	160
11-5.	地方公共団体関係機関との共著文献数	161

## 12. 附属病院

12-1.	医師数等	162
12-2.	看護職員等	163
12-3.	病床稼働率	164
12-4.	患者数と手術件数の推移	165
12-4-1.	患者数と手術件数の推移（入院患者数）	165
12-4-2.	患者数と手術件数の推移（外来患者数）	166
12-4-3.	患者数と手術件数の推移（手術件数）	167
12-5.	平均在院日数の推移	168
12-6.	病床数の比較	168

## 13. 収入・支出

13-1.	収入・支出予算	169
13-2.	収入予算額の推移	170



1 3 - 3.	支出予算額の推移	1 7 0
1 3 - 4.	科学研究費助成事業・寄附金収入・産学連携等研究収入の推移	1 7 1
1 3 - 5.	科学研究費助成事業	1 7 1
1 3 - 5 - 1.	科学研究費助成事業の推移	1 7 1
1 3 - 5 - 2.	科学研究費助成事業の推移（研究種目別）	1 7 2
1 3 - 5 - 3.	科学研究費助成事業の比較（各大学）	1 7 7
1 3 - 6.	寄附金収入の推移	1 7 8
1 3 - 7.	産学連携研究収入の推移	1 7 8
1 3 - 7 - 1.	産学連携研究収入の推移（受託研究）	1 7 8
1 3 - 7 - 2.	産学連携研究収入の推移（共同研究）	1 7 8

#### 1 4. 研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

---

1 4 - 1.	研究プログラム採択状況	1 7 9
1 4 - 2.	教育プログラム採択状況	1 8 1

# 第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況

## <ユニット1> 「基幹教育」を基盤とした、学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや国際化への対応

【中期目標1】

「アクティブ・ラーナー」及び「骨太のリーダー」の育成を目指した「基幹教育」を開始し、学生が自ら学び自らを育てる教育の実践に努めてきたことを基盤として、学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや全学的な国際化への対応を進める。

【中期計画1】

アクティブ・ラーナー育成の取組を充実・発展させるため、カリキュラムを点検し、必要に応じた見直しを実施するとともに、外国語による授業等を増加させる。教育に係る3つのポリシーを再検証し、平成28年度より各授業でのルーブリック評価の活用を進めるとともに、平成28年度入学生よりGPA2.0以上を卒業の目安とした厳格な成績評価を行う。

## アクティブ・ラーナー育成の取組を充実・発展

○アクティブ・ラーナー育成の取組を充実・発展させるため、「基幹教育」を基盤とした学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや国際化への対応を推進

### ■教育に係る3つのポリシーの再検証・見直しを実施

教育改革推進本部体制

【平成28年度の取組実績】

- 全11学部において3ポリシーの再検証と見直しを完了
- 3ポリシーの英語化に向けた準備を開始

【平成29年度の取組実績】

- 全学的なPDCAサイクルを実現する体制として「教育改革推進本部」を設置→第三者視点による各部署の3ポリシーのチェックを実施

### ■各授業科目におけるルーブリック評価の活用推進

【平成28年度の取組実績】

- シラバスシステム改修(ルーブリック作成機能を追加)

【平成29年度の取組実績】

- 授業科目の特性や目的によってルーブリック評価に適さないケースがあることに対応するため、各学部において、ルーブリック評価を行う授業科目の割合(目標値)を個別設定し、当該割合に対する進捗状況を点検する方針を策定

ルーブリック評価を導入する科目が80%を超える学部数

年度	H28	H29
学部数	6	7
目標数	11	11

### ■日本語の併用を含む外国語による授業科目の増加

外国語による授業科目数の割合

年度	H26	H27	H28	H29
割合	11.80%	15.90%	16.70%	20.60%

【平成28年度の取組実績】

- 工学部と歯学部を除く全ての学部でグローバル化に対応した「国際コース」の設置に向けた取組を実施 →外国語対応した授業科目数の割合増

【平成29年度の取組実績】

- 大学を取り巻く国際化に積極的に対応するため、平成30年度中に「理系国際教育支援センター」の設置に向けた検討を実施

### ■GPA2.0以上を卒業目安とすることを踏まえた履修指導等の実施

【平成28年度の取組実績】

- 平成27年度に全11学部において作成した「成績不振等学生の指導に関する申し合わせ」に基づき履修指導を開始
- 各学期終了後にGPA対象となる授業科目について、「GPA分布等のデータ分析を実施し各部署に分析結果をフィードバック」

【平成29年度の取組実績】

- 「教育改革推進本部」がGPA分布等のデータ分析を実施し、各部署に分析結果をフィードバック
- GPA2.0未満の卒業者の割合改善 平成26年度:21.8% → 平成29年度:15.4%

## 基幹教育

生涯にわたり自律的に学び続ける**アクティブ・ラーナー**を育成

基幹教育セミナー (全学生必修)

課題協学科目 (全学生必修)

学べる力: 学び続ける力, 社会, 専攻教育

新たな文化・社会の創造

基幹教育

文系・理系ディプロン科目 | 健康・スポーツ科目 | 言語文化科目 | サイバーセキュリティ科目 | 総合科目 | 高年次基幹教育科目

## <ユニット2> グローバル社会で活躍できる人材を養成する新学部設置に向けた取組

【中期目標3】

これまで「GPA制度の導入」、「科目ナンバリングの導入」、「カリキュラムマップの作成」等国際的に通用性を持つ教育システムの構築に取り組んできたが、今後は、教育システムのさらなる向上のため、教育組織の充実とシステム改革に取り組む。

【中期計画6】

国際通用性を持つ教育システムの構築に取り組んできた実績を活かし、グローバル社会で活躍できる人材を養成するという目的で、平成30年度までに新学部を設置する。

## 共創学部の設置(平成30年4月～)

○文系、理系といった既存の学問の枠組みを超えて、幅広い知識と高度なコミュニケーション能力により、多様な学知を組み合わせて課題解決を行う人材を養成する新たな学部として「共創学部」を設置

新たなイノベーションの創出を担う  
グローバル人材を養成

## 共創学部

School of Interdisciplinary Science and Innovation

70名超の教員確保

定員105名

人間・生命 エリア | 地球・環境 エリア | 人と社会 エリア | 国家と地域 エリア

イノベーションによる課題解決 | 社会的課題の設定 | 課題解決のためのコミュニケーション

構想 | 協働 | 共創 | 経験

基幹教育院

- 人文科学研究院
- 比較社会文化研究院
- 人間環境学研究院
- 法学研究院
- 経済学研究院
- 言語文化研究院
- 理学研究院
- 医学研究院
- 薬学研究院
- 工学研究院
- 芸術工学研究院
- システム情報科学研究院
- 総合理工学研究院
- 農学研究院

応用力学研究所  
マス・フォア・インダストリ研究所  
留学生センター  
韓国研究センター  
熱帯農学研究センター

総長の強力なリーダーシップの下、本学独自の制度である「学府・研究院制度」及び「大学改革活性化制度」を最大限に活用し、70名超の教員を確保

### 分野横断教育

社会的課題の設定から課題解決を考え【構想】、課題解決に向け他者と取り組み【協働】、構想から協働までの一連の【経験】を通じて、【共創】を目指すことをコンセプトとし、人文科学、社会科学、自然科学の既存の学問分野を横断しながら、**文系マインド・理系マインド**や多様な方法論を身につけさせ、**実践的な課題に基づいた学修**を行う。

### 知の共創・協創

- 習熟レベルに応じた英語インテンシブコースで優れた**英語運用能力**を獲得
- 海外大学等へ**一定期間の留学**を課し、国際理解・知識の拡大と、コミュニケーション力を向上
- 日本人学生と留学生が共に学ぶ環境を構築し、学生と教職員がアクティブに交流し、相乗的・協働効果を生み出す**グローバル・ハブ・キャンパス**を形成

### 修得する4つの力

九州大学が全ての学生に求める「**能動的学習能力**」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「**課題構想力**」、「**協働実践力**」、「**国際コミュニケーション力**」を養成する。これらの態度・能力の修得を通して「**共創的課題解決力**」の獲得を目指す。

<ユニット3> 本学の強みを活かした研究教育活動を組織化する研究教育機構の設置

【中期目標6】

地域社会、国際社会、学術コミュニティの要請に応えながら自律的に変革し、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となることを目指して学術研究を行ってきた。これまでの研究の成果等に立脚し、多様性（学術分野の多様性を活かした国際連携）、発展性（アジア戦略の成果に基づく世界展開）、重層性（研究大学としての層の厚い研究・教育）という本学の強み・特色をさらに伸張させ、世界的研究・教育拠点にふさわしい世界最高水準の卓越した学術研究を行う。

【中期計画11】

新たな学術領域を切り拓くために、世界的に本学の強み・特色として評価を受けているエネルギーを始めとした研究分野を連携・融合させ、様々な角度から課題解決に取り組む研究教育機構を創設する。

エネルギー研究教育機構の取組

○「2100年の社会が理想とするエネルギー」を具現化するため、自然科学から人文社会科学にわたるエネルギー分野の研究者を結集した全学的組織

○1次及び2次エネルギー並びに政策提言等の研究領域を融合することにより、未来社会のエネルギーシステムを構想し、技術・産業・社会のパラダイムシフトを先導



■平成29年度の主な取組(未来社会におけるエネルギー研究の推進)

○エネルギー研究教育機構 若手研究者・博士課程学生支援プログラム

若手研究者・博士課程学生の優秀な研究提案に対し、研究資金の支援(若手研究者:100~200万円/件, 博士課程学生:20~50万円/件)を実施(若手研究者9件、博士課程学生18件採択)

○九州大学エネルギーウィーク2018

九州大学のエネルギー関連部局が連携し帯同参加したシンポジウムであり、エネルギーに関する国内外の著名な研究者の招へい講演をはじめ、国際共同研究支援として招へい費用の助成を目的とした「海外学生・研究者招へいプログラム」(ポスター発表)の実施(10件採択)など、5日間で約1,800名が参加



ポスター発表会、若手プログラム受賞者、パネルディスカッションの様子

An overview of the Energy Research Education Organization's goals and activities. It aims to realize a '2100-year society ideal energy' and to create a 'future energy system' through collaboration between science, industry, and society. The organization focuses on 'Energy Research' and 'Energy Innovation' to solve 'Energy-related issues'. It also promotes 'Energy Research Education' and 'Energy Research Platform' to support 'Energy Research' and 'Energy Innovation'. The organization is based at Kyushu University and is part of the 'Q-PIT' platform.

<ユニット4> 共同利用・共同研究拠点の実績を基盤とした連携強化

【中期目標6】

地域社会、国際社会、学術コミュニティの要請に応えながら自律的に変革し、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となることを目指して学術研究を行ってきた。これまでの研究の成果等に立脚し、多様性（学術分野の多様性を活かした国際連携）、発展性（アジア戦略の成果に基づく世界展開）、重層性（研究大学としての層の厚い研究・教育）という本学の強み・特色をさらに伸張させ、世界的研究・教育拠点にふさわしい世界最高水準の卓越した学術研究を行う。

【中期計画15】

本学の強みや特色の重点化に対する貢献及び他分野との連携・協力を積極的に推進するため、中核的研究拠点である共同利用・共同研究拠点の機能と活動を充実させる。

共同利用・共同研究拠点の取組と連携強化

○中核的研究拠点である共同利用・共同研究拠点の機能と活動を充実 ○各拠点間での交流を促進し、新たな学際領域研究を推進

An overview of the collaboration and joint research base strengthening activities. It features four main research centers: Institute of Mathematics for Industry (IMI), Institute of Materials and Chemical Process (IMCE), Institute of Applied Chemistry (IAC), and Information Infrastructure Research Center (IIRC). Each center lists its main activities and achievements for fiscal years 2018 and 2019. A central graphic emphasizes 'Collaboration Strengthening' (連携強化).

**■マス・フォア・インダストリ研究所**  
【産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点】  
【平成28年度の主な取組】  
○マス・フォア・インダストリ研究所オーストラリア分室において、共同利用研究集会「Geometric Numerical Integration and its Applications」開催 等  
【平成29年度の主な取組】  
○文部科学省委託事業「数学アドバンスト・バージョンプラットフォーム」(平成29~33年度)を、幹事拠点として受託し、諸科学・産業界との協働を促進する全国的取組を開始 等

**■生体防御医学研究所**  
【多階層生体防御システム研究拠点】  
【平成28年度の主な取組】  
○病院キャンパスの4部局において共用機器のデータベース「生命科学研究支援プラットフォーム」を構築  
○トランスオミクス医学研究拠点ネットワーク形成事業開始  
【平成29年度の主な取組】  
○所外の研究者への技術サービスと共通機器の利用を推進【実績:技術サービス3,180件、共通機器235件】  
○トランスオミクス医学研究拠点ネットワーク形成事業の推進(徳島大学先端酵素学研究所(酵素学研究拠点)と共同研究実施)

**■先導物質化学研究所**  
【物質・デバイス領域共同研究拠点】  
【平成28年度の主な取組】  
○拠点内に「CORE連携ラボ」を設置(若手研究者を中心に3件のCOREラボ研究を実施) 等  
【平成29年度の主な取組】  
○先導物質化学研究所長裁量経費を充当し、若手・国際共同研究を支援する「異分野融合研究プログラム(先導物質科学創成)」を新設 等

**■応用力学研究所**  
【応用力学共同研究拠点】  
【平成28年度の主な取組】  
○若手研究者育成推進の一環として「若手キャリアアップ支援共同研究」を新設 等  
【平成29年度の主な取組】  
○若手キャリアアップ支援共同研究(1件採択)  
○国際化推進研究の更なる推進(国際論文共著率:45%に向上) 等

**■情報基盤研究開発センター**  
【学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点】  
【平成28年度の主な取組】  
○スーパーコンピュータシステムによる学術研究を推進するため、潜在的な利用者および萌芽的な研究課題の掘り起しを目的として、講習会と研究用計算機システムの無償利用をセットにした「新規利用促進制度」を新設 等  
【平成29年度の主な取組】  
○「新スーパーコンピュータシステム」(ITO)を導入  
本学起業部から立ち上がったドメイン株式会社のコア技術である病理画像診断ソフト開発に貢献 等

■新たな学際領域研究の推進 — 汎オミクス計測・計算科学拠点形成事業 —

【マス・フォア・インダストリ研究所、生体防御医学研究所、応用力学研究所、先導物質化学研究所、情報基盤研究開発センター】

【平成29年度の主な取組】

○各拠点間での交流を促進し新たな学際領域を推進するため、高精度観測や網羅的な精密データ計測(オミクス)を汎オミクス計測科学として各拠点がカバーする学術領域に拡張し、計算科学とデータ駆動科学の方法論を統合した次世代の学際領域を開拓して、計算・データ科学の方法論を統合的に習得した若手研究者を育成するための「汎オミクス計測・計算科学拠点」の構築に向けた準備を実施

<ユニット5> 大学の戦略的システム改革におけるI<sup>2</sup>CNERの機能強化

【中期目標6】

地域社会、国際社会、学術コミュニティの要請に応えながら自立的に変革し、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となることを目指して学術研究を行ってきた。これまでの研究の成果等に立脚し、多様性（学術分野の多様性を活かした国際連携）、発展性（アジア戦略の成果に基づく世界展開）、重層性（研究大学としての層の厚い研究・教育）という本学の強み・特色をさらに伸張させ、世界的研究・教育拠点にふさわしい世界最高水準の卓越した学術研究を行う。

【中期計画16】

本学の強み・特色を有する、世界トップレベル研究拠点であるカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所におけるエネルギー関連の研究分野等においてイリノイ大学等と連携し、研究体制を整備するとともに最先端の研究を推進する。併せて、海外の世界トップレベルの大学から外国人研究者を招へいし、世界最高水準の国際共同研究を実施する。また自然科学とくに理論系、数学系および人文社会科学系などの多様な分野との連携・協力を積極的に推進し、学内の英知を集結することにより、研究体制のさらなる充実を図る。

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I<sup>2</sup>CNER)の機能強化

- カーボンニュートラル・エネルギー研究分野において、**イリノイ大学等と連携して最先端の研究を推進**
- 海外の世界トップレベルの大学から外国人研究者を招へいし、**世界最高水準の国際共同研究を実施**
- 自然科学(理論系・数学系)および人文社会科学系など**多様な分野との連携・協力を積極的に推進**



研究所長  
ヘトロス ソフロンイス  
(イリノイ大学教授)

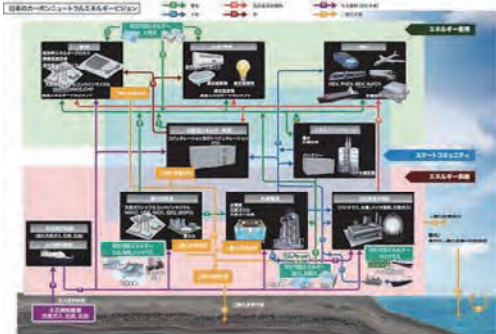
■平成28年度の主な取組実績

- 低炭素社会実現に向け「**I<sup>2</sup>CNER附属次世代冷却物性評価研究センター**」を設置
- 世界トップレベルの大学(マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学等)より45名の研究者を招へい
- 豪国ニューサウスウェールズ大学と「**UNSW-I<sup>2</sup>CNER合同ワークショップ**」をシドニーで開催→「I<sup>2</sup>CNER アニュアルシンポジウム」を福岡で開催し、ニューサウスウェールズ大学から4名の研究者を招へいし新たな国際共同研究の立ち上げに向けた協議を実施
- 平成28年度実績 論文数: 316編、受賞数: 45件(大和エイリアン賞、科学技術分野の文部科学大臣表彰などの顕著な受賞を含む)

■平成29年度の主な取組実績

- 世界トップレベルの大学(北京大学、ソウル大学等)から17名の研究者を招へい
- 著名な外国人研究者によるI<sup>2</sup>CNERセミナー等の開催(20回/年)など、**20機関を超える海外の連携機関との国際共同研究を促進**
- 国際共同研究教育パートナーシッププログラム(PIREプログラム)を通じた学生交流促進
- マス・フォア・インダストリ研究所との共同テナントラック制による若手研究者育成の一環としてイリノイ大学への長期派遣を実施
- 産業界との連携強化のため「**産学連携研究群**」を新設→共同研究部門である「マツダ次世代エネルギー貯蔵共同研究部門」を設置

■日本のカーボンニュートラルエネルギービジョン



■欧州、北米、アジア等世界中との研究推進



イリノイ大学が、他の米機関との協力のハブとなり国際研究活動を強化



<ユニット6> スーパーグローバル大学創成支援の事業推進

【中期目標11】

大学改革と国際化を全学的に推進し、様々な取組による相乗的な協働効果により世界トップレベルの教育研究活動を実施し、世界大学ランキング等を指標として国際的評価を向上させる。

【中期計画26】

スーパーグローバル大学創成支援「戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成(SHARE-Q)」事業の目標達成に向け、教育・研究の国際化の推進とこれらを支えるガバナンス改革を遂行し、構想調査に掲げた9つのShareの相乗的・協働効果によりグローバル・ハブ・キャンパスを創成する。また、全学的な国際化を支える事務職員等の能力向上のひとつとして、英語運用力基準を満たす職員の割合を向上させる。これらによる教育研究の成果をレピュテーションの向上につなげるとともに、世界大学ランキングトップ100を念頭においたレピュテーション・マネジメント戦略を策定する。

スーパーグローバル大学創成支援事業の推進

- 本学の多面性、発展性、重層性を基に、**教育システム及び研究の国際化を推進**
- これらを支えるガバナンス・制度改革を断行し、**世界のトップ100大学を目指す**



Strategic Hub Area for top-global Research and Education - Kyushu University  
スーパーグローバル大学創成支援 タイプA 戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成

■グローバル・ハブ・キャンパスの創成に向けた取組

【平成28年度】

- 「**研究の国際競争力向上のための4つの方策の実行プラン**」を策定
- 第1回グローバル化アドバイザーボードミーティング開催
- 学内の外国人教職員の意見を大学運営に反映させるため、外国人教員等が構成される「**九州大学外国人教員アドバイザーグループ**」を設置

【平成29年度】

- 「**研究の国際競争力向上のための4つの方策の実行プラン**」を推進
  - ①研究力強化及び研究資金の確保【SciVal・Pureの利用環境整備等】
  - ②研究を行う人材と人事【配偶者帯同雇用制度の開始等】
  - ③研究のための環境整備と時間確保【研究機器共用データベース運用開始等】
  - ④研究の国際ネットワーク【九州大学エネルギーウィーク2018】開催等】

■レピュテーション・マネジメント戦略の策定

【平成28年度】

- 「**レピュテーション・マネジメント戦略**」を策定
  - ①強み・特色の徹底したアピール ②ブランディング ③インターナルコミュニケーションと連携の強化 ④ステークホルダーの優先度への配慮 ⑤ステークホルダーの分類による戦略的情報発信 ⑥KPIの設定等によるRM向上の検証

【平成29年度】

- レピュテーション・マネジメント戦略に基づき具体的な実行プランを策定するため、デロイト・マツコンサルティング合同会社によるコンサルティングを実施
- 研究者プロフィールツール「Pure」ポータルサイトにおいて、全教員の研究活動情報の学外公開を開始(開始から半年間のアクセス数:約90,000件)**



■事務職員の英語運用能力向上に向けた取組

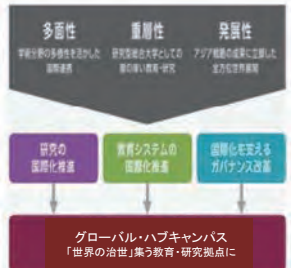
【平成28年度】

- 事務職員等の英語運用能力向上の一環としてTOEIC対策e-ラーニング、英語ビジネスライティング研修、業務英語能力向上研修等を実施

【平成29年度】

- 過去2年間に実施したTOEIC-IPテストの結果分析を実施→**ハイスコア取得者に対して、より高度で実践的な英語力を向上させるための新たな研修計画を検討**
  - 【平成30年度以降に以下の研修を実施予定】
  - ・会議の企画から運営、まとめてトータルに遂行できる力を養うブートキャンプ研修
  - ・プレゼンテーション、ディベートの力を向上させるためのアドバンスド・コミュニケーション研修

■改革の方向性



＜ユニット7＞サイバーセキュリティ基本法に沿った高度情報通信基盤の整備と構成員のサイバーリテラシーの向上

【中期目標17】

ICTを活用した教育・研究・修学活動の支援体制を充実してきた。これまでの取組をさらに充実させ、世界的研究・教育拠点としての教育・研究・学修活動を支えるための学術情報基盤の整備を推進する。

【中期計画36】

世界的研究・教育拠点としての教育研究推進のため、強靱なサイバーセキュリティ環境を構築し、安全で安心な高度情報通信基盤の整備を促進する。また、国内外の大学連携組織との連携による情報通信環境の強化及び人材育成を行う。特に、学生および教職員のサイバーリテラシーの向上に取り組む。

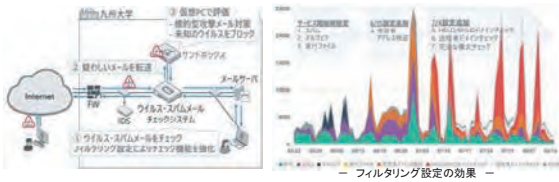
安全で安心な高度情報通信基盤の整備・サイバーリテラシーの向上

- サイバーセキュリティ基本法に沿った、安全で安心な高度情報通信基盤の整備
- 学生および教職員のサイバーリテラシーの向上に向けた取組

■安全で安心な高度情報通信基盤の整備

【平成28年度の主な取組】

- インシデント対応に係るファイアウォール運用記録の分析を実施  
→インシデントの原因究明を高速かつ正確に実施する環境を整備（セキュリティレベル向上）
- ウイルス・スパムメールチェックシステム及び「サンドボックス」を導入  
→判別が困難な標的型メール攻撃等にも対応可能な環境を整備（セキュリティ強化に貢献）



【平成29年度の主な取組】

- 全学ファイアウォールの運用見直し  
→全学ファイアウォールで通信制限等のセキュリティ対策を施す方式から全学ファイアウォールの通信を監視する統合的な運用方法に変更（インシデントの発生抑制効果向上）
- 基幹ネットワーク高速化対応  
→伊都免震サーバ室に、通信速度100Gbpsに対応可能なネットワークコアスイッチを導入（高速で安定したネットワーク提供の実現）
- 超スマート社会の実現への対応を旨とした研究基盤の整備  
→新スーパーコンピュータシステム「ITO」を導入  
本学起業部から立ち上がったメドメイン株式会社の病理画像診断ソフト開発に関して、ITOを用いて自動診断に必要な大量の機械学習処理を実施  
→プレス発表を通じて各メディアで紹介

■学生および教職員のサイバーリテラシー向上

【平成28年度の主な取組】

- サイバー演習を利用した専門家庭教育を開始  
→富士通株式会社による寄附研究部門において、専門家庭教育を目的とした「サイバーセキュリティ演習」を開催
- サイバーセキュリティ対策に係る高度な研究や教育プログラム開発を推進  
→メリランド大学、ニューサウスウェールズ大学、ロンドン大学、インド工科大学と国際共同研究を実施  
（「国際サイバーセキュリティシンポジウム」を共同開催）

【平成29年度の主な取組】

- 学部における基幹教育の必修科目として「サイバーセキュリティ基礎論」を開設（学生に対するサイバーリテラシーの向上）
- 全教職員を対象としたサイバーセキュリティ訓練の一環として、「標的型メール訓練（e-learning講習含む）」を実施（教職員に対するサイバーリテラシーの向上）

ITOシステムの狙い



＜ユニット8＞戦略的・重点的な教育研究組織の強化・再編成に向けた取組

【中期目標21】

世界的研究・教育拠点としての諸活動を実施するため、教育研究組織の再編・見直しを行う。

【中期計画42】

ミッションの再定義や、自己点検・評価等による現状分析、機能強化の視点等を踏まえ、総長のリーダーシップの下、学問や社会の変化に柔軟に対応し、本学独自の取組である「5年目評価、10年以内組織見直し制度」等を活用した戦略的・重点的な教育研究組織の強化・再編成を行う。特に人文社会科学分野等の再編成の検討・実施及び機能強化や国際化に積極的に取り組む。

戦略的・重点的な教育研究組織の強化・再編成に向けた取組

- 中期目標期間の5年目に全学的な点検・評価を行い、その評価結果を反映した形で、10年以内に組織改編を完了するよう部局に促す制度である「5年目評価、10年以内組織見直し制度」等を活用し、部局の機能強化、再編成を実施
- 人文社会科学分野等の機能強化や国際化に向けた再編成の検討・実施

【第3期中期目標期間における組織の機能強化・再編成】

- 課題解決型グローバル人材を育成する共創学部の設置  
○「2100年の社会が理想とするエネルギー」の具体化に取組むエネルギー研究教育機構の設置
- 教育の質の向上を図る教学マネジメント組織「教育改革推進本部」の設置
- 産学官連携を推進するためのマネジメント強化を図る産学官連携組織の再編等（関連組織の再編、病院地区分室の設置、日本橋サテライトの開設など）
- 北海道大学との共同教育課程（修士課程）「共同資源工学専攻」の設置

■文系4学部副専攻プログラム

「横断型」と「専門領域型」からなる魅力的なプログラムの履修により  
自学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた  
人文・社会科学分野の知的広がり獲得

横断型プログラム

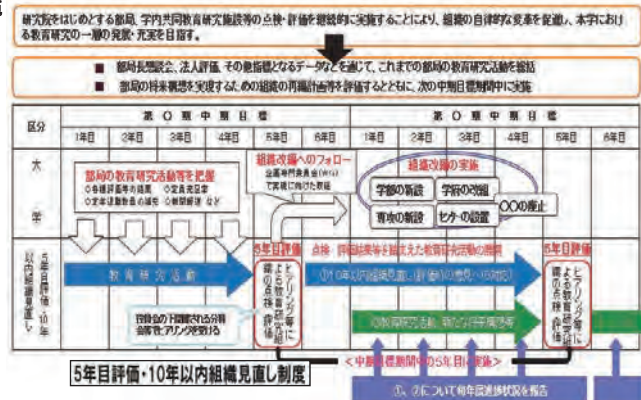
「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」といった現代社会を解く重要なテーマに関心をもった知的好奇心旺盛な学生に対して、文系4学部が提供する科目を広く体系的に学ぶ機会を提供

専門領域型プログラム

自学部の専門領域の学びを通じて知的好奇心が広がり、文系他学部の専門領域をより深く学びたいと考える学生に対して、他学部の専門領域を体系的に学ぶ機会を提供

将来のキャリアパスに沿って多様なプログラムの中から選択

平成30年4月からスタートし、副専攻プログラムを130名（延べ193名）の学生が履修



■人文社会科学分野等における再編成の検討・実施

【第3期中期目標期間に実施した主な取組】

- 人文社会科学分野に求められる社会のニーズを把握するため、関係部局長が学外有識者及び東京同窓会と延べ14回の意見交換会を実施
- 文系4学部（文学部・教育学部・法学部・経済学部）がそれぞれの学問分野に蓄積された知的資産を相互解放し、体系的に提供する「文系4学部副専攻プログラム」の実施
- 多分野融合研究領域の研究者の採用により体制を強化し、連携に向けた取組を企画運営する「人社会系協働研究教育コモンズ企画運営室」を設置して、「人社会系協働研究教育コモンズ」の取組を開始



# 1. 概要・他大学との比較 (平成30年5月1日現在)

## 1-1. 九州大学の概要

### 1-1-1. 学部等の構成

学部(12)	大学院(学府)(18)	大学院(研究院)(16)
共創学部	人文科学府	人文科学研究院
文学部	地球社会統合科学府	比較社会文化研究院
教育学部	人間環境学府	人間環境学研究院
法学部	法学府	法学研究院
経済学部	法務学府(法科大学院)	経済学研究院
理学部	経済学府	言語文化研究院
医学部	理学府	理学研究院
歯学部	数理学府	数理学研究院
薬学部	システム生命科学府	医学研究院
工学部	医学系学府	歯学研究院
芸術工学部	歯学府	薬学研究院
農学部	薬学府	工学研究院
	工学府	芸術工学研究院
	芸術工学府	システム情報科学研究院
	システム情報科学府	総合理工学研究院
	総合理工学府	農学研究院
	生物資源環境科学府	
	統合新領域学府	
基幹教育院※1		
高等研究院		
附置研究所(4) 生体防御医学研究所※2 応用力学研究所※2 先端物質化学研究所※2 マス・フォア・インダストリ研究所※2		
国際研究所(カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所)		
九州大学病院		
附属図書館		
情報基盤研究開発センター※2		

※1は教育関係共同利用拠点に認定された施設を示す。※2は共同利用・共同研究拠点に認定された施設を示す。

### 1-1-2. 学生数及び教職員数

	入学定員	入学者数		総定員	在籍者数			
		計	うち女子学生		計	うち女子学生		
学生等数	学部	2,555	2,676	824	10,608	11,679	3,338	
	大学院	修士課程	1,748	2,001	500	3,486	4,041	1,006
		専門職学位課程	140	144	51	325	286	103
		博士(後期)課程	780	729	195	2,608	2,662	795
	合計	5,223	5,550	1,570	17,027	18,668	5,242	

教職員数	教員数		職員数		合計	
	計	うち女性教員数	計	うち女性職員数	計	うち女性教職員数
	2,072	263	2,331	1,429	4,403	1,692

※出典:九州大学概要(平成30年5月1日現在)

## 1-2. 主要キャンパス

総キャンパス面積： 75,797,147 m<sup>2</sup>

● 主要キャンパス  
● その他



①農学部附属農場	392,708 m <sup>2</sup>
②福岡演習林	4,638,364 m <sup>2</sup>
③早良実習場	324,749 m <sup>2</sup>
④宮崎演習林	29,161,473 m <sup>2</sup>
⑤北海道演習林	37,132,393 m <sup>2</sup>
その他	256,378 m <sup>2</sup>

※出典：九州大学概要（平成30年5月1日現在）



## 1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)

【学部数】

順位	大学名	学部数
1	北海道大	12
2	大阪大	11
2	岡山大	11
2	広島大	11
<b>2</b>	<b>九州大</b>	<b>11</b>
6	東北大	10
6	東京大	10
6	千葉大	10
6	新潟大	10
6	京都大	10

(2017)

【学部入学定員】

順位	大学名	人
1	大阪大	3,255
2	東京大	3,060
3	京都大	2,823
4	神戸大	2,680
<b>5</b>	<b>九州大</b>	<b>2,555</b>
6	北海道大	2,485
7	東北大	2,396
8	広島大	2,338
9	千葉大	2,322
10	新潟大	2,242

(2017)

【学部志願倍率】

順位	大学名	倍率
1	東京工業大学	5.51
2	千葉大学	5.35
3	筑波大学	4.60
4	神戸大学	4.36
5	北海道大学	3.92
6	広島大学	3.56
<b>7</b>	<b>九州大学</b>	<b>3.45</b>
8	新潟大学	3.43
9	東北大学	3.17
10	東京大学	3.17

(2017)

※出典

・学部数、学部入学定員、学部志願倍率：各大学HP及び大学概要

【学部 収容定員・在籍学生数・定員充足率】

順位	大学名	収容定員(人)	在籍学生数(人)	定員充足率
1	大阪大	13,546	15,473	114.2%
2	筑波大	8,752	9,909	113.2%
3	京都大	11,852	13,374	112.8%
4	名古屋大	8,820	9,844	111.6%
5	東京大	12,588	14,039	111.5%
6	東北大	10,015	11,050	110.3%
7	東京工業大	4,332	4,780	110.3%
<b>8</b>	<b>九州大</b>	<b>10,658</b>	<b>11,758</b>	<b>110.3%</b>
9	広島大	9,988	10,942	109.5%
10	神戸大	10,714	11,698	109.1%

(2016)

・学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行った。

「14大」…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

※出典

・学部収容定員、在籍学生数、定員充足率：文部科学省 平成28年度業務実績報告書

### 1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)(つづき)

【大学院数】

順位	大学名	大学院数
1	北海道大	18
1	京都大	18
<b>1</b>	<b>九州大</b>	<b>18</b>
4	東北大	16
4	大阪大	16
6	東京大	15
6	神戸大	15
8	千葉大	13
8	名古屋大	13
10	広島大	11

(2017)

【大学院入学定員】

順位	大学名	入学定員	入学定員 (修士課程)	入学定員 (専門職学位課程)	入学定員 (博士後期課程)
1	東京大	4,925	2,843	385	1,697
2	京都大	3,705	2,261	314	1,130
3	大阪大	3,031	2,009	80	942
4	東北大	2,707	1,775	120	812
<b>5</b>	<b>九州大</b>	<b>2,668</b>	<b>1,748</b>	<b>140</b>	<b>780</b>
6	名古屋大	2,401	1,622	50	729
7	筑波大	2,396	1,651	66	679
8	北海道大	2,367	1,603	100	664
9	東京工業大	2,151	1,544	40	567
10	神戸大	1,792	1,248	149	395

(2017)

※出典

・大学院数、大学院入学定員：各大学HP及び大学概要

【大学院 収容定員・在籍学生数・定員充足率】

順位	大学名	大学院合計			修士課程			専門職学位課程			博士後期課程		
		定員 (人)	在籍数 (人)	定員 充足率	定員 (人)	在籍数 (人)	定員 充足率	定員 (人)	在籍数 (人)	定員 充足率	定員 (人)	在籍数 (人)	定員 充足率
1	東京大	12,024	13,375	111.2%	5,686	6,725	118.2%	1,005	852	84.7%	5,333	5,798	108.7%
2	京都大	8,934	9,283	103.9%	4,516	4,915	108.8%	798	699	87.6%	3,620	3,669	101.0%
3	大阪大	7,346	7,865	107.0%	3,999	4,509	112.7%	190	180	94.7%	3,157	3,176	100.8%
4	東北大	6,468	6,764	104.5%	3,550	3,920	110.4%	290	225	77.5%	2,628	2,619	99.7%
<b>5</b>	<b>九州大</b>	<b>6,434</b>	<b>6,901</b>	<b>107.2%</b>	<b>3,574</b>	<b>4,096</b>	<b>114.6%</b>	<b>350</b>	<b>289</b>	<b>82.6%</b>	<b>2,510</b>	<b>2,516</b>	<b>100.2%</b>
6	筑波大	5,676	6,707	118.1%	3,419	4,064	118.9%	168	193	114.9%	2,089	2,450	117.3%
7	北海道大	5,640	5,982	106.0%	3,150	3,495	110.9%	280	211	75.3%	2,210	2,276	102.9%
8	名古屋大	5,581	6,008	107.6%	3,040	3,626	119.2%	190	106	55.7%	2,351	2,276	96.8%
9	東京工業大	4,869	5,052	103.7%	3,088	3,513	113.8%	80	94	117.5%	1,701	1,445	85.0%
10	神戸大	4,049	4,658	115.0%	2,462	2,730	110.8%	378	327	86.5%	1,209	1,601	132.4%

(2016)

・学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行った。

「14大」…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山山、広島大、九州大(大学番号順)

・収容定員については、文部科学省告示第53号(専門職大学院に関し必要な事項について定める件)、第4条(法科大学院の収容定員)により算出した。

※出典

・大学院収容定員、在籍学生数、定員充足率：文部科学省 平成28年度業務実績報告書

## 1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)(つづき)

【学部在籍学生のうち留学生数】

順位	大学名	人
1	北海道大	468
2	大阪大	340
3	筑波大	314
4	名古屋大	292
5	東京大	270
6	九州大	268
7	京都大	235
8	東京工業大	211
9	東北大	204
10	千葉大	126

(2016)

【学部在籍学生に占める留学生数の割合】

順位	大学名	%
1	東京工業大	4.4%
2	北海道大	4.1%
3	筑波大	3.1%
4	名古屋大	2.9%
5	九州大	2.2%
6	大阪大	2.1%
7	東京大	1.9%
8	東北大	1.8%
9	京都大	1.7%
10	千葉大	1.1%

(2016)

【学部在籍学生に占める女子学生数の割合】

順位	大学名	%
1	岡山大	42.2%
2	新潟大	39.9%
3	千葉大	39.8%
4	筑波大	39.8%
5	広島大	36.9%
6	神戸大	35.6%
7	大阪大	33.6%
8	名古屋大	31.2%
9	北海道大	30.5%
10	九州大	27.9%

(2016)

【大学院在籍学生のうち留学生数】

順位	大学名	人
1	東京大	2,418
2	筑波大	1,445
3	九州大	1,432
4	京都大	1,412
5	東北大	1,250
6	大阪大	1,195
7	北海道大	1,111
8	名古屋大	1,081
9	東京工業大	990
10	広島大	939

(2016)

【大学院在籍学生に占める留学生数の割合】

順位	大学名	%
1	筑波大	21.5%
1	広島大	21.5%
3	九州大	20.7%
4	東京工業大	19.5%
5	北海道大	18.5%
6	東北大	18.4%
7	東京大	18.0%
8	名古屋大	17.9%
9	神戸大	17.1%
10	京都大	15.2%

(2016)

【大学院在籍学生に占める女子学生数の割合】

順位	大学名	%
1	筑波大	36.2%
2	広島大	35.4%
3	神戸大	33.1%
4	千葉大	31.6%
5	北海道大	30.2%
6	岡山大	29.7%
7	名古屋大	29.4%
8	大阪大	28.3%
9	新潟大	28.1%
10	九州大	27.9%

(2017)

・学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行った。  
 「14大」…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

## ※出典

- ・留学生数、留学生数の割合：文部科学省 平成28年度業務実績報告書
- ・女子学生の割合：各大学HP及び大学概要

1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)(つづき)

【教員数】

順位	大学名	人
1	東京大	3,890
2	京都大	3,349
3	大阪大	3,201
4	東北大	3,192
5	北海道大	2,431
6	筑波大	2,424
7	九州大	2,417
8	名古屋大	2,340
9	広島大	1,949
10	神戸大	1,746

(2016)

【教員一人当たりの学生数】

順位	大学名	人
1	東北大	5.5
2	筑波大	6.4
3	名古屋大	6.6
4	京都大	6.7
4	東京大	6.7
6	北海道大	7.0
7	大阪大	7.1
8	広島大	7.5
8	九州大	7.5
10	岡山大	8.0

(2016)

【職員数】

順位	大学名	人
1	東京大	3,975
2	京都大	3,350
3	東北大	3,273
4	大阪大	3,059
5	北海道大	3,014
6	九州大	3,008
7	名古屋大	2,421
8	岡山大	2,377
9	筑波大	2,019
10	神戸大	1,970

(2016)

※出典

・教員数、教員一人当たりの学生、職員数：文部科学省 平成28年度業務実績報告書：九州大学

【女性教員数】

順位	大学名	人
1	大阪大	257
2	東京大	243
3	筑波大	227
4	名古屋大	184
5	京都大	173
6	九州大	158
7	神戸大	156
8	千葉大	155
9	東北大	153
10	広島大	145

(2017)

【外国人教員数】

順位	大学名	人
1	大阪大	113
2	京都大	93
3	東北大	85
4	東京大	84
5	九州大	77
6	筑波大	70
7	広島大	57
8	北海道大	51
9	神戸大	45
10	岡山大	40

(2017)

【運営費交付金】

順位	大学名	配分額
1	東京大	82,414,673
2	京都大	54,349,871
3	東北大	46,347,089
4	大阪大	44,195,362
5	九州大	40,936,447
6	筑波大	40,701,060
7	北海道大	35,672,460
8	名古屋大	31,184,663
9	広島大	25,160,047
10	東京工業大	21,436,056

(2017)

・学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行った。

「14大」…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

※出典

・女性教員数、外国人教員数：朝日新聞出版「大学ランキング2019年版」  
 ・運営費交付金：「平成29年度 国立大学法人運営費交付金 予定額」

## 1-4. 他大学との比較－教育－(国公立大学間)

【校舎面積】

順位	大学名	m <sup>2</sup>
1	日本大	1,013,665
2	東京大	755,780
<b>3</b>	<b>九州大</b>	<b>730,394</b>
4	大阪大	714,998
5	京都大	635,612
6	早稲田大	622,736
7	北海道大	558,832
8	東海大	537,382
9	立命館大	534,079
10	新潟大	520,080

(2017)

【オープンキャンパス】

順位	大学名	人
1	日本大	67,833
2	早稲田大	66,758
3	東北大	65,958
4	東洋大	55,297
5	立教大	46,110
6	近畿大	45,701
7	明治大	45,674
8	青山学院大	39,495
9	上智大	39,052
10	中央大	37,890
∴		
<b>26</b>	<b>九州大</b>	<b>21,728</b>

(2017)

【図書館蔵書数】

順位	大学名	冊
1	東京大	9,577,261
2	京都大	7,006,456
3	日本大	5,612,690
4	早稲田大	5,577,251
5	慶応義塾大	4,921,191
<b>6</b>	<b>九州大</b>	<b>4,284,885</b>
7	東北大	4,109,574
8	北海道大	3,928,257
9	大阪大	3,862,560
10	神戸大	3,773,287

(2017)

【2、3年次編入学】

順位	大学名	人
1	関西外国語大	483
2	長岡技術科学大	357
3	豊橋技術科学大	355
4	日本大	338
5	国学院大	152
6	東京農業大	144
7	北陸大	142
8	神戸大	137
9	近畿大	132
9	東京福祉大	132
∴		
<b>57</b>	<b>九州大</b>	<b>50</b>

(2017)

【標準年限卒業率(高い順)】

順位	大学名	%
1	順天堂大	97.6
2	聖路加国際大	97.5
3	鎌倉女子大	97.1
4	名古屋音楽大	97.0
5	大阪総合保育大	96.9
6	天使大	96.8
7	日本赤十字秋田看護大	96.6
8	青森県立保健大	96.5
8	日本女子体育大	96.5
8	上越教育大	96.5
∴		
<b>88</b>	<b>九州大</b>	<b>90.6</b>

(2017)

【退学率】

順位	大学名	%
1	和歌山県立医科大	0.0
1	福岡女学院看護大	0.0
3	茨城県立医療大	0.1
3	東京慈恵会医科大	0.1
3	聖マリアンナ医科大	0.1
3	九州歯科大	0.1
7	旭川医科大	0.2
7	獨協医科大	0.2
7	滋賀医科大	0.2
7	京都府立医大	0.2
∴		
<b>78</b>	<b>九州大</b>	<b>1.0</b>

(2017)

●ランキングの見方

・校舎面積は、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行った。

※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

1-4. 他大学との比較－教育－(国公立大学間)(つづき)

【大学院進学率】

工、理工学部		理学部		農、生物系学部	
大学名	%	大学名	%	大学名	%
東北大(工)	88.6(1位)	東京大(理)	85.7(1位)	名古屋大(農)	84.0(1位)
大阪大(工)	86.8(2位)	東北大(理)	84.8(2位)	京都大(農)	83.9(2位)
名古屋大(工)	86.8(2位)	京都大(理)	81.6(3位)	東北大(農)	77.5(3位)
京都大(工)	86.1(4位)	大阪大(理)	80.9(4位)	北海道大(農)	72.2(4位)
<b>九州大(工)</b>	<b>85.7(5位)</b>	北海道大(理)	79.5(5位)	北海道大(水産)	71.9(5位)
大阪府立大(工学域)	85.4(6位)	名古屋大(理)	79.4(6位)	<b>九州大(農)</b>	<b>69.2(6位)</b>
北海道大(工)	83.0(7位)	<b>九州大(理)</b>	<b>77.5(7位)</b>	神戸大(農)	67.9(7位)
大阪大(基礎工)	82.3(8位)	神戸大(理)	75.0(8位)	筑波大(生命環境学群)	67.5(8位)
長岡技術科学大(工)	82.2(9位)	広島大(理)	71.7(9位)	大阪府立大(生命環境科学域)	66.9(9位)
豊橋技術科学大(工)	81.5(10位)	埼玉大(理)	65.8(10位)	東京大(農)	61.2(10位)

法学部		文、外国語学部		経済、経営、商学部	
大学名	%	大学名	%	大学名	%
京都大(法)	29.8(1位)	東京大(文)	24.9(1位)	岡山商科大(経済)	24.5(1位)
東京大(法)	23.5(2位)	京都大(文)	24.2(2位)	北海道大(経済)	10.4(2位)
大阪大(法)	21.6(3位)	大阪大(文)	23.8(3位)	大阪経済法科大(経済)	9.4(3位)
東北大(法)	21.0(4位)	筑波大(人文・文化学群)	22.1(4位)	大阪大(経済)	7.5(4位)
神戸大(法)	20.0(5位)	<b>九州大(文)</b>	<b>20.3(5位)</b>	<b>九州大(経済)</b>	<b>7.4(5位)</b>
大阪工業大(知的財産)	18.8(6位)	お茶の水女子大(文教育)	19.8(6位)	京都大(経済)	7.3(6位)
一橋大(法)	18.3(7位)	神戸大(文)	19.3(7位)	九州共立大(経済)	7.3(6位)
北海道大(法)	17.0(8位)	広島大(文)	18.5(8位)	一橋大(経済)	7.0(8位)
∴		北海道大(文)	18.0(9位)	東京大(経済)	6.0(9位)
<b>九州大(法)</b>	<b>11.9(11位)</b>	東北大(文)	16.8(10位)	岡山商科大(経営)	5.8(10位)

(2017)

【社会人受入れ状況】

順位	大学名	点
1	東洋大	71.7
2	早稲田大	61.4
3	関西大	56.8
4	法政大	56.4
5	立命館大	53.4
6	東北大	49.4
7	広島大	48.4
8	日本大	46.5
<b>9</b>	<b>九州大</b>	<b>46.4</b>
10	北海道大	45.8

(2017)

●ランキングの見方

・大学入学情報図書館RENAが2017年11月から18年1月に実施した大学へのアンケート調査をもとに作成した。全国の大学の学部1年次、学部2.3年次編入学、学士入学および大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程の社会人向け入試制度、社会人向け諸制度などの実施状況について評価した。大学入学情報図書館RENAは、私設図書館(任意団体)で、全国の大学、大学院情報を集めている。「Web大学・大学院展」などを通じ、社会に開かれている大学・学部、大学院の入試情報と、教育・研究内容の情報を提供している。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

## 1-5. 他大学との比較－就職－(国公立大学間)

## ◆人気企業就職◆

【トヨタ自動車】

順位	大学名	人
1	大阪大	42
2	早稲田大	37
3	名古屋大	32
4	九州大	31
4	慶応義塾大	31
6	神戸大	26
7	北海道大	24
8	東京工業大	23
8	名古屋工業大	23
10	東北大	22

【日立製作所】

順位	大学名	人
1	早稲田大	43
2	東北大	33
3	大阪大	27
4	慶応義塾大	25
5	東京工業大	23
5	北海道大	23
5	東京理科大	23
8	九州大	20
8	千葉大	20
10	同志社大	18

【東京海上日動火災保険】

順位	大学名	人
1	慶応義塾大	97
2	早稲田大	81
3	関西学院大	34
4	同志社大	27
5	青山学院大	23
5	南山大	23
7	立教大	18
8	明治大	15
9	西南学院大	13
9	立命館大	13
11	九州大	11
11	一橋大	11

【パナソニック】

順位	大学名	人
1	大阪大	59
2	同志社大	47
3	立命館大	43
4	早稲田大	36
5	関西大	25
6	神戸大	22
7	東京工業大	21
7	慶応義塾大	21
9	九州大	20
10	関西学院大	16

【伊藤忠商事】

順位	大学名	人
1	慶応義塾大	30
2	早稲田大	24
3	一橋大	10
4	大阪大	9
5	上智大	7
6	神戸大	6
7	同志社大	4
7	明治大	4
9	九州大	3
9	東北大	3

## ●ランキングの見方

・人気企業就職ランキングは、「マイナビ・日経2018年卒大学生就職企業人気ランキング」(株式会社マイナビ)を参考。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

1-5. 他大学との比較－就職－(国公立大学間)(つづき)

【博報堂/博報堂メディア  
パートナーズ】

順位	大学名	人
1	慶応義塾大	37
2	早稲田大	20
3	法政大	4
4	大阪大	3
4	神戸大	3
4	明治大	3
<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>2</b>
7	筑波大	2
7	名古屋大	2
7	横浜国立大	2
7	国学院大	2
7	上智大	2
7	専修大	2
7	武蔵野美術大	2
7	明治学院大	2
7	立教大	2

【味の素】

順位	大学名	人
1	慶応義塾大	10
2	早稲田大	9
<b>3</b>	<b>九州大</b>	<b>5</b>
4	東京工業大	4
5	東北大	3
5	北海道大	3
5	同志社大	3
8	大阪大	2
8	神戸大	2
8	東京農工大	2
8	一橋大	2
8	東京理科大	2
8	日本女子大	2
8	法政大	2
8	明治大	2
8	立命館大	2

【明治グループ  
(明治・Meiji Seikaファルマ)】

順位	大学名	人
1	近畿大	6
1	慶応義塾大	6
3	関西大	5
3	明治大	5
3	立命館大	5
3	早稲田大	5
<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>4</b>
7	北海道大	4
9	神戸大	3
9	東京農工大	3
9	大阪市立大	3
9	中央大	3
9	東京家政大	3
9	日本女子大	3

【サントリーホールディングス】

順位	大学名	人
1	慶応義塾大	12
2	早稲田大	10
3	神戸大	7
3	同志社大	7
5	専修大	6
6	一橋大	4
6	明治大	4
6	立教大	4
9	大阪大	3
<b>9</b>	<b>九州大</b>	<b>3</b>
9	東北大	3
9	関西学院大	3
9	中央大	3
9	立命館大	3

●ランキングの見方

・人気企業就職ランキングは、「マイナビ・日経2018年卒大学生就職企業人気ランキング」(株式会社マイナビ)を参考。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」



## 1-6. 他大学との比較－国際－

【QS世界大学ランキング 国内（2018年6月公表）】

2018/2019 順位	2017/2018 順位	2016/2017 順位	2018/2019 国内順位	大学名	総合 スコア
1	1	1	—	マサチューセッツ工科大(MIT)	100.0
2	2	2	—	スタンフォード大	98.6
3	3	3	—	ハーバード大	98.5
4	4	5	—	カリフォルニア工科大(Caltech)	97.2
5	6	6	—	オックスフォード大	96.8
				⋮	
23	28	34	1	東京大	85.3
35	36	37	2	京都大	81.2
58	56	56	3	東京工業大	71
67	63	63	4	大阪大	67.7
77	76	75	5	東北大	64.3
111	116	115	6	名古屋大	57.3
<b>126</b>	<b>128</b>	<b>135</b>	<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>54.1</b>
128	122	130	8	北海道大	53.6

【Academic Reputation】  
学術評判

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	100.0
2	京都大	98.6
3	大阪大	79.4
4	東京工業大	74.6
5	東北大	68.7
6	名古屋大	60.9
7	早稲田大	56.1
8	北海道大	55.5
<b>9</b>	<b>九州大</b>	<b>54.8</b>
10	慶応義塾大	51

【Employer Reputation】  
雇用者評判

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	99.5
2	京都大	93.2
3	早稲田大	86.0
4	東京工業大	80.0
5	慶応義塾大	77.0
6	大阪大	70.5
7	一橋大	63.9
8	東北大	61.8
<b>9</b>	<b>九州大</b>	<b>56.6</b>
10	北海道大	54.6

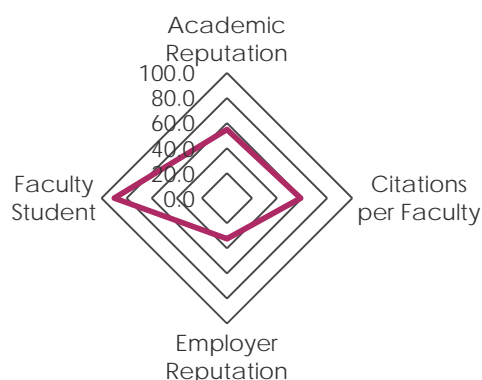
【Citations per Faculty】  
論文被引用数／教員数

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大学	72.2
2	東京工業大学	59.8
3	京都大学	56.6
4	大阪大学	52.2
5	東北大学	45.7
6	名古屋大学	35.4
7	北海道大学	33.3
<b>8</b>	<b>九州大学</b>	<b>32.4</b>
9	筑波大学	23.8
10	東京医科歯科大学	21.6

【Faculty Student】  
学生数／教員数

国内 順位	大学名	スコア
1	東京医科歯科大	100.0
2	横浜市立大	99.6
3	東北大	98.4
4	名古屋大	95.8
5	京都大	95.7
6	東京大	94.2
7	東京工業大	90.4
<b>8</b>	<b>九州大</b>	<b>89.8</b>
9	北海道大	87.2
10	広島大	84.1

九州大学成果指標【QS】



・「外国籍教員／教員数」及び「外国籍学生数／学生数」は、ランキング外のため、掲載なし。

※出典：世界大学評価機関の英国クアクアレリ・シモンズ(Quacquarelli Symonds: QS) Webサイト

1-6. 他大学との比較－国際－(つづき)

【THE世界大学ランキング 国内（2018年9月公表）】 ※200位以下の総合スコアは公表されていないため、指標スコアより推計値を算出。

2018/2019 順位	2017/2018 順位	2016/2017 順位	2018/2019 国内順位	大学名	総合 スコア
1	1	1	—	オックスフォード大	96.0
2	2	4	—	ケンブリッジ大	94.8
3	3	3	—	スタンフォード大	94.7
4	5	5	—	マサチューセッツ工科大	94.2
5	3	2	—	カリフォルニア大	94.1
				⋮	
42	46	39	1	東京大	74.1
65	74	91	2	京都大	67.3
251-300(264)	251-300	251-300	3	東京工業大	48.7
251-300(265)	201-250	201-250	4	東北大	48.6
251-300(300)	201-250	251-300	5	大阪大	46.4
301-350(303)	301-350	301-350	6	名古屋大	46.2
<b>401-500(422)</b>	<b>351-400</b>	<b>351-400</b>	<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>40.7</b>
401-500(438)	401-500	401-500	8	北海道大	40.0
401-500(461)	401-500	401-500	9	東京医科歯科大	38.8
401-500(478)	501-600	—	10	藤田保健衛生大	38.2

【Teaching】  
教育（学習環境）

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	84.0
2	京都大	75.9
3	大阪大	54.7
4	東京工業大	54.3
5	東北大	53.0
6	名古屋大	48.1
<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>46.2</b>
8	北海道大	45.0
9	筑波大	42.8
10	東京医科歯科大	41.2

【International Outlook】  
国際的な評判  
(教授陣と学生の質)

国内 順位	大学名	スコア
1	筑波大	42.4
2	東京工業大	39.4
3	立教大	38.9
4	東北大	37.0
<b>4</b>	<b>九州大</b>	<b>37.0</b>
6	早稲田大	36.3
7	東京大	35.9
8	北海道大	35.3
9	大阪大	33.4
10	名古屋大	31.4

【Industry Income】  
産業からの収入（革新性）

国内 順位	大学名	スコア
1	京都大	95.6
2	名古屋大	77.9
<b>3</b>	<b>九州大</b>	<b>77.3</b>
4	東北大	71.9
5	東京工業大	68.1
6	東京大	67.2
7	東京医科歯科大	61.7
8	北海道大	59.0
9	大阪大	58.4
10	広島大	50.4

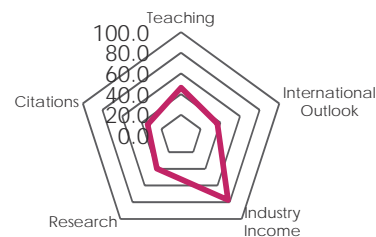
【Research】  
研究（ボリューム）／収益性／評価

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	87.2
2	京都大	77.5
3	東京工業大	52.7
4	大阪大	51.2
5	名古屋大	49.0
6	東北大	47.7
<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>39.8</b>
8	北海道大	39.7
9	筑波大	34.5
10	日本医科大	25.0

【Citations】  
論文の引用度合

国内 順位	大学名	スコア
1	帝京大	42.4
2	藤田保健衛生大	39.4
3	首都大学東京	37.0
3	横浜市立大	37.0
5	東京大	35.9
6	立教大	35.3
7	東京医科歯科大	33.4
8	京都大	31.4
9	東北大	31.1
10	日本医科大	29.9
	⋮	
<b>16</b>	<b>九州大</b>	<b>34.0</b>

九州大学成果指標【THE】



※出典：英タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）Webサイト

## 1-7. 他大学との比較—評価—

### ◆学長からの評価◆

#### 【総合】

順位	大学名	人
1	京都大	123
2	東京工業大	77
3	金沢工業大	74
4	東京大	69
5	国際教養大	63
6	大阪大	61
7	近畿大	49
8	名古屋大	47
⋮		
<b>15</b>	<b>九州大</b>	<b>23</b>

#### 【教育面で注目】

順位	大学名	人
1	金沢工業大	68
2	国際教養大	63
3	東京工業大	38
4	国際基督教大	36
5	共愛学園前橋国際大	29
6	立命館アジア太平洋大	21
7	立命館大	20
8	立教大	19
⋮		
<b>12</b>	<b>九州大</b>	<b>11</b>

#### 【研究面で注目】

順位	大学名	人
1	京都大	111
2	東京大	60
3	大阪大	52
4	名古屋大	41
5	東京工業大	39
6	東北大	37
7	近畿大	31
8	慶応義塾大	26
9	早稲田大	16
<b>10</b>	<b>九州大</b>	<b>12</b>

#### ●ランキングの見方

2017年11月、全国の国公私立大751校の学長宛てにアンケートを送付し、18年1月下旬までに回答のあった501校の学長の意見をまとめた。アンケートでは「教育分野での制度や成果」「研究分野での制度や成果」で注目している大学について、それぞれ6校まで名前をあげてもらった。「総合」は「教育分野」「研究分野」を足したものである。

### ◆社会人からの評価◆

#### 【人事担当者なら気になる】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,330
2	京都大	851
3	早稲田大	582
4	慶応義塾大	537
5	大阪大	227
6	東北大	149
7	明治大	134
8	北海道大	105
<b>9</b>	<b>九州大</b>	<b>104</b>
10	青山学院大	96

#### 【地域貢献に積極的】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	786
2	京都大	556
3	早稲田大	438
4	慶応義塾大	266
5	北海道大	259
6	東北大	208
6	近畿大	208
<b>8</b>	<b>九州大</b>	<b>180</b>
9	大阪大	168
10	名古屋大	116

#### ●ランキングの見方

大学通信調べ。全国の社会人を対象としたインターネット調査を実施し、項目別の大学ランキングをまとめた。調査期間は2017年6月。回答者数は1,000人で、大学卒の会社員または公務員が調査対象となる。地域が偏ることなく調査を実施、男女比もほぼ1対1となっている。質問項目に対し、「全国にある大学の中から3大学」と「あなたの住むエリア及び近隣にある大学から3大学」の最大6校を回答してもらい、回答順にそれぞれ3ポイント、2ポイント、1ポイントとして集計した。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

## 1-7. 他大学との比較－評価－つづき

### ◆高校からの評価◆

【総合評価(全国)】

順位	大学名	指数評価
1	東北大	100.00
2	明治大	76.02
3	東京大	67.26
4	国際教養大	64.95
5	早稲田大	64.92
6	京都大	60.67
7	金沢工業大	56.88
8	立命館大	48.36
⋮		
<b>22</b>	<b>九州大</b>	<b>26.54</b>

【総合評価(九州・沖縄)】

順位	大学名	指数評価
1	九州工業大	28.31
<b>2</b>	<b>九州大</b>	<b>26.54</b>
3	立命館アジア太平洋大	22.94
4	福岡工業大	15.83
5	西南学院大	11.82
6	崇城大	11.37
7	北九州市立大	8.46
8	中村学園大	8.18
9	佐賀大	8.05
10	九州産業大	7.72

【生徒が伸びた】

順位	大学名	人
1	東北大	162
2	東京大	140
3	京都大	113
4	大阪大	66
5	東京理科大	57
5	早稲田大	57
<b>7</b>	<b>九州大</b>	<b>55</b>
7	名古屋大	55
9	金沢工業大	54
10	慶応義塾大	53

【国際化に力を入れる】

順位	大学名	人
1	国際教養大	288
2	国際基督教大	146
3	上智大	131
4	立命館アジア太平洋大	103
5	早稲田大	100
6	東京外国語大	70
7	東京大	51
8	関西学院大	49
⋮		
<b>30</b>	<b>九州大</b>	<b>16</b>

【情報開示に熱心】

順位	大学名	人
1	東北大	78
2	近畿大	45
3	京都大	43
4	明治大	37
5	立命館大	36
6	早稲田大	35
7	東京大	32
8	中央大	31
⋮		
<b>20</b>	<b>九州大</b>	<b>14</b>

#### ●ランキングの見方

2017年10月、全国の進学実績のある高校1192校の進学指導担当教諭宛にアンケートを送付。12月上旬までに回答のあった746校分を集計。質問内容は次のとおり。①進学先で生徒が伸びた、②海外留学制度の充実、外国人教員による英語授業など、国際化に力を入れている、③進路支援が充実、④オープンキャンパスなどの情報開示に熱心———と思われる大学。これらに該当する大学をそれぞれ6校まで記入してもらい、その件数でランキングをつくった。また、各項目についての1位の件数(人数)を100として指数化した。さらにそれを合計して1位になった大学を100として総合評価を表した。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

## 1-8. 他大学との比較—その他—

【学長の出身(最終学歴)】

順位	大学名	人
1	東京大	72
2	京都大	48
3	大阪大	24
3	早稲田大	24
5	東北大	20
6	慶応義塾大	19
7	九州大	15
7	北海道大	15
9	名古屋大	14
10	広島大	13

【理事長の出身(最終学歴)】

順位	大学名	人
1	東京大	57
2	慶応義塾大	36
3	京都大	25
4	早稲田大	23
5	九州大	13
5	東北大	13
7	上智大	12
8	大阪大	10
8	北海道大	10
10	明治大	9

【政治家の出身】

順位	大学名	人
1	東京大	133
2	慶応義塾大	76
3	早稲田大	71
4	京都大	33
5	中央大	26
6	日本大	25
7	創価大	16
8	上智大	14
8	明治大	14
:		
28	九州大	3

### ◆社長の出身◆

【社長の出身(国立大学間)】

順位	大学名	人
1	東京大	3,759
2	京都大	2,400
3	大阪大	2,103
4	北海道大	2,093
5	九州大	1,900
6	東北大	1,860
7	神戸大	1,732
8	広島大	1,479
9	名古屋大	1,412
10	千葉大	1,348

【社長の出身・一部上場  
(国立大学間)】

順位	大学名	人
1	東京大	152
2	京都大	74
3	大阪大	43
4	東北大	31
5	一橋大	28
6	神戸大	26
7	名古屋大	18
7	北海道大	18
9	九州大	17
10	東京工業大	14

【社長の出身・女性(国立大学間)】

順位	大学名	人
1	東京大	104
2	広島大	88
3	九州大	83
4	東京医科歯科大	77
5	千葉大	74
5	北海道大	74
7	大阪大	66
7	筑波大	66
9	名古屋大	62
10	京都大	61

### ●ランキングの見方

東京商工リサーチの企業データベース296万9431社(2016年12月)の代表者データ(個人企業を含む)のうち、公開されている出身大学を抽出、集計した。一部上場企業は東京証券取引所のみを集計した。同一人物が複数の企業で社長を務めている場合、売上高が高い企業を優先して重複企業を集計対象外とした。出身大学が名称変更、統合している場合、現在の大学名で集計した。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

## 1-8. 他大学との比較—その他—つづき

**■その他の他大学との比較項目については、以下をご参照ください。**

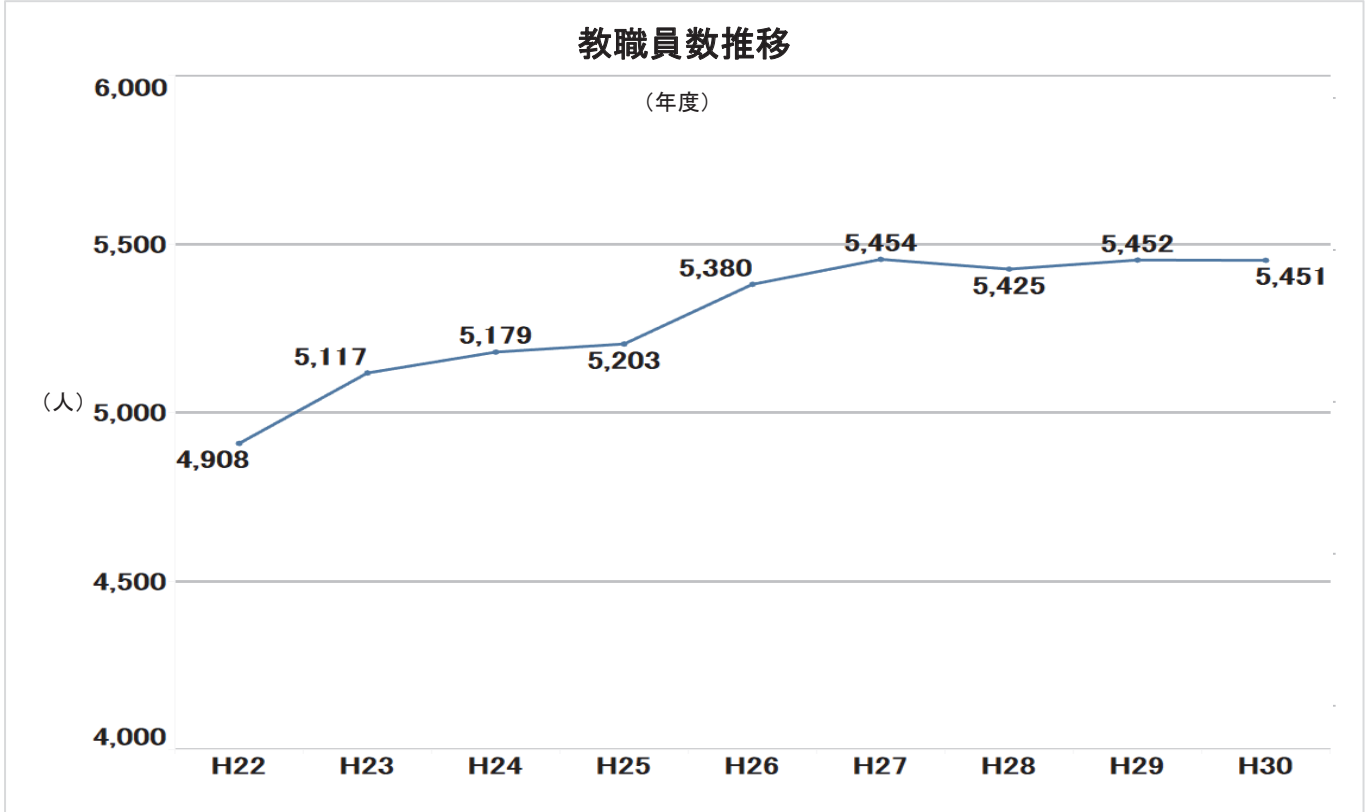
- P85 【自分の子どもに入学してほしい】、【一般入試合格者のうち入学者の比率(国立大学)】
- P129 【国家公務員総合職】、【国家公務員一般職】、【外務省専門職員】、【弁理士】、【技術士】、【一級建築士】
- P132 【Scholarly Output(論文数)】、【Citation Count(被引用回数)】、【FWCI(論文のインパクト)】
- P154 【民間企業との共同研究実施件数(全国 国公立大学間)】、【民間企業との共同研究費受入額(全国 国公立大学間)】、  
【民間企業との共同研究に伴う1件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】
- P156 【民間企業からの受託研究実施件数(全国 国公立大学間)】、【民間企業からの受託研究費受入額(全国 国公立大学間)】、  
【民間企業からの受託研究に伴う1件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】(P156)
- P158,159【特許権実施等件数(外国分を含む)】、【特許権実施等収入(外国分を含む)】、【ランニングロイヤリティ収入があった特許件数】
- P177 科学研究費助成事業の比較(新規+継続)【採択件数】、【女性比率】、【若手比率】、【配分額】  
科学研究費助成事業の比較(新規)【採択件数】、【新規採択率】

## 2. 教職員数等 (各年度5月1日現在)

### 2-1. 教職員数

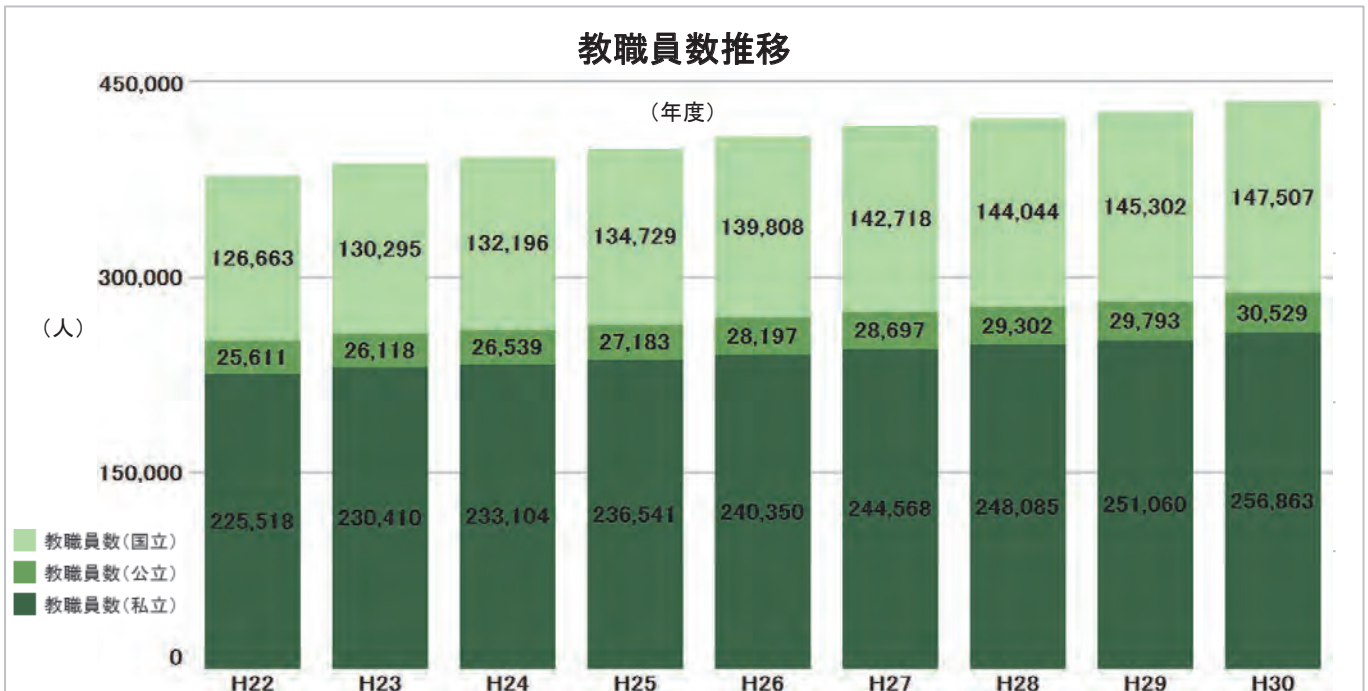
教職員数は本学は近年横ばい傾向であるが、全国は年々増加傾向である。

#### ◆九州大学◆



※出典:文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

#### ◆全国 国公立大学◆



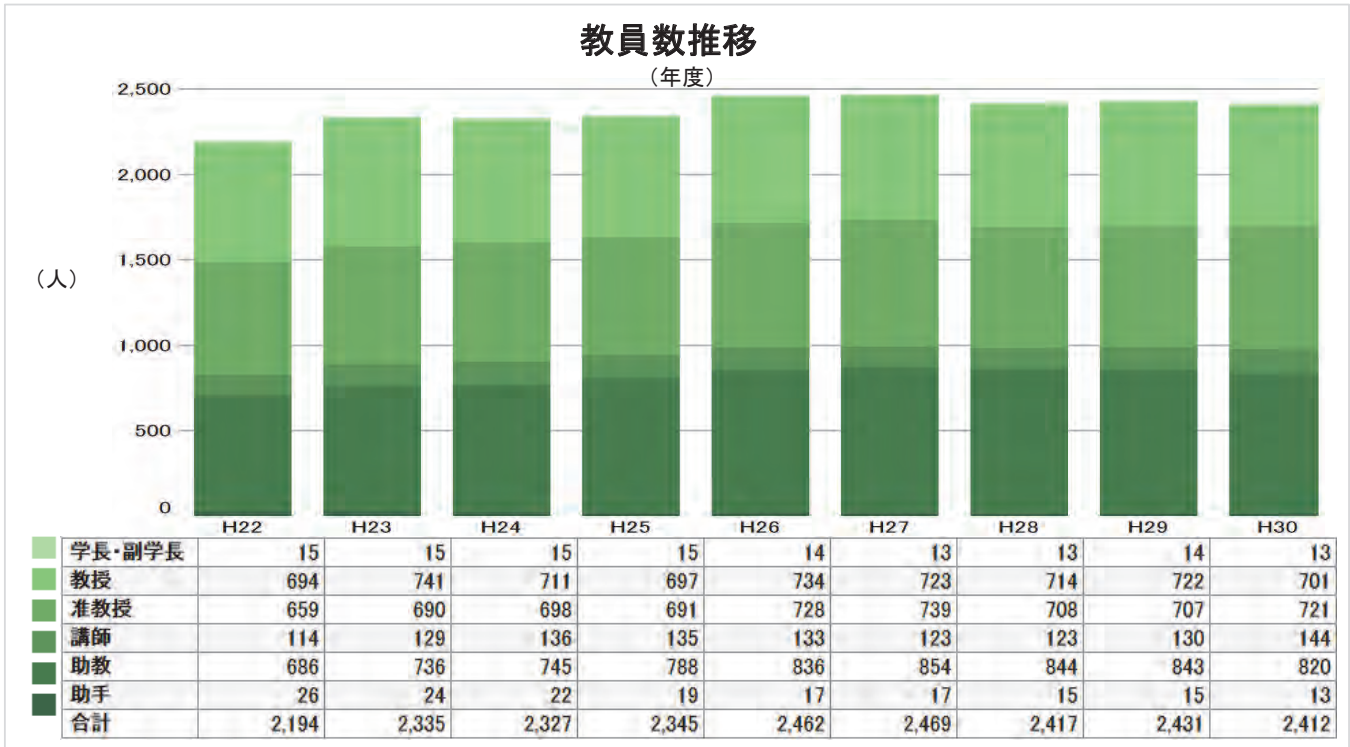
※出典:文部科学省 学校基本調査 大学・大学院 「職名別教員数」「職務別職員数」

## 2-2. 教員数

### 2-2-1. 教員数(全体)

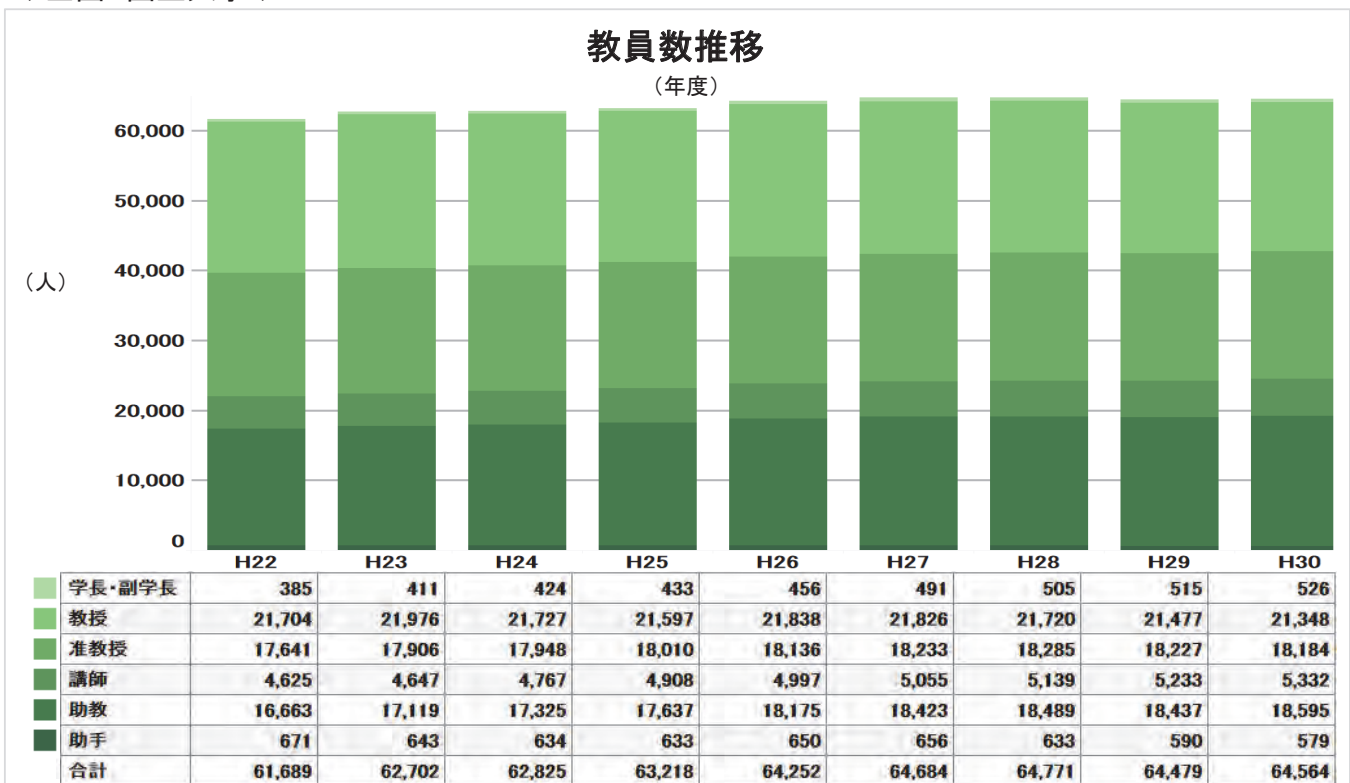
職種毎にも大きな変化は見られないが、全国で見ると、教員数は横ばい傾向である。

#### ◆九州大学◆



※出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

#### ◆全国 国立大学◆



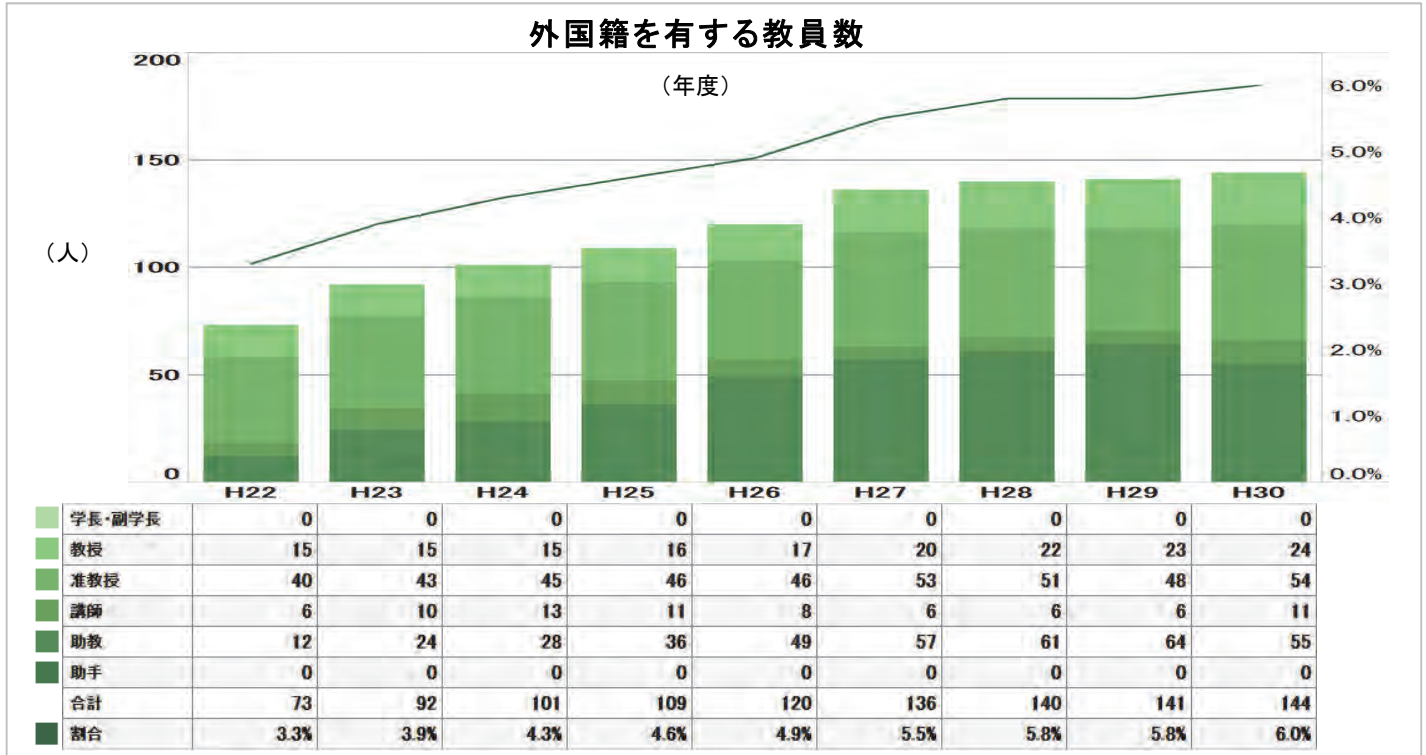
※出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」



## 2-2-2. 外国籍を有する教員数 ※2-2-1. 教員数の内数

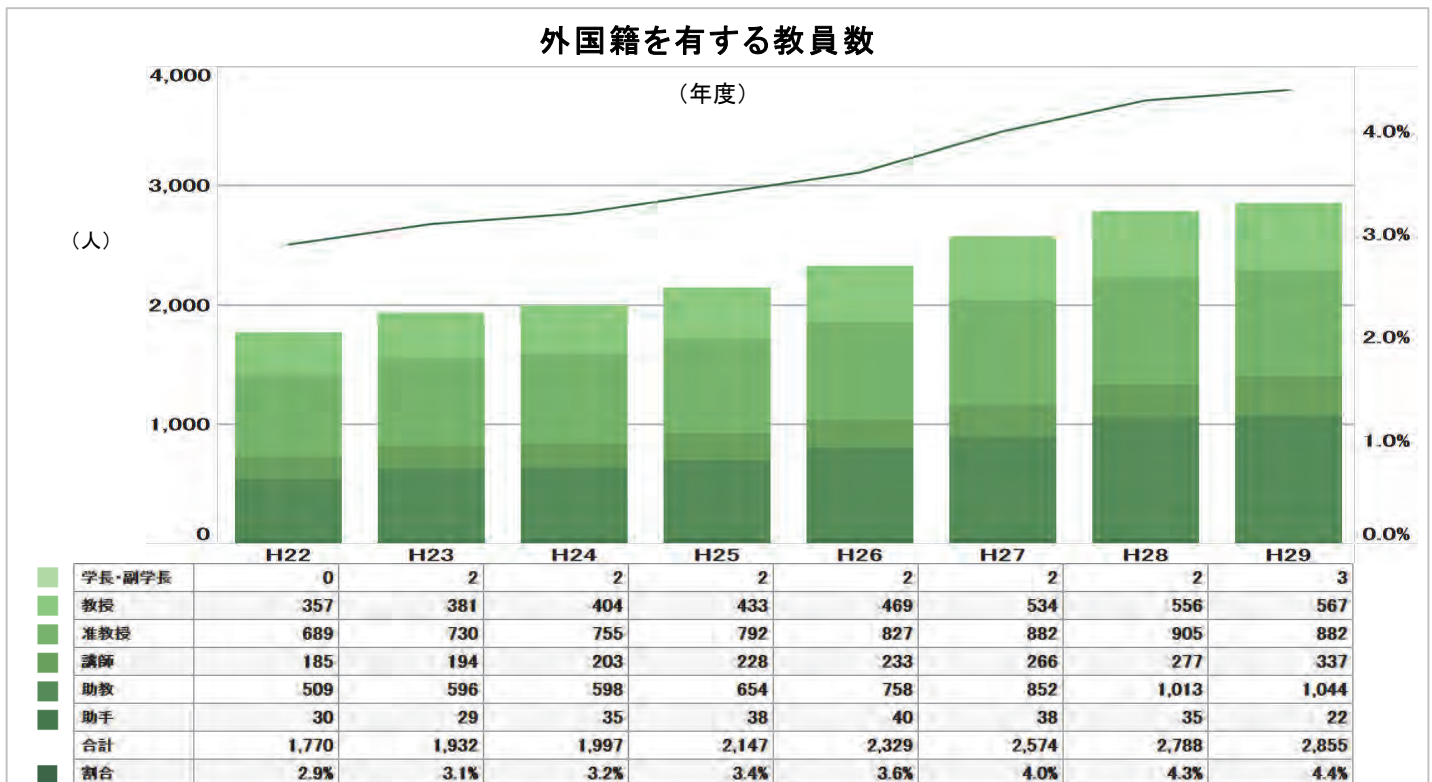
全国と比較しても、外国籍を有する教員数は年々増加傾向である。

### ◆九州大学◆



※出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

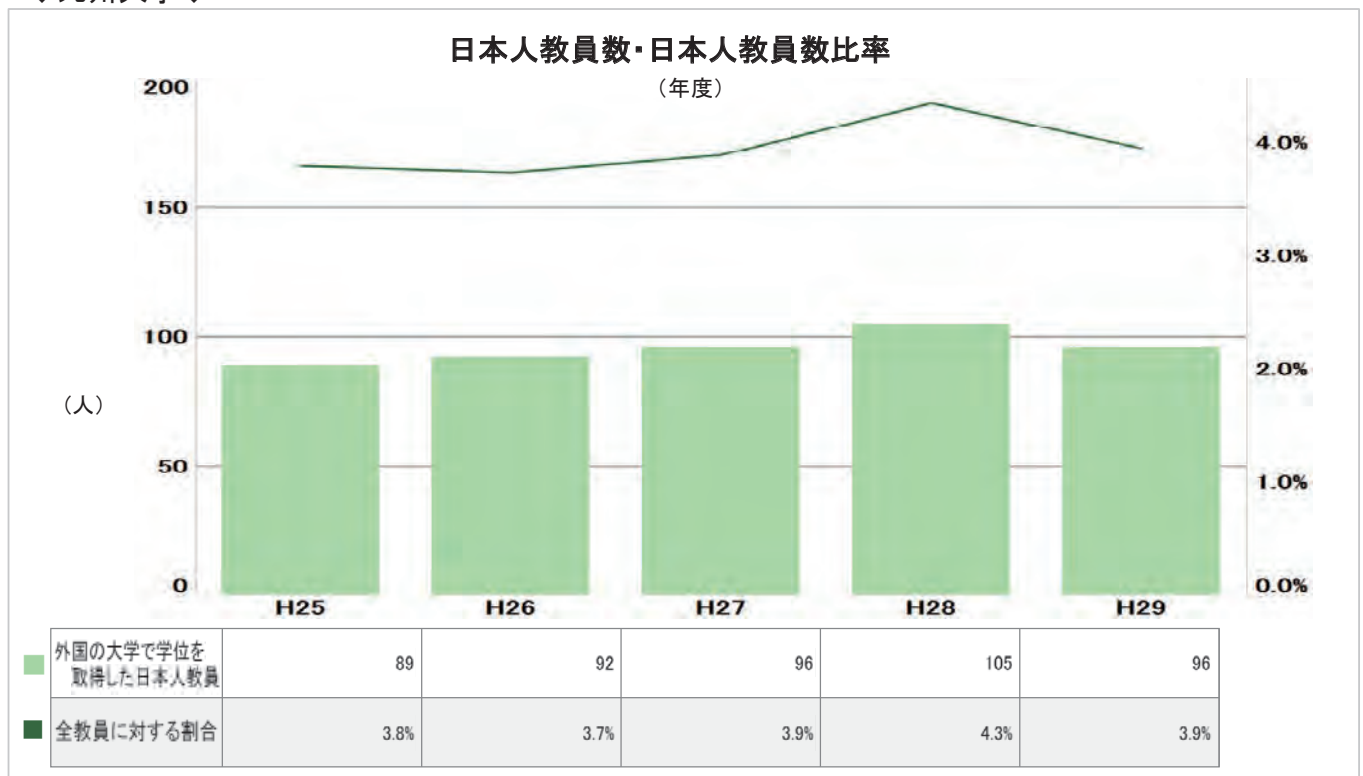
### ◆全国 国立大学◆



※出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院 「職名別外国人教員数」

## 【参考】外国の大学で学位を取得した日本人教員数

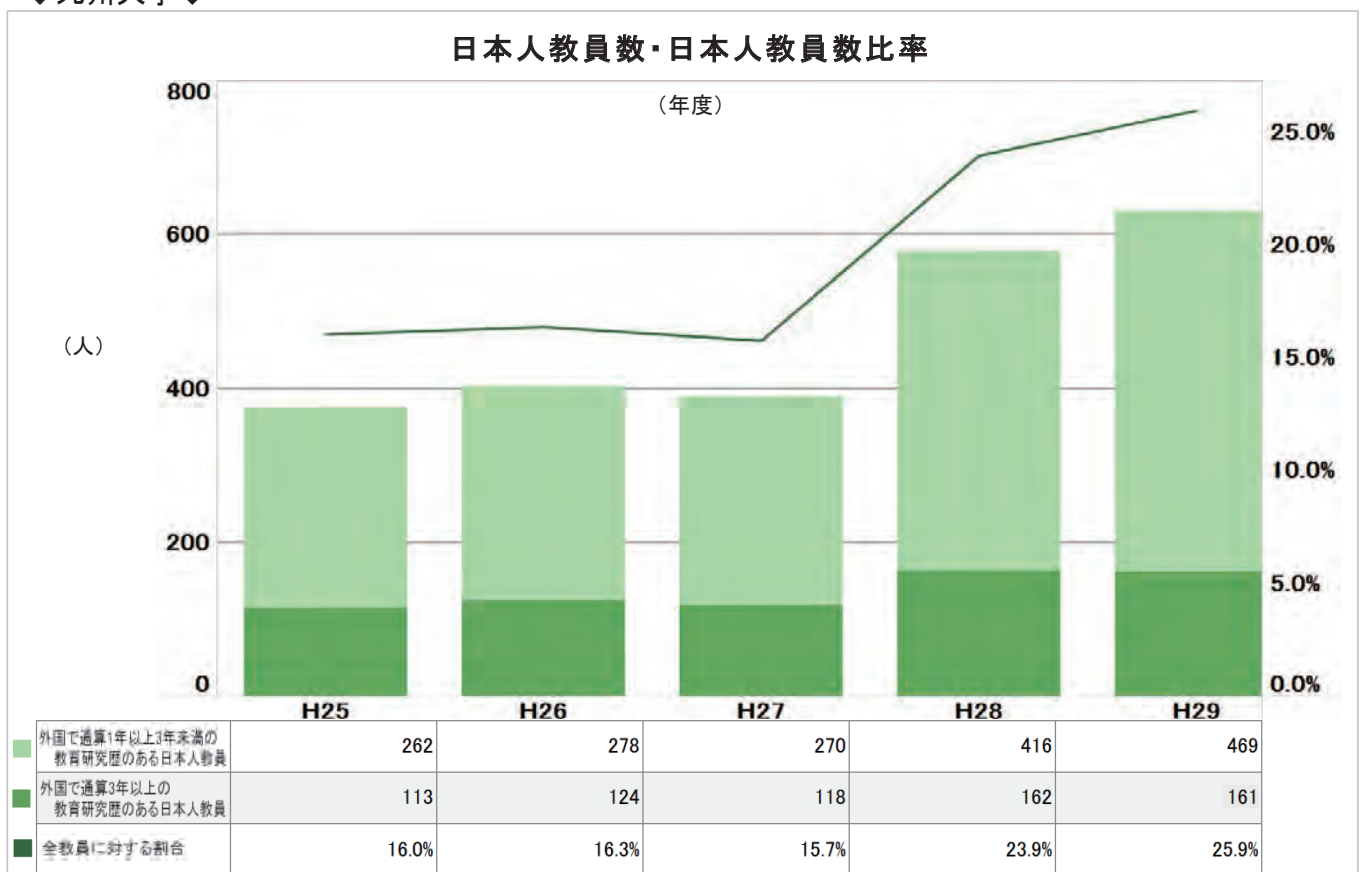
◆九州大学◆



※出典:独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価調書」

## 【参考】外国で教育研究歴のある日本人教員数

◆九州大学◆

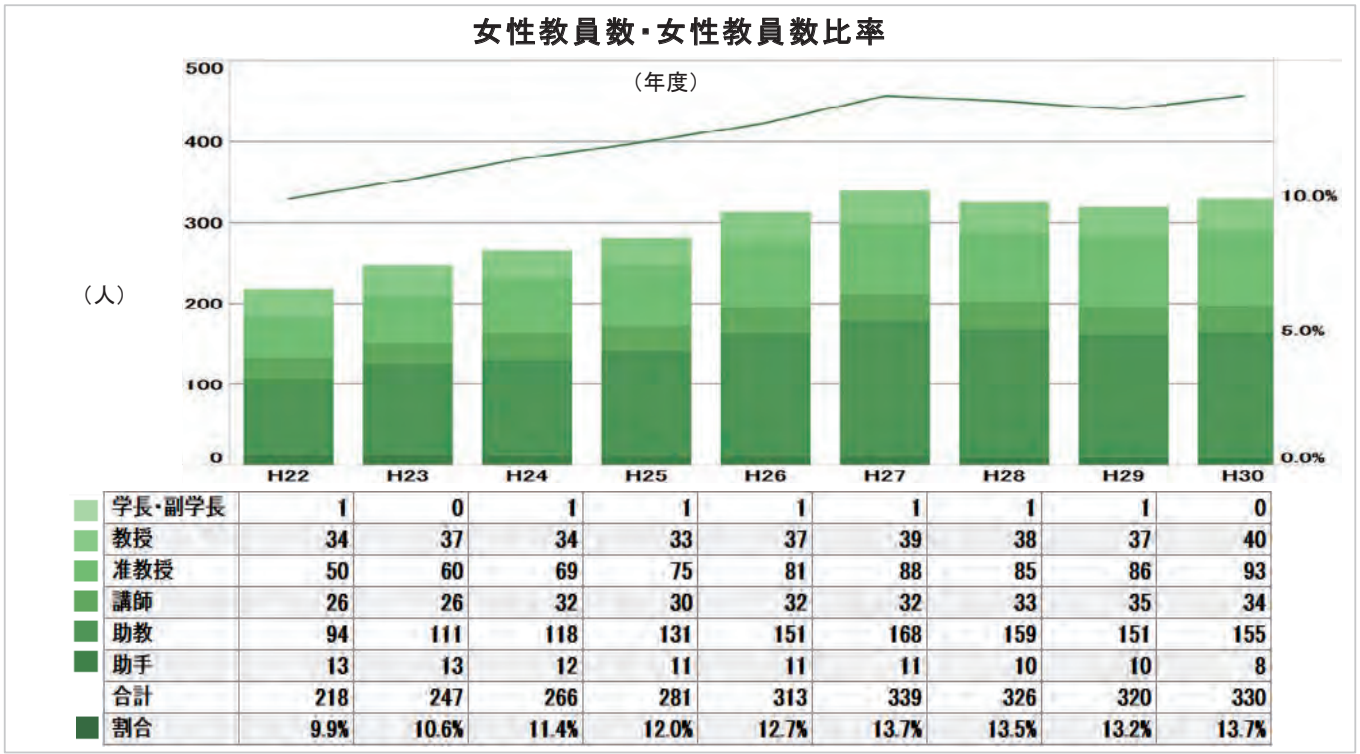


※出典:独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価調書」

## 2-2-3. 女性教員数 ※2-2-1. 教員数の内数

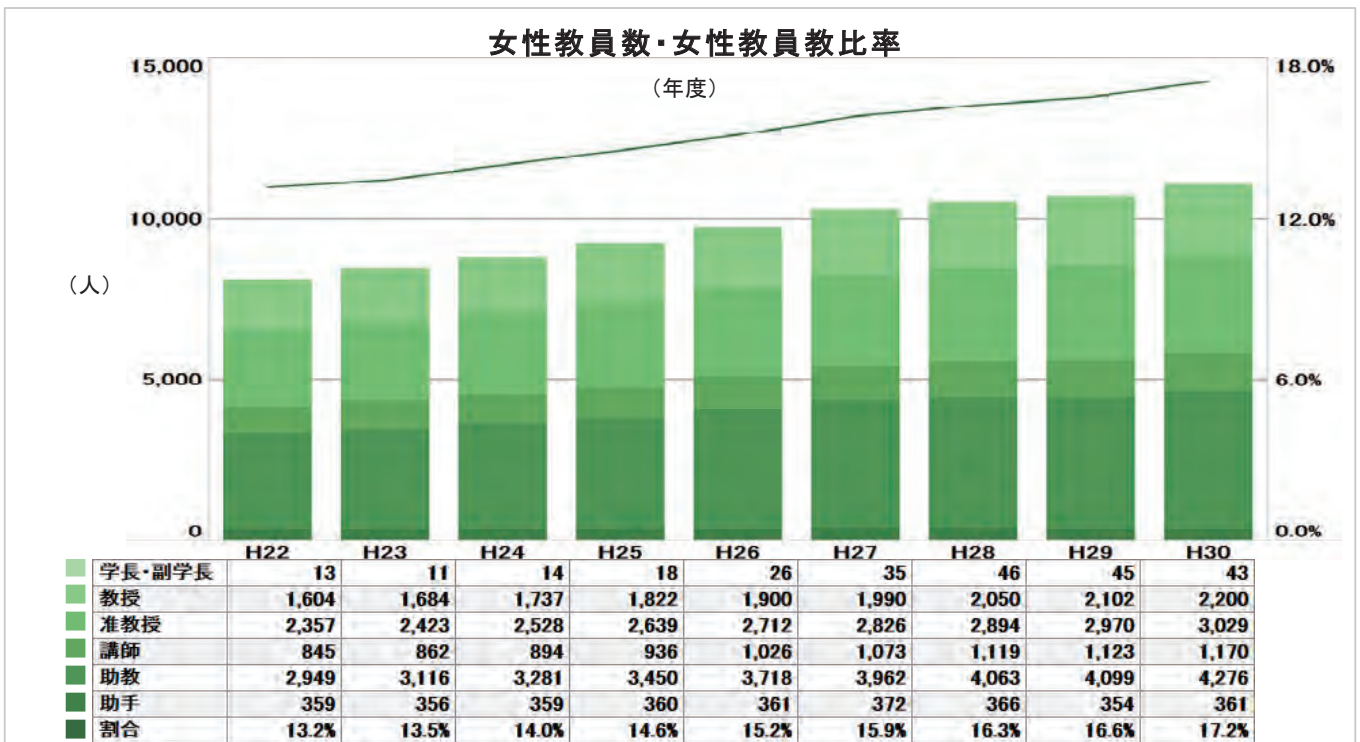
全国と比較しても、女性教員数は全職名において増加傾向である。

### ◆九州大学◆



※出典:文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

### ◆全国 国立大学◆



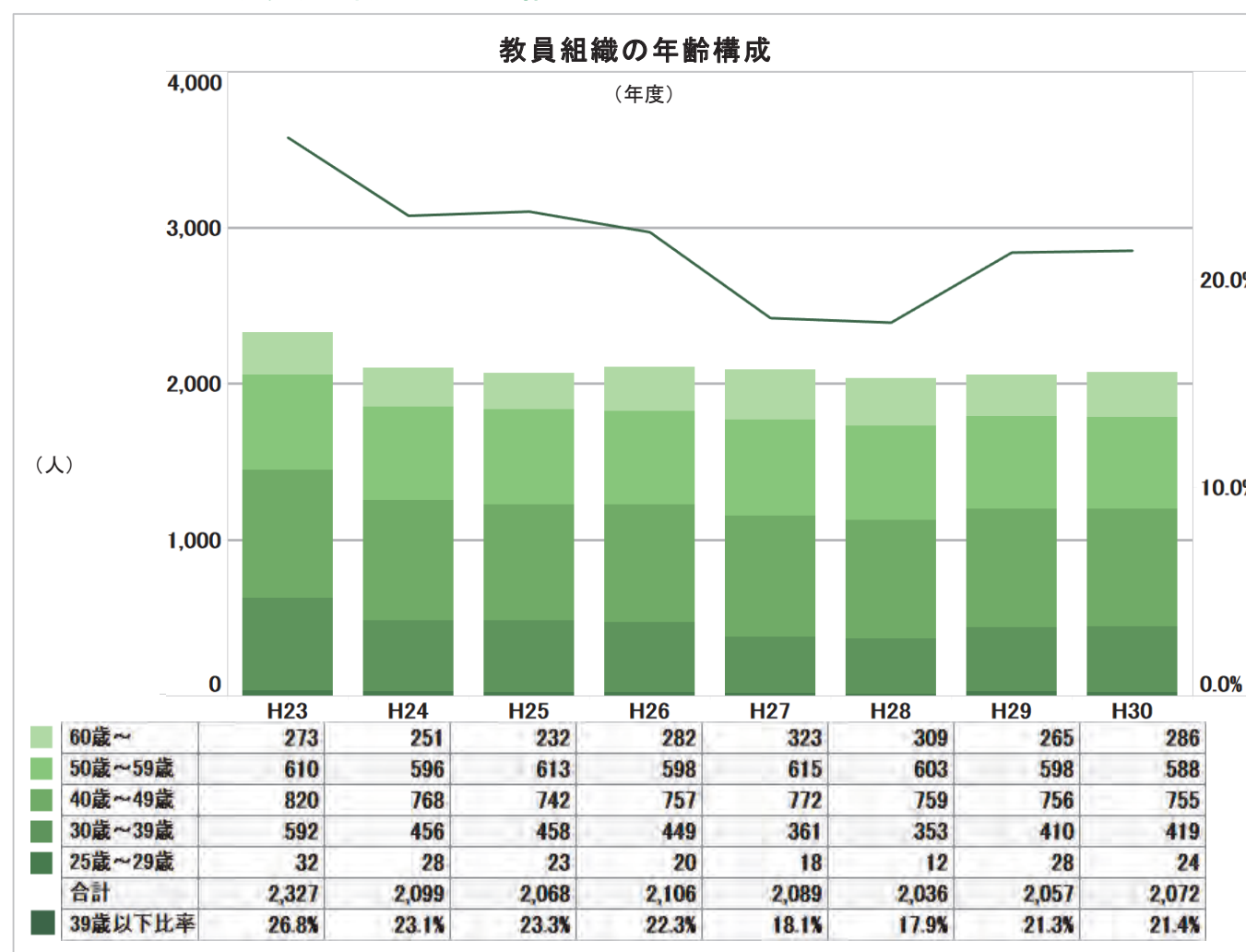
※出典:文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」

## 2-2-4. 主幹教授数 ※2-2-1. 教員数の内数

主幹教授とは、高度の研究活動を推奨・支援し、さらに活性化させるために、本学の教授のうち、その専門分野において極めて高い業績を有し、本学の研究戦略の先導的な役割を担う者に「主幹教授」の称号を付与する制度である。H30年度は、退職者数が多いため減少した。

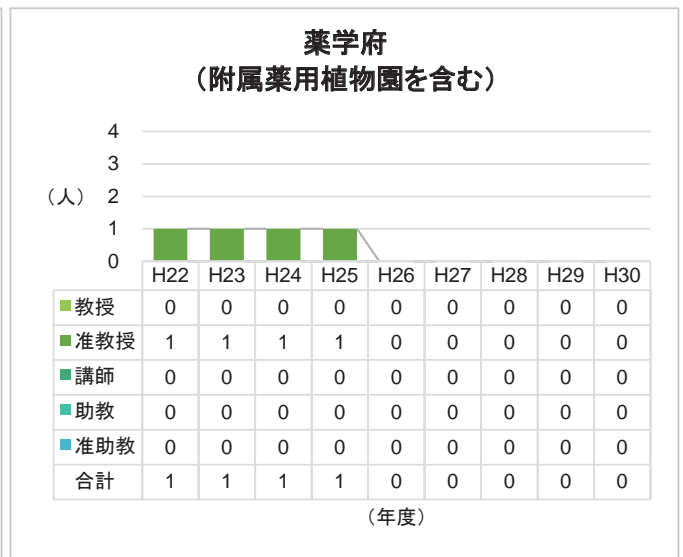
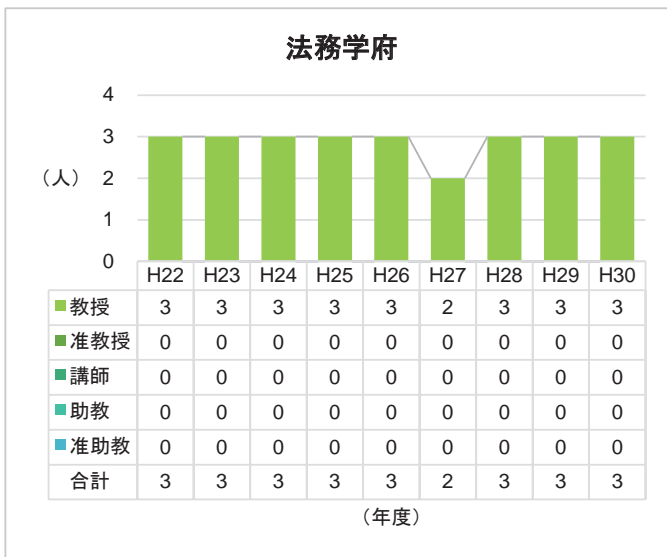
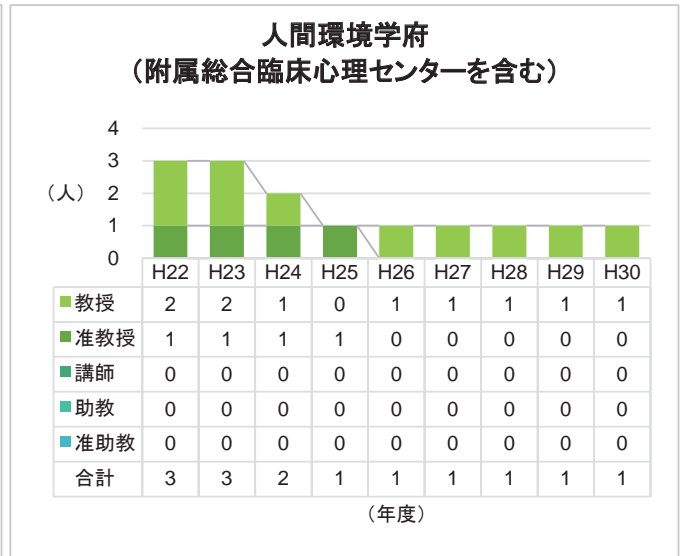
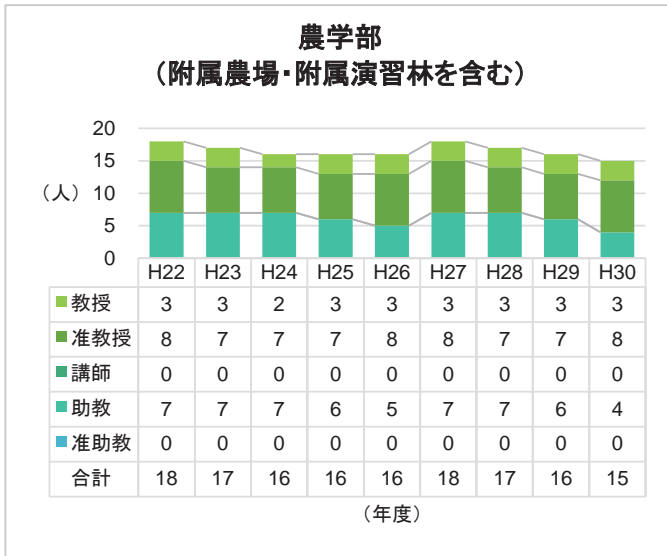
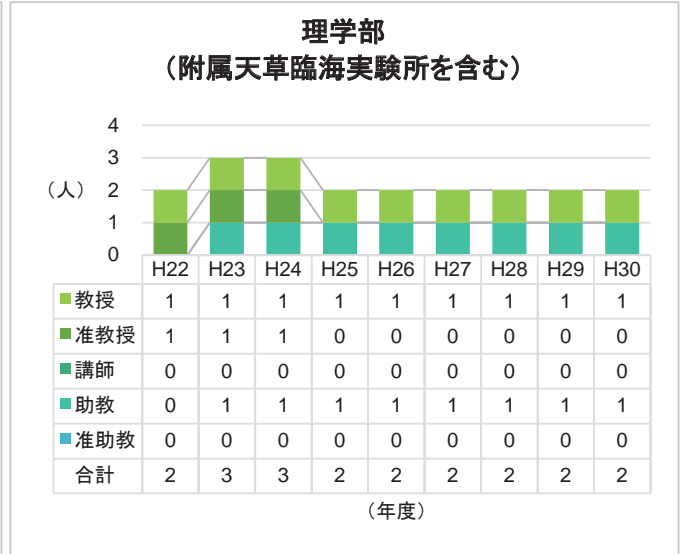
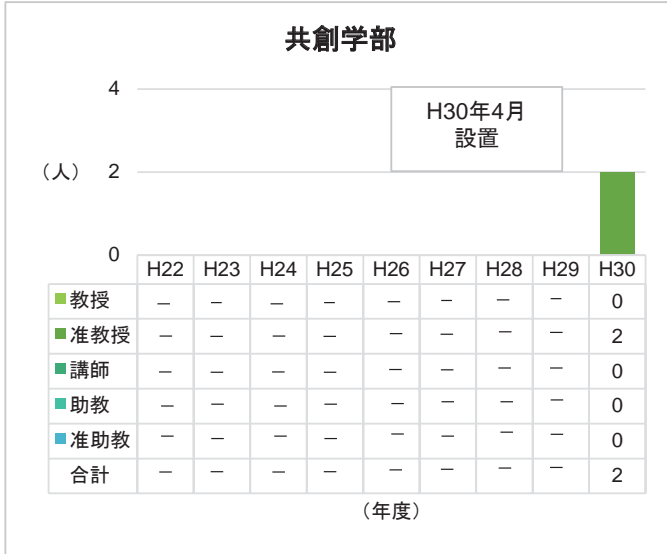


## 2-2-5. 教員組織の年齢構成 ※2-2-1. 教員数の内数



※出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

## 2-2-6. 教員数(部局別)

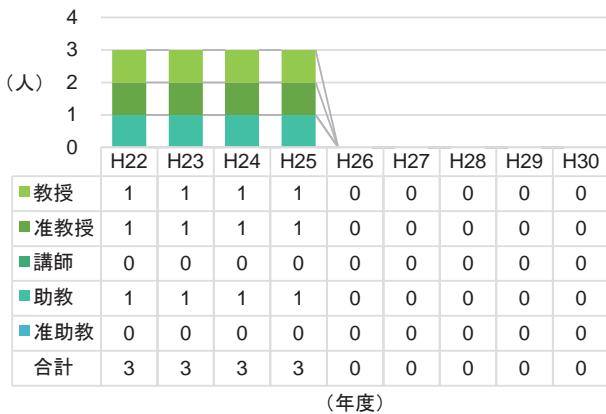


- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

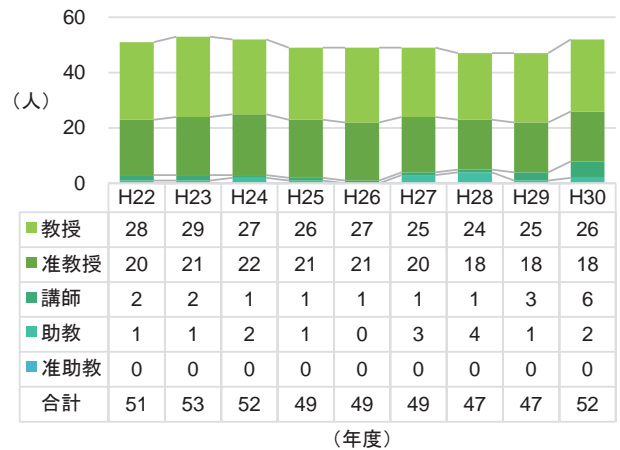
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

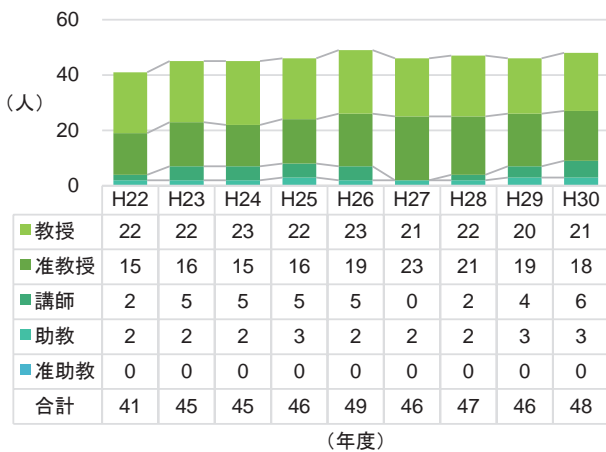
生物資源環境科学府  
(附属水産実験所を含む)



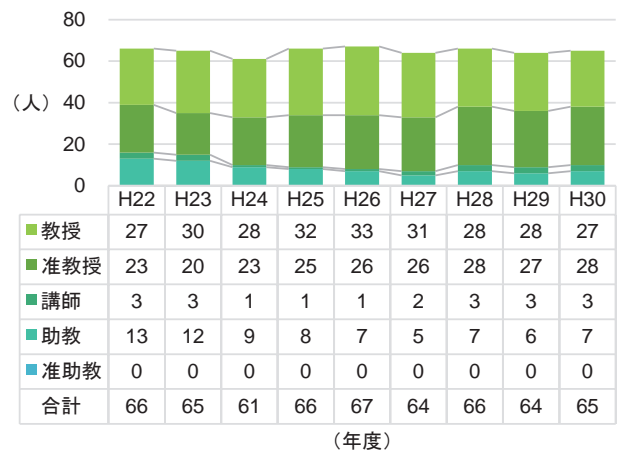
人文科学研究院



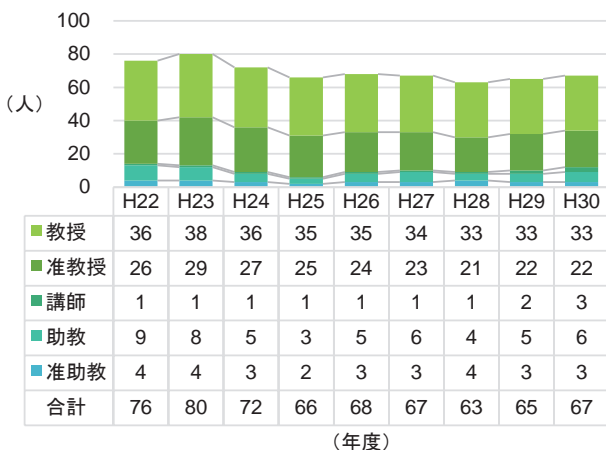
比較社会文化研究院



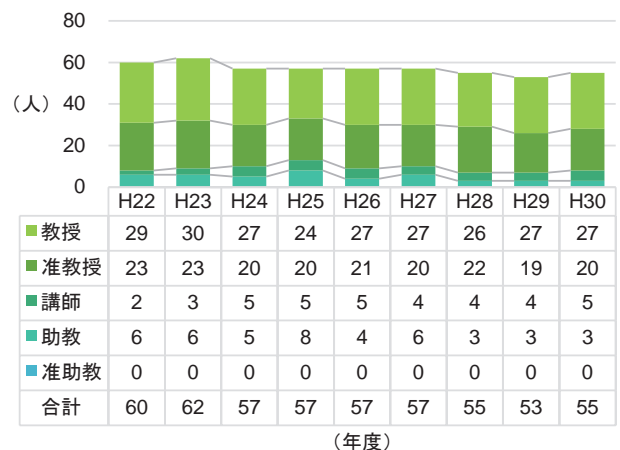
人間環境学研究院



法学研究院



経済学研究院

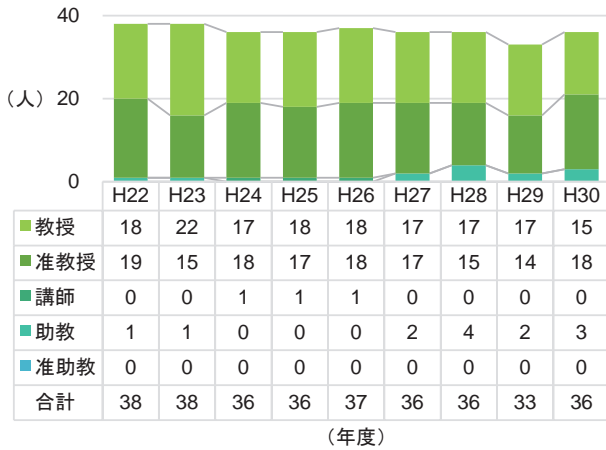


- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

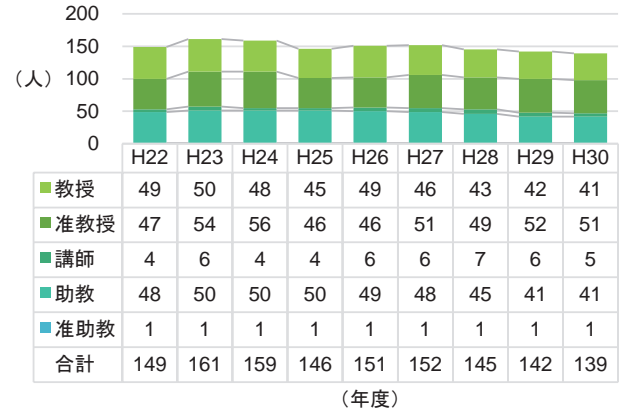
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

言語文化研究院

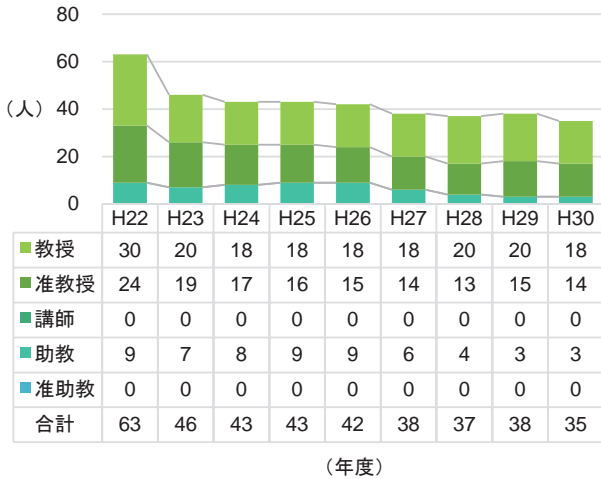


理学研究院

(附属地震火山観測研究センターを含む)

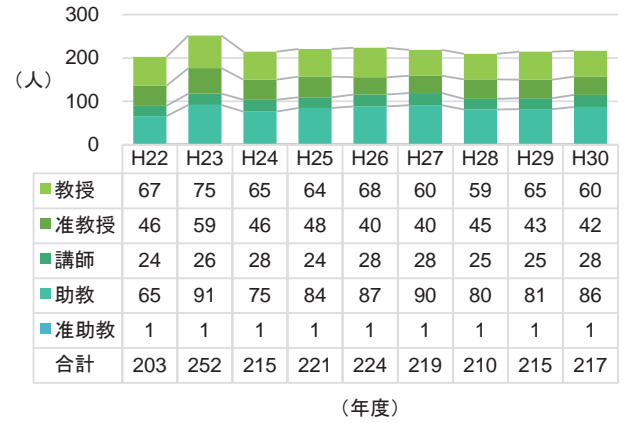


数理学研究院

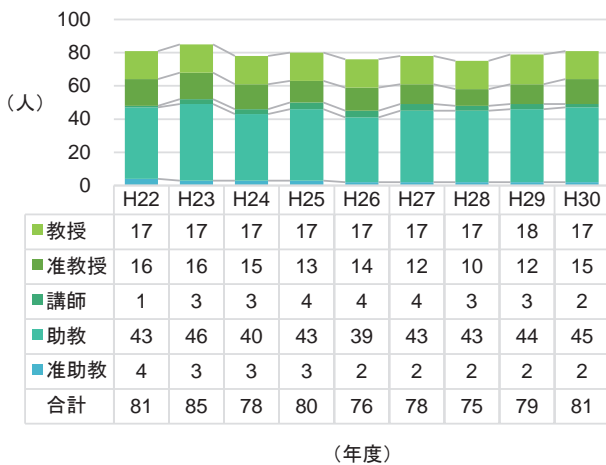


医学研究院

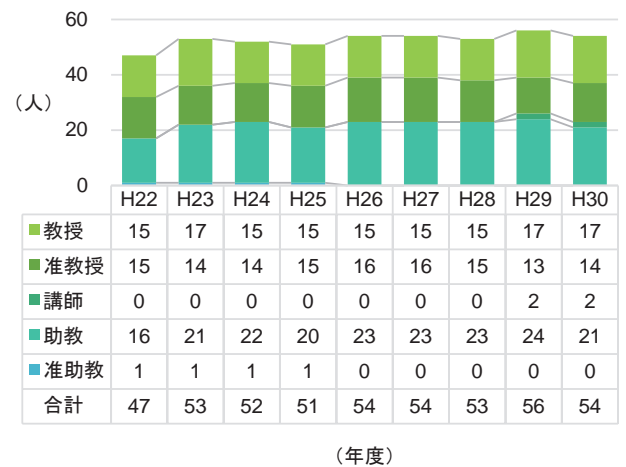
(附属胸部疾患研究施設等を含む)



歯学研究院



薬学研究院

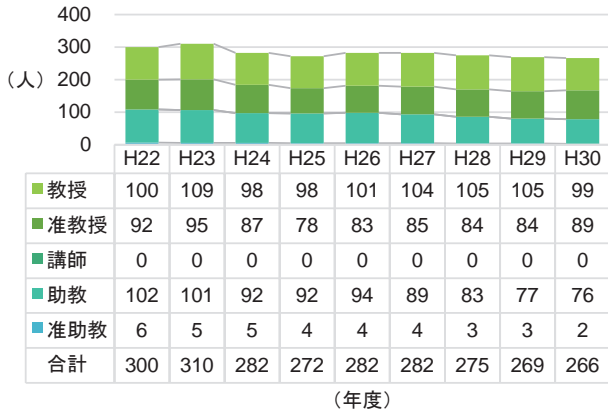


- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

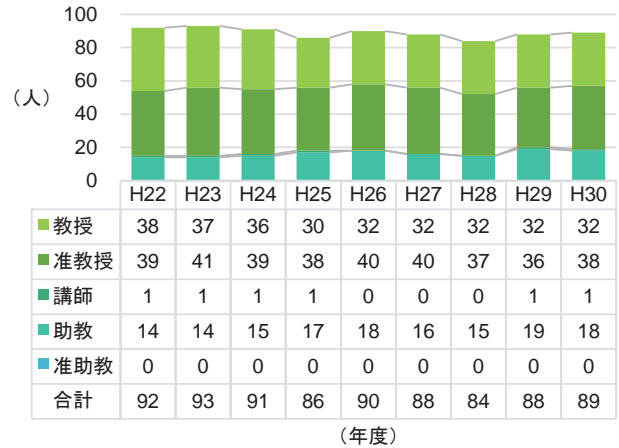
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

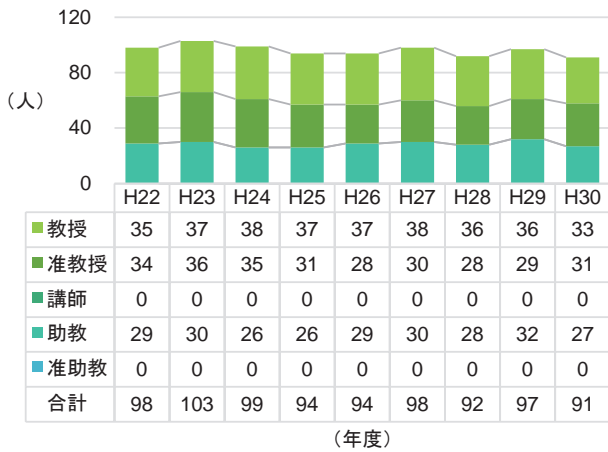
**工学研究院**  
(附属アジア防災研究センターを含む)



**芸術工学研究院**



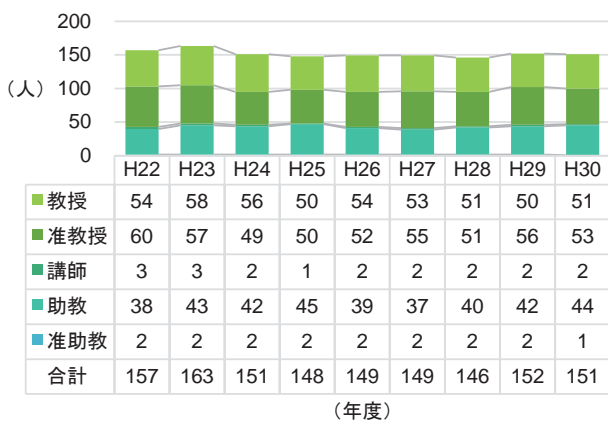
**システム情報科学研究院**



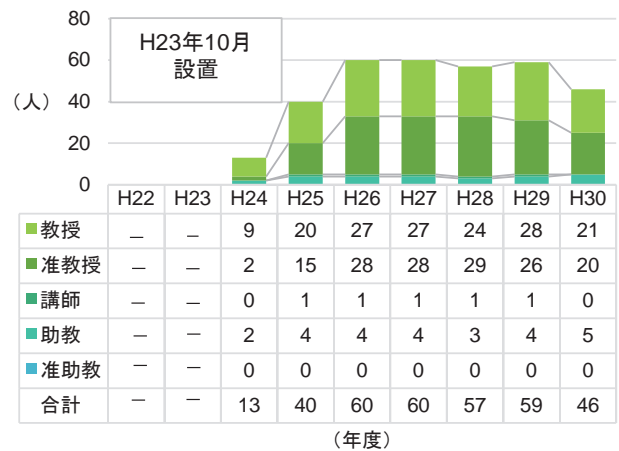
**総合理工学研究院**



**農学研究院**  
(附属国際農業教育・研究推進センター等を含む)



**基幹教育院**

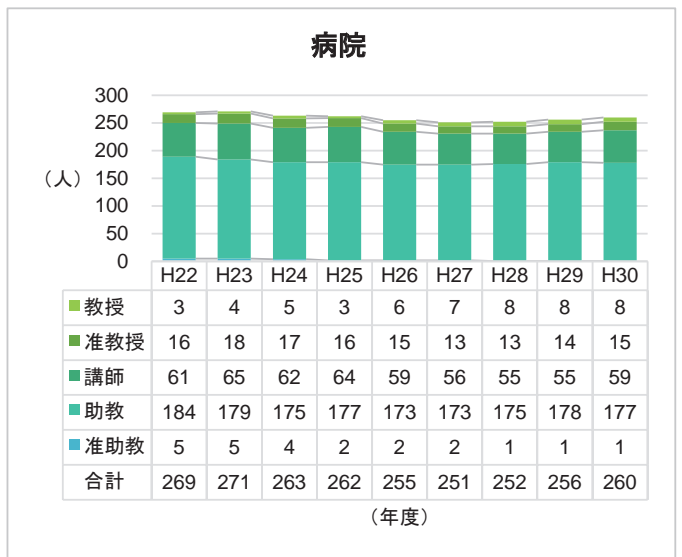
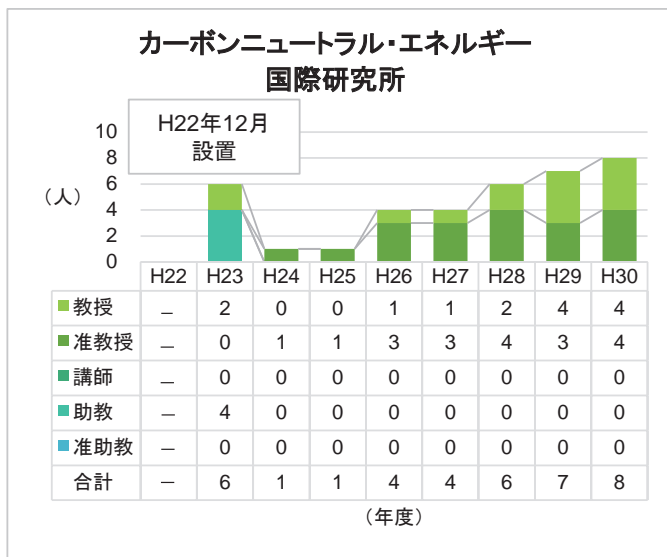
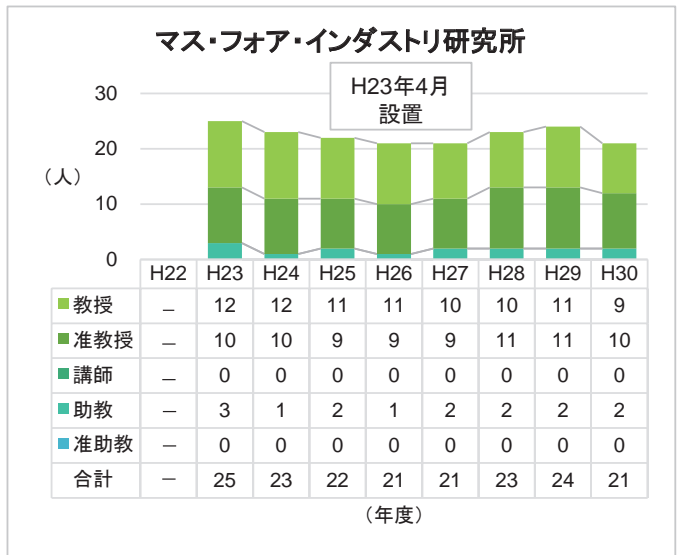
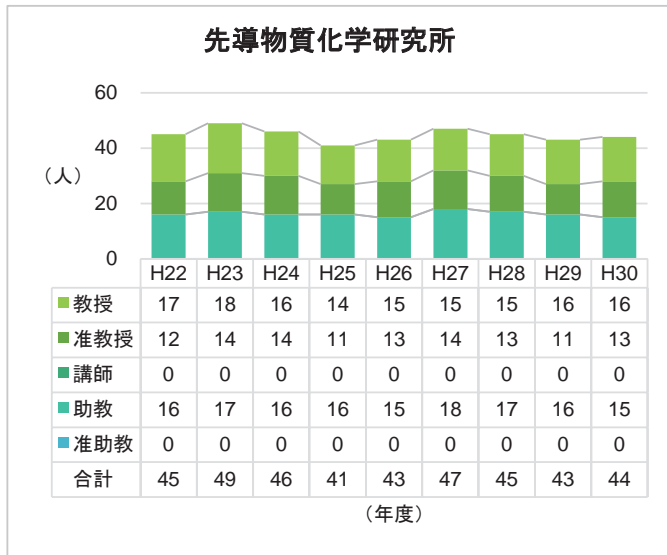
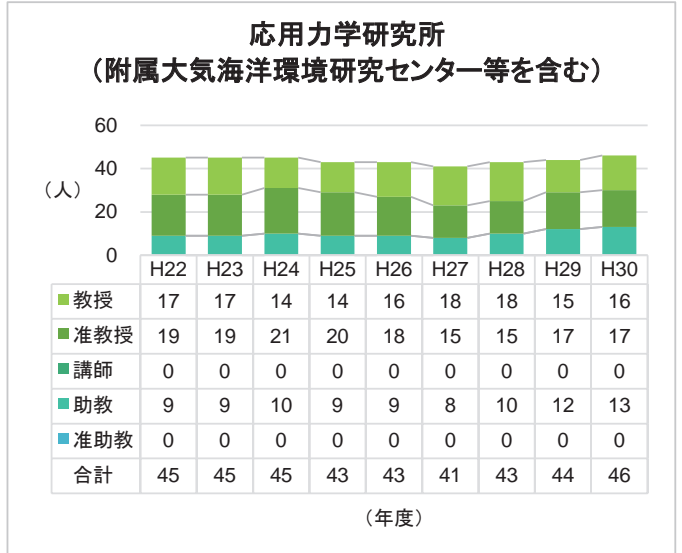
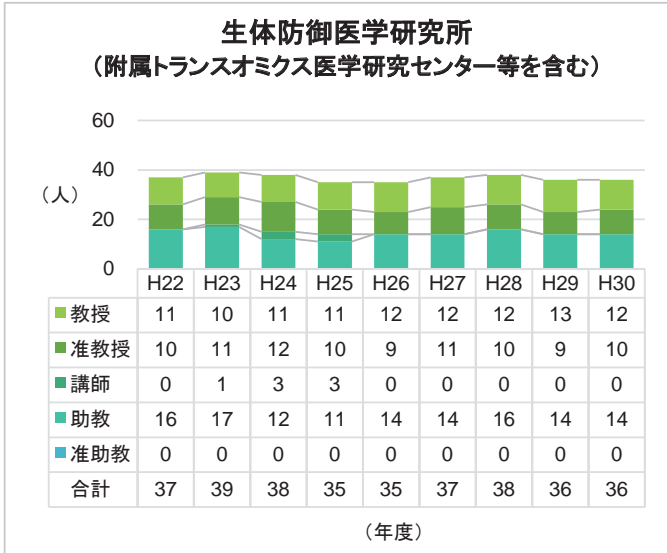


- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)



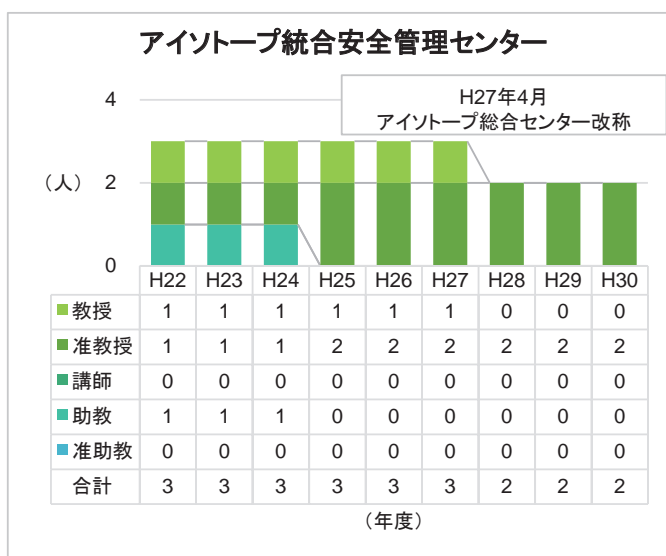
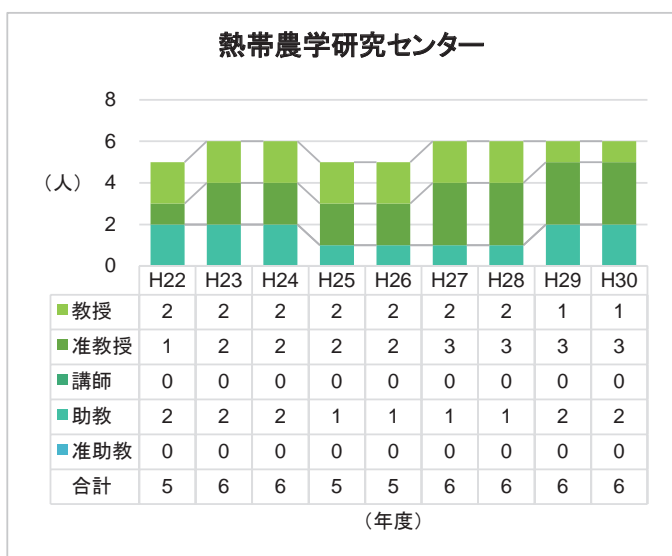
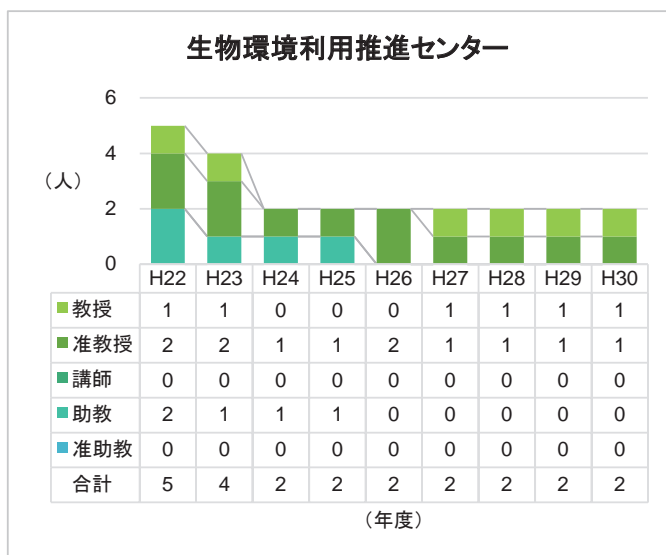
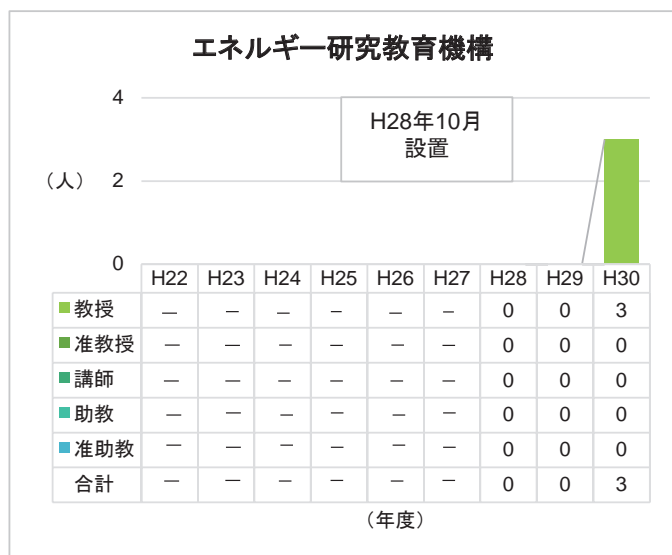
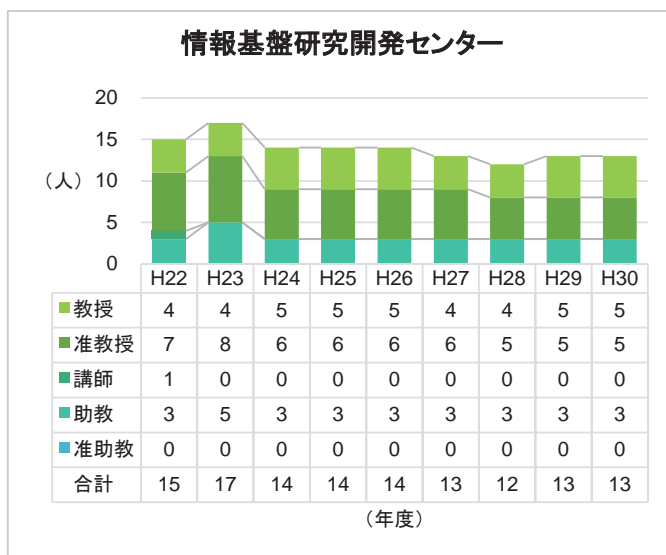
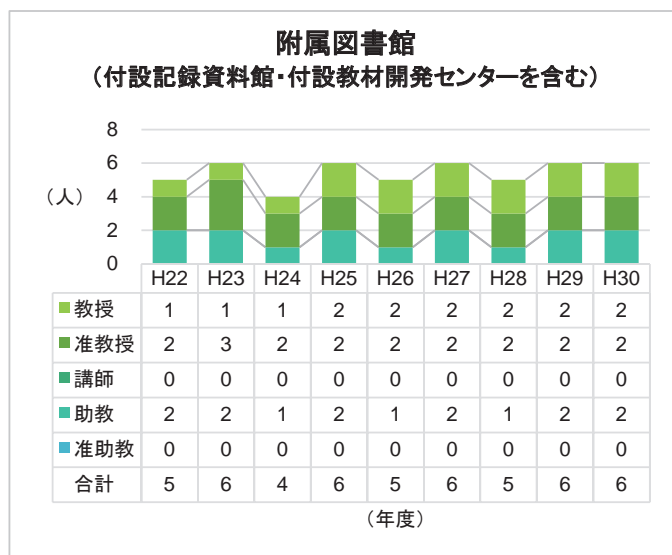
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。  
 ・特定有期教員は除く。  
 ・一部、本務所属以外に計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

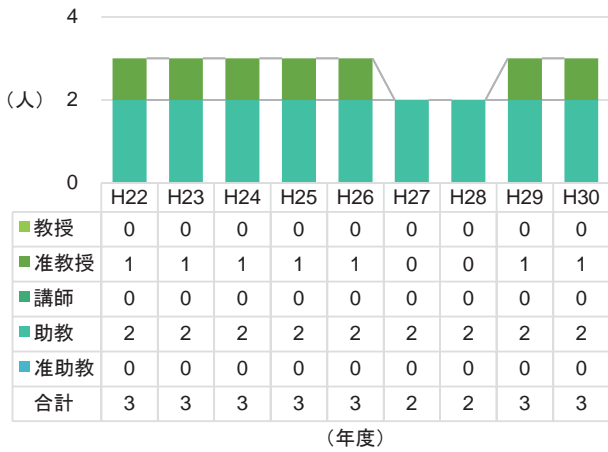


- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

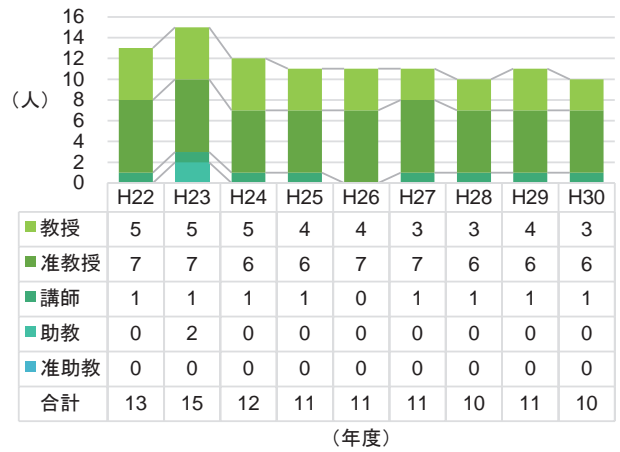
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

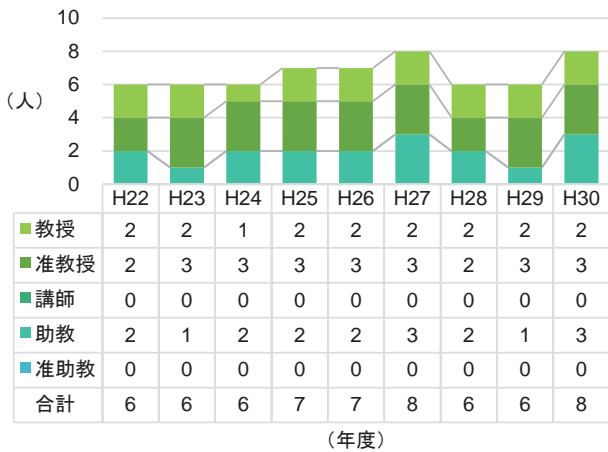
中央分析センター



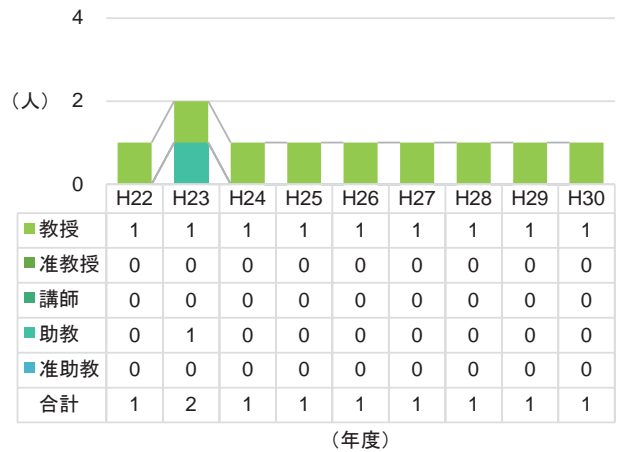
留学生センター



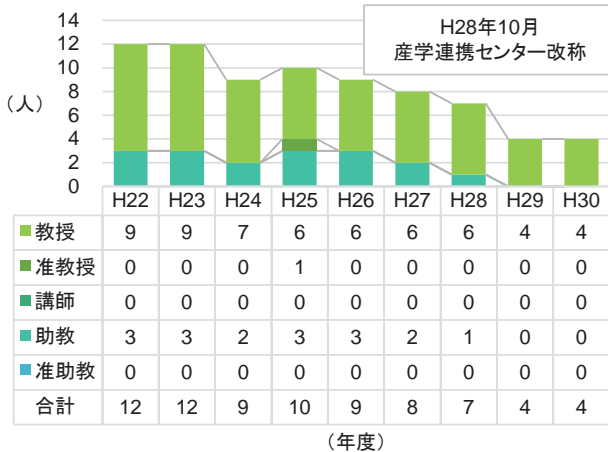
総合研究博物館



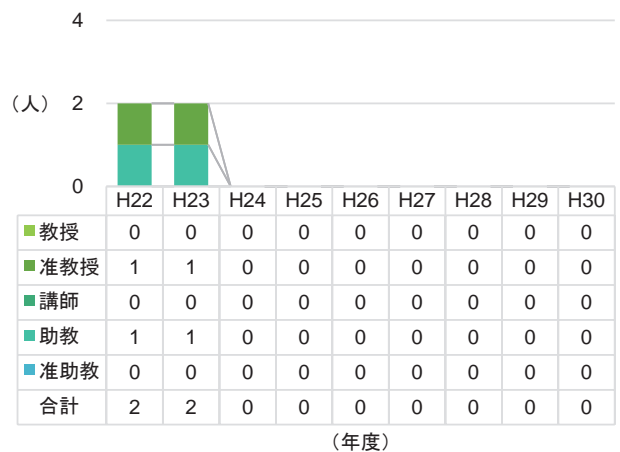
韓国研究センター



グローバルイノベーションセンター



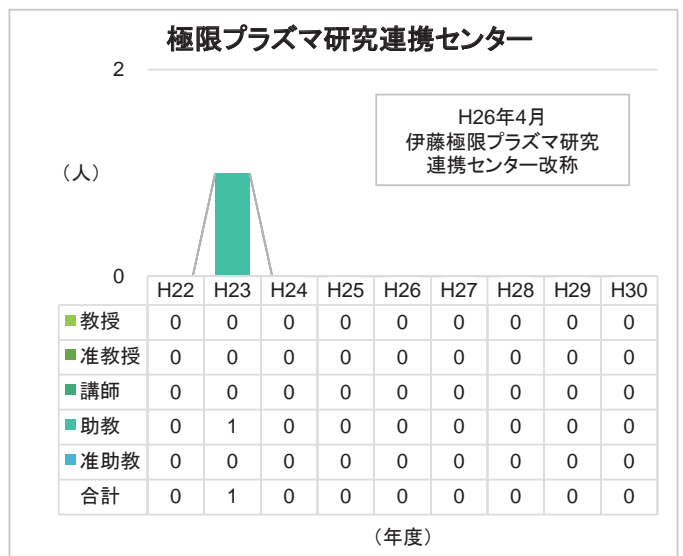
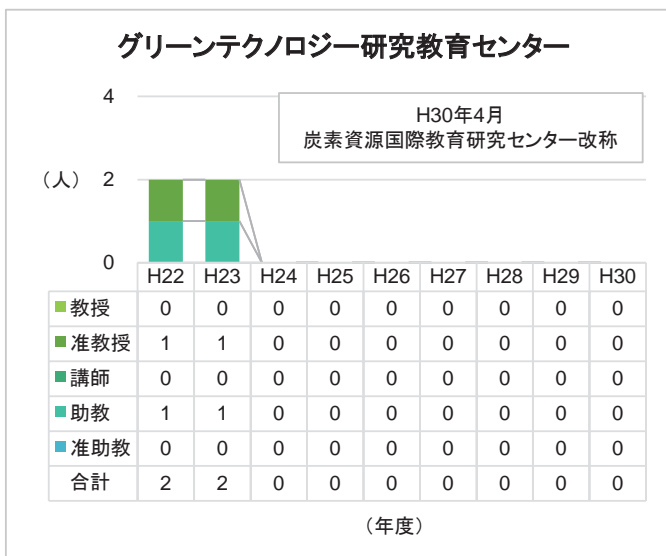
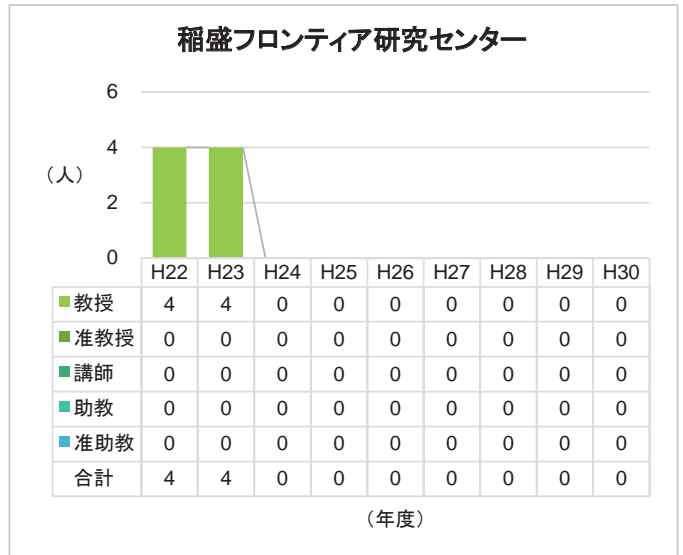
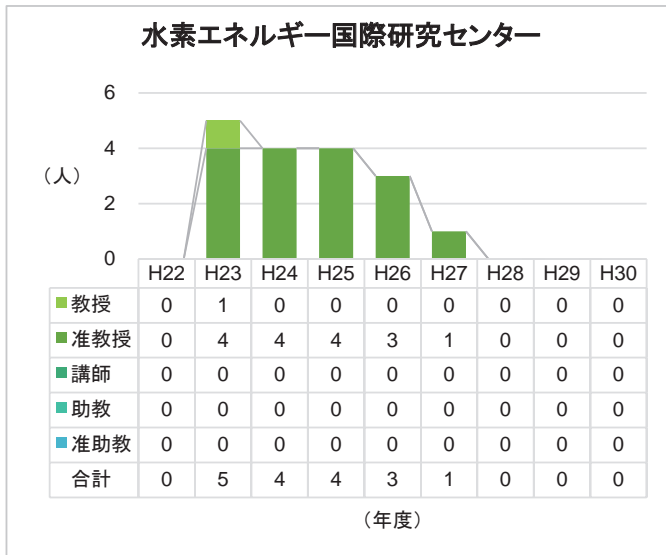
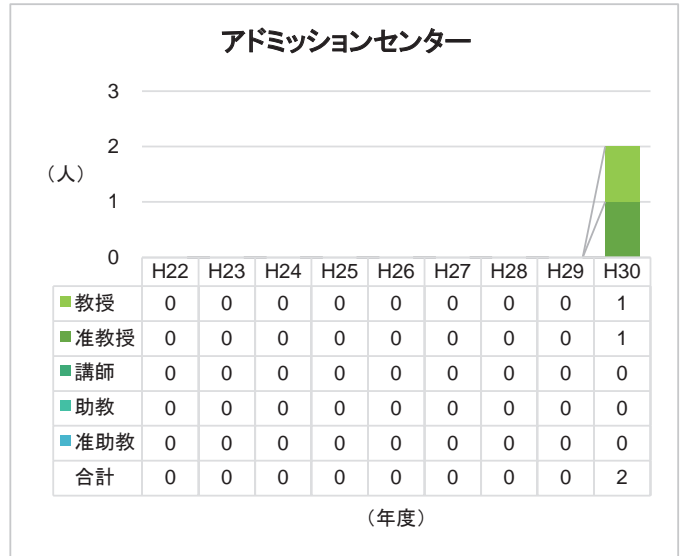
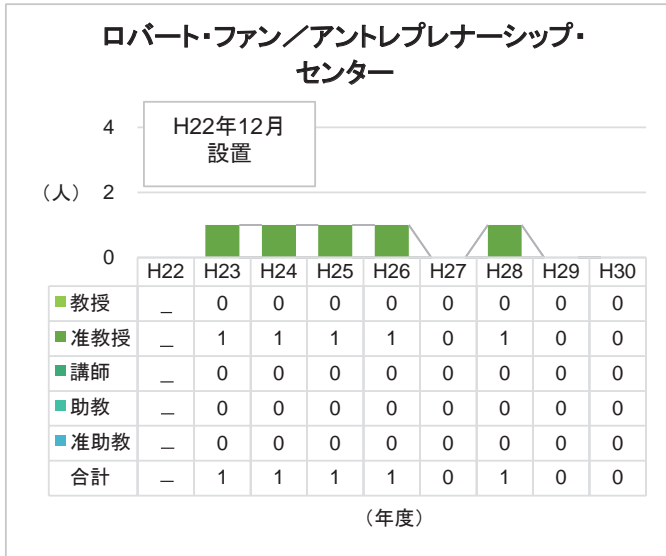
大学文書館



- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

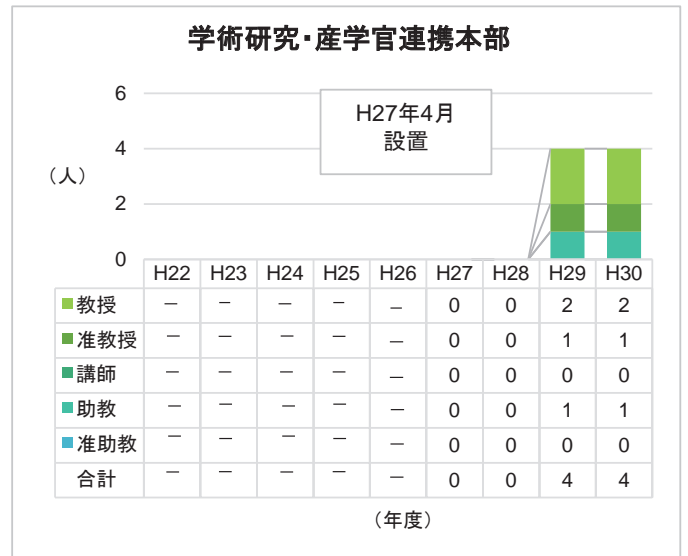
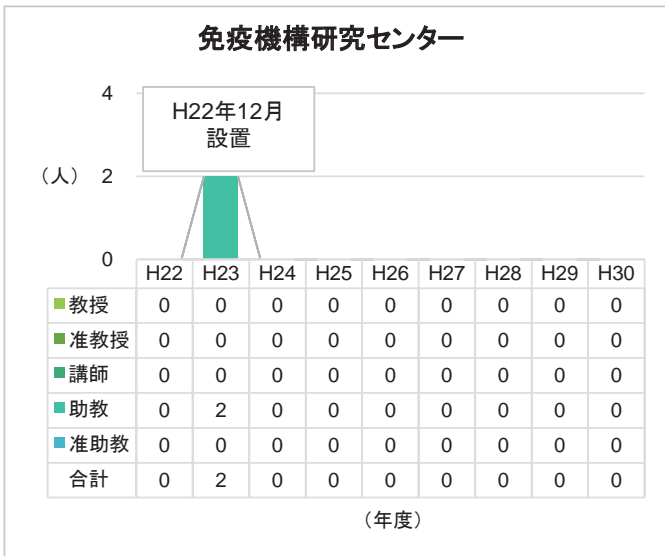
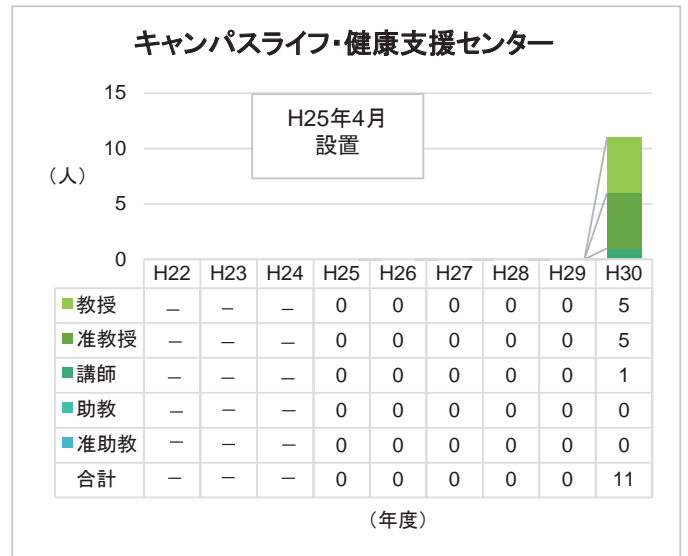
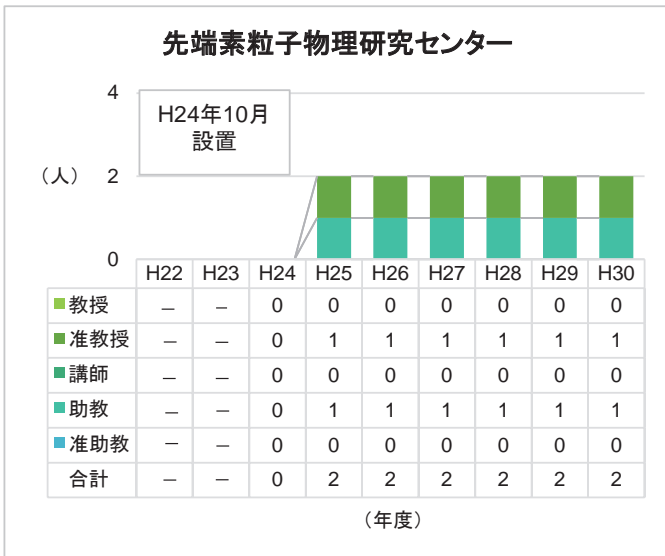
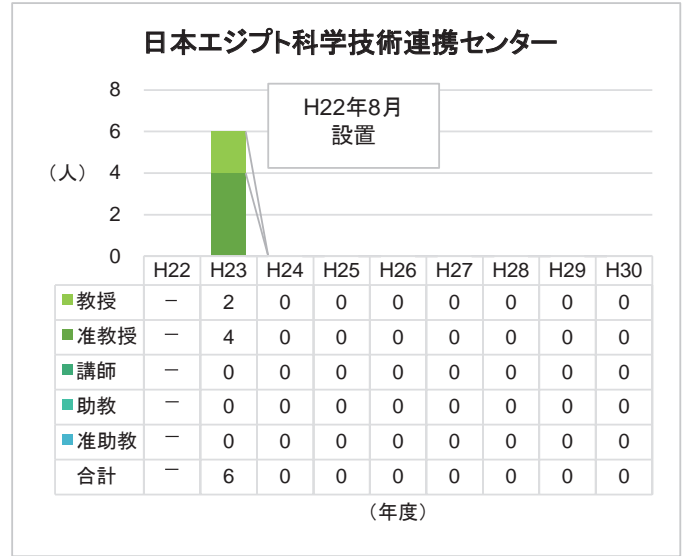
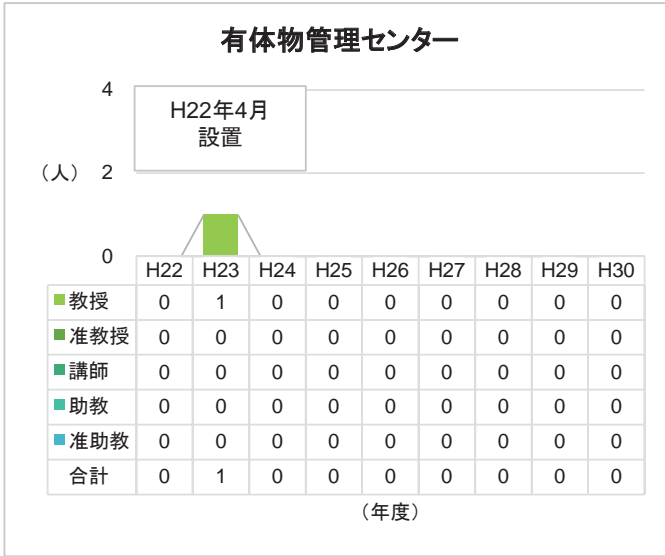
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。  
 ・特定有期教員は除く。  
 ・一部、本務所属以外に計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。

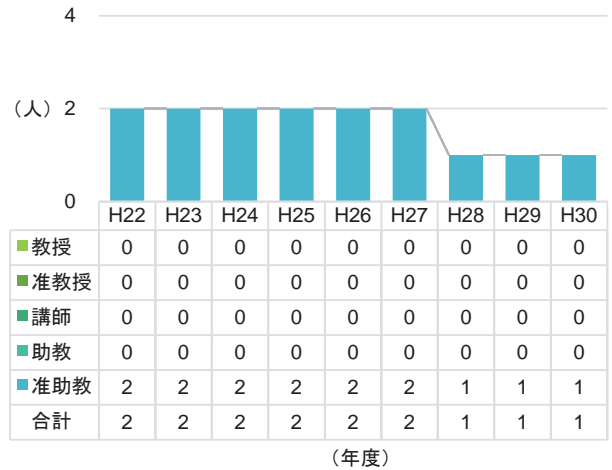
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

教育改革推進本部



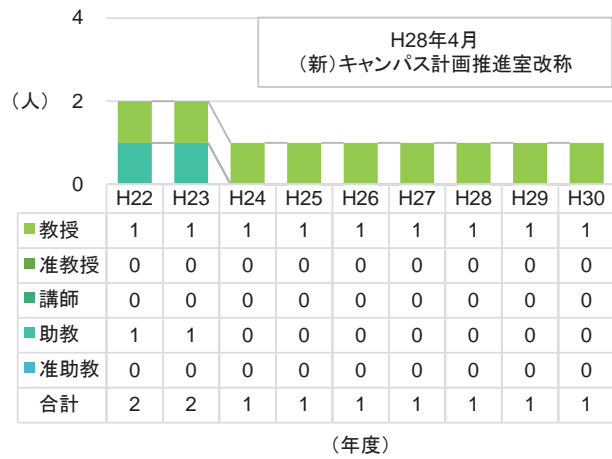
国際交流推進室



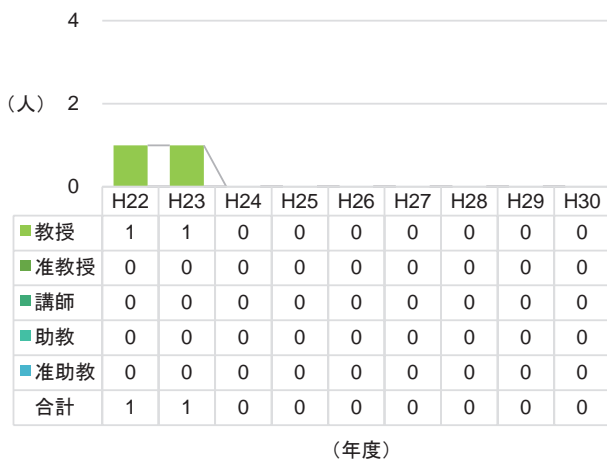
インスティテューショナル・リサーチ室 (IR室)



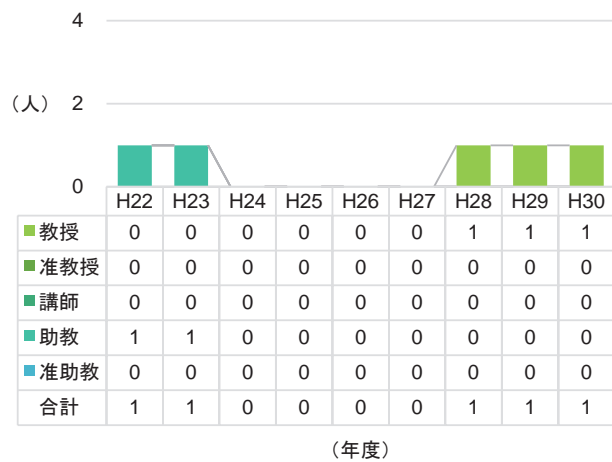
キャンパス計画室



環境安全衛生推進室



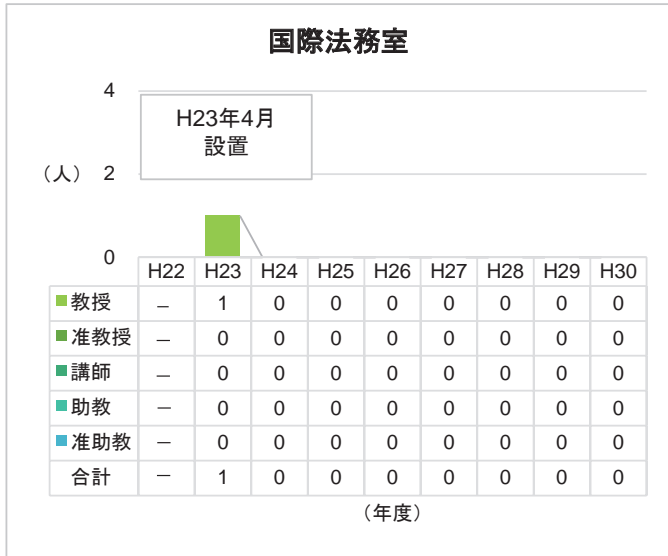
男女共同参画推進室



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。  
 ・特定有期教員は除く。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

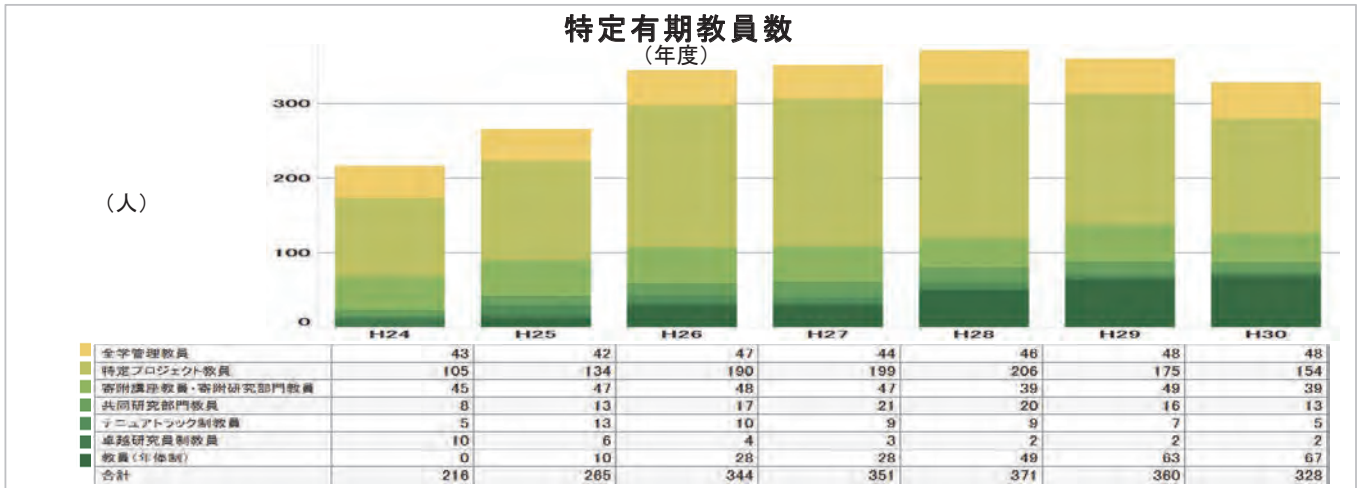


- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

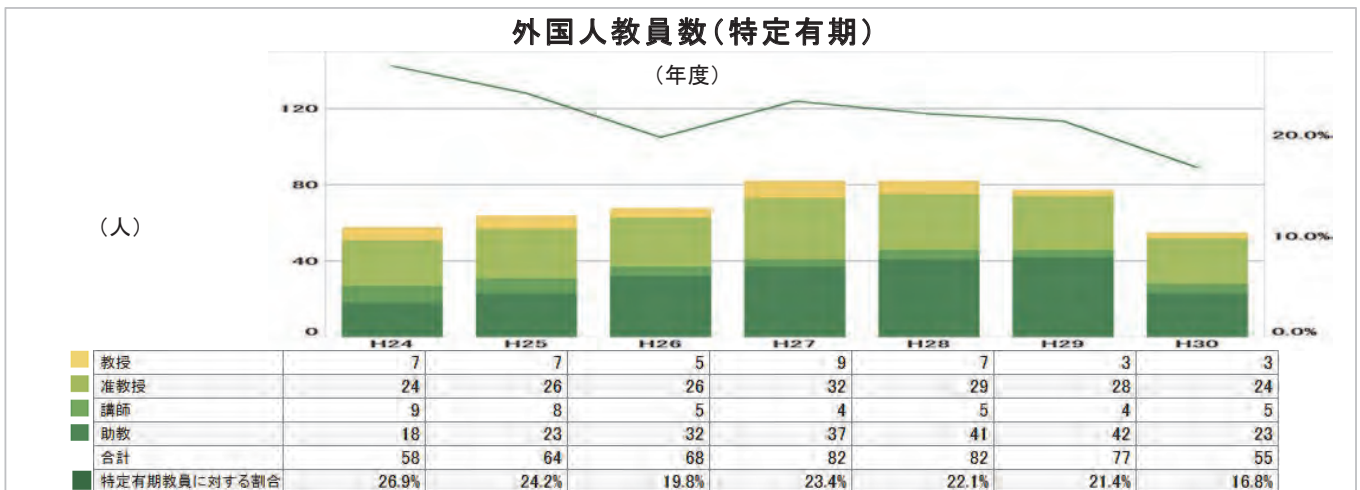
## 2-3. 特定有期教員数

### 2-3-1. 特定有期教員数(全体)



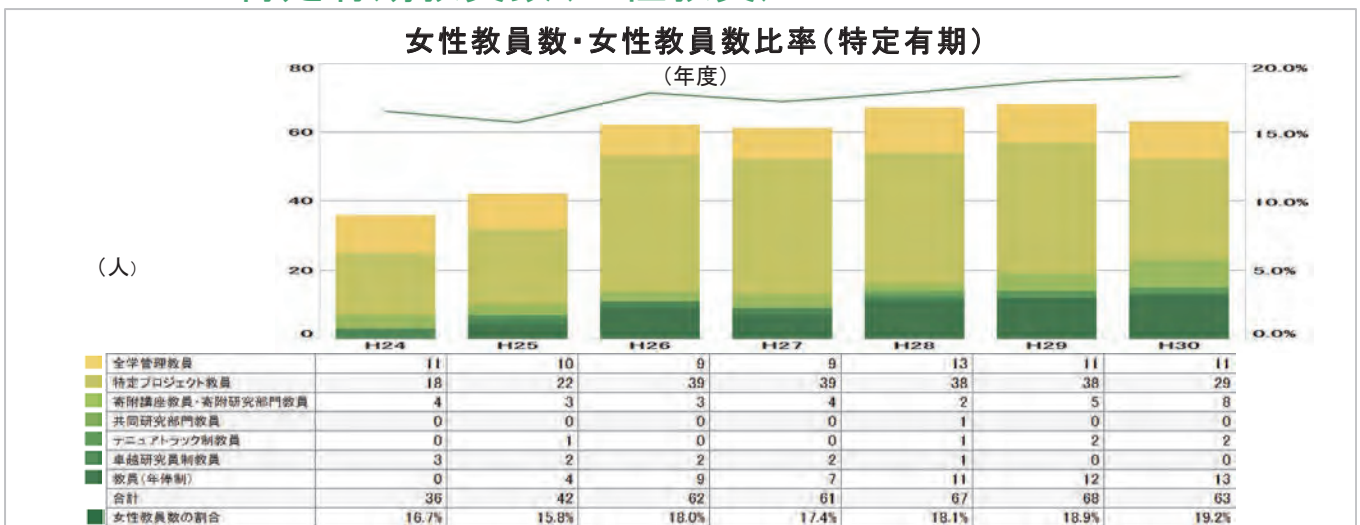
・休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
・再雇用職員を含む。

### 2-3-2. 特定有期教員数(外国人教員) ※2-3-1. 特定有期教員数(全体)の内数



・休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
・再雇用職員を含む。

### 2-3-3. 特定有期教員数(女性教員) ※2-3-1. 特定有期教員数(全体)の内数

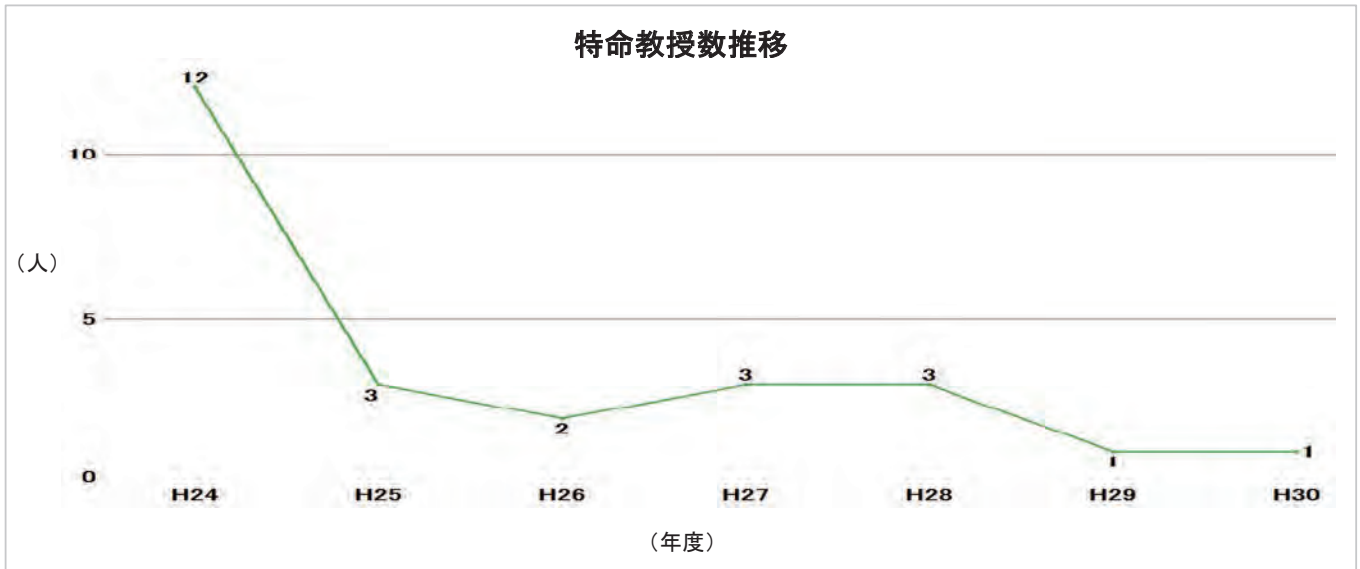


・休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
・再雇用職員を含む。

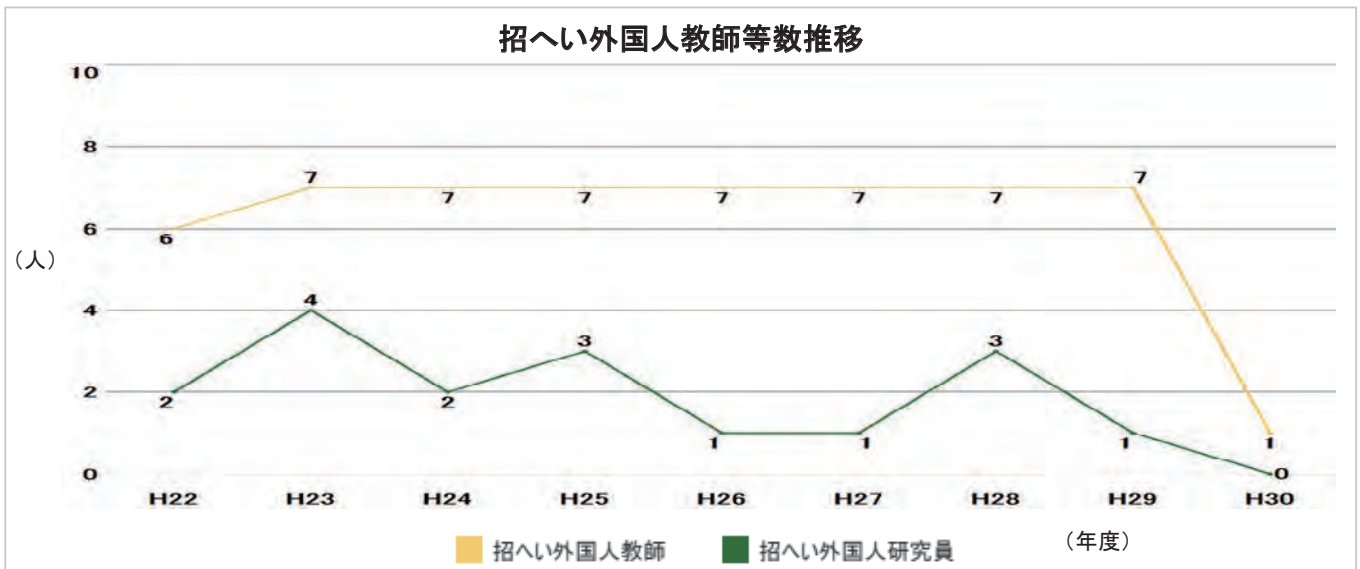
※出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）



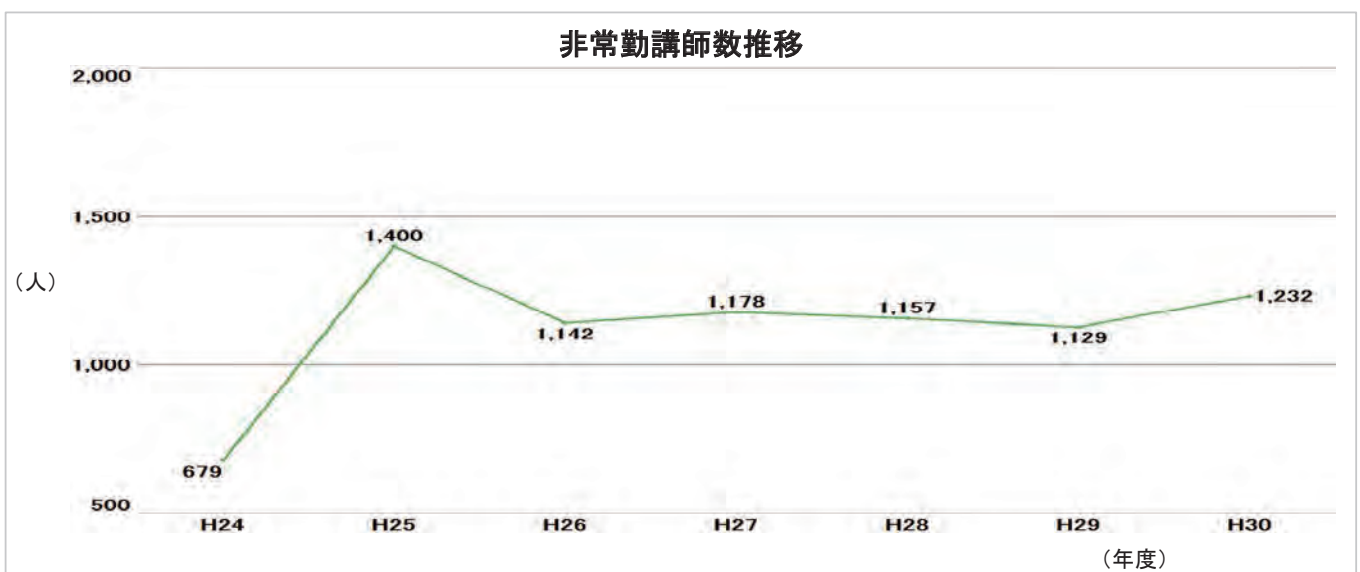
## 2-4. 特命教授数



## 2-5. 招へい外国人教師等数



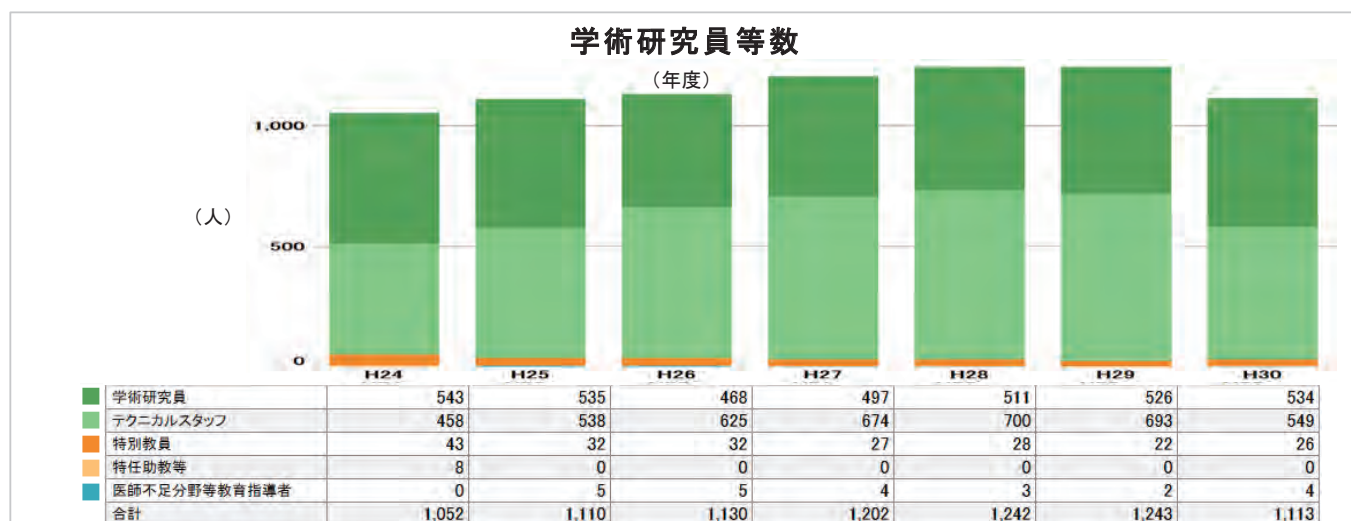
## 2-6. 非常勤講師数



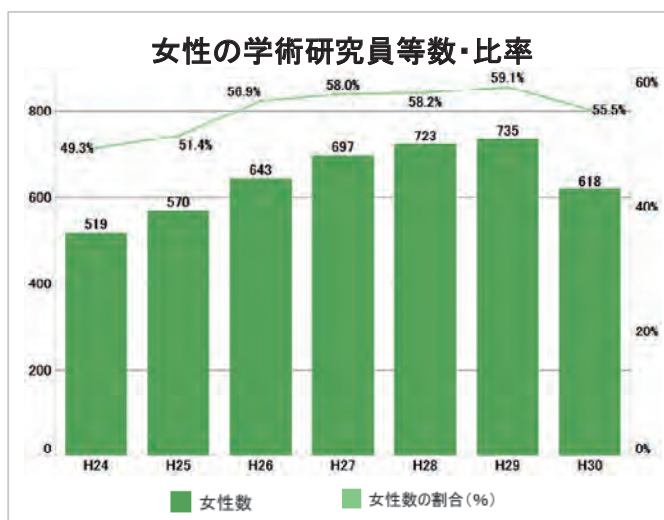
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 2-7. 学術研究員等数

### 2-7-1. 学術研究員等数(全体)

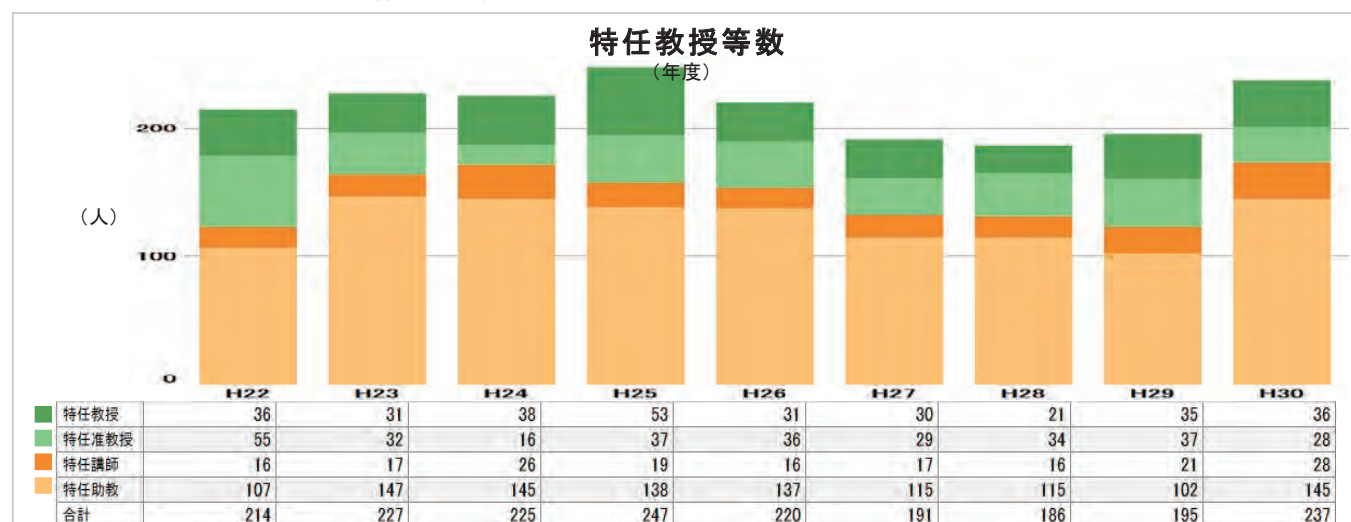


### 2-7-2. 学術研究員等数(外国籍及び女性数)



・学術研究員等の内数。

### 2-7-3. 特任教授等数



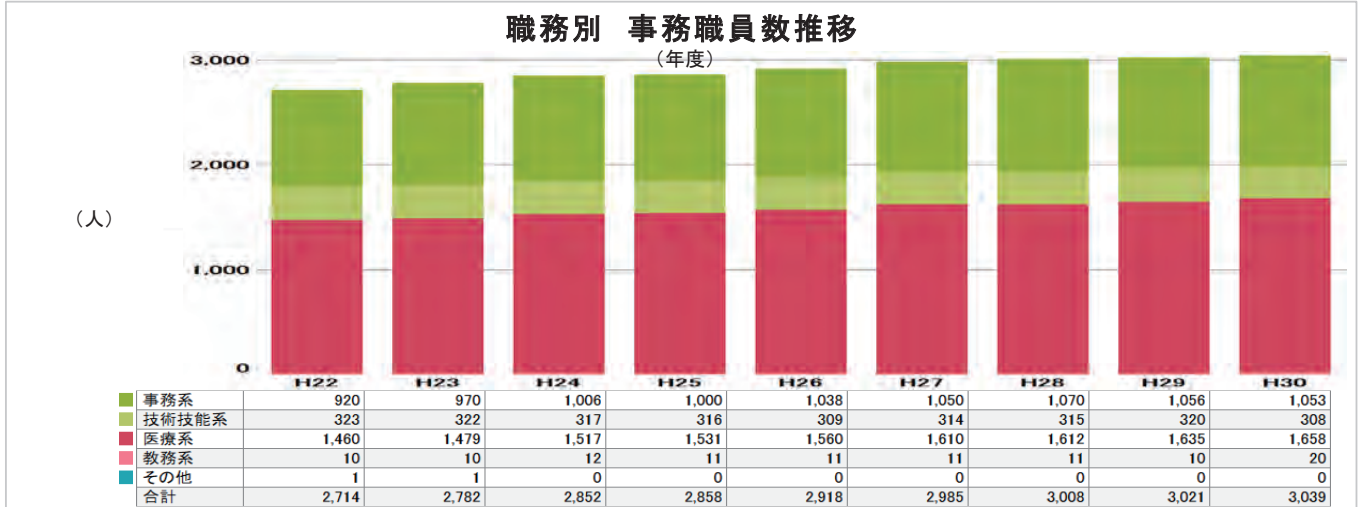
・学術研究員等の内数。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 2-8. 事務職員・技術職員等数

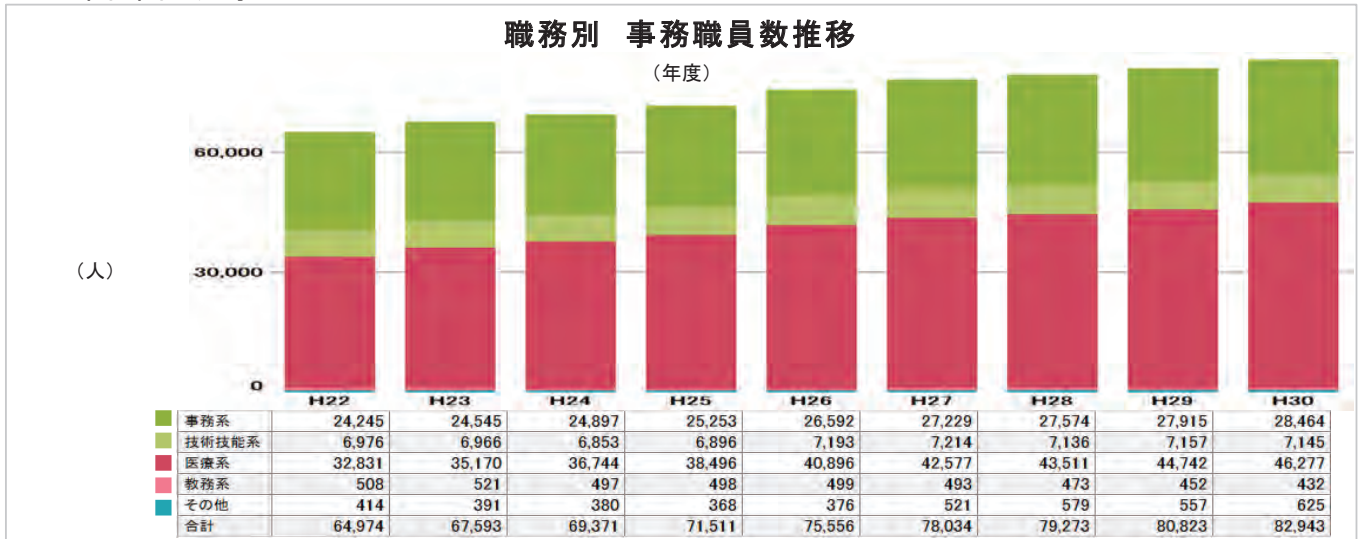
### 2-8-1. 事務職員・技術職員等数(全体)

◆九州大学◆



※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

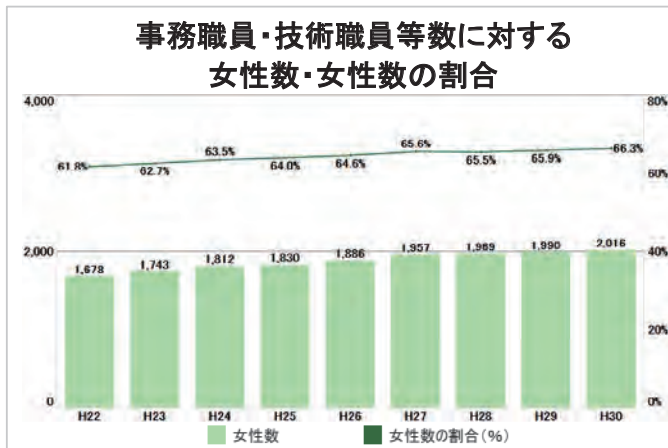
◆全国 国立大学◆



※出典:文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職務別職員数」

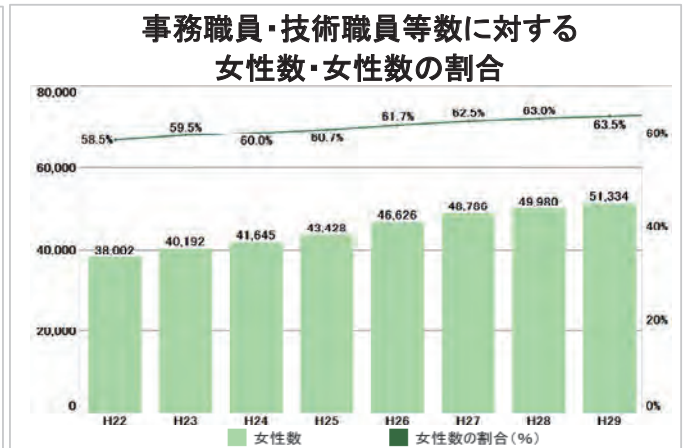
### 2-8-2. 事務職員・技術職員等数(女性数及び女性比率)

◆九州大学◆



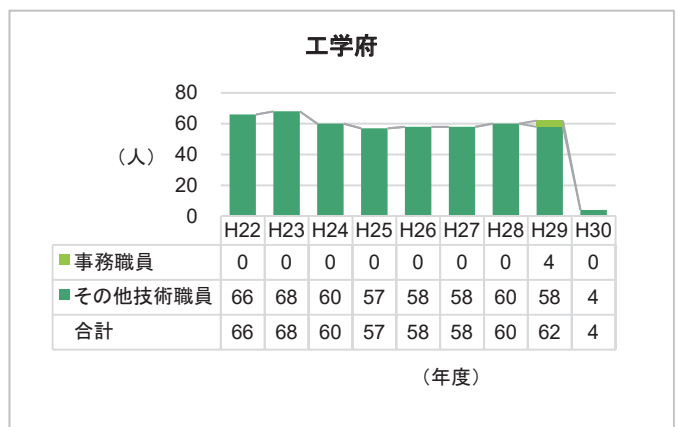
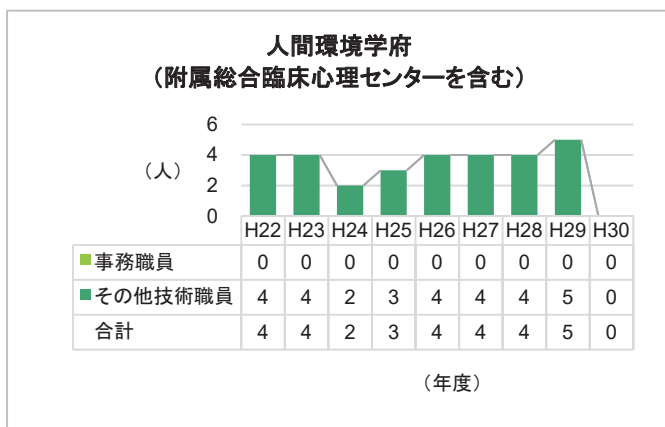
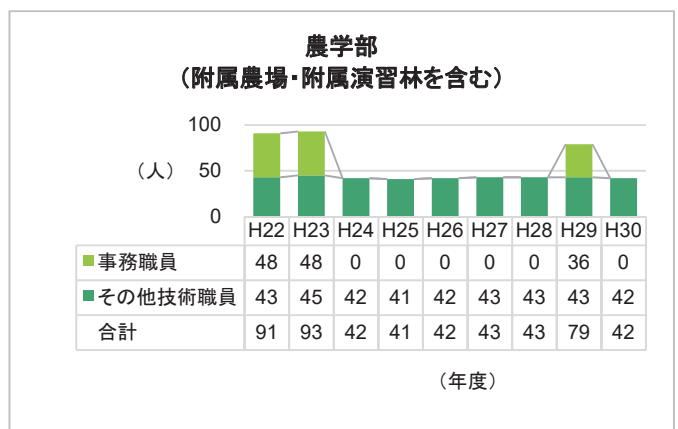
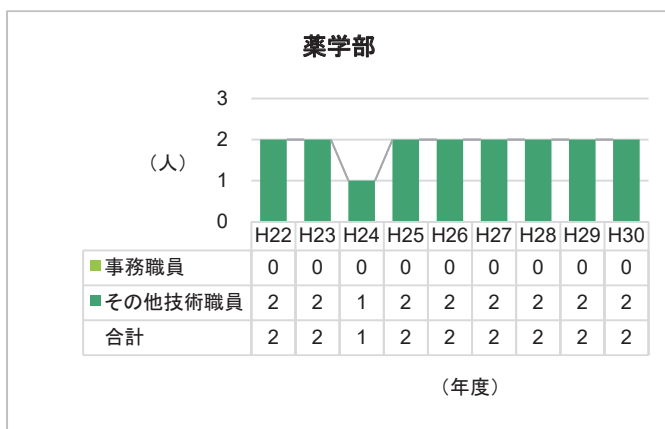
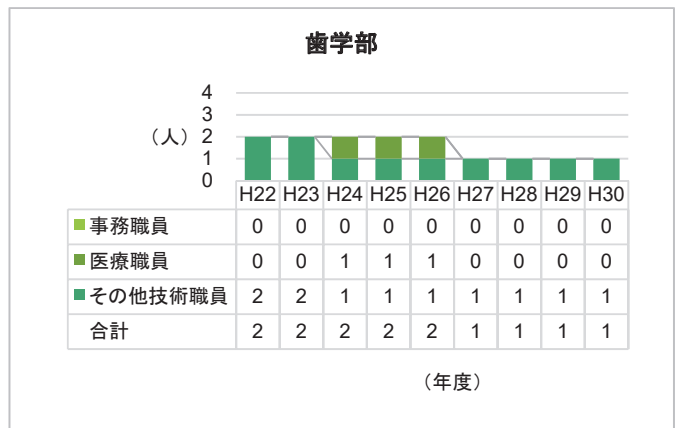
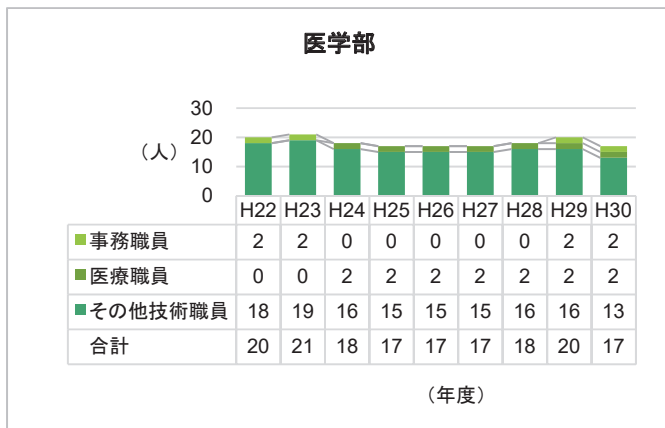
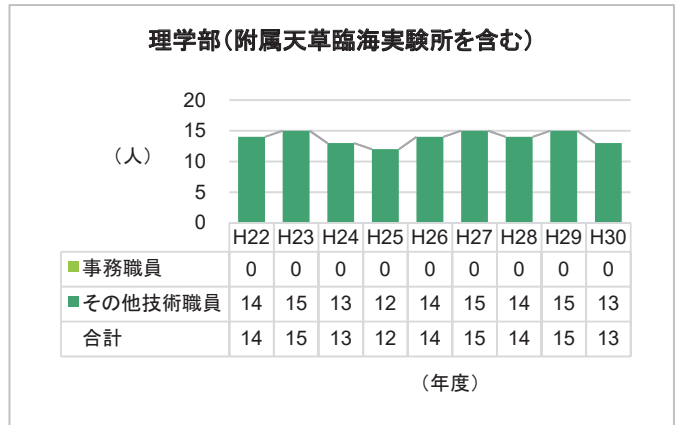
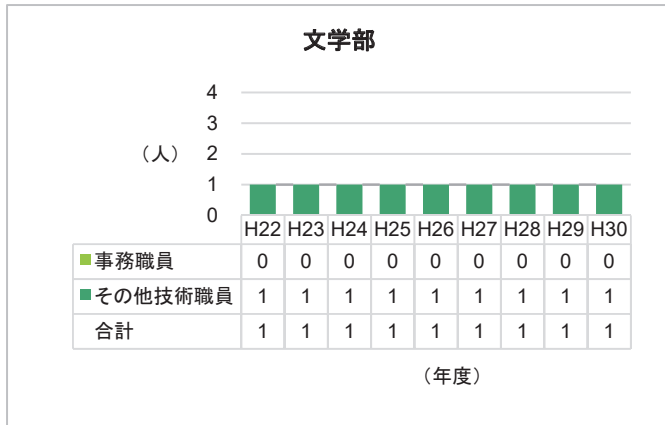
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国立大学◆



※出典:文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職務別職員数」

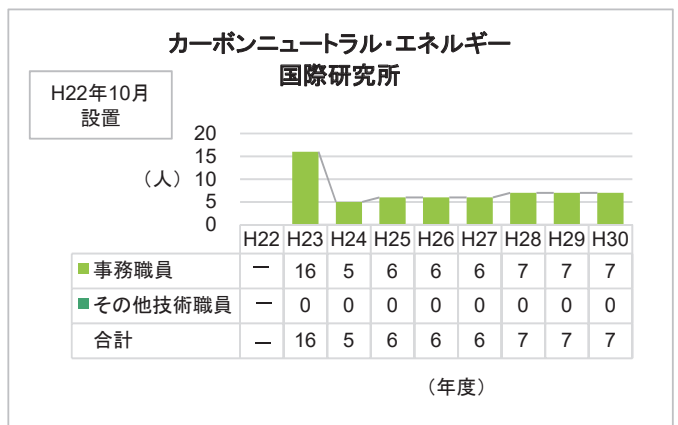
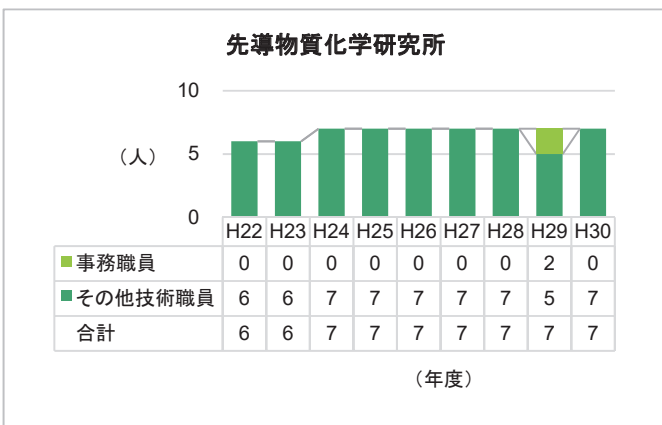
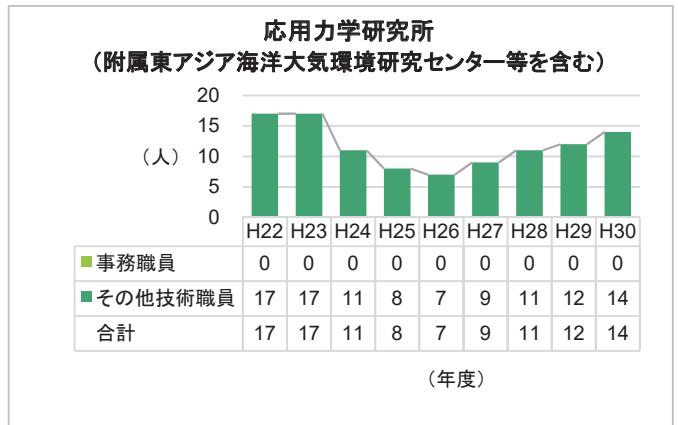
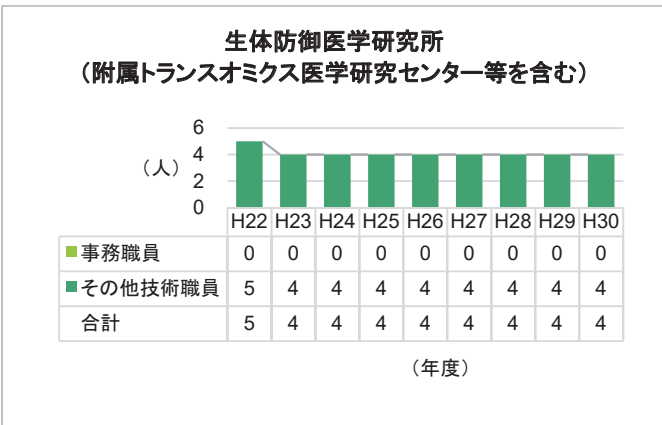
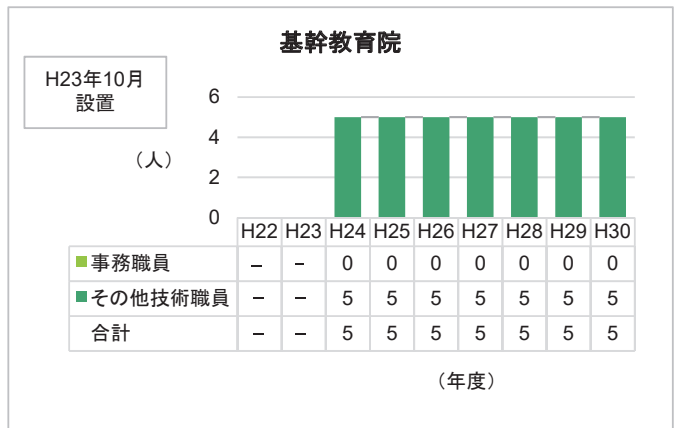
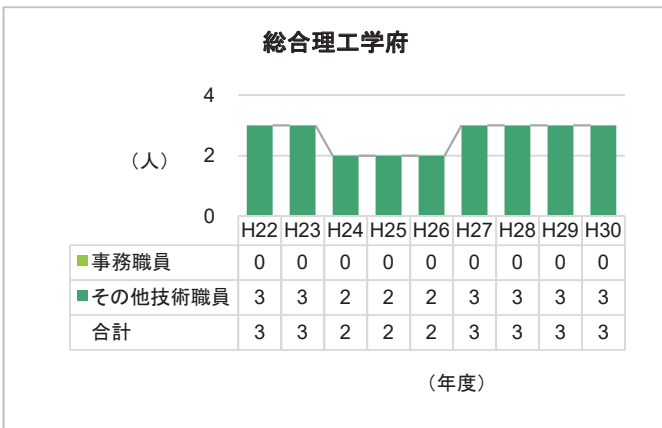
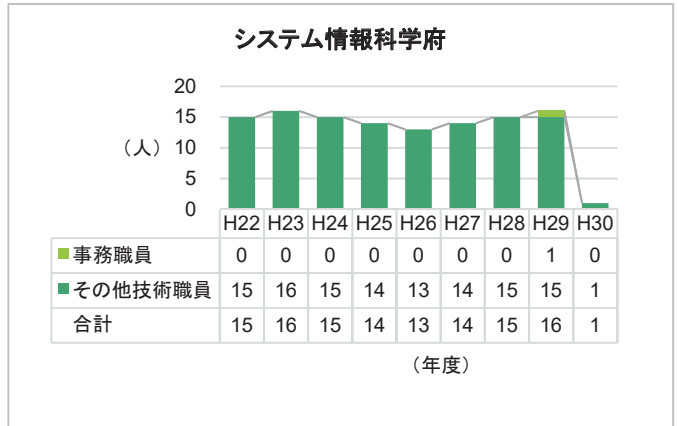
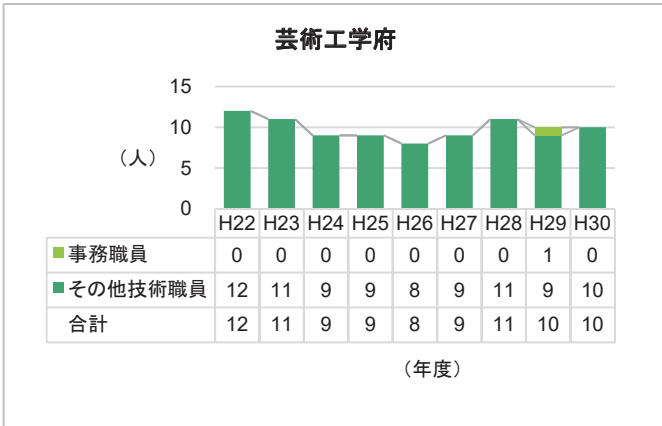
## 2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。  
 ・医療職員はH24年度から別枠でカウント開始したため、H23年度以前は値なし。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

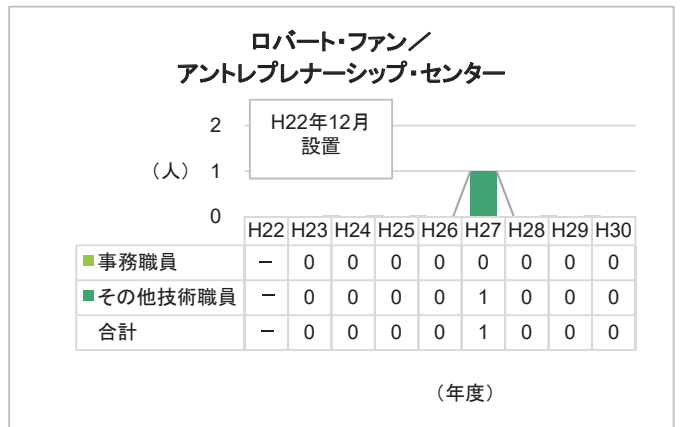
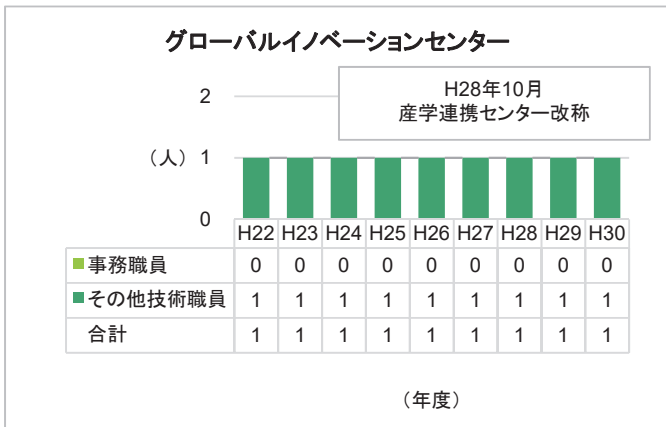
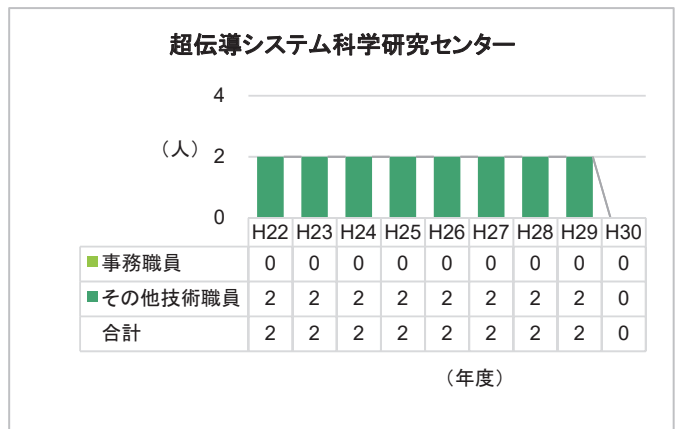
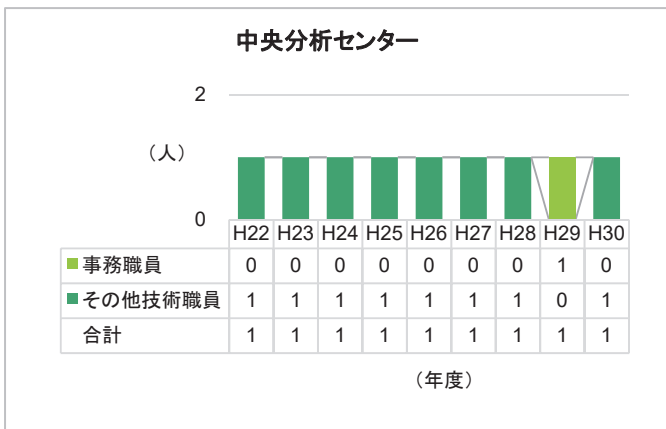
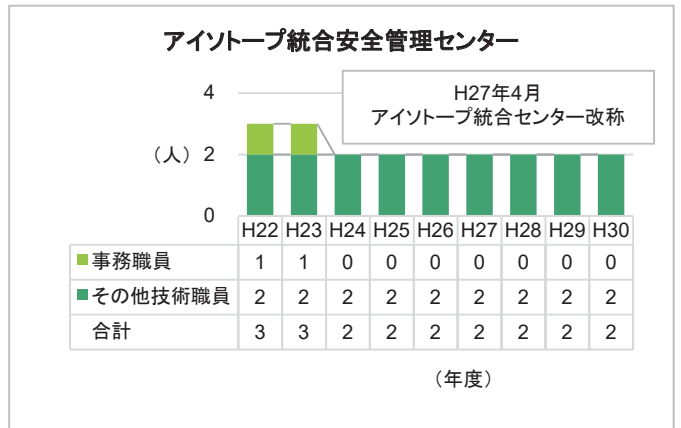
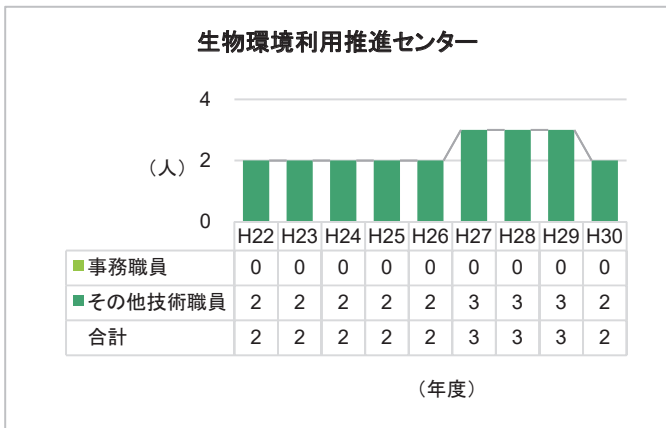
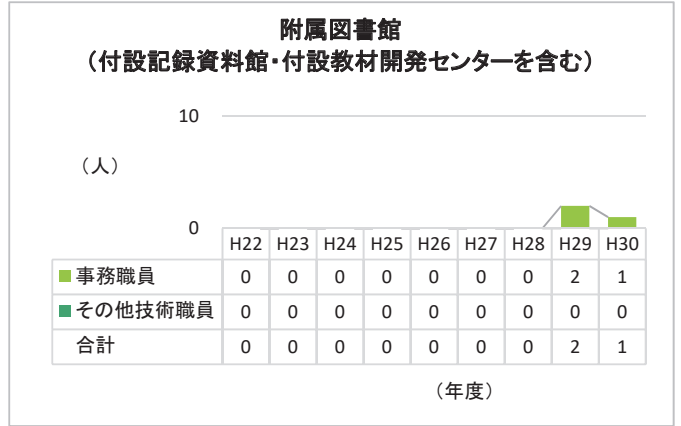
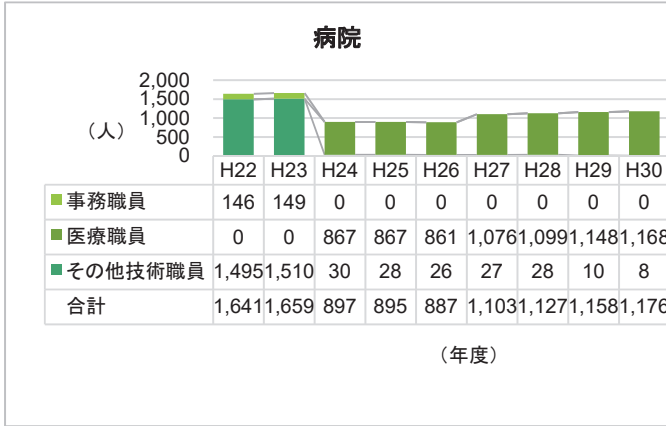
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

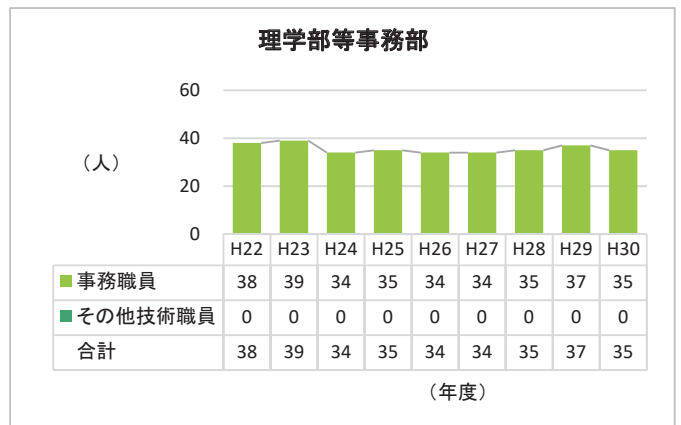
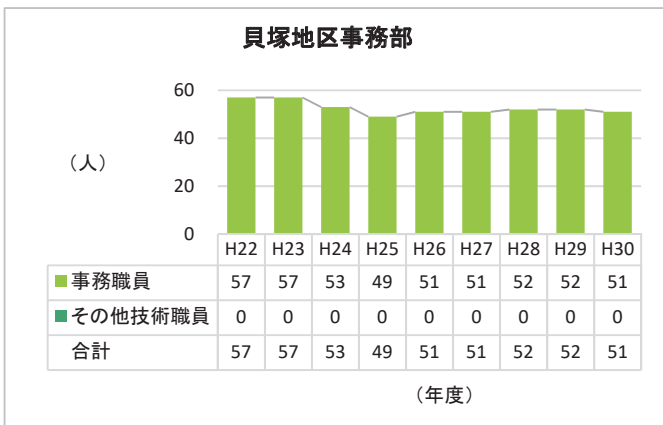
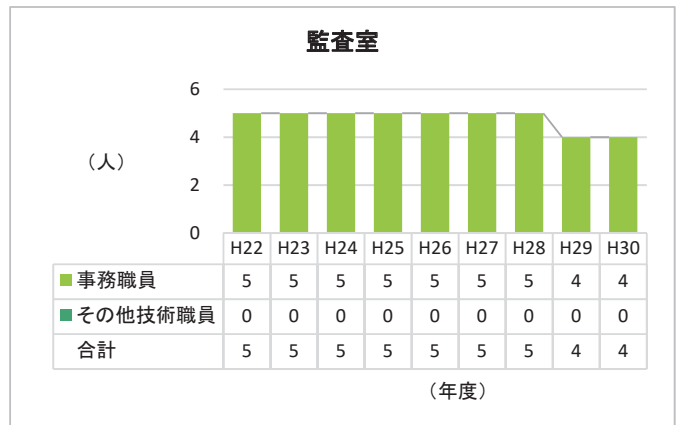
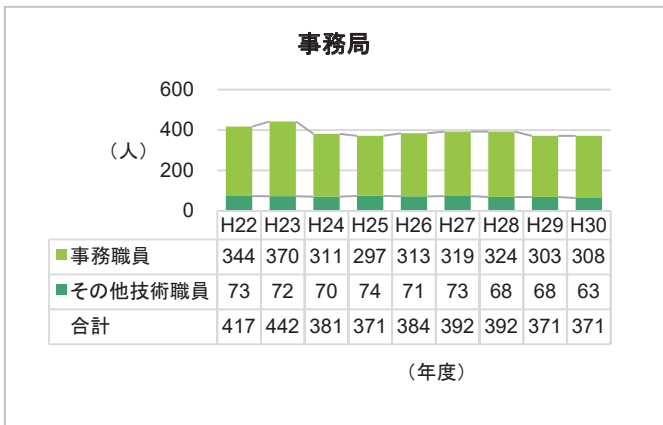
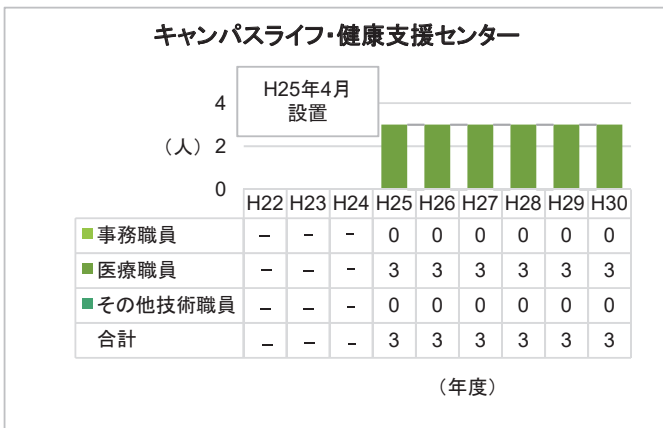
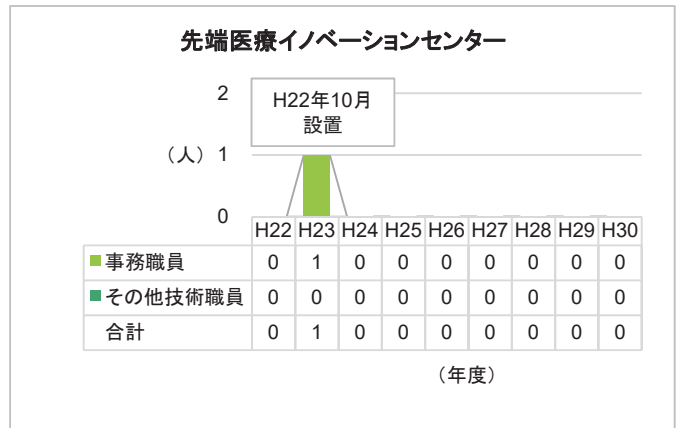
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。  
 ・医療職員はH24年度から別枠でカウント開始したため、H23年度以前は値なし。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

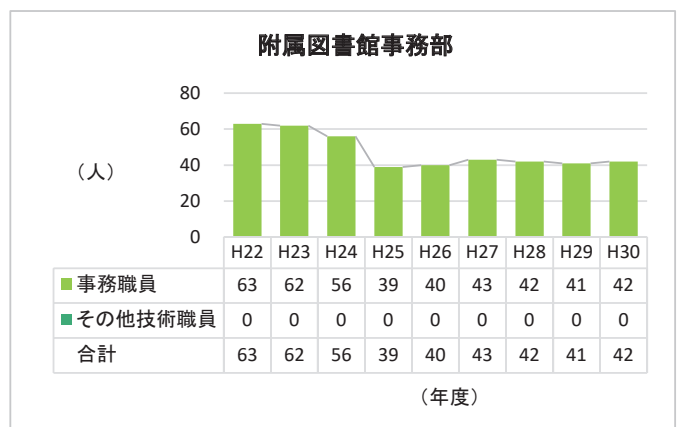
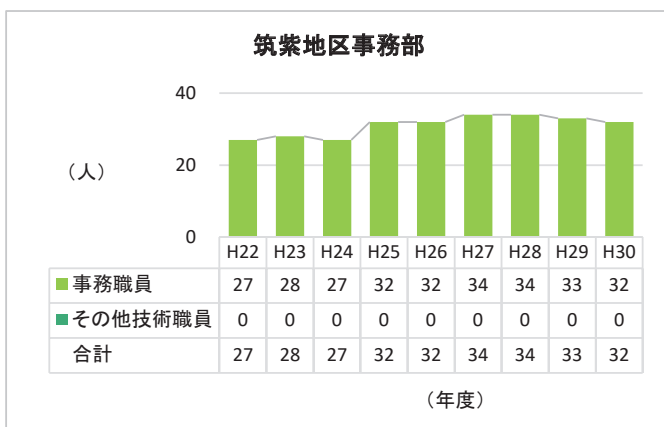
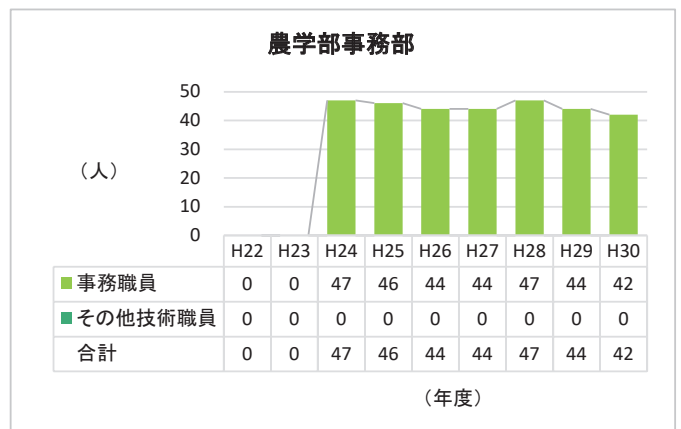
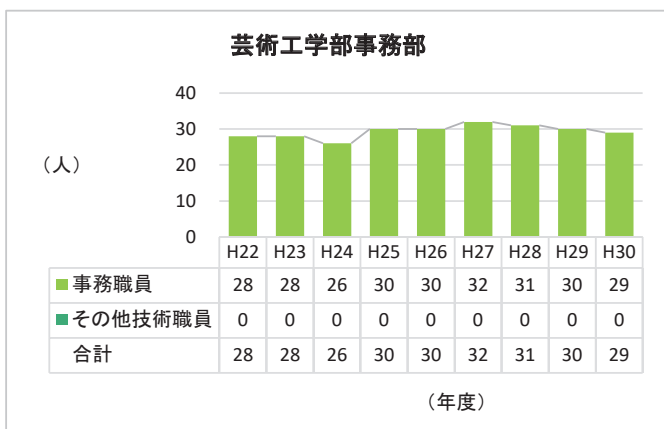
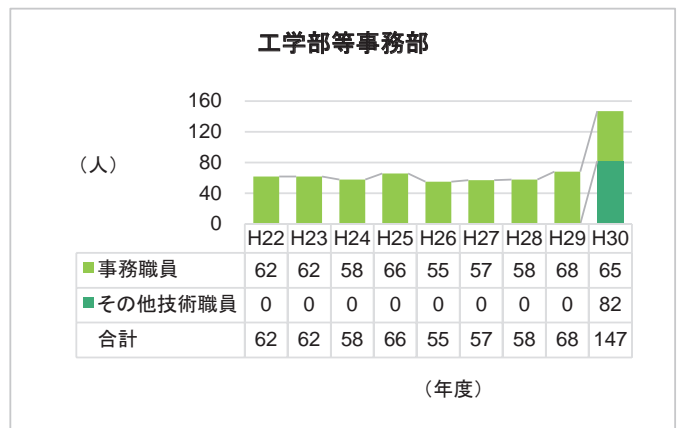
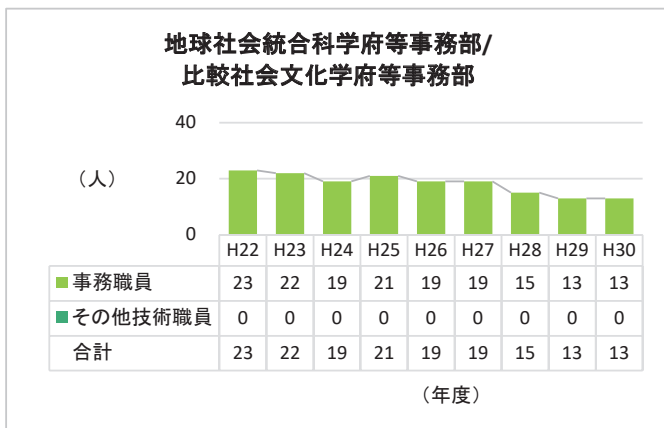
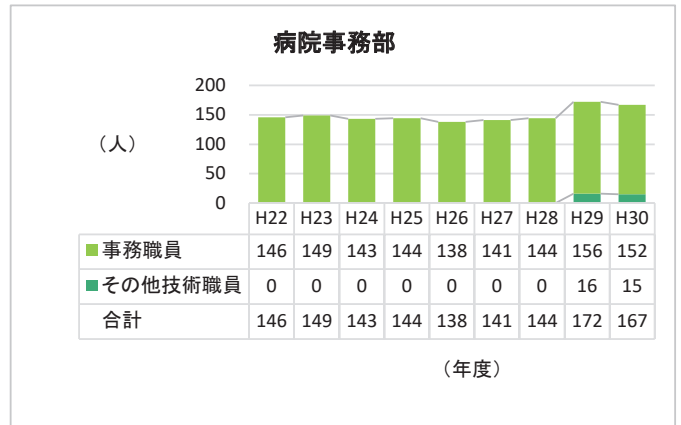
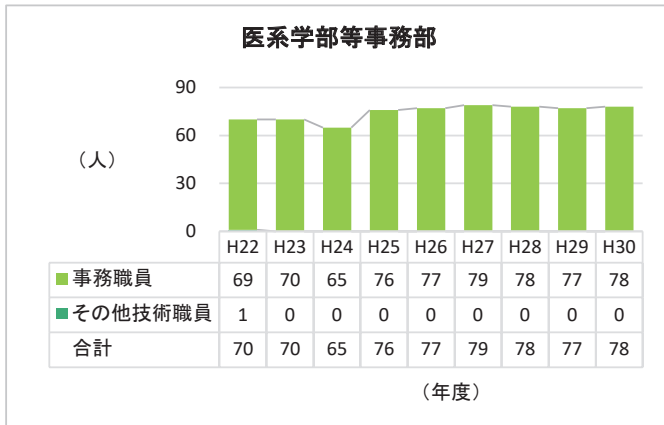
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。  
 ・医療職員はH24年度から別枠でカウント開始したため、H23年度以前は値なし。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)

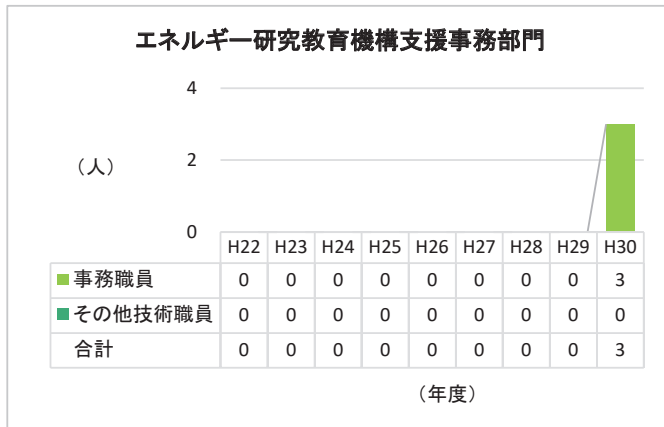


・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。  
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)



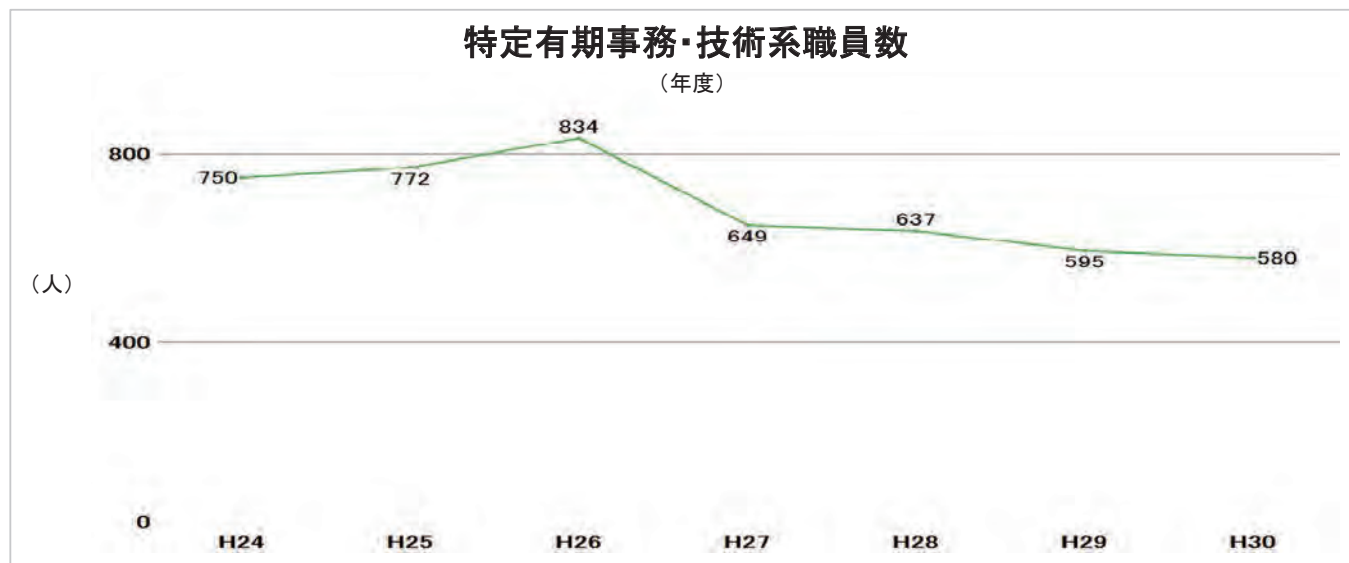
## 2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



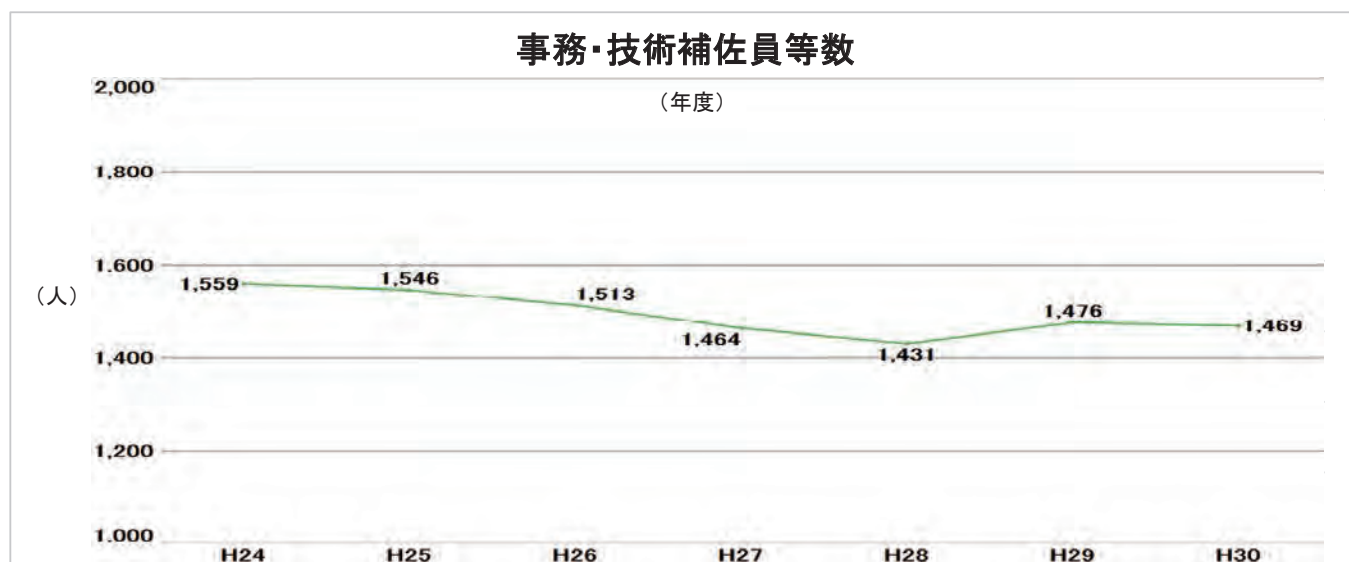
- ・H22～H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

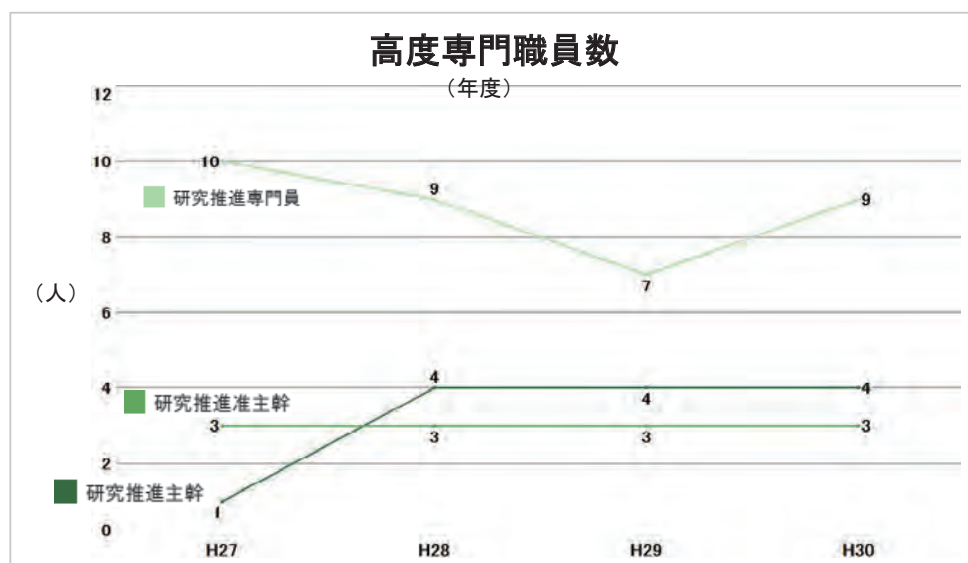
## 2-9. 特定有期事務・技術系職員数



## 2-10. 事務・技術補佐員等数



## 2-11. 高度専門職員数(※1)



(※1)高度専門職員  
教員、事務職員とは異なり、教育、研究等の管理・運営等に関わる専門的知識を有する人材として、その専門性から経営・運営に直接的に関与できる職能集団。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

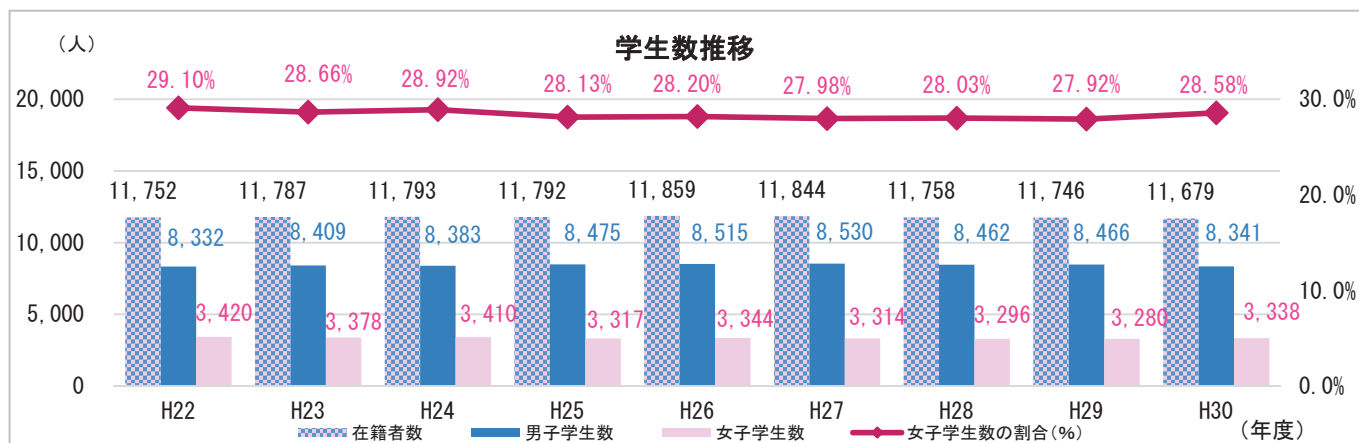
### 3. 学生数 (各年度5月1日現在)

#### 3-1. 学士課程

##### 3-1-1. 学部(全体)

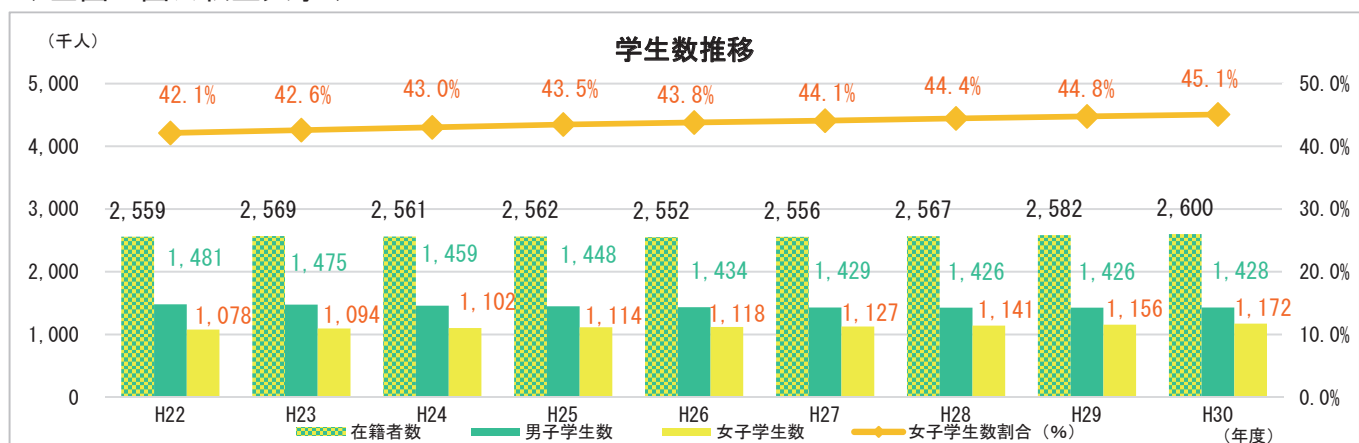
全国的にみると、在籍者数の大幅な増減は見られないが、女子学生数割合が年々増加傾向にある。本学では全国と比較すると女子学生数の割合が大きく下回っている。

#### ◆九州大学◆

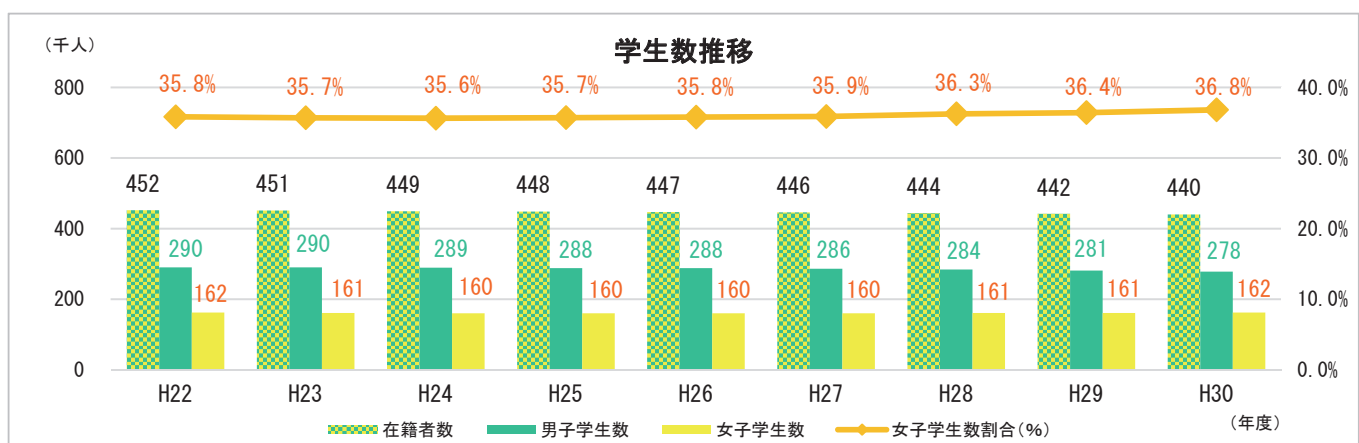


※学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

#### ◆全国 国公立大学◆

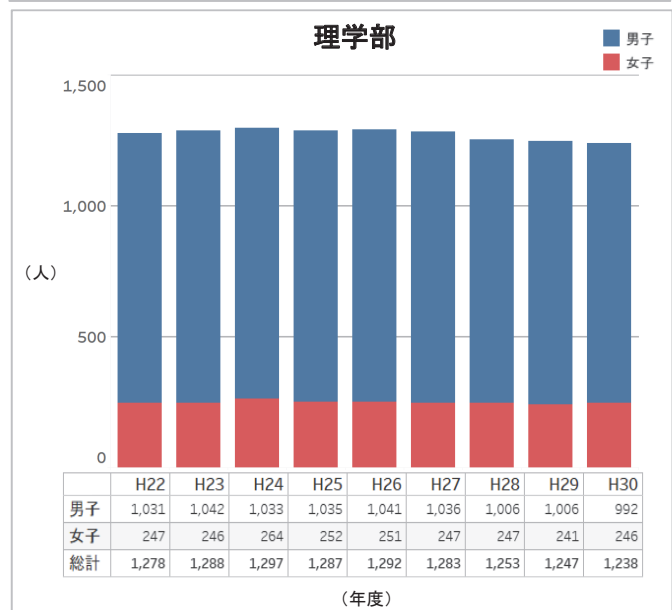
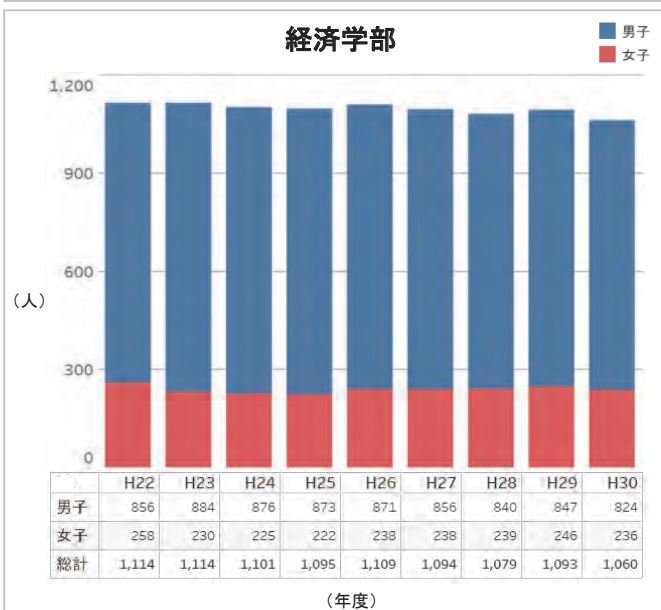
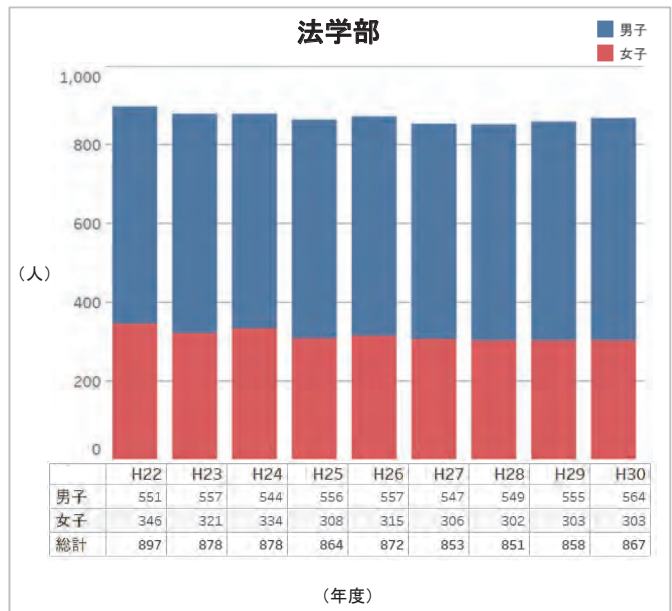
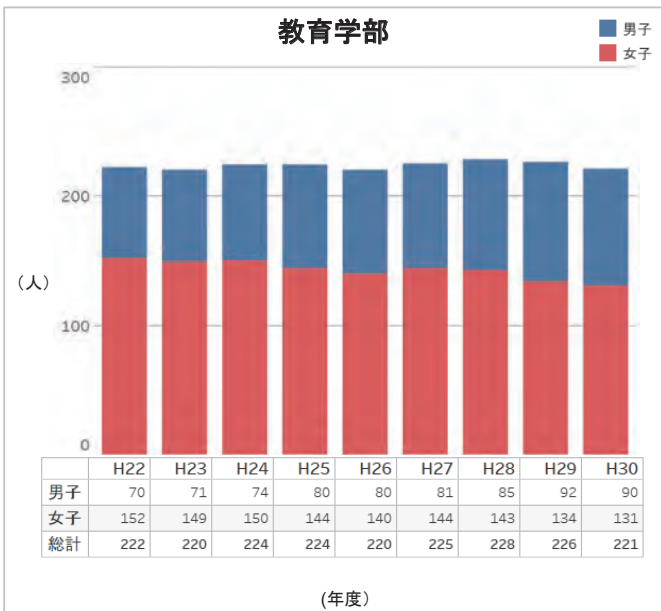
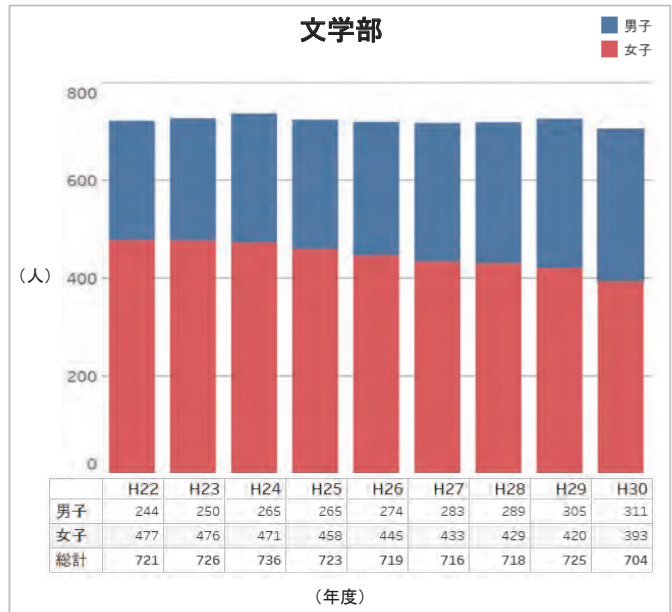
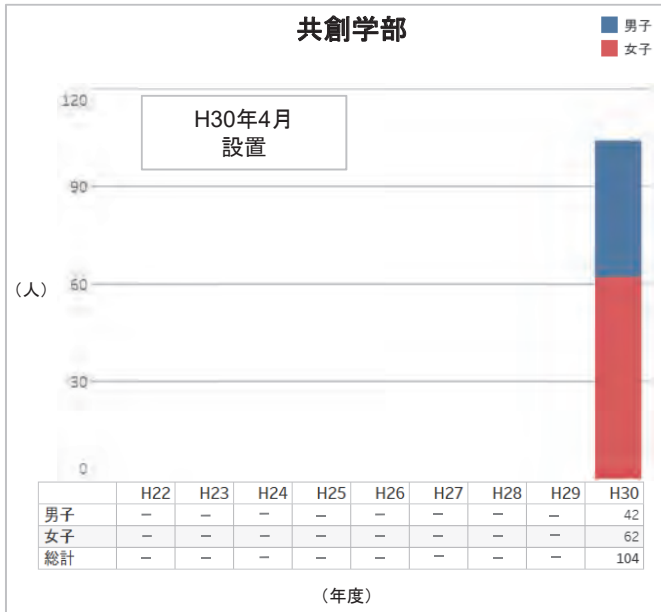


#### ◆全国 国立大学◆



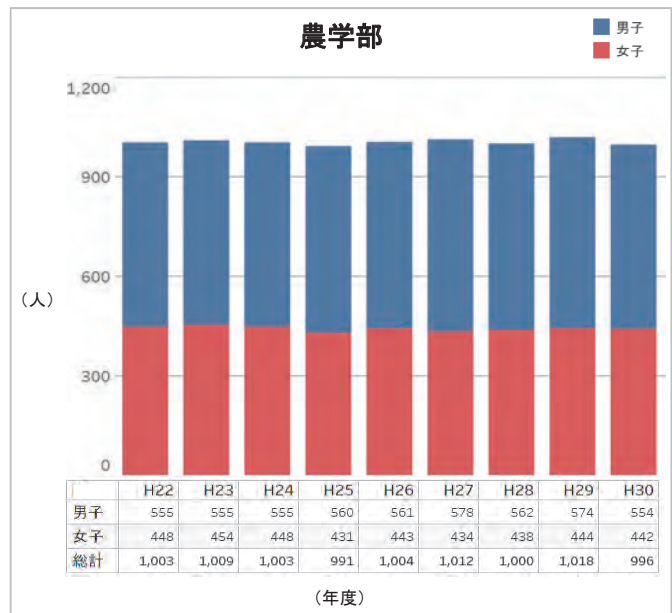
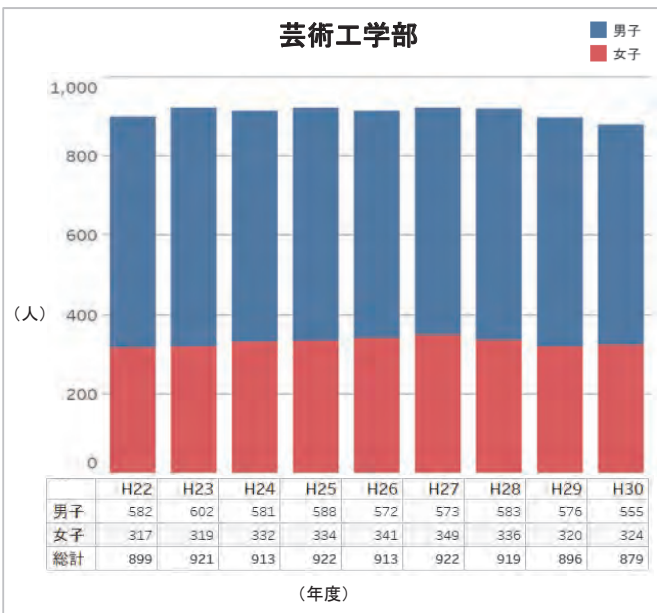
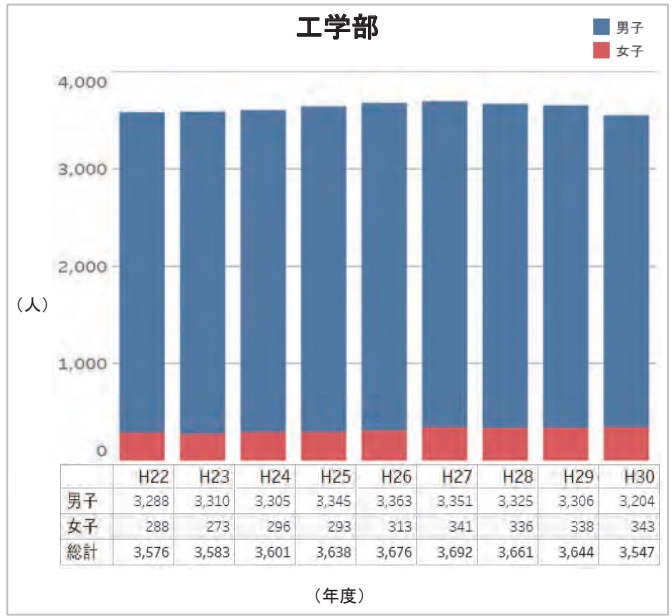
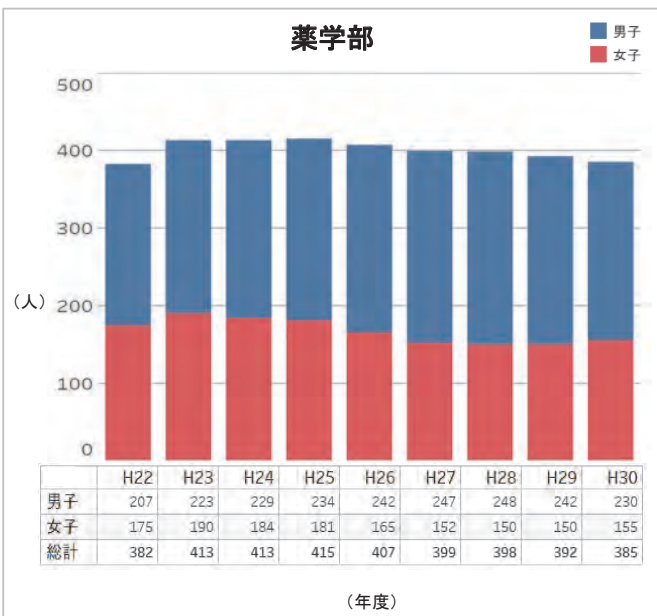
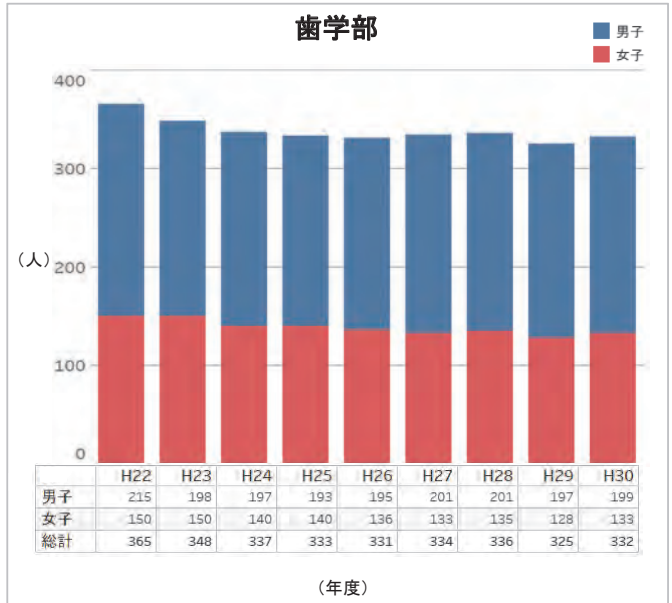
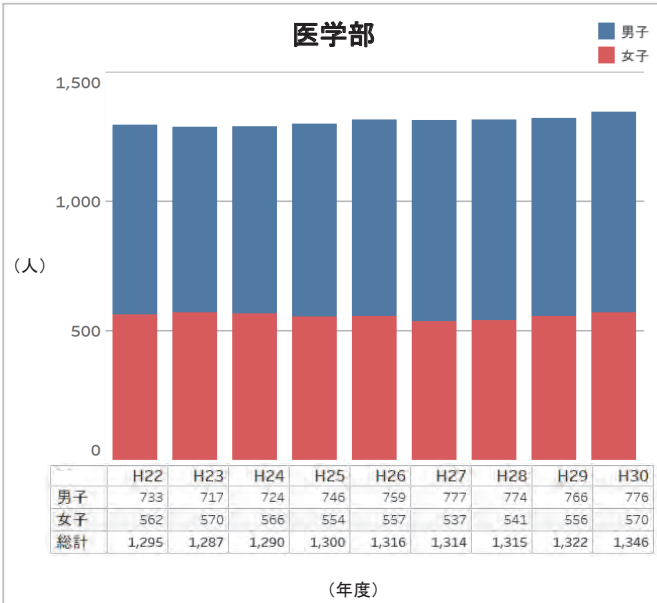
※出典  
 ・本学：九州大学概要(各年度5月1日現在)  
 ・全国：文部科学省 文部科学統計要覧

### 3-1-2. 学部(学部別・在籍学生数)



※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-1-2. 学部(学部別・在籍学生数)(つづき)



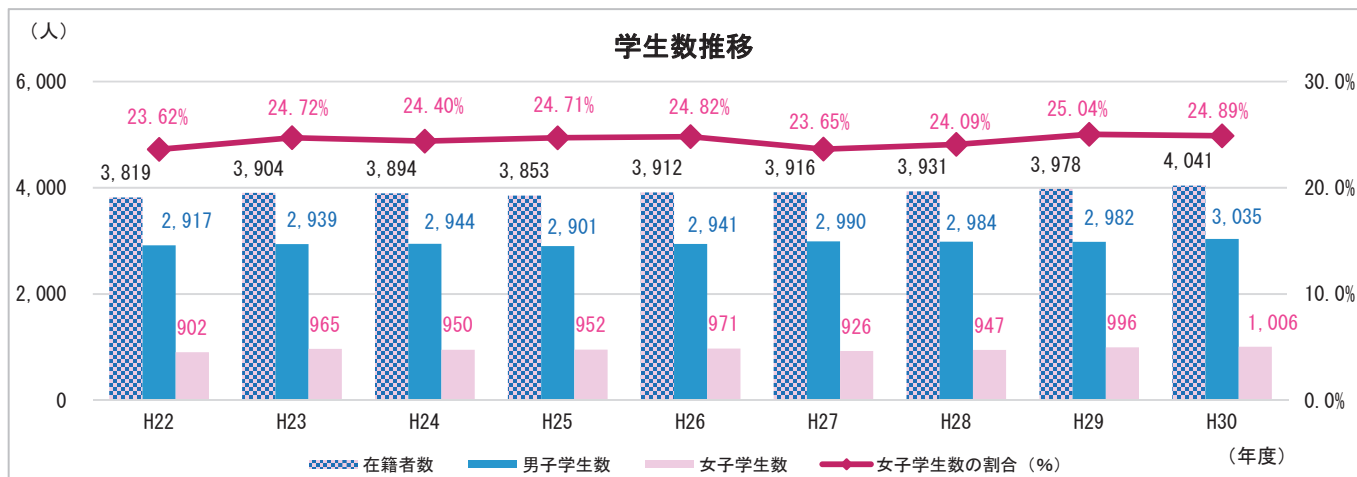
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 3-2. 修士課程

### 3-2-1. 修士課程(全体)

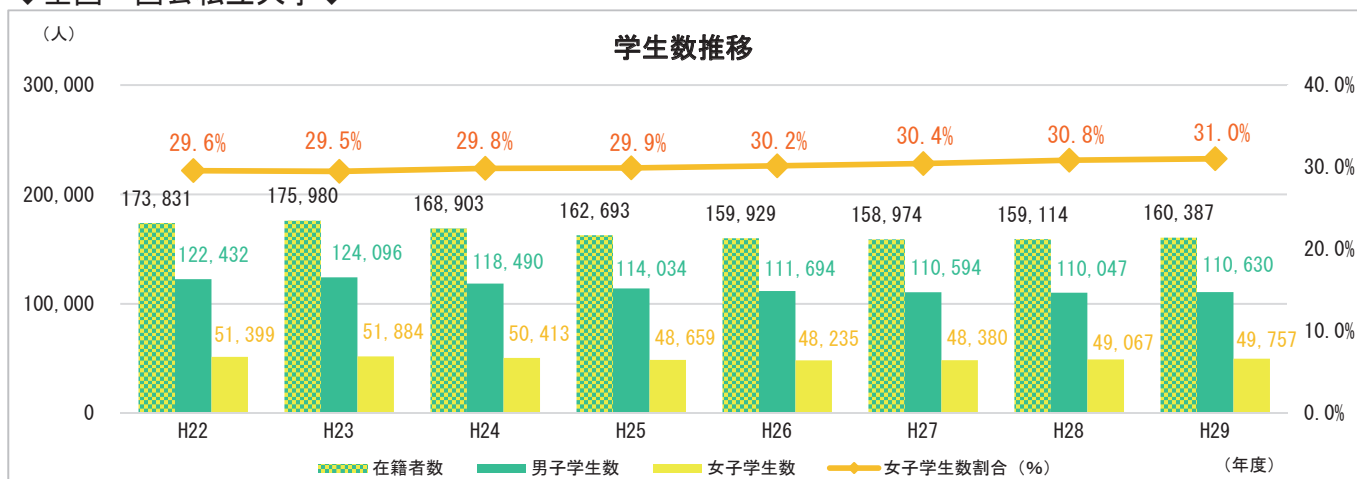
全国的にみると、在籍者数は減少傾向にあるが、女子学生の割合が年々増加傾向にある。  
 本学では在籍者数が増加傾向にあるが、女子学生数の割合は横ばい傾向にある。

#### ◆九州大学◆

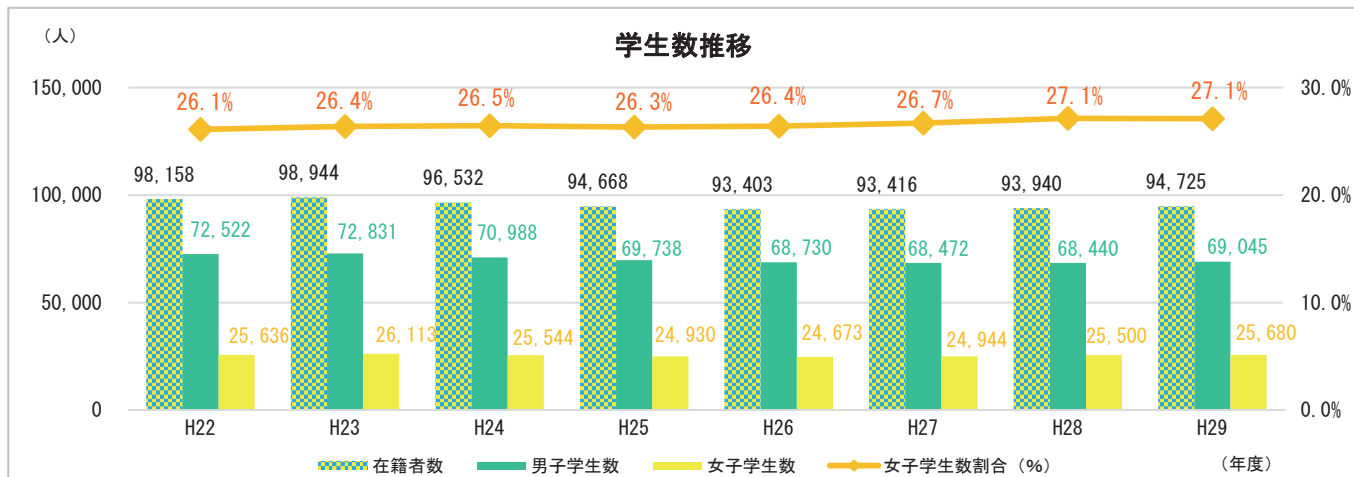


※学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

#### ◆全国 国公立大学◆



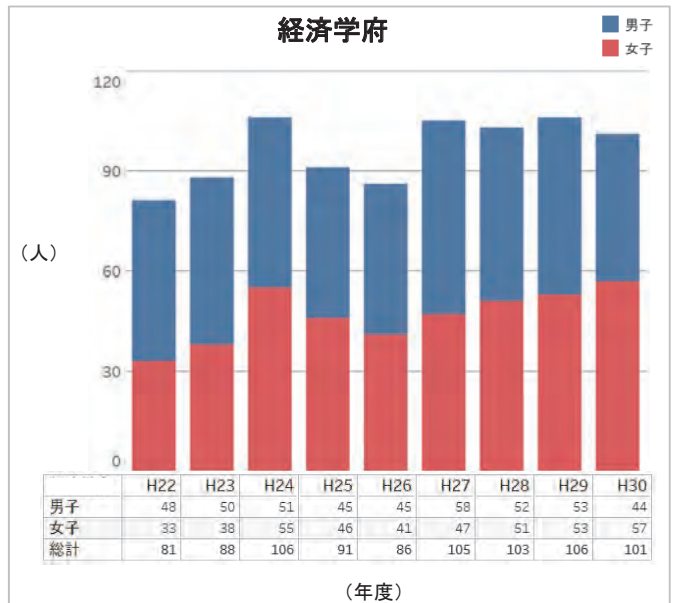
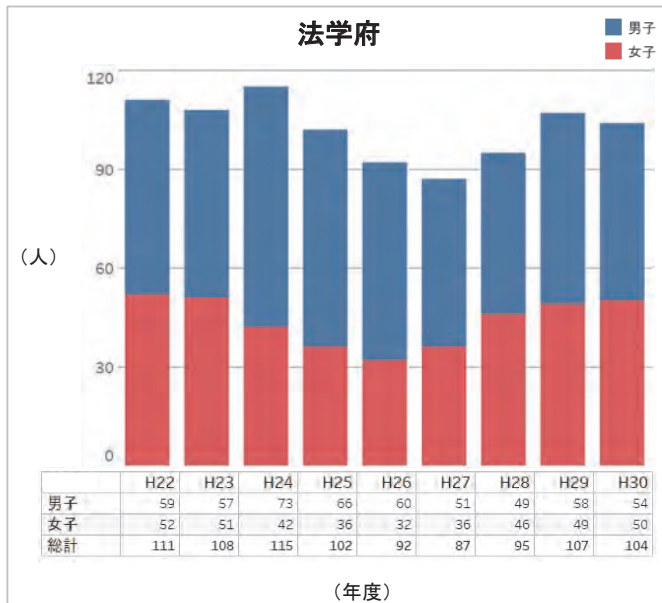
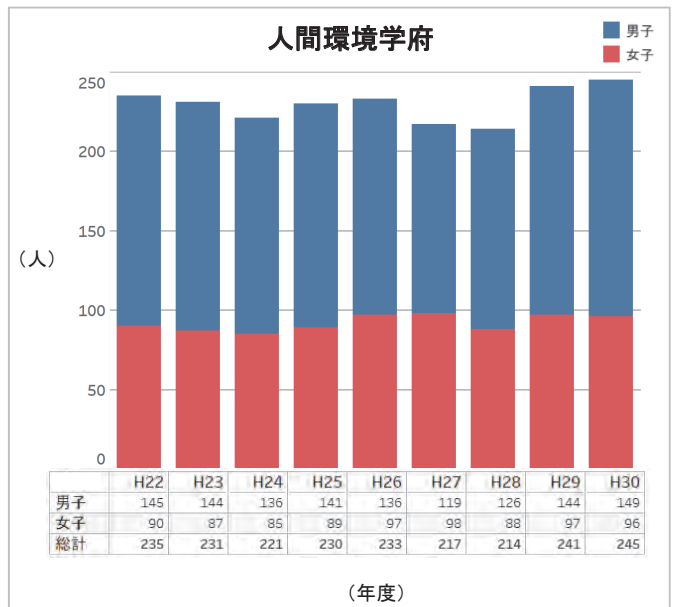
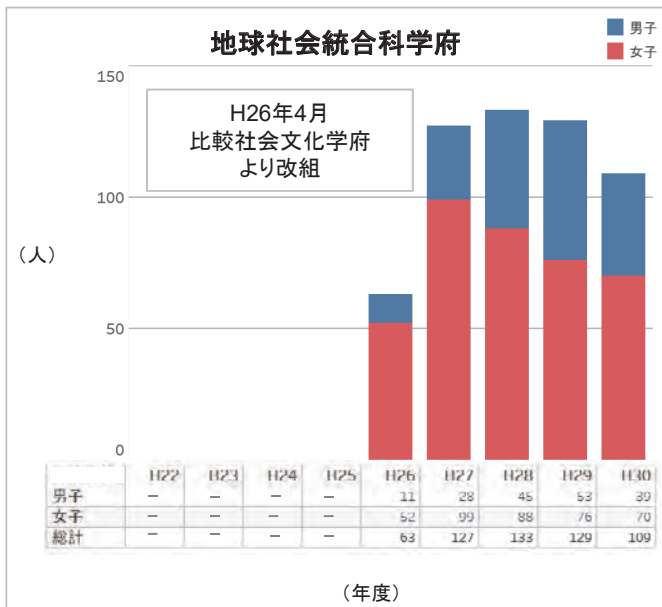
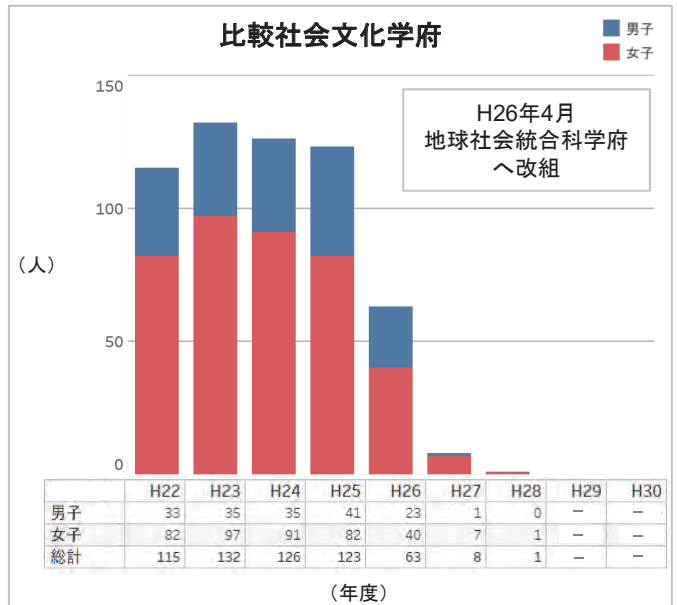
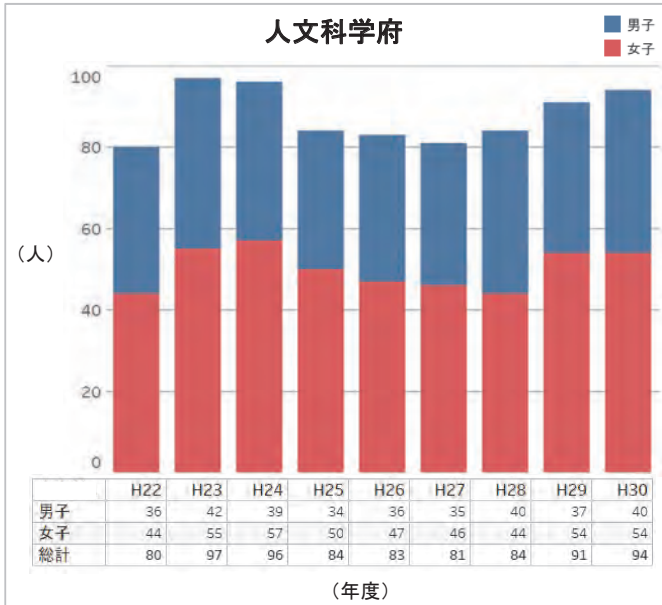
#### ◆全国 国立大学◆



※出典

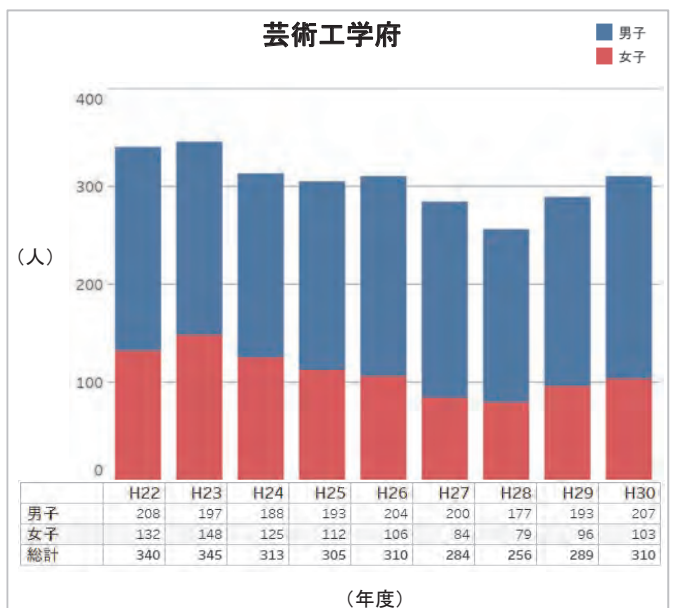
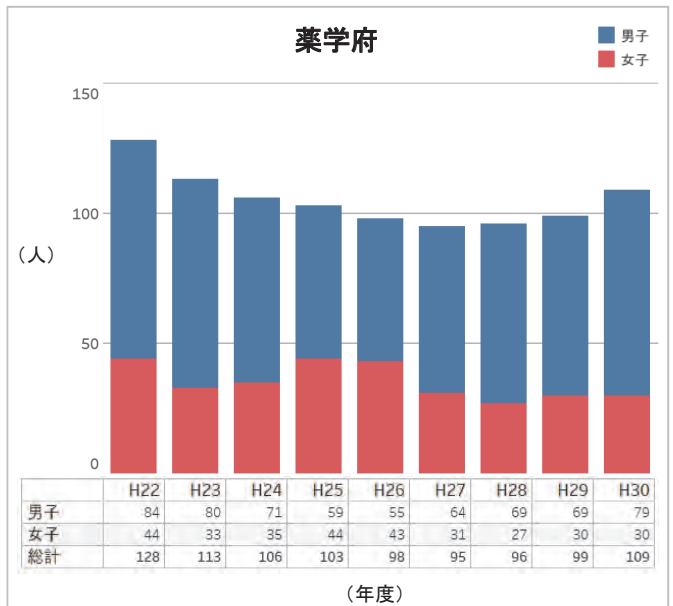
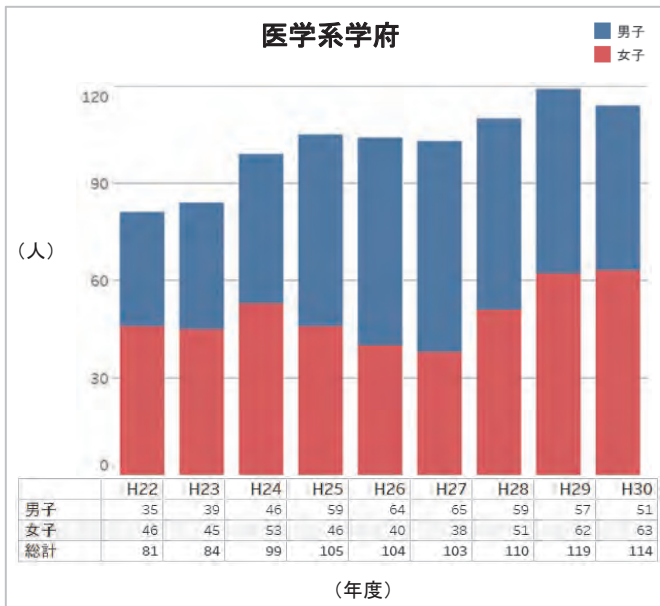
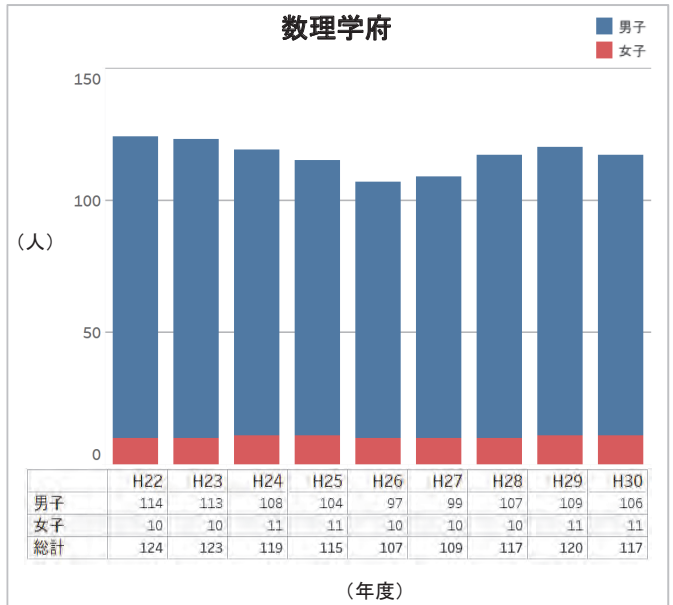
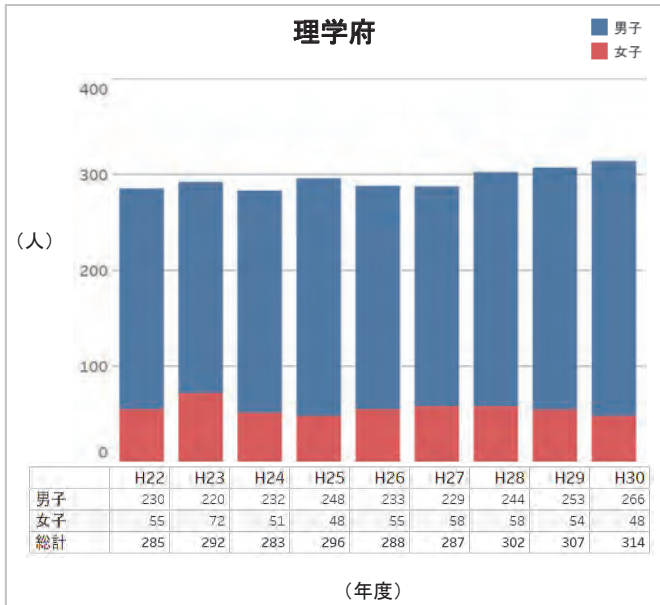
- ・本学:九州大学概要(各年度5月1日現在)
- ・全国:文部科学省 文部科学統計要覧

### 3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)



※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

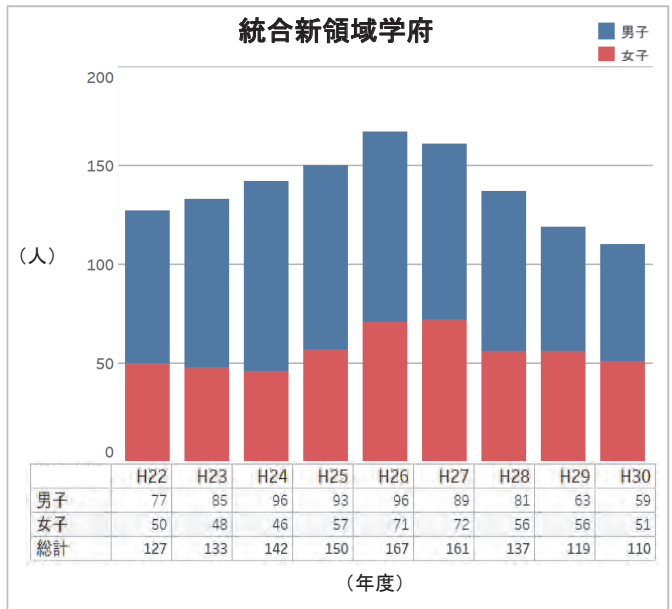
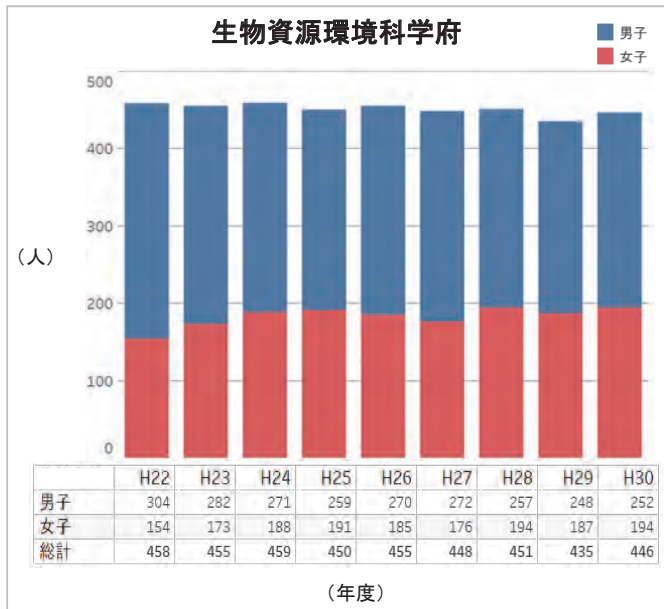
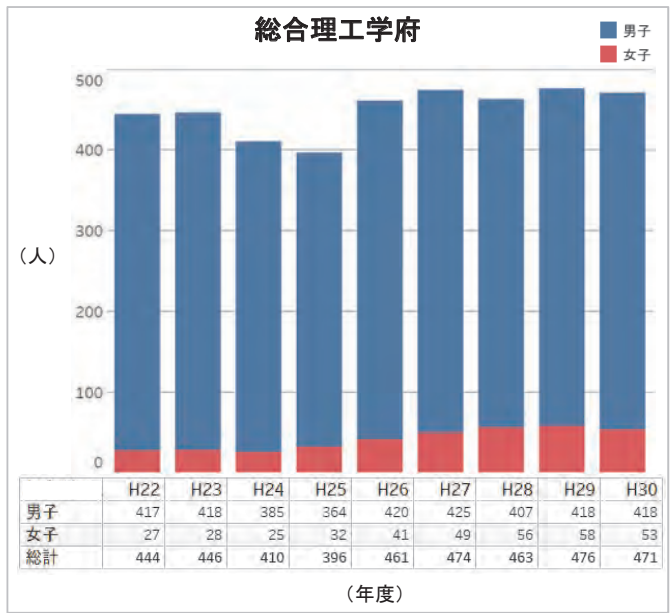
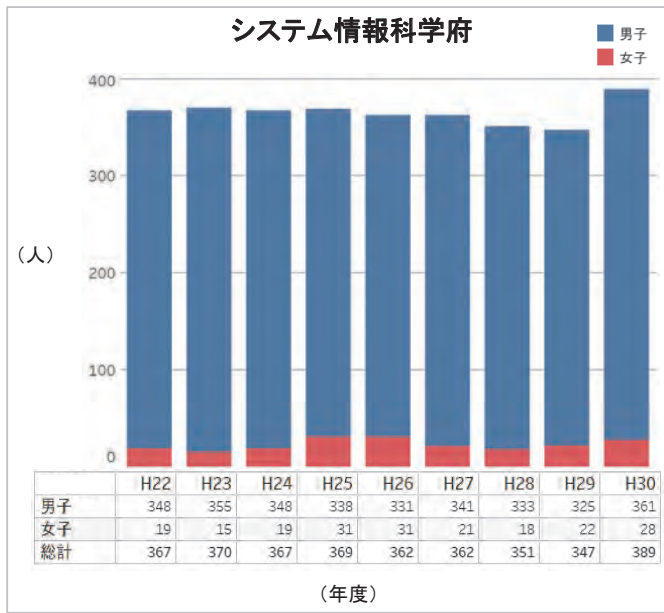
3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)



3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



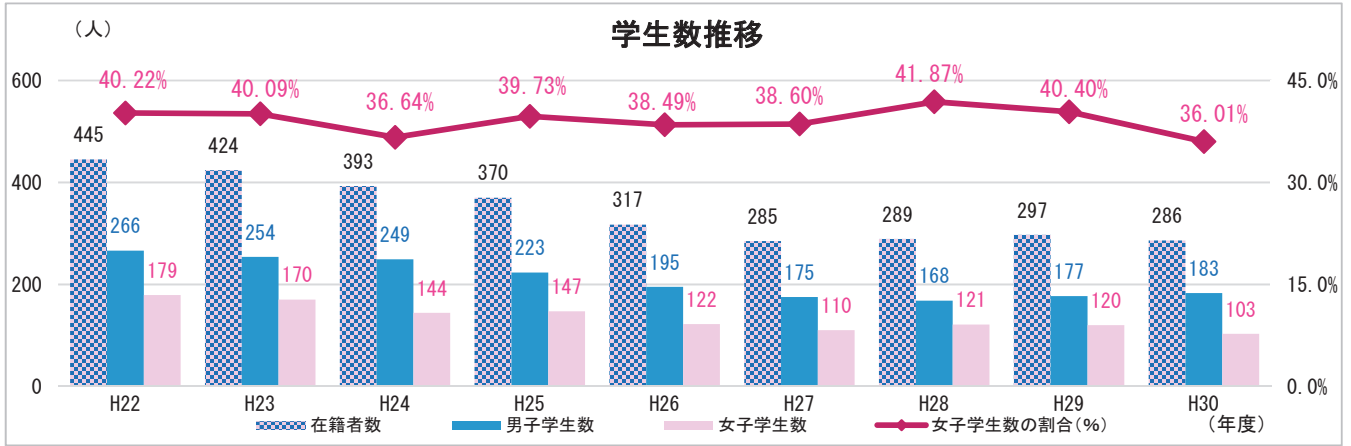
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

### 3-3. 専門職学位課程

#### 3-3-1. 専門職学位課程(全体)

全国的にみると、在籍者数は減少傾向にあるが、女子学生の割合が年々増加傾向である。  
 本学は、全国と比べて女子学生数の割合の割合が高い。

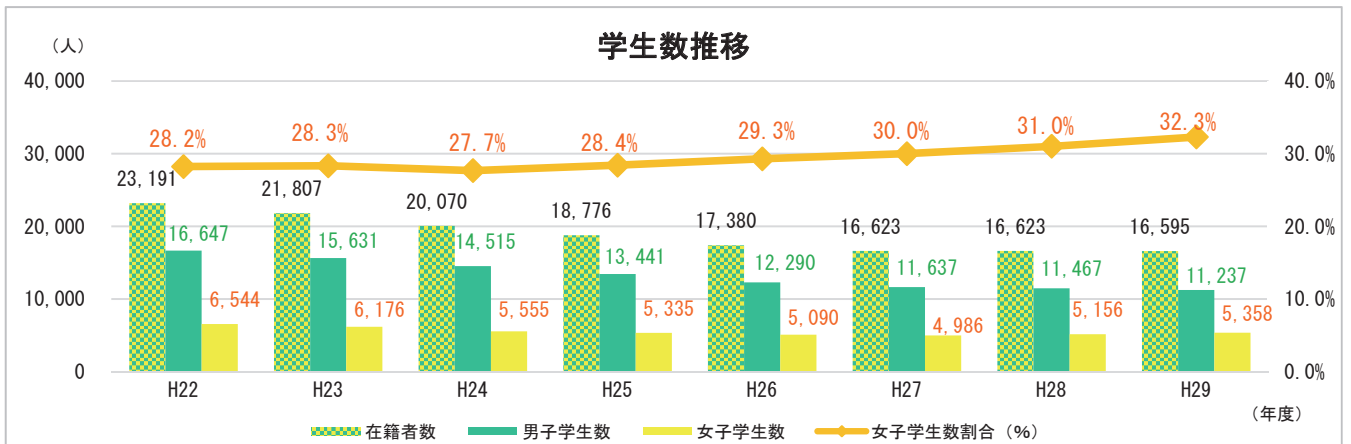
##### ◆九州大学◆



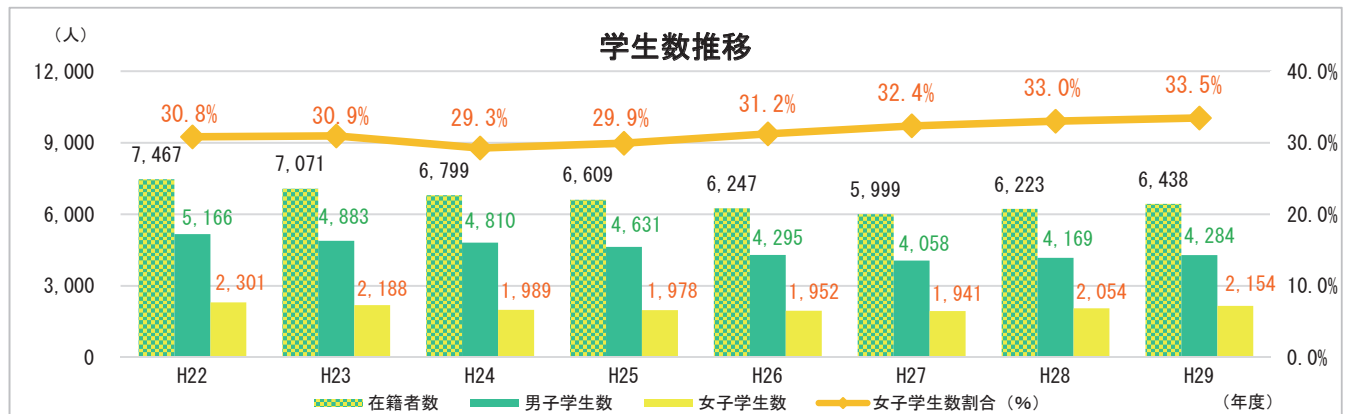
専門職学位課程： 人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】  
 法務学府実務法学専攻【法科大学院】  
 経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】  
 医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

※学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

##### ◆全国 国公立大学◆



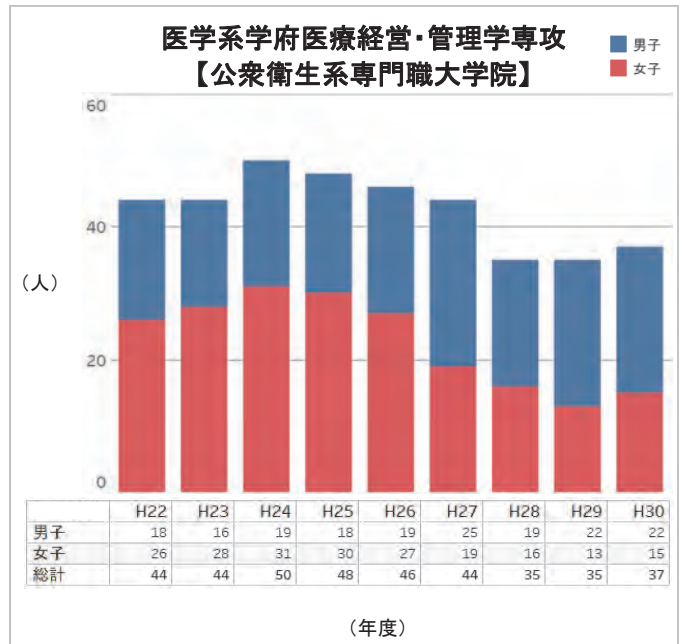
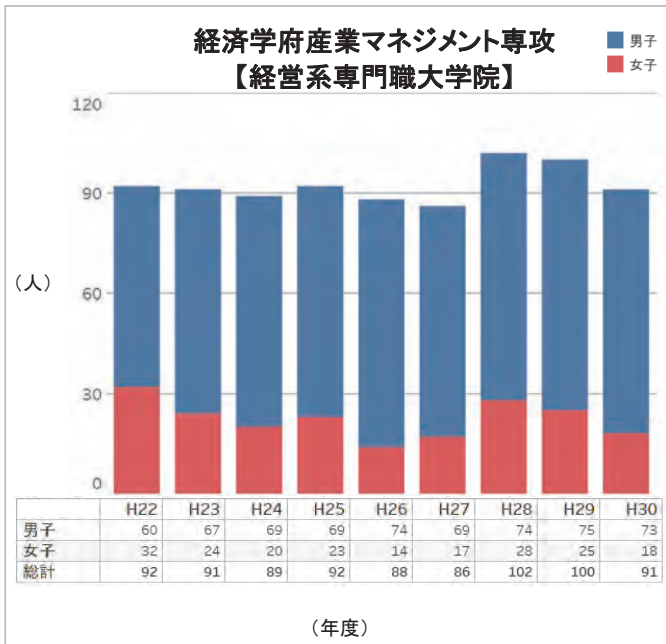
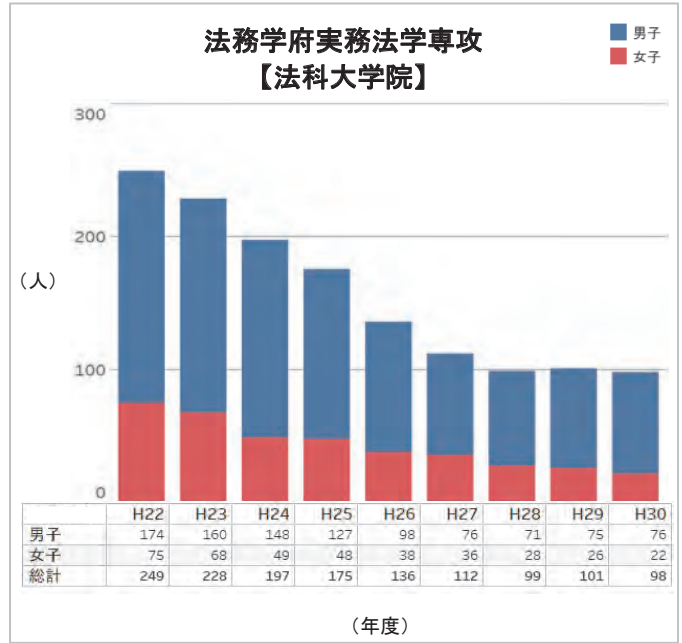
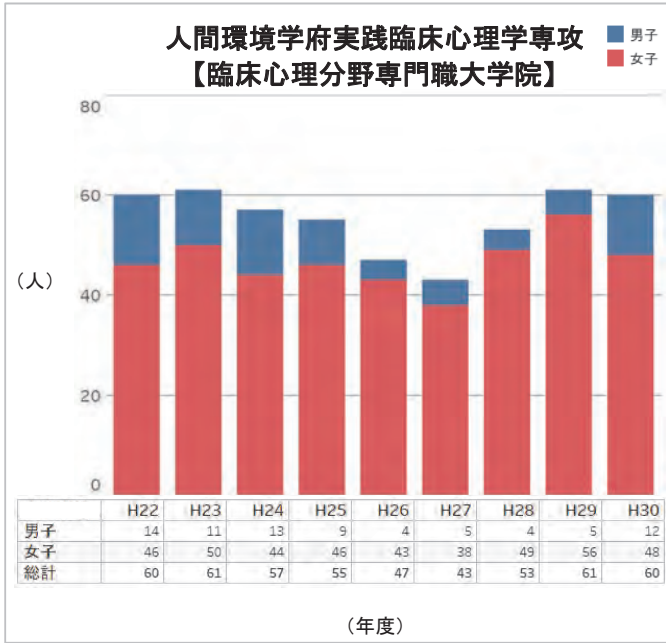
##### ◆全国 国立大学◆



※出典

- ・本学：九州大学概要(各年度5月1日現在)
- ・全国：文部科学省 文部科学統計要覧

### 3-3-2. 専門職学位課程(学府別・在籍学生数)



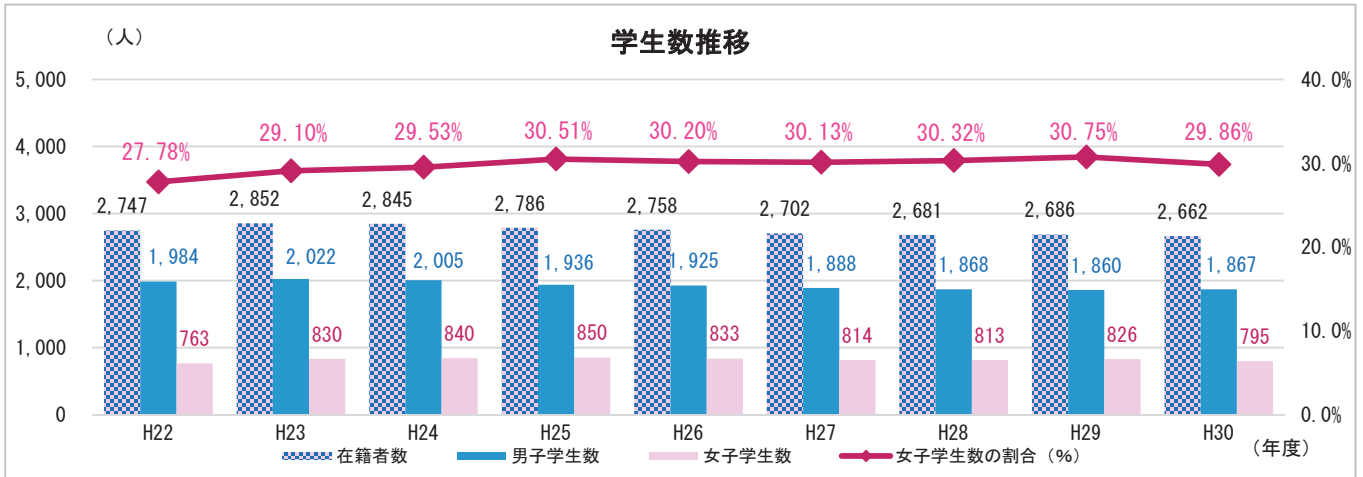
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

### 3-4. 博士後期課程

#### 3-4-1. 博士後期課程(全体)

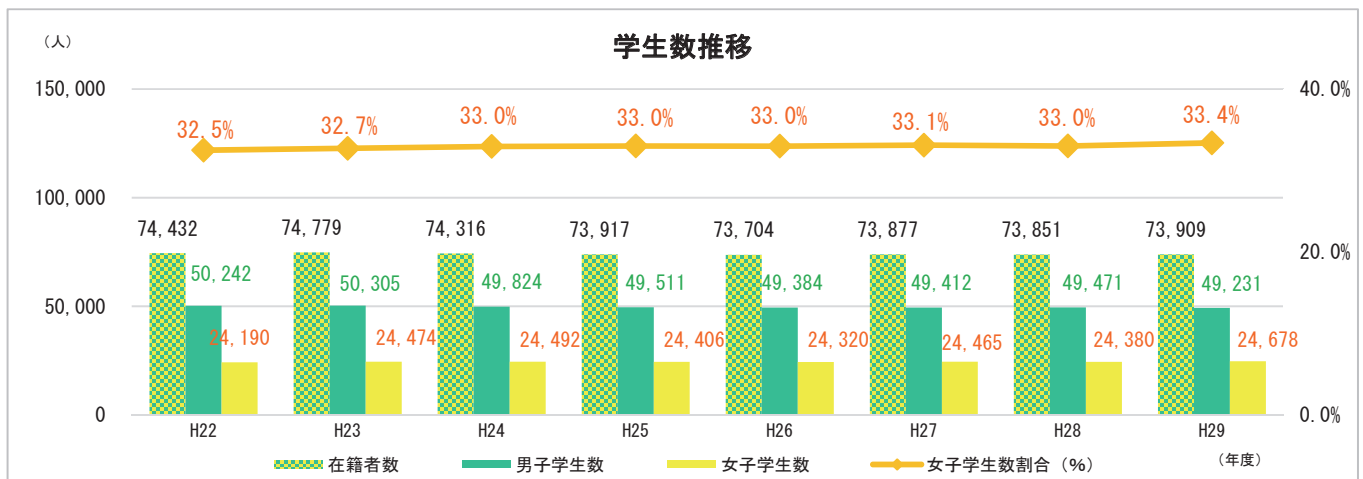
全国、本学ともに学生数及び女子学生の割合は横ばい傾向であり、本学では在籍学生数及び在籍学生数に占める女子学生数の割合が減少傾向である。

##### ◆九州大学◆

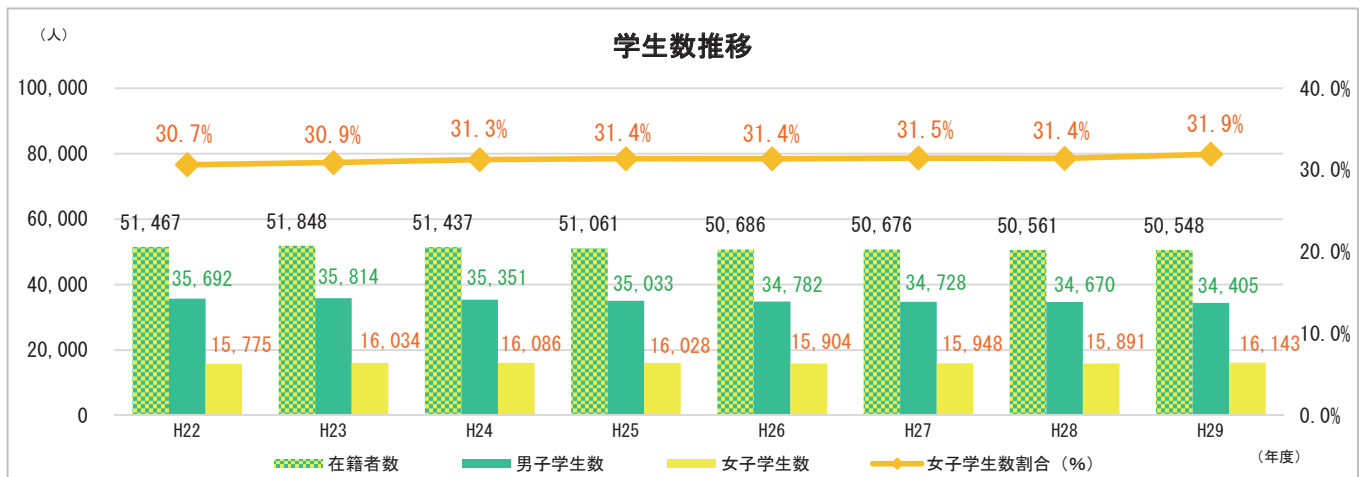


※学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

##### ◆全国 国公立大学◆

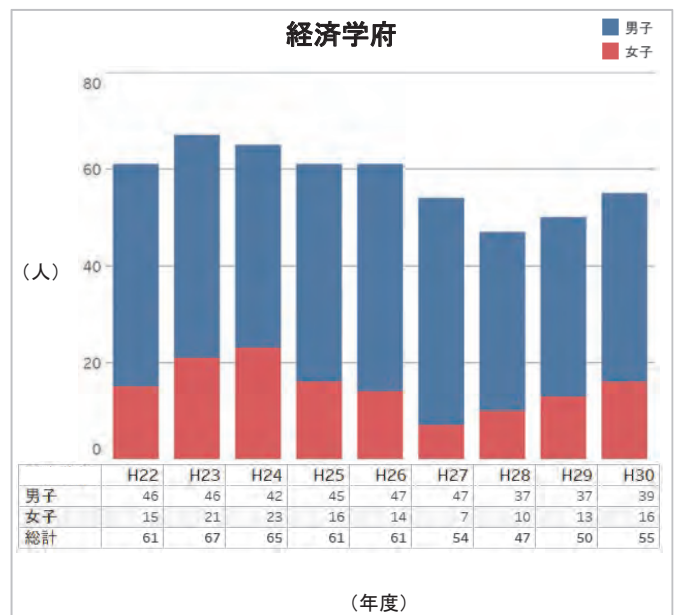
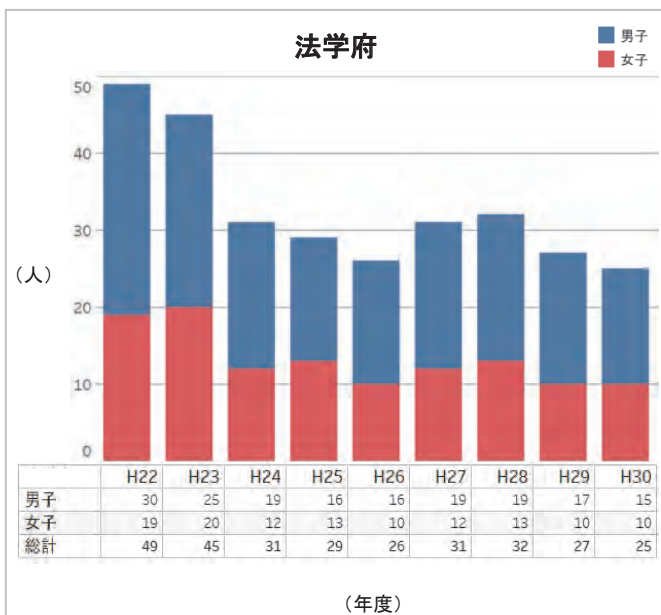
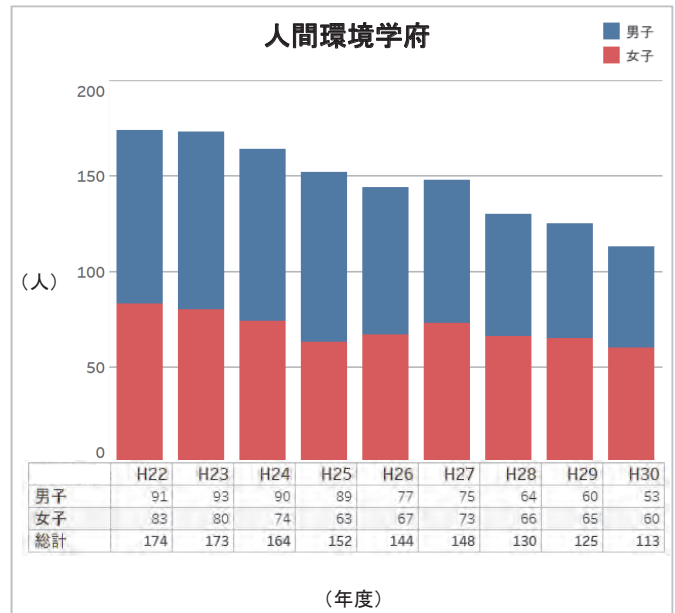
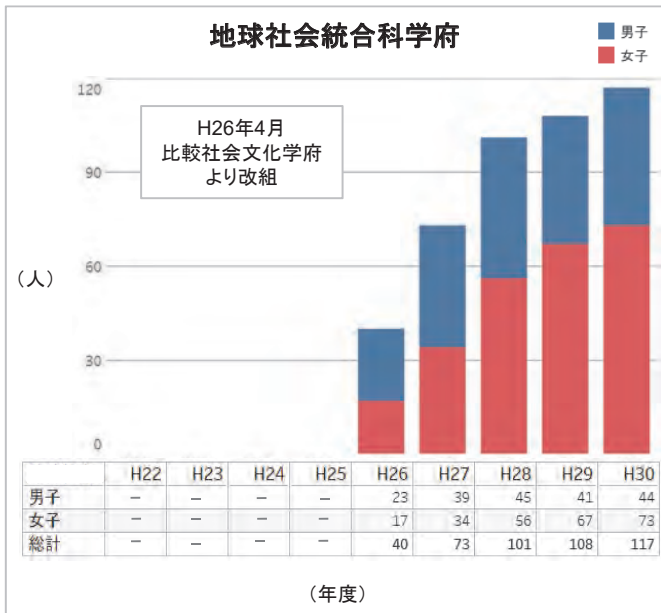
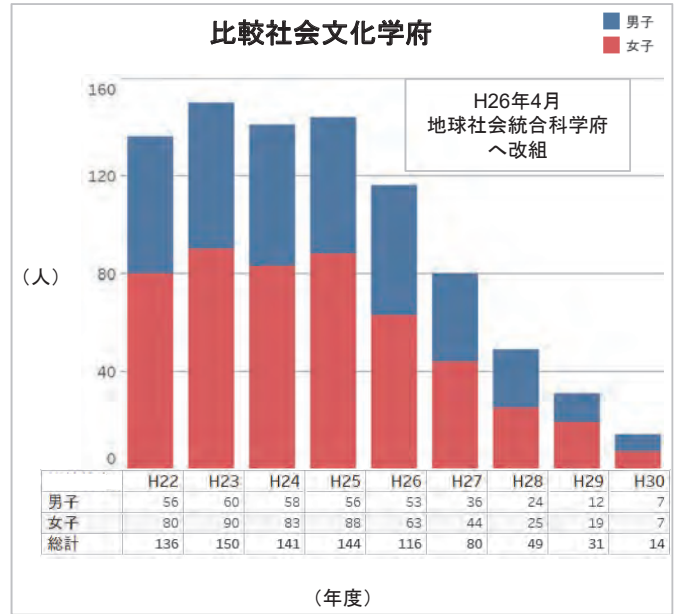
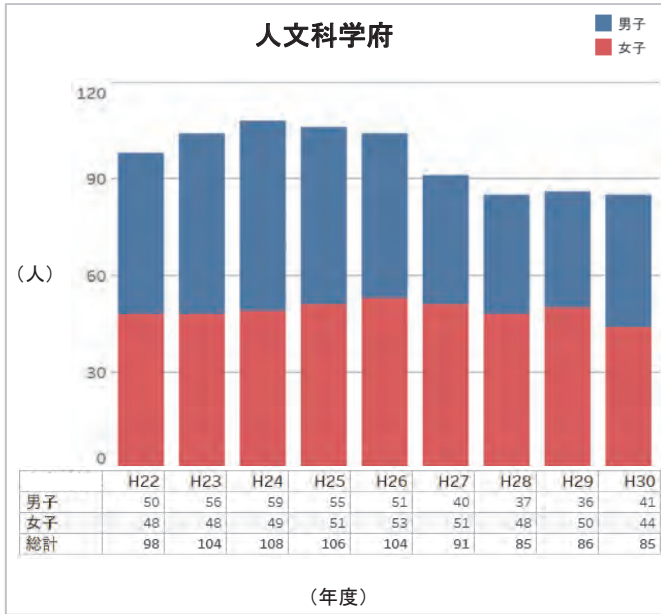


##### ◆全国 国立大学◆



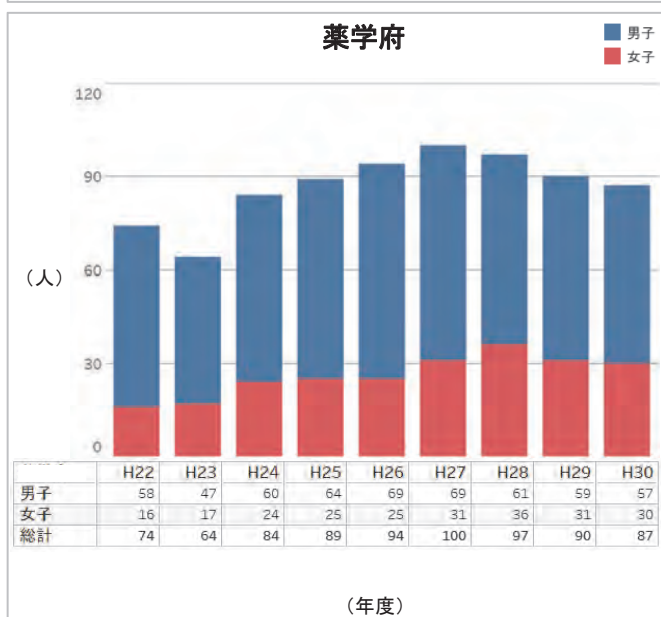
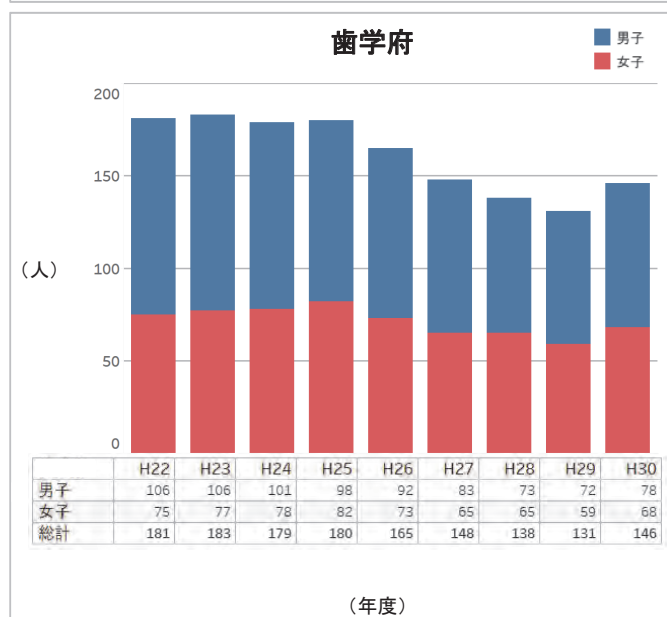
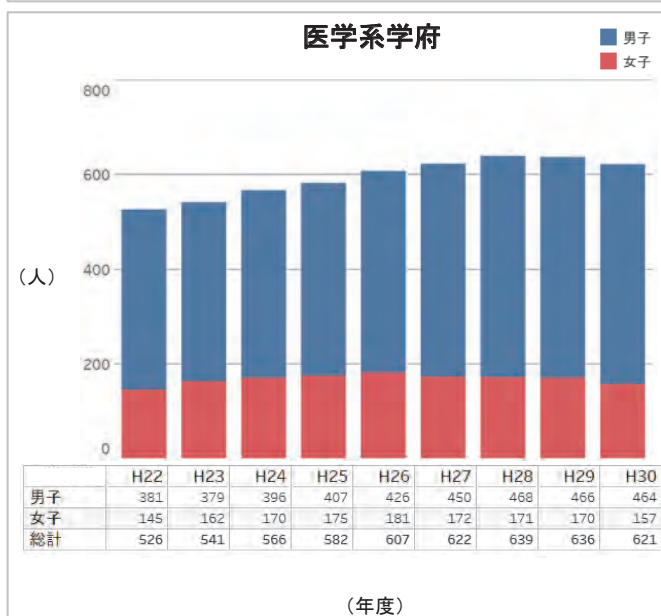
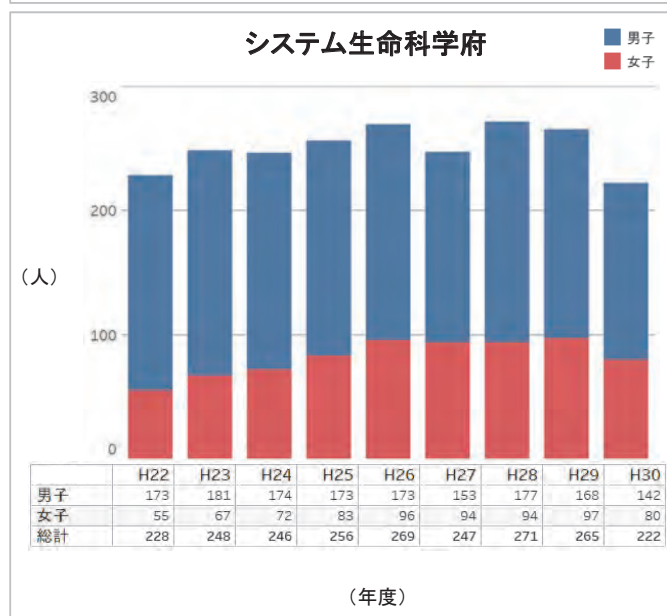
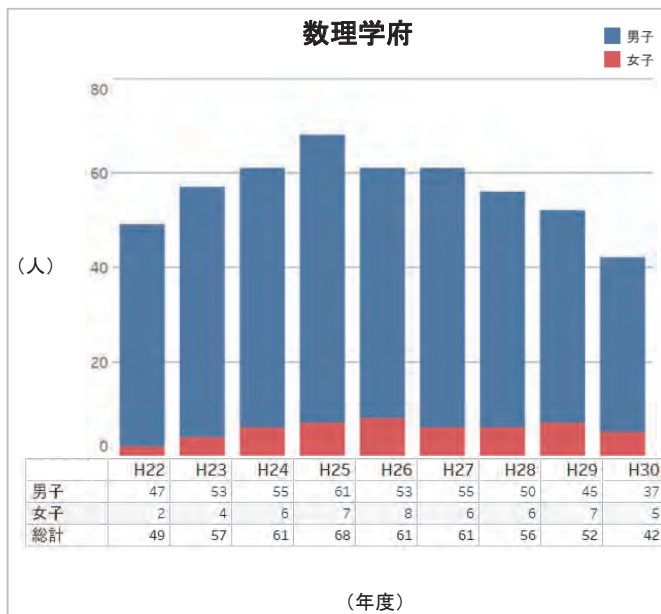
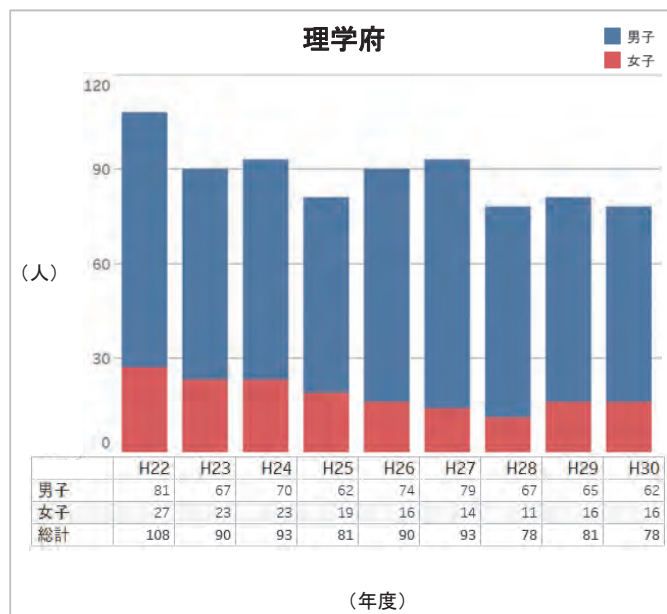
※出典  
 ・本学：九州大学概要(各年度5月1日現在)  
 ・全国：文部科学省 文部科学統計要覧

### 3-4-2. 博士後期課程(学府別・在籍学生数)



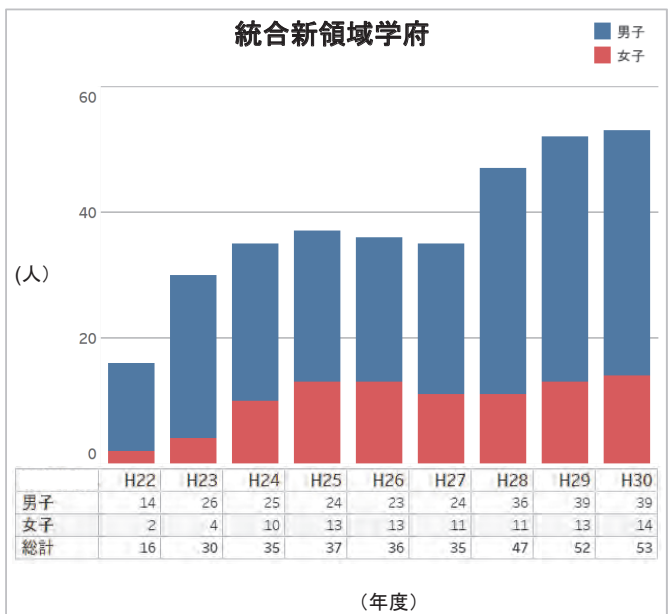
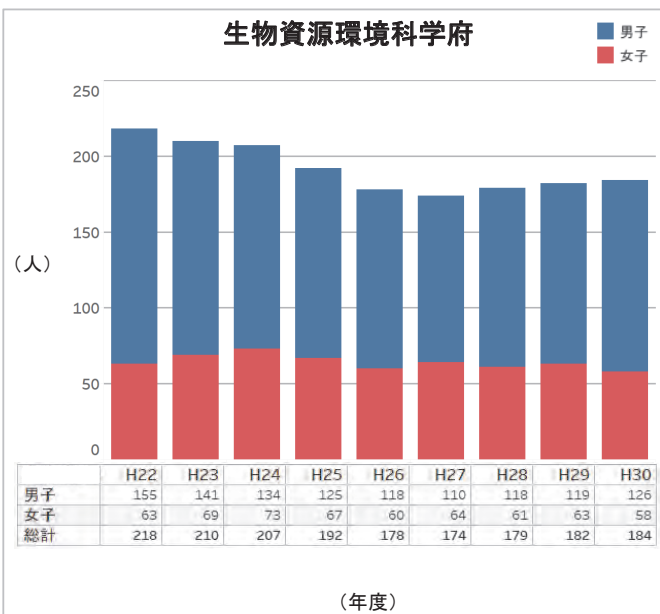
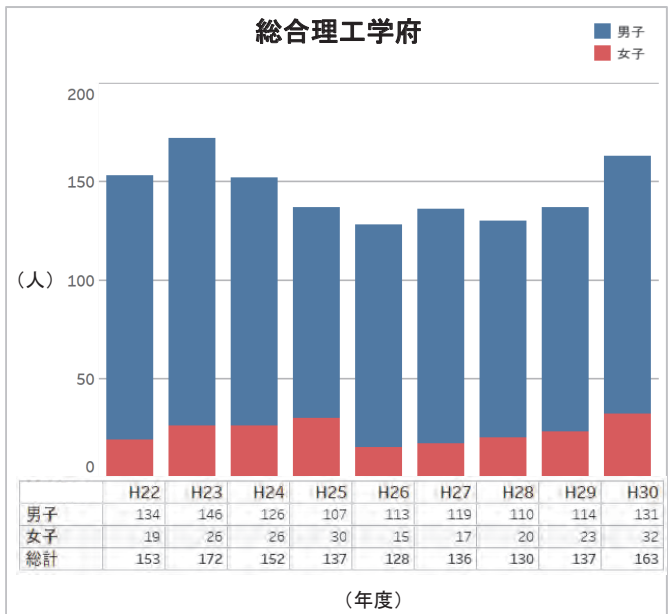
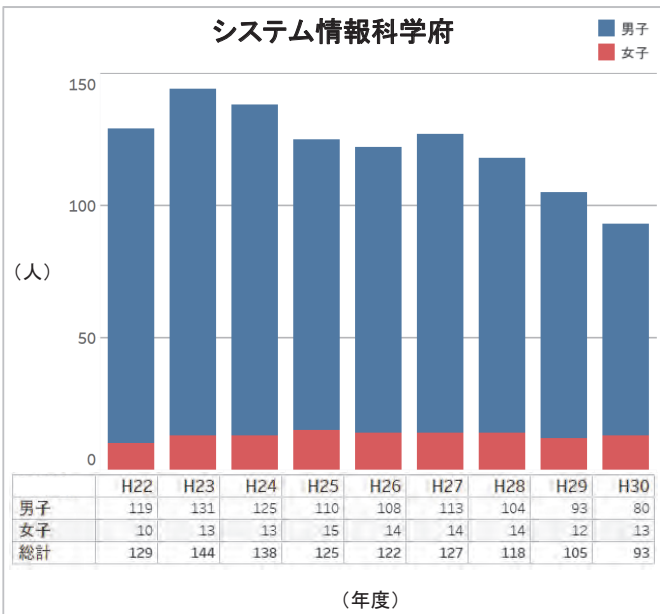
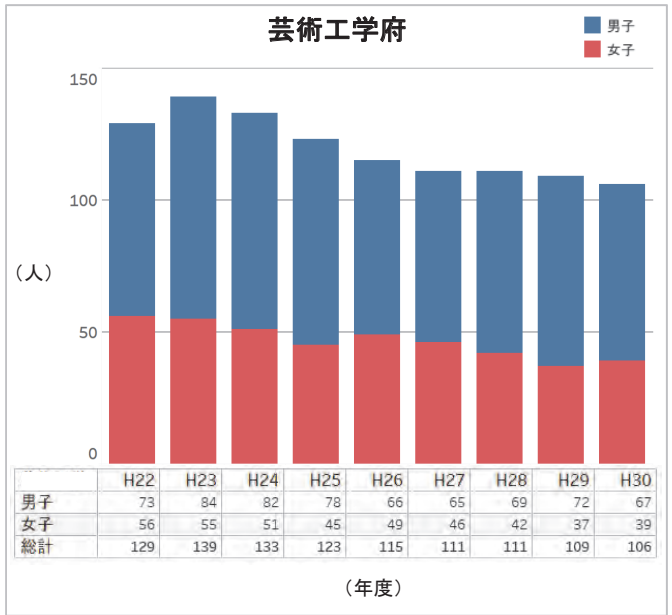
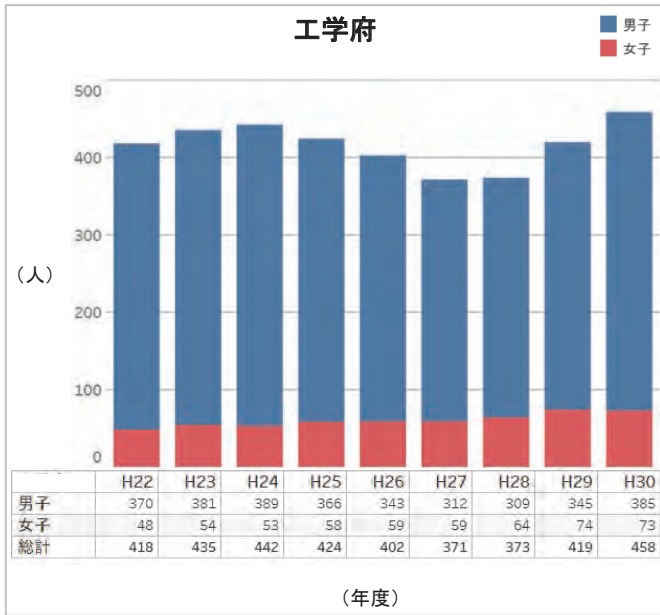
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-4-2. 博士課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-4-2. 博士課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

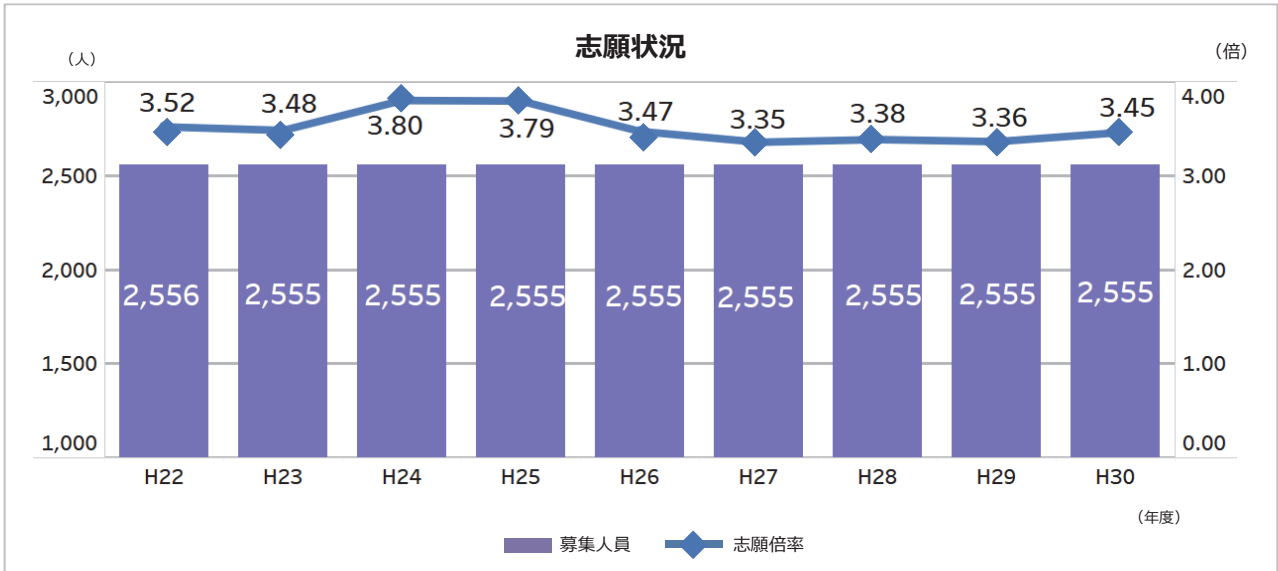
## 4. 志願状況 (各年度4月1日現在)

### 4-1. 志願状況(学部)

#### 4-1-1. 志願状況推移(学部・一般選抜)

九州大学の学部一般選抜（一般入試）の志願倍率は、約3.3～3.8倍で推移している。平成27年度入試においては、志願倍率は、3.35倍と最も低い。なお、全国的に国立大学志願者は減少傾向である。

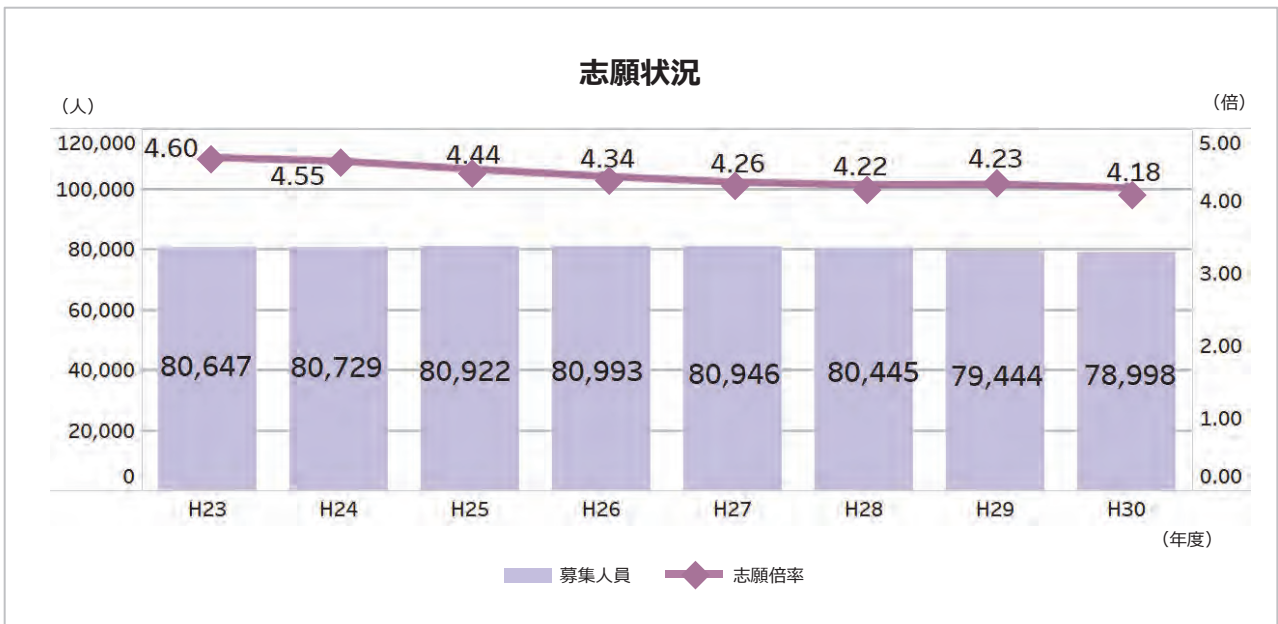
#### ◆九州大学◆



※上記志願者数、受験者数、合格者数、募集人員は、前期日程、後期日程、A0入試、帰国子女入試、社会人入試、外国人留学生入試（4月入学）（国費等含む）を含む。

※出典：九州大学学務部入試課データ「入試統計資料」

#### ◆全国 国立大学◆



※募集人員、志願者数については、一般入試に係るものである。

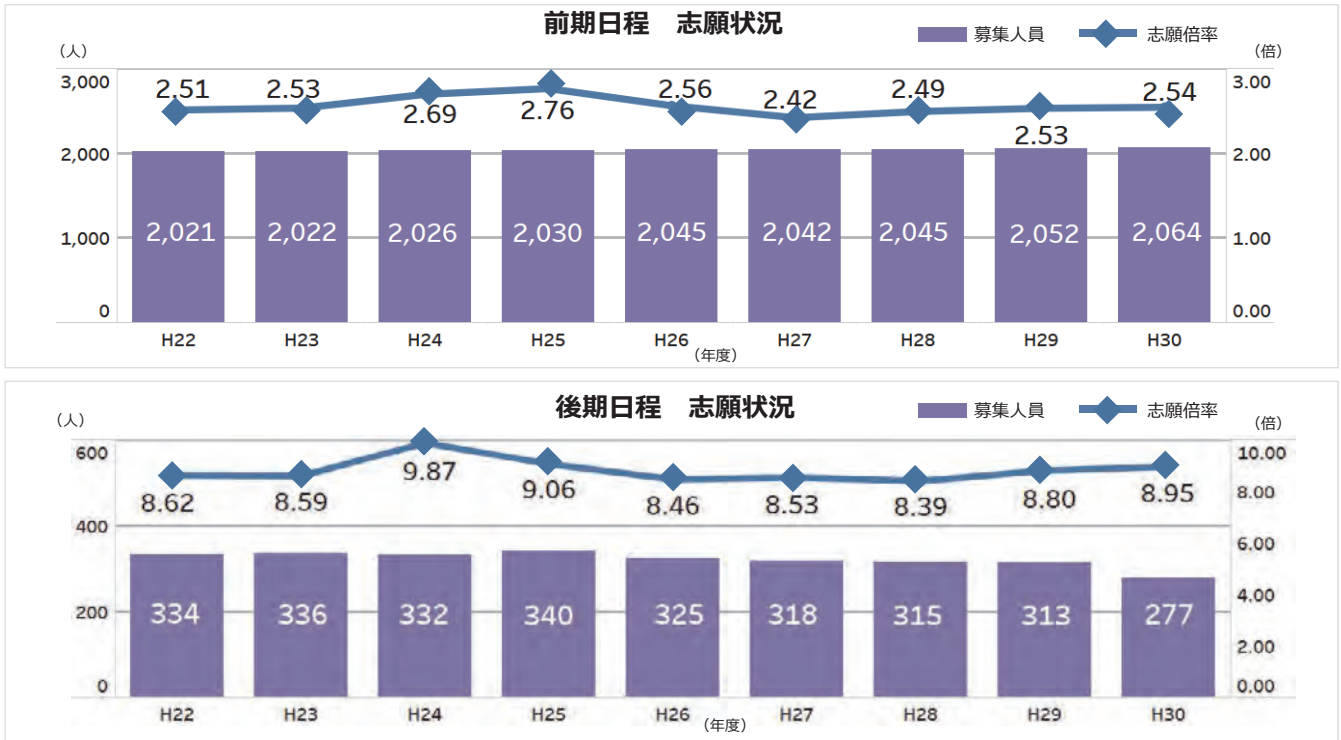
※出典：文部科学省「国立大学入学者選抜の志願状況等」



## 4-1-2. 志願状況推移(学部・一般選抜／日程別)

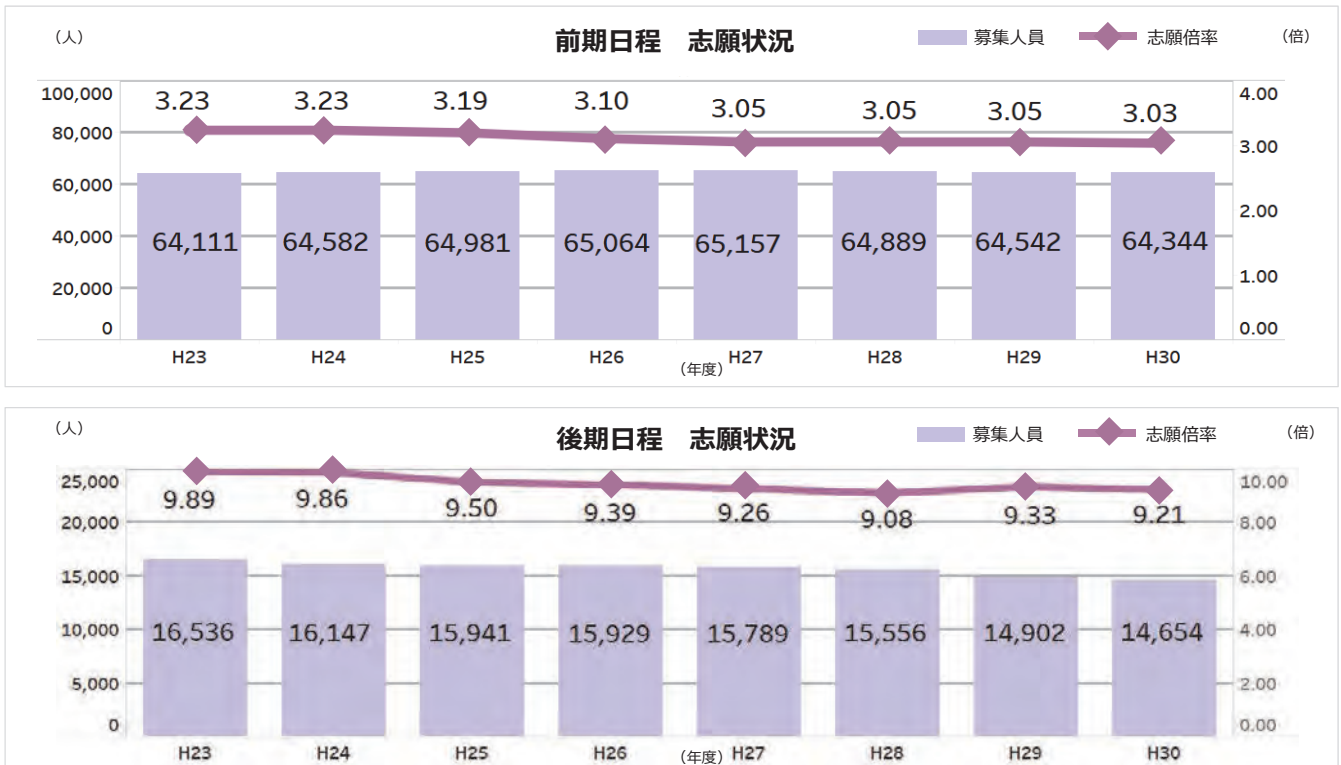
前期日程は約2.4～2.8倍、後期日程は約8.4倍～9.9倍の志願倍率を推移しており、安定して入学者を確保している。国立大学は募集人員が減少傾向にある。

### ◆九州大学◆



出典：九州大学学務部入試課データ「志願状況 日程別推移」

### ◆全国 国立大学◆



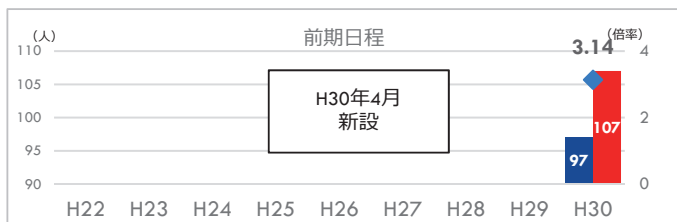
※出典：文部科学省 「国公立大学入学者選抜の志願状況等」

### 4-1-3. 志願状況推移(学部・一般選抜/学部別)

前期日程は約2.0~3.9倍、後期日程は約5.9倍~20.0倍の志願倍率を推移しており、安定して入学者を確保している。

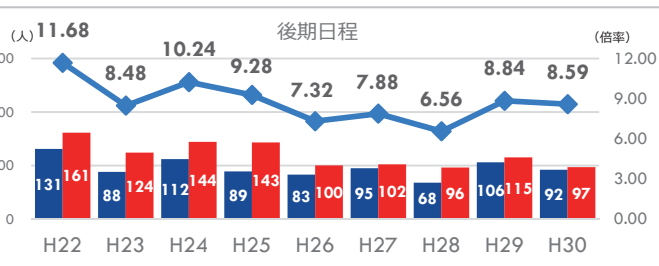
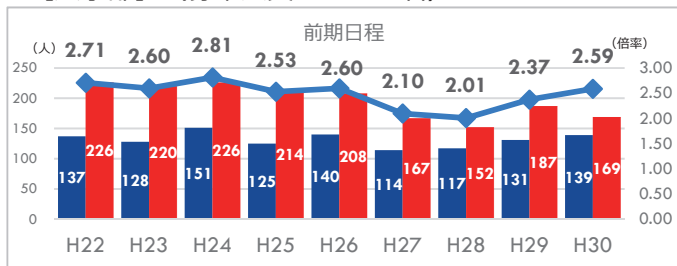
【共創学部】(募集人員:105名)

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率

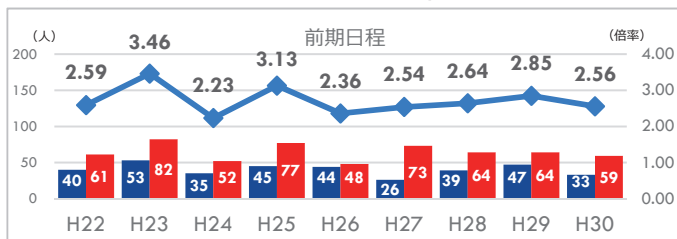


後期日程は実施していない

【文学部】(募集人員:151名)

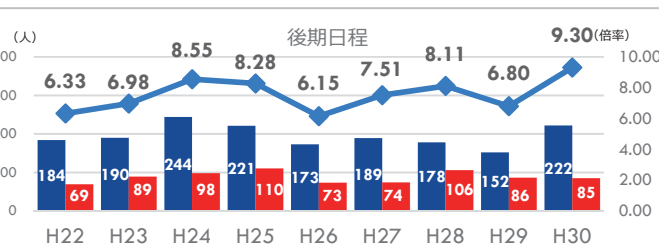
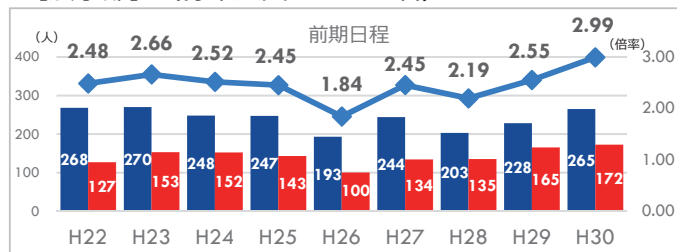


【教育学部】(募集人員:46名)

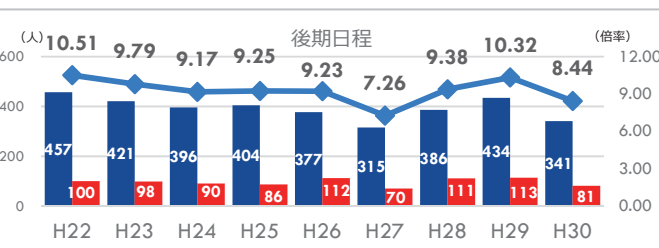
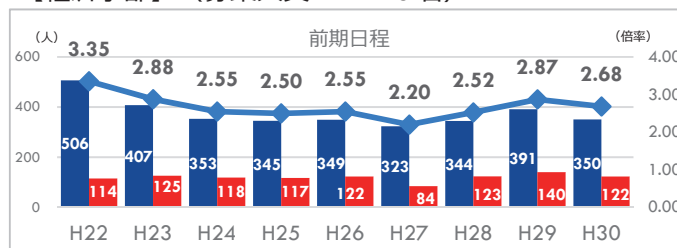


後期日程は実施していない

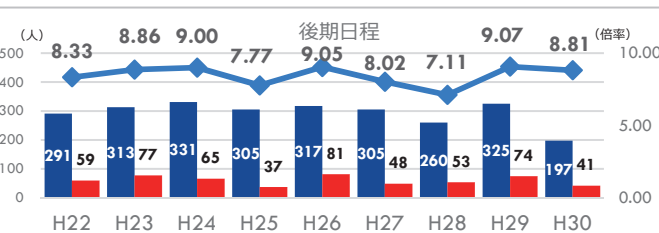
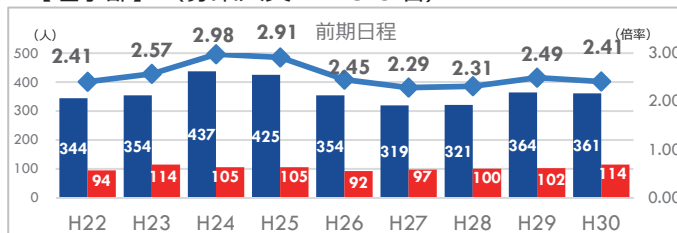
【法学部】(募集人員:189名)



【経済学部】(募集人員:226名)



【理学部】(募集人員:258名)



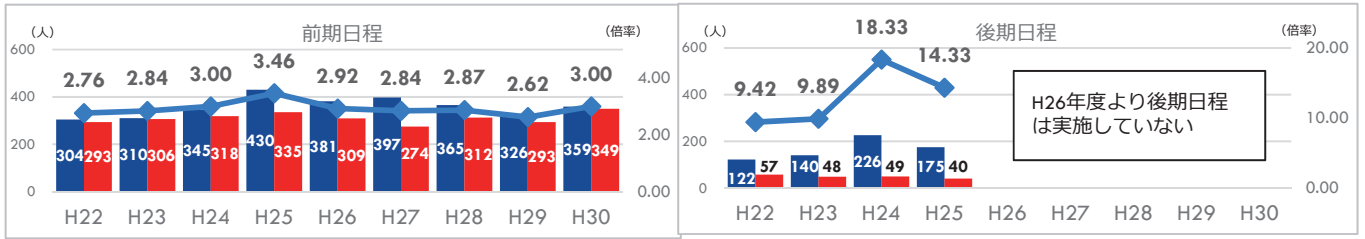
・募集人員はH30年度もの。

出典:九州大学学務部入試課保有データ「入試統計資料」

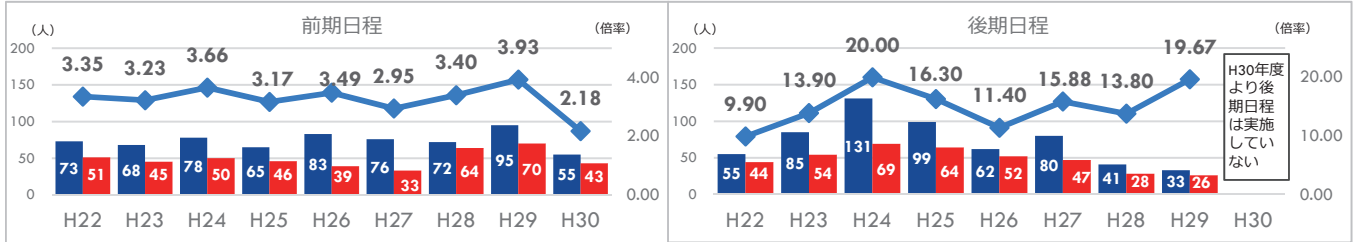
4-1-3. 志願状況推移(学部・一般選抜/学部別)(つづき)

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率

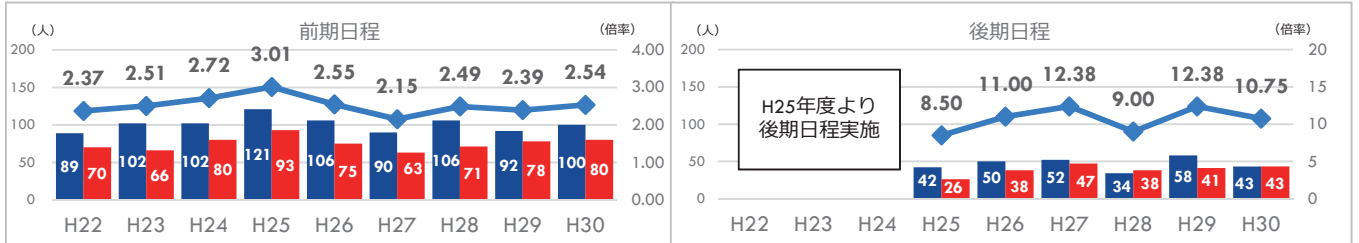
【医学部】(募集人員: 257名)



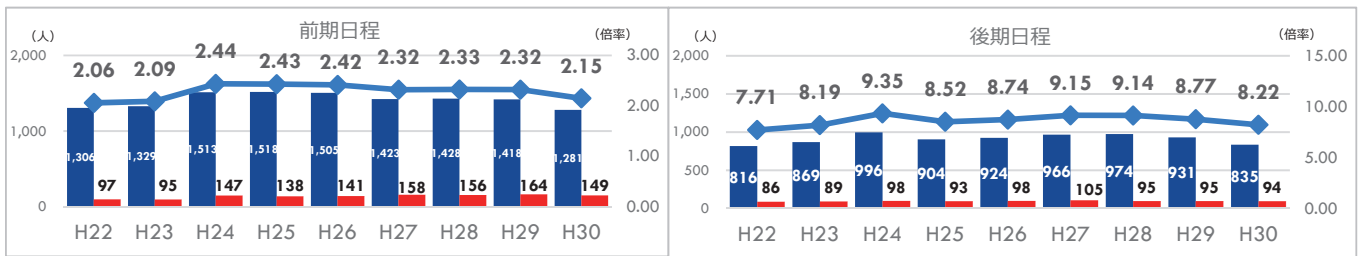
【歯学部】(募集人員: 53名)



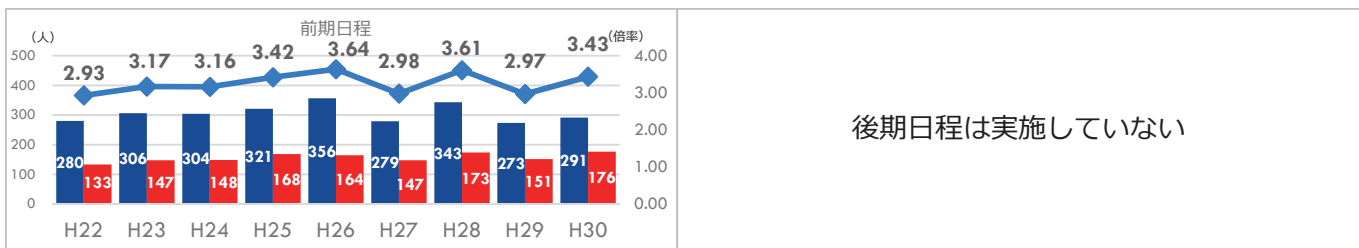
【薬学部】(募集人員: 79名)



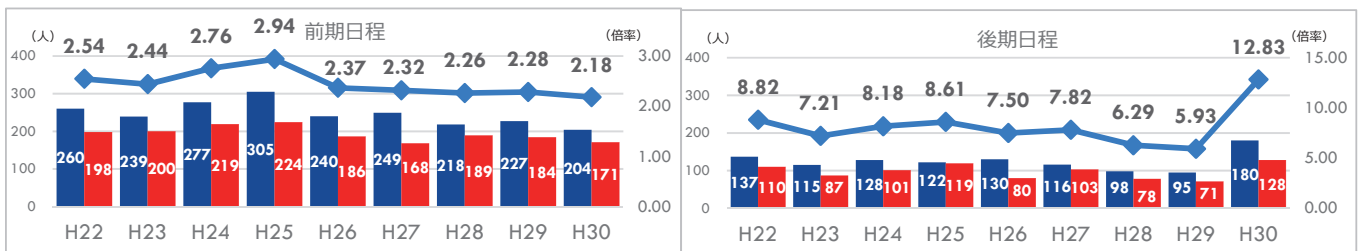
【工学部】(募集人員: 778名)



【芸術工学部】(募集人員: 187名)



【農学部】(募集人員: 226名)



・募集人員はH30年度もの。

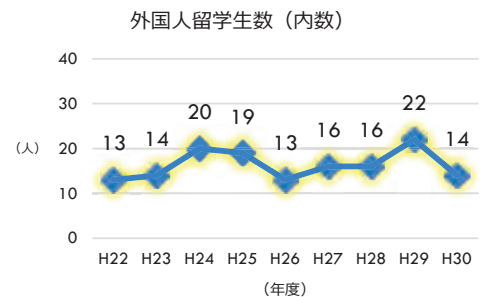
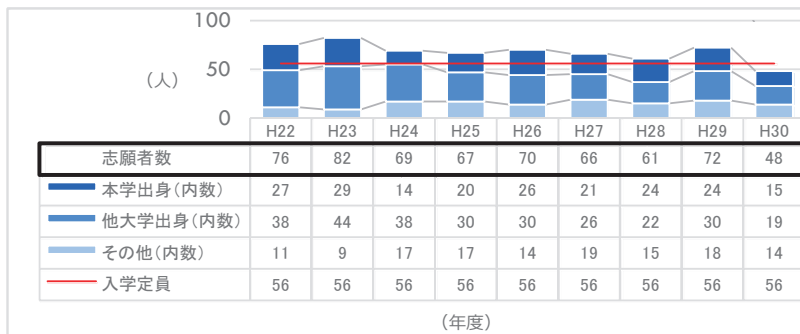
出典: 九州大学学務部入試課保有データ「入試統計資料」

## 4-2. 志願状況(大学院)

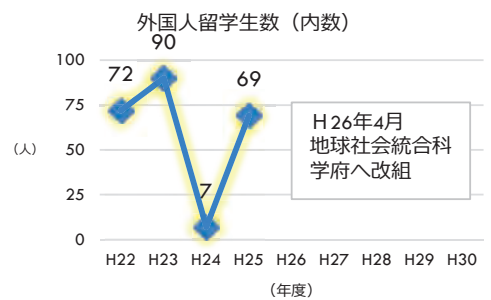
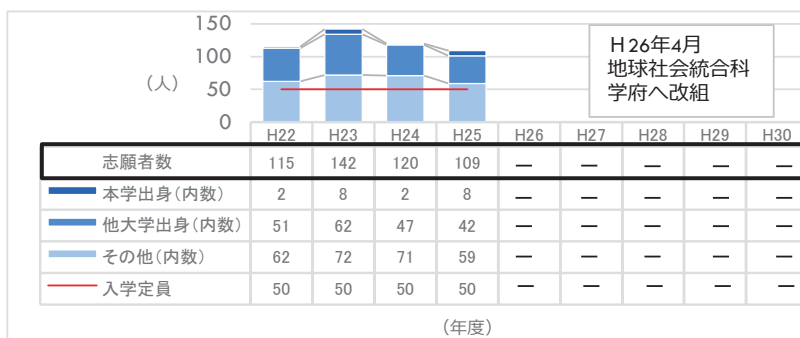
### 4-2-1. 志願状況推移(大学院\_修士課程)

学部別に状況は異なるものの、外国人留学生を確保できている。

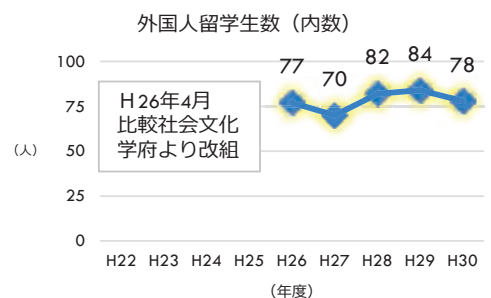
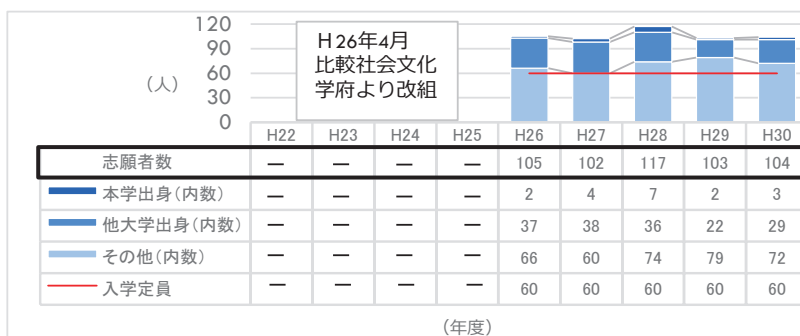
#### 【人文科学府】



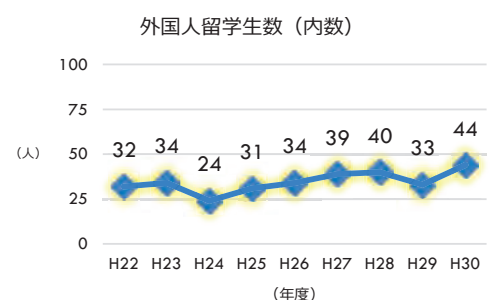
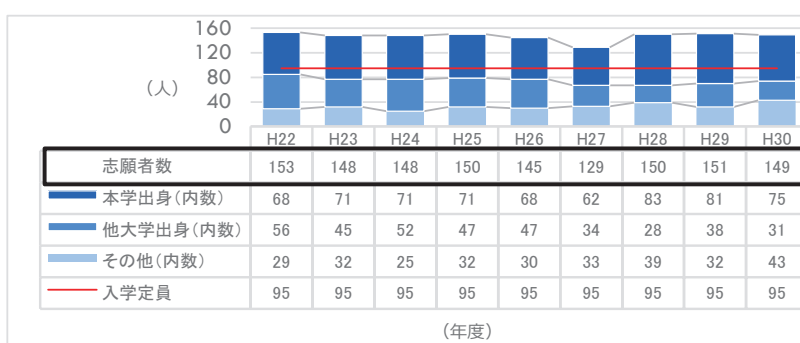
#### 【比較社会文化学府】※H26年度より募集停止



#### 【地球社会統合科学府】



#### 【人間環境学府】

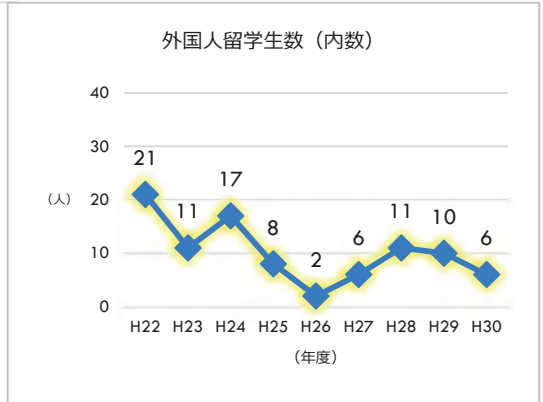
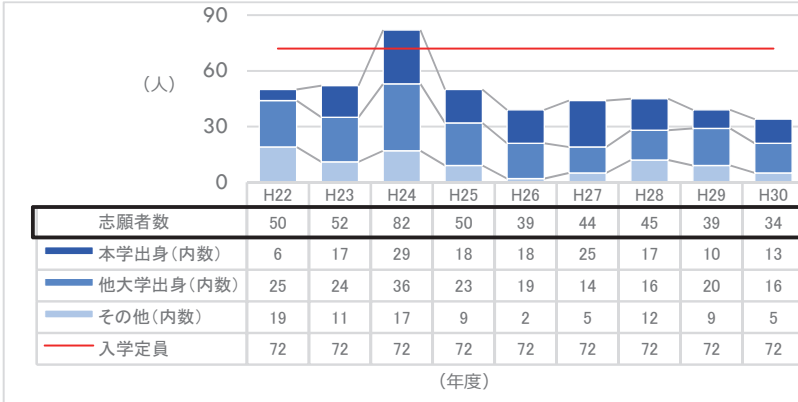


※平成26年度に、比較社会文化学府は地球社会統合科学府へ改組した。

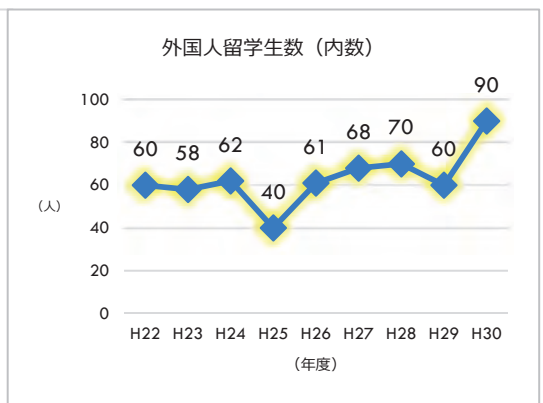
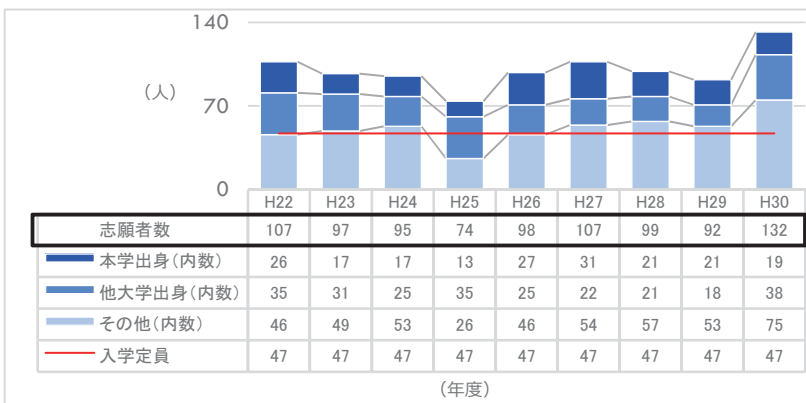
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

### 4-2-1. 志願状況推移(大学院\_修士課程)(つづき)

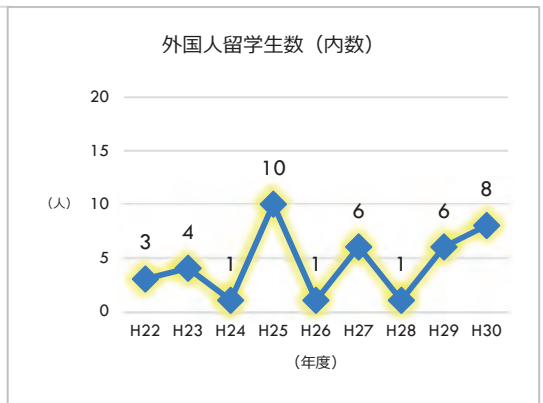
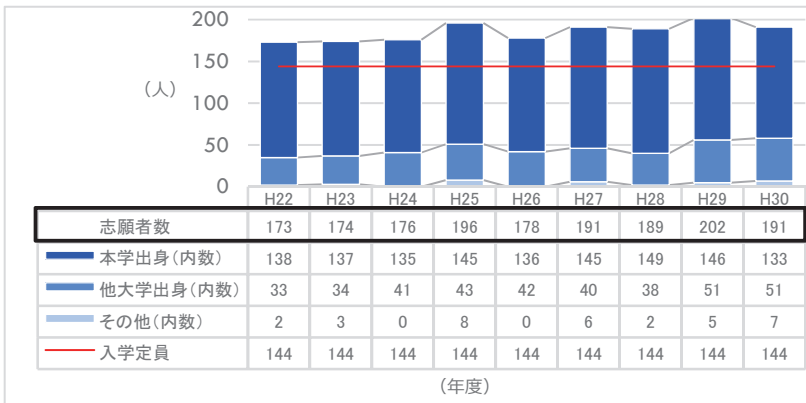
#### 【法学府】



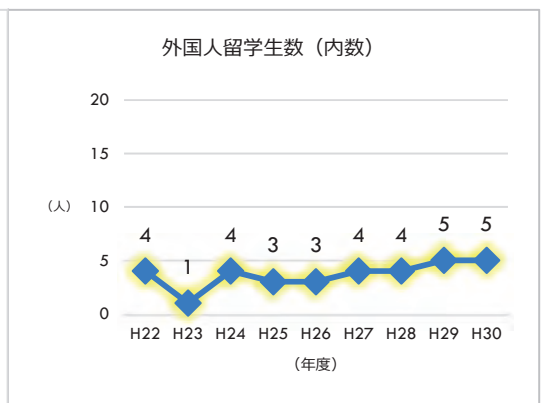
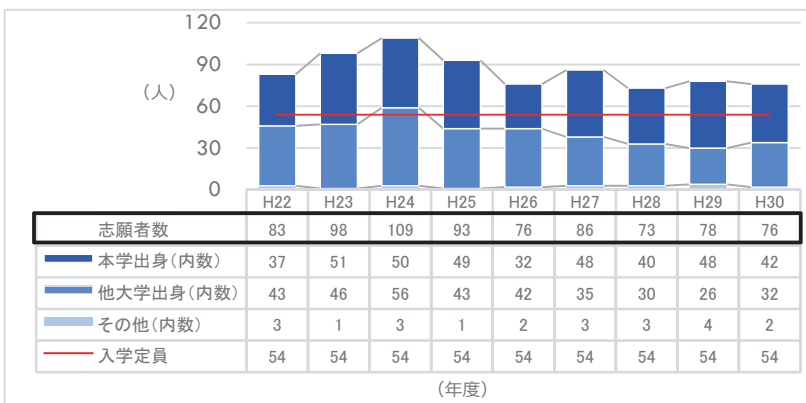
#### 【経済学府】



#### 【理学府】



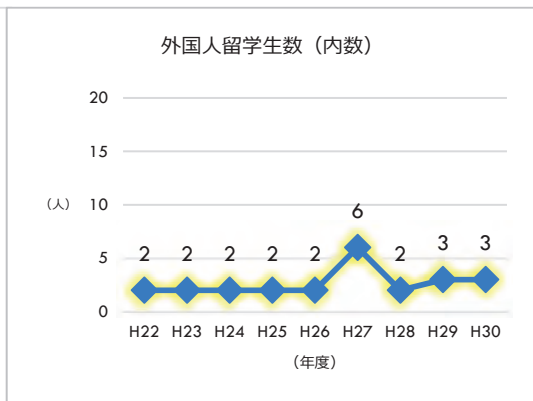
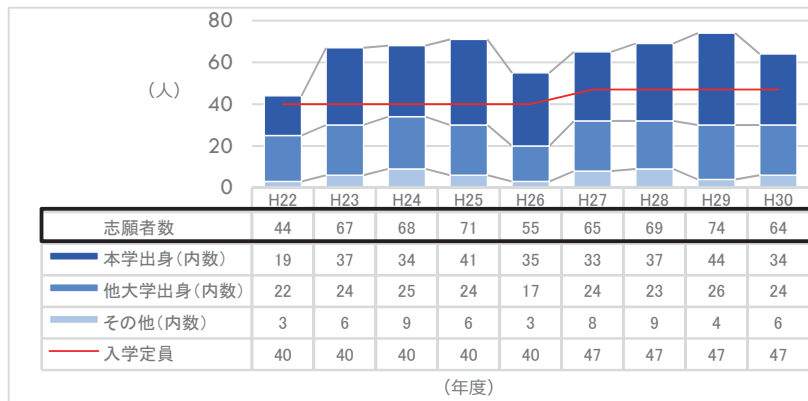
#### 【数理学府】



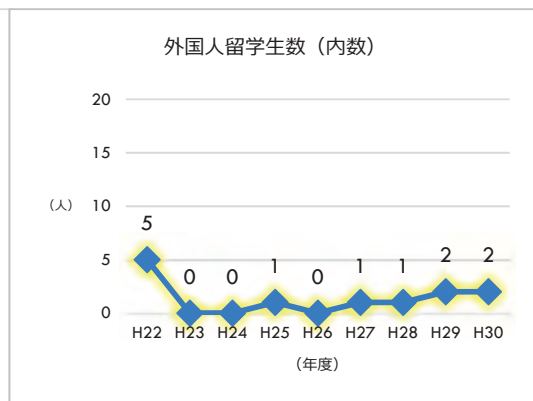
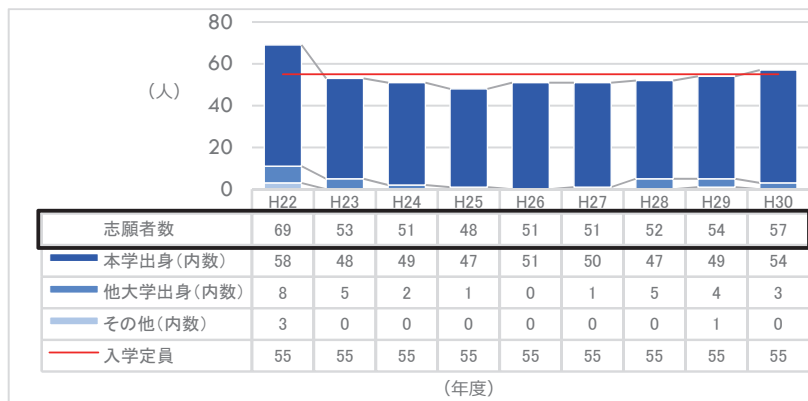
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院] 入学状況」

### 4-2-1. 志願状況推移(大学院\_修士課程)(つづき)

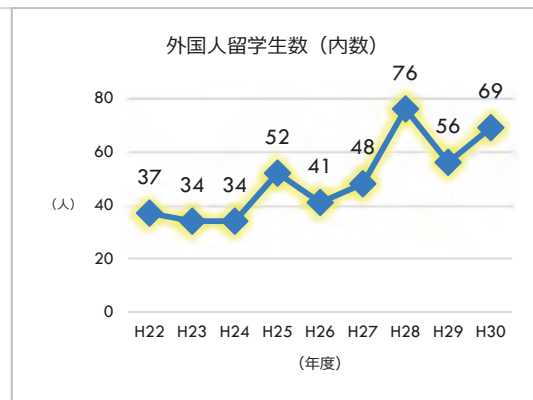
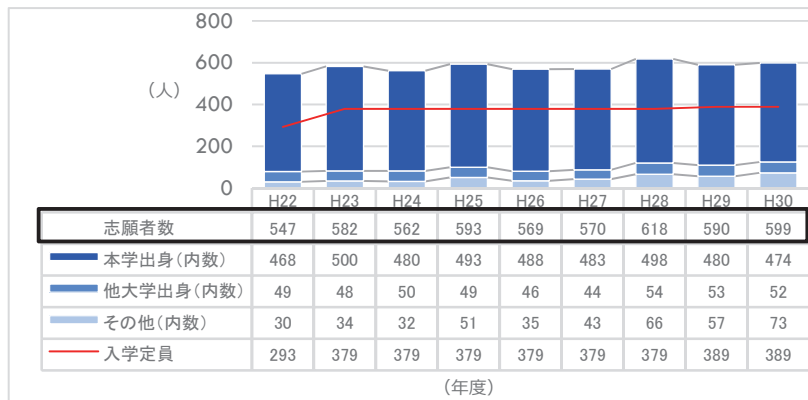
#### 【医学系学府】



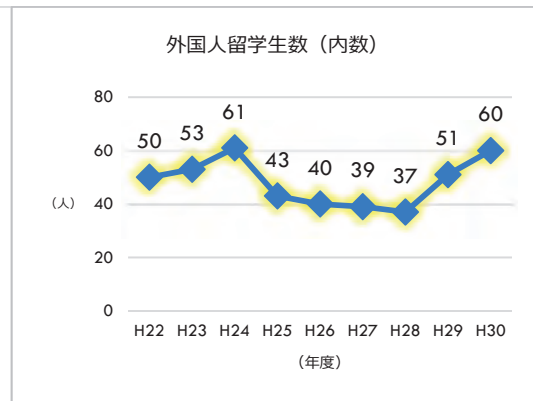
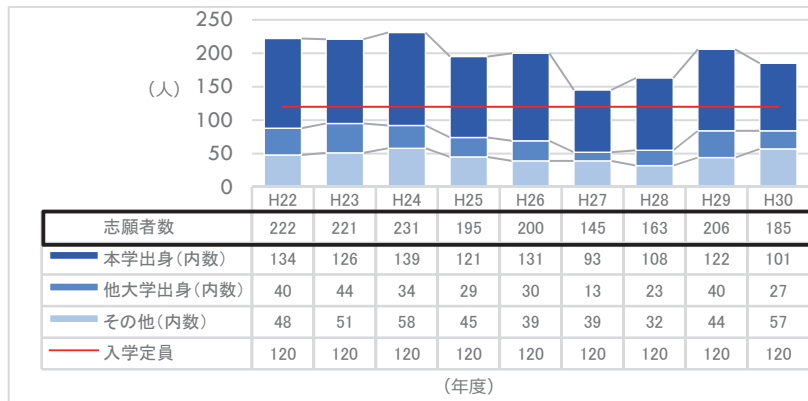
#### 【薬学府】



#### 【工学府】



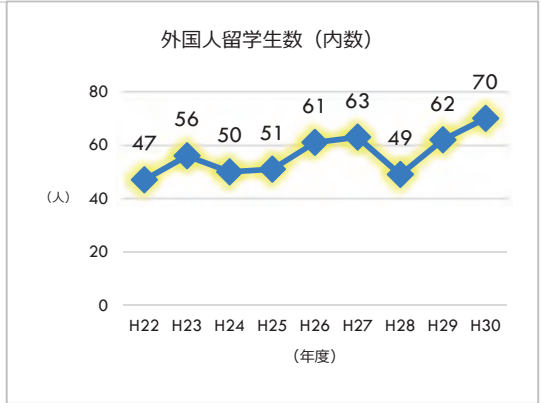
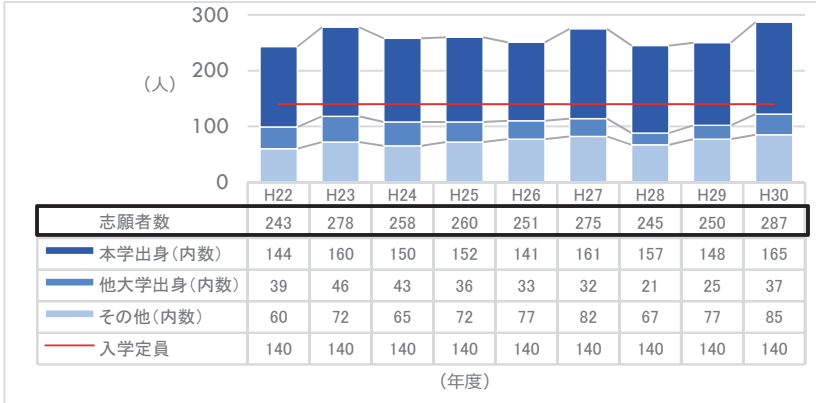
#### 【芸術工学府】



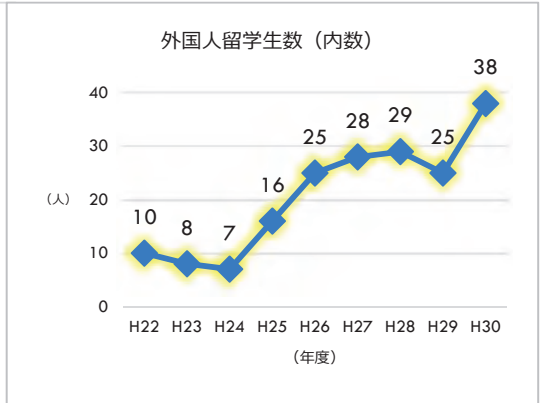
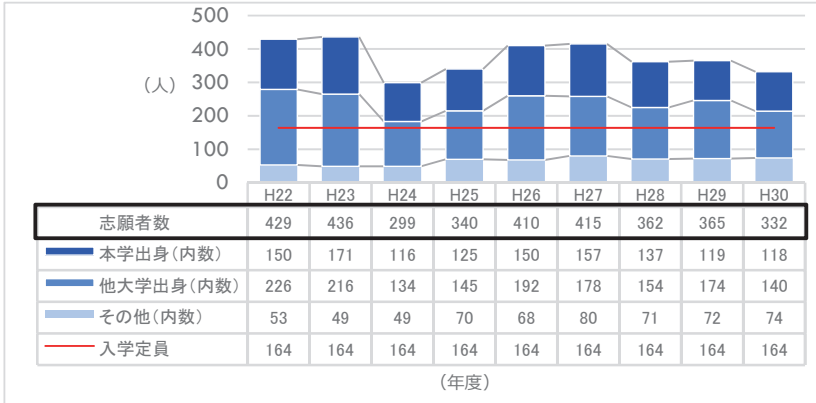
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-1. 志願状況推移(大学院\_修士課程)(つづき)

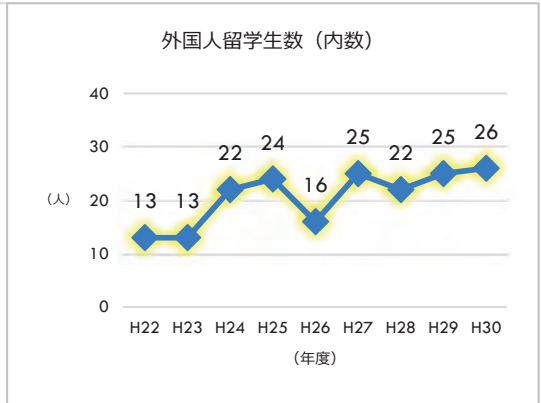
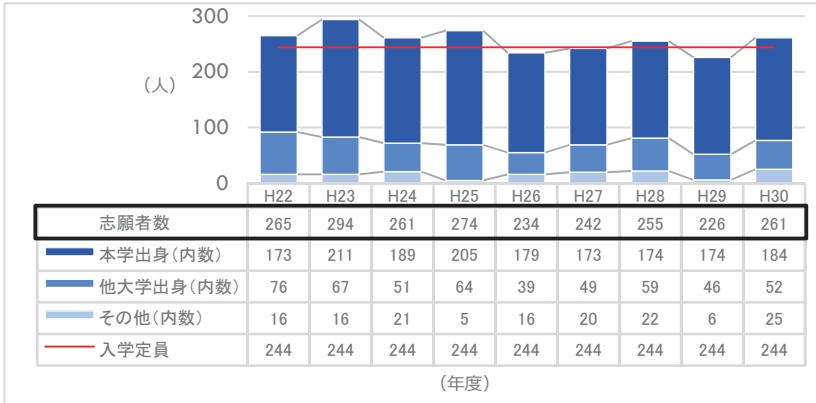
【システム情報科学府】



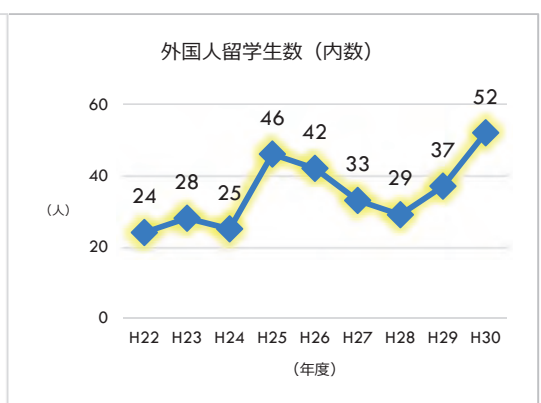
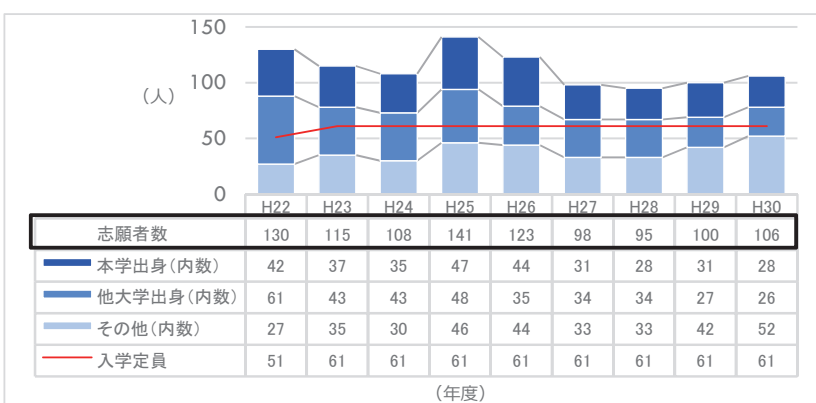
【総合理工学府】



【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】

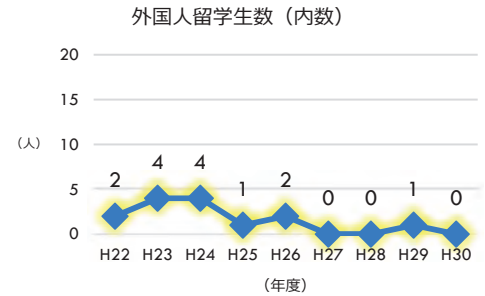
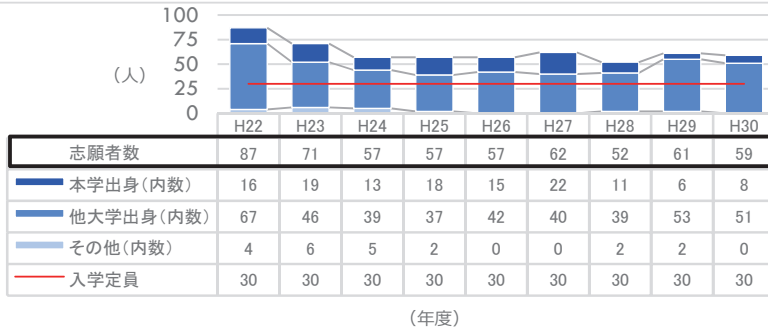


出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院] 入学状況」

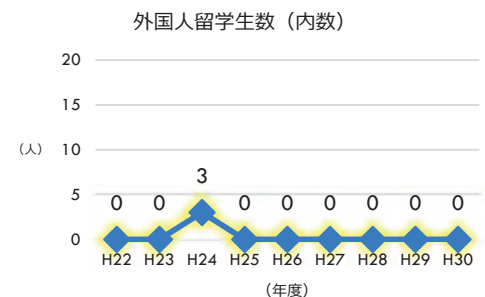
## 4-2-2. 志願状況推移(大学院\_専門職学位課程)

法務学府の志願者数が減少傾向にある。

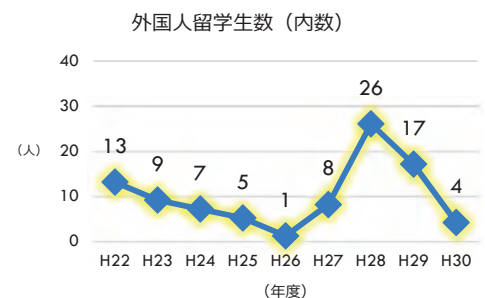
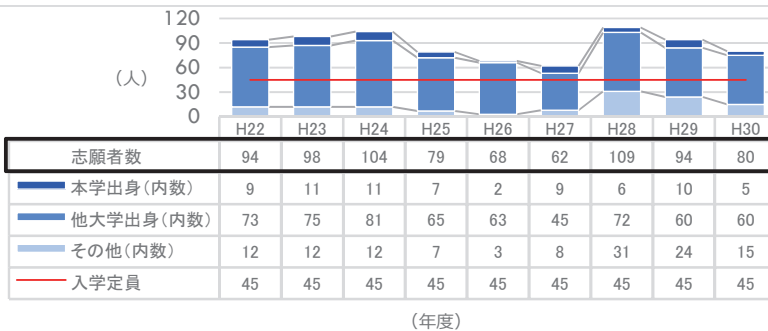
### 人間環境学府実践臨床心理学専攻 【臨床心理分野専門職大学院】



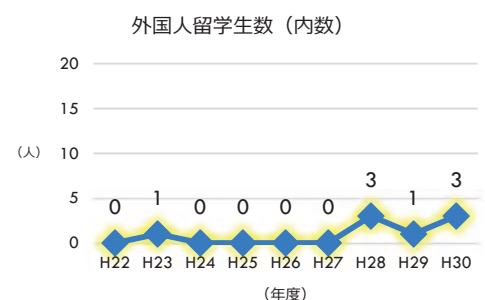
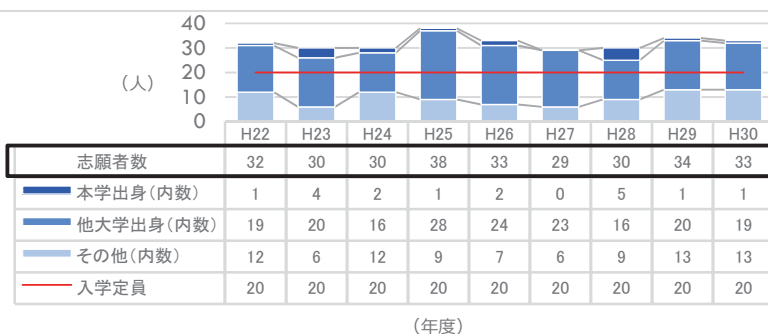
### 法務学府実務法学専攻 【法科大学院】



### 経済学府産業マネジメント専攻 【経営系専門職大学院】



### 医学系学府医療経営・管理学専攻 【公衆衛生系専門職大学院】



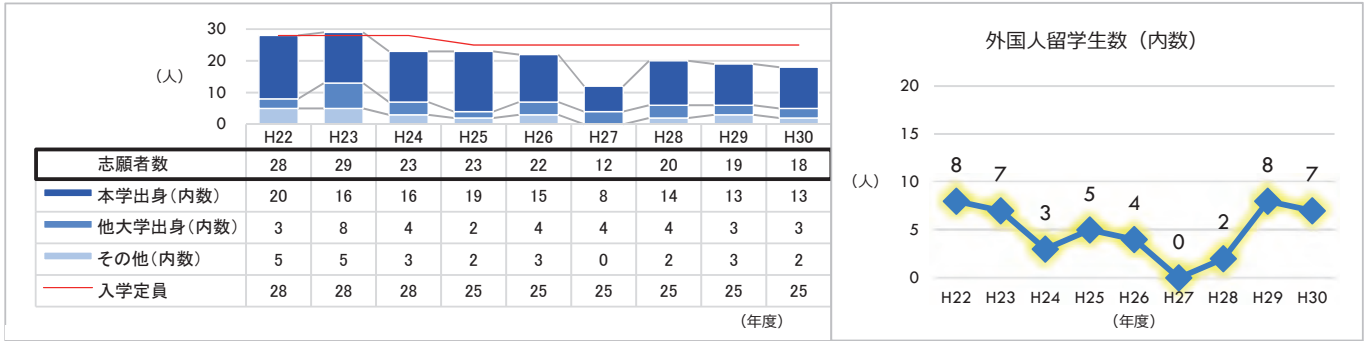
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」



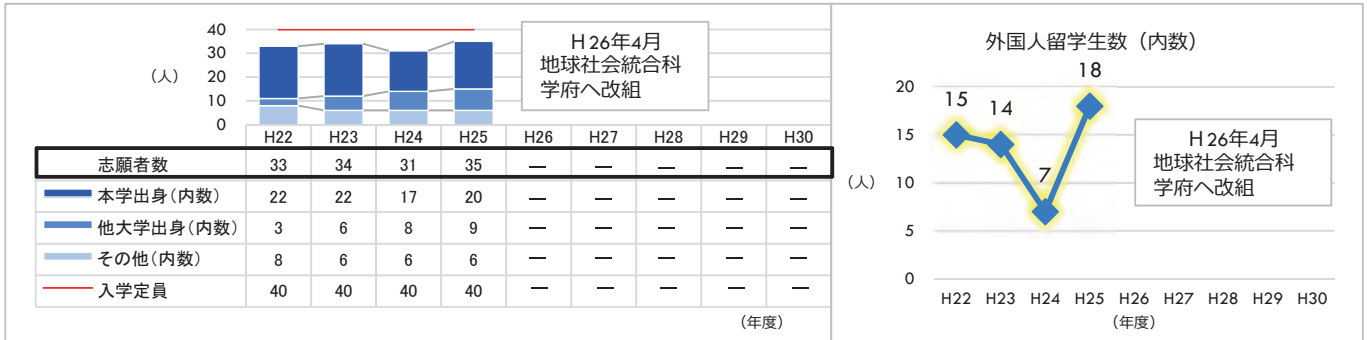
### 4-2-3. 志願状況推移(大学院\_博士後期課程)

地球社会統合科学府をみると、修士課程と比較して、本学出身の志願者が多いことが分かる。

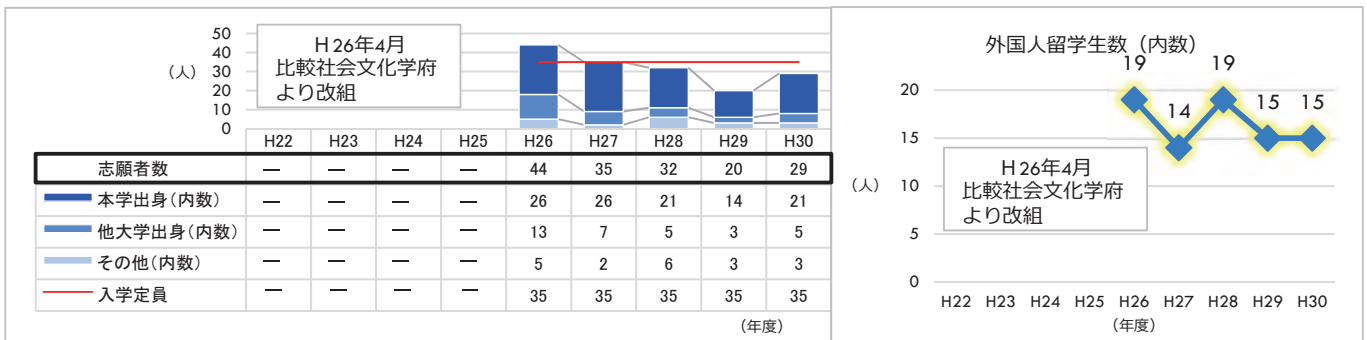
#### 【人文科学府】



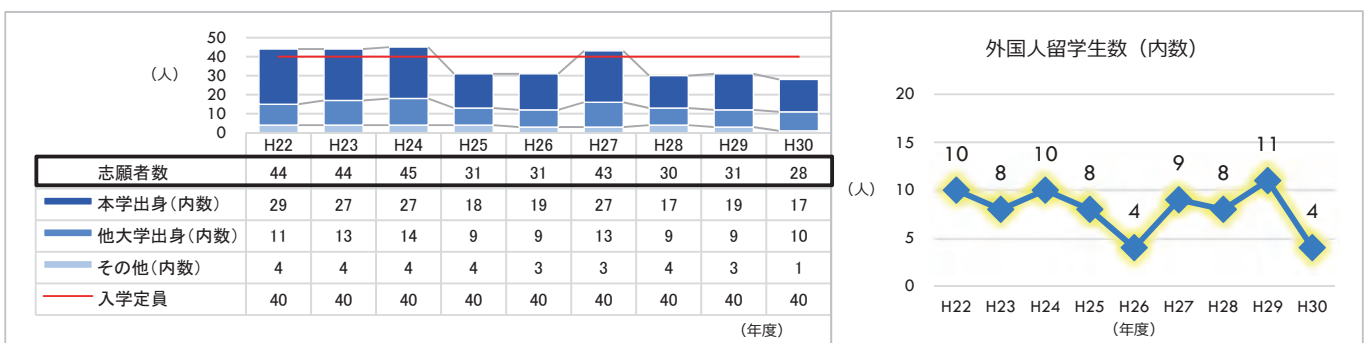
#### 【比較社会文化学府】※H26年度より募集停止



#### 【地球社会統合科学府】



#### 【人間環境学府】

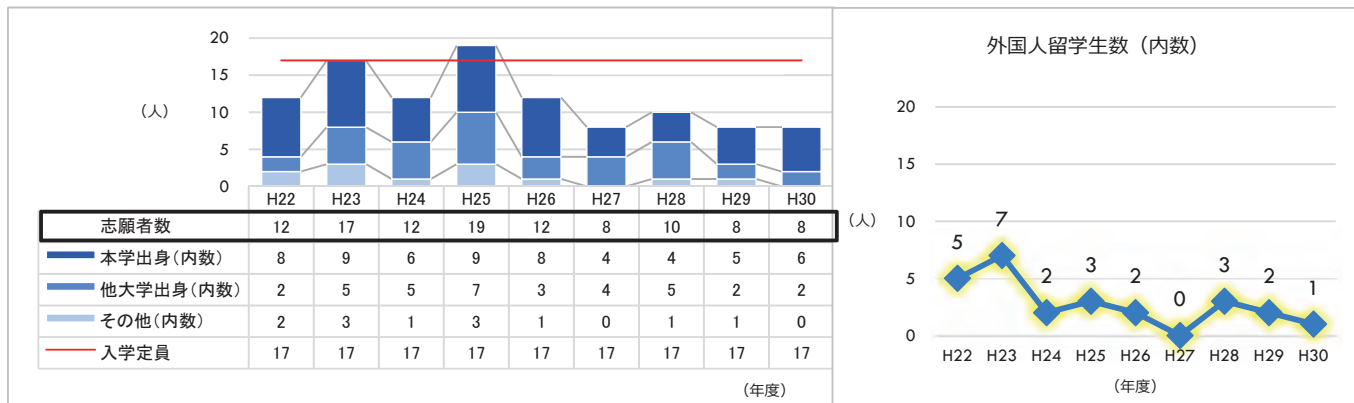


※平成26年度に、比較社会文化学府は地球社会統合科学府へ改組した。

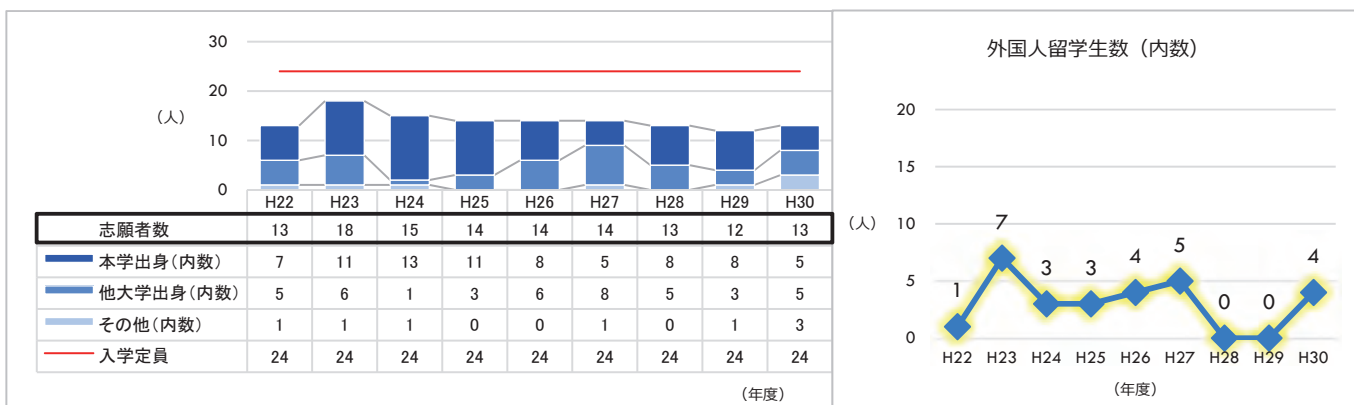
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

### 4-2-3. 志願状況推移(大学院\_博士後期課程)(つづき)

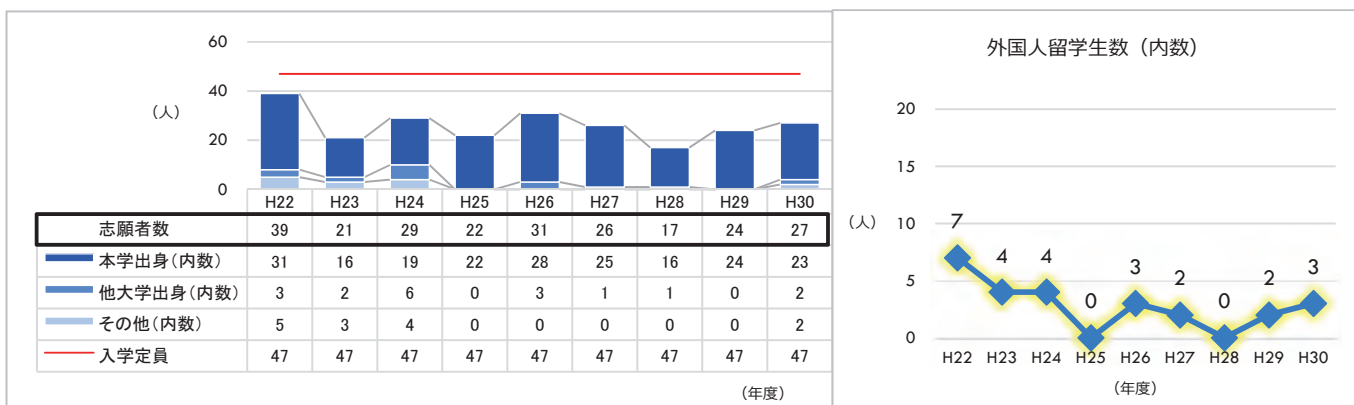
#### 【法学府】



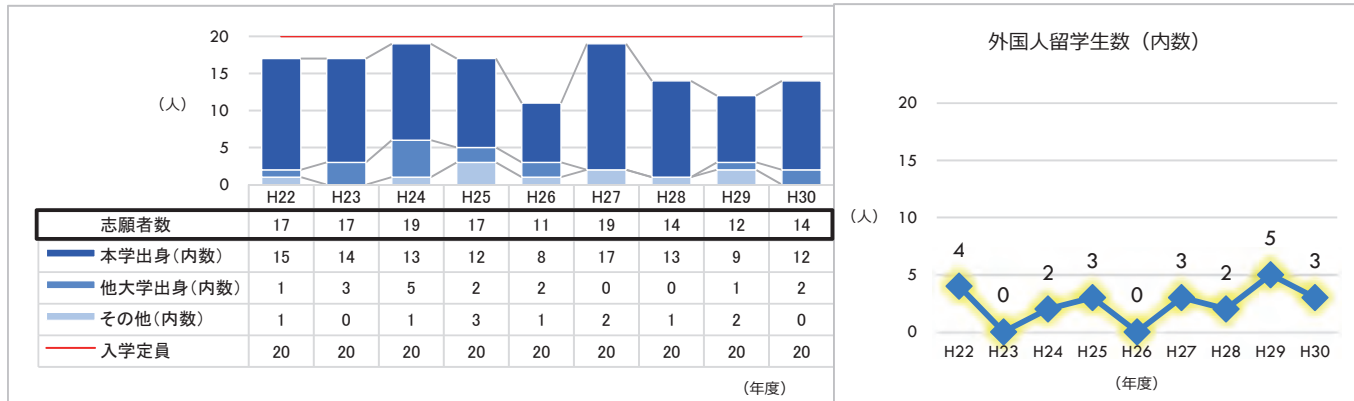
#### 【経済学府】



#### 【理学府】



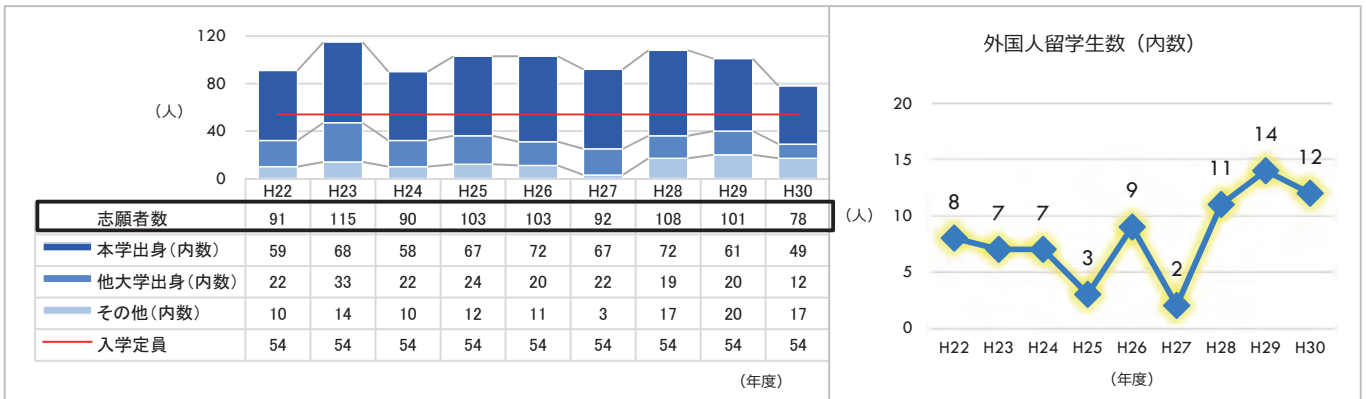
#### 【数理学府】



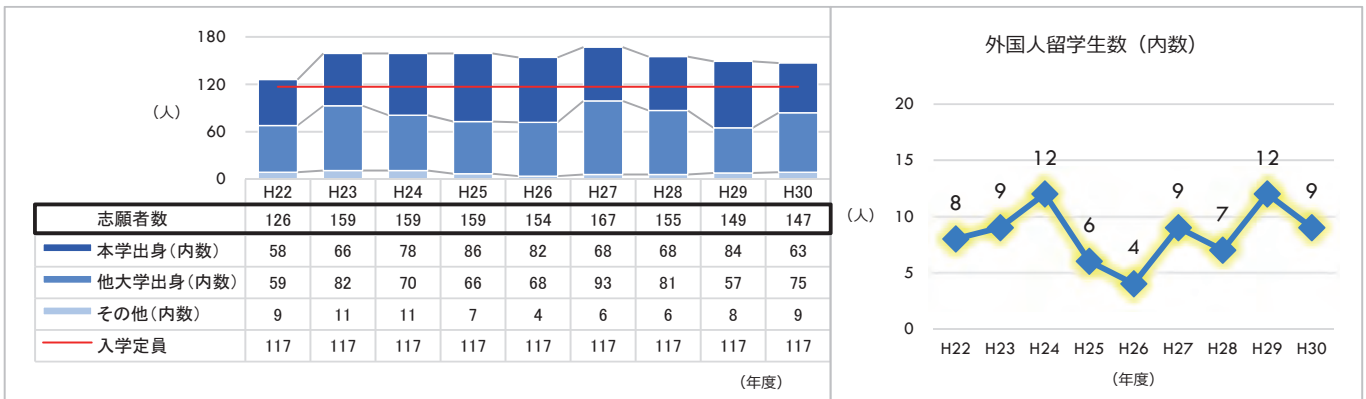
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-3. 志願状況推移(大学院\_博士後期課程)(つづき)

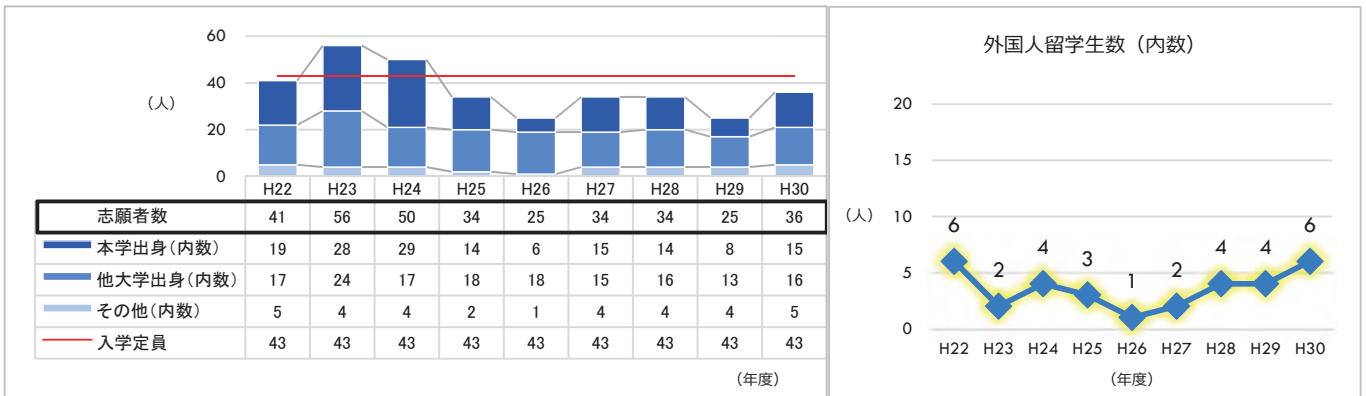
【システム生命科学府】



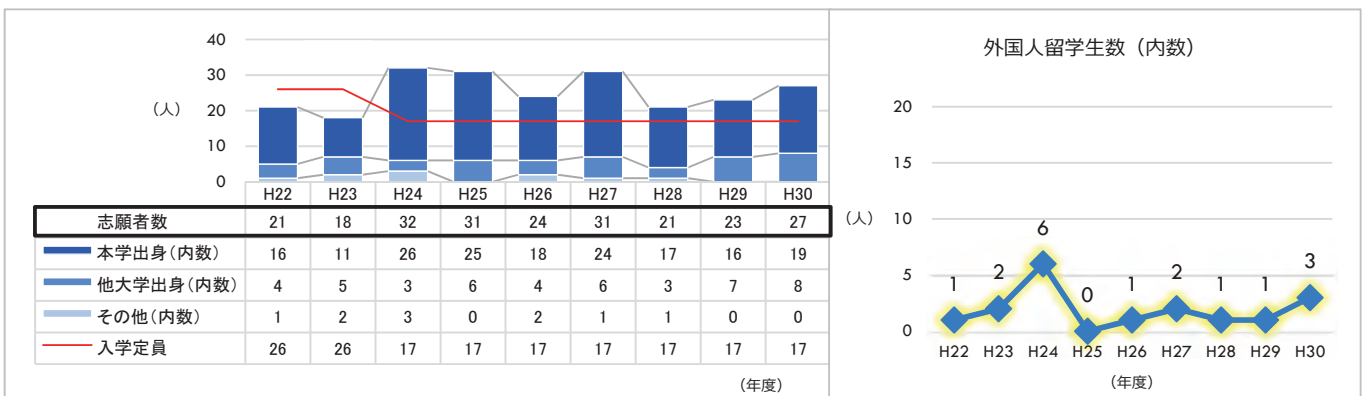
【医学系学府】



【歯学府】



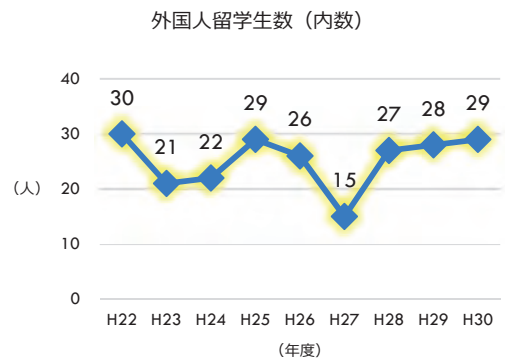
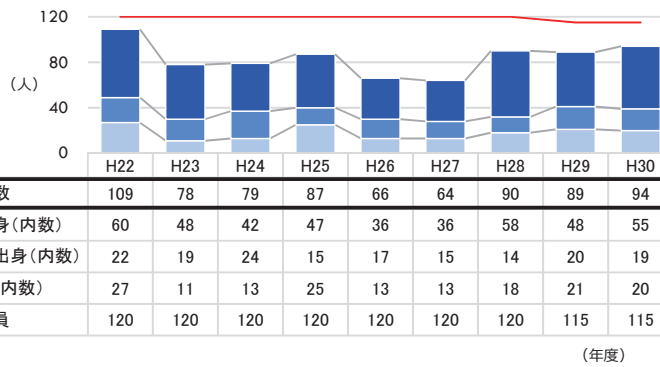
【薬学府】



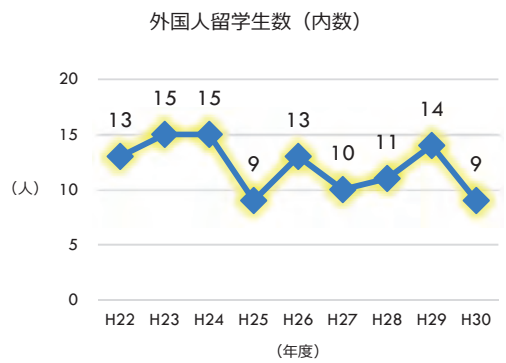
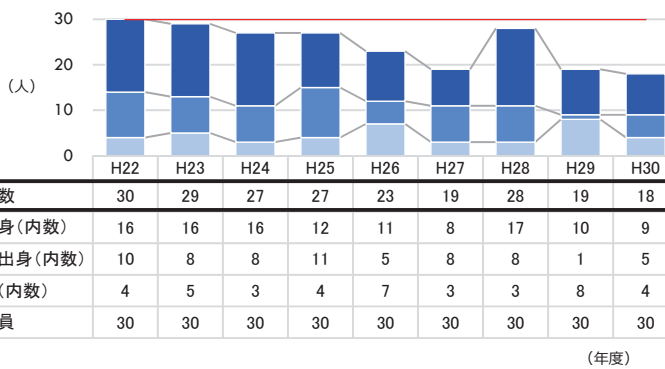
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

### 4-2-3. 志願状況推移(大学院\_博士後期課程)(つづき)

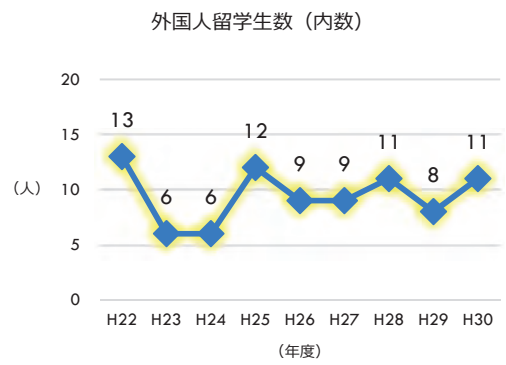
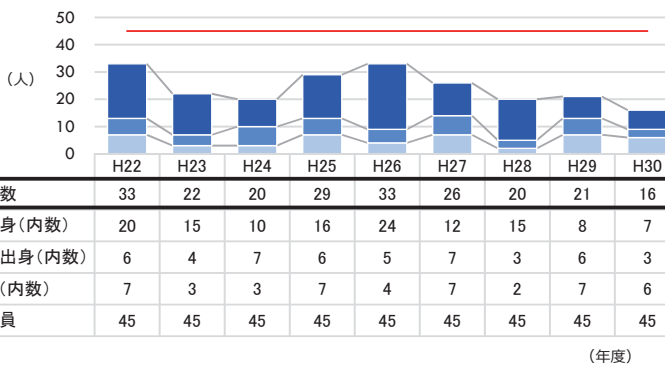
#### 【工学府】



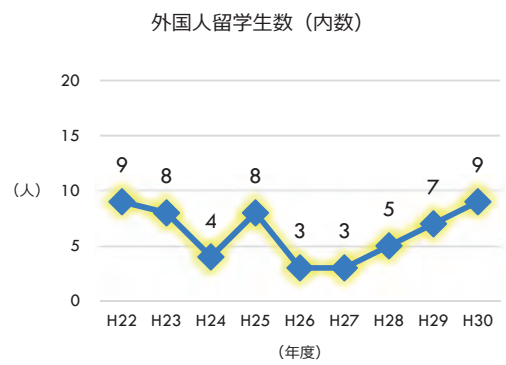
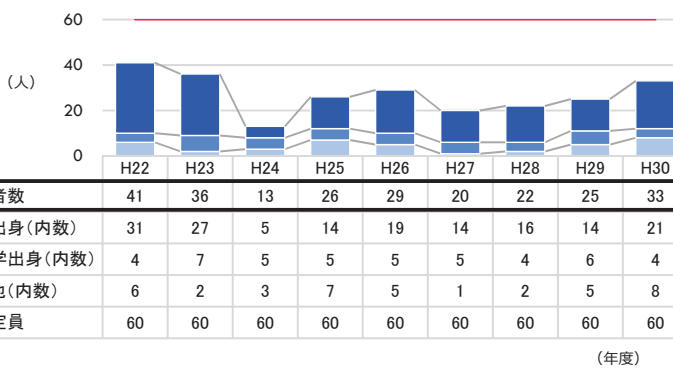
#### 【芸術工学府】



#### 【システム情報科学府】



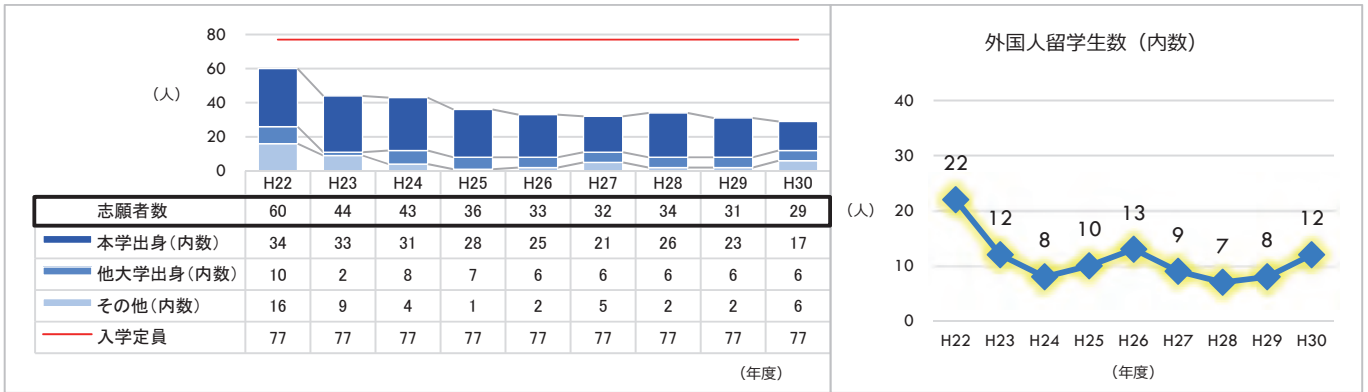
#### 【総合理工学府】



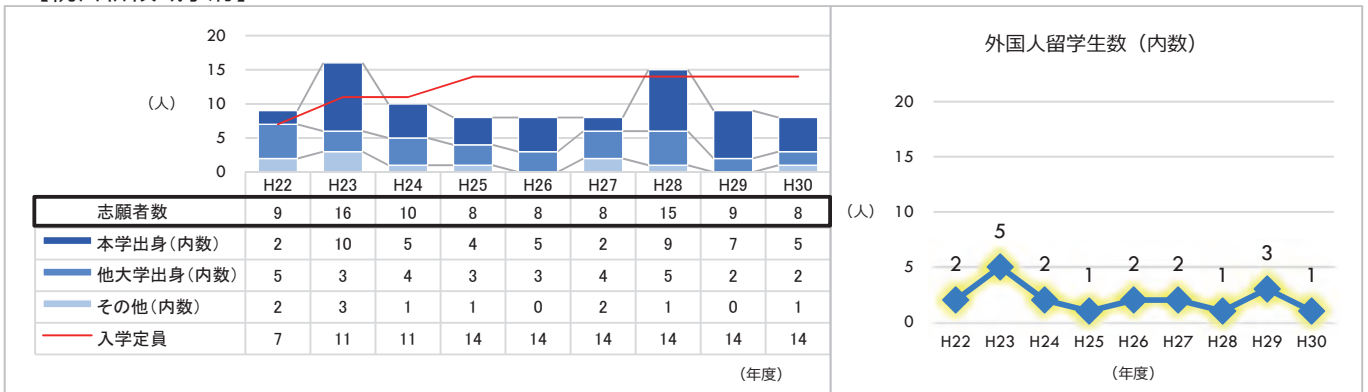
出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-3. 志願状況推移(大学院\_博士後期課程)(つづき)

【生物資源環境府】



【統合新領域学府】



出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院] 入学状況」

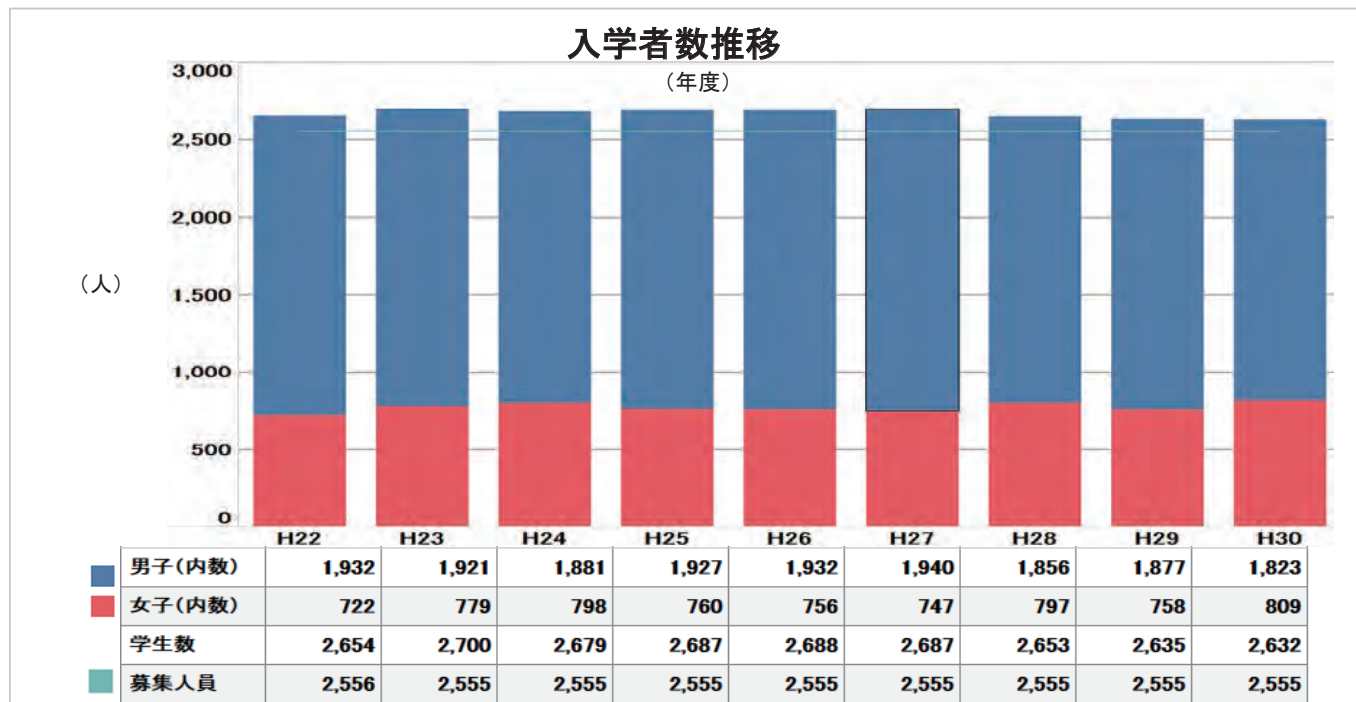
## 5. 入学状況 (各年度4月1日現在)

### 5-1. 入学状況(学部)

#### 5-1-1. 入学者数推移(全体)

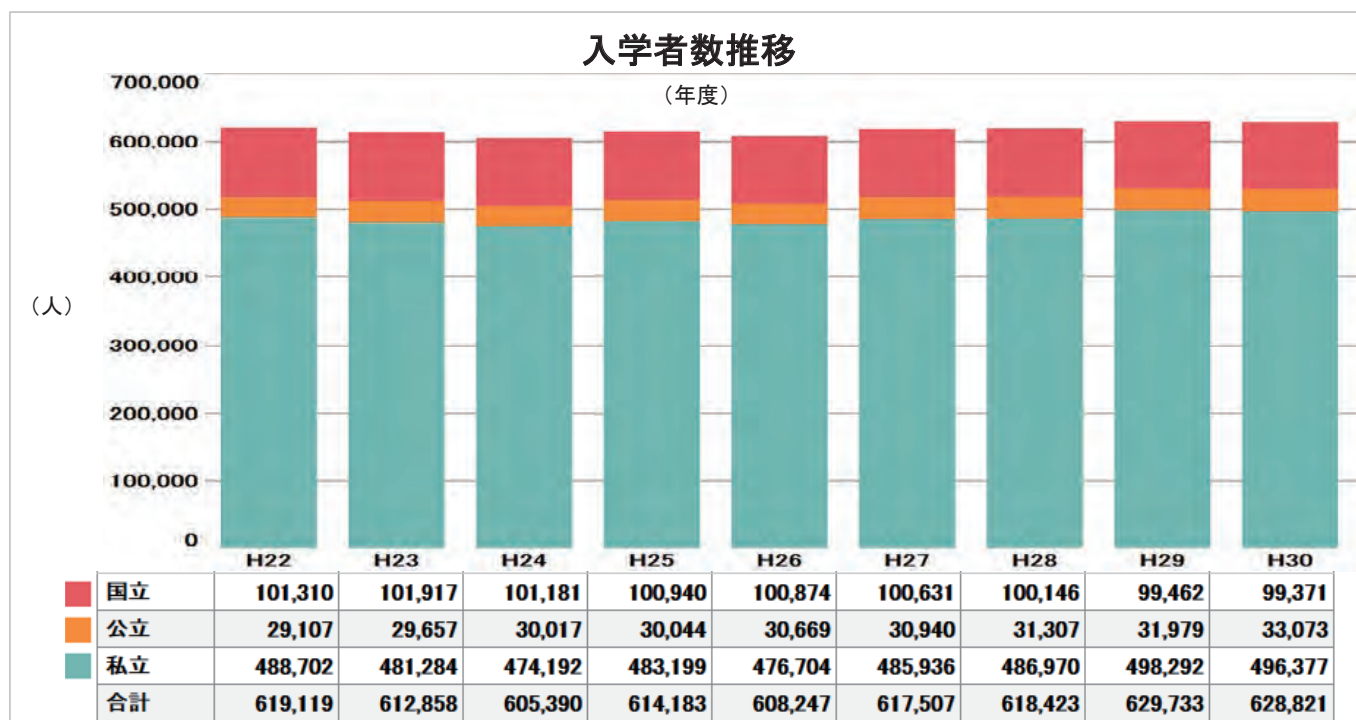
入学者数は、本学を含む国立大学では減少傾向にあるが、公立大学と私立大学は増加傾向にある。

#### ◆九州大学◆



※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

#### ◆全国 国公立大学◆

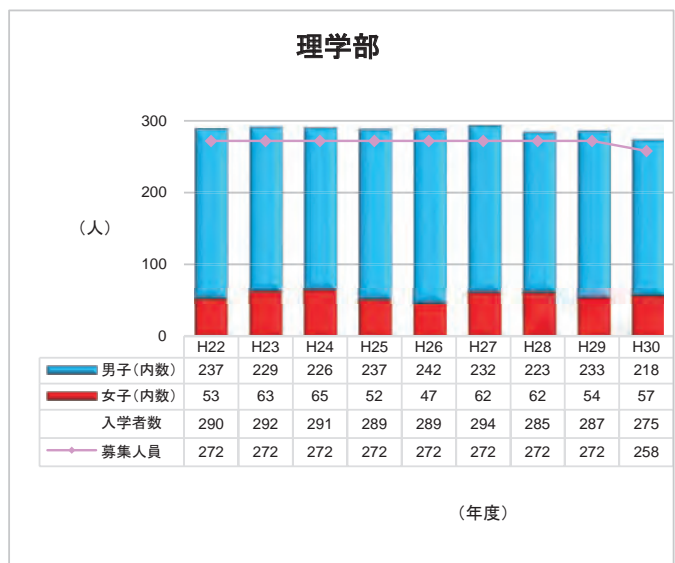
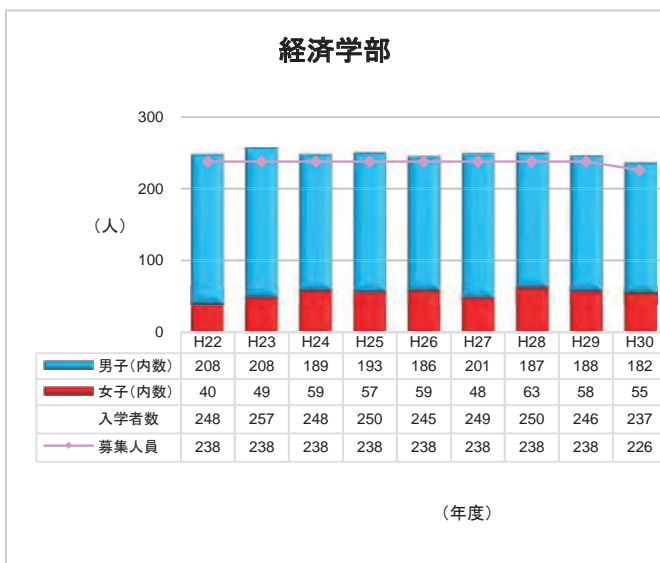
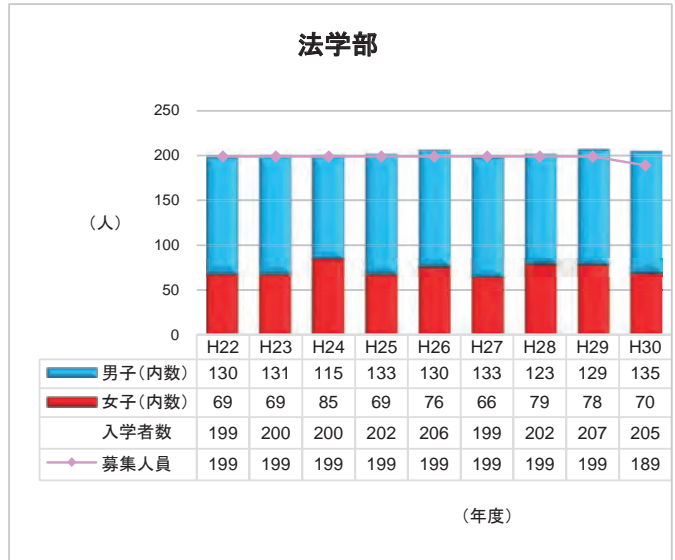
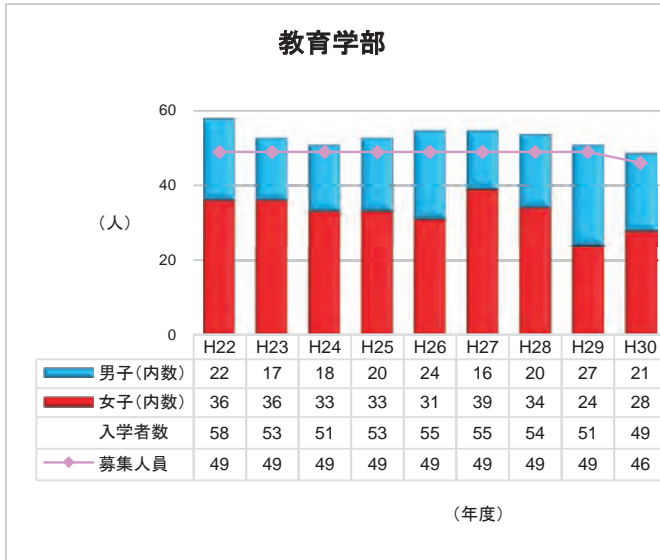
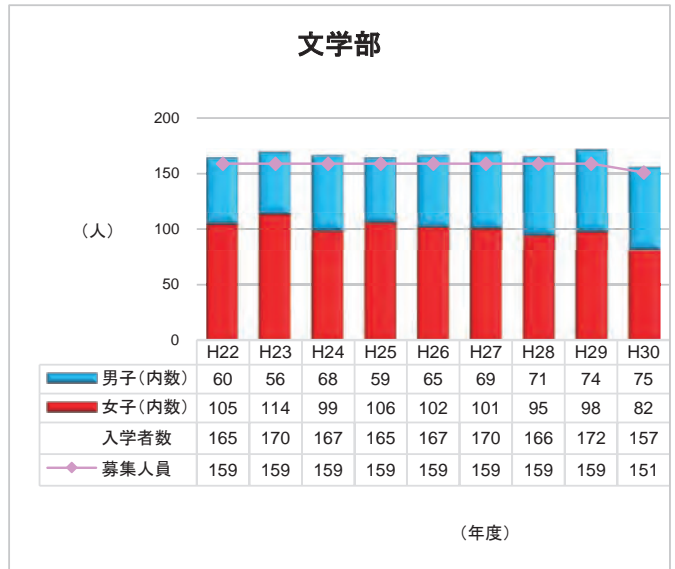
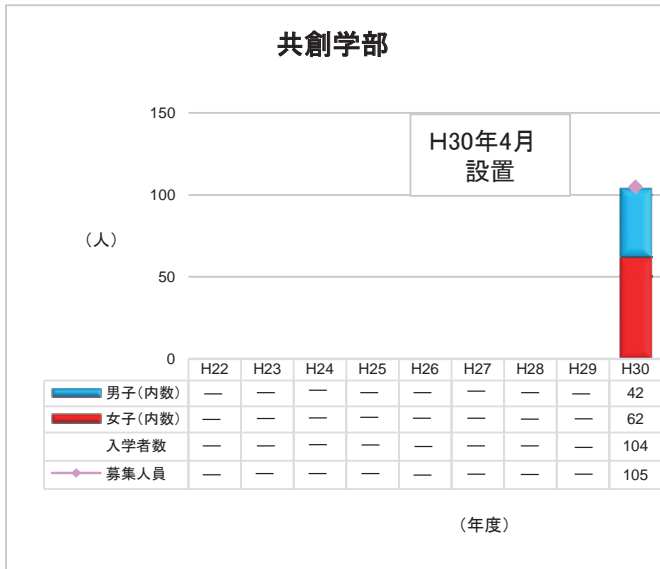


※出典:文部科学省 学校基本調査「入学者数」

\* 入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。

## 5-1-2. 入学者数推移(学部別)

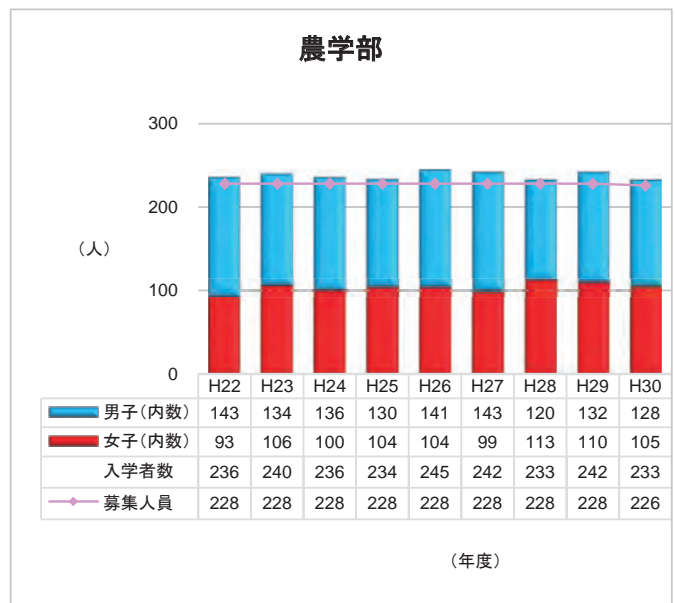
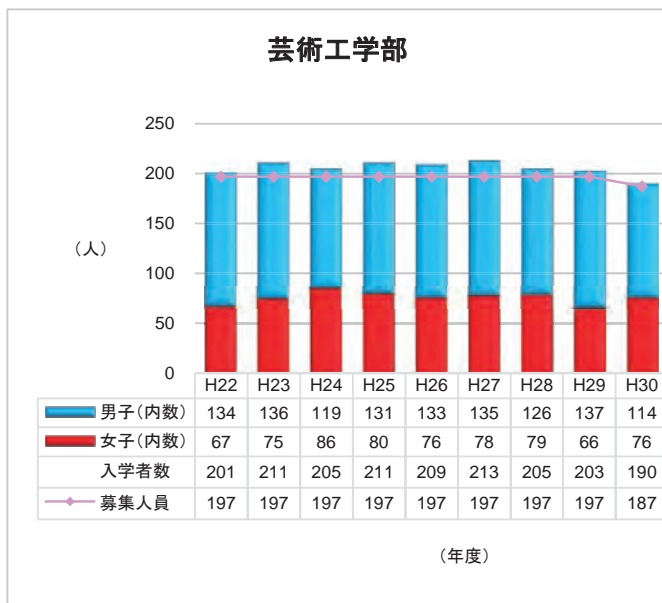
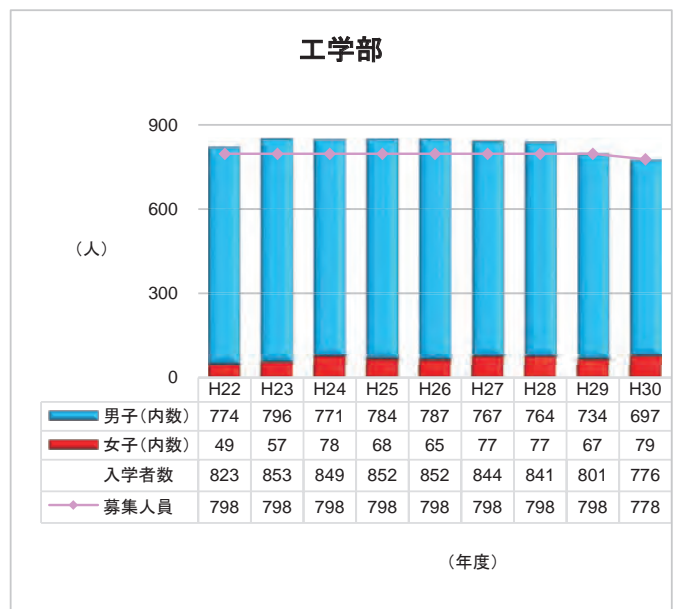
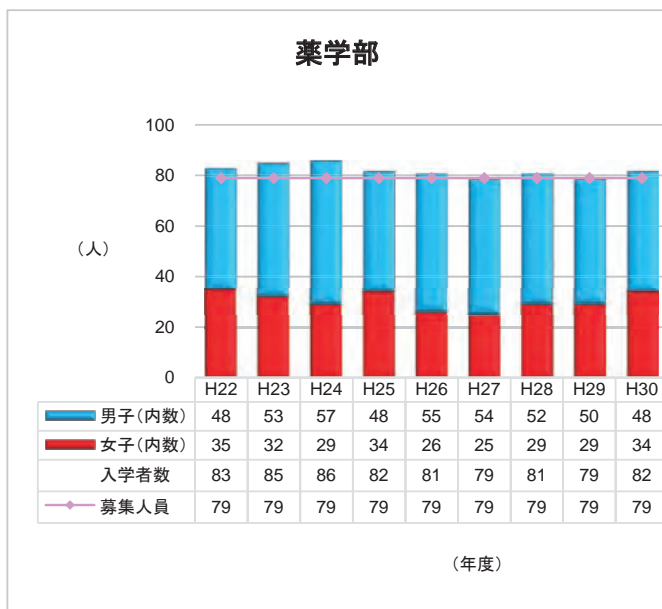
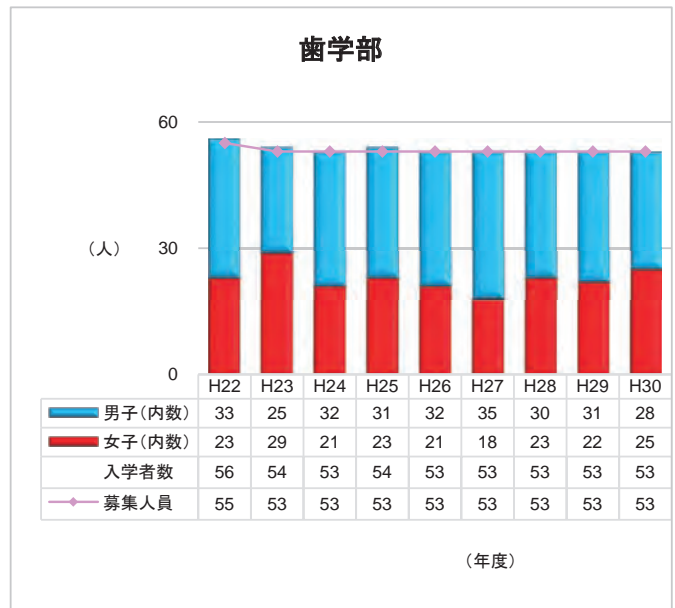
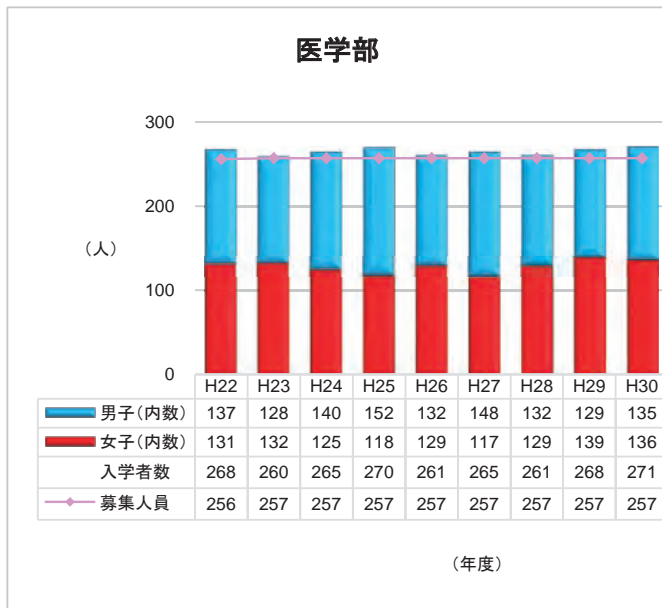
全体的にみて、大幅な増減なく入学者数を確保できている。



※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

\*国費・政府派遣・日韓共同留学生含む。

5-1-2. 入学者数推移(学部別)(つづき)

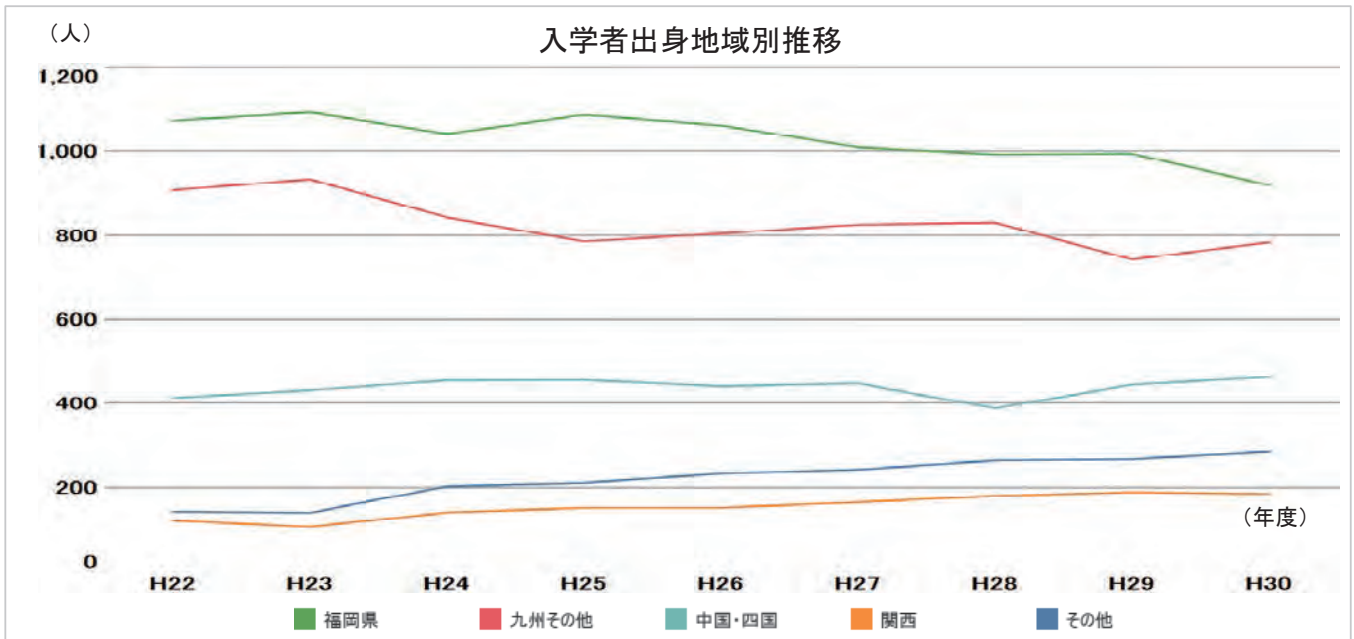


※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在) \*国費・政府派遣・日韓共同留学生含む。



### 5-1-3. 出身地域別入学者状況の経年推移

入学者の出身地域に大きな変化は見られないが、福岡県出身者が減少傾向にあり、関西地域が増加傾向である。



※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

#### 【参考】◆他大学との比較◆

【自分の子どもに入学してほしい】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,272
2	京都大	923
3	早稲田大	450
4	慶應義塾大	423
5	大阪大	241
6	九州大	162
7	東北大	155
8	北海道大	150
9	名古屋大	121
10	神戸大	91

【一般入試合格者のうち入学者の比率(国立大学)】

順位	大学名	%
1	京都大	99.8
1	東京芸術大	99.8
3	東京大	99.4
4	一橋大	99.2
5	鹿屋体育大	99.0
6	群馬大	98.8
7	大阪大	98.6
8	鳴門教育大	98.0
⋮		
21	九州大	95.5

#### ●ランキングの見方：「自分の子供に入学してほしい」

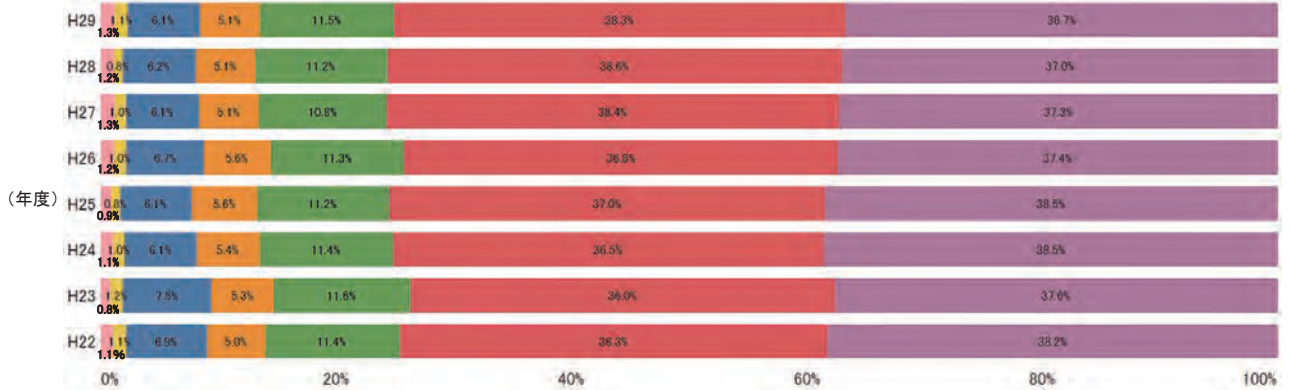
大学通信調べ、全国の社会人を対象としたインターネット調査を実施し、項目別の大学ランキングをまとめた。調査期間は2017年6月。回答者数は1,000人で、大学卒の会社員または公務員が調査対象となる。地域が偏ることなく調査を実施、男女比もほぼ1対1となっている。質問項目に対し、「全国にある大学の中から3大学」と「あなたの住むエリアおよび近隣にある大学から3大学」の最大6校を回答してもらい、回答順にそれぞれ3ポイント、2ポイント、1ポイントとして集計した。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2019年度版」

## 【参考】所在地域・県別の国公立大学入学者数

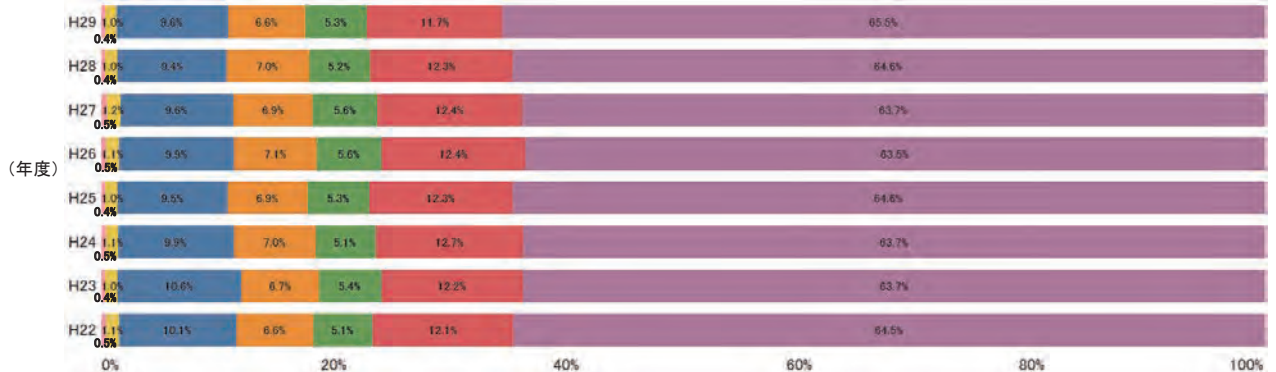
福岡県の高校卒業者の大学進学先について、地域別にまとめたものである。  
 国立大学では、75%が九州・沖縄地方の大学へ、次いで、中国・四国地方に11%、関東地方に6%となっており、西日本の大学への入学者が多いことが分かる。国公立大学で見ると、福岡県の大学への進学者が60%を超える状況が続いていることが分かる。

### ◆国立大学◆



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北海道・東北地方	55	41	54	46	61	63	57	61
中部地方	54	59	50	38	50	49	38	54
関東地方	342	382	300	296	335	306	299	292
近畿地方	246	270	264	274	284	254	246	243
中国・四国地方	563	593	560	546	569	540	542	550
九州・沖縄地方(福岡県以外)	1,798	1,841	1,801	1,811	1,853	1,912	1,866	1,839
福岡県	1,894	1,921	1,900	1,881	1,880	1,858	1,788	1,763
合計	4,952	5,107	4,929	4,892	5,032	4,982	4,836	4,802

### ◆国公立大学◆



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北海道・東北地方	108	98	106	99	103	120	94	92
中部地方	262	236	236	228	252	276	237	234
関東地方	2,301	2,416	2,181	2,120	2,232	2,202	2,153	2,212
近畿地方	1,501	1,518	1,545	1,545	1,596	1,565	1,609	1,537
中国・四国地方	1,161	1,223	1,120	1,180	1,253	1,271	1,188	1,219
九州・沖縄地方(福岡県以外)	2,769	2,776	2,782	2,765	2,789	2,841	2,807	2,701
福岡県	14,731	14,502	14,002	14,471	14,317	14,545	14,741	15,162
合計	22,833	22,769	21,972	22,408	22,542	22,820	22,829	23,157

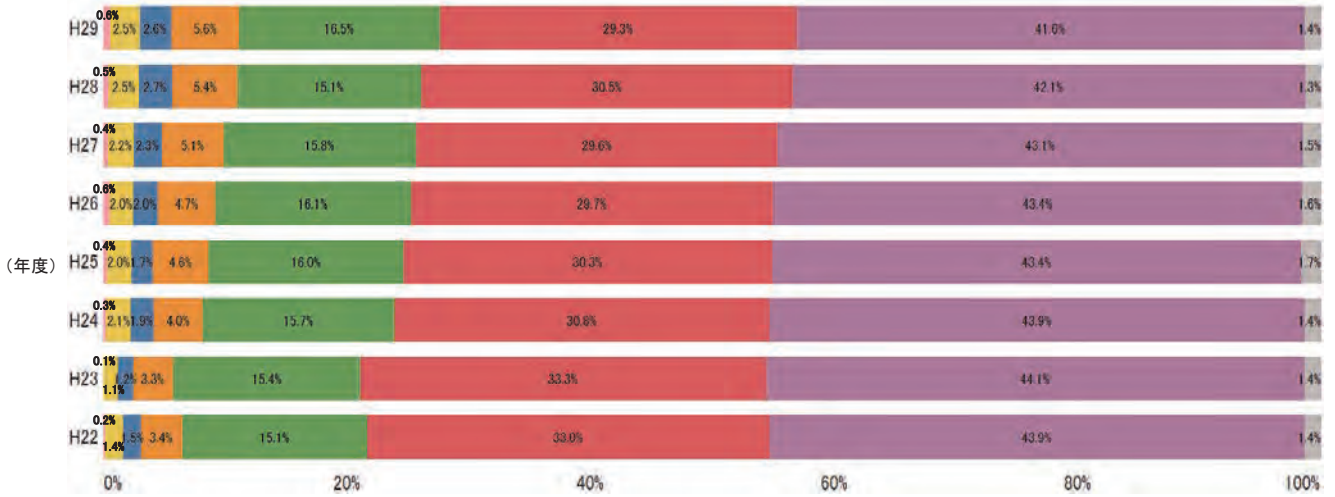


※出典:文部科学省 学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」

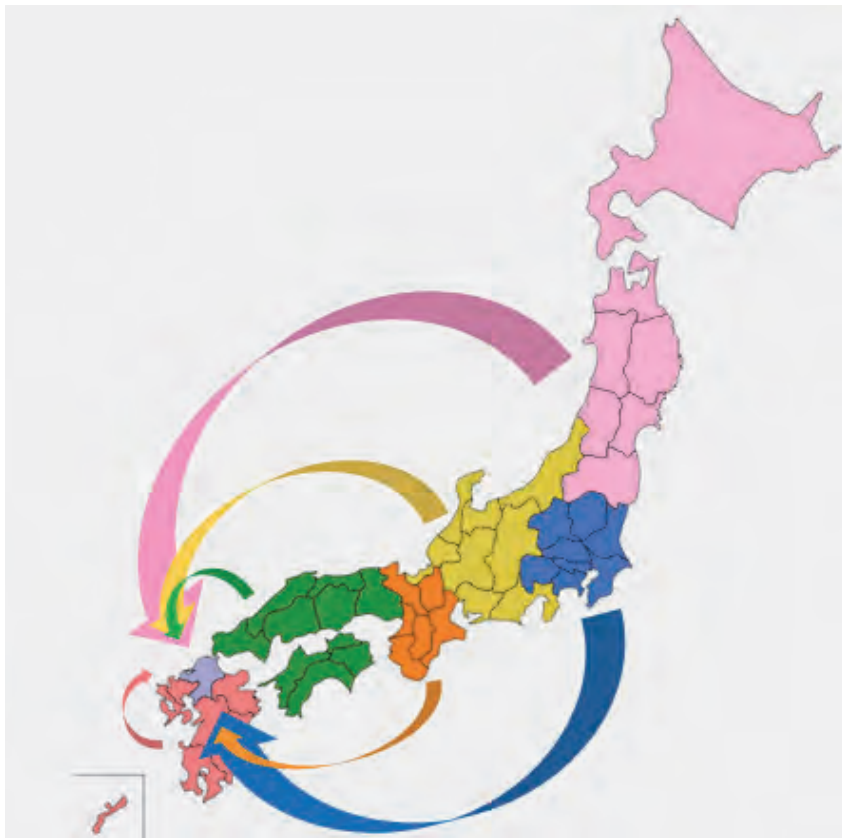
## 【参考】福岡県の国立大学入学者数

福岡県の国立大学に全国の高校卒業者が入学した人数をまとめたものである。

福岡県の大学に入学する高校卒業者の70%が九州・沖縄地方出身である。次いで、中国・四国地方出身が16%、近畿地方が5%となっており、福岡県の大学に入学する高校卒業者の9割が、西日本出身であることがわかる。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北海道・東北地方	9	4	11	16	24	18	20	26
中部地方	62	50	89	86	85	93	106	104
関東地方	65	54	81	75	86	98	115	108
近畿地方	147	142	175	200	205	219	230	235
中国・四国地方	653	672	680	694	697	681	640	699
九州・沖縄地方(福岡県以外)	1,424	1,451	1,334	1,312	1,286	1,278	1,295	1,239
福岡県	1,894	1,921	1,900	1,881	1,880	1,858	1,788	1,763
その他	59	62	59	72	70	66	55	60
合計	4,313	4,356	4,329	4,336	4,333	4,311	4,249	4,234



※出典:文部科学省 学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」

\* 入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない

\* 大学の所在地は、入学した学部所在地による

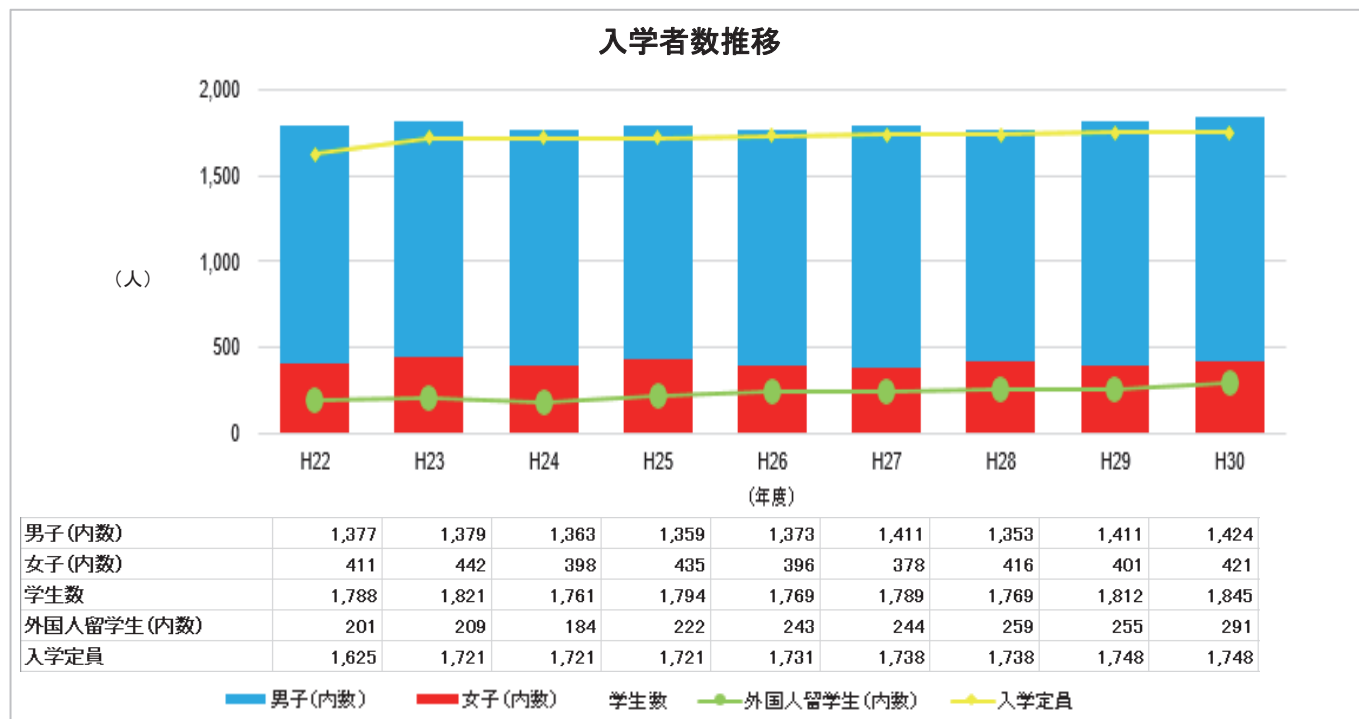
\* 「その他」とは、「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である(学校教育法施行規則第150条)

## 5-2. 入学状況(修士課程)

### 5-2-1. 入学者数推移(全体)

全国の入学者数は減少傾向にあるが、本学は一定の入学者数を確保できている。また、外国人留学生の入学者数は増加傾向にある。

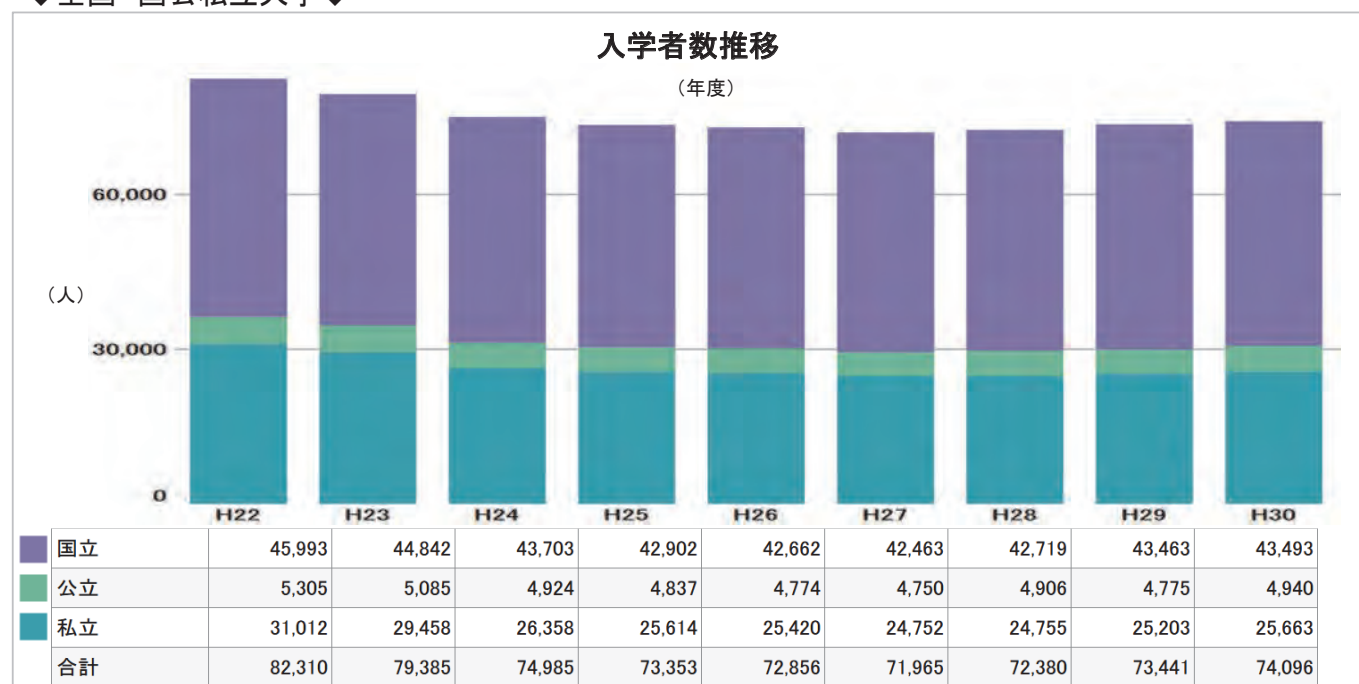
#### ◆九州大学◆



・専門職学位課程は含まない。

※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

#### ◆全国 国公立大学◆



※出典：文部科学省学校基本調査「入学者数」

\*入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない

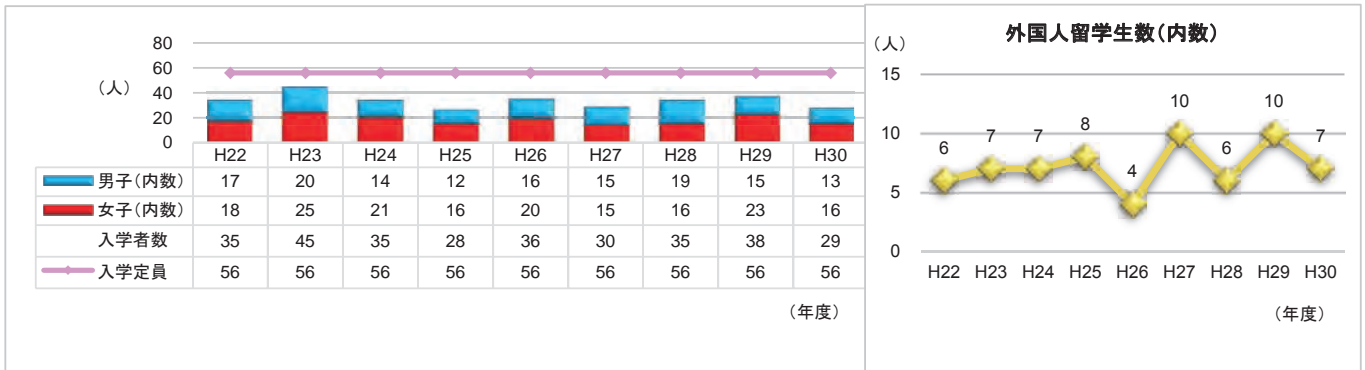
\*大学院研究科の「入学者」を、入学した専攻分野により分類(付属資料一学科系統分類表による)したものである

\*「修士課程」には、修士課程及び博士前期課程(歯医学、薬学(修業年限4年)獣医学関係以外の一貫制課程の1・2年次の課程を含む)入学者が含まれる

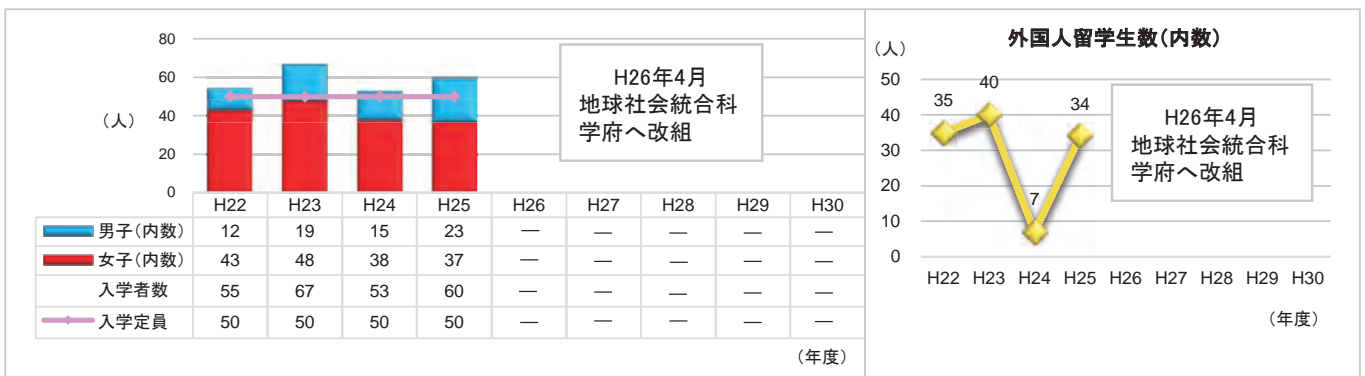
## 5-2-2. 入学者数推移(学府別)

学府別にみると、人文科学府及び法学府、生物資源環境学府の入学者数が少ないが、全体で見ると男子学生が多い印象を受ける。

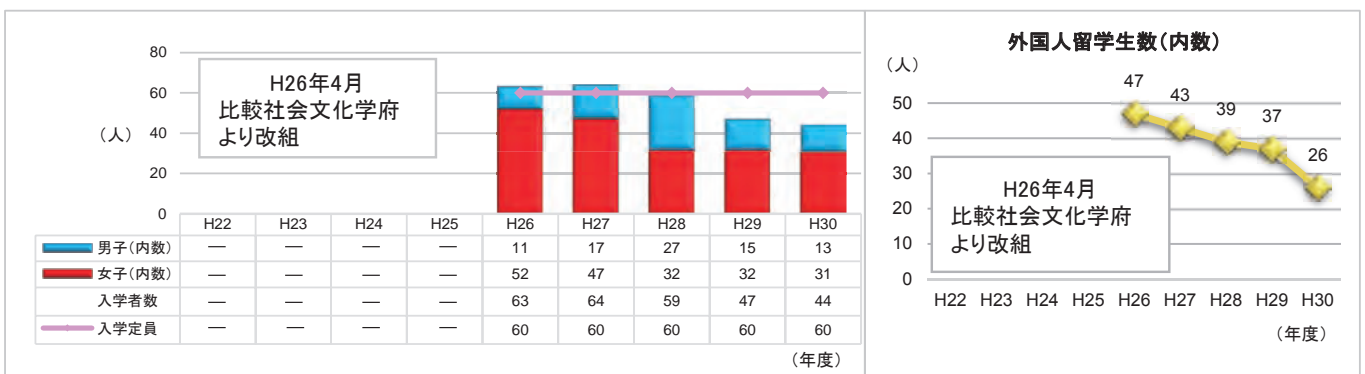
### 【人文科学府】



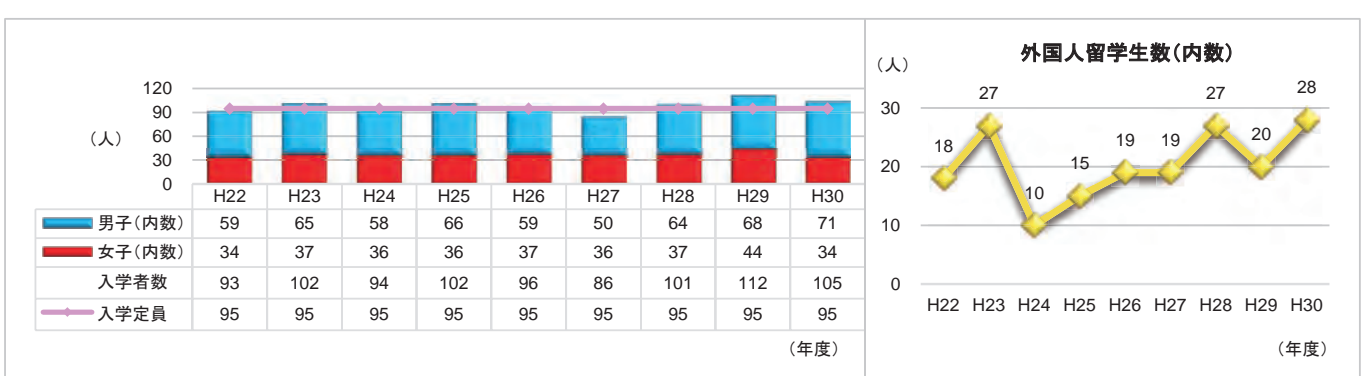
### 【比較社会文化学府】



### 【地球社会統合科学府】



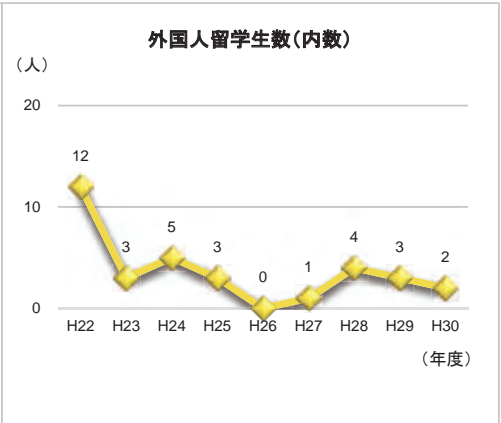
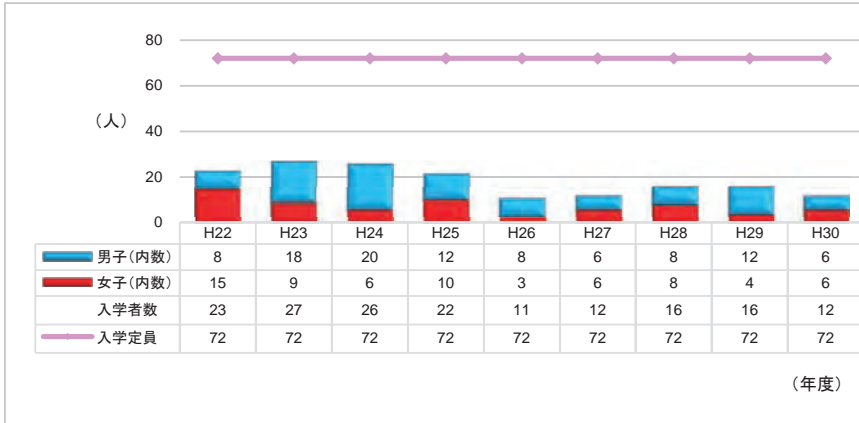
### 【人間環境学府】



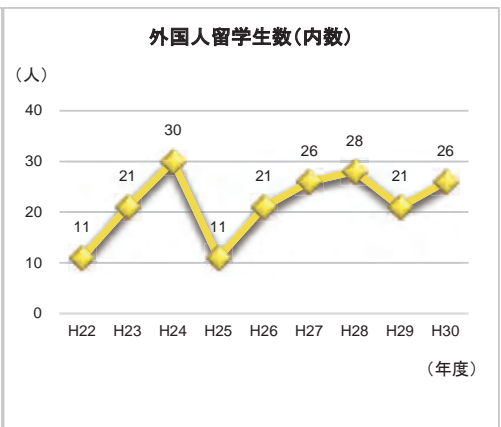
※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

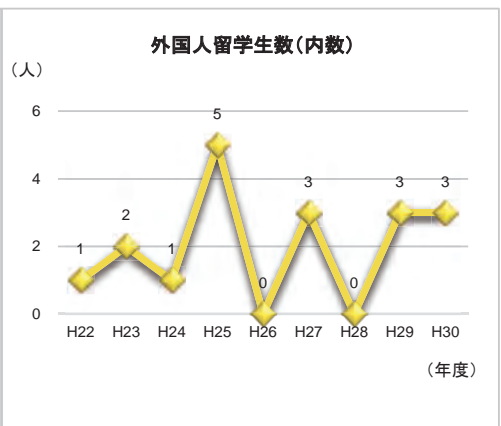
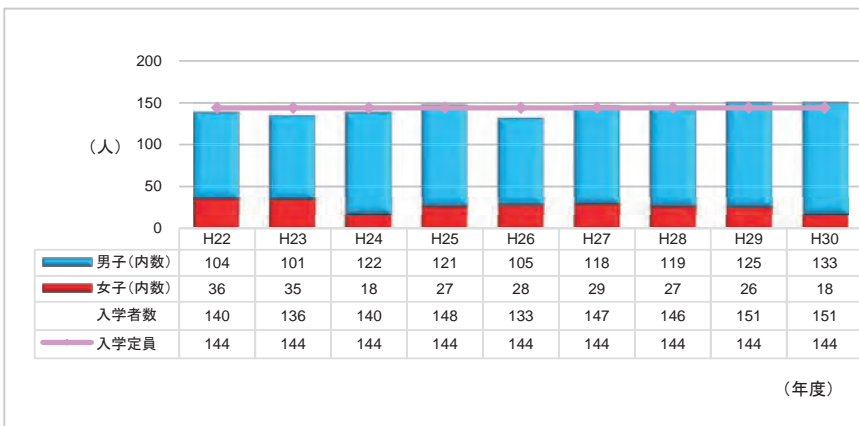
【法学府】



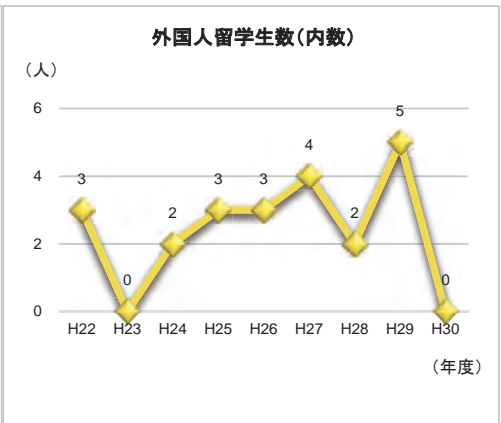
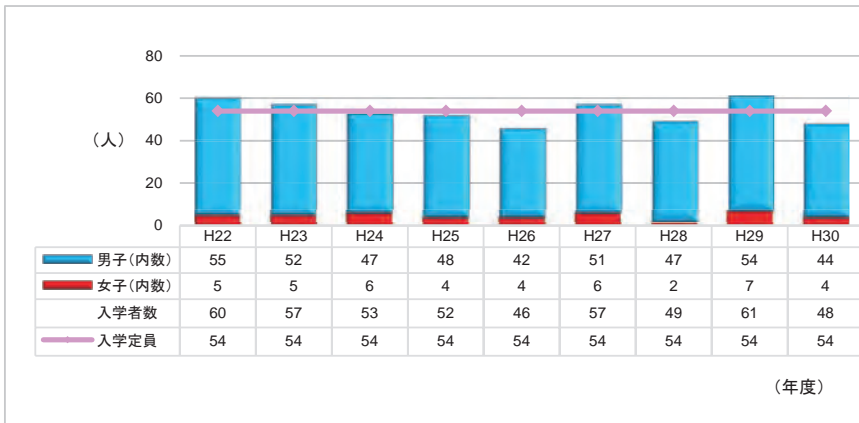
【経済学府】



【理学府】



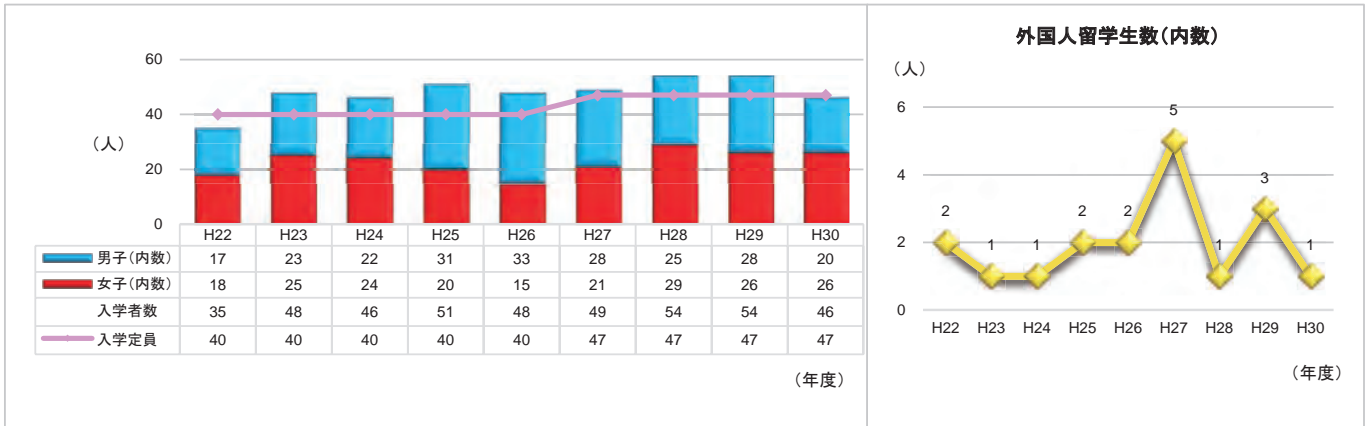
【数理学府】



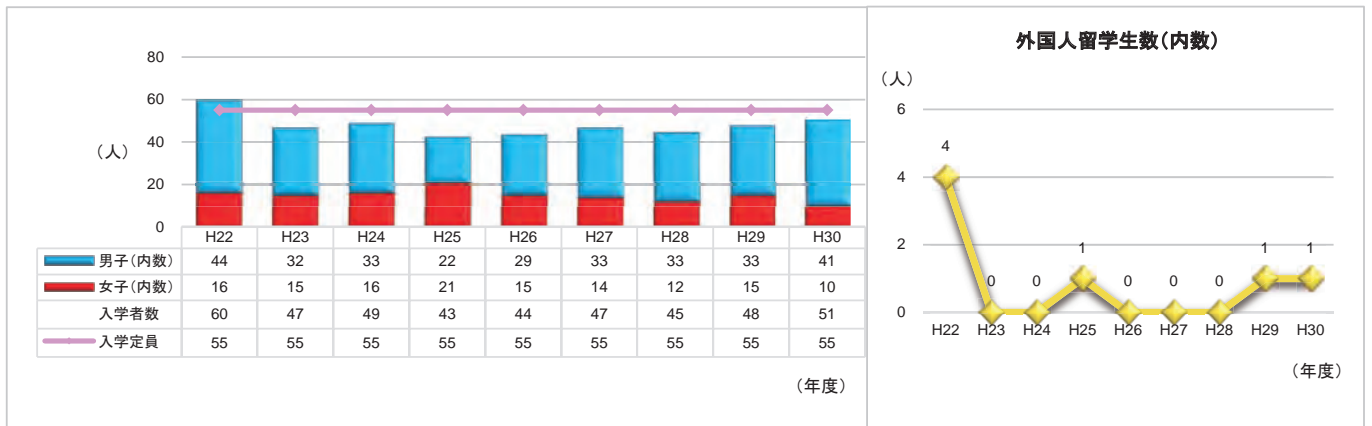
※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

## 5-2-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

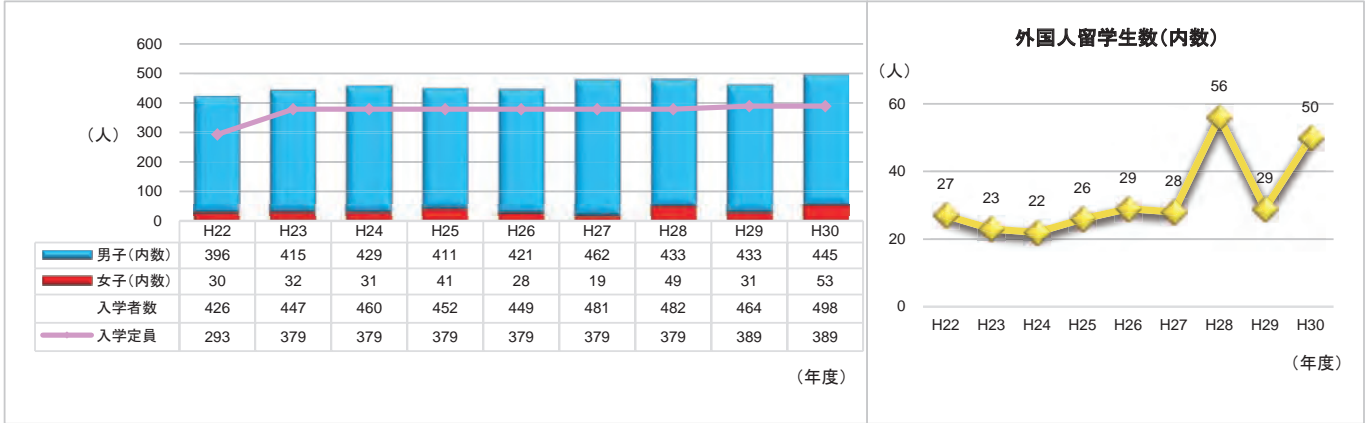
### 【医学系学府】



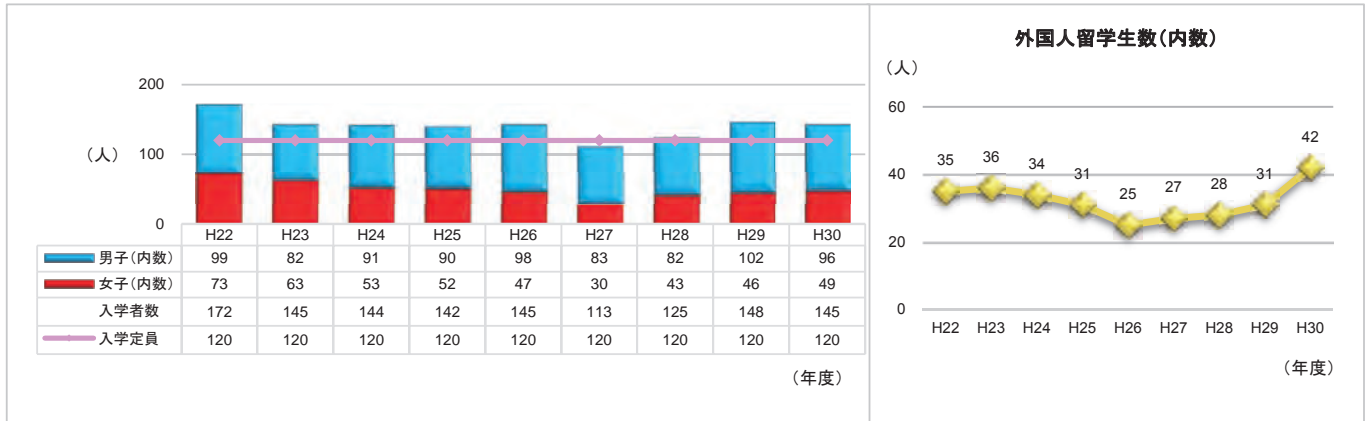
### 【薬学府】



### 【工学府】



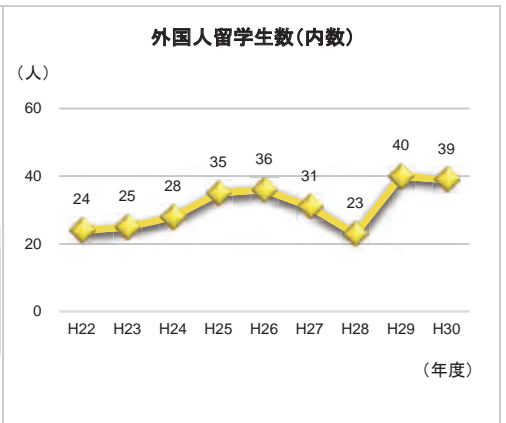
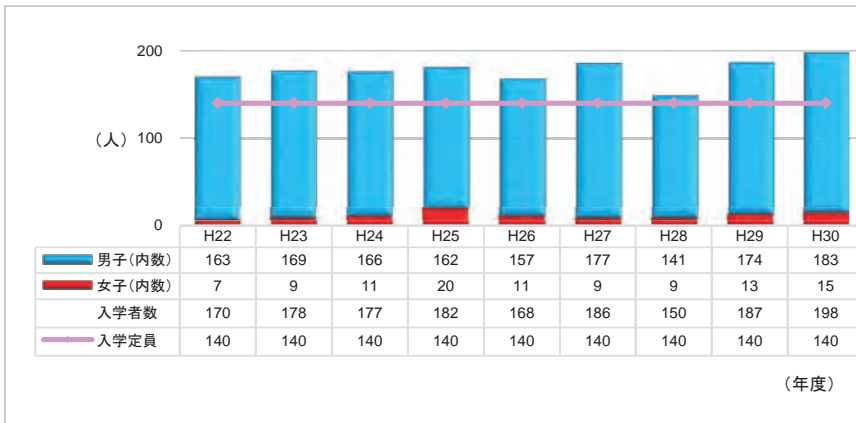
### 【芸術工学府】



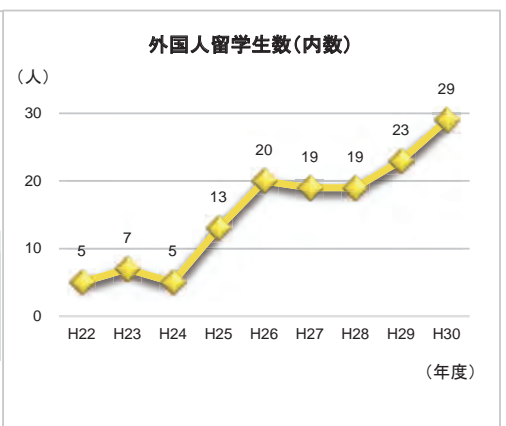
※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

## 5-2-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

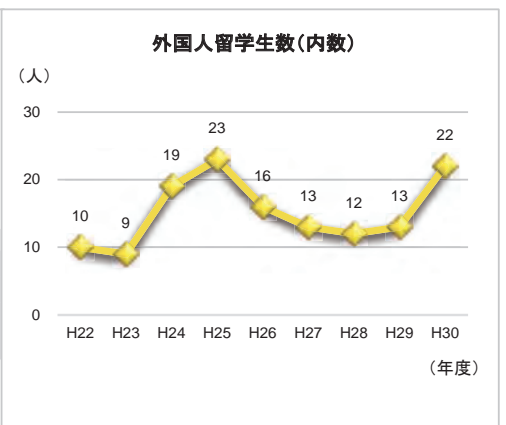
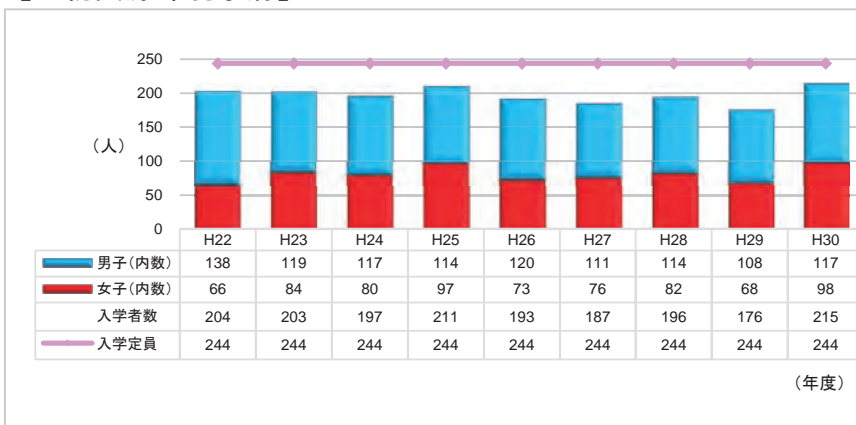
### 【システム情報科学府】



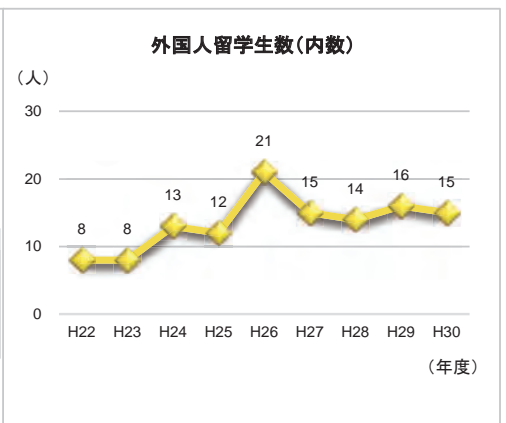
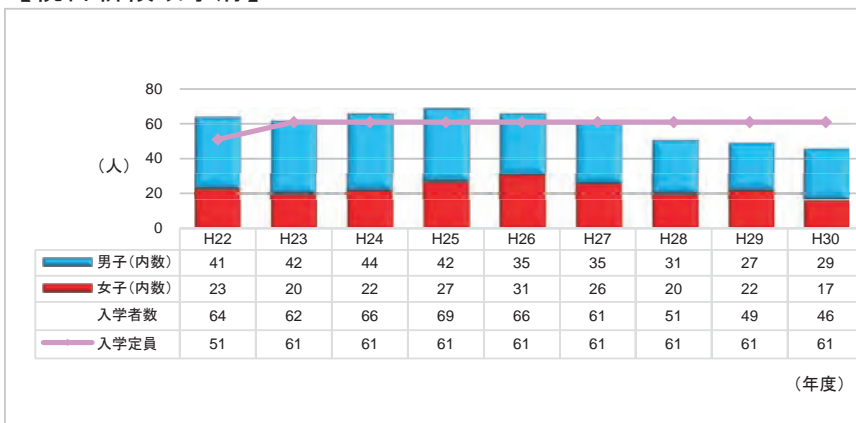
### 【総理工学府】



### 【生物資源環境学府】



### 【統合新領域学府】



※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

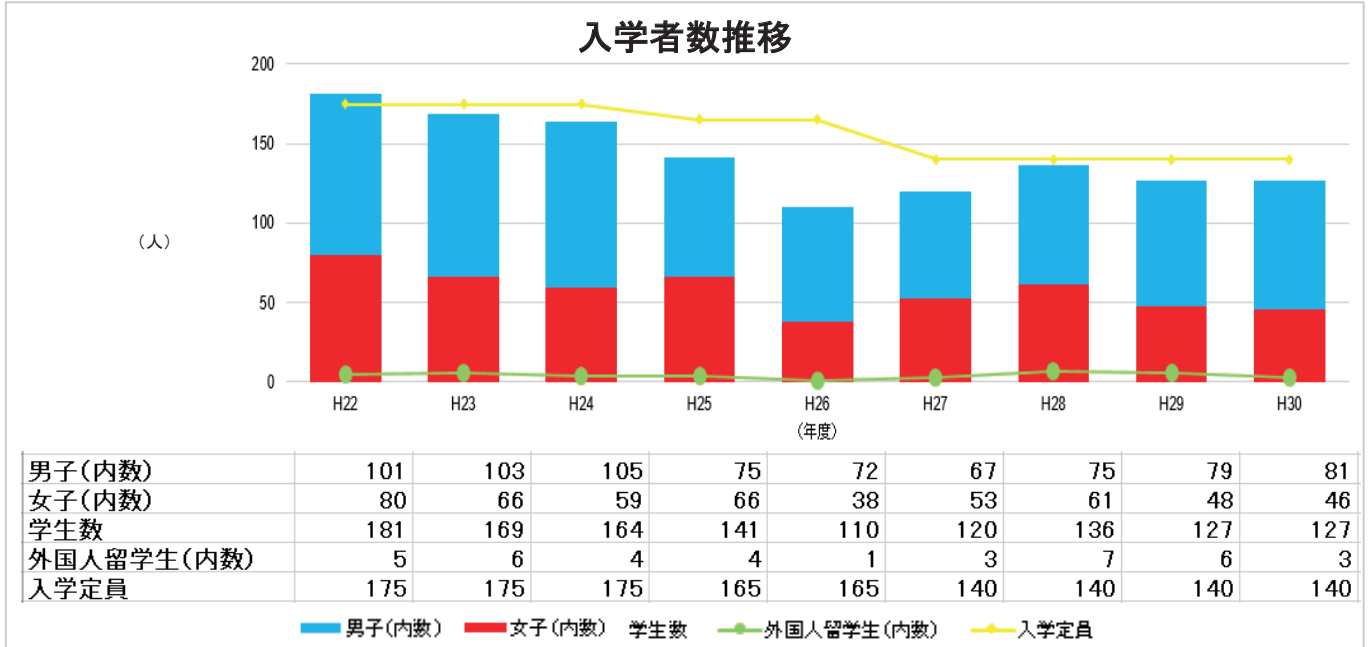


## 5-3. 入学状況(専門職学位課程)

### 5-3-1. 入学者数推移(全体)

全国、本学ともに入学者数は減少傾向にある。

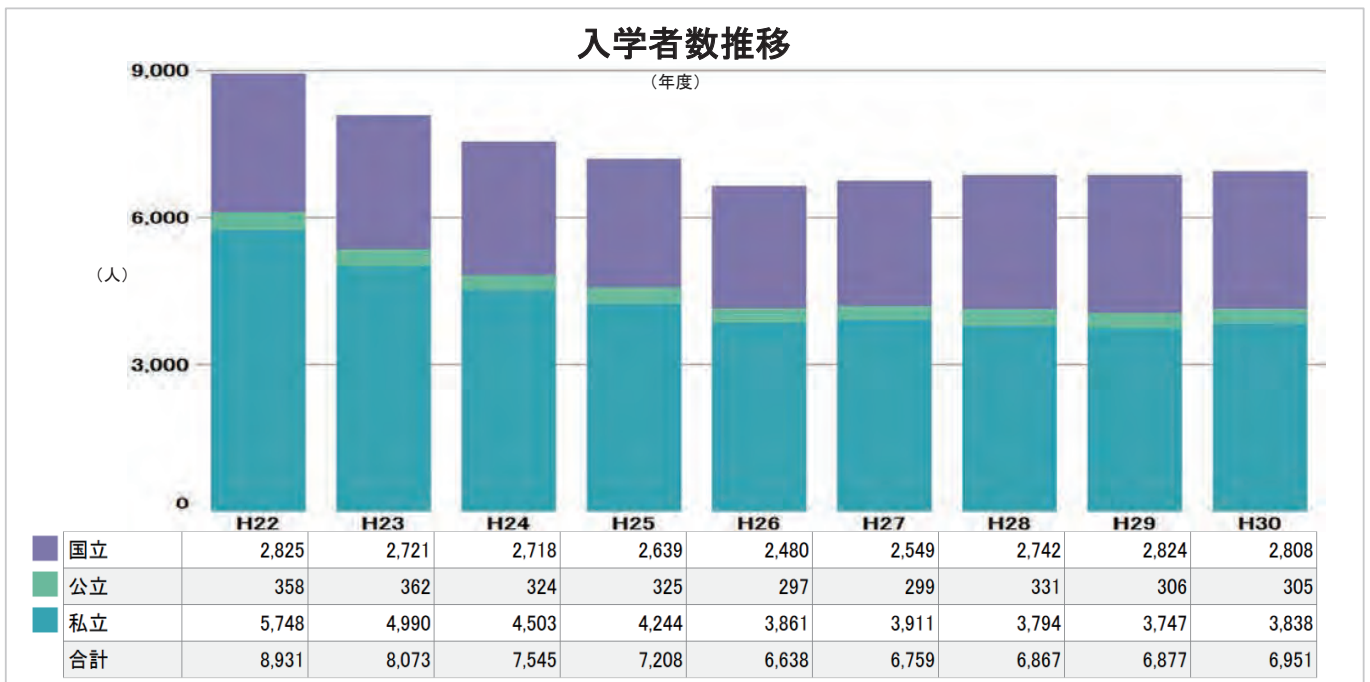
#### ◆九州大学◆



・専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】  
 法務学府実務法学専攻【法科大学院】  
 経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】  
 医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

#### ◆全国 国公立大学◆

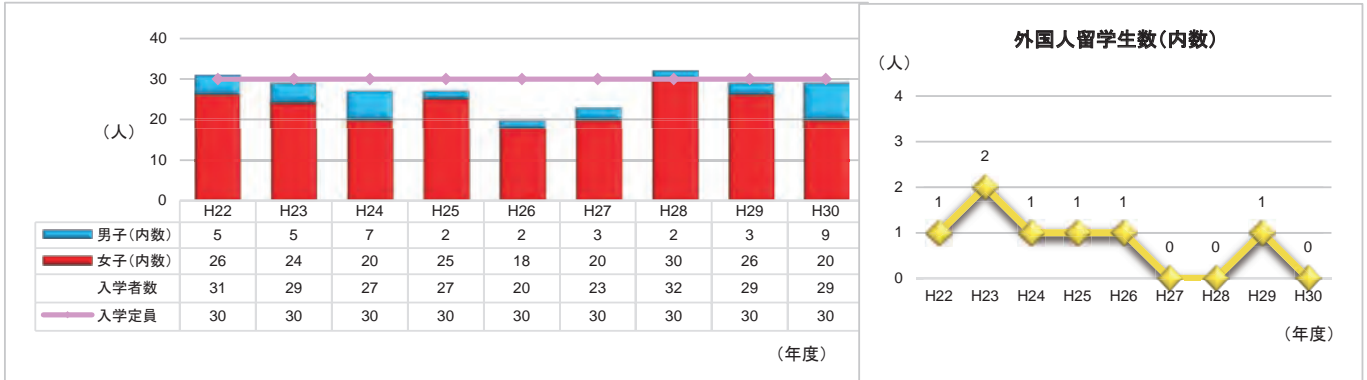


※出典：文部科学省学校基本調査「入学者数」

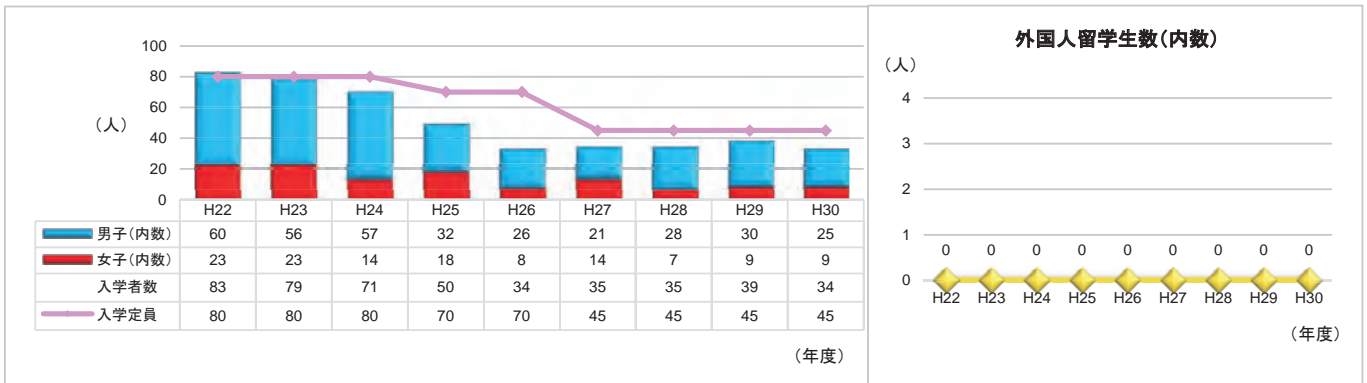
## 5-3-2. 入学者数推移(学府別)

外国人留学生数が他の課程と比較すると少ない。入学者数の男女比が学府別に大きく異なる。

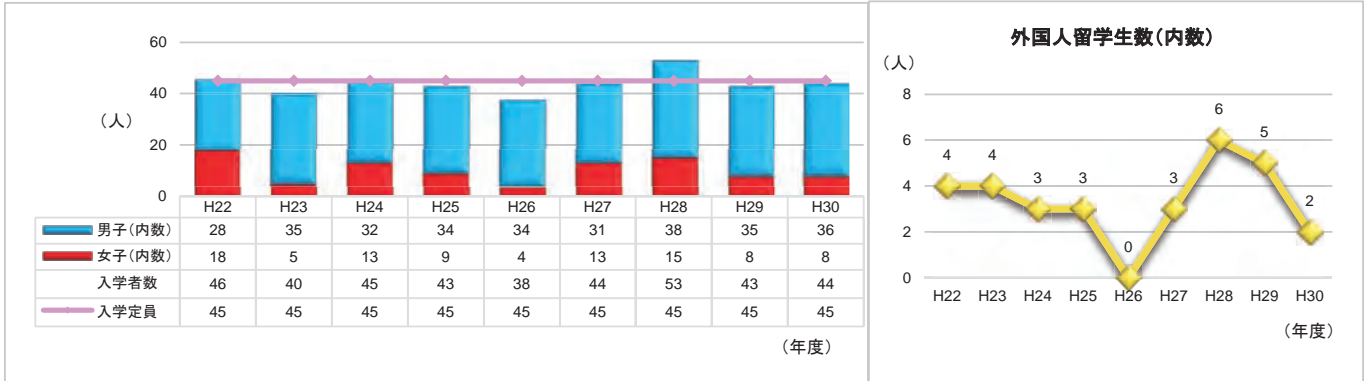
### 人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】



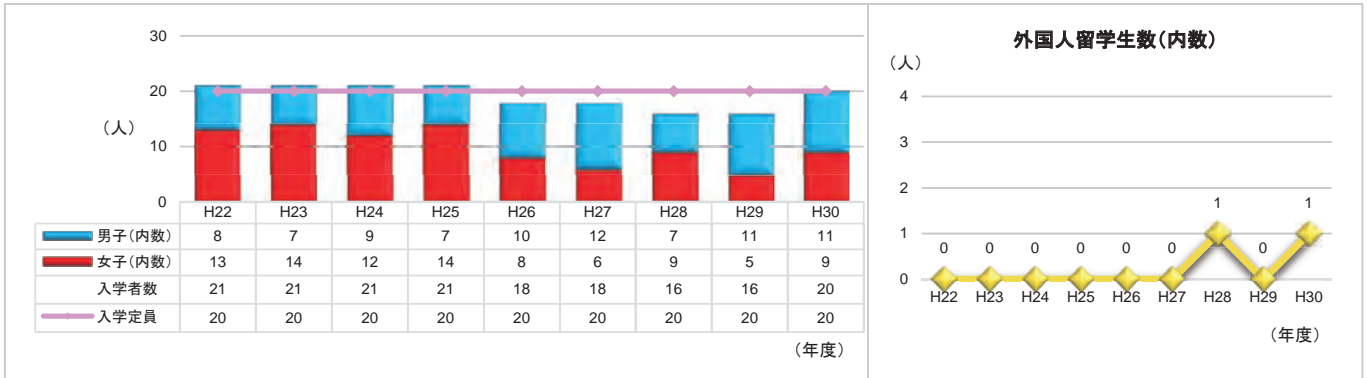
### 法務学府実務法学専攻【法科大学院】



### 経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】



### 医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】



※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

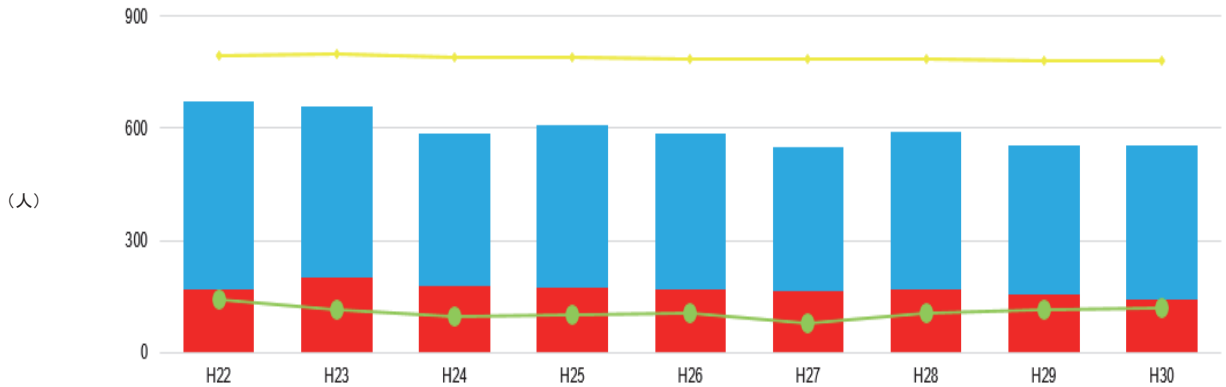
## 5-4. 入学状況(博士後期課程)

### 5-4-1. 入学者数推移(全体)

全国、本学ともに、入学者数は減少傾向にある。

#### ◆九州大学◆

入学者数推移



男子(内数)	502	457	409	438	420	385	422	399	415
女子(内数)	170	200	178	172	167	166	170	157	141
学生数	672	657	587	610	587	551	592	556	556
外国人留学生(内数)	142	116	96	100	106	79	103	116	120
入学定員	795	799	790	790	785	785	785	780	780

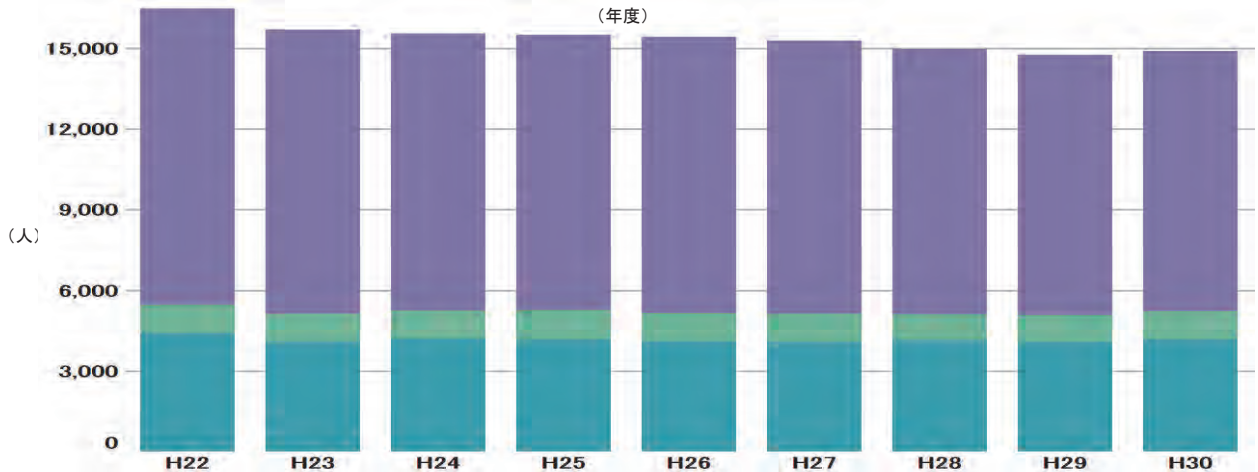
男子(内数) 女子(内数) 学生数 外国人留学生(内数) 入学定員

・専門職学位課程は含まない。

※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

#### ◆全国 国公立大学◆

入学者数推移



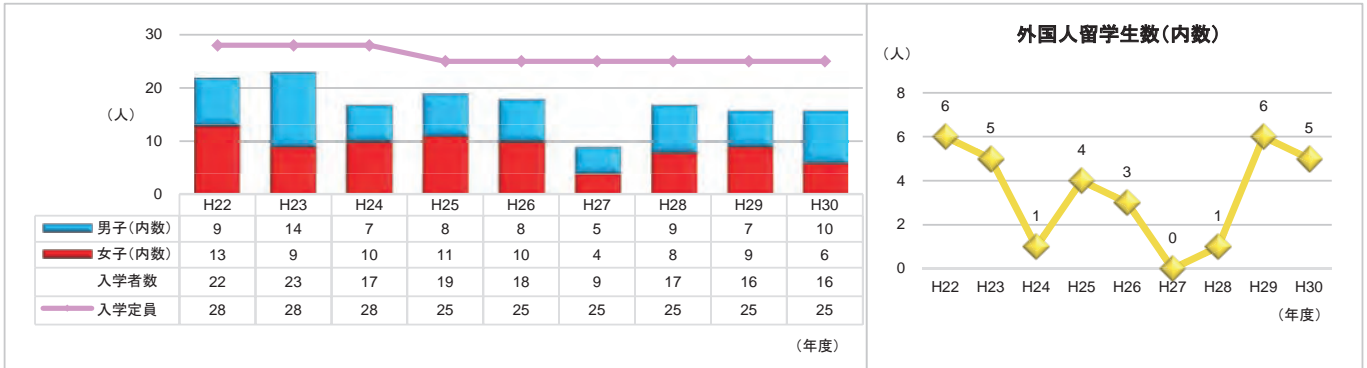
国立	11,021	10,557	10,322	10,230	10,260	10,162	9,862	9,688	9,688
公立	1,050	1,041	1,032	1,086	1,062	1,054	969	998	1,055
私立	4,400	4,087	4,203	4,175	4,096	4,067	4,141	4,080	4,161
合計	16,471	15,685	15,557	15,491	15,418	15,283	14,972	14,766	14,904

※出典:文部科学省学校基本調査「入学者数」

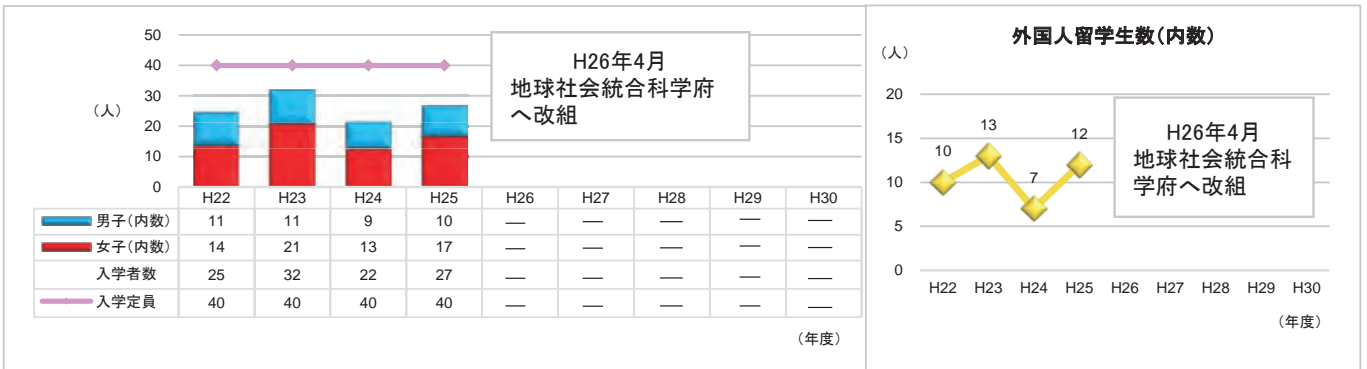
## 5-4-2. 入学者数推移(学府別)

入学定員に満たない学府が多い。学府・年度により人数は異なり増減はあるものの、外国人留学生数は横ばい傾向である。

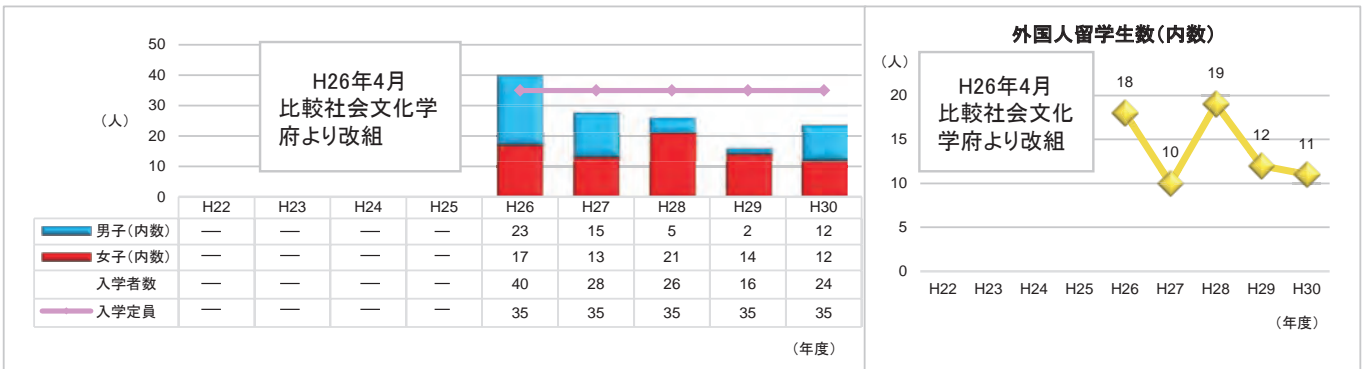
### 【人文科学府】



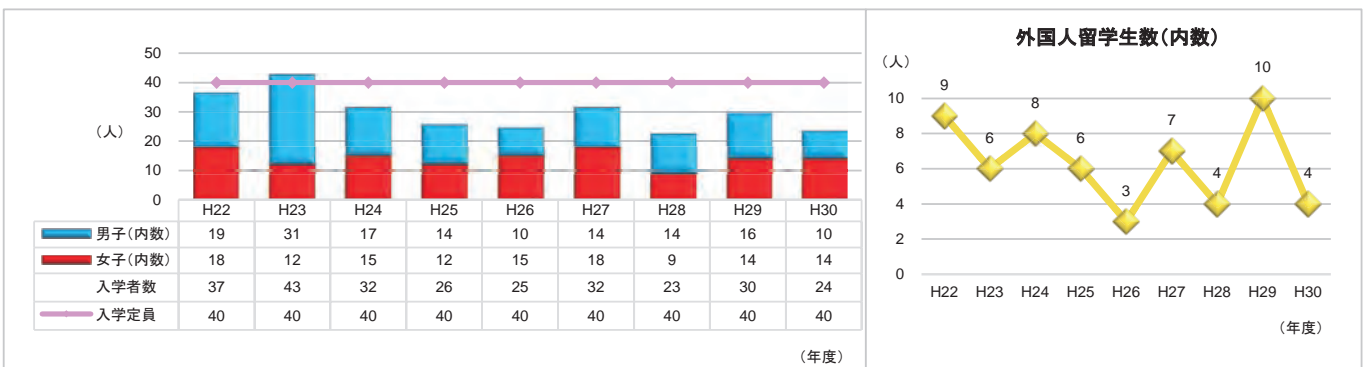
### 【比較社会文化学府】



### 【地球社会統合科学府】



### 【人間環境学府】



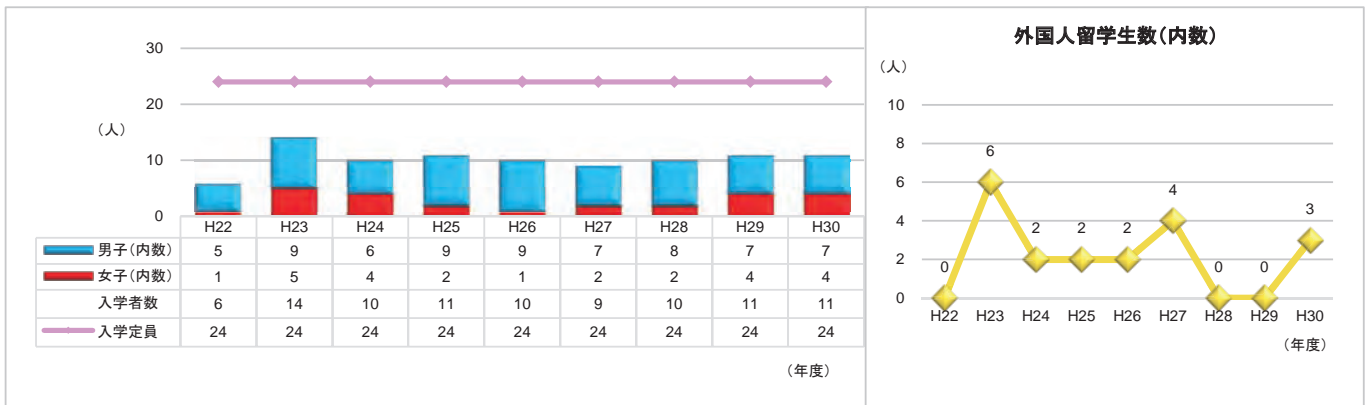
※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

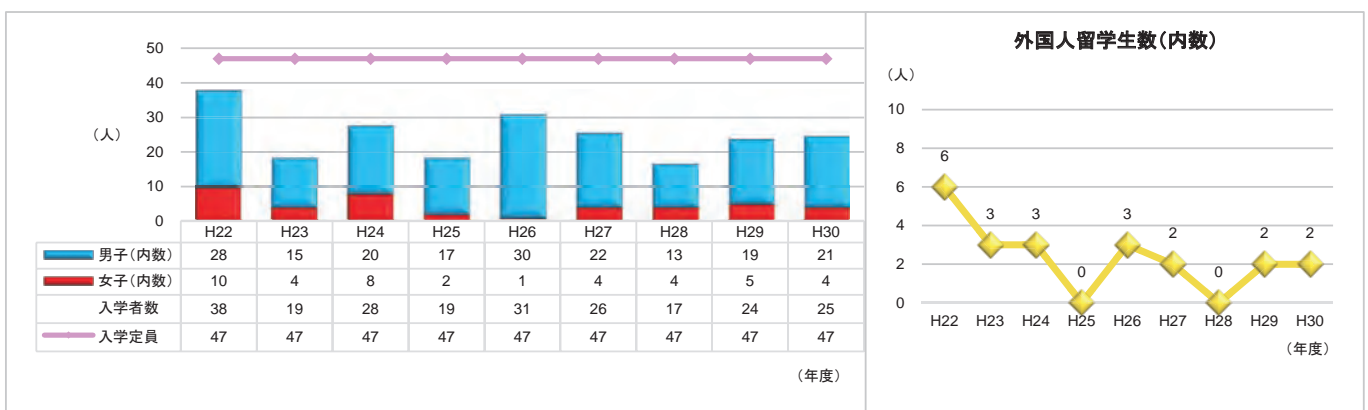
【法学府】



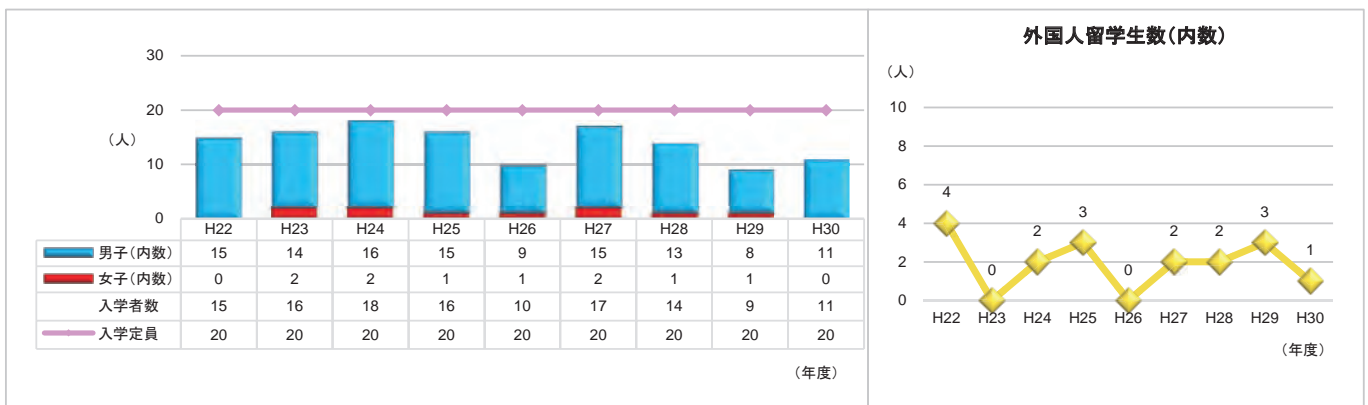
【経済学府】



【理学府】



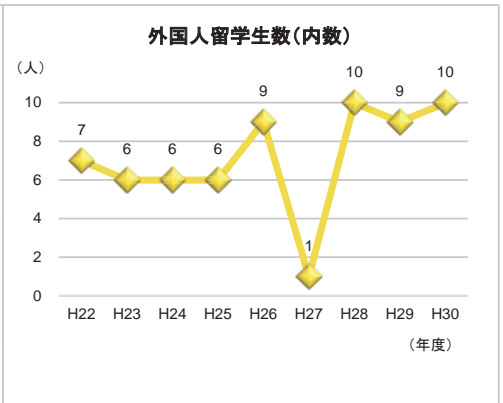
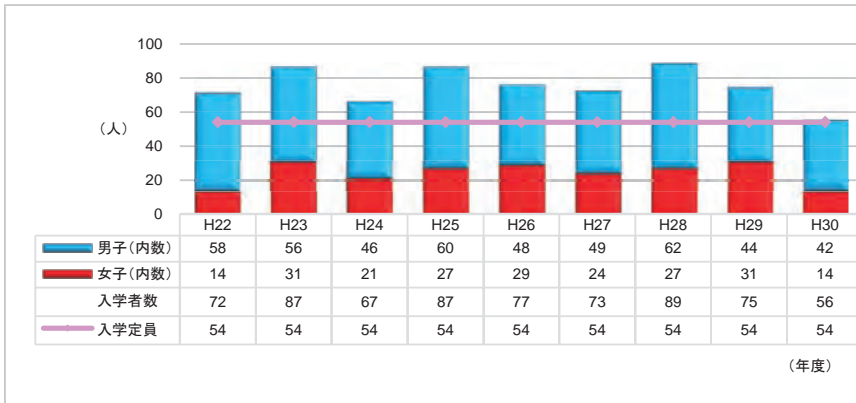
【数理学府】



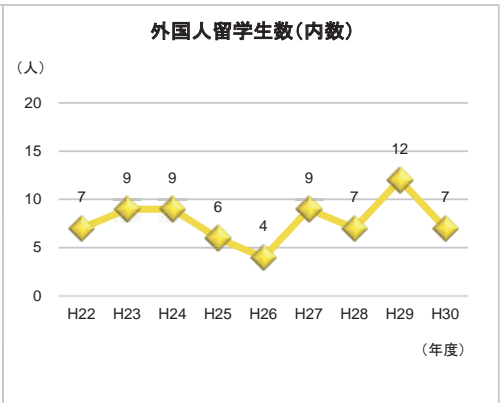
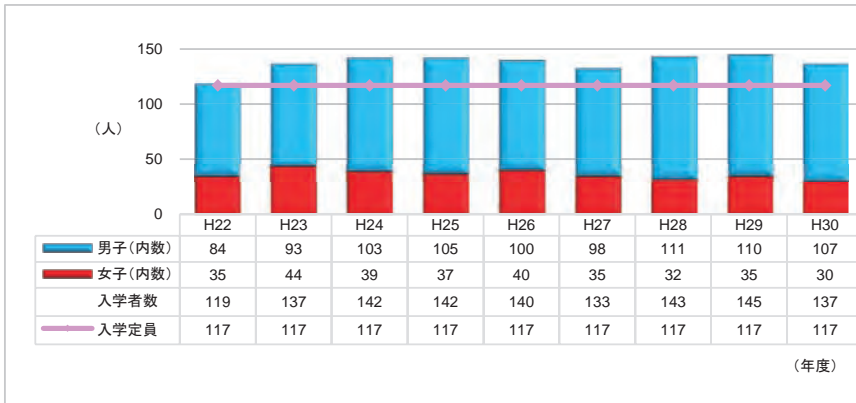
※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

## 5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

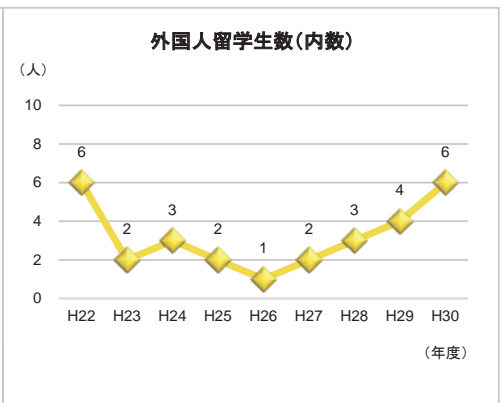
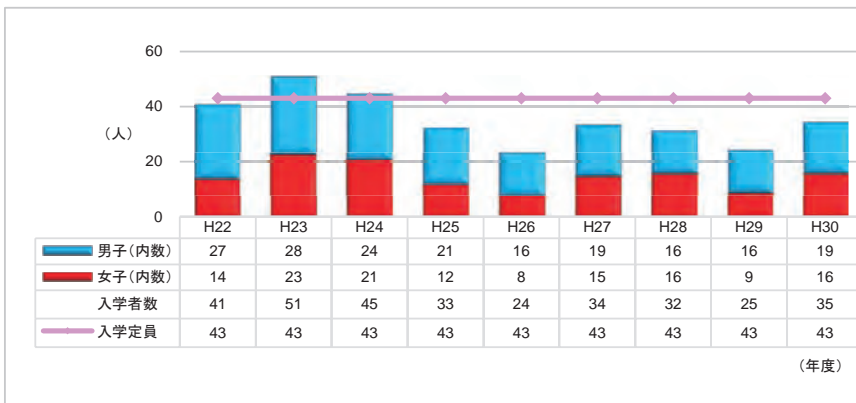
### 【システム生命科学府】



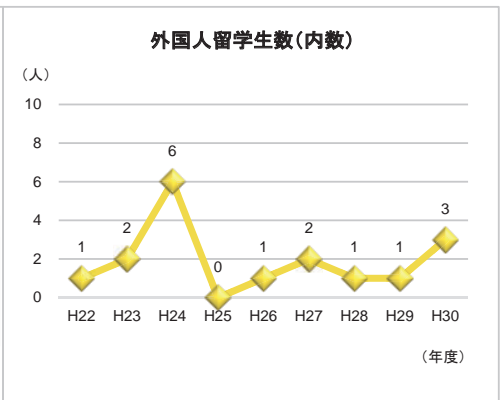
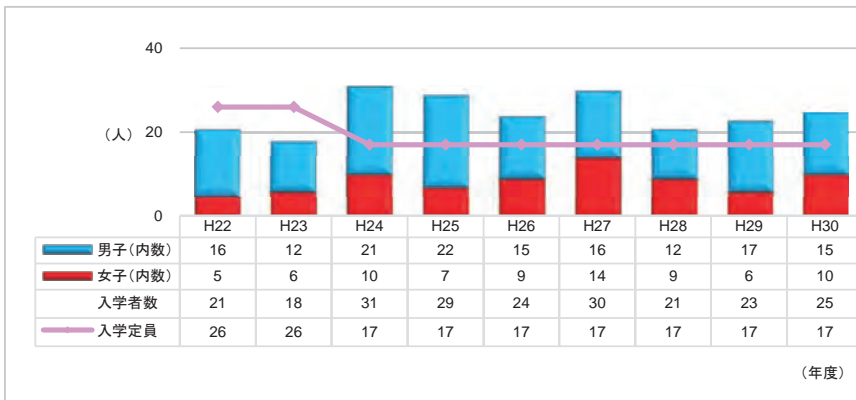
### 【医学系学府】



### 【歯学府】



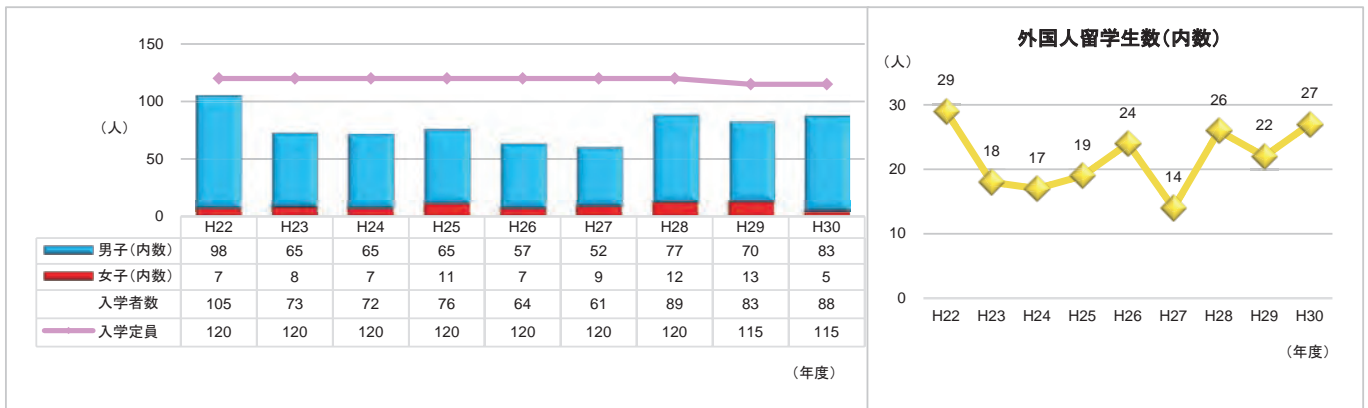
### 【薬学府】



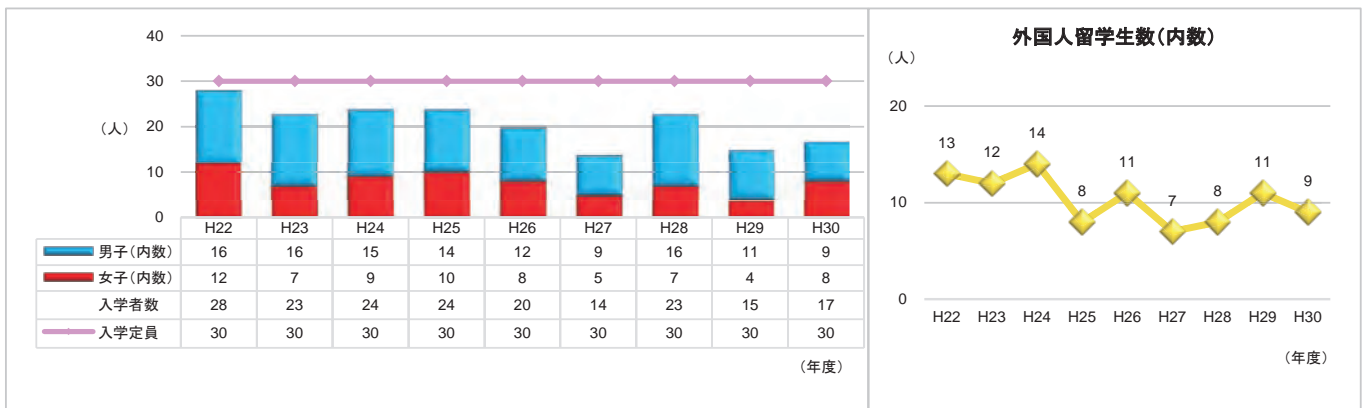
※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

## 5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

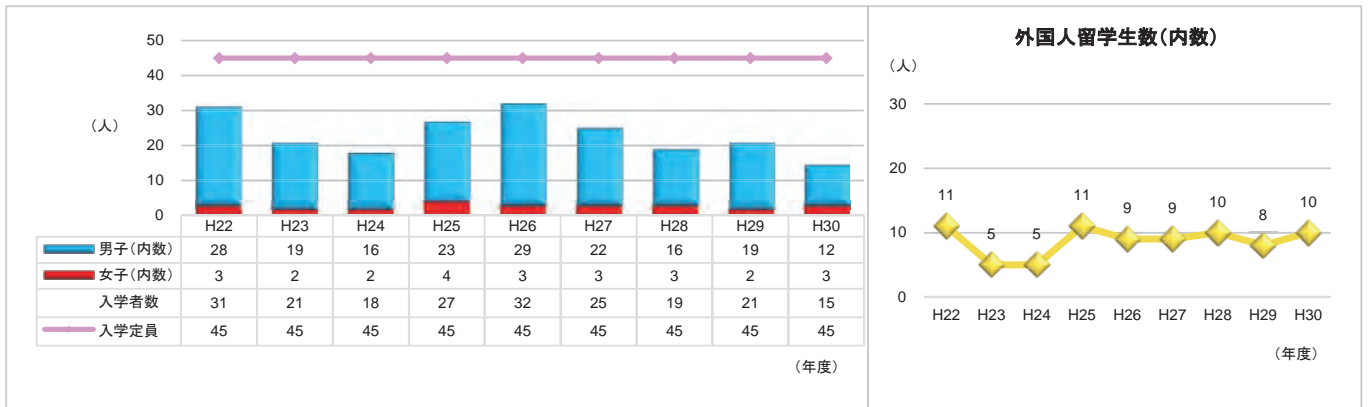
### 【工学府】



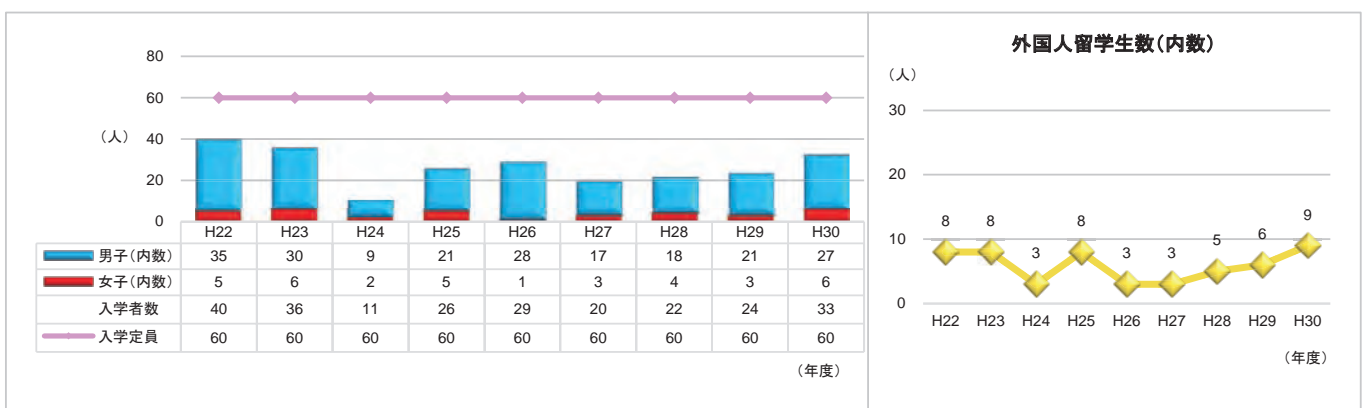
### 【芸術工学府】



### 【システム情報科学府】



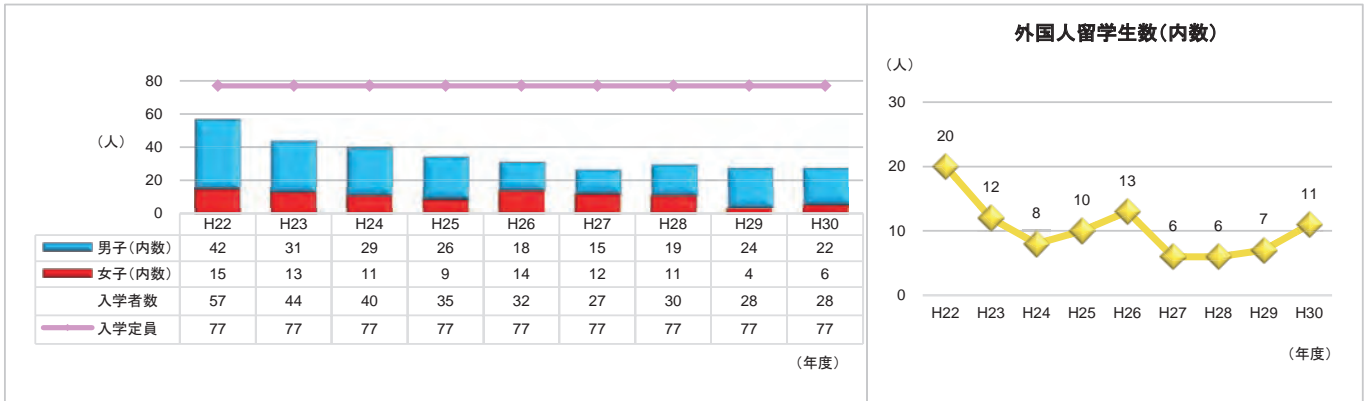
### 【総合理工学府】



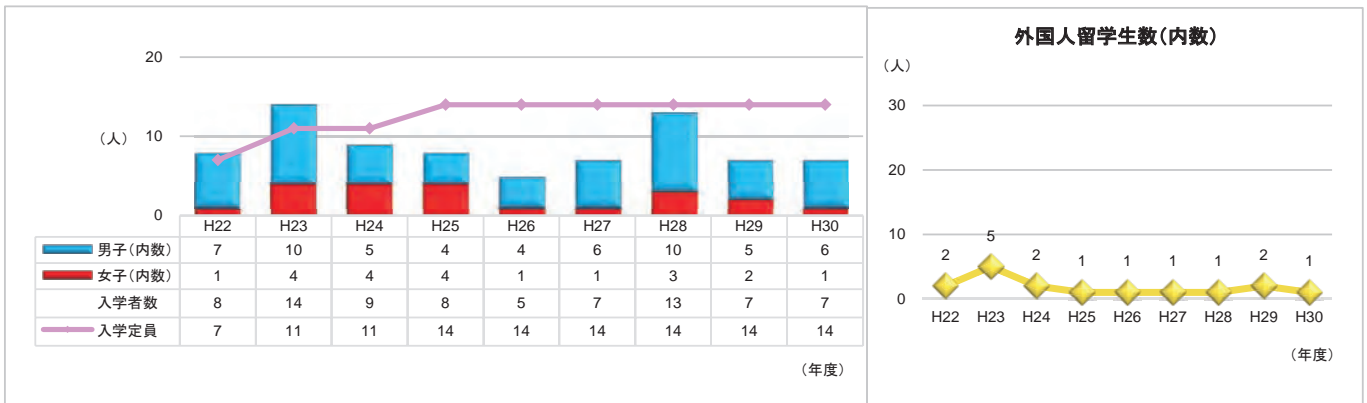
※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



※出典:九州大学概要(各年度4月1日現在)



## 6. 学位取得状況 (各年度4月1日現在)

### 6-1. 学部卒業者状況

#### 6-1-1. 学部卒業者状況(全体)

全国的にみると、学部卒業者数は増加傾向にあるが、本学では横ばい傾向である。学部別にみると、単年では増減がみられるものの長期的に見ると横ばい傾向である。

#### ◆九州大学◆



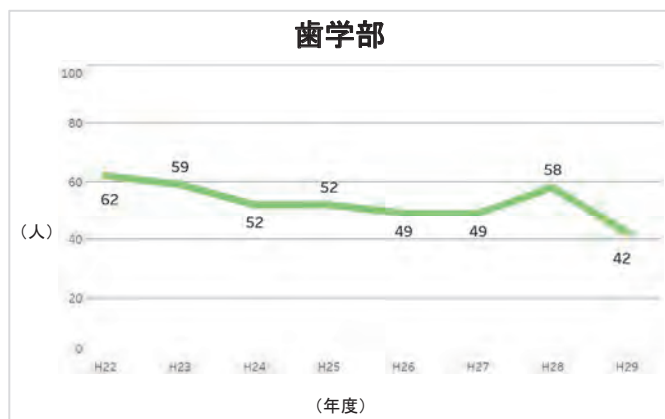
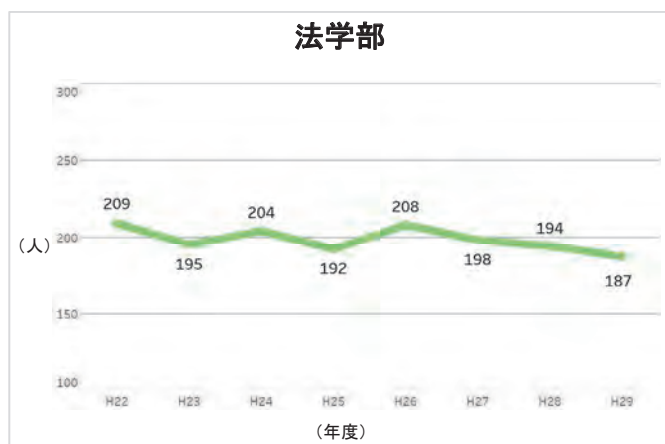
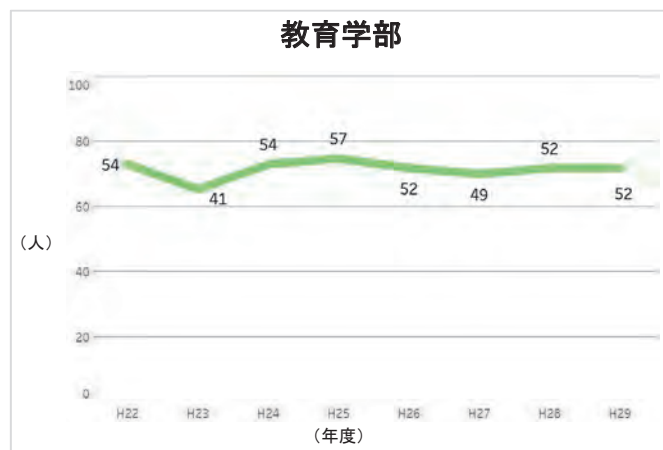
#### ◆全国 国公立大学◆



※出典

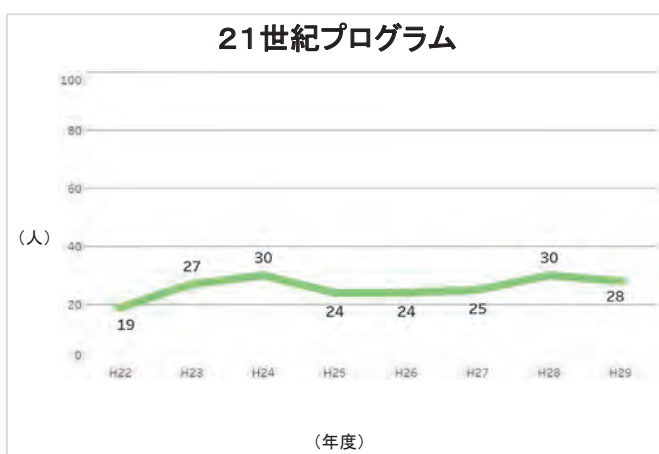
- ・本学:九州大学概要
- ・全国:文部科学省 学校基本調査 年次統計「卒業者数」

## 6-1-2. 学部卒業生状況(学部別)



出典:九州大学概要

6-1-2. 学部卒業生状況(学部別)(つづき)



出典:九州大学概要

## 6-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況

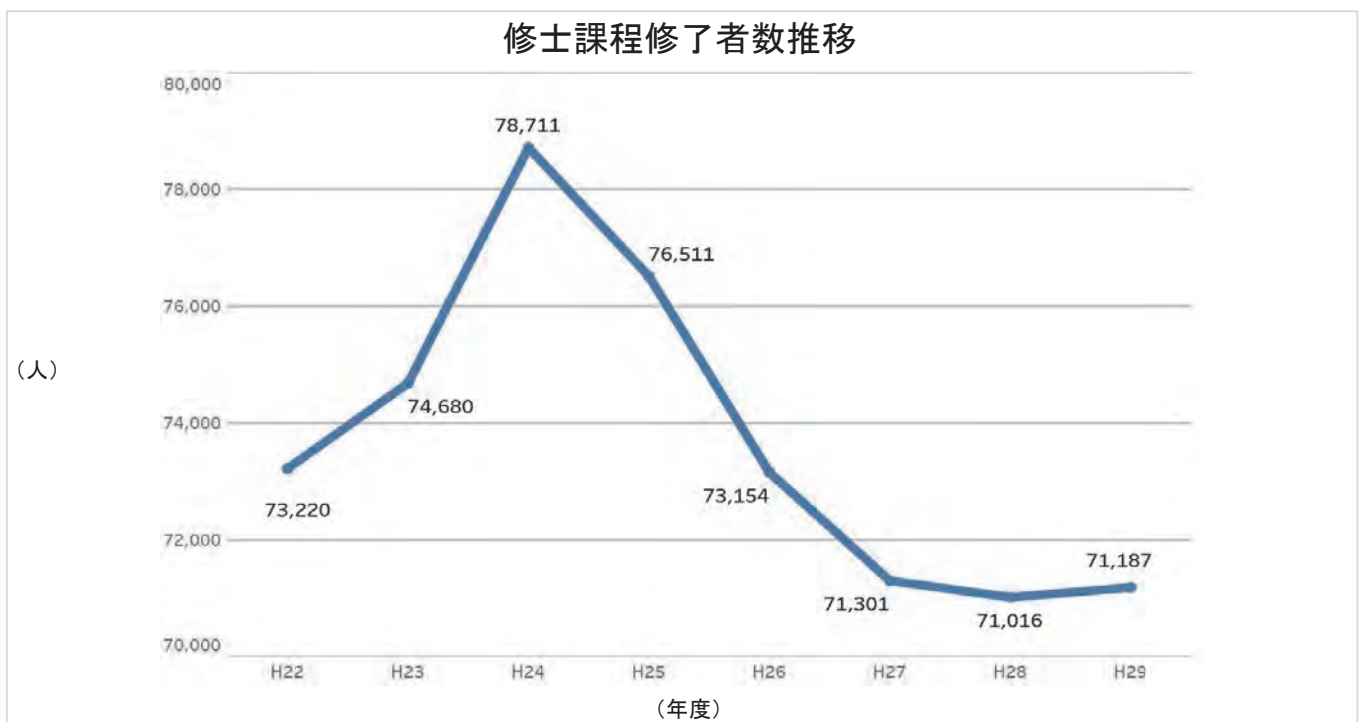
### 6-2-1. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(全体)

全国は減少傾向にあるが、本学では本学出身の志願者を安定的に確保できていることも影響し、増加傾向である。

#### ◆九州大学◆



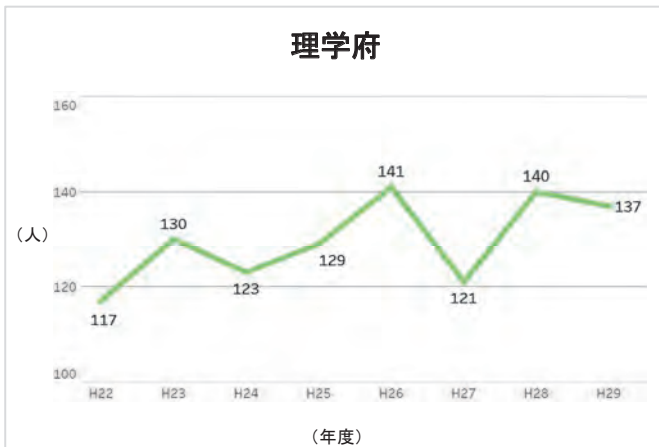
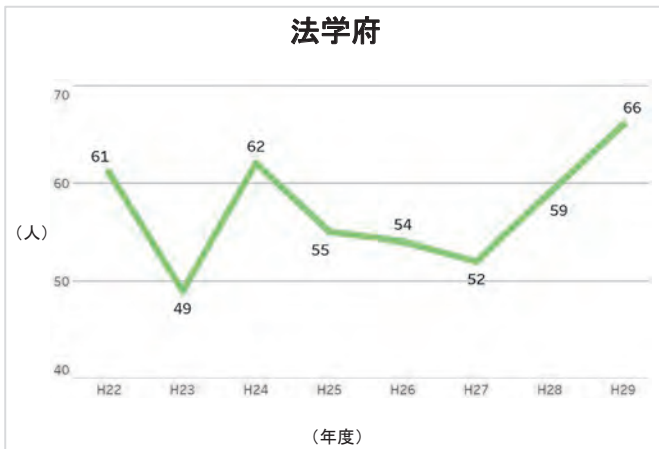
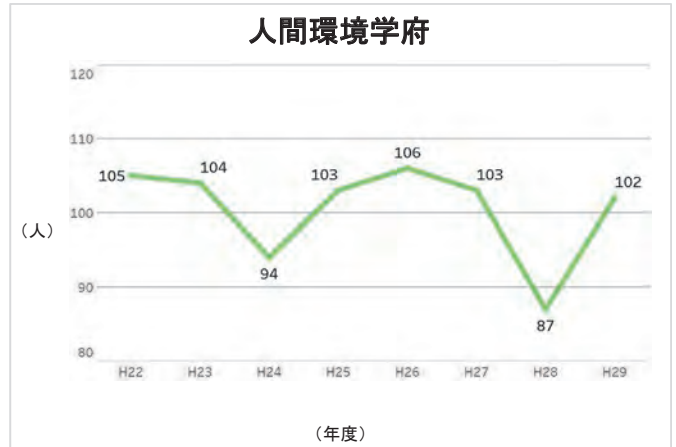
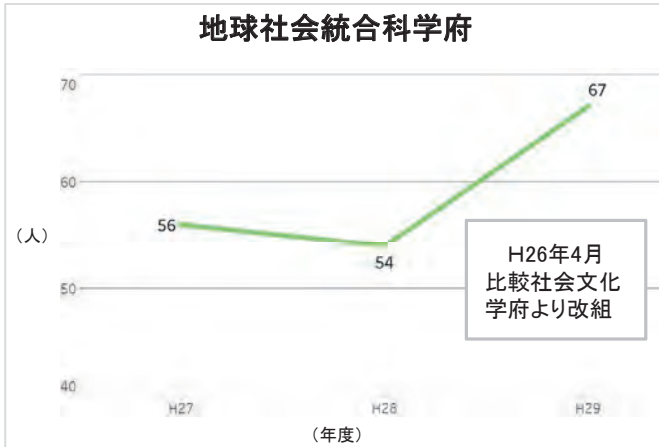
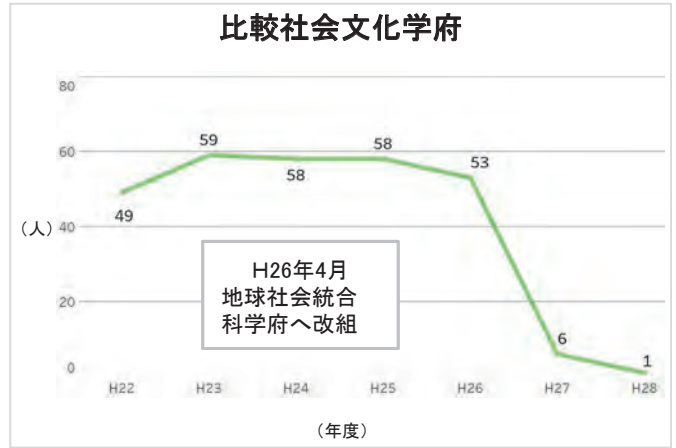
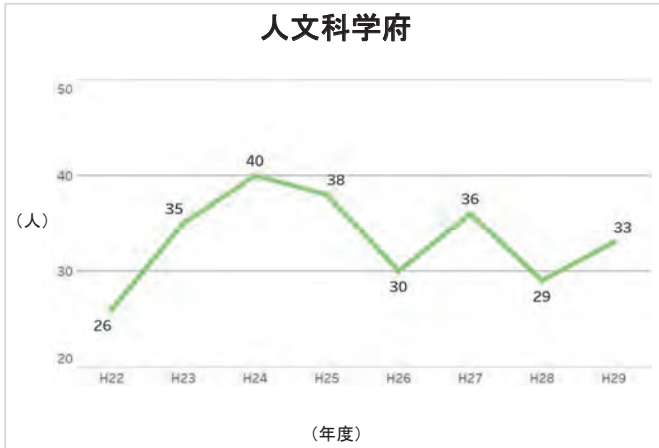
#### ◆全国 国公立大学◆



※出典

- ・本学:九州大学概要
- ・全国:文部科学省 学校基本調査 年次統計「卒業生数」

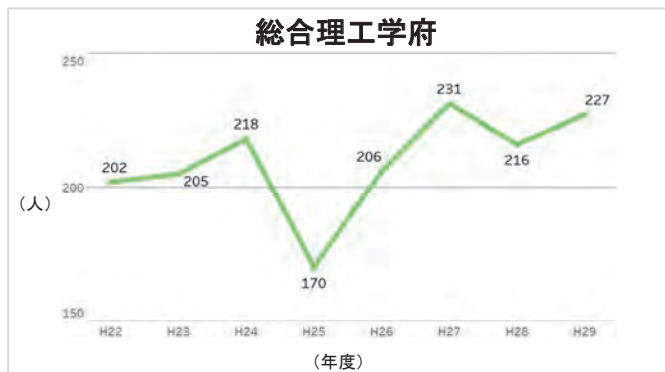
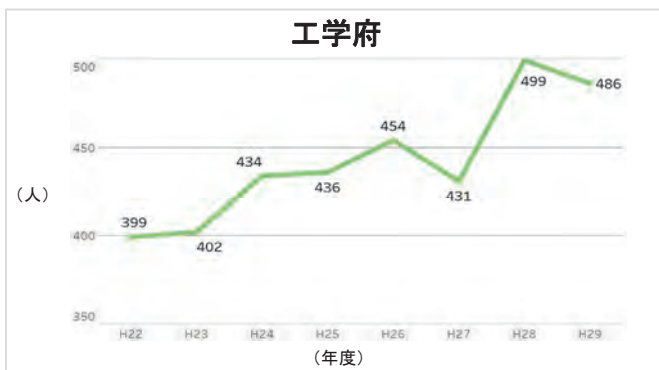
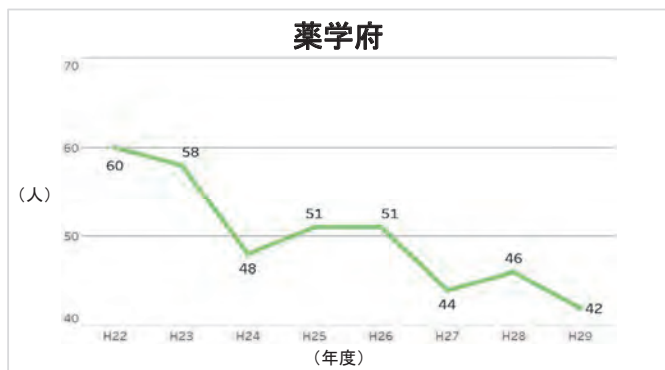
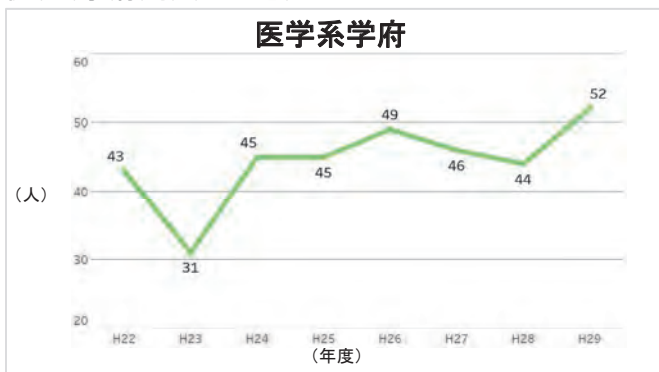
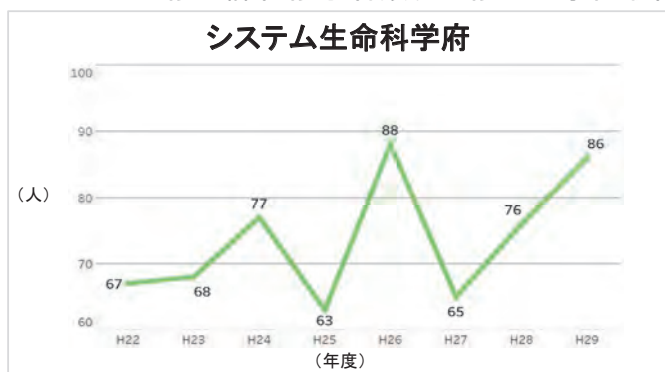
## 6-2-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(学府別)



※平成26年度に、比較社会文化学府が、地球社会統合科学府に改組した。

※出典:九州大学概要

6-2-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(学府別)(つづき)



※出典:九州大学概要

## 6-3. 専門職学位課程修了者状況

### 6-3-1. 専門職学位課程修了者状況(全体)

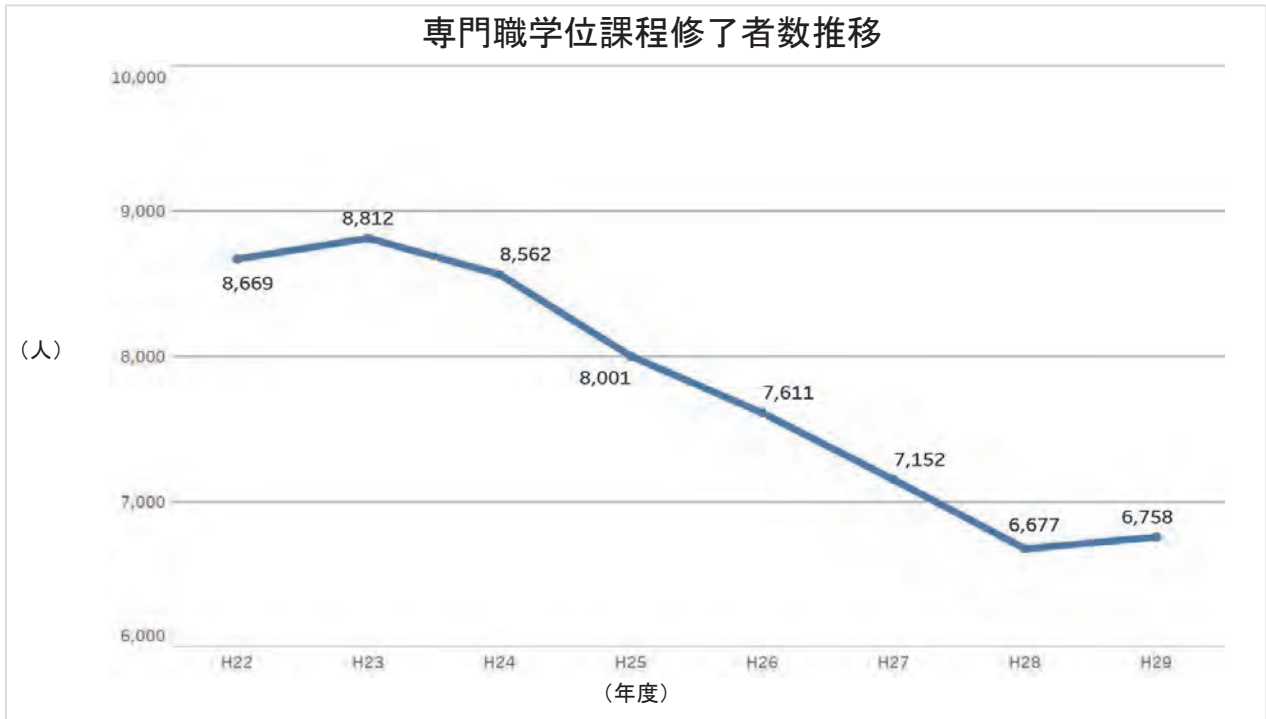
全国、本学ともに、修了者は減少傾向にある。学部別にみると、法務学府は入学者定員の減少もあり、他学府よりも減少幅が大きくなっている。

#### ◆九州大学◆



専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】  
 法務学府実務法学専攻【法科大学院】  
 経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】  
 医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

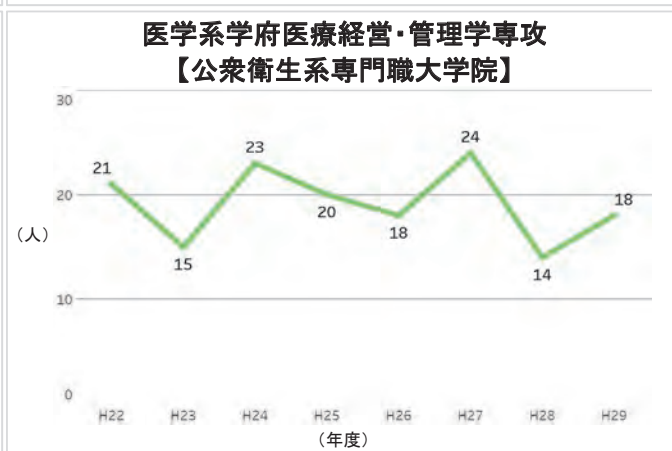
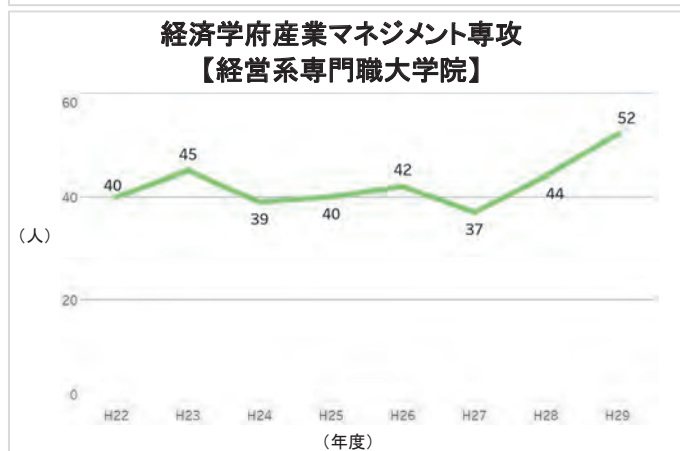
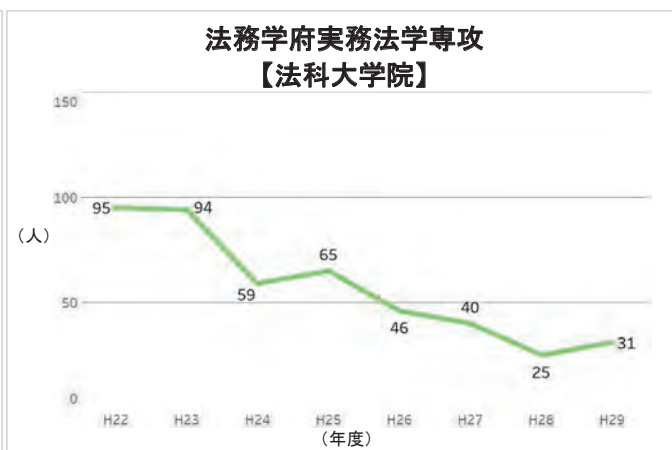
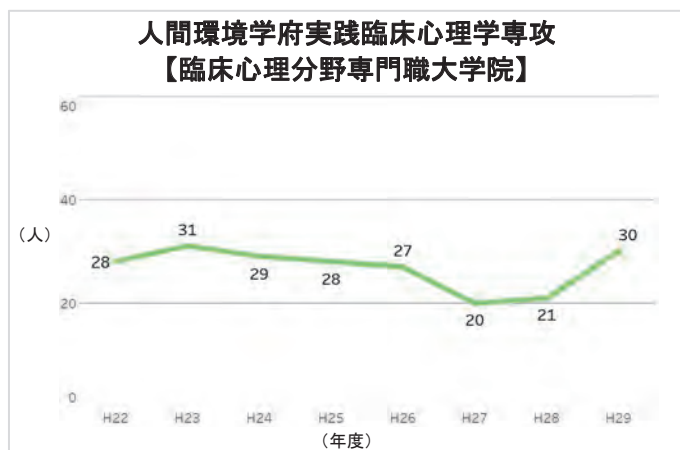
#### ◆全国 国公立大学◆



※出典

- ・本学：九州大学概要
- ・全国：文部科学省 学校基本調査 年次統計「卒業生数」

## 6-3-2. 専門職学位課程修了者状況(学府別)



※出典

- ・本学:九州大学概要
- ・全国:文部科学省 学校基本調査 年次統計「卒業生数」

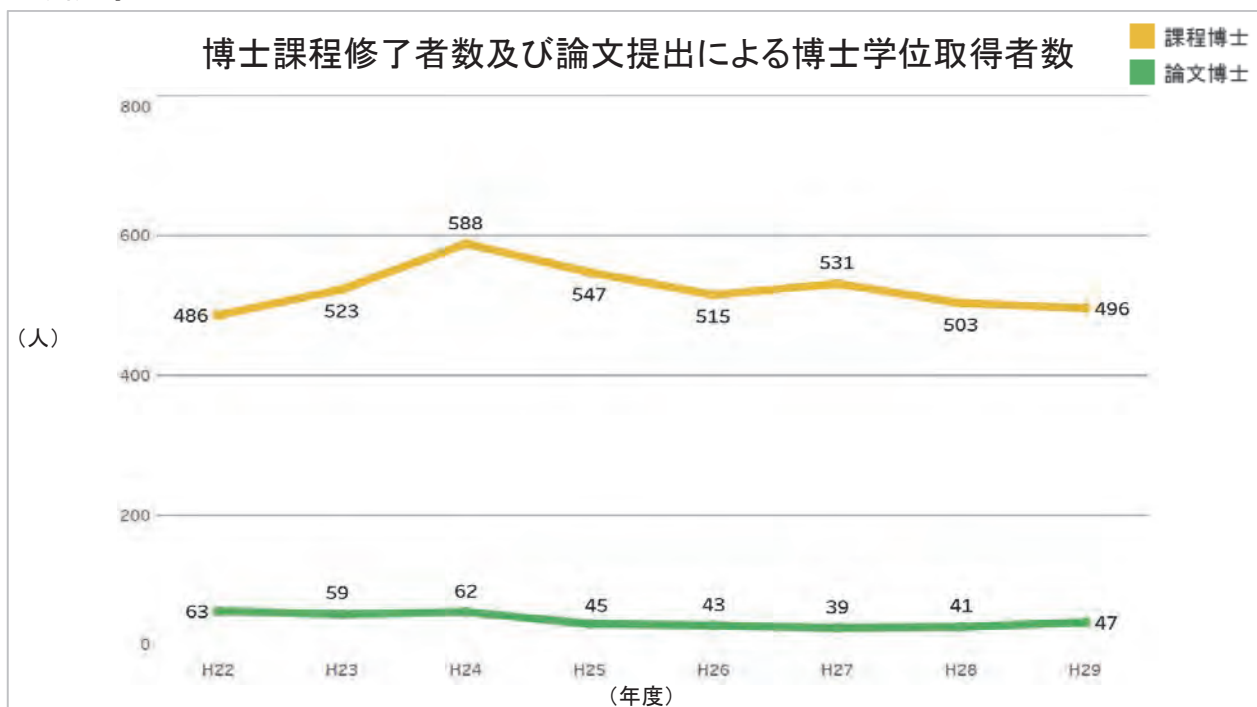


## 6-4. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況

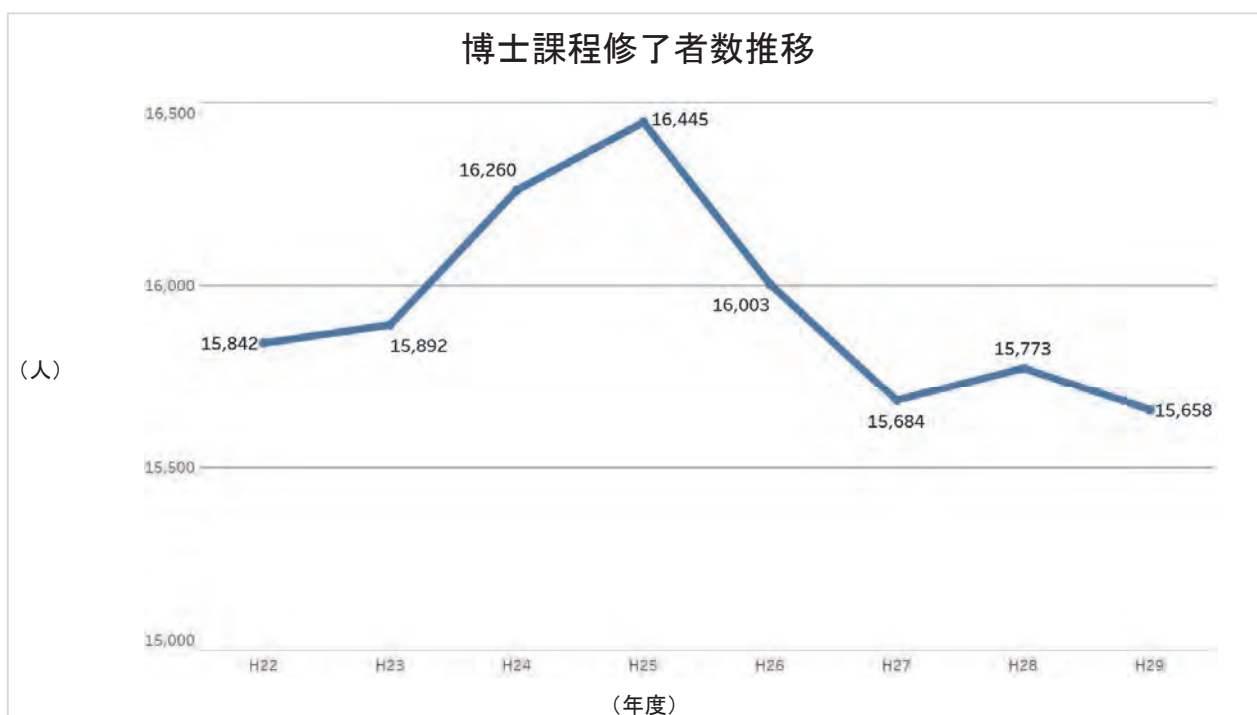
### 6-4-1. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(全体)

本学では大きな変化は見られないが、全国的にみると博士課程修了者数はH25年度以降減少傾向にある。

#### ◆九州大学◆



#### ◆全国 国公立大学◆

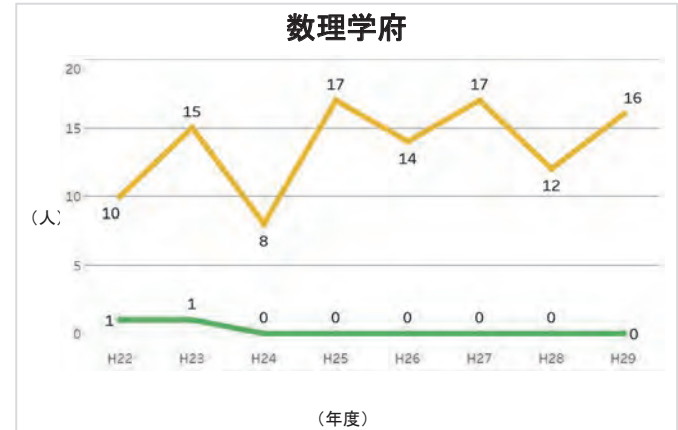
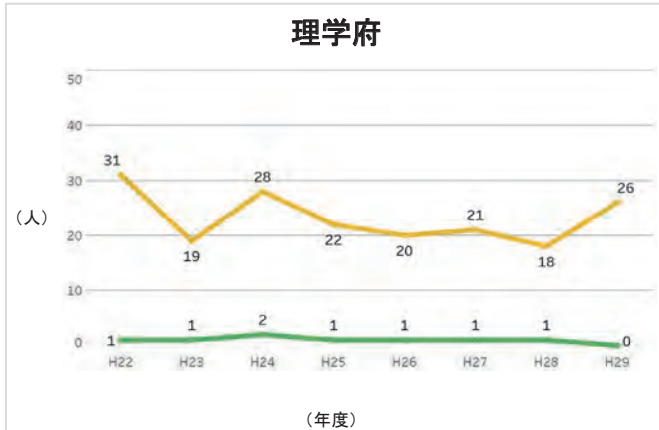
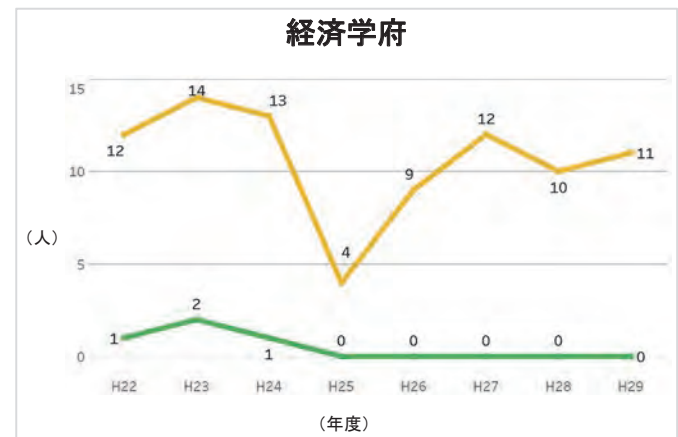
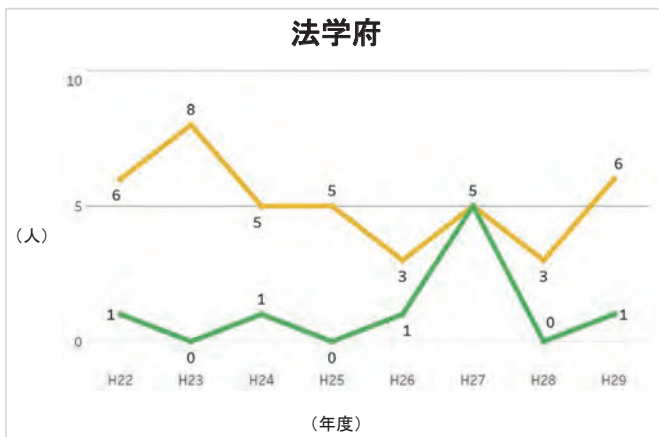
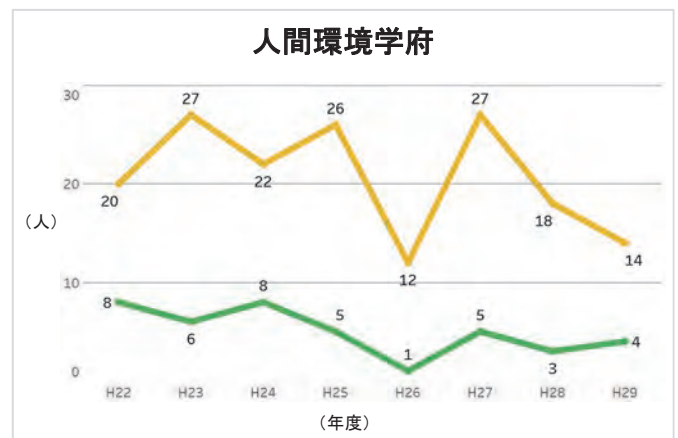
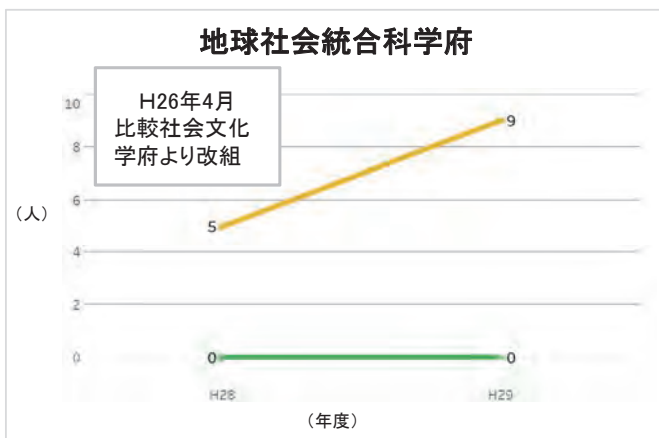
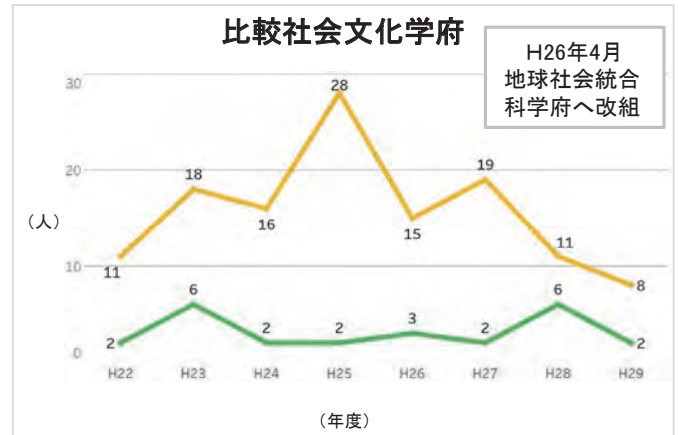
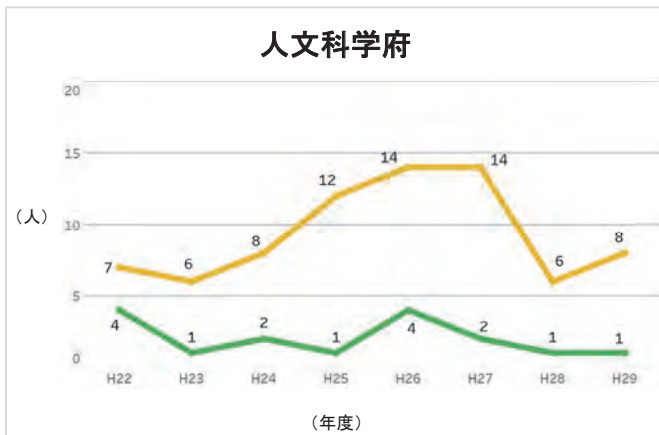


※出典

- ・本学:九州大学概要
- ・全国:文部科学省 学校基本調査 年次統計「卒業生数」

## 6-4-2. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(学府別)

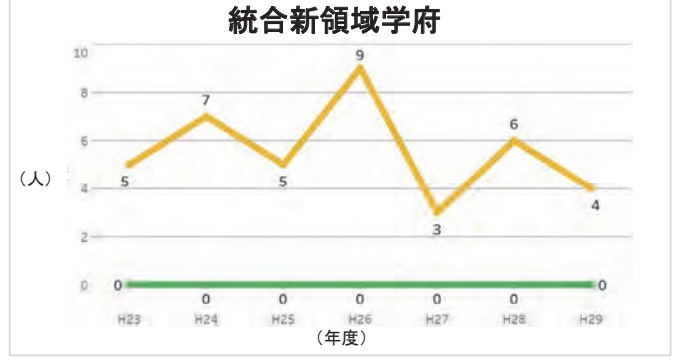
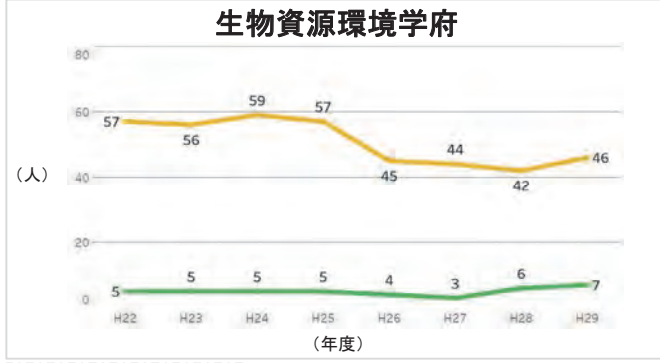
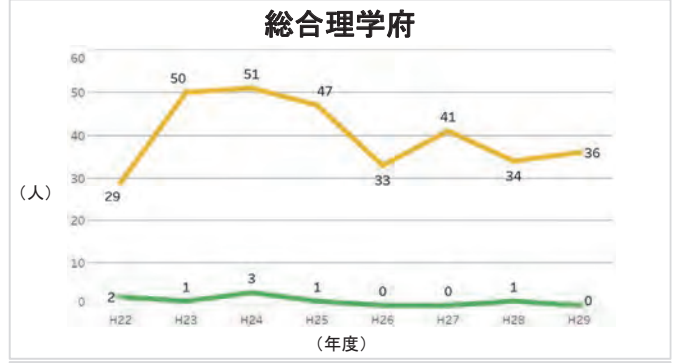
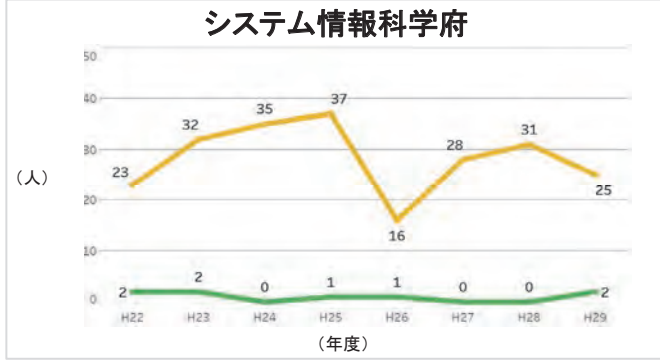
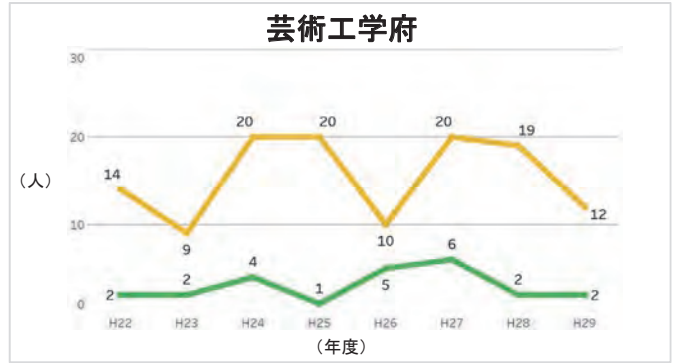
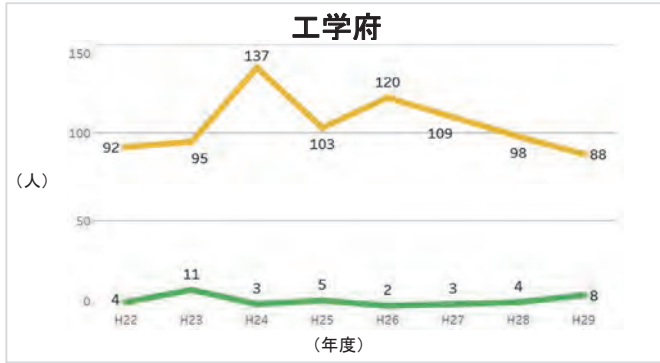
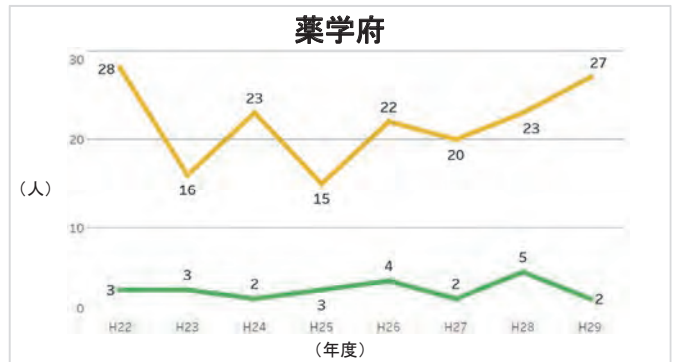
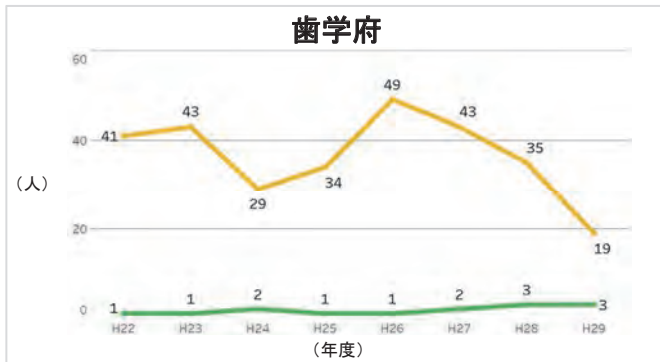
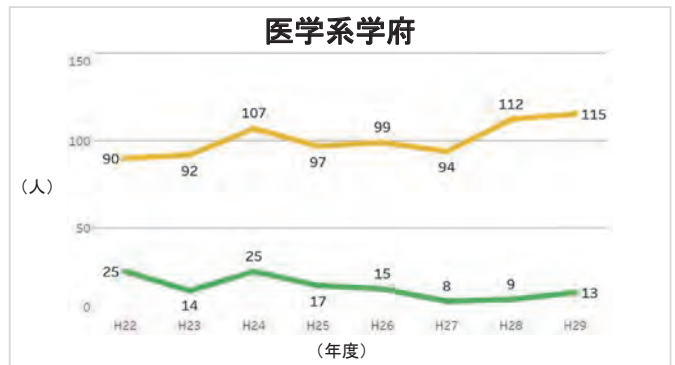
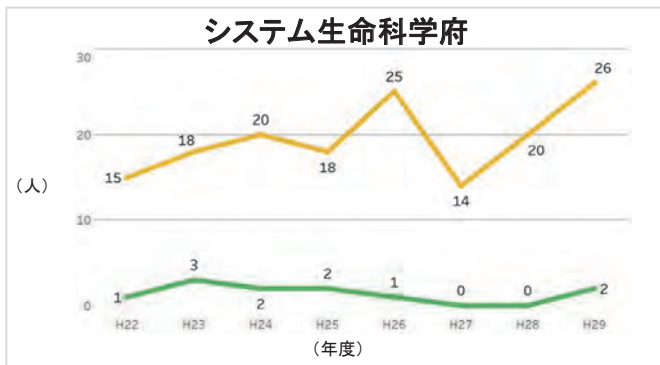
■ 修了者数 ■ 学位取得者数(論文博士)



※出典:九州大学概要

6-4-2. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(学府別)(つづき)

■ 修了者数 ■ 学位取得者数(論文博士)



※出典:九州大学概要

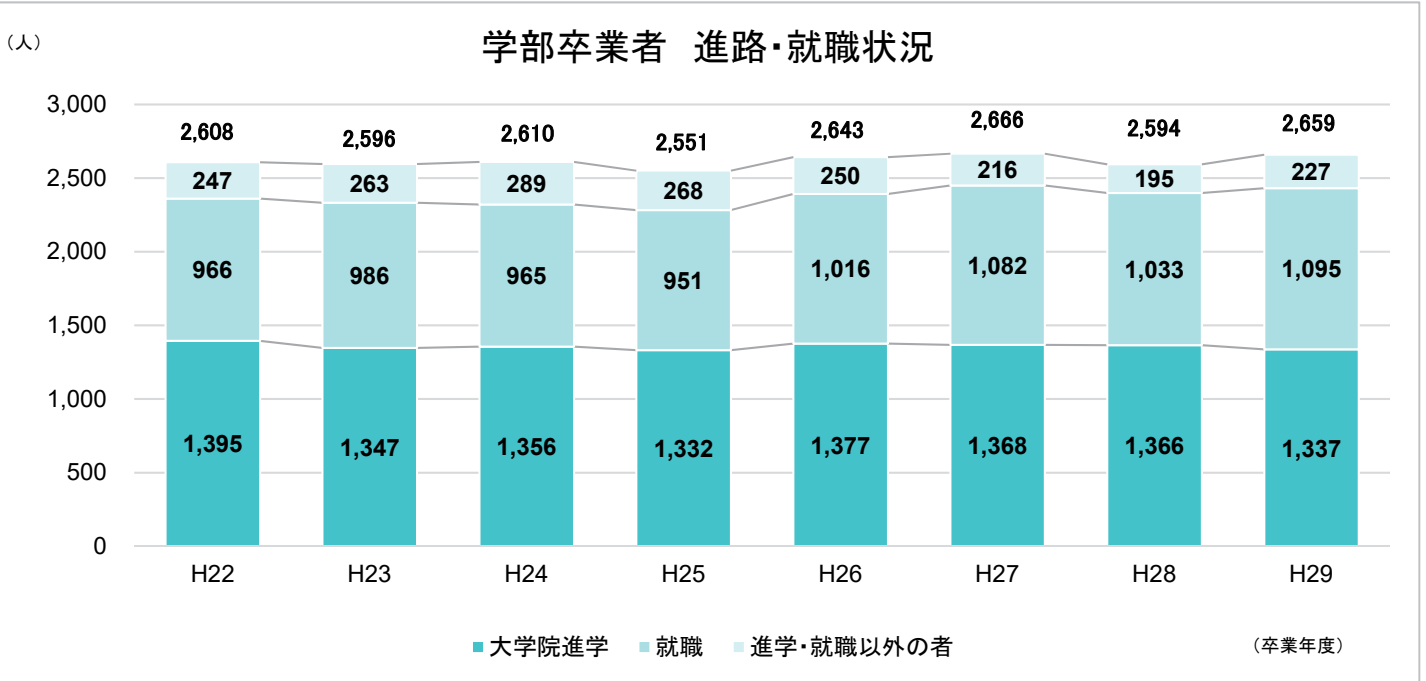
## 7. 進路・就職状況 (各年度5月1日現在)

### 7-1. 学部卒業者の進路・就職状況

#### 7-1-1. 学部卒業者の進路・就職状況(全体)

全国的にみると、就職者の割合が高く、本学では大学院進学の高割合が高い。

#### ◆九州大学◆

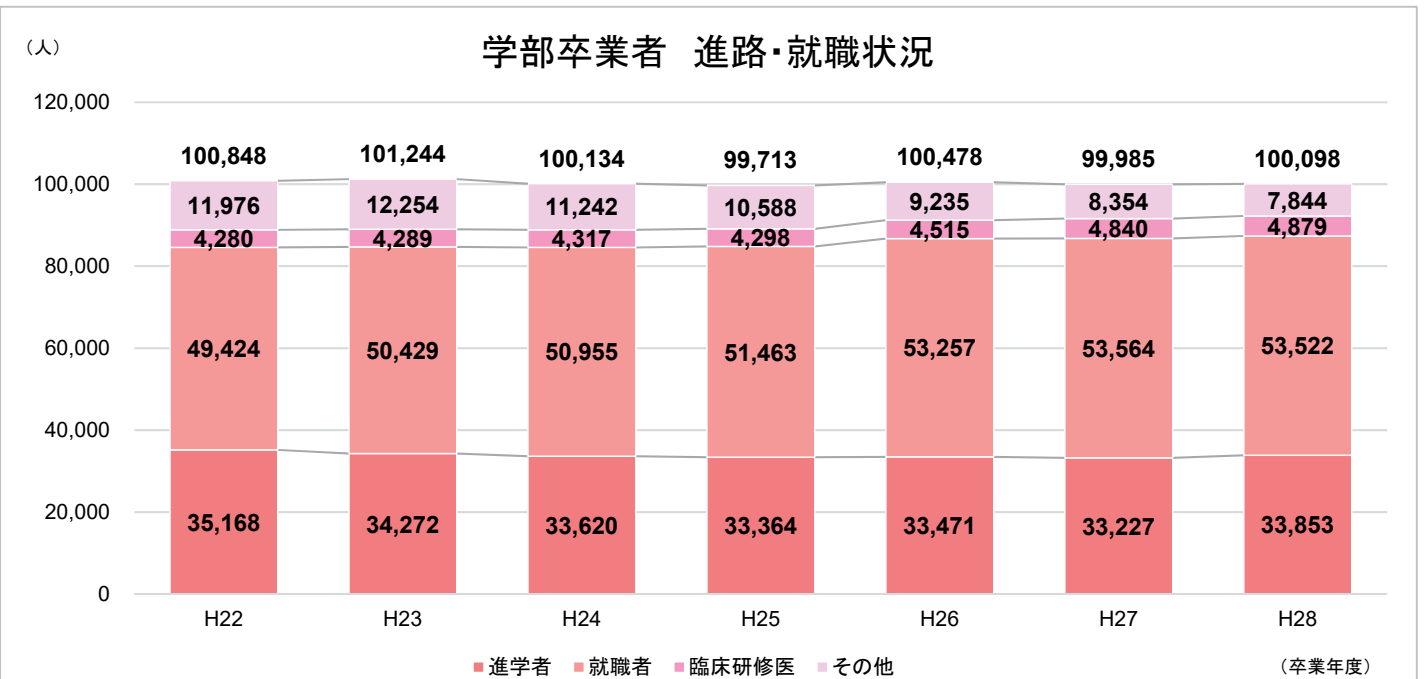


・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。

・「進学・就職以外の者」には司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

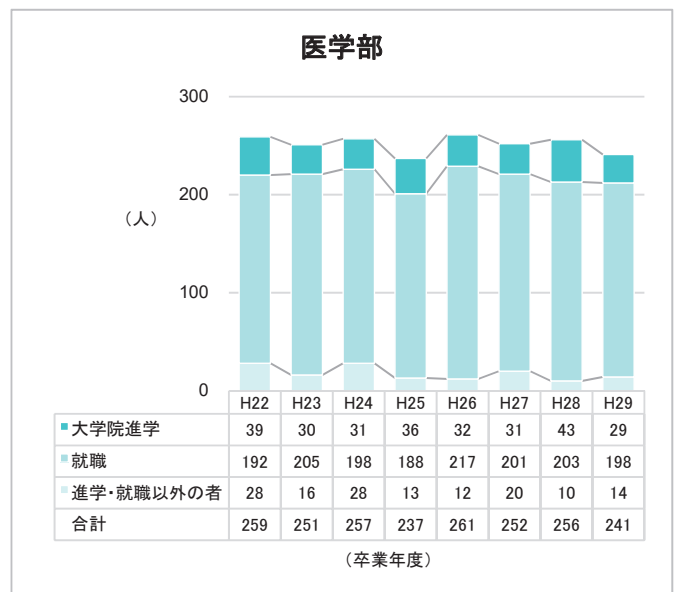
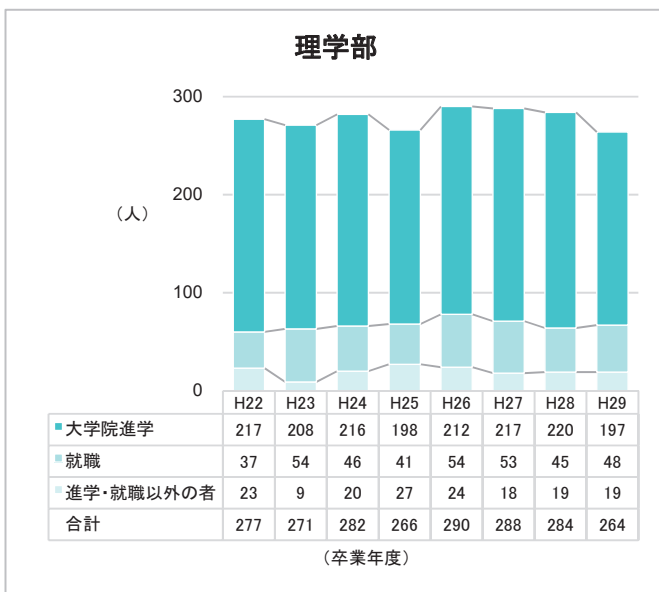
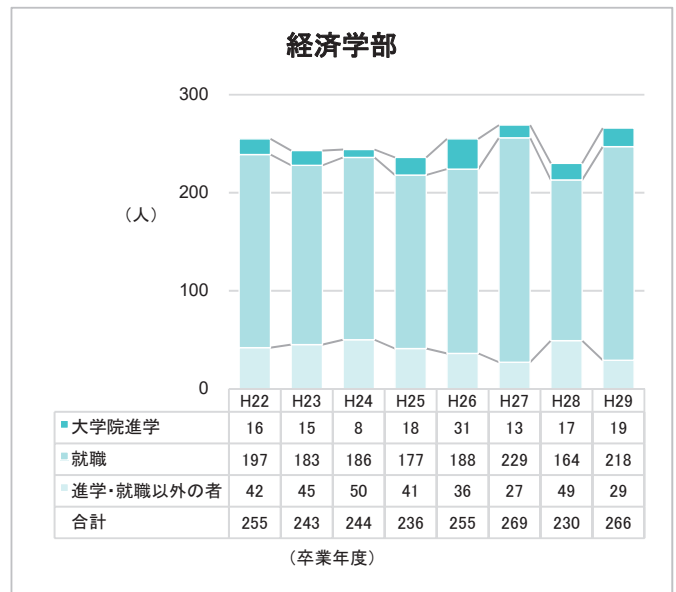
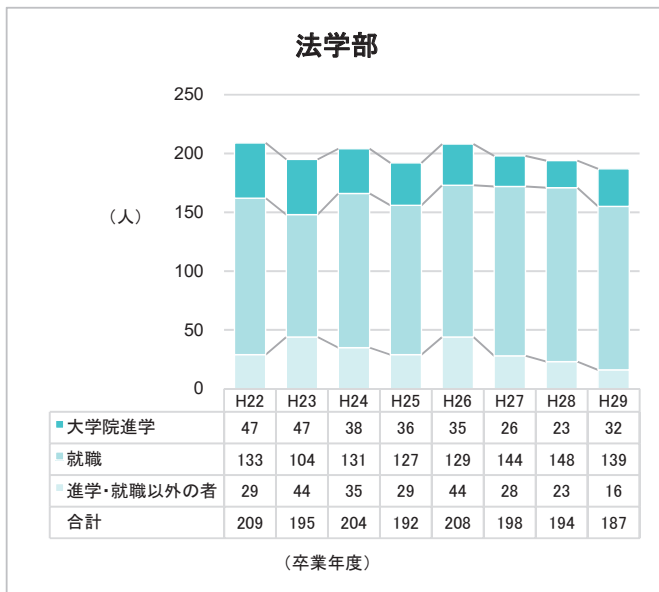
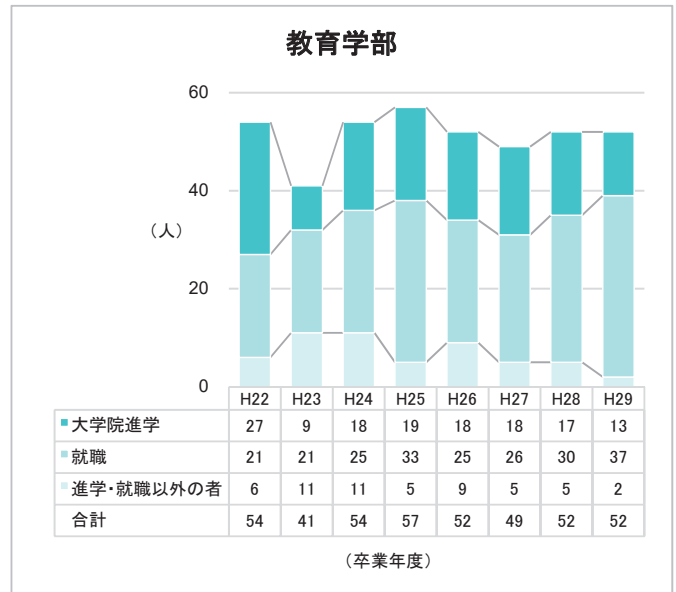
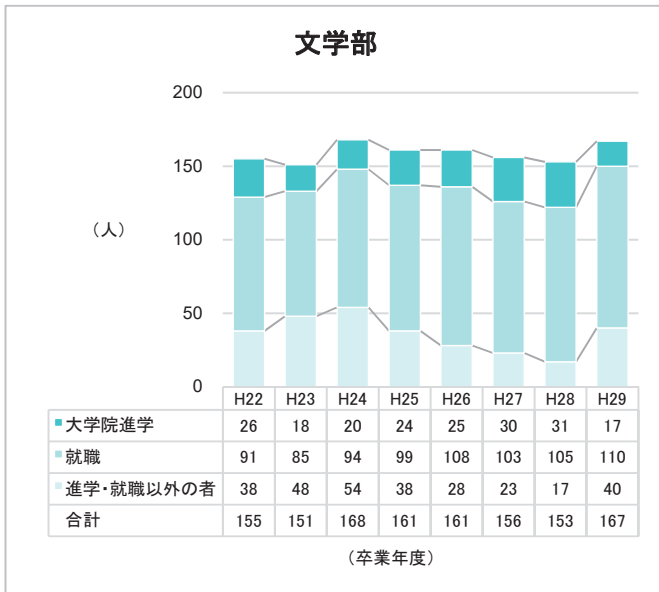
#### ◆全国 国立大学◆



・「その他」は専修学校・外国の学校等入学、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡等含む。

※出典：文部科学省 学校基本調査 卒業後の状況調査 大学 関係学科別状況別卒業生数

## 7-1-2. 学部卒業者の進路・就職状況(学部別)

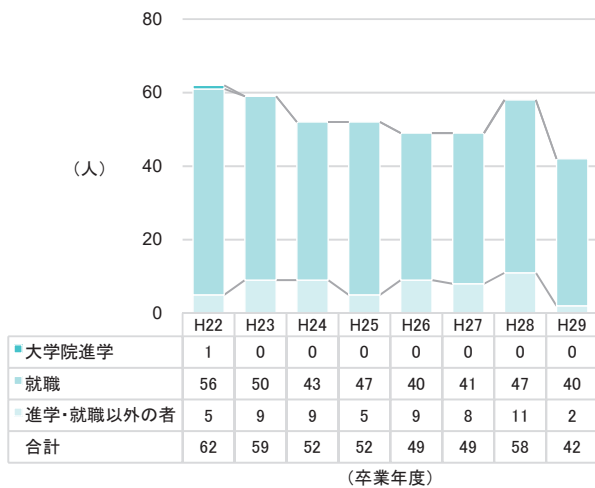


・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。  
 ・「進学・就職以外の者」には司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

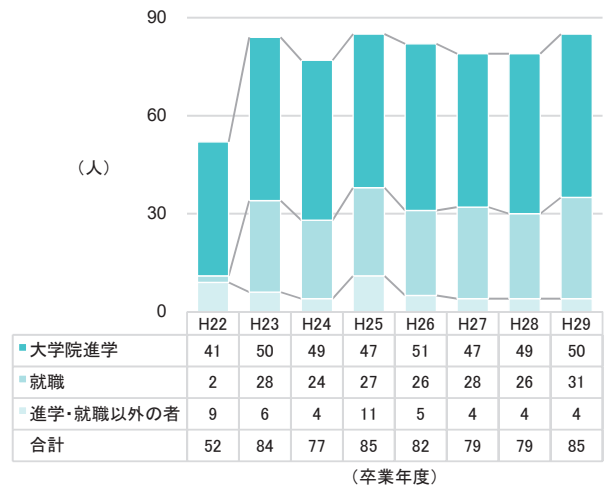
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-1-2. 学部卒業者の進路・就職状況(学部別)(つづき)

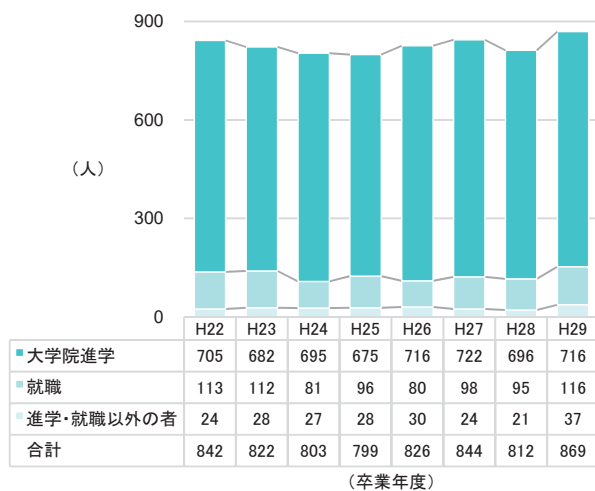
歯学部



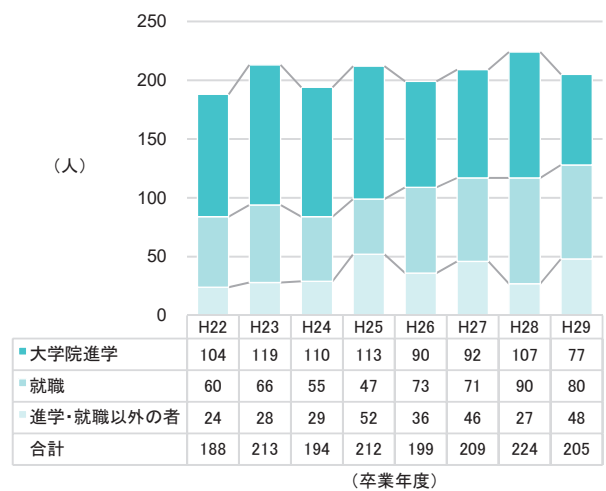
薬学部



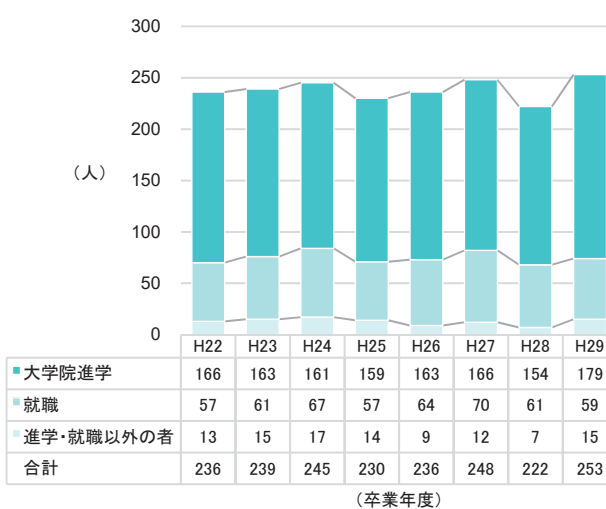
工学部



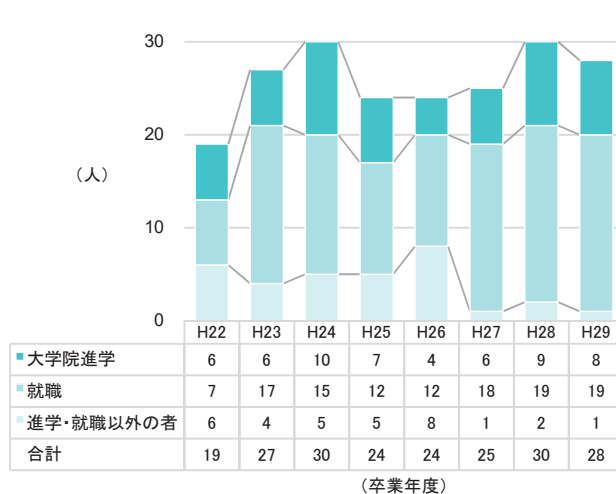
芸術工学部



農学部



21世紀プログラム



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。  
 ・「進学・就職以外の者」には司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

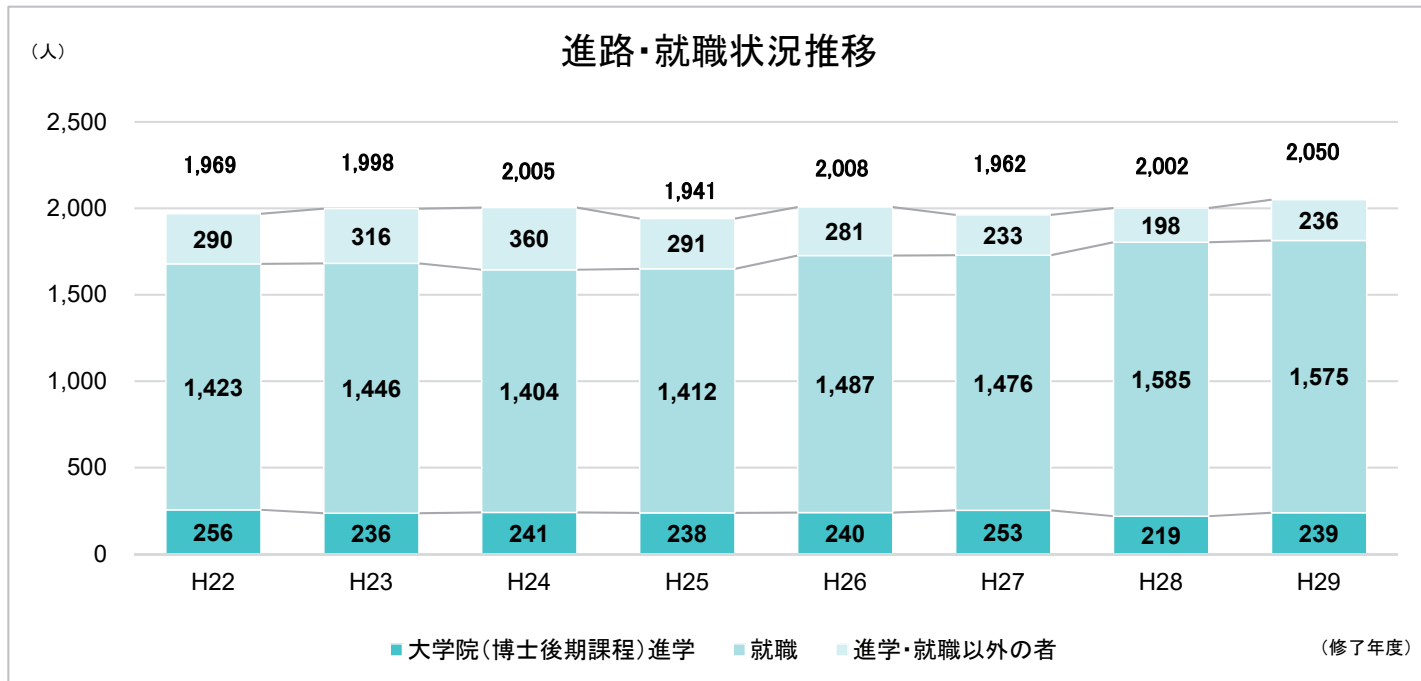
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 7-2. 修士課程修了者の進路・就職状況

### 7-2-1. 修士課程修了者の進路・就職状況(全体)

全国、本学ともに、全体的に横ばい傾向であり、就職者の割合が高い。

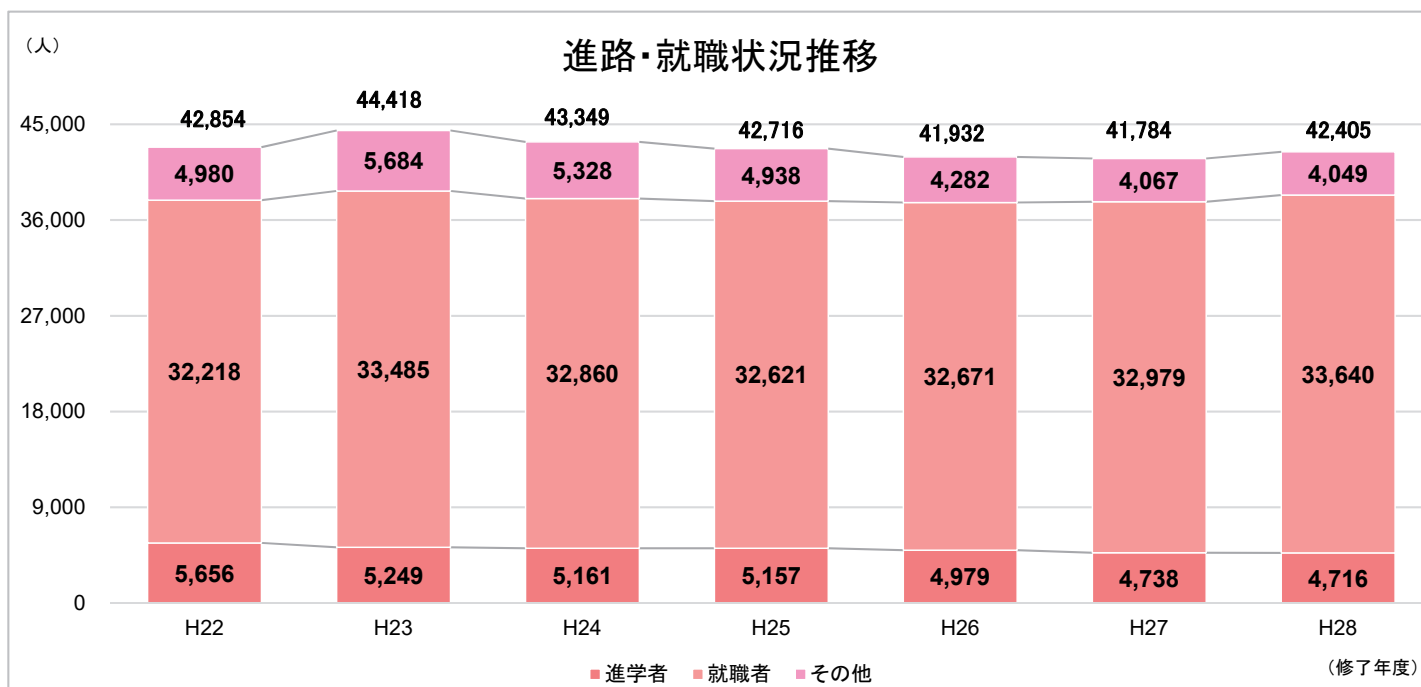
#### ◆九州大学◆



・専門職学位課程を含む。  
 ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等、司法試験等国家試験準備(法務学府)を含む。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

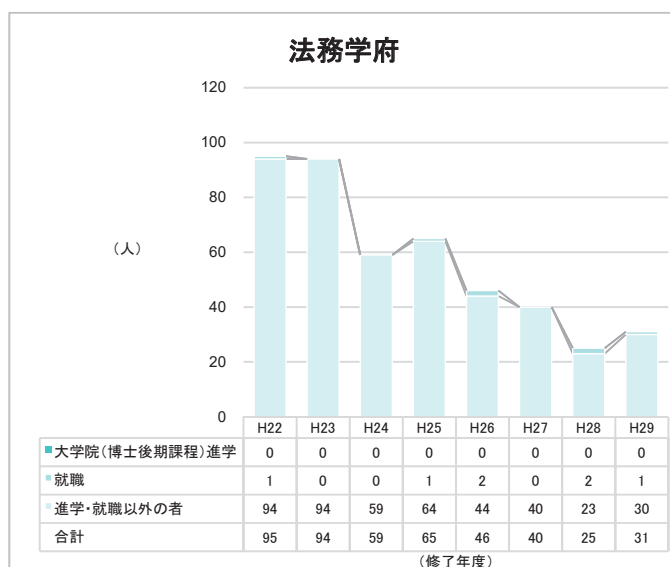
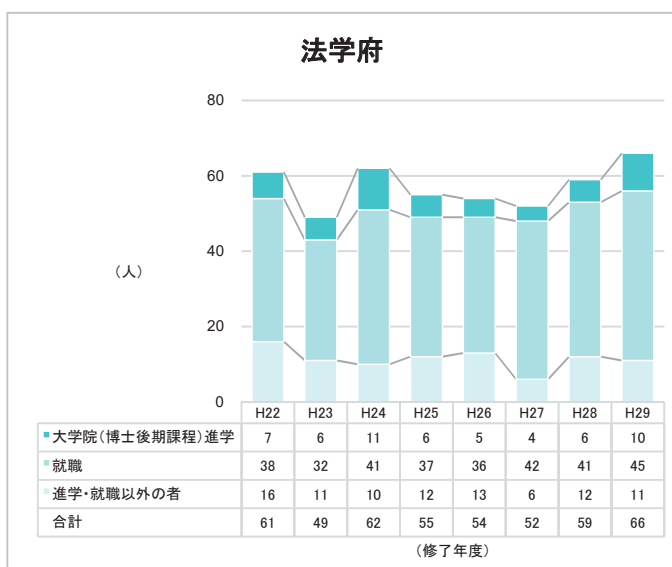
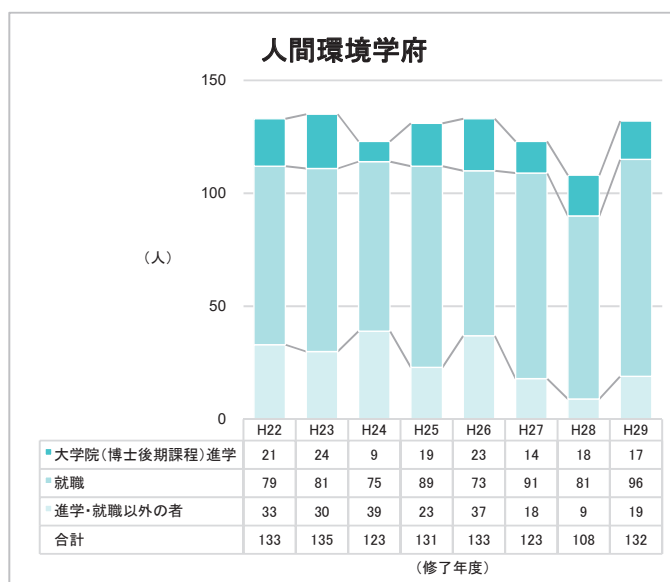
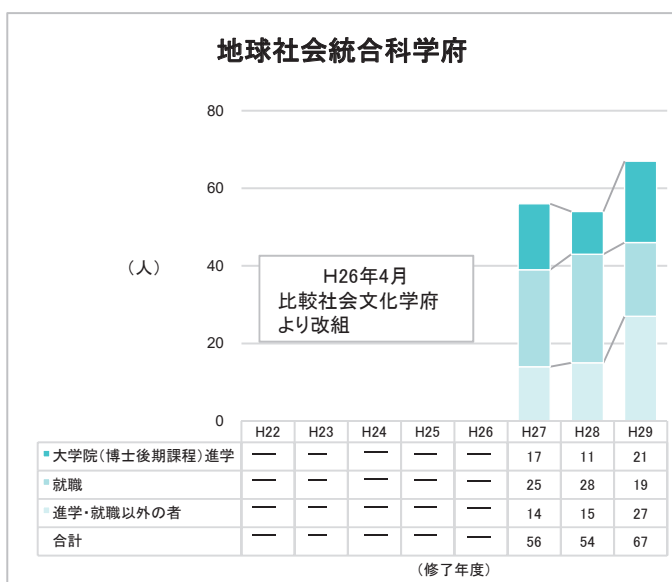
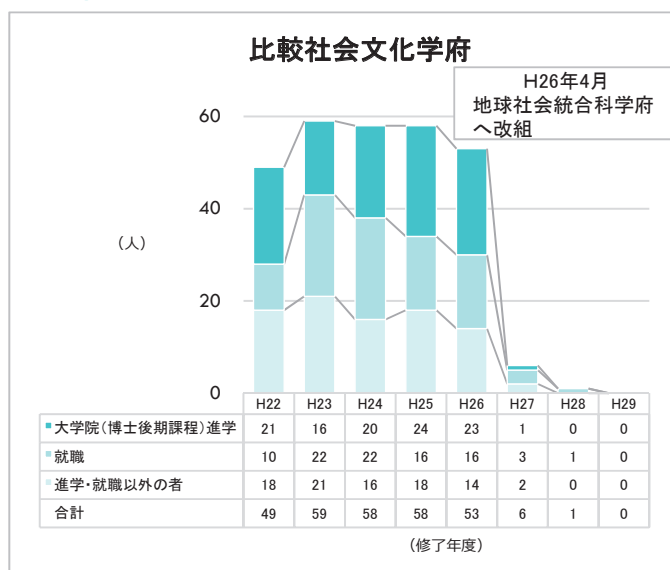
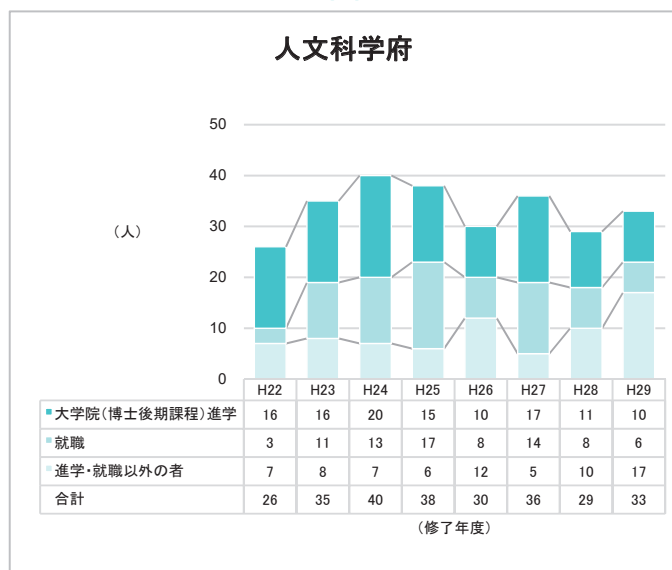
#### ◆全国 国立大学◆



・その他には、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

※出典:文部科学省 学校基本調査 卒業後の状況調査 大学院の専攻別 状況別終了者数

## 7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)

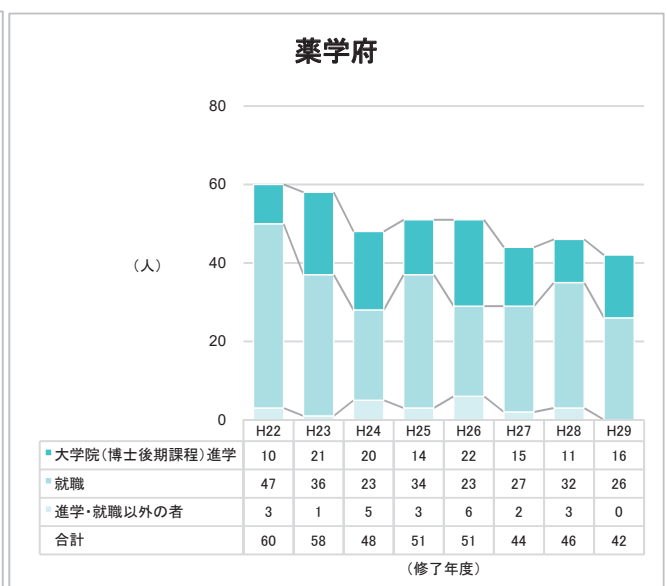
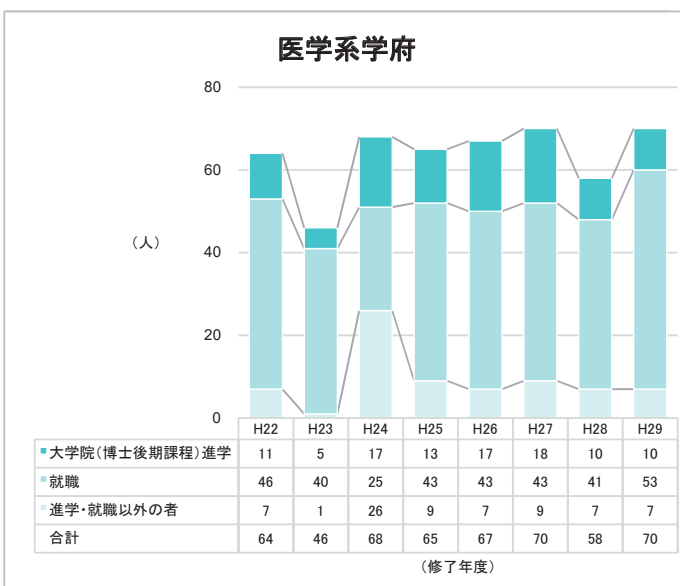
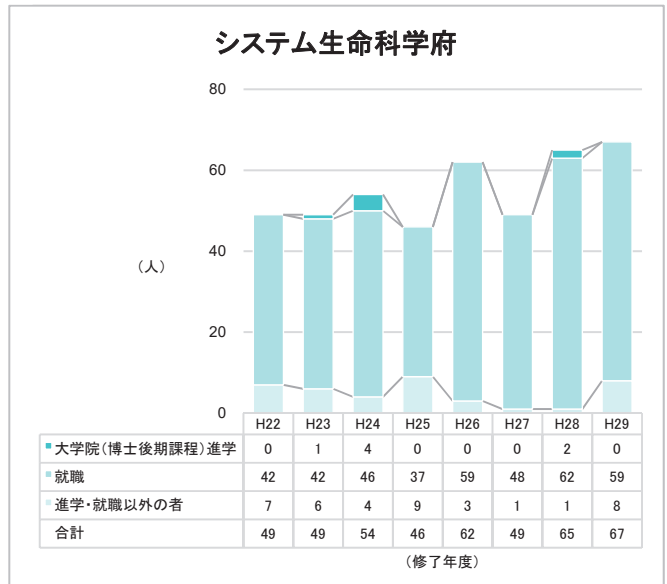
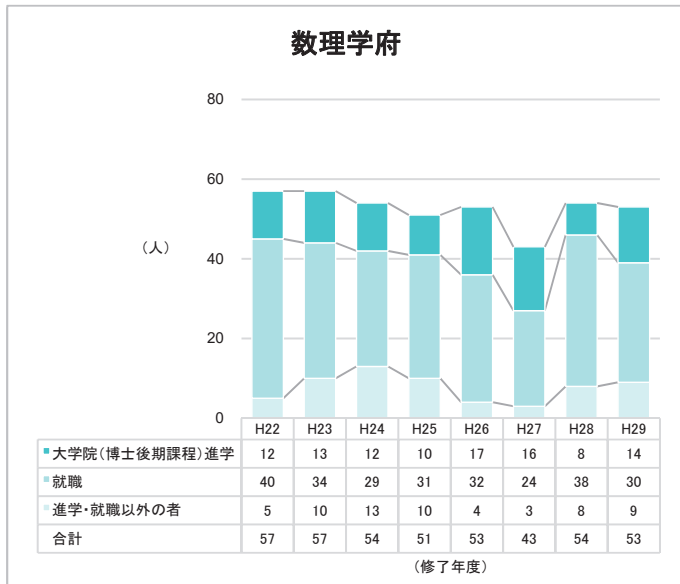
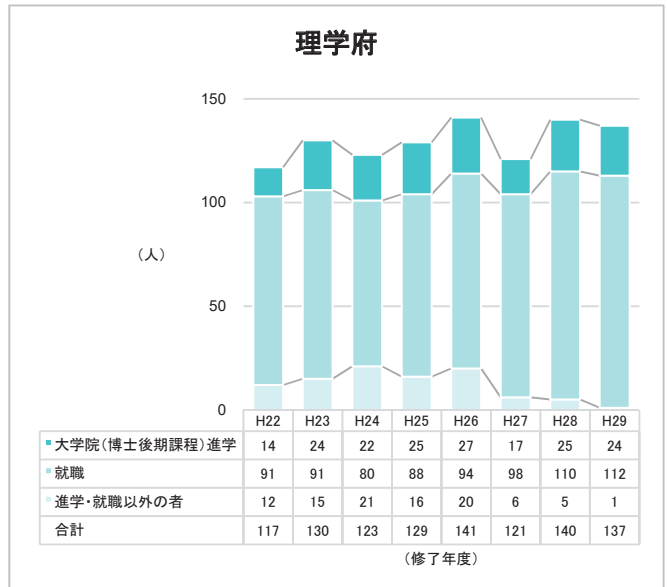
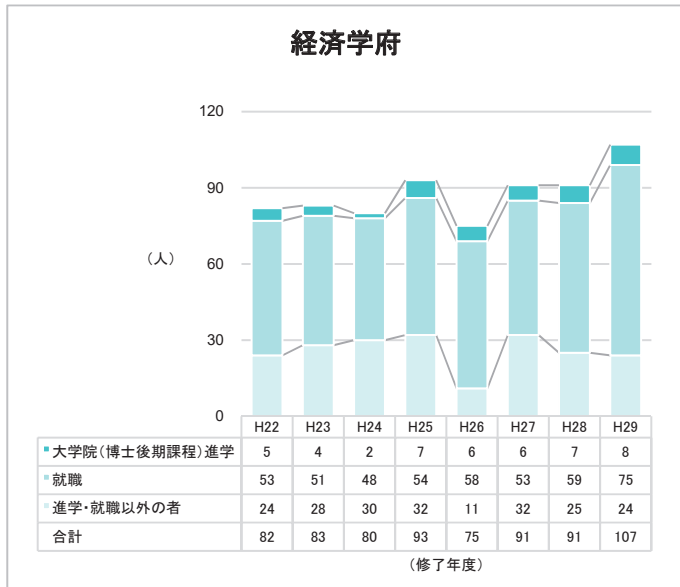


- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。
- ・法務学府の「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備を含む。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)



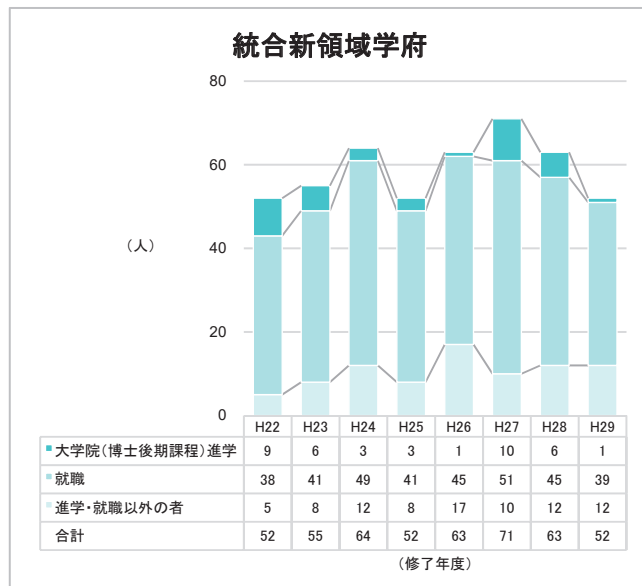
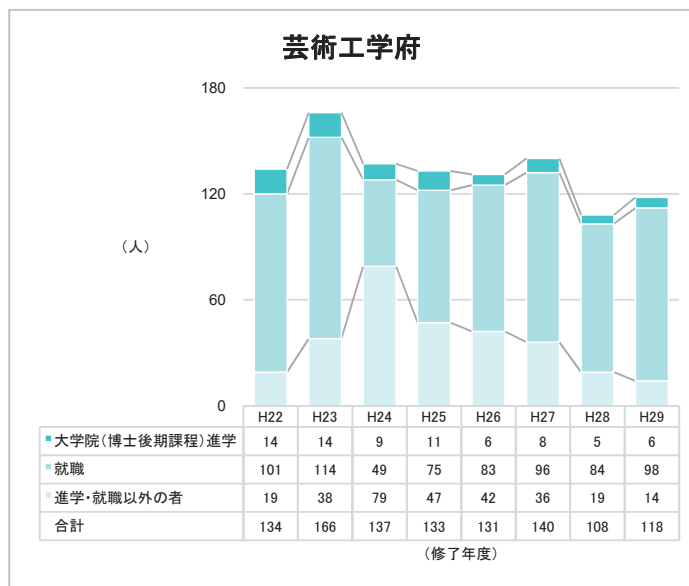
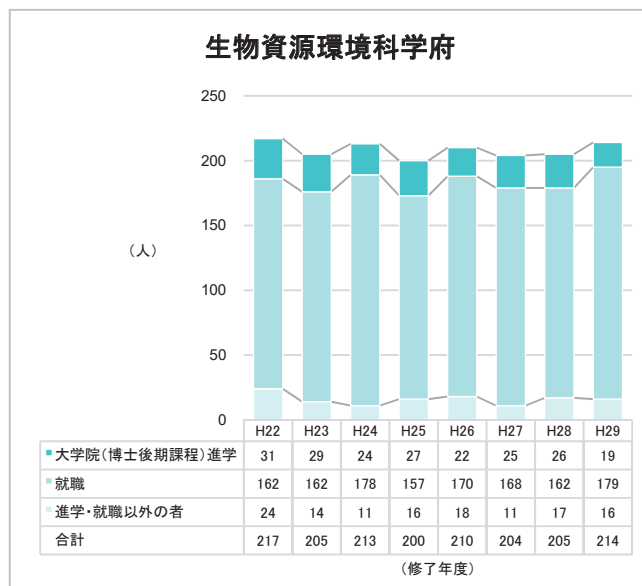
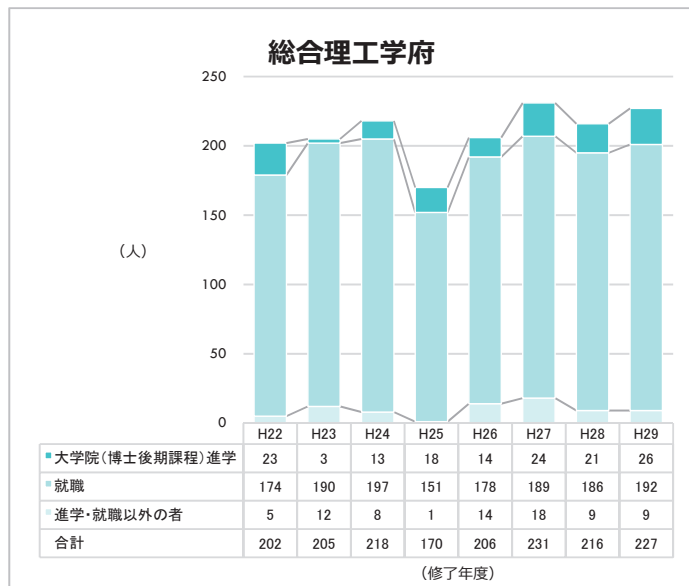
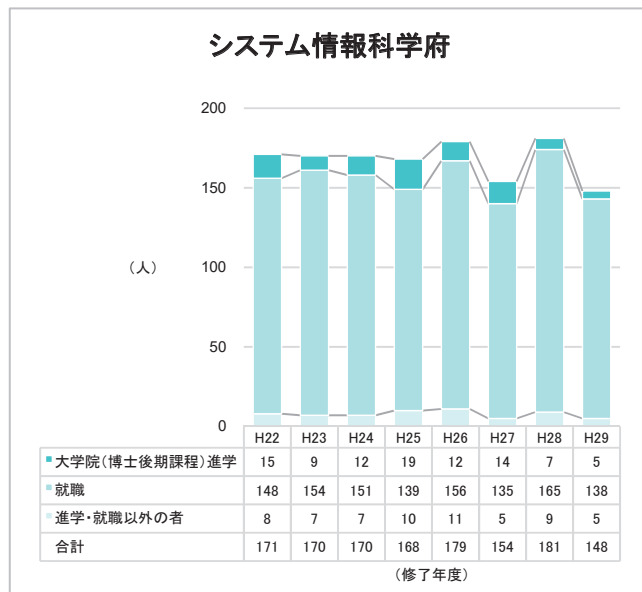
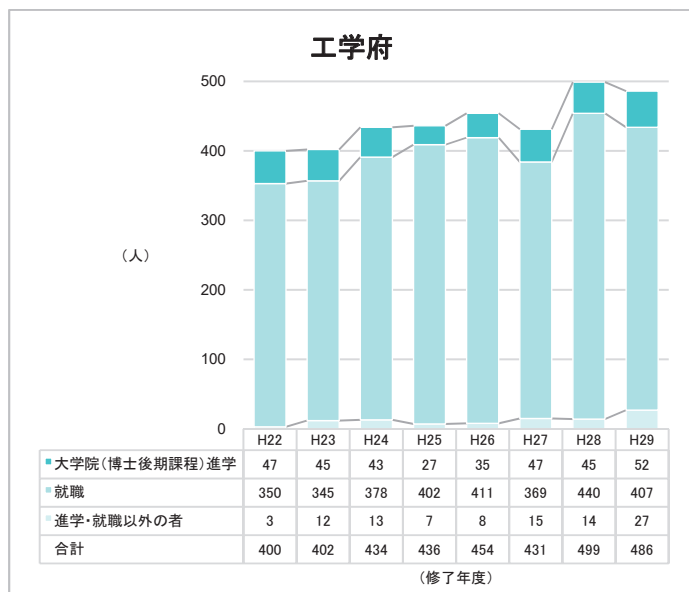
7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。

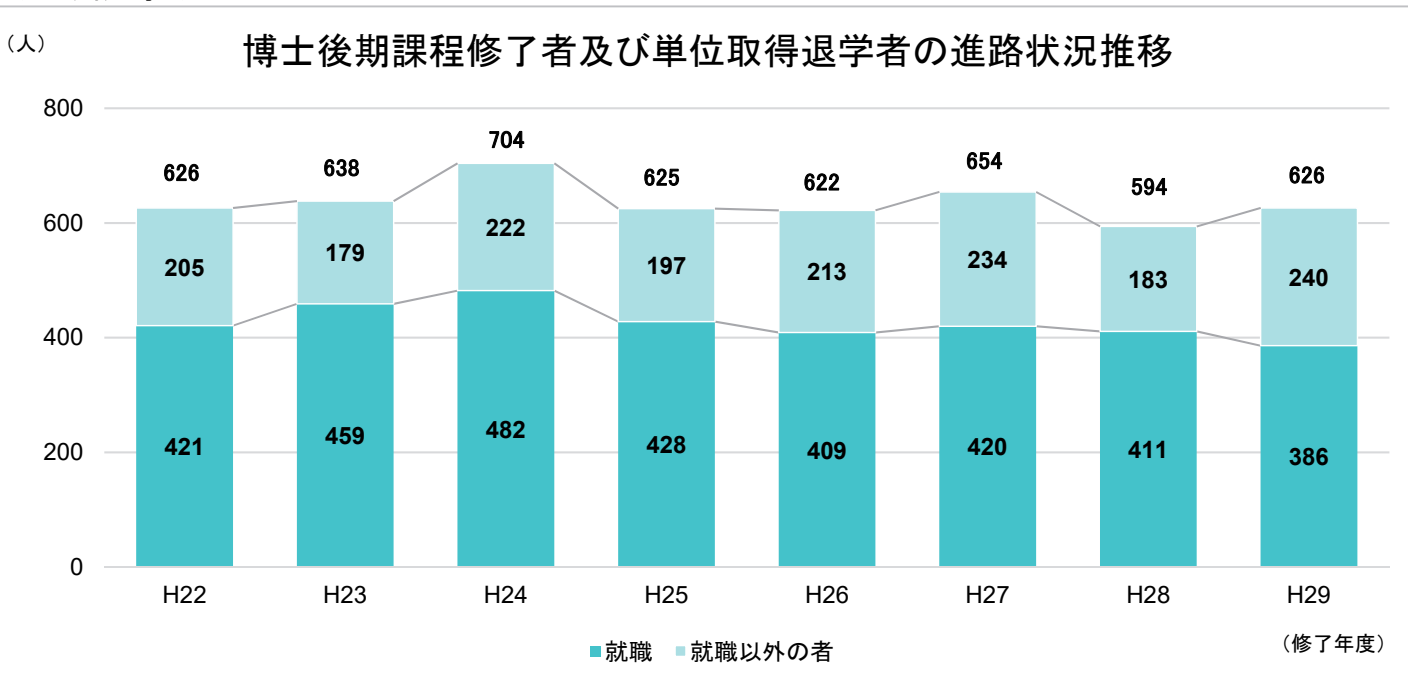
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 7-3. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況

### 7-3-1. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の 進路・就職状況(全体)

全国、本学ともに、就職者の割合が高く横ばい傾向である。

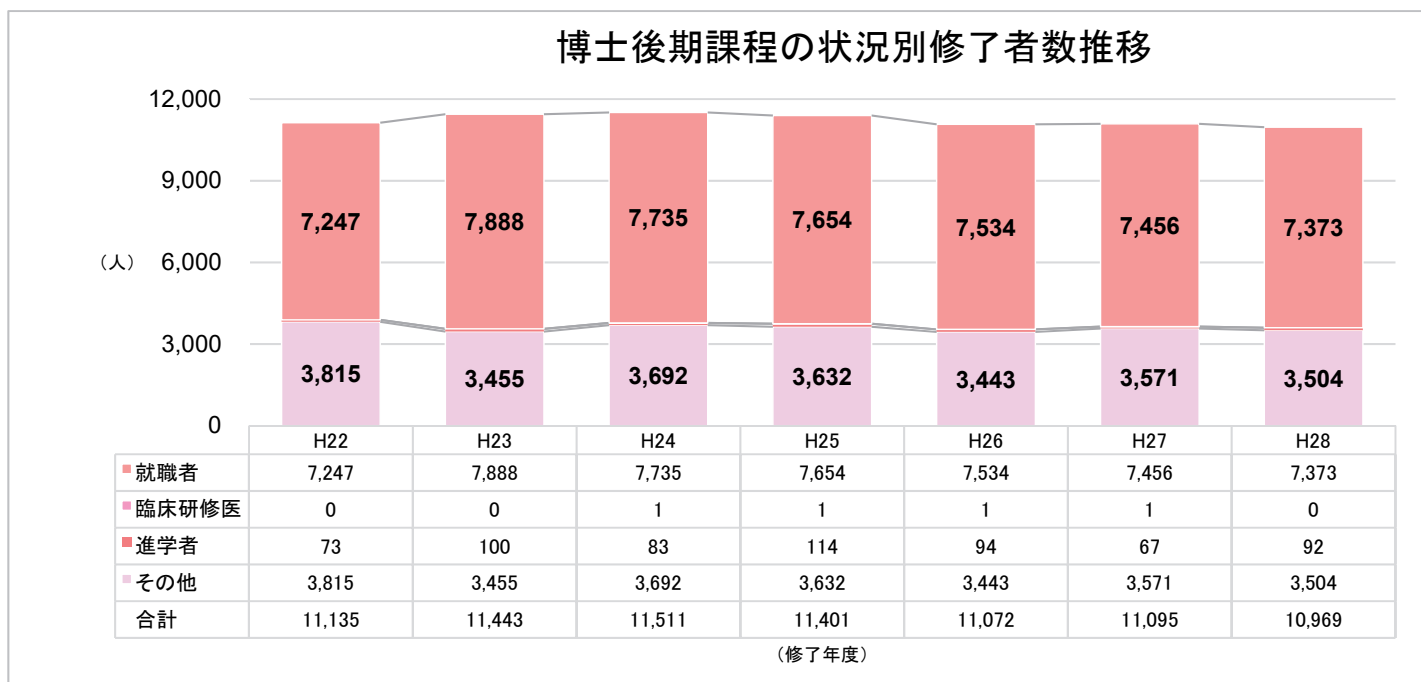
#### ◆九州大学◆



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。  
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

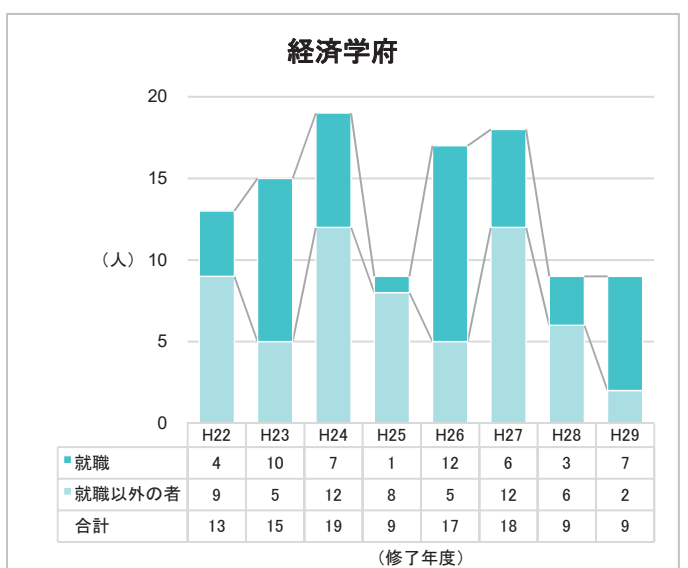
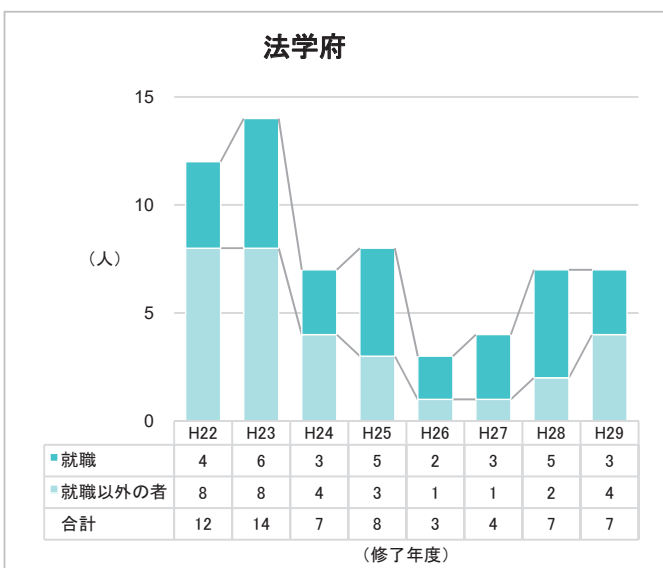
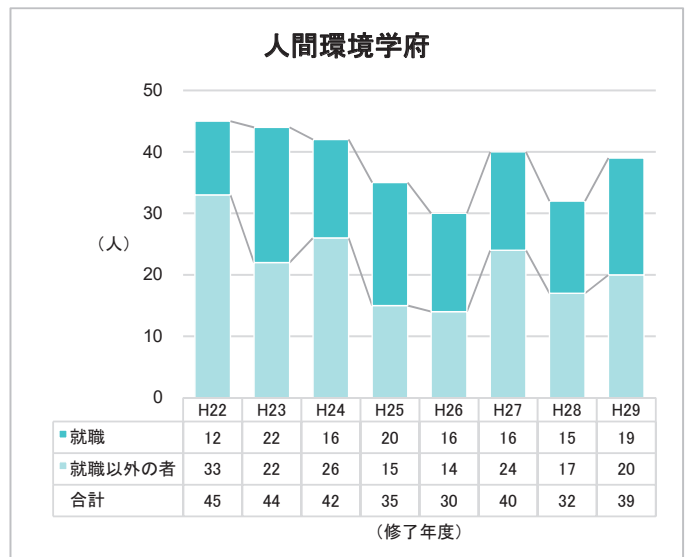
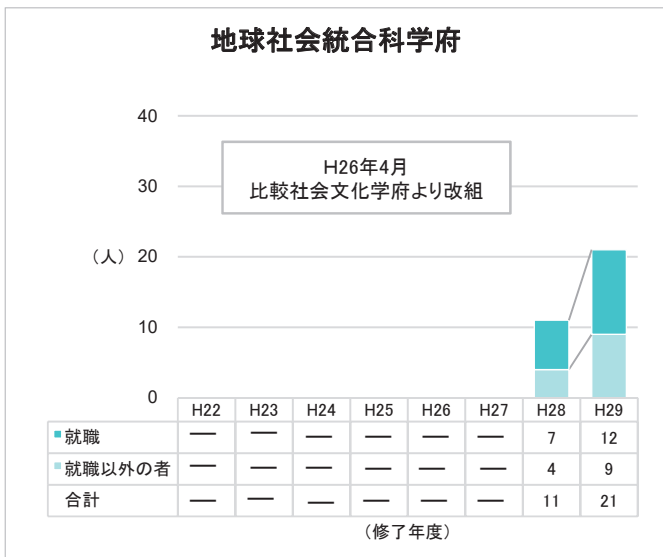
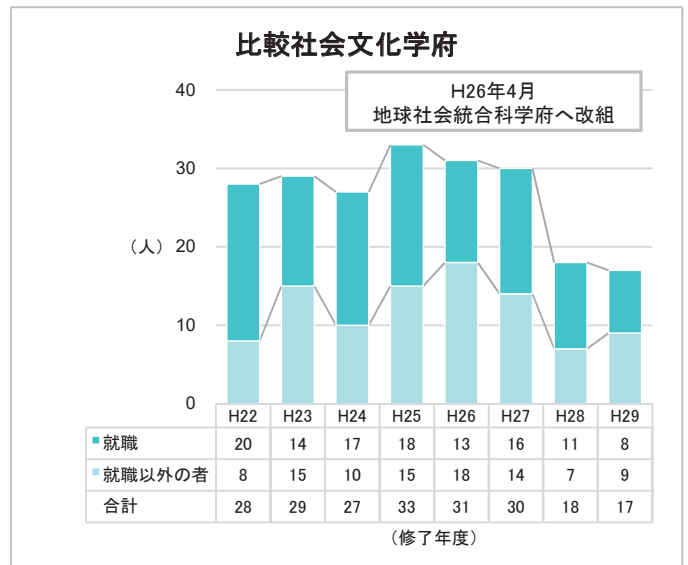
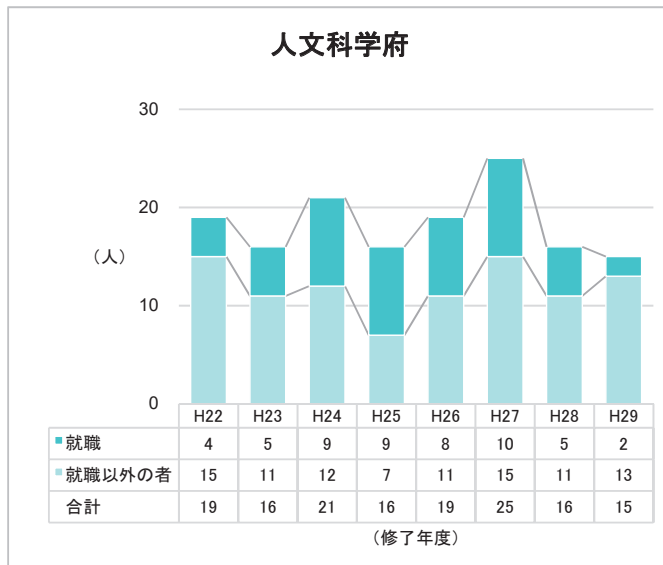
#### ◆全国 国立大学◆



※その他には、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

※出典：文部科学省 学校基本調査 卒業後の状況調査 大学院の専攻別 状況別終了者数

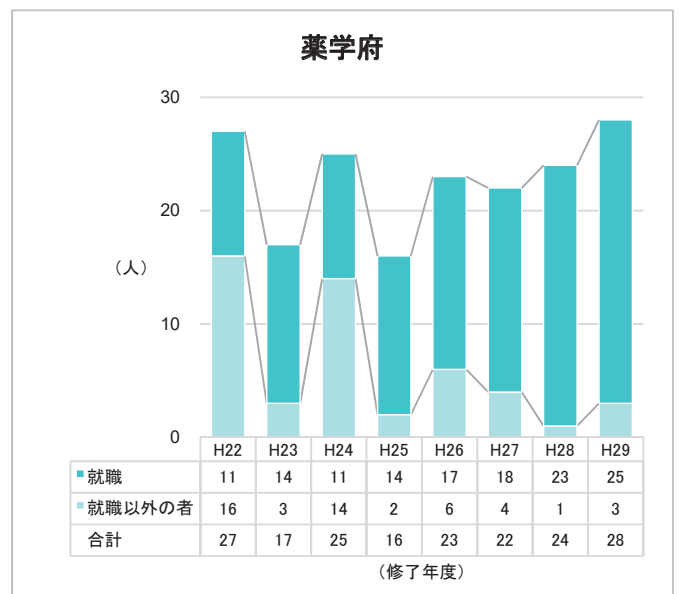
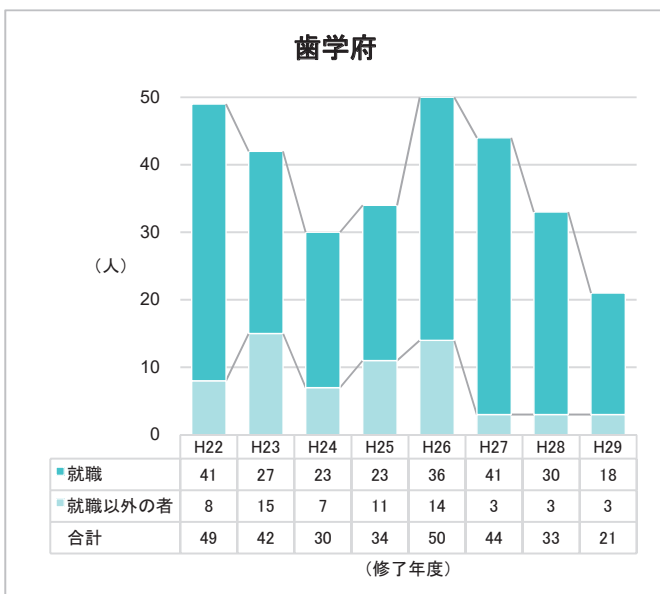
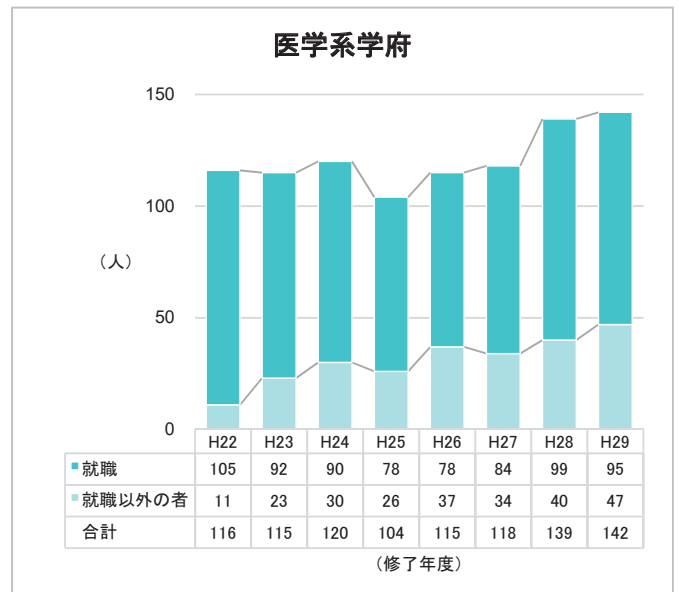
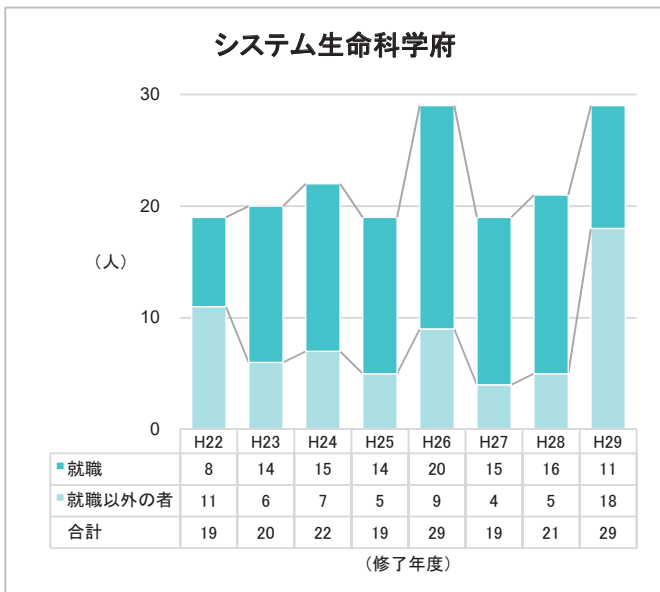
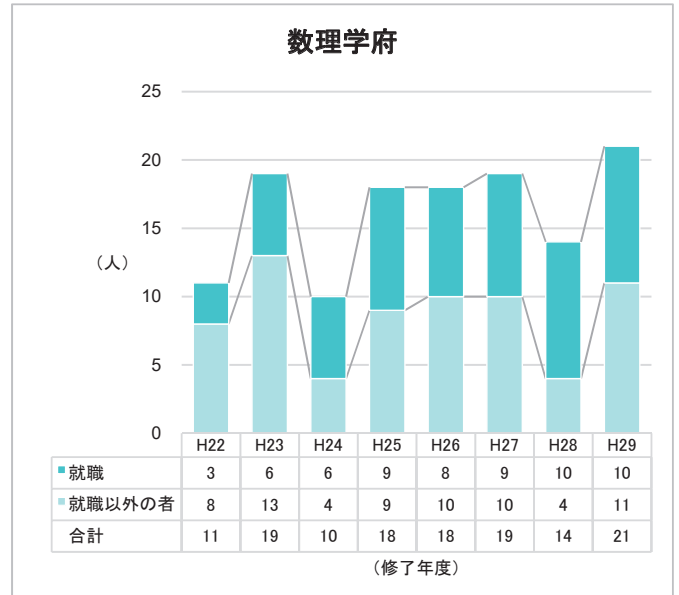
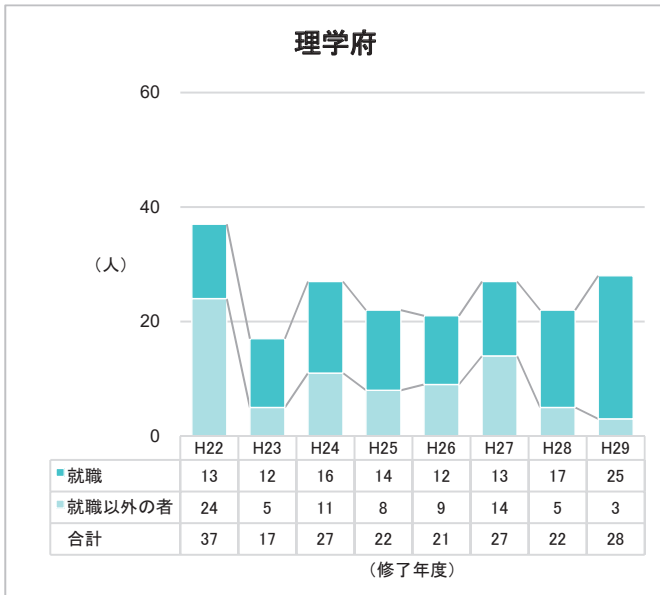
## 7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の 進路・就職状況(学府別)



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。  
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

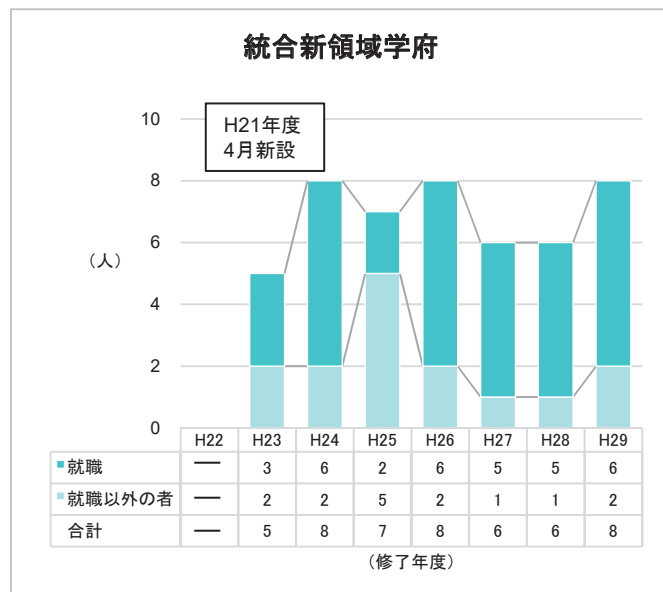
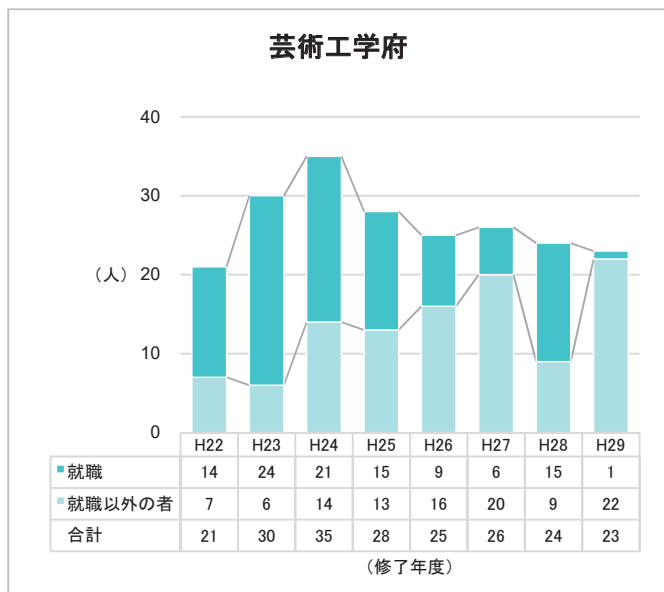
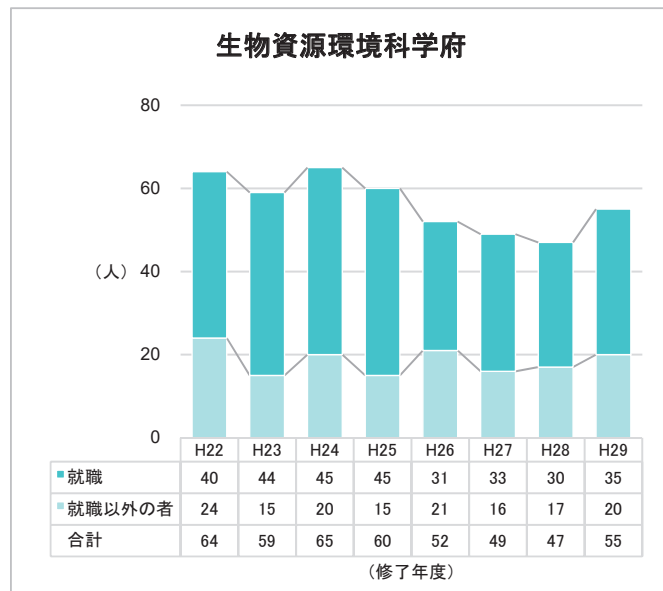
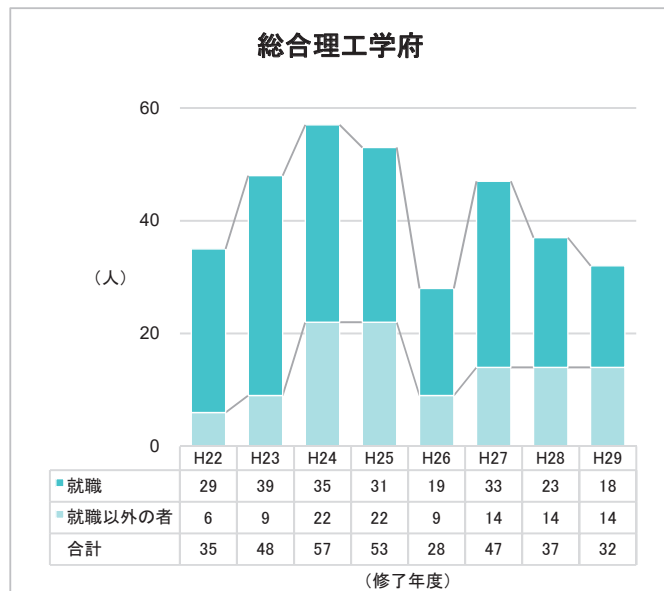
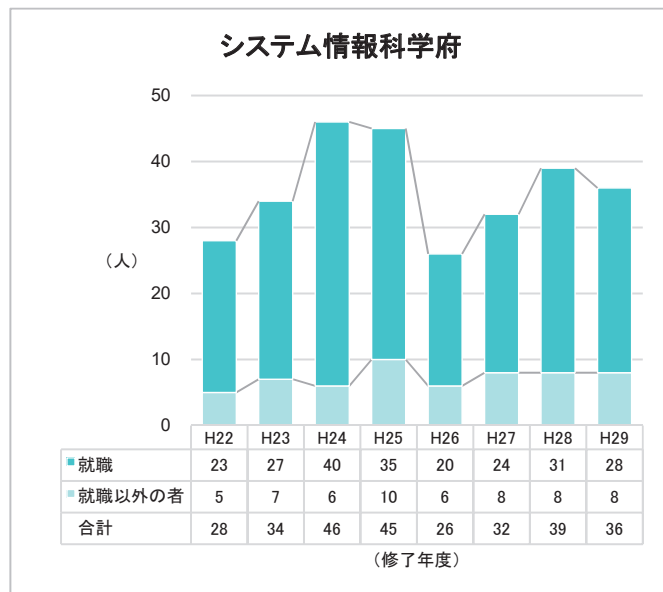
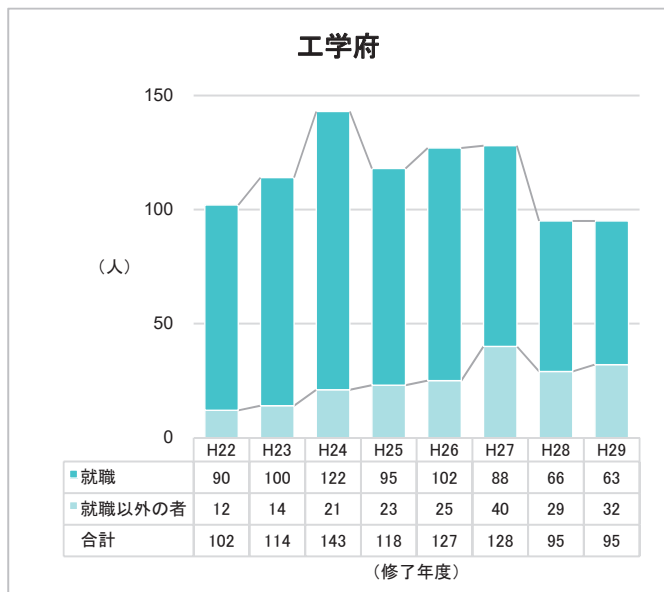
7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。  
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。  
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

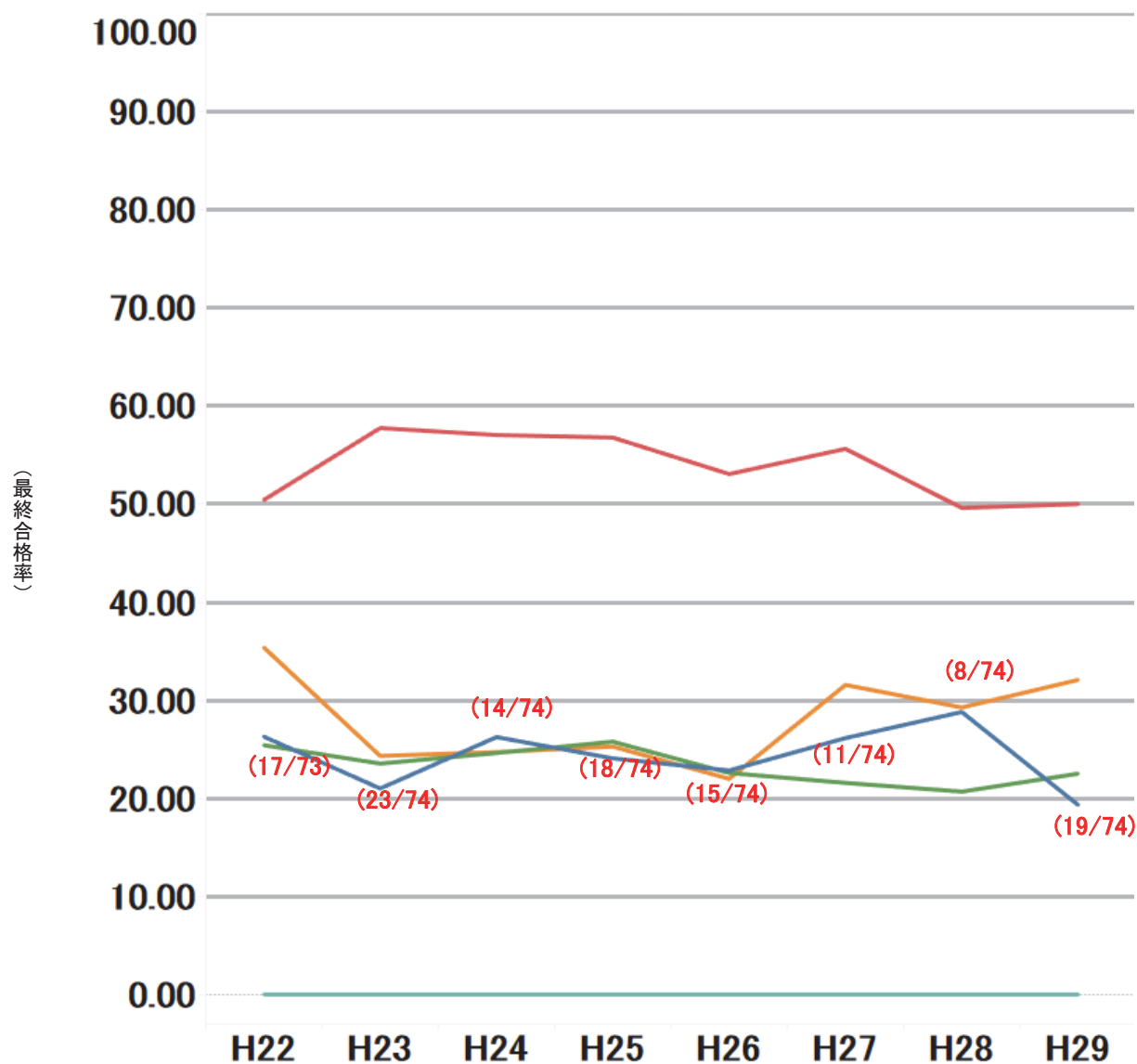
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 8. 資格試験等合格状況

### 8-1. 司法試験合格状況

全体的に横ばい傾向である。本学は、近年では全国平均を上回る年が多い。

#### ◆合格率推移◆



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
九州大学	26.29	21.00	26.24	24.07	22.84	26.14	28.80	19.32
全国平均(予備試験除く)	25.41	23.54	24.62	25.77	22.58	21.57	20.68	22.51
国立大学平均	35.38	24.32	24.71	25.27	21.98	31.56	29.26	32.07
最高	50.42	57.75	57.04	56.78	53.06	55.63	49.61	50.00
最低	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(年度)

・( )内は(九大の順位/全体数)である。

※出典:法務省HP 司法試験の結果について 法科大学院等別合格者数等

## 8-1. 司法試験合格状況(つづき)

### ◆合格者数ランキング(上位20大学)◆

H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)
東京大	201(1)	東京大	210(1)	中央大	202(1)	慶應義塾大	201(1)	早稲田大	172(1)	中央大	170(1)	慶應義塾大	155(1)	慶應義塾大学	144(1)
中央大	189(2)	中央大	176(2)	東京大	194(2)	東京大	197(2)	中央大	164(2)	慶應義塾大	158(2)	早稲田大	152(2)	東京大学	134(2)
慶應義塾大	179(3)	京都大	172(3)	慶應義塾大	186(3)	早稲田大	184(3)	東京大	158(3)	東京大	149(3)	東京大	137(3)	中央大学	119(3)
京都大	135(4)	慶應義塾大	164(4)	早稲田大	155(4)	中央大	177(4)	慶應義塾大	150(4)	早稲田大	145(4)	中央大	136(4)	京都大学	111(4)
早稲田大	130(5)	早稲田大	138(5)	京都大	152(5)	京都大	129(5)	京都大	130(5)	京都大	128(5)	京都大	105(5)	早稲田大学	102(5)
明治大	85(6)	明治大	90(6)	明治大	82(6)	一橋大	67(6)	一橋大	64(6)	一橋大	79(6)	一橋大	63(6)	大阪大学	66(6)
大阪大	70(7)	一橋大	82(7)	一橋大	77(7)	明治大	65(7)	明治大	63(7)	神戸大	72(7)	大阪大	42(7)	一橋大学	60(7)
一橋大	69(8)	神戸大	69(8)	大阪大	74(8)	大阪大	51(8)	大阪大	55(8)	明治大	53(8)	神戸大	41(8)	神戸大学	55(8)
北海道大	62(9)	同志社大	65(9)	神戸大	60(9)	北海道大	50(9)	神戸大	44(9)	大阪大	48(9)	九州大	36(9)	首都大学東京	31(9)
東北大	58(10)	東北大	54(10)	北海道大	54(10)	神戸大	46(10)	東北大	42(10)	北海道大	42(10)	明治大	36(9)	明治大学	30(10)
同志社大	55(11)	大阪大	49(11)	九州大	53(11)	上智大	46(10)	北海道大	41(11)	九州大	40(11)	名古屋大	34(11)	北海道大学	29(11)
神戸大	49(12)	北海道大	48(12)	同志社大	44(12)	同志社大	42(12)	九州大	37(12)	名古屋大	37(12)	北海道大	30(12)	名古屋大学	28(12)
名古屋大	49(12)	名古屋大	43(13)	名古屋大	44(12)	名古屋大	40(13)	立命館大	33(13)	東北大	35(13)	立命館大	29(13)	立命館大学	21(13)
立命館大	47(14)	九州大	42(14)	立命館大	43(14)	立命館大	40(13)	上智大	31(14)	同志社大	33(14)	首都大東京	25(14)	同志社大学	20(14)
九州大	46(15)	立命館大	40(15)	首都大東京	40(15)	九州大	39(15)	名古屋大	30(15)	上智大	29(15)	東北大	23(15)	東北大学	18(15)
関西学院大	37(16)	上智大	39(16)	上智大	38(16)	首都大東京	39(15)	千葉大	26(16)	法政大	29(15)	上智大	19(16)	関西学院大学	18(15)
上智大	33(17)	首都大東京	38(17)	東北大	38(16)	東北大	39(15)	同志社大	26(16)	立命館大	27(17)	千葉大	17(17)	九州大学	17(17)
関西大	32(18)	関西大	35(18)	関西学院大	27(18)	大阪市立大	35(18)	首都大東京	22(18)	首都大東京	26(18)	同志社大	17(17)	上智大学	16(18)
大阪市立大	31(19)	法政大	31(19)	関西大	22(19)	関西学院大	34(19)	日本大	22(18)	大阪市立大	22(19)	関西大	15(19)	創価大学	13(19)
首都大東京	30(20)	大阪市立大	30(20)	日本大	22(19)	法政大	30(20)	法政大	21(20)	関西大	22(19)	関西学院大	15(19)	大阪市立大	13(19)
千葉大	30(20)											広島大	15(19)		
												法政大	15(19)		

### ◆合格率ランキング(上位20大学)◆

H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
大学名	合格率	大学名	合格率	大学名	合格率	大学名	合格率	大学名	合格率	大学名	合格率	大学名	合格率	大学名	合格率
慶應義塾大	50.42%(1)	一橋大	57.75%(1)	一橋大	57.04%(1)	慶應義塾大	56.78%(1)	京都大	53.06%(1)	一橋大	55.63%(1)	一橋大	49.61%(1)	京都大学	50.00%(1)
一橋大	50.00%(2)	京都大	54.60%(2)	京都大	54.29%(2)	東京大	55.18%(2)	東京大	51.97%(2)	京都大	53.33%(2)	東京大	48.07%(2)	一橋大学	49.59%(2)
東京大	48.91%(3)	東京大	50.48%(3)	慶應義塾大	53.60%(3)	一橋大	54.47%(3)	一橋大	47.06%(3)	東京大	48.85%(3)	京都大	47.20%(3)	東京大学	49.45%(3)
京都大	48.74%(4)	慶應義塾大	47.95%(4)	東京大	51.19%(4)	京都大	52.44%(4)	慶應義塾大	44.64%(4)	神戸大	48.32%(4)	慶應義塾大	44.29%(4)	慶應義塾大学	45.43%(4)
千葉大	43.48%(5)	神戸大	46.62%(5)	神戸大	45.80%(5)	愛知大	42.86%(5)	大阪大	40.15%(5)	慶應義塾大	45.53%(5)	早稲田大	35.85%(5)	大阪大学	40.74%(5)
北海道大	43.06%(6)	千葉大	39.19%(6)	大阪大	41.81%(6)	首都大東京	40.63%(6)	早稲田大	35.17%(6)	愛知大	36.36%(6)	神戸大	32.28%(6)	神戸大学	38.73%(6)
中央大	43.05%(7)	中央大	38.18%(7)	中央大	41.31%(7)	中央大	40.05%(7)	中央大	34.53%(7)	中央大	35.79%(7)	中央大	29.44%(7)	愛知大学	30.77%(7)
大阪大	38.89%(8)	早稲田大	31.84%(8)	首都大東京	39.60%(8)	早稲田大	38.41%(8)	千葉大	30.95%(8)	早稲田大	30.79%(8)	九州大	28.80%(8)	早稲田大学	29.39%(8)
東北大	36.48%(9)	東北大	31.76%(9)	愛知大	37.84%(9)	千葉大	36.92%(9)	神戸大	30.77%(9)	大阪大	29.09%(9)	大阪大	26.75%(9)	首都大学東京	26.96%(9)
名古屋大	35.25%(10)	首都大東京	31.67%(10)	北海道大	33.96%(10)	神戸大	36.80%(10)	東北大	26.42%(10)	北海道大	28.57%(10)	愛知大	26.67%(10)	中央大学	26.15%(10)
神戸大	34.03%(11)	名古屋大	31.62%(11)	早稲田大	32.84%(11)	大阪大	36.43%(11)	愛知大	25.93%(11)	九州大	26.14%(11)	名古屋大	25.00%(11)	東北大学	26.09%(11)
早稲田大	32.75%(12)	岡山山	31.51%(12)	名古屋大	32.59%(12)	名古屋大	33.33%(12)	創価大	25.71%(12)	東北大	25.74%(12)	東北大	23.96%(12)	北海道大学	24.58%(12)
愛知大	31.82%(13)	北海道大	30.00%(13)	千葉大	31.82%(13)	北海道大	33.33%(12)	北海道大	25.47%(13)	名古屋大	25.00%(13)	北海道大	23.44%(13)	名古屋大学	23.73%(13)
金沢大	31.48%(14)	大阪大	28.65%(14)	九州大	26.24%(14)	大阪市立大	33.02%(14)	首都大東京	22.92%(14)	首都大東京	23.01%(14)	広島大	20.27%(14)	鹿児島大学	20.00%(14)
首都大東京	29.70%(15)	北海道学園大	27.03%(15)	近畿大	24.32%(15)	上智大	26.44%(15)	九州大	22.84%(15)	神奈川大	22.86%(15)	千葉大	19.77%(15)	熊本大学	20.00%(14)
山梨学院大	27.45%(16)	南山大	26.25%(16)	東北大	21.97%(16)	創価大	25.00%(16)	名古屋大	22.56%(16)	大阪市立大	18.64%(16)	首都大東京	19.53%(16)	神戸学院大学	20.00%(14)
九州大	26.29%(17)	大阪市立大	25.00%(17)	広島大	20.88%(17)	岡山山	24.29%(17)	上智大	19.62%(17)	岡山山	18.46%(17)	創価大	19.40%(17)	創価大学	19.40%(17)
大阪市立大	26.05%(18)	明治大	24.00%(18)	上智大	20.77%(18)	九州大	24.07%(18)	横浜国立大	19.35%(18)	熊本大	18.42%(18)	岡山山	18.03%(18)	琉球大学	19.35%(18)
筑速大	25.58%(19)	同志社大	23.47%(19)	明治大	20.45%(19)	東北大	22.54%(19)	岡山山	18.06%(19)	創価大	17.95%(19)	静岡大	16.67%(19)	九州大学	19.32%(19)
明治大	25.37%(20)	金沢大	23.44%(20)	中京大	19.51%(20)	同志社大	22.11%(20)	大阪市立大	17.43%(20)	同志社大	17.46%(20)	神戸学院大	15.38%(20)	関西学院大学	18.37%(20)
		九州大(23位)	21.00%(23)												
平均	25.41%	平均	23.54%	平均	24.62%	平均	25.77%	平均	22.58%	平均	21.57%	平均	20.68%	平均	22.51%

※司法試験法科大学院等別合格者数等(予備試験合格者については含めていない)

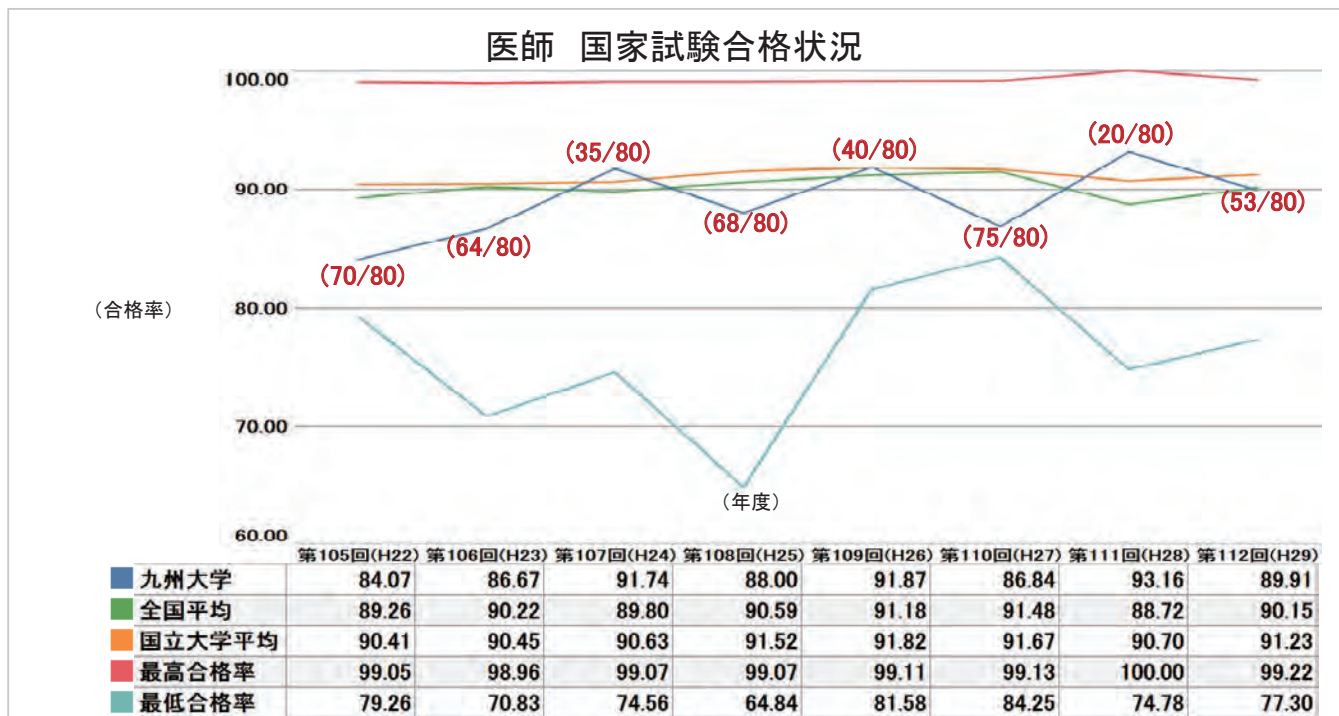
※出典:法務省HP 司法試験の結果について 法科大学院等別合格者数等



## 8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況

医師国家資格については、国立大学平均合格率は安定しているものの、本学は受験年度により大きく変動している。

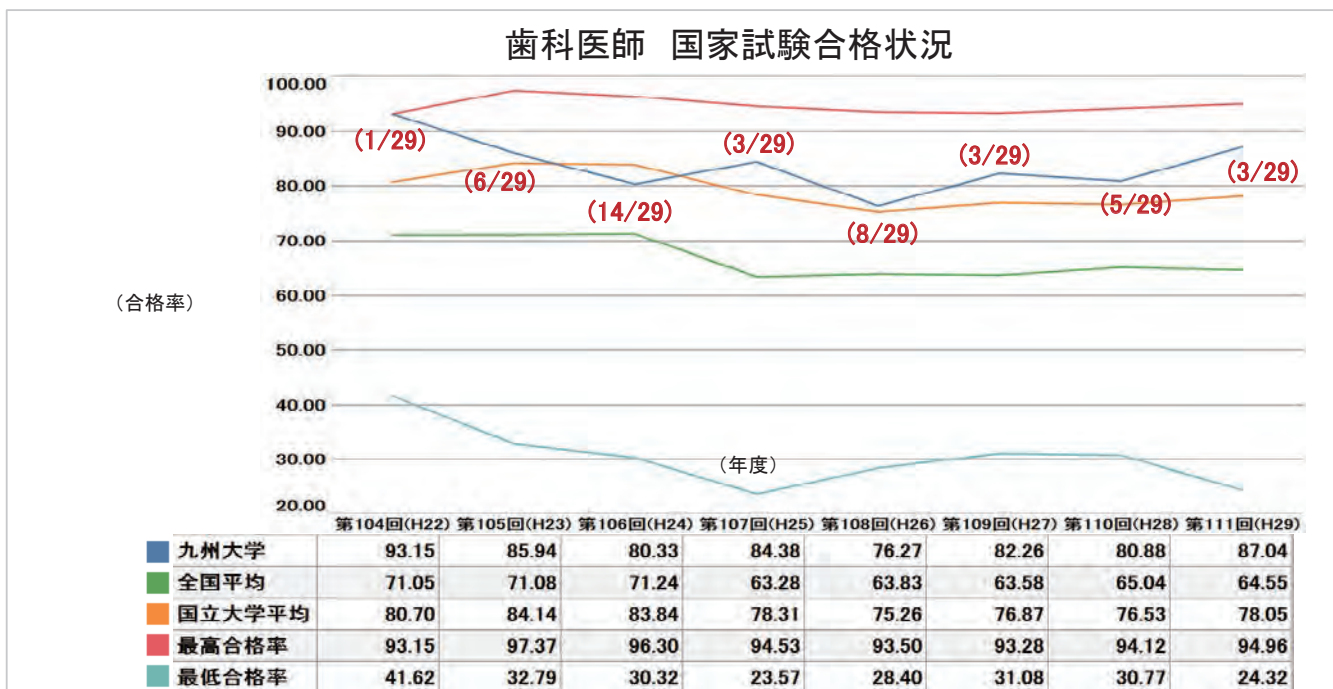
### 【医師国家資格(合格率)】



・数値は、新卒及び既卒の合格者数を受験者数で除した率である。  
 ・( )内は(九大の順位/全体数)である。

※出典: 医師国家試験対策予備校「テコム」ホームページ  
 (<https://www.tecomgroup.jp/igaku/topics/111.asp>)

### 【歯科医師国家資格(合格率)】

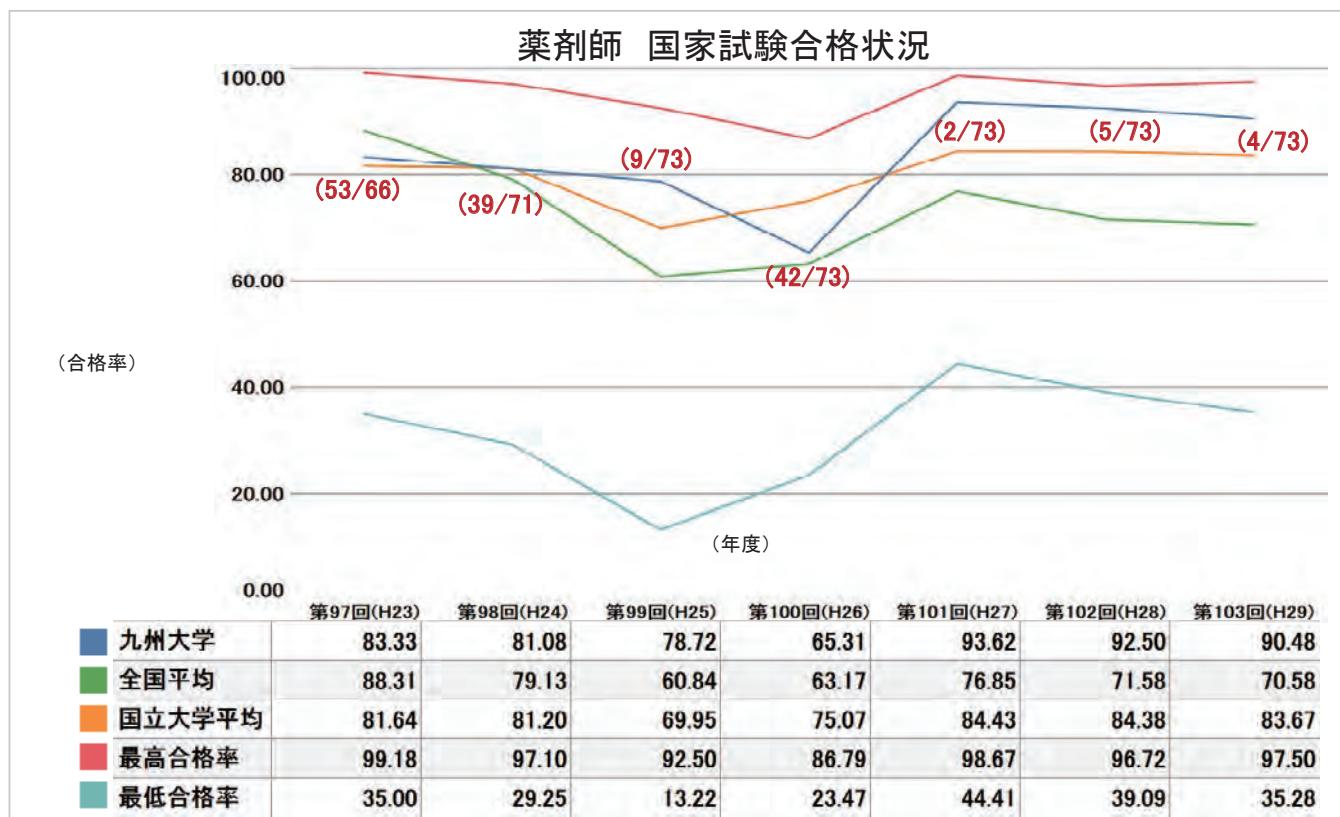


・数値は、新卒及び既卒の合格者数を受験者数で除した率である。  
 ・( )内は(九大の順位/全体数)である。

※出典: 歯科医療従事者専用サイト「White Cross」  
 (<https://www.whitecross.co.jp/articles/view/442/0>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

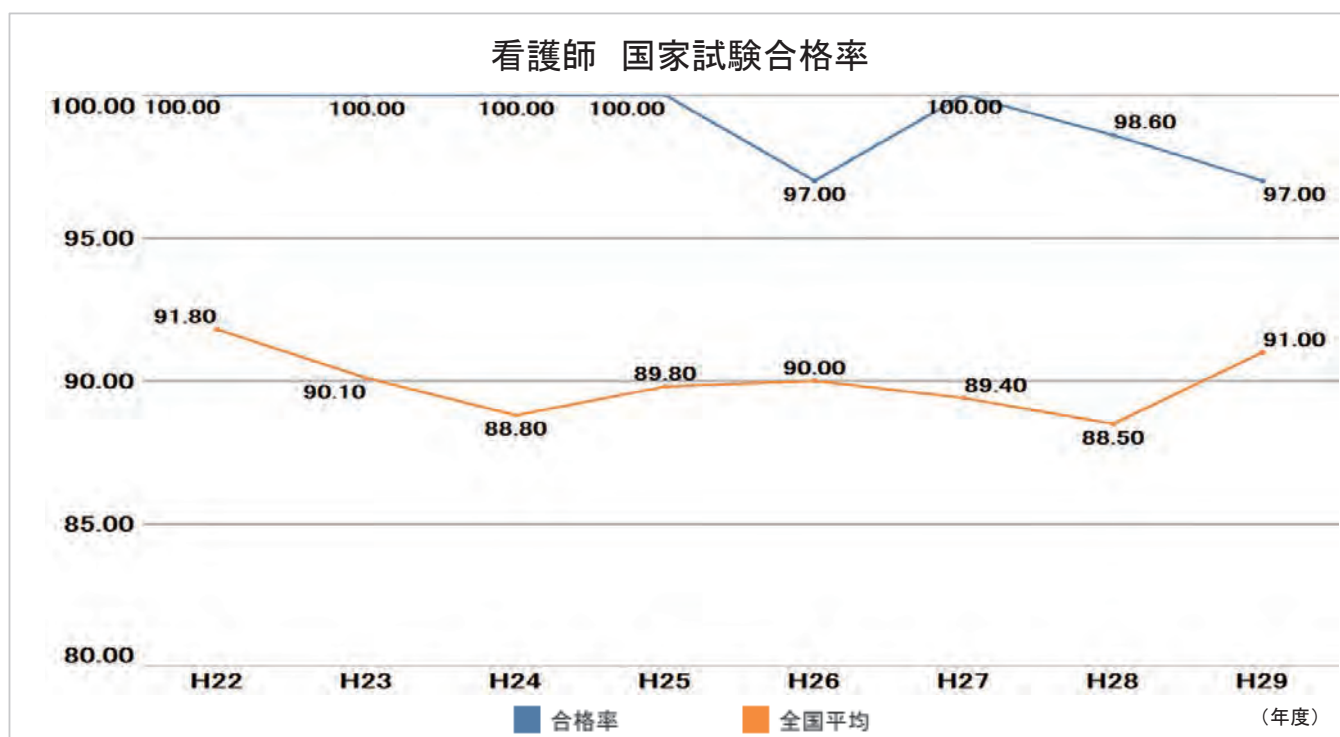
【薬剤師国家資格(合格率)】



・薬剤師国家資格については、6年生課程卒業生試験を対象としているため、H23年度以降に掲載したもの。  
 ・数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。  
 ・( )内は(九大の順位/全体数)である。

※出典:厚生労働省ホームページ  
 (<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000157911.html>)

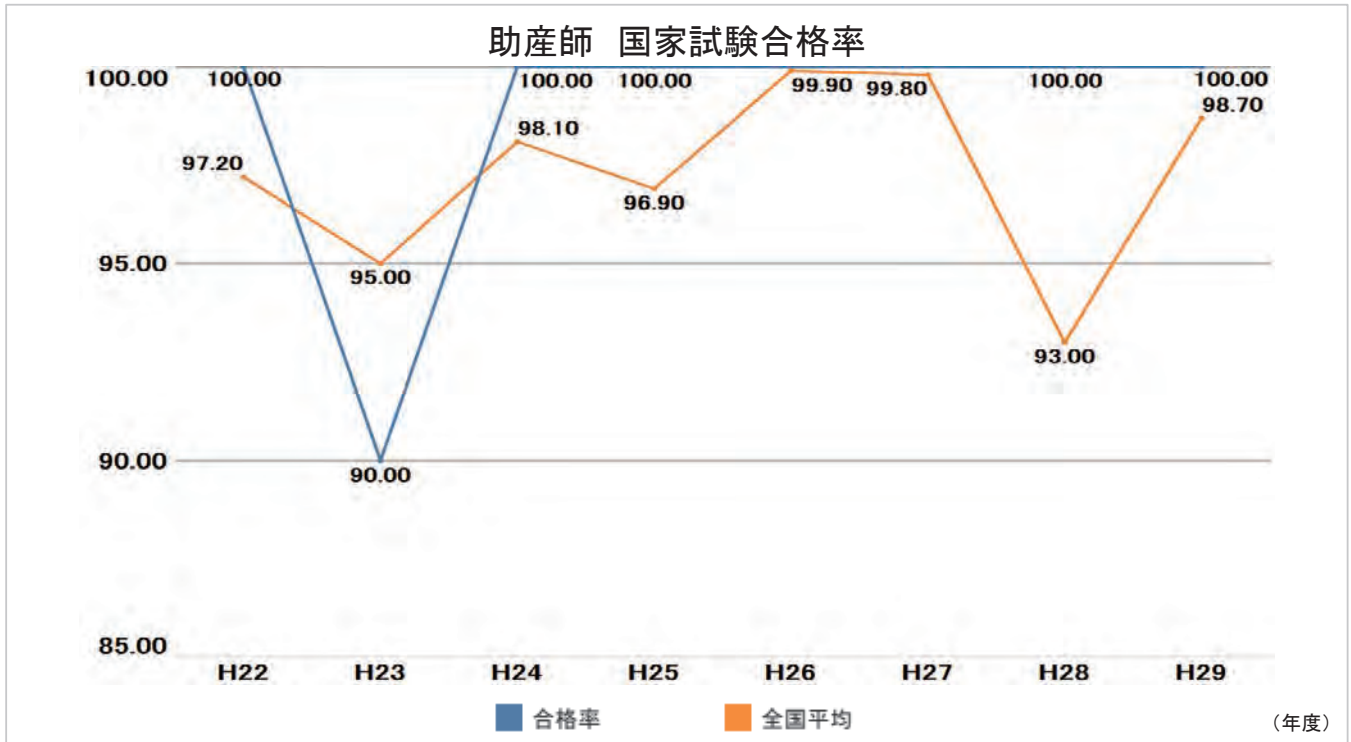
【看護師国家資格(合格率)】



※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

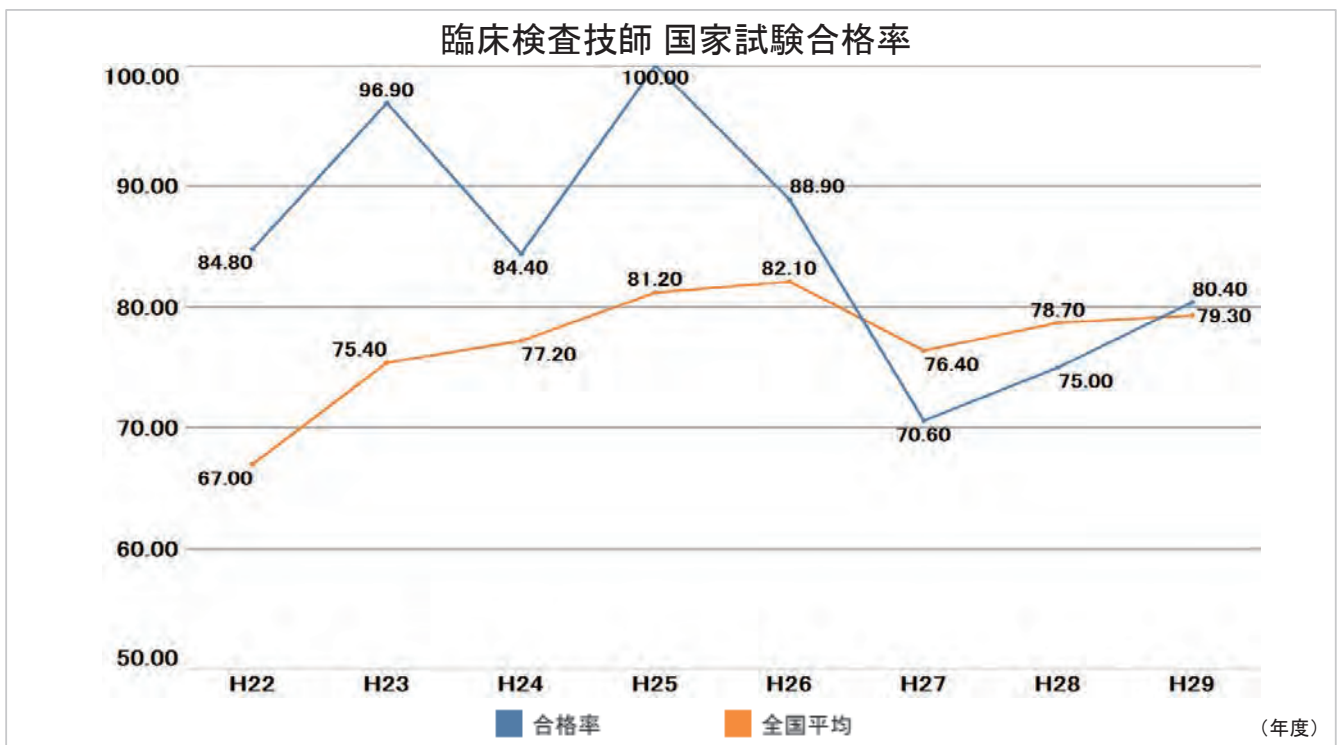
8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

【助産師国家資格(合格率)】



※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

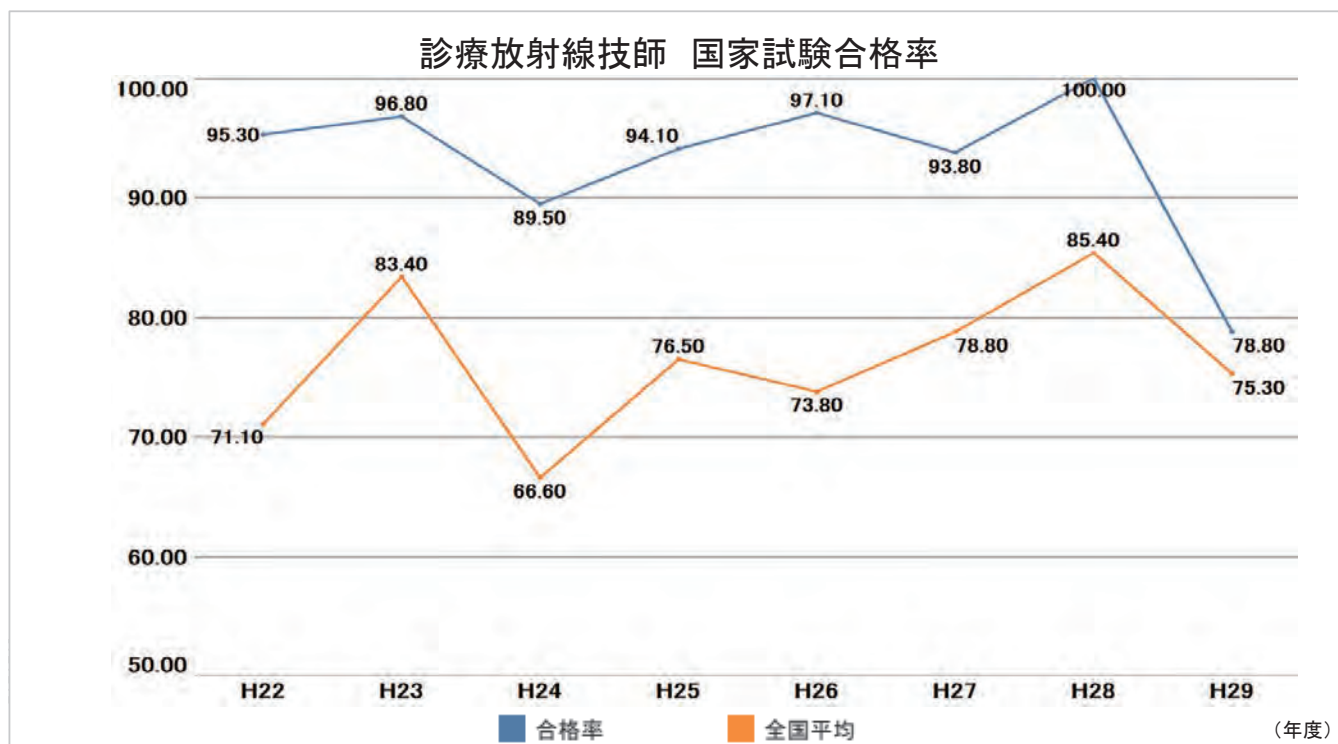
【臨床検査技師国家資格(合格率)】



※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

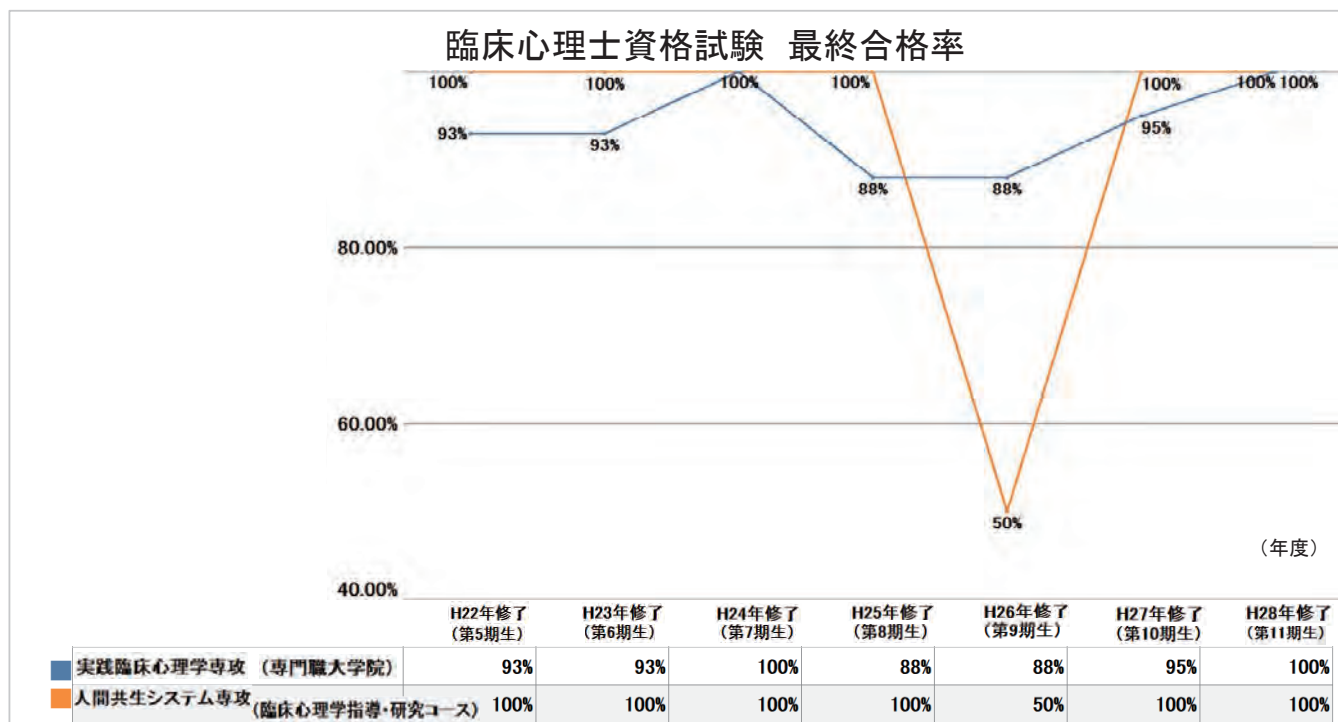
8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

【診療放射線技師国家資格(合格率)】



※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

【臨床心理士資格試験(最終合格率)】



※出典: 専門職大学院 人間環境学府 実践臨床心理学専攻  
大学院 人間環境学府 人間共生システム専攻臨床心理学 指導・研究コース 入学案内パンフレット

資格試験等合格状況

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

◆公務員試験合格◆

【国家公務員総合職】

順位	大学名	人
1	東京大	372
2	京都大	182
3	早稲田大	123
4	大阪大	83
5	北海道大	82
6	慶應義塾大	79
7	東北大	72
8	九州大	67
9	中央大	51
10	一橋大	49

【国家公務員一般職】

順位	大学名	人
1	早稲田大	229
2	岡山大	197
3	中央大	195
4	広島大	185
5	同志社大	183
6	立命館大	173
7	北海道大	165
8	日本大	161
:		
13	九州大	135

【外務省専門職員】

順位	大学名	人
1	東京外国語大	10
2	慶應義塾大	6
3	早稲田大	5
4	大阪大	3
4	上智大	3
4	同志社大	3
7	九州大	2
7	東京大	2
7	創価大	2
7	明治大	2
7	立命館大	2

◆国家資格合格◆

【弁理士】

順位	大学名	人
1	東京大	34
2	大阪大	17
3	京都大	16
4	東京工業大	14
5	慶應義塾大	12
5	東京理科大	12
7	東北大	11
7	早稲田大	11
:		
14	九州大	4

【技術士】

順位	大学名	人
1	京都大	147
2	日本大	144
3	北海道大	108
4	東京大	105
5	大阪大	104
6	九州大	103
7	早稲田大	95
8	東京工業大	92
8	東北大	92
10	名古屋大	70

【一級建築士】

順位	大学名	人
1	日本大	181
2	東京理科大	108
3	芝浦工業大	102
4	早稲田大	71
5	明治大	67
6	千葉大	60
6	工学院大	60
8	近畿大	58
8	法政大	58
:		
14	九州大	44

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2019年版」

## 9. 研究

### 9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向

九州大学では、医学、物理学・天文学、工学、生化学・遺伝学・分子生物学、材料科学分野のジャーナルに掲載された論文の割合が高い。  
また、九州大学のトップ10%論文、トップ10%ジャーナル論文、国際共著論文、産学共著論文の割合は、全て日本全体の平均よりも高い値である。

## Kyushu University

128th (QS) · 351-400 (THE) · 201-300 (ARWU) | Japan | More details on this Institution

2013 to 2017

no subject area filter selected

ASJC

Home

### Overall research performance

Scholarly Output 論文数

24,624

View list of publications

Authors 著者数

14,428

Field-Weighted Citation Impact

1.11

FWCI

Citation Count 被引用数

178,082

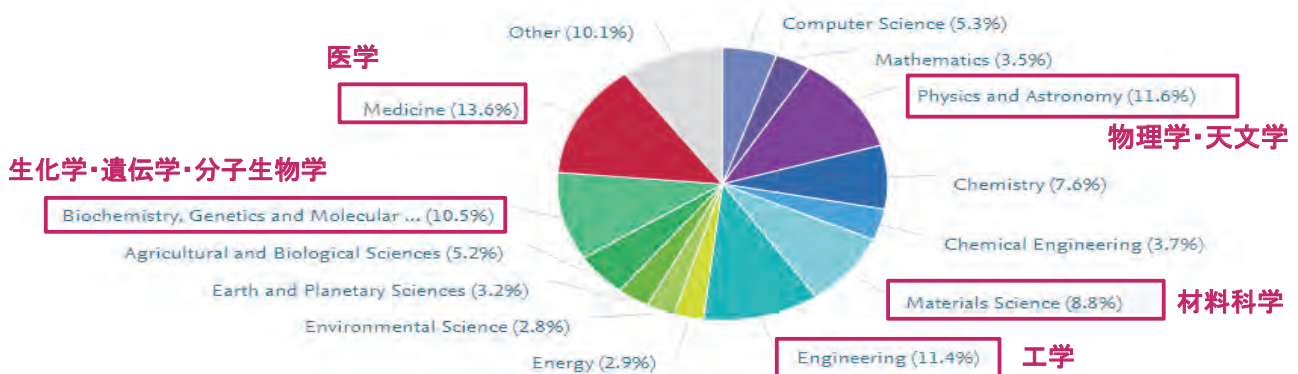
Citations per Publication

7.2

1論文当たりの被引用数

h5-index

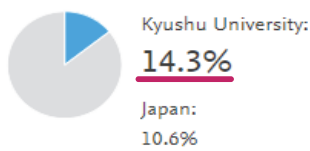
97



### Outputs in Top Citation Percentiles

+ Add to Reporting

Publications in top 10% most cited worldwide

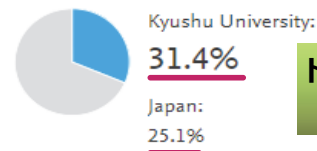


> Analyze in more detail

### Publications in Top Journal Percentiles

+ Add to Reporting

Publications in top 10% journals by CiteScore Percentile

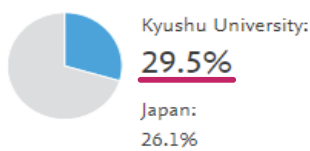


> Analyze in more detail

### International Collaboration

+ Add to Reporting

Publications co-authored with Institutions in other countries

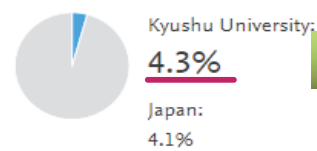


※出典: ELSEVIER社製「SciVal」より(H30.9月現在)

### Academic-Corporate Collaboration

+ Add to Reporting

Publications with both academic and corporate affiliations



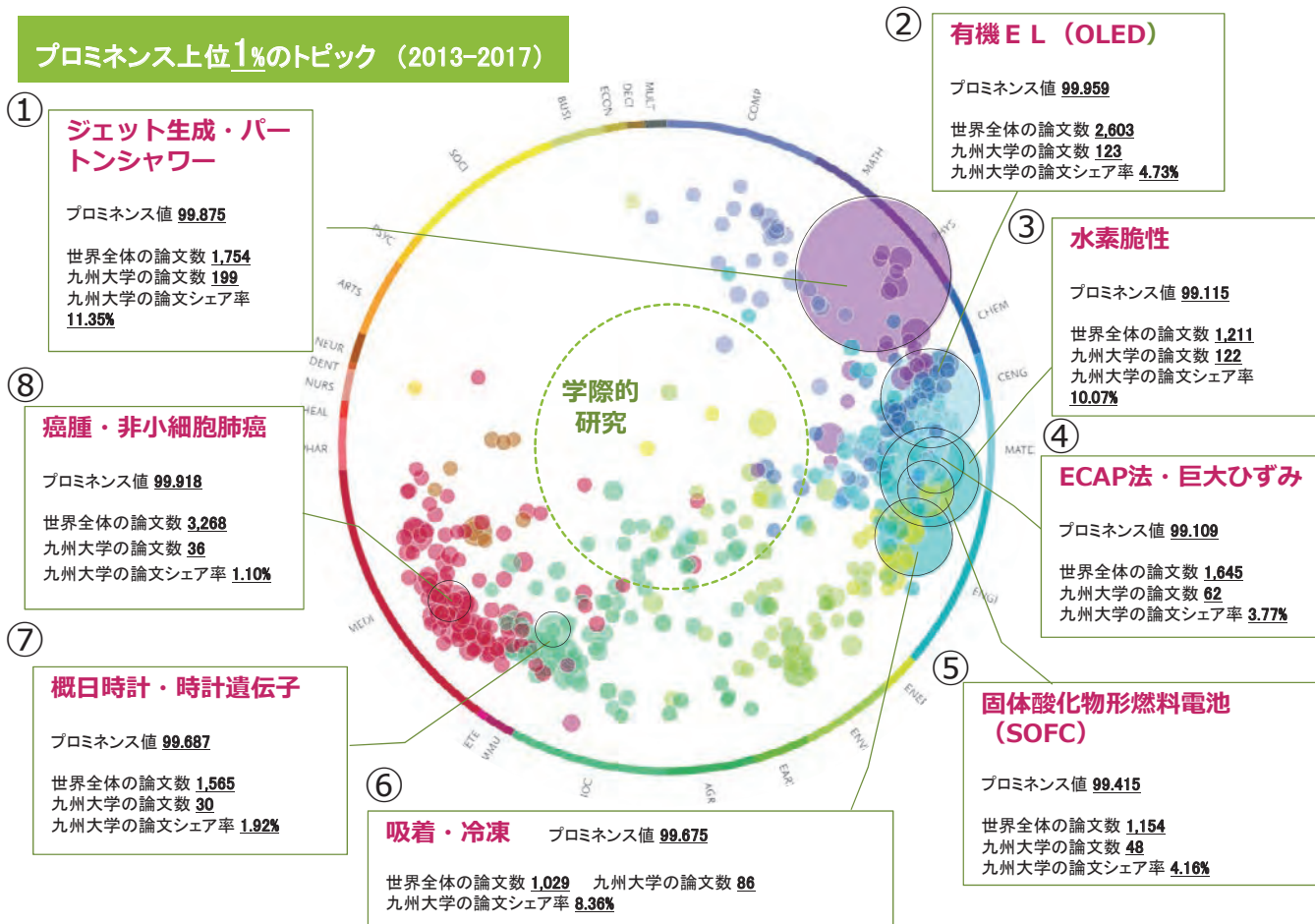
9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向(つづき)

# トピックプロミネンス

## —論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析—

SciValのTopic Prominence機能によると、2013年から2017年の間に出版された本学の論文のうち、9,047の研究分野が注目度の高いTopicとして出現している。下図はTop1%の注目度に該当する研究分野のTopicを示したものである。物理学・天文学, 化学, 化学工学, 材料科学, 工学, エネルギー, 医学の分野にTopicが集中している。中でも、①ジェット生成・パートンシャワー, ②有機EL(OLED), ③水素脆性, ④ECAP法・巨大ひずみ, ⑤固体酸化燃料電池(SOFC), ⑥吸着・冷凍, ⑦概日時計・時計遺伝子, ⑧癌腫・非小細胞肺癌のTopicは論文数が多く、世界における各分野の論文シェア率も高い傾向にあり、本学の中でも活発な研究分野と言える。

### プロミネンス上位1%のトピック (2013-2017)



- |               |                    |                 |                   |
|---------------|--------------------|-----------------|-------------------|
| COMP コンピュータ化学 | ENER エネルギー科学       | MEDI 医学         | PSYC 心理学          |
| MATH 数学       | ENVI 環境科学          | PHAR 薬理学、毒性学、薬学 | SOC 社会科学          |
| PHYS 物理学、天文学  | EART 地球科学、惑星学      | HEAL 健康衛生学      | BUSI ビジネス・経営学・会計学 |
| CHEM 化学       | AGRI 農学及び生物科学      | NURS 看護学        | ECO 経済学、計量経済学、金融  |
| CENG 化学工学     | BIOC 生化学、遺伝学、分子生物学 | DENT 歯科学        | DEC 意思決定科学        |
| MATE 材料科学     | IMMU 免疫学、微生物学      | NEUR 神経科学       | MUL 学際分野          |
| ENGI 工学       | VETE 獣医学           | ARTS 人文学        |                   |

### Topic Prominence 機能の概要

Scopusの文献を引用リンクに基づいて約97,000のトピックにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けしたものです。新指標Prominenceは、直近の文献の被引用数、表示回数、注目度を示します。Prominenceは、助成金と相関関係があり、研究者と研究管理者が助成金が増える可能性が高いトピックを特定するのを支援します。円の中心にあるトピックほど、学際的なトピックと言えます。(Elsevier社「クイックレファレンスガイド 2018年1月」より抜粋)

#### ◆見方◆

- ・小さい円: 各トピック。
- ・外側の円周: Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。
- ・小さい円の大きさ: 各トピックを構成する論文の数を表す。
- ・小さい円の色: トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したものです。
- ・小さい円の位置: トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(H30.9月現在)

## 9-2. 論文の量と質についての比較

直近10年間の本学の論文数は増加傾向にあり、2017年と2008年を比較すると9年前に比べて約1,000本増加している。FWCIは、2011年に世界平均値の1.0を超えた。その後おおむね1.1前後を保ち推移している。2016年には、1.24という高い値を出した。

### ◆他大学との比較◆

【Scholarly Output  
(論文数)】

順位	大学名	本数
1	東京大	59,232
2	京都大	40,531
3	大阪大	33,406
4	東北大	31,556
5	九州大	24,624
6	名古屋大	23,624
7	北海道大	21,366
8	東京工業大	19,148
9	筑波大	16,046
10	広島大	12,544

(2013~2017)

【Citation Count (被引用回数)】

順位	大学名	被引用回数	論文当たりの 平均被引用数
1	東京大	549,110	9.3
2	京都大	365,243	9.0
3	大阪大	264,548	7.9
4	東北大	246,182	7.8
5	名古屋大	194,714	8.2
6	九州大	178,082	7.2
7	北海道大	154,845	7.2
8	東京工業大	138,071	7.2
9	筑波大	117,948	7.4
10	広島大	88,751	7.1

(2013~2017)

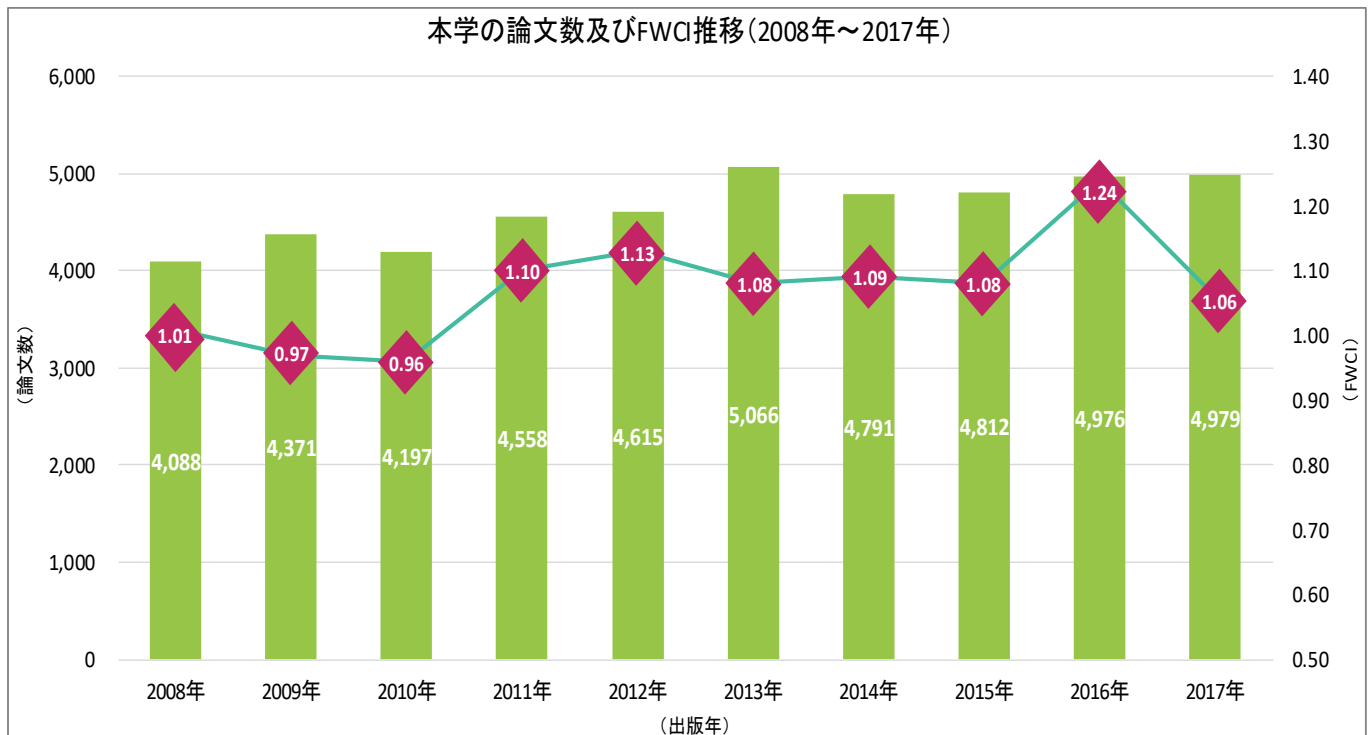
【FWCI(※1)  
(論文のインパクト)】

順位	大学名	被引用度
1	東京大	1.34
2	京都大	1.30
3	名古屋大	1.20
4	東京工業大	1.17
5	東北大	1.16
6	神戸大	1.15
7	岡山大	1.13
8	筑波大	1.12
9	千葉大	1.11
9	新潟大	1.11
9	大阪大	1.11
9	九州大	1.11

(2013~2017)

・学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行った。  
「14大」…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

### ◆本学の論文数及びFWCI(※1)推移◆



#### ・(※1)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。  
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということの意味する。

#### ※出典

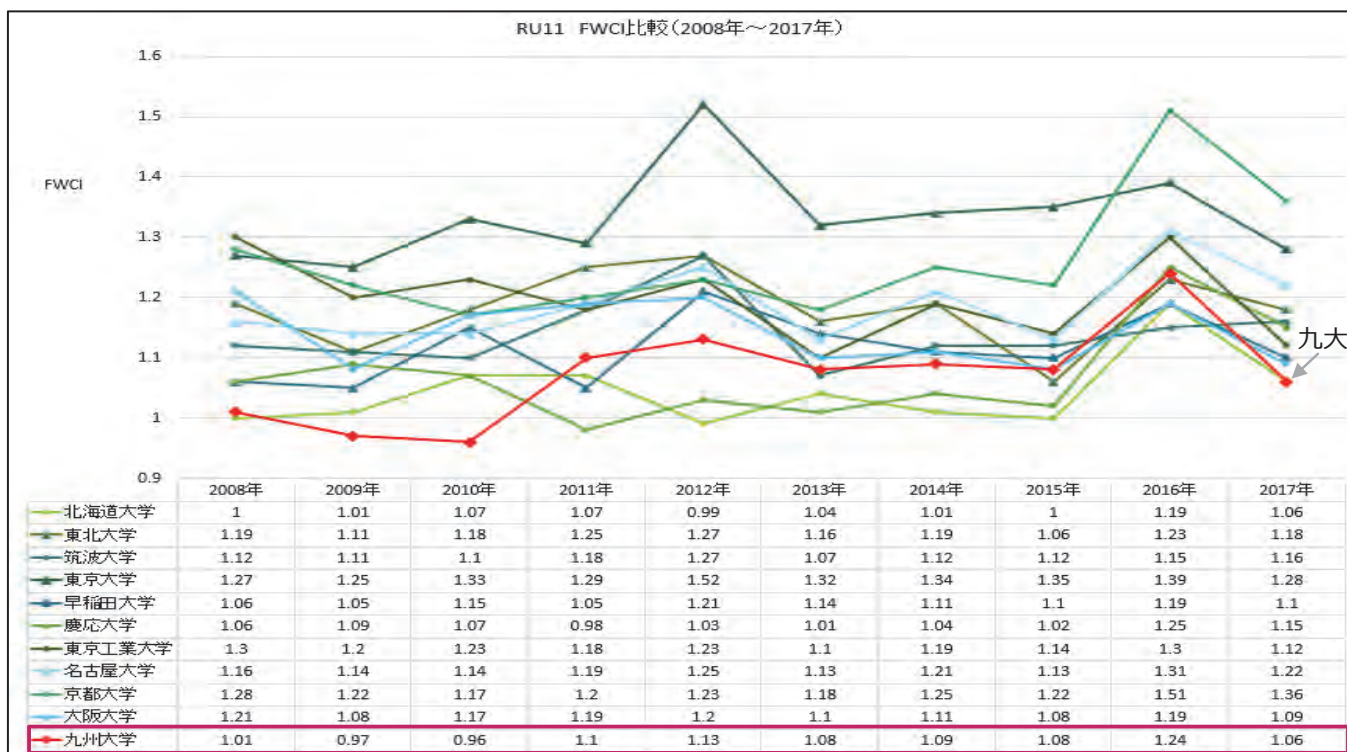
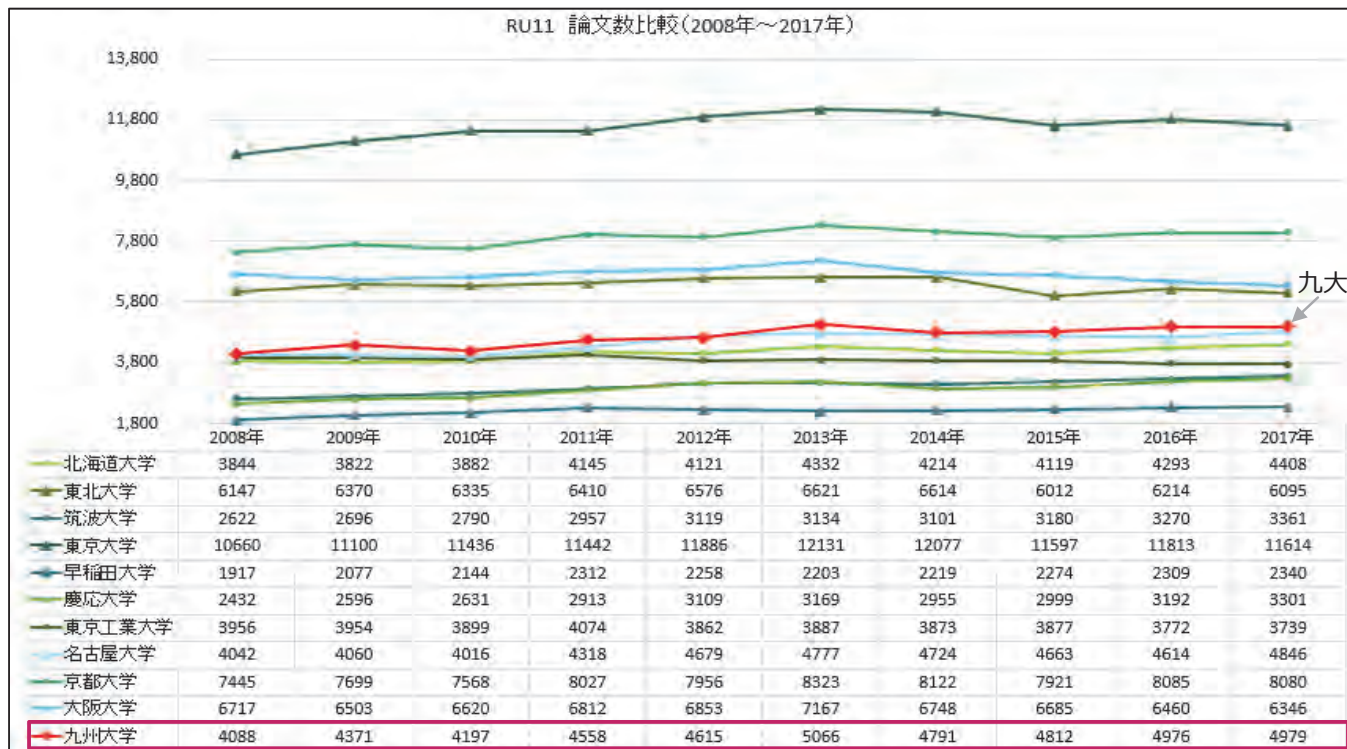
・論文数、被引用回数、論文のインパクト: Elsevier社「SciVal」(2018年9月現在)



## 9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

RU11の各大学について、直近10年間の論文数の推移を比較した。直近10年間推移で見ると本学の論文数は、5位となっている。FWCIに関しては、2011年以降世界平均値の1.0より高くなっているが、RU11(※1)の中で比較すると、近年は下位に低迷している。

### ◆RU11(※1)での比較◆



#### (※1)RU11(学術研究懇談会)

研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアムである。

北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大(北から)

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

TOP1・5・10%ジャーナル論文数は長期的に増加傾向にある。特に、TOP1%ジャーナル論文は、2008年と2017年と比較すると2倍近く増加しており、近年も増加し続けている。TOP25%ジャーナル論文は近年50%を超えており、本学の半数以上の論文が影響力のある雑誌に投稿されている。

※トップx%ジャーナルに掲載された論文数と割合とは・・・

被引用数ベースで世界トップ%ジャーナルに掲載された論文数と割合。Scopusにおける各年の被引用数を元に、上位1%、5%、10%、25%に含まれるジャーナルに掲載された論文数・割合を示すもの。



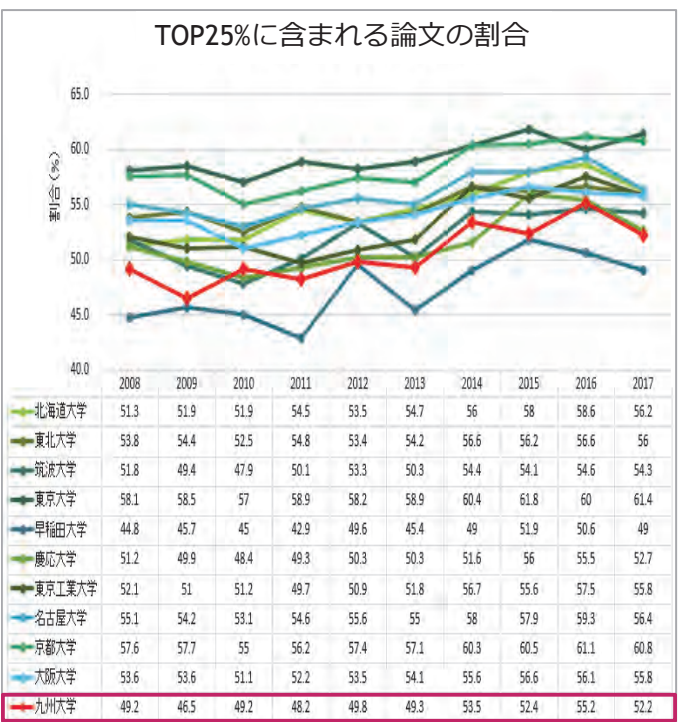
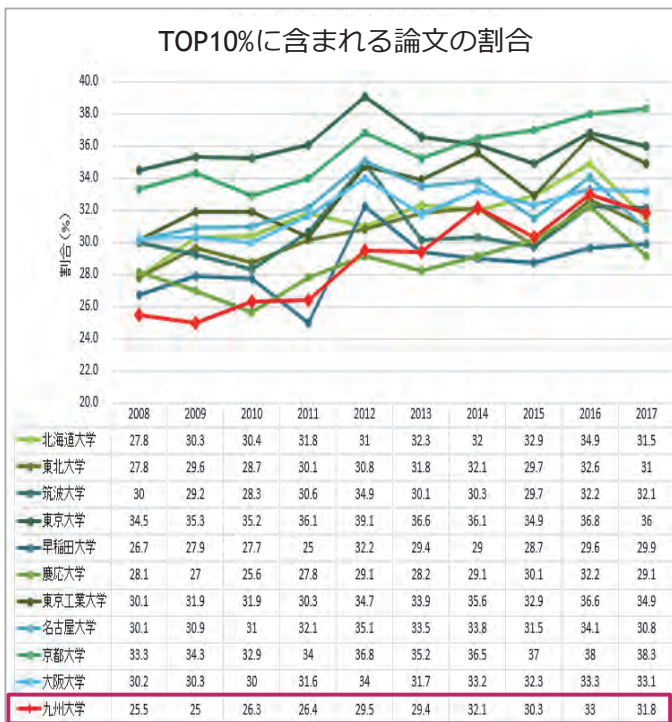
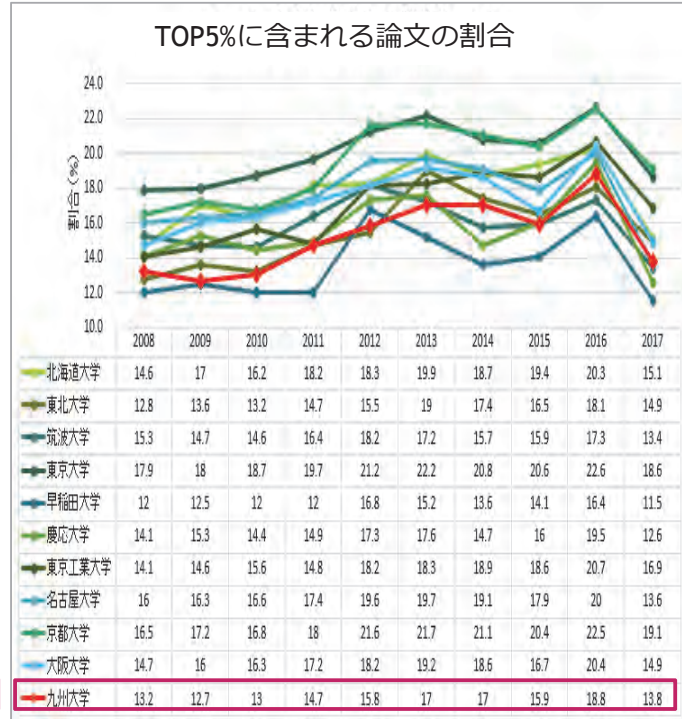
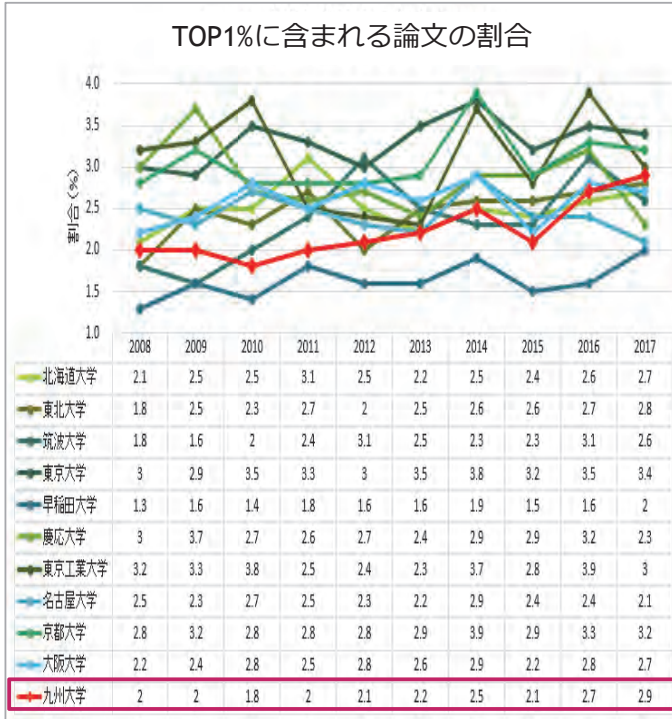
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

◆RU11(※1)での比較◆

RU11の各大学について、TOPジャーナル論文率の推移を比較した。九州大学は特にTOP10%論文率が、他大学と比較して大きく増加している。TOP1%ジャーナル論文率は、他大学の多くが2016年から2017年にかけて減少している中、本学は大きく増加している。



(※1)RU11(学術研究懇談会)

研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアムである。

北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

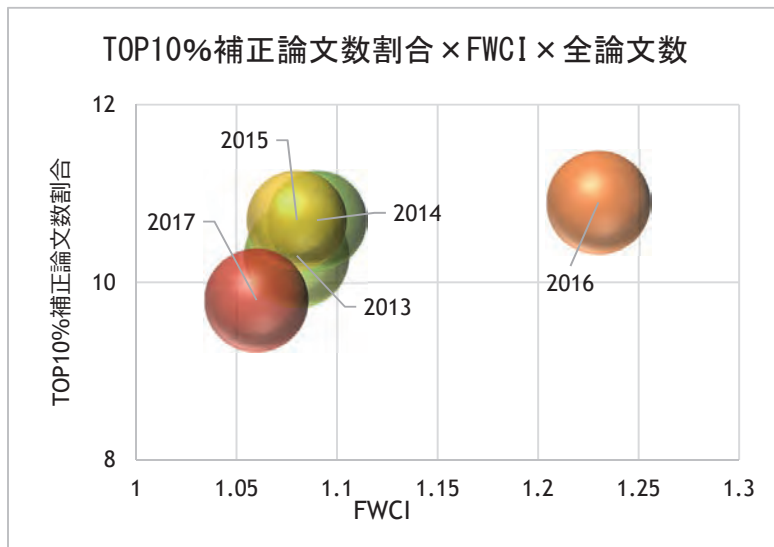
## 9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

下記散布図は、右上にいくほど、論文の質が高いと言える。論文数は増加傾向であるが、TOP10%補正論文数割合(※3)は10%程度で推移している。また、RU11(※1)で比較するとTOP10%補正論文、FWCI値ともに9位である。ただし論文数は5位であり、RU11の中でも論文数の多いことが本学の特徴である。

### ◆九州大学◆ (2013年～2017年)

本学のTOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(※2)(横軸)×全論文数(バブル大きさ)

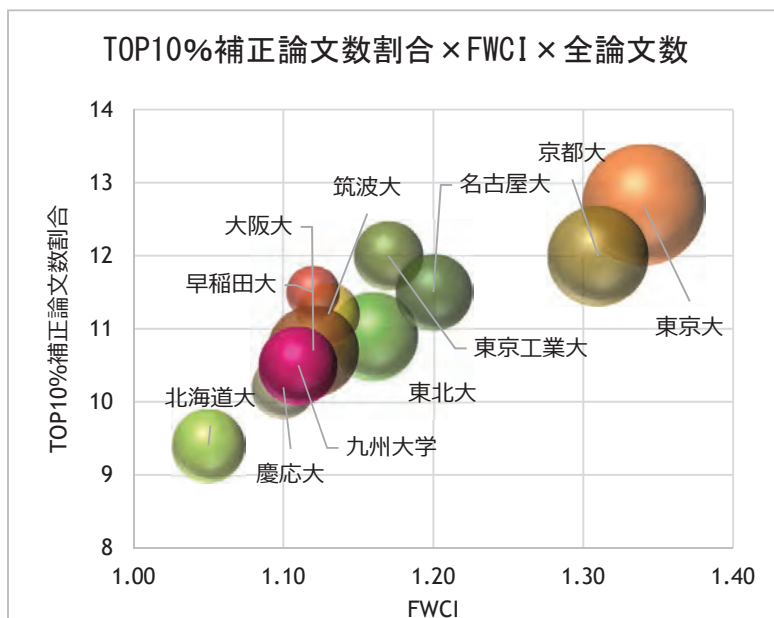
年	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
2013	10.3	1.08	5068
2014	10.7	1.09	4797
2015	10.7	1.08	4818
2016	10.9	1.23	5002
2017	9.8	1.06	5006
平均	10.5	1.11	4,938



### ◆RU11(※1)での比較◆ (2013年～2017年の平均)

TOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(※2)(横軸)×全論文数(バブル大きさ)

大学名	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
北海道大	9.4	1.05	21,414
東北大	10.9	1.16	31,698
筑波大	11.2	1.13	16,083
東京大	12.7	1.34	59,559
早稲田大	11.5	1.12	11,446
慶応大	10.2	1.10	15,680
東京工業大	12	1.17	19,257
名古屋大	11.5	1.20	23,751
京都大	12	1.31	40,688
大阪大	10.7	1.12	33,513
<b>九州大</b>	<b>10.5</b>	<b>1.11</b>	<b>24,691</b>



(※1)RU11(学術研究懇談会)

研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアムである。

北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大(北から)

(※2)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

(※3)TOP10%補正論文数割合

被引用ベースで世界トップに入る論文数(分野補正した値)の割合。Scopusにおける各年の被引用数をもとに上位10%に含まれる論文数の割合を示すもの。

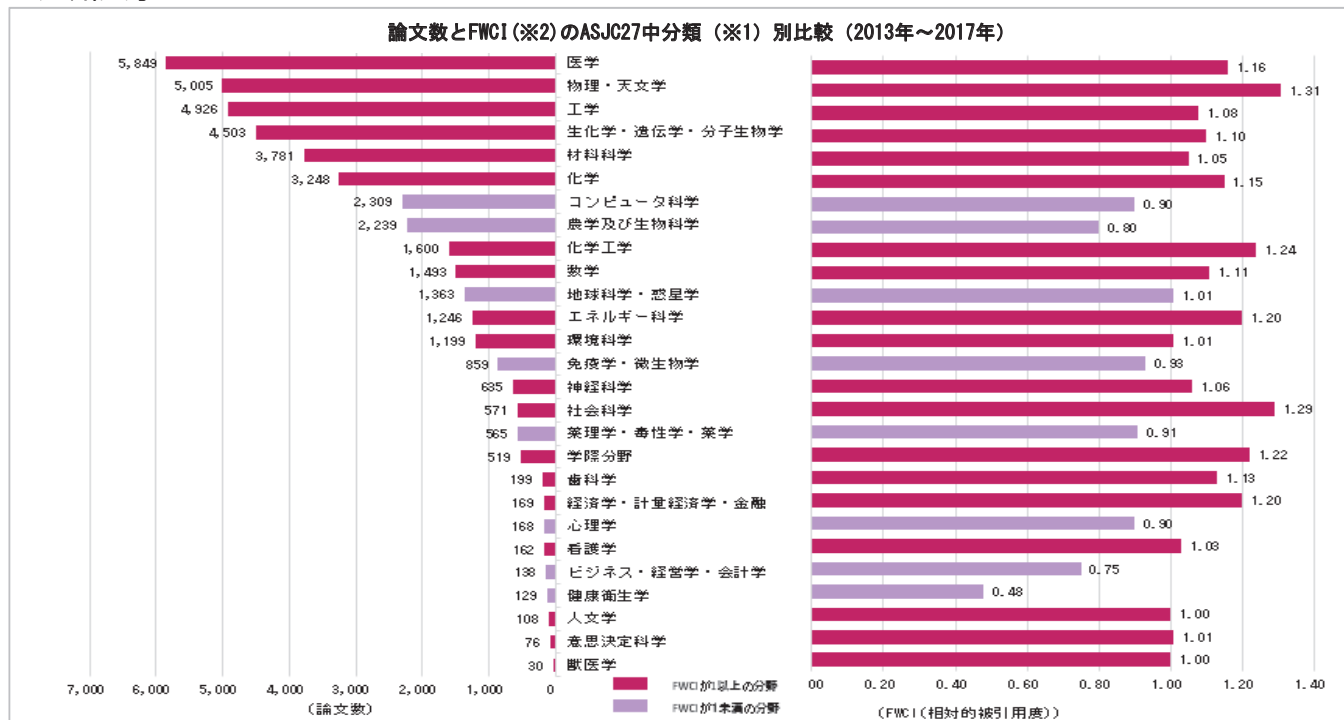
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年10月現在)

## 9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

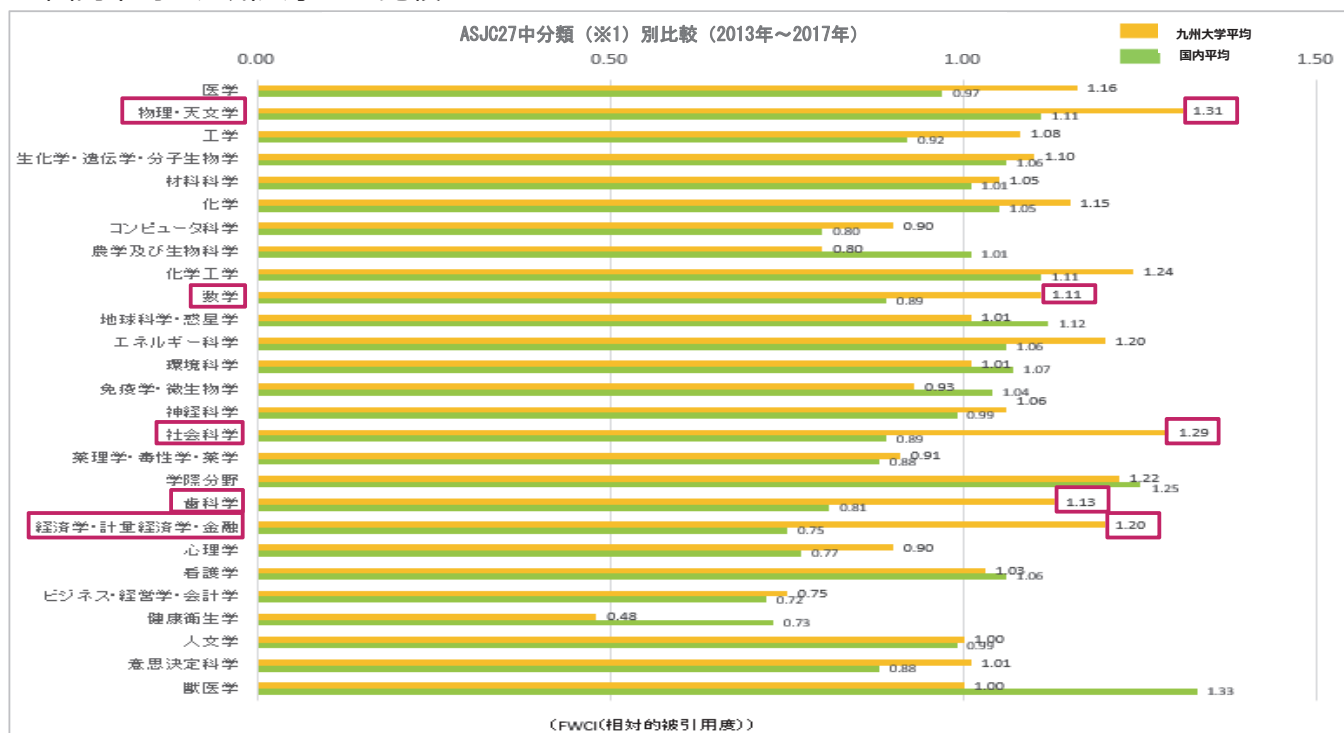
### ■本学と国内平均の比較 (ASJC27中分類 (※1) 別) ) 相対的引用度 (FWCI) (※2)

FWCI (※2) が世界平均の1以上である分野は、27分野中20分野である。その中でも、国内平均と比較してFWCI値が特に高い上位5分野は、**経済学・計量経済学・金融**、**社会科学**、**歯学**、**数学**、**物理学・天文学**である。論文数が多くFWCIが高いほど研究力に厚みがあること(大学の強み)を表す。また、論文数が少なくFWCIが高い場合は、研究力の高い特定の教員の存在を示す場合が多い。例外としては、特定の教員が巨大な研究者コミュニティに所属する場合が挙げられる。

#### ◆九州大学◆



#### ◆国内平均と九州大学との比較◆



#### (※1)ASJC27中分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類、または独自に作成した研究領域。

#### (※2)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

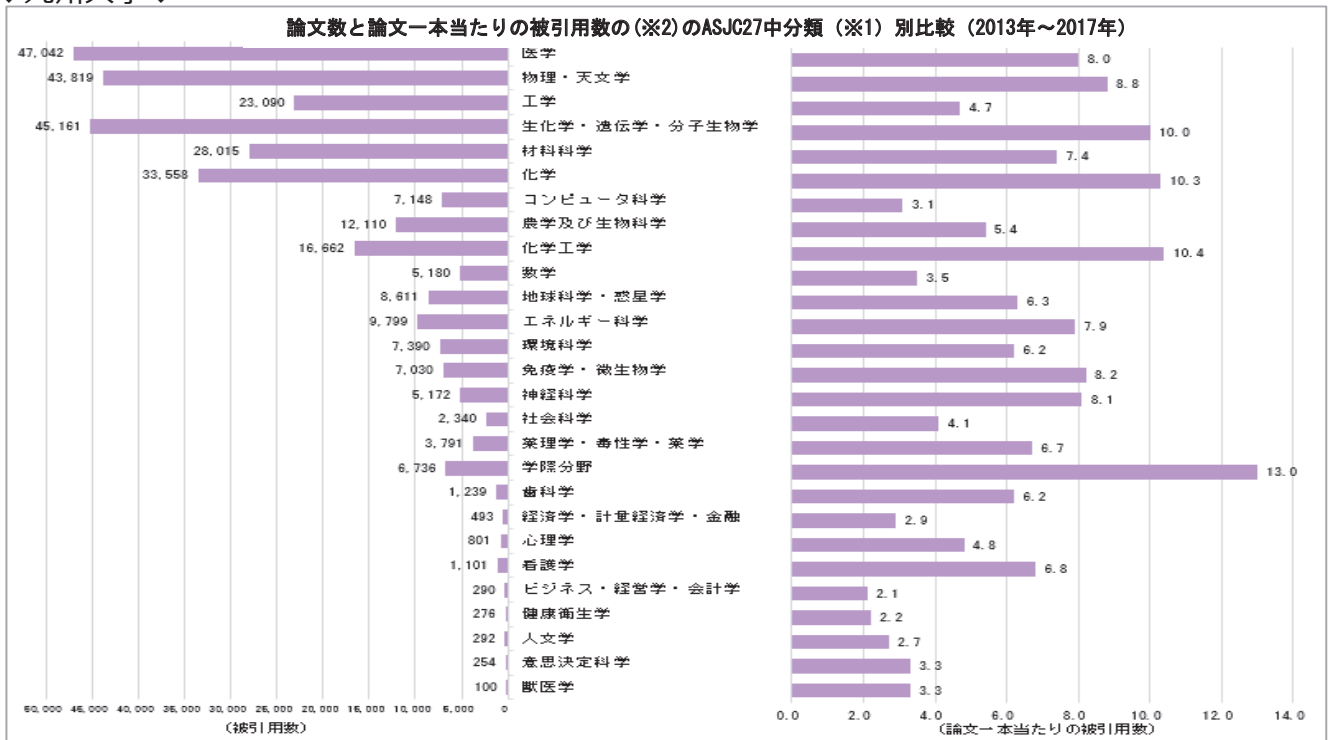
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

## 9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

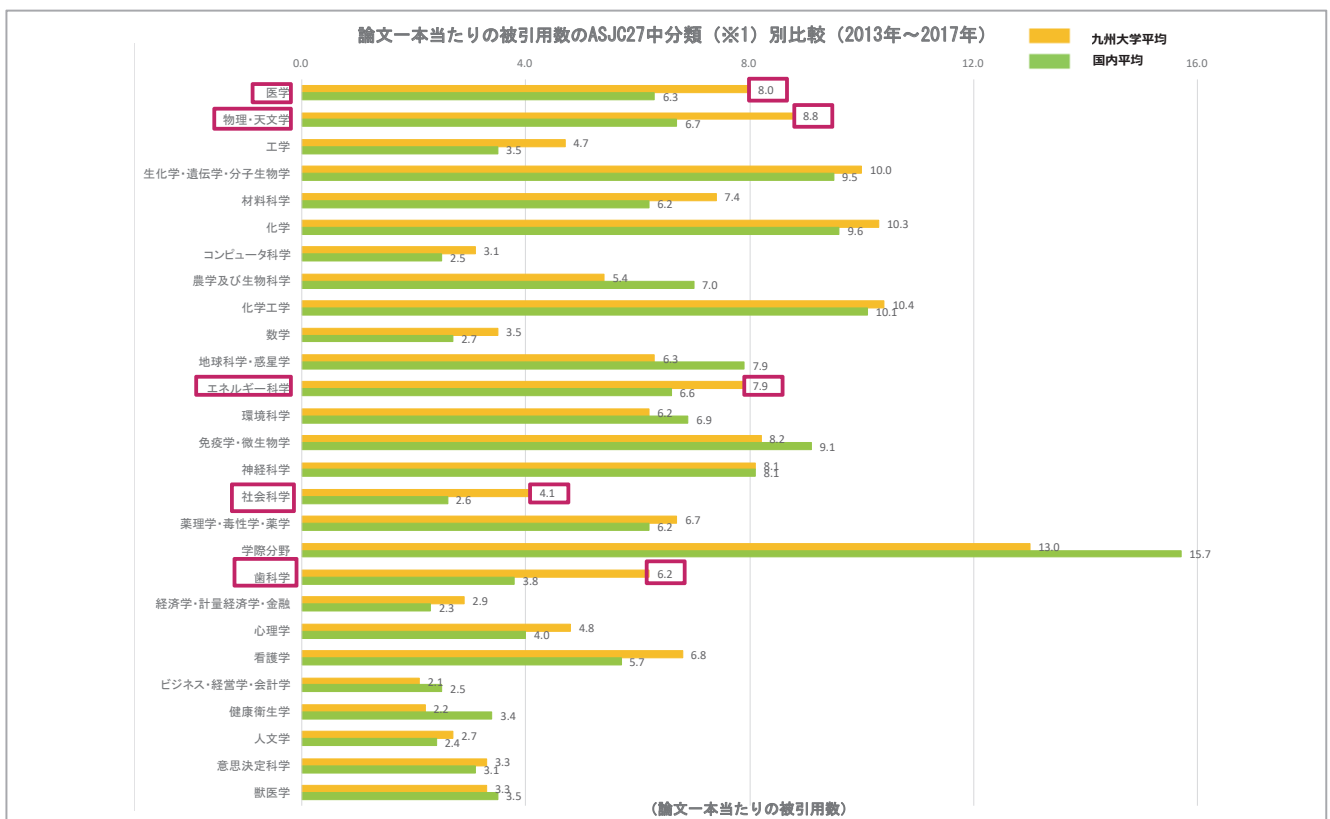
### ■本学と国内平均の比較 (ASJC27中分類 (※1) 別) | 論文一本当たりの被引用数

論文一本当たりの被引用数が、国内平均を超えている分野は、27分野中18分野である。その中でも、国内平均と比較して論文一本当たりの被引用数が特に高い上位5分野は**歯科学**、**社会科学**、**医学**、**物理学・天文学**、**エネルギー科学分野**である。

#### ◆九州大学◆



#### ◆国内平均と九州大学との比較◆



(※1)ASJC27中分類

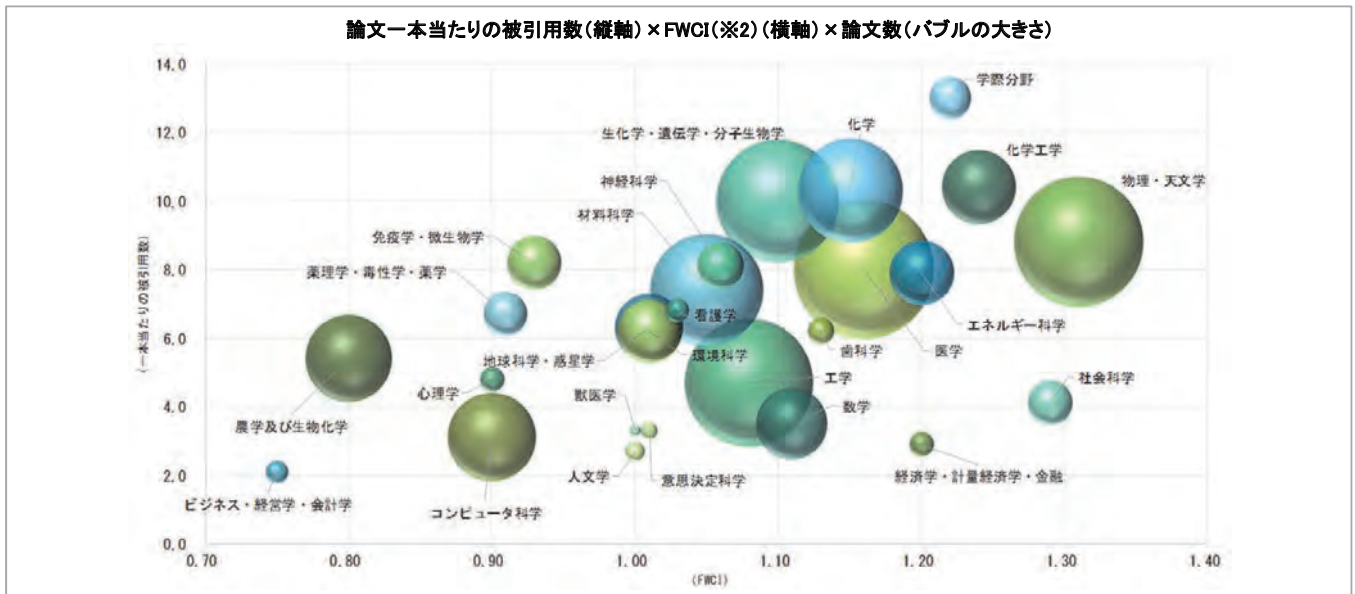
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類、または独自に作成した研究領域。

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC27中分類 (※1) 別) (2013年~2017年)

右上にいくほど、FWCI(※2)及び論文一本当たりの被引用数も高くなり、質の高い論文であることを示す。特に、**物理学・天文学、化学工学、エネルギー科学、学際分野**の論文の質が高い。(学際分野とは、「Nature」や「Science」のような総合学術雑誌に掲載された論文を示す。)



■本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC334小分類 (※1) 別) (2013年~2017年)

FWCI(※2)が世界平均1.0を超えている小分野は、334分野中177分野である。その中でも特にFWCI(※2)の高い上位10の小分野を下記に示す。

順位	ASJC27中分類(※1)	ASJC334小分類	FWCI
1	Arts and Humanities (人文学)	Music (音楽)	4.35
2	Engineering (工学)	Engineering (miscellaneous) (工学(※3))	3.18
3	Environmental Science (環境科学)	Environmental Science (miscellaneous) (環境科学(※4))	2.86
4	Physics and Astronomy (物理学、天文学)	Physics and Astronomy (miscellaneous) (物理学、天文学(※5))	2.79
5	Arts and Humanities (人文学)	Conservation (保存科学)	2.53
6	Nursing (看護学)	Advanced and Specialized Nursing (高度・特殊看護)	2.47
7	Health Professions (健康衛生学)	Optometry (視力測定)	2.11
8	Immunology and Microbiology (免疫学、微生物学)	Parasitology (寄生虫学)	2.06
9	Business, Management and Accounting (ビジネス、経営学、会計学)	Business and International Management (ビジネス・国際経営)	2.01
10	Social Sciences (社会科学)	Social Sciences (miscellaneous) (社会科学(※6))	2.00

(※1)ASJC27中分類、ASJC334小分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類、または独自に作成した研究領域。翻訳協力: 大学改革支援・学位授与機構。(中分類の翻訳はエルゼビア社による。)

(※2)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

(※3)工学(その他)次の項目以外の分野

航空宇宙工学、自動車工学、生体医学、土木・構造工学、計算力学、制御・システム工学、電気電子工学、管理工学・生産工学、機械工学、材料力学、海洋工学、安全・リスク・信頼性・品質管理、メディア工学、建設工学、建築学

(※4)環境科学(その他)次の項目以外の分野

生態モデリング、生態学、環境化学、環境工学、地球規模変化、健康・毒物・変異誘発、環境管理・モニタリング・政策・法、自然保護・景観保護、汚染、廃棄物管理・処理、水資源科学・工学

(※5)物理学・天文学(その他)次の項目以外の分野

音響学及び超音波学、天文学及び宇宙物理学、凝縮系物理学、計測機器、核物理学・高エネルギー物理学、原子分子物理学及び光学、放射線、統計物理学及び非線形物理学、表面・界面

(※6)社会科学(その他)次の項目以外の分野

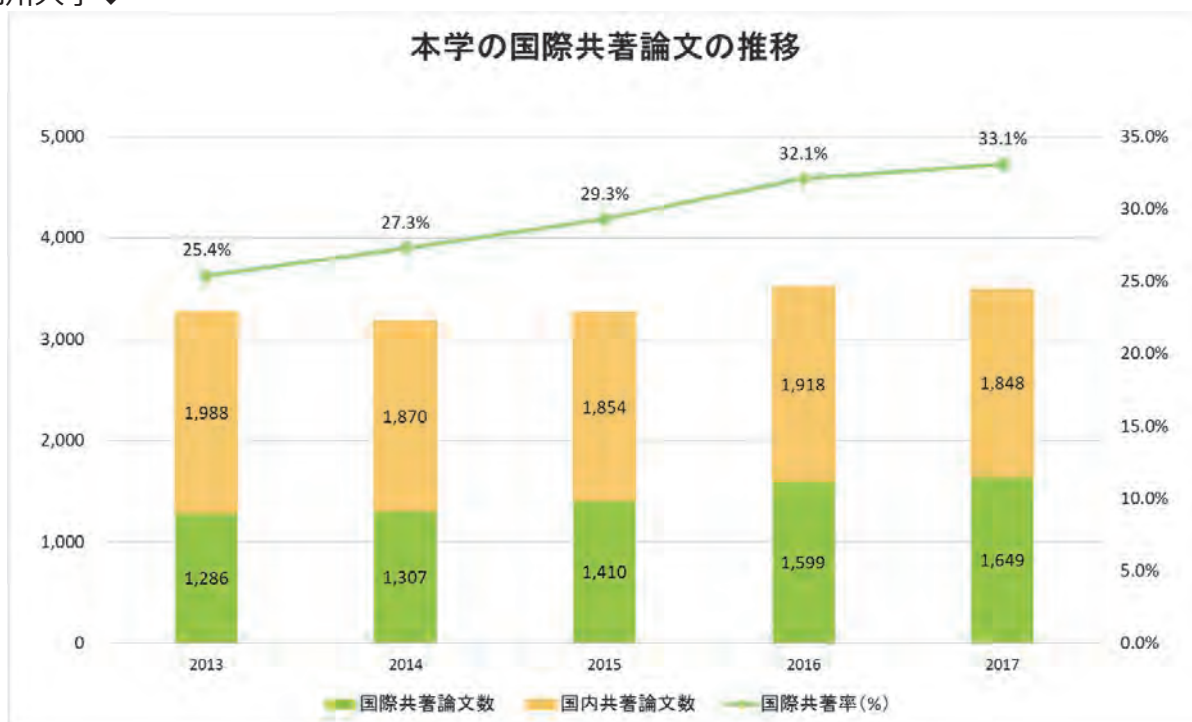
考古学、開発、教育、地理・計画・開発、健康(社会科学)、ヒューマンファクター及び人間工学、法律、図書館情報学、言語学及び言語、安全研究、社会学及び政治学、交通・運輸、人類学、コミュニケーション、カルチュラル・スタディーズ、人口学、ジェンダー学、生涯発達・ライフコース研究、政治学と国際関係論、行政学、都市研究

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

### 9-3. 国際共著論文

本学でみると、国際共著論文数・国際共著論文比率はともに増加している。国際共著論文数は2008年から2017年で**1.92倍**に増加しており、さらに国際共著論文比率も2008年と2017年を比較すると**12%上昇**している。増加率は **RU11 (※1)** の中で**最も大きい**。

◆九州大学◆



#### 国際共著論文数 (研究院別) (2013年~2017年)

順位	研究院	国際共著論文数 (合計) (本)	国際共著論文比率 (平均) (%)
1	工学研究院	1,186	25.4
2	理学院	1,090	50.8
3	農学院	651	35.5
4	システム情報科学研究院	542	27.1
5	医学研究院	493	11.2
6	総合理工学研究院	360	32.3
7	薬学院	163	24.4
8	歯学院	119	18.2
9	芸術工学研究院	80	17.9
10	経済学研究院	69	42.3
11	比較社会文化研究院	56	34.8
12	人間環境学研究院	53	29.4
13	数理学研究院	35	21.5
14	法学研究院	5	17.9
15	人文科学研究院	0	0.0
16	言語文化研究院	0	0.0

(※1)RU11(学術研究懇談会)

研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアムである。

北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大(北から)

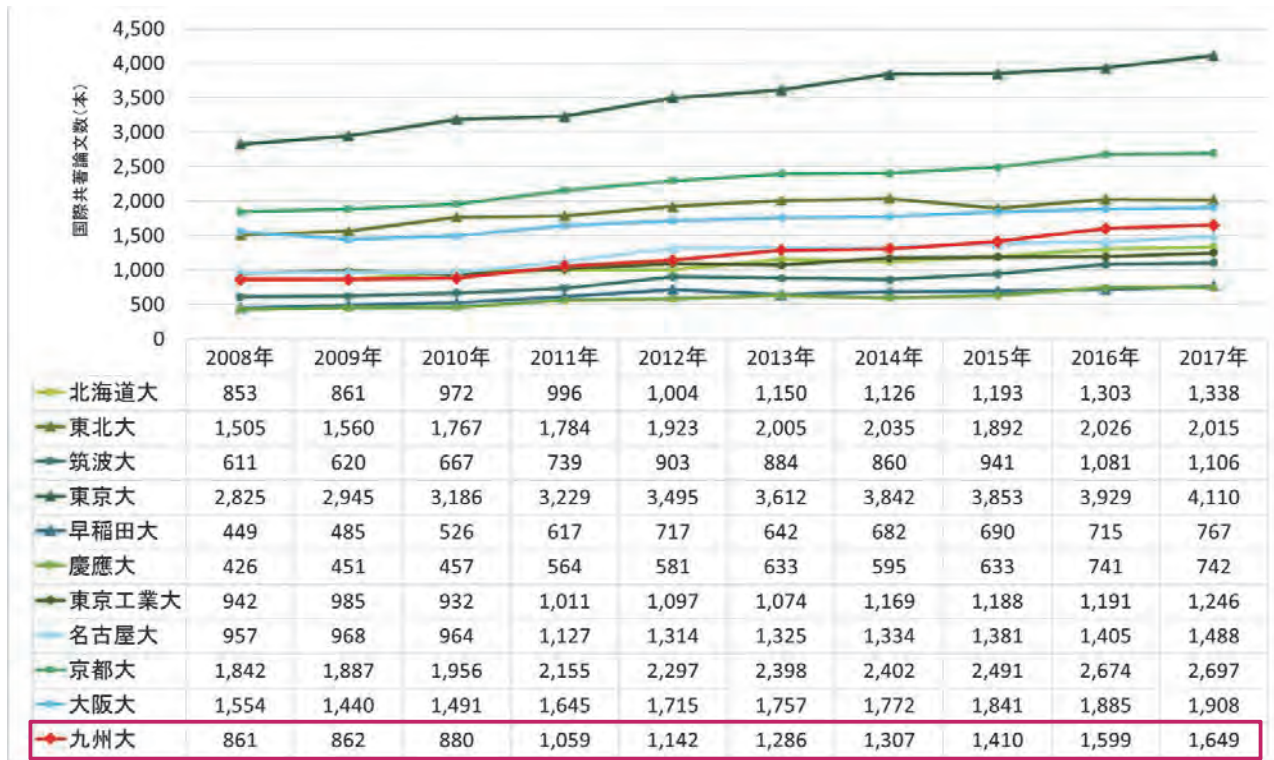
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(H30.9月現在)



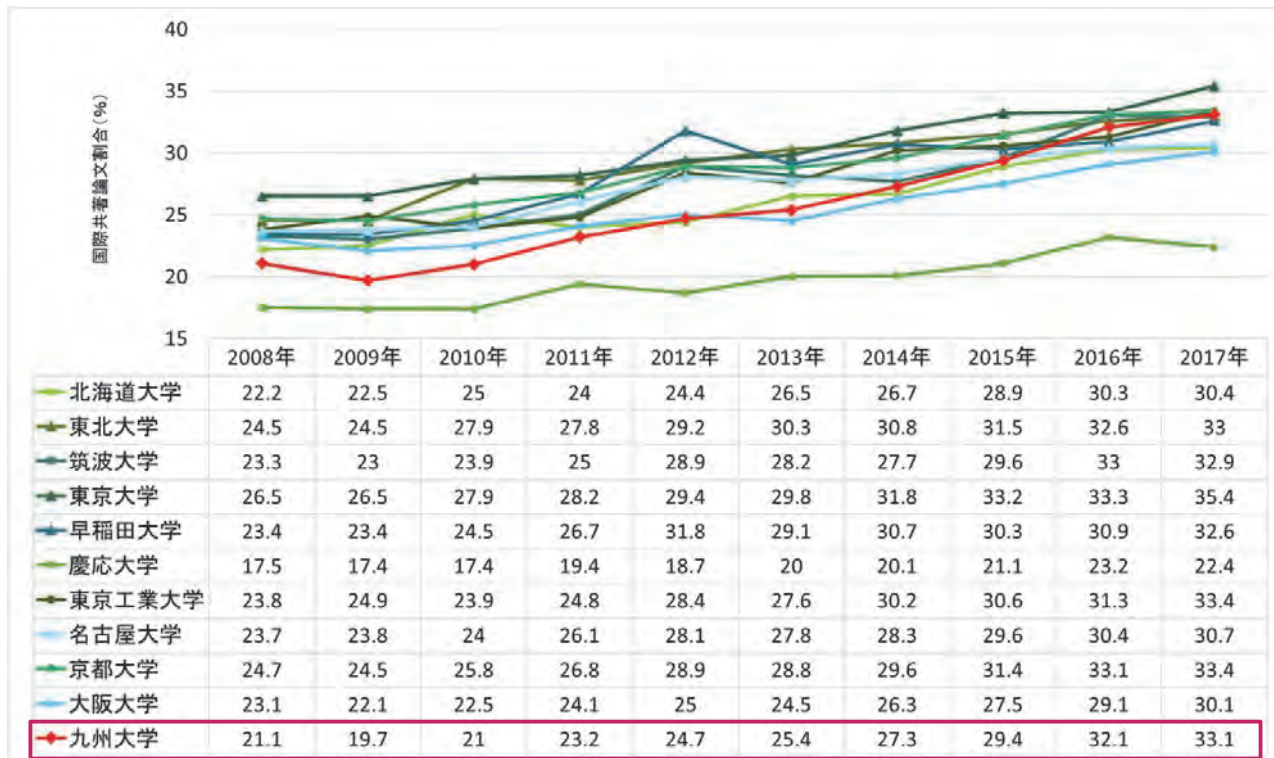
9-3. 国際共著論文(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆(2008年~2017年)

国際共著論文数



国際共著論文比率



(※1)RU11(学術研究懇談会)

研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアムである。

北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大(北から)

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(H30.9月現在)

9-3. 国際共著論文(つづき)

【世界各機関との国際共著状況 (2013~2017年)】

北アメリカ  
523機関、2,513本の共著論文



ヨーロッパ  
1,046機関、2,467本の共著論文



アジア・パシフィック  
1,234機関、14,651本の共著論文



世界3, 135機関、16, 464本の共著論文数



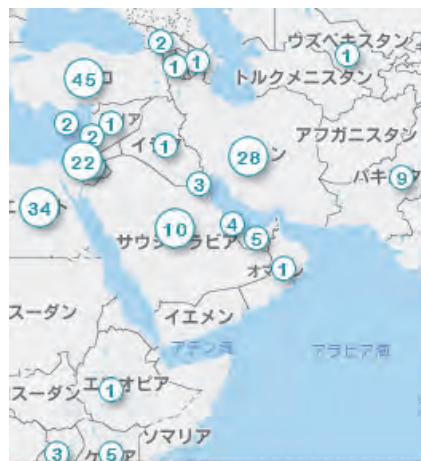
南アメリカ  
93機関、598本の共著論文



アフリカ  
109機関、941本の共著論文



中東  
130機関、735本の共著論文



・各地図上の数字は、機関数を表すものである。

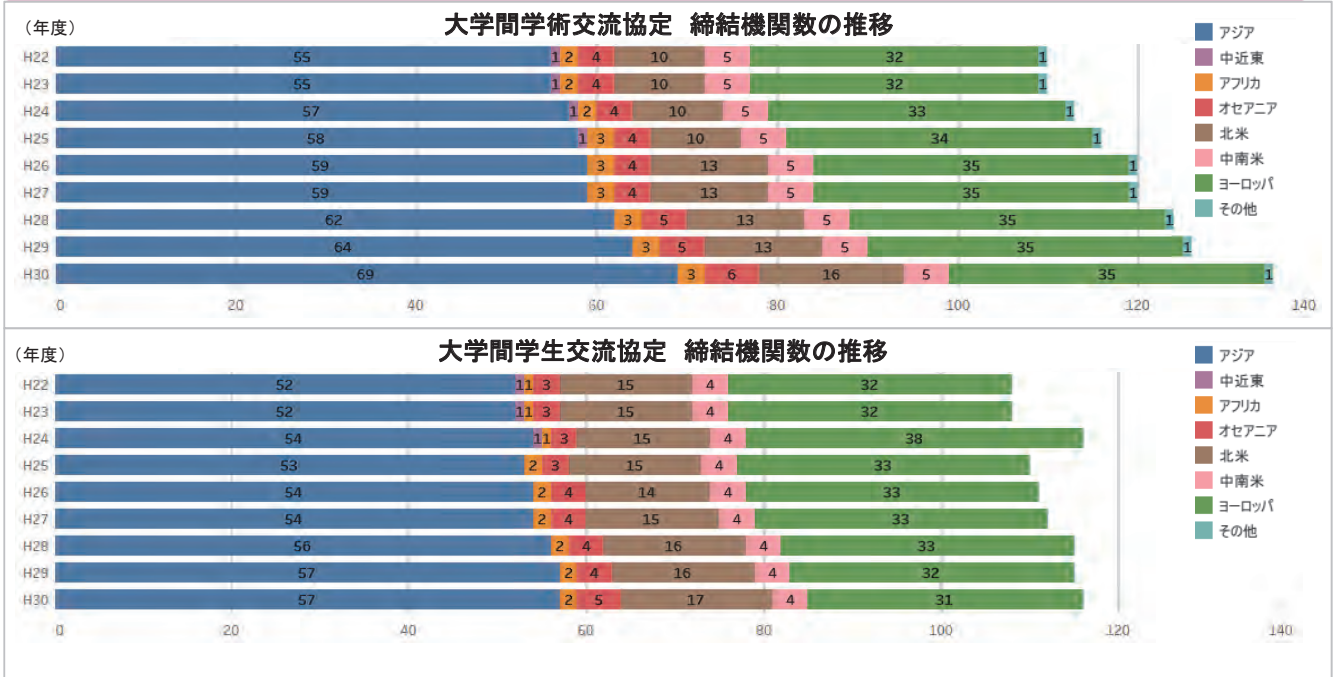
※出典：Elsevier社製「SciVal」より(2018年9月現在)

## 10. 国際

### 10-1. 海外大学との交流状況

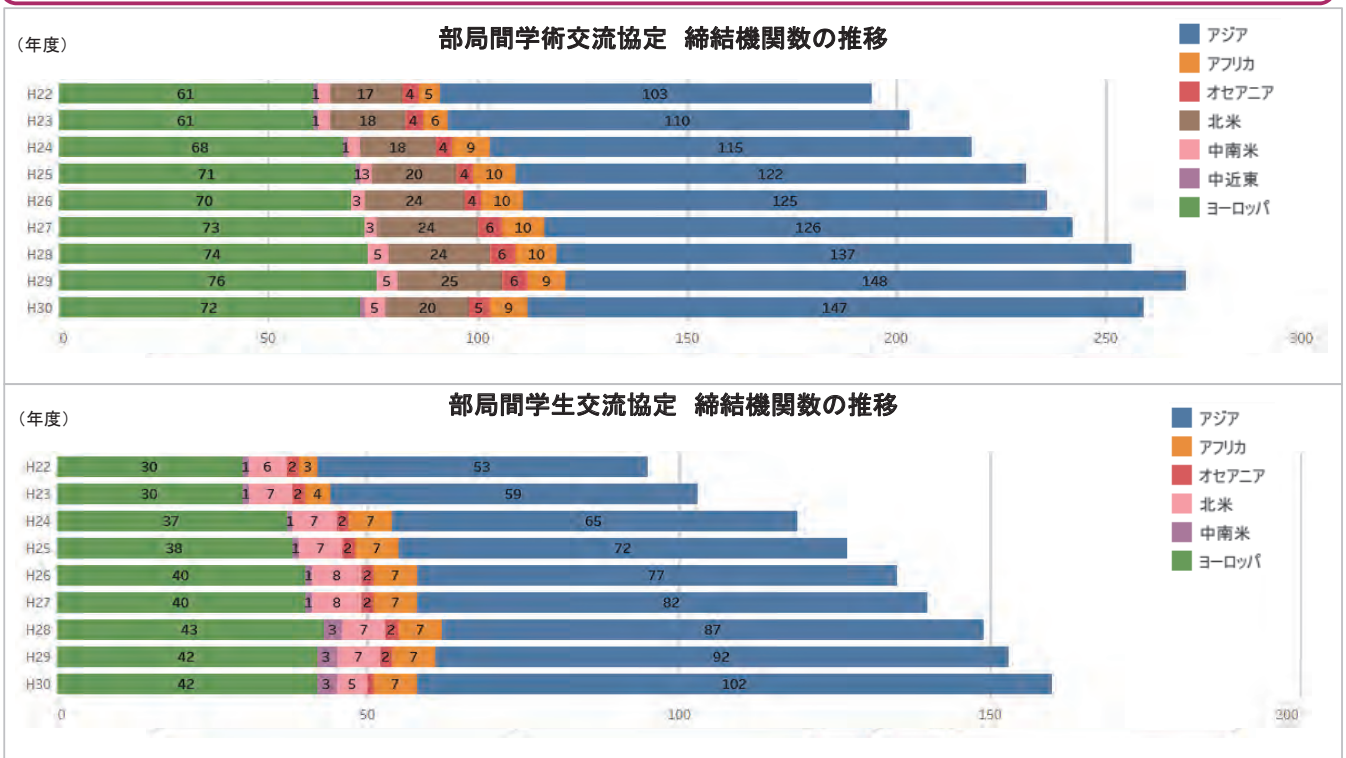
#### 10-1-1. 海外大学との交流状況(大学間交流協定)

大学間学術交流協定・学生交流協定の締結数は、安定している。中でもアジア、ヨーロッパとの締結数が多い。



#### 10-1-2. 海外大学との交流状況(部局間交流協定)

部局間学術交流協定・学生交流協定の締結数は、着実に増加している。近年では部局間学術交流協定の締結数は250機関以上、部局間学生交流協定数は150機関を超えている。



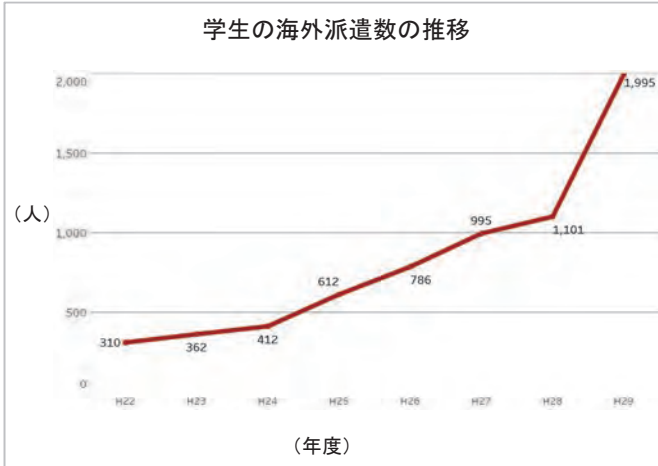
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

## 10-2. 本学学生の海外留学状況

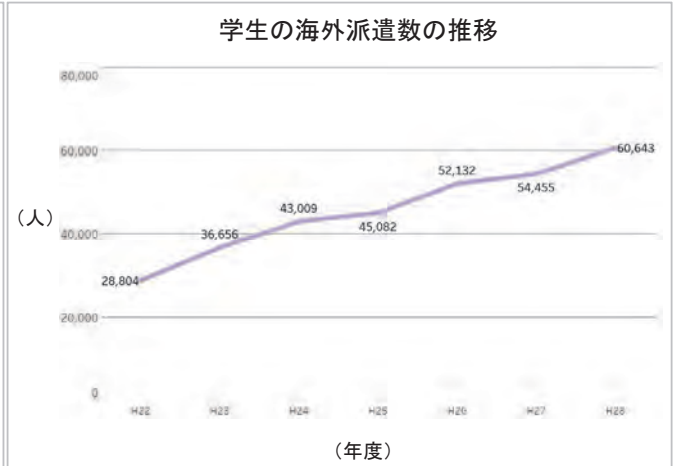
### 10-2-1. 本学学生の海外留学状況(全体)

海外へ留学している学生数は、本学を含め全国的に増加傾向にある。

#### ◆九州大学◆

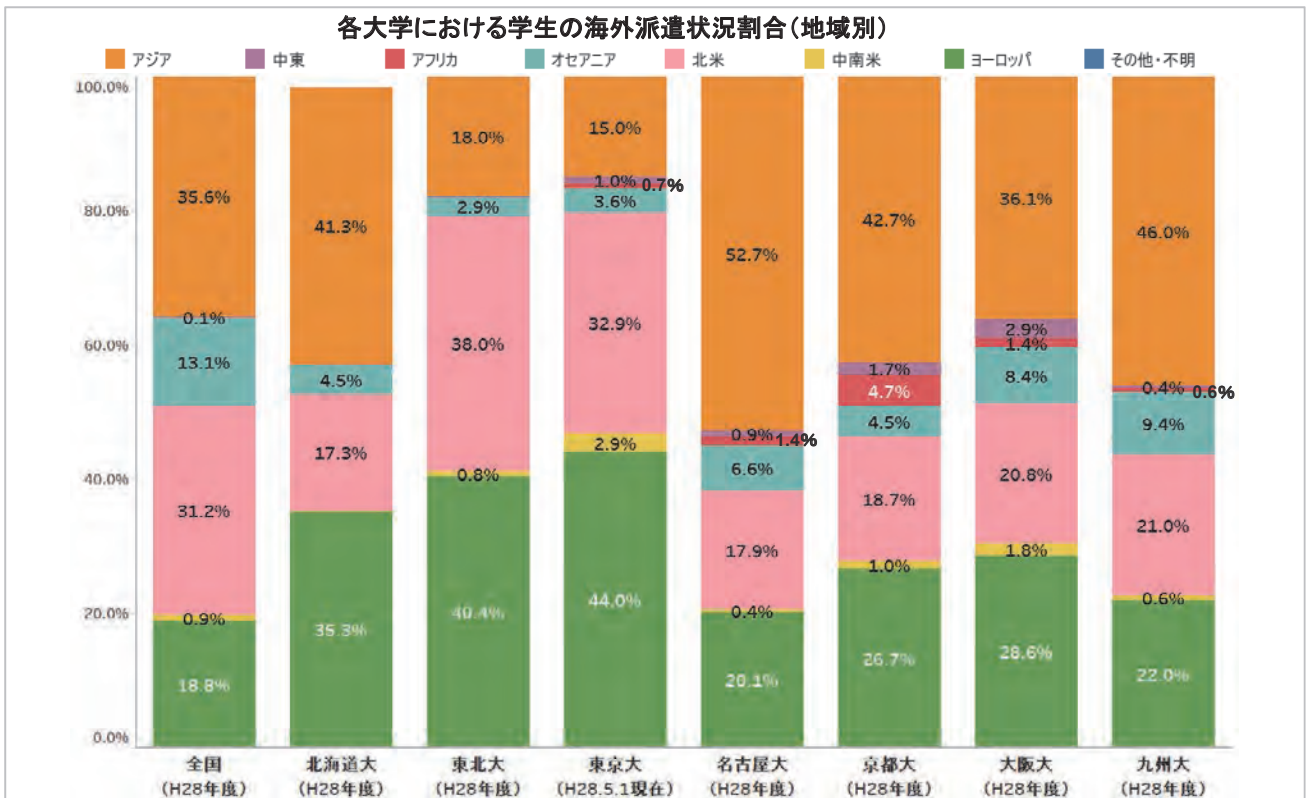


#### ◆全国◆



※出典  
 ・本学:九州大学概要  
 ・全国:JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」

#### ◆各大学における学生の海外派遣状況割合(地域別)◆

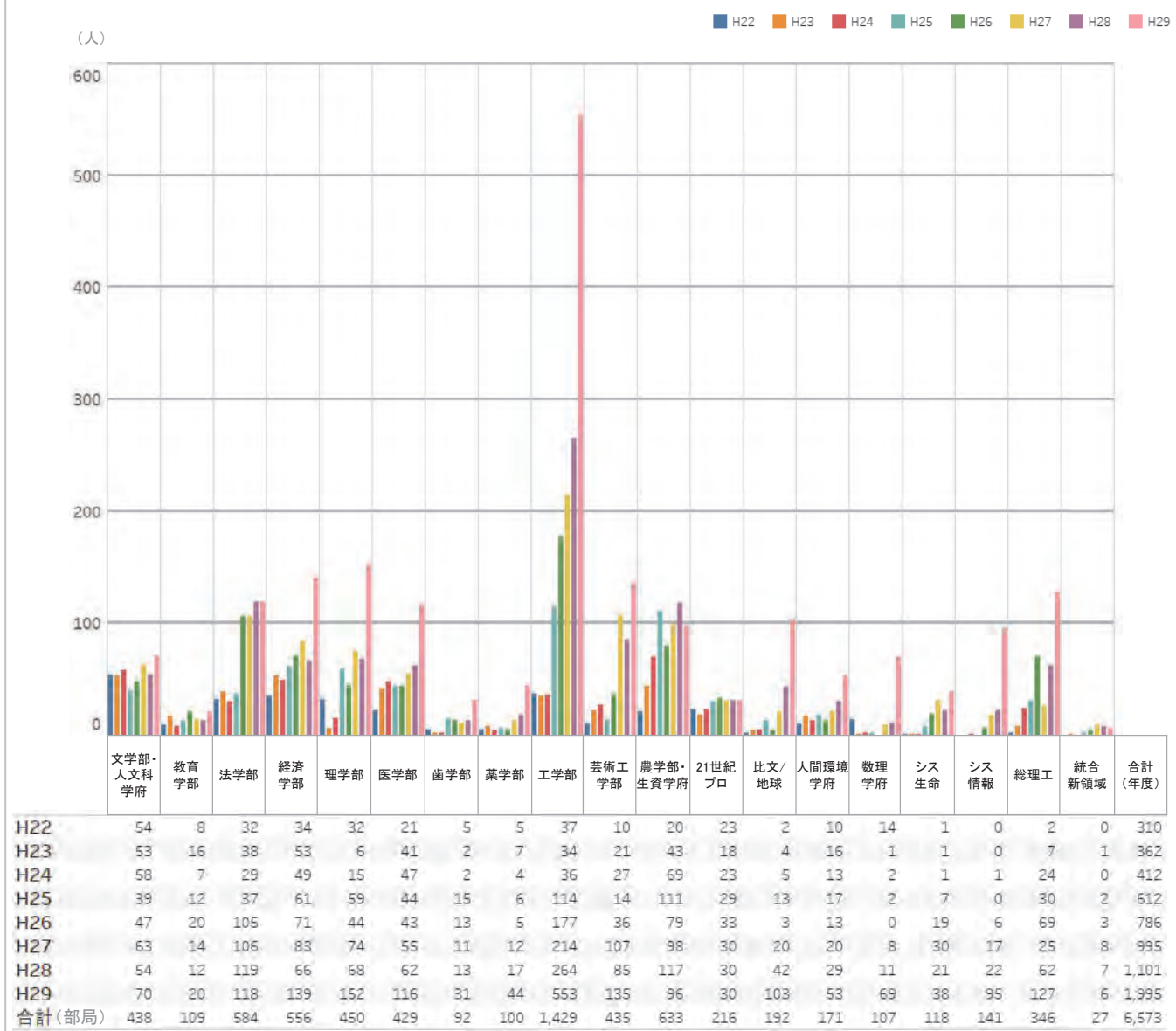


※ 出典:全国...JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」  
 北海道大...北海道大学HP「交換留学生数一覧」※協定等に基づく交換留学生  
 東北大...独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構「大学ポートレート」入力データ集より  
 東京大...H28年度大学概要より※定義等の記載なし  
 名古屋大...H28年度大学概要より ※海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等  
 京都大...H28年度大学概要より※外国へ渡航した学生数  
 大阪大...H28年度大学概要より※定義等の記載なし  
 九州大...H28年度大学概要より  
 ※上記のとおり、大学によって定義等が異なるため、単純比較ができないことに留意。

## 10-2-2. 本学学生の海外留学状況(部局別)

本学学生の海外留学者数は増加傾向である。留学先としては、海外オフィスを設置していることも影響しており、アジアが最も多く、次にヨーロッパ、北米が近年増加傾向である。学部別にみると、工学部の学生数が最も多く、特にH29年度に大きく増加している。

### 本学学生の海外留学状況

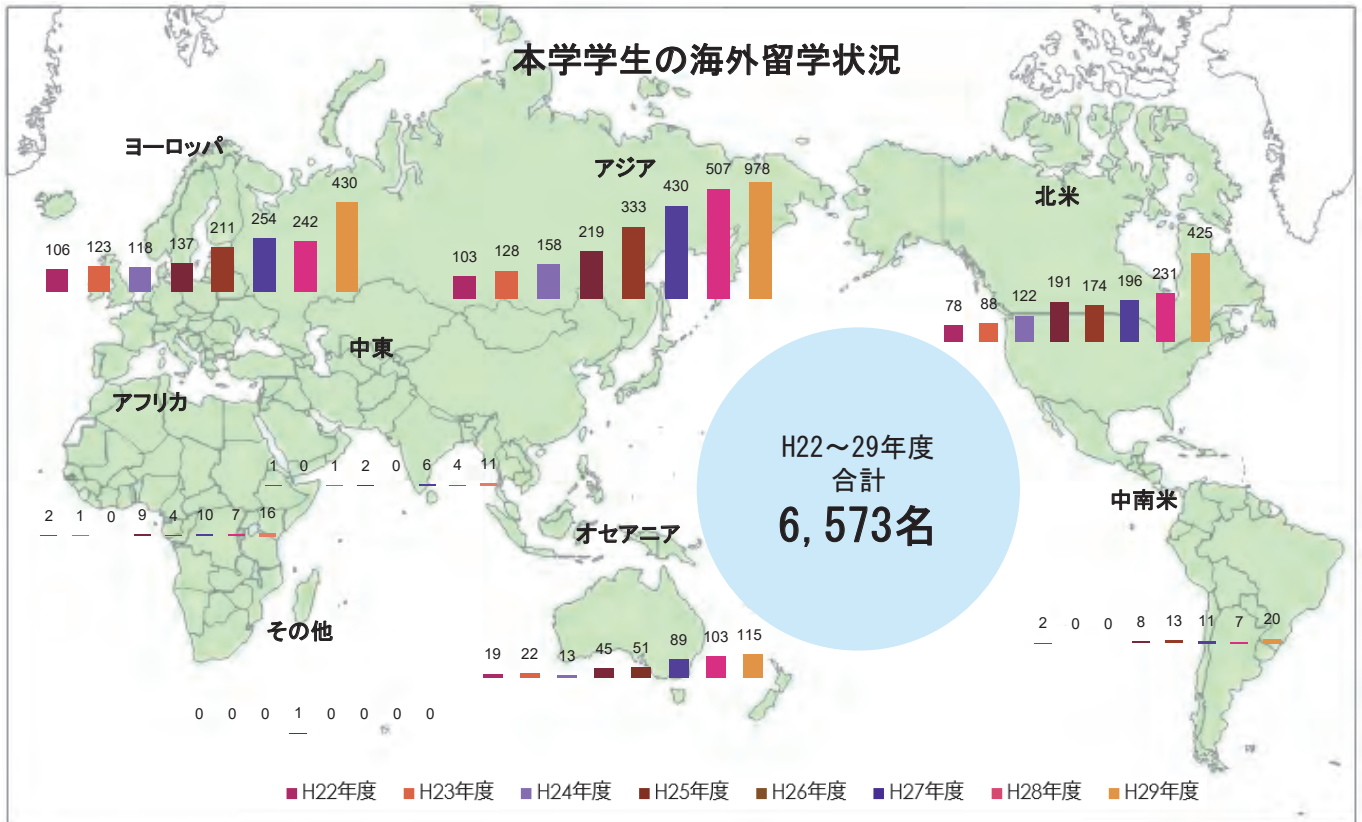


- ・過年度に留学を開始した者を含む。
- ・海外オフィスについては以下の通り。  
 アジア: ソウルオフィス、北京事務所、ハノイオフィス、台北オフィス  
 ヨーロッパ: ロンドン・オフィス、ミュンヘン・オフィス  
 北米: カリフォルニアオフィス、ワシントンD.C.オフィス  
 アフリカ: カイロオフィス

※出典: 九州大学概要

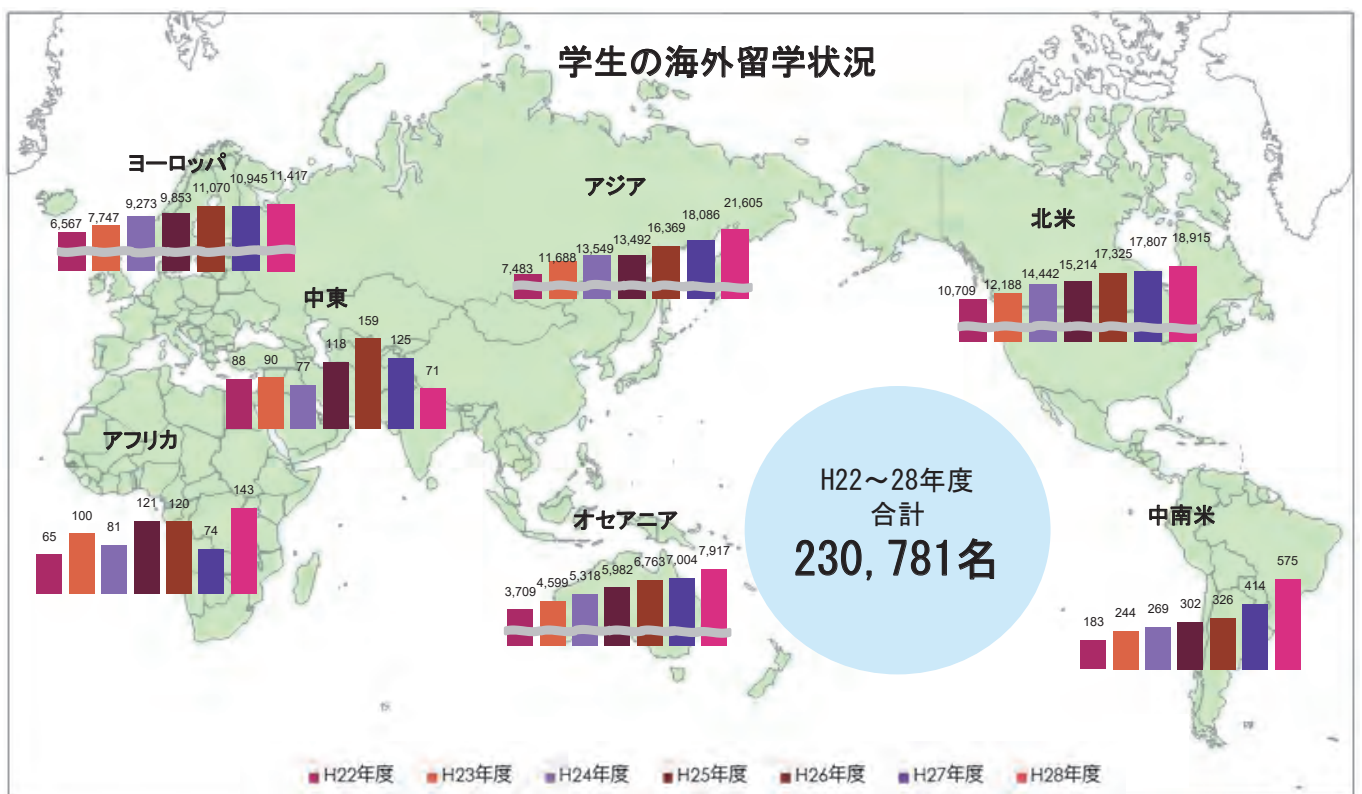
### 10-2-3. 本学学生の海外留学状況(地域別)

#### ◆九州大学◆



・過年度に留学を開始した者を含む。

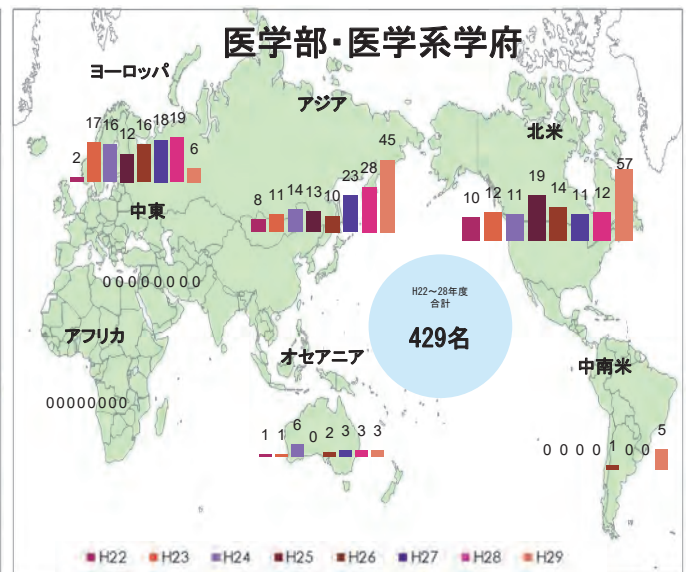
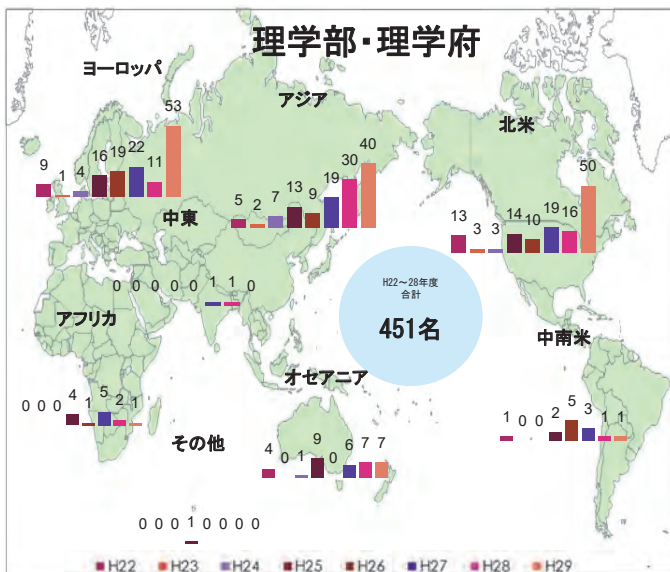
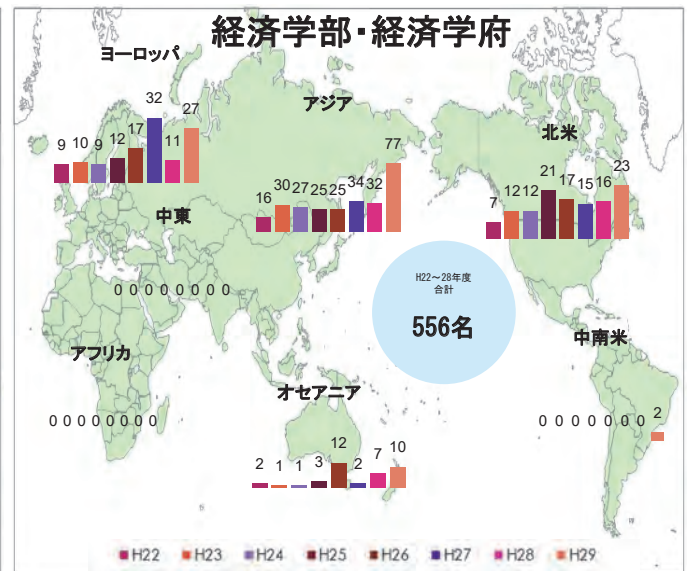
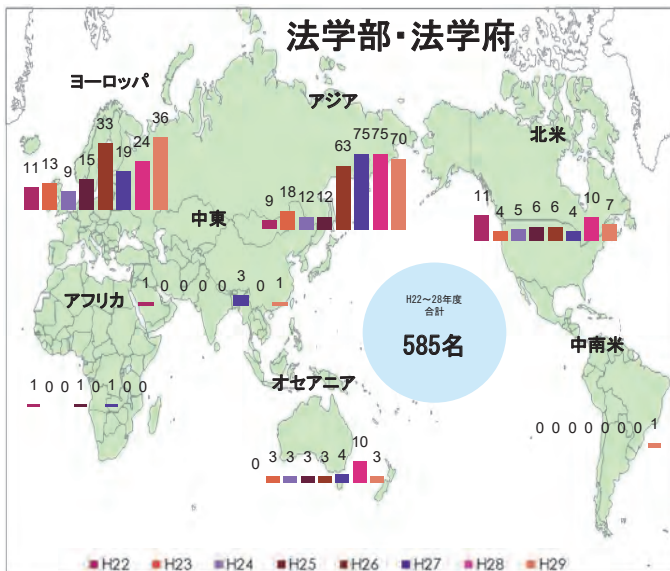
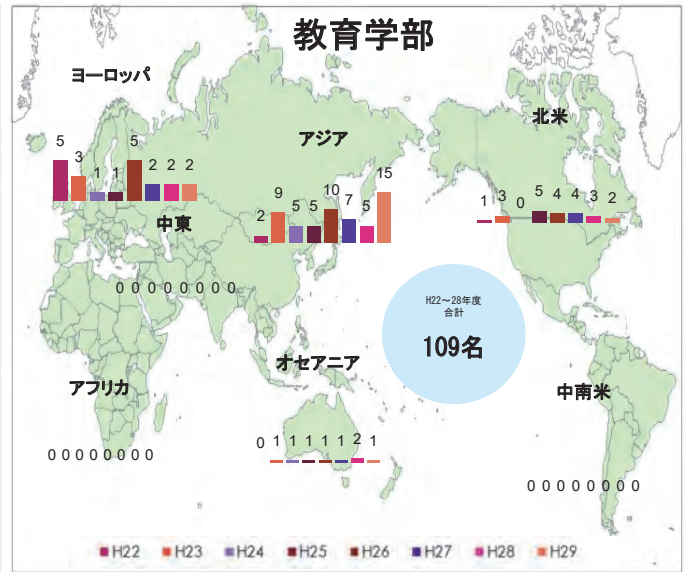
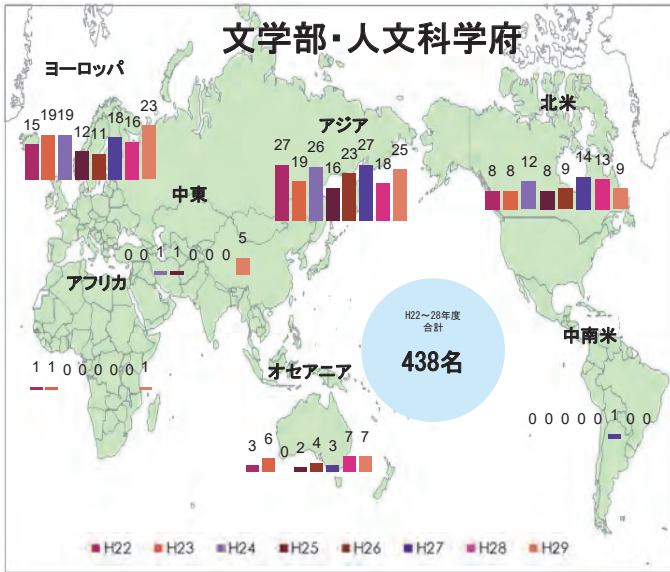
#### ◆全国◆



※出典

- ・本学:九州大学概要
- ・全国:JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

# 10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局別・地域別)

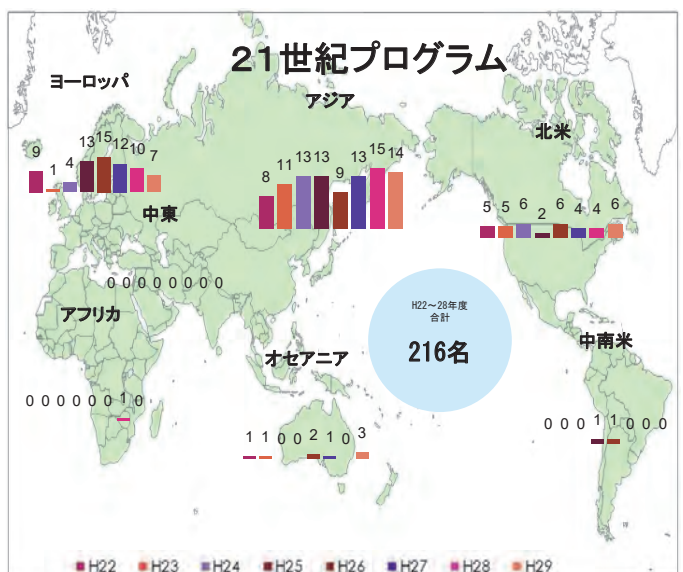
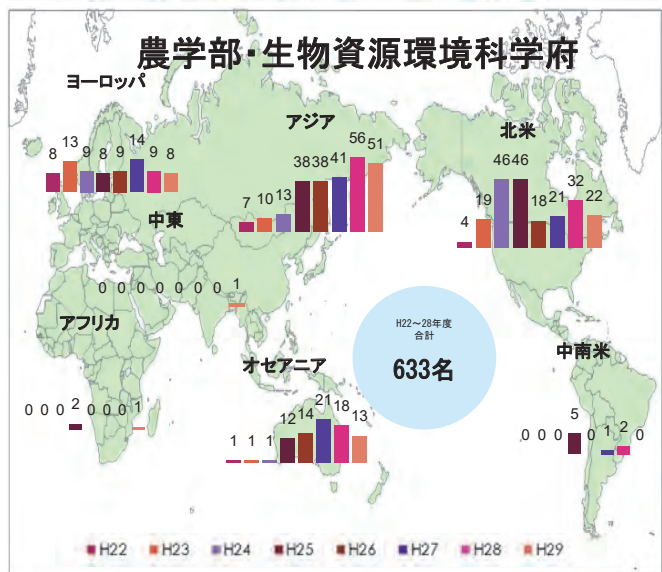
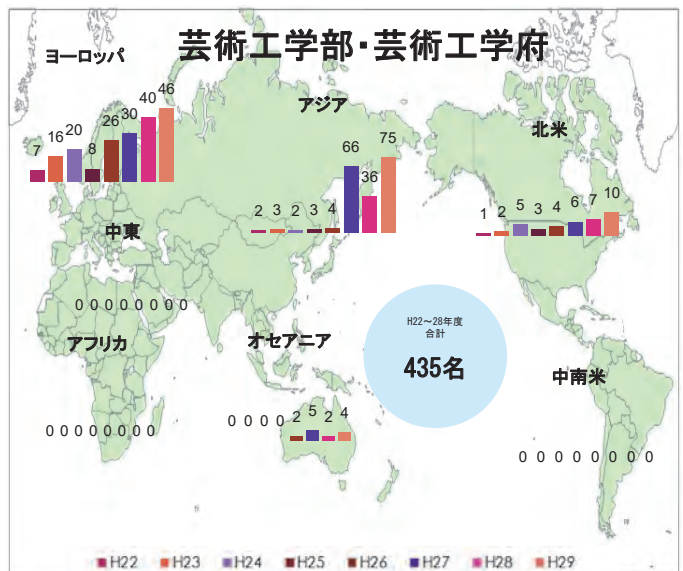
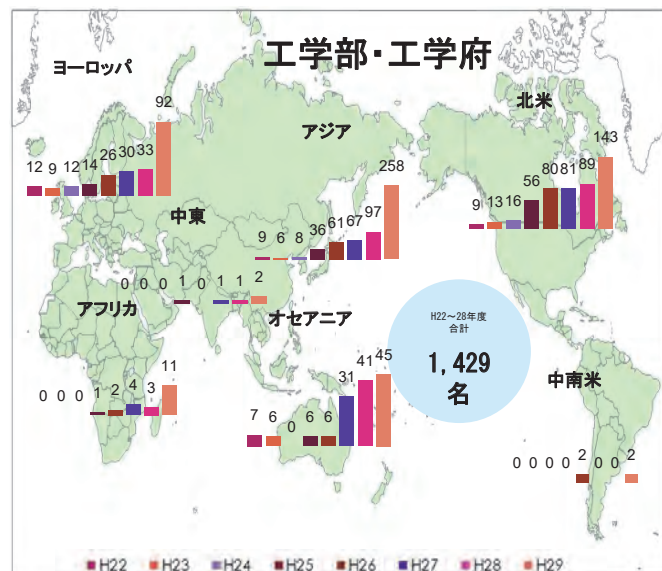
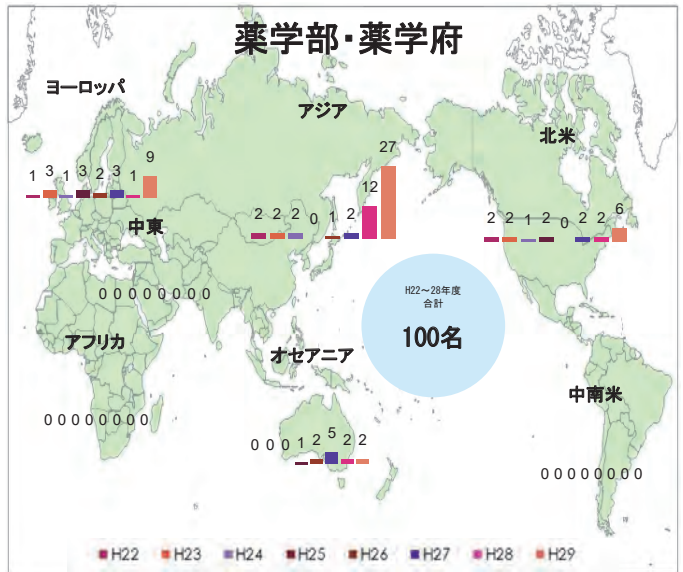
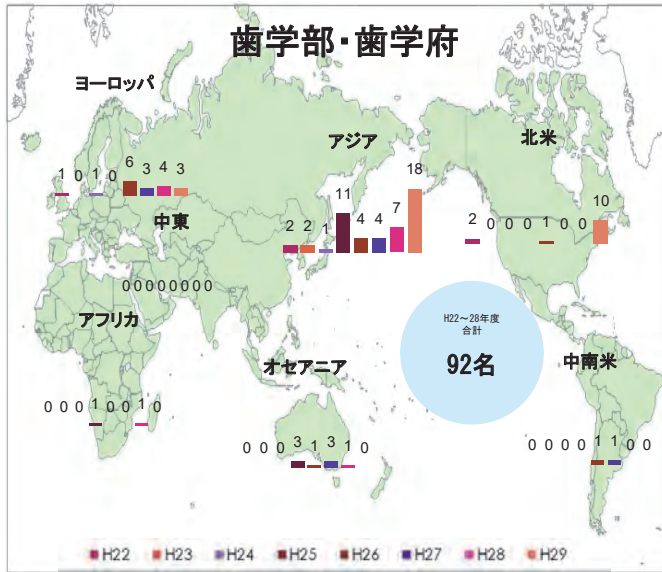


・過年度に留学を開始した者を含む。

※出典:九州大学概要

10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局別・地域別)(つづき)

国際

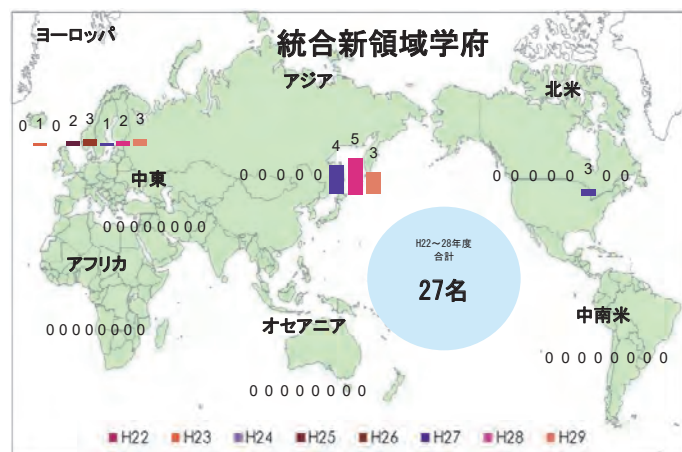
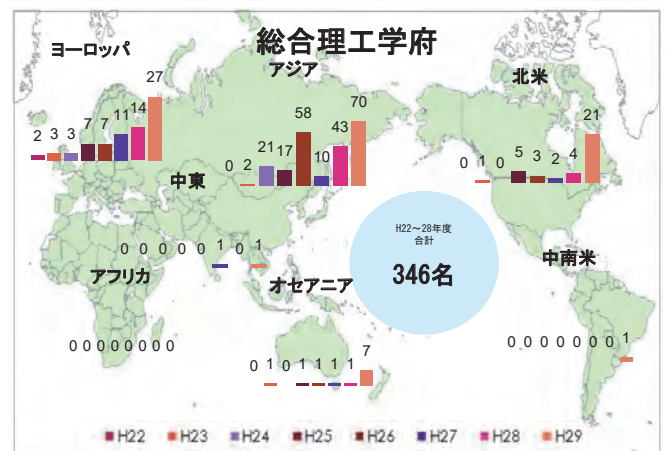
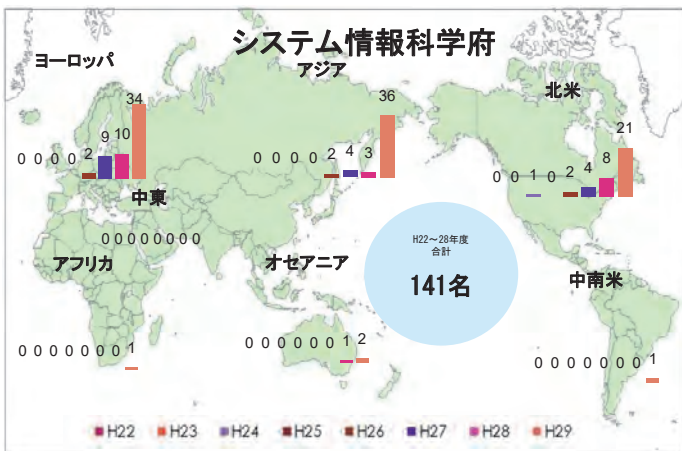
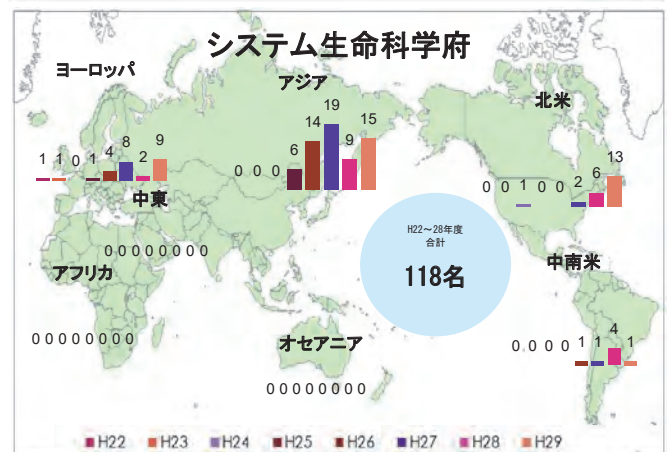
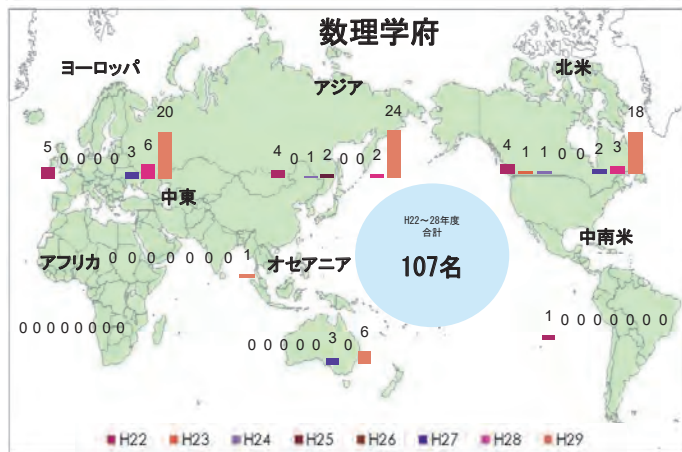
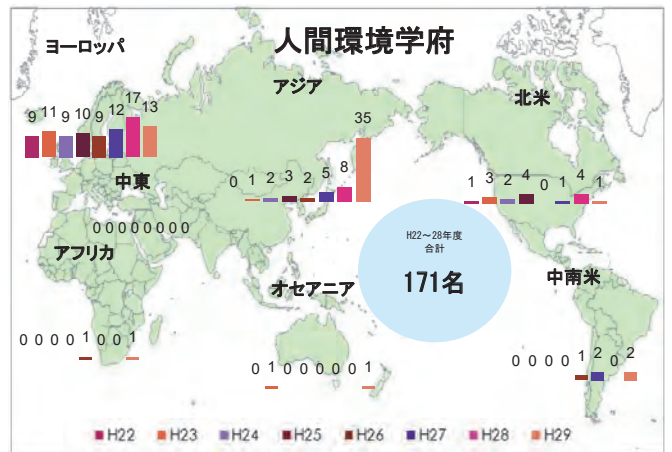
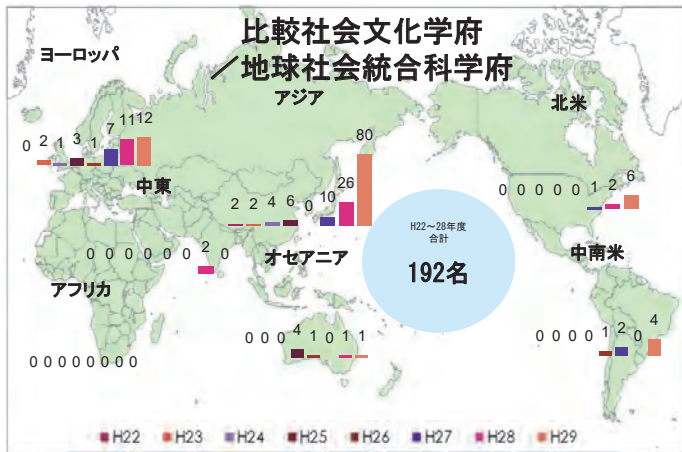


・過年度に留学を開始した者を含む。

※出典:九州大学概要



10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局別・地域別)(つづき)



・過年度に留学を開始した者を含む。

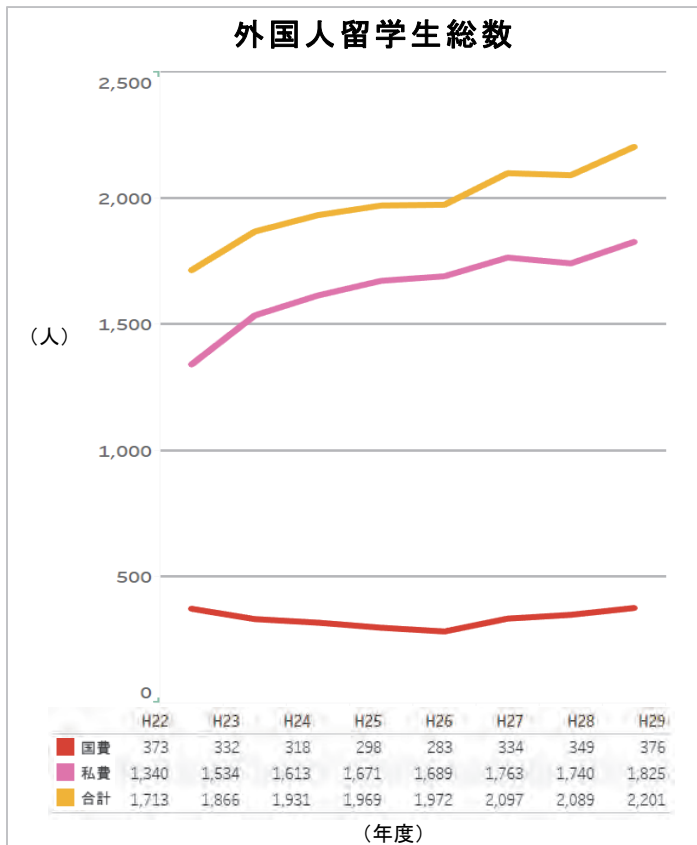
※出典:九州大学概要

# 10-3. 外国人留学生の受入状況

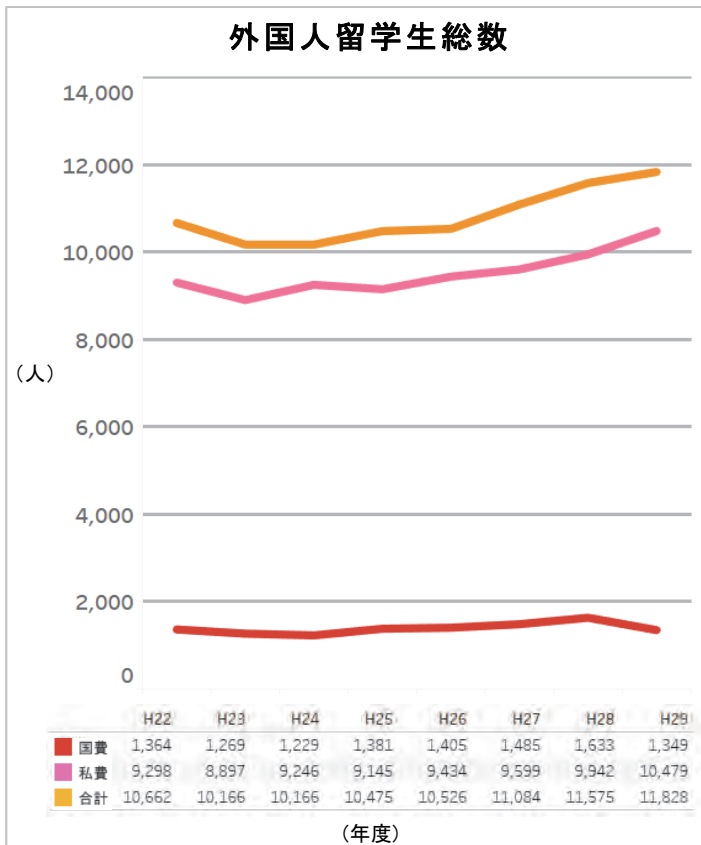
## 10-3-1. 外国人留学生の受入状況(全体)

留学生は毎年増加傾向にある。特に平成29年度は、2,313人と過去最高の留学生数となった。在籍学生数に占める外国人留学生数の比率について、全国と比較すると本学は大きく上回り、近年増加傾向にある。

### ◆九州大学◆

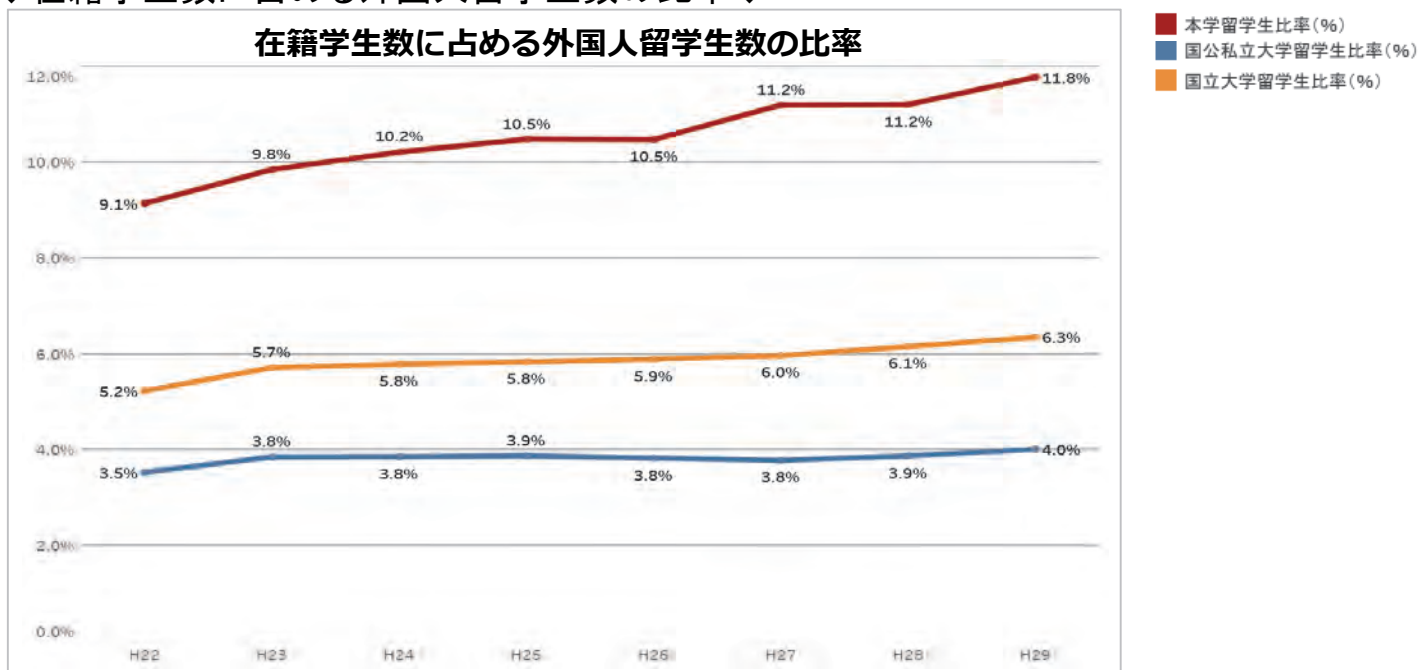


### ◆全国 国立大学◆



・国費外国人留学生: 留学の在留資格をもって日本に在留し、日本の国費により大学等に在学して学習又は研究を行う外国の国籍を有する者  
(国費外国人留学生制度実施要項第二条参照)

### ◆在籍学生数に占める外国人留学生数の比率◆

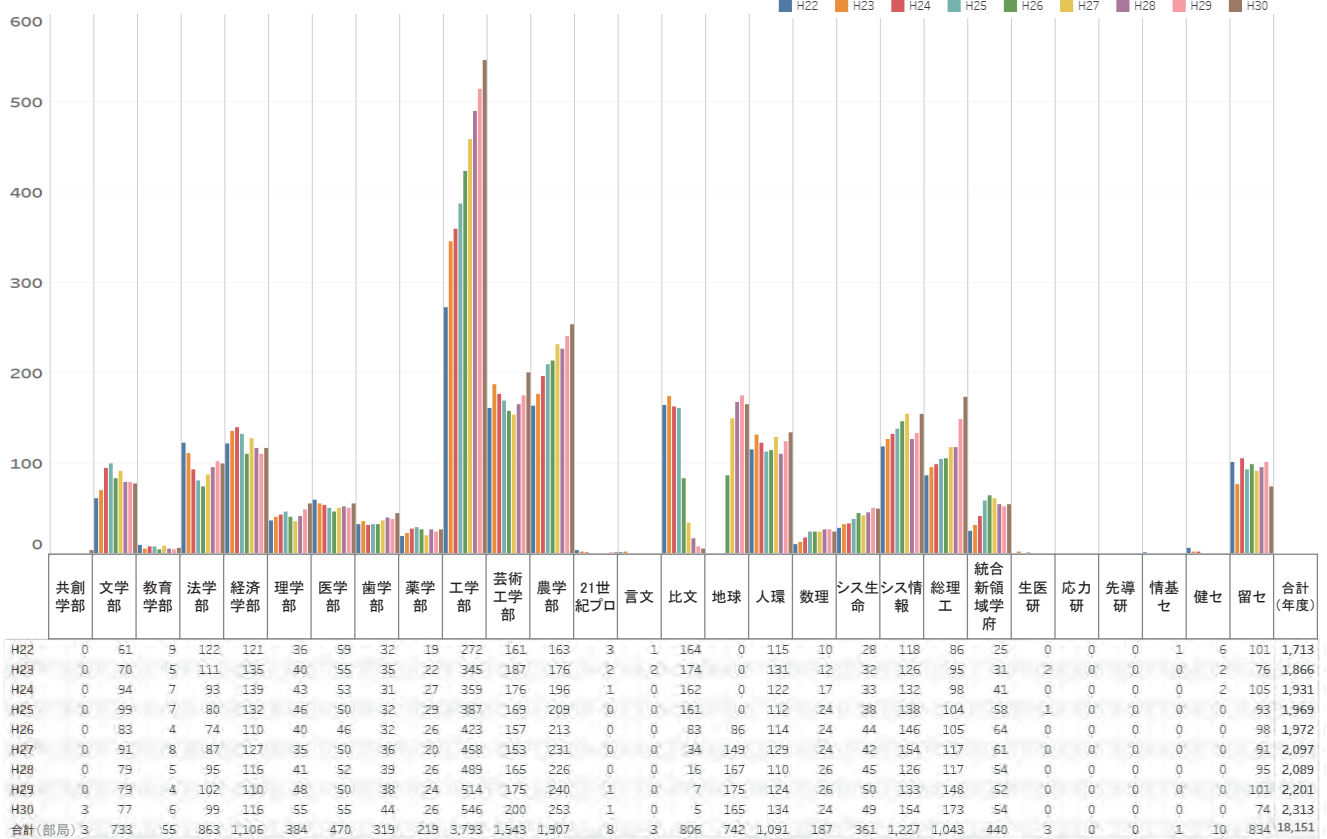


※出典

・全国: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「関係学科別 外国人学生数(大学)」

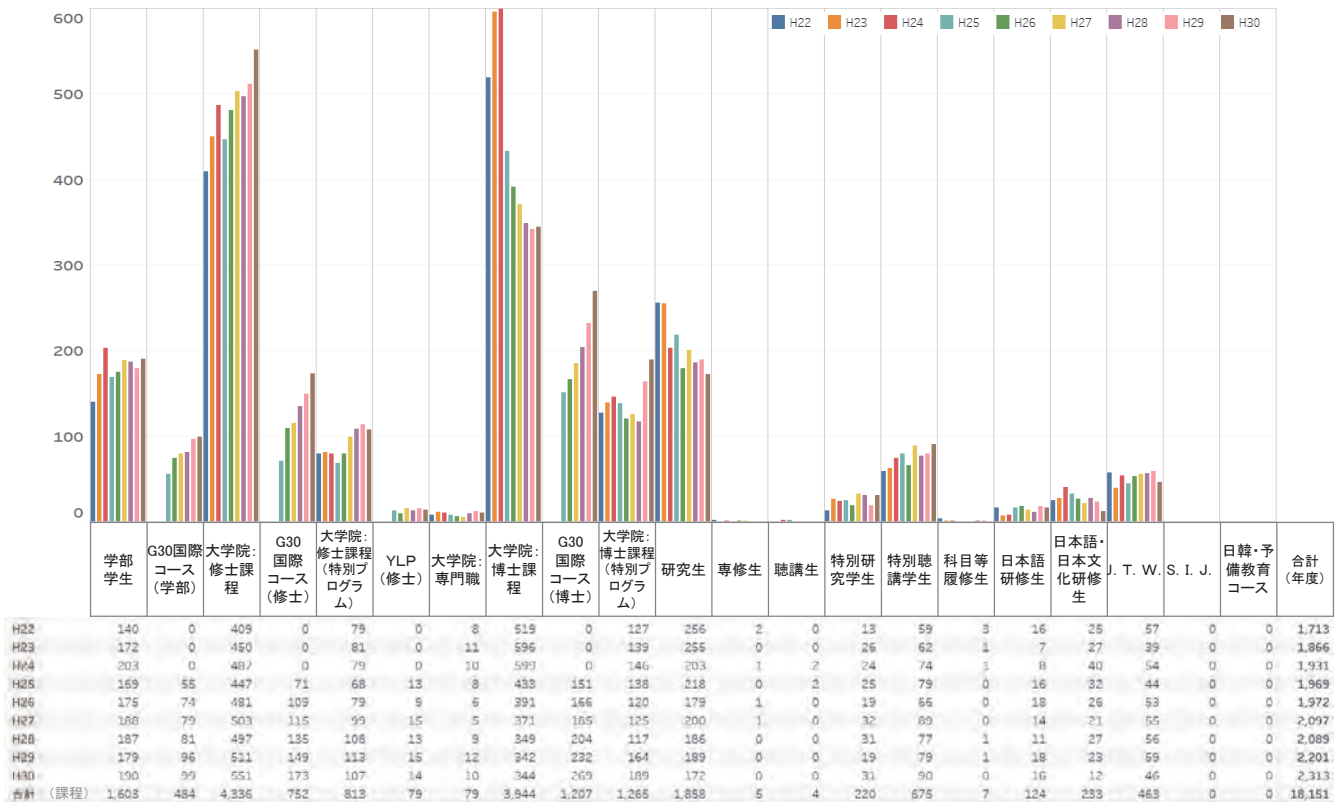
## 10-3-2. 外国人留学生の受入状況(部局別)

部局別 外国人留学生数推移



## 10-3-3. 外国人留学生の受入状況(課程別)

課程別 外国人留学生数推移

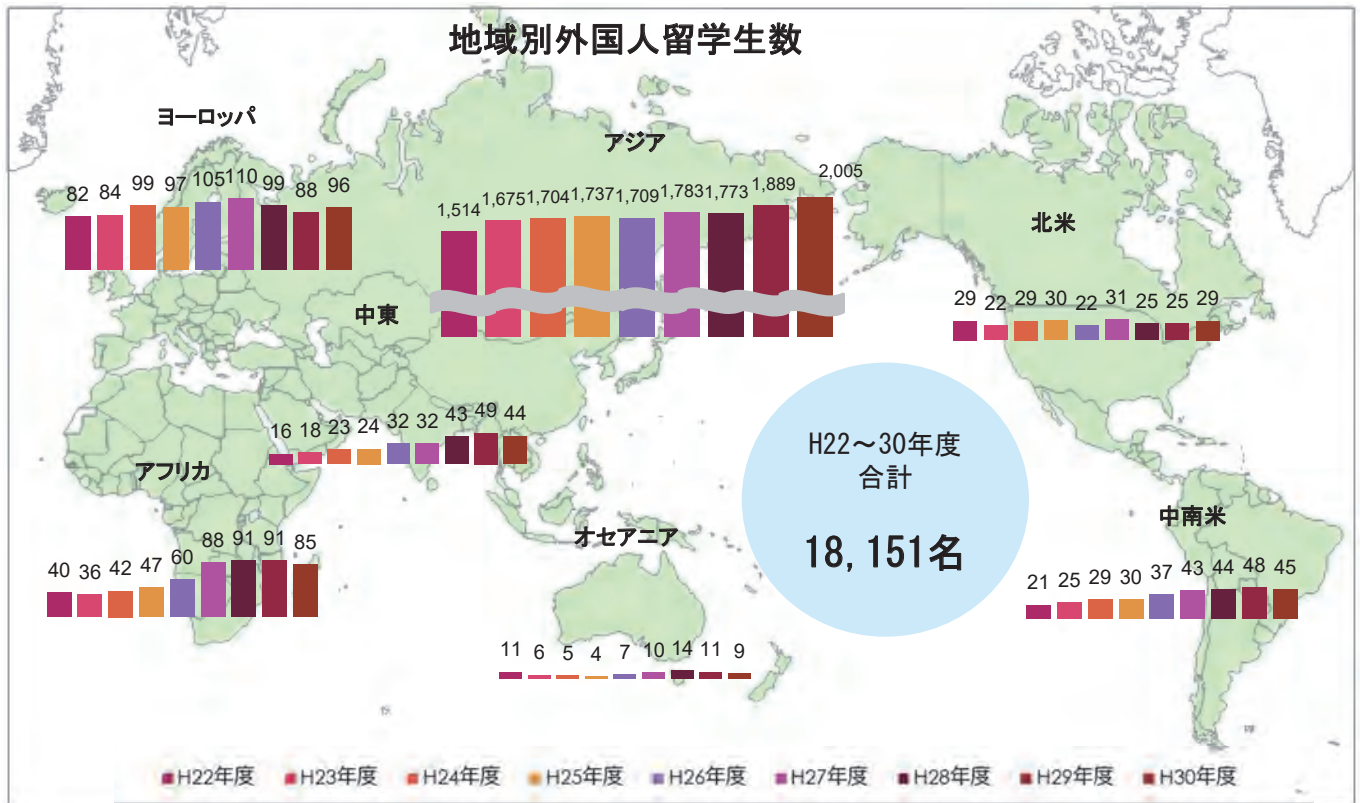


※YLP=Young Leaders' Program、J.T.W.=Japan in Today's World Program(短期留学プログラム)、S.I.J.=Summer in Japan(九州大学サマープログラム)の略。  
 ※S.I.J.(平成28年度までA.T.W.)は6月から始まる5週間のサマーコース(平成29年度15人)。  
 ※日韓・予備教育コースは10月から始まるコース(平成29年度7人)。

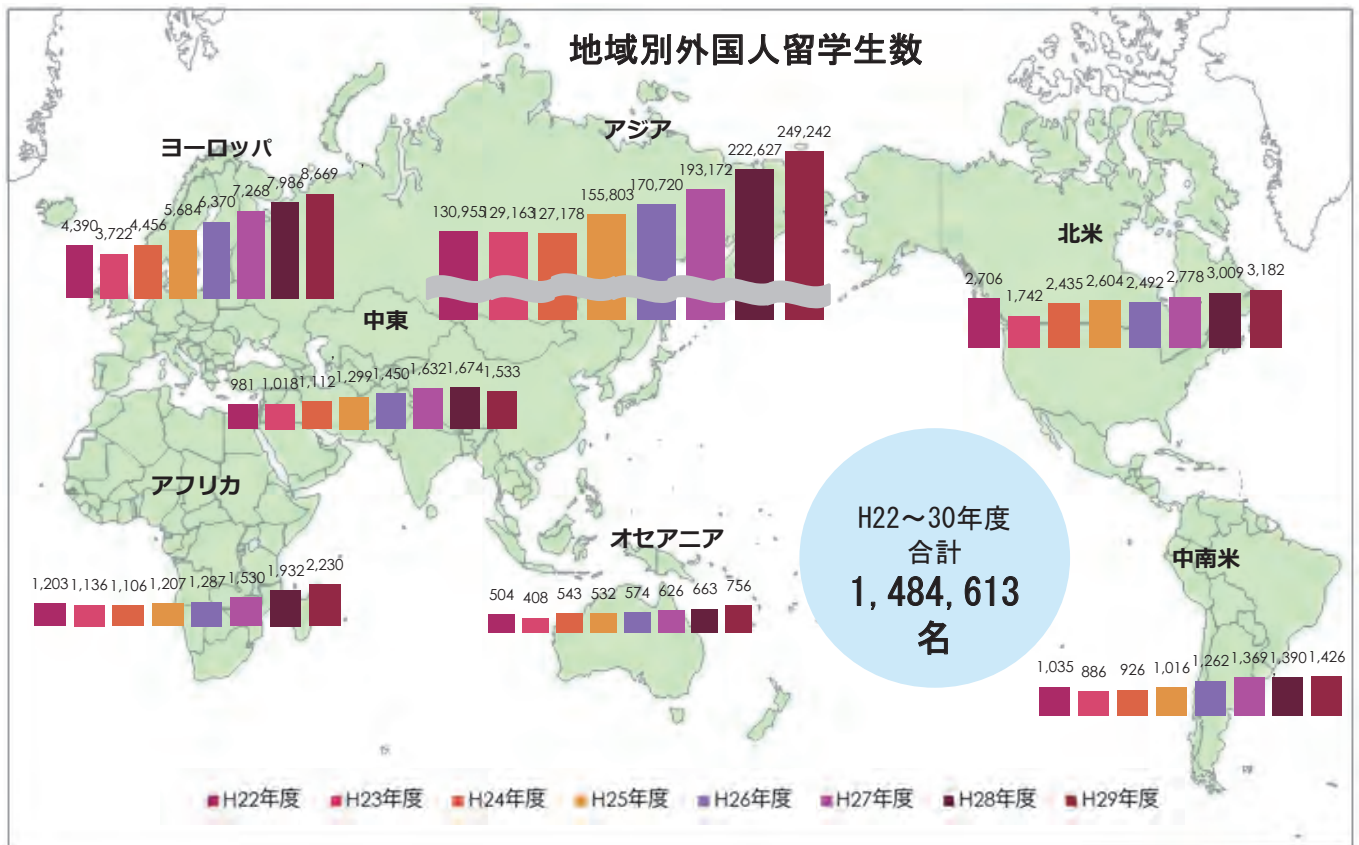
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

# 10-3-4. 外国人留学生の受入状況(出身地域別)

## ◆九州大学◆



## ◆全国◆



・合計数には、H27年度よりその他(無国籍者)を含む

※出典:

- ・本学:九州大学概要(各年度)
- ・全国の留学生数はJASSO「外国人留学生在籍状況調査」(各年度)

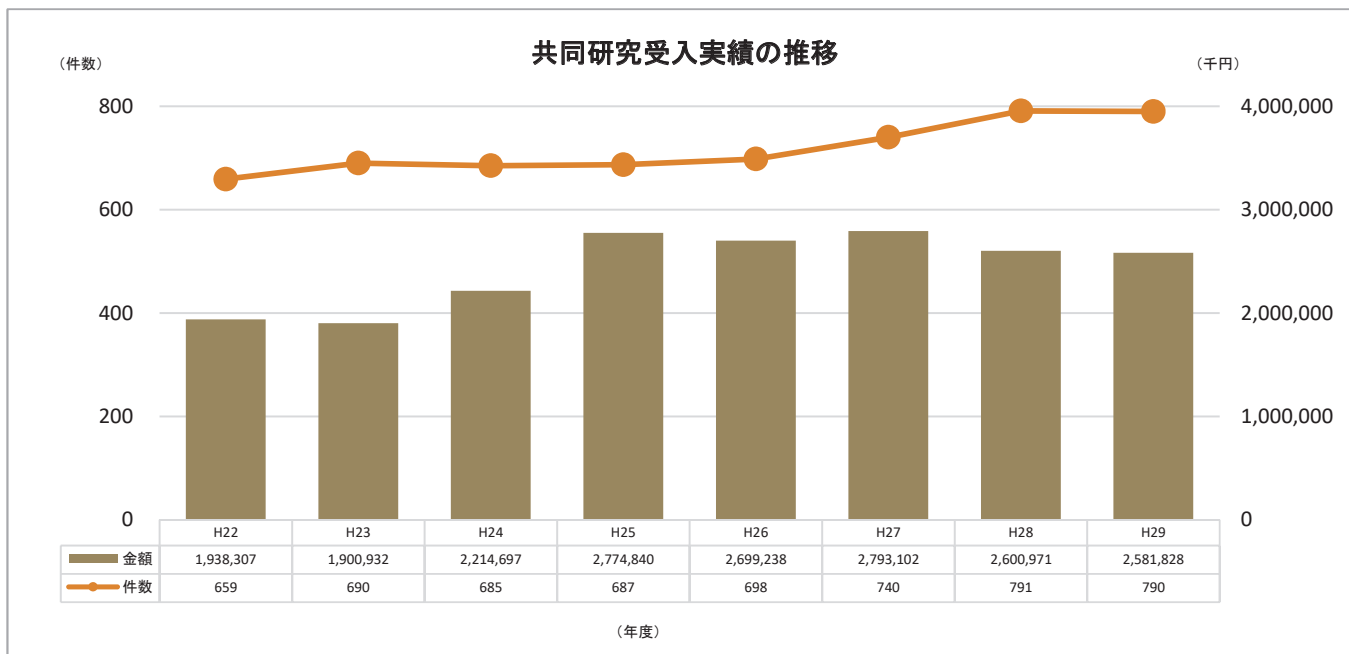
# 11. 産学官連携

## 11-1. 共同研究の状況

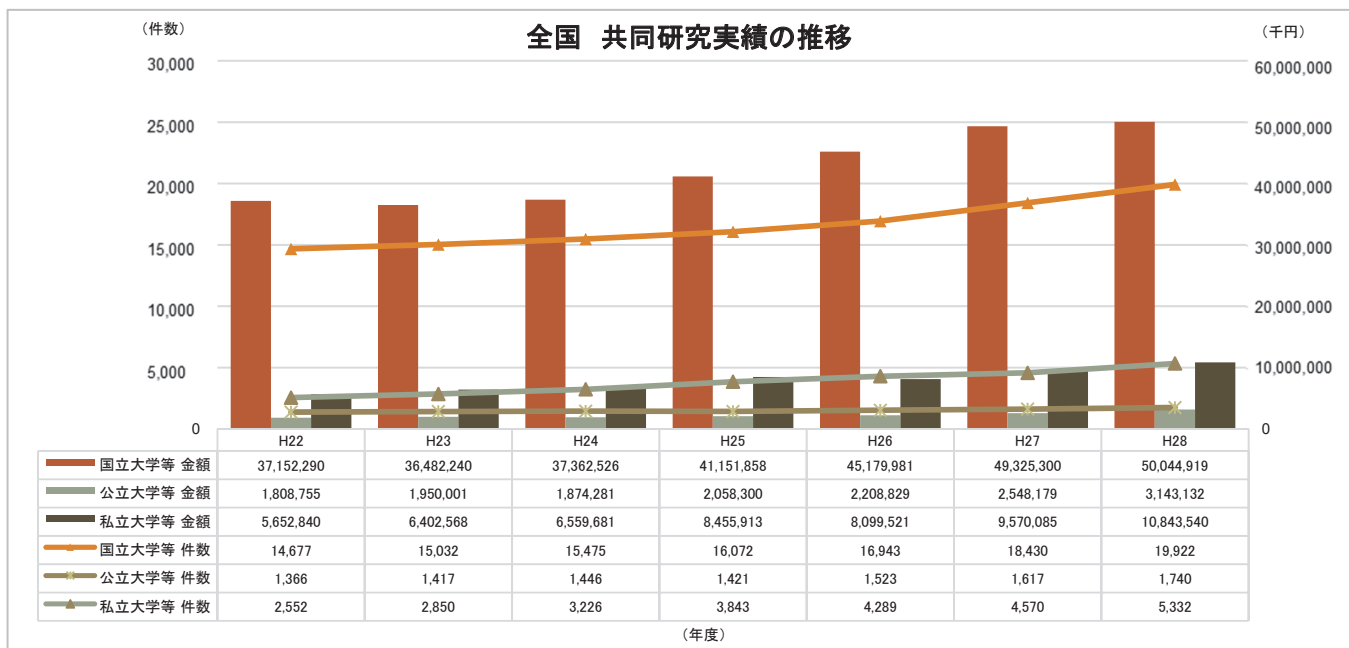
### 11-1-1. 共同研究実績の推移

全国では金額・件数の両方で増加傾向である。本学は、近年横ばい傾向である。

#### ◆九州大学◆



#### ◆全国◆



※出典

・本学、全国:「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

## 11-1-1. 共同研究実績の推移(つづき)

### ◆他大学との比較◆

【民間企業との共同研究実施件数  
(全国 国公立大学間)】

【民間企業との共同研究費受入額  
(全国 国公立大学間)】

【民間企業との共同研究に伴う1件当たりの研  
究費受入額(全国 国公立大学間)】

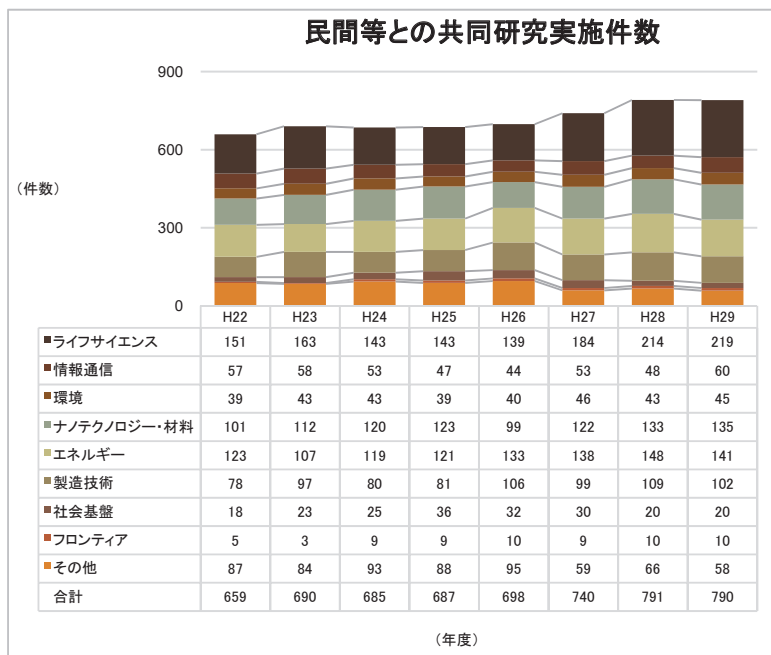
順位	大学名	件数	順位	大学名	収入額	順位	大学名	1件当たり 受入額	件数
1	東京大	1,545	1	東京大	5,738,735	1	聖マリアンナ医科大	6,813	25
2	京都大	1,051	2	京都大	4,589,339	2	藤田保健衛生大	5,909	25
3	大阪大	1,038	3	大阪大	4,102,261	3	順天堂大	5,034	67
4	東北大	975	4	東北大	3,222,334	4	北海道薬科大	4,939	10
5	<b>九州大</b>	<b>682</b>	5	名古屋大	2,228,210	5	自治医科大	4,764	38
6	名古屋大	636	6	慶應義塾大	2,034,110	6	埼玉医科大	4,650	25
7	東京工業大	579	7	<b>九州大</b>	<b>1,997,521</b>	7	東京慈恵会医科大	4,494	10
8	北海道大	538	8	東京工業大	1,646,507	8	兵庫医科大	4,379	25
9	慶應義塾大	487	9	北海道大	1,113,691		⋮		
10	神戸大	428	10	筑波大	1,019,570	21	<b>九州大</b>	<b>2,929</b>	<b>682</b>

(単位:千円)

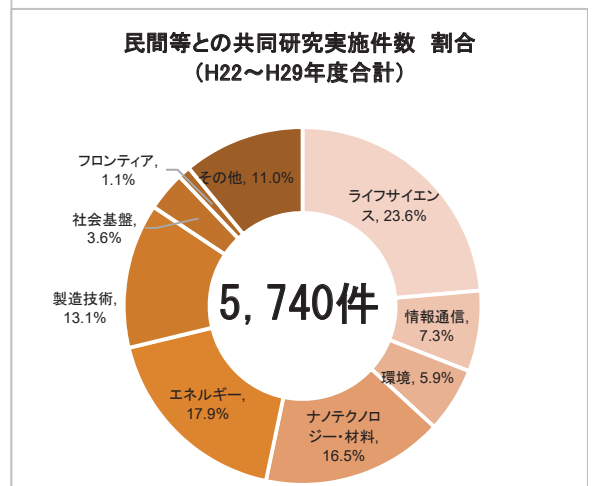
(2016) (2016) (2016)

※出典  
・文部科学省「平成28年度大学等における産学連携等実施状況について」

## 11-1-2. 共同研究実績の推移(分野別)



### ◆九州大学◆



・本調査における共同研究とは、大学等と民間企業等とが共同で研究開発を行い、かつ、大学等が要する経費を民間企業等が負担しているものを指す。

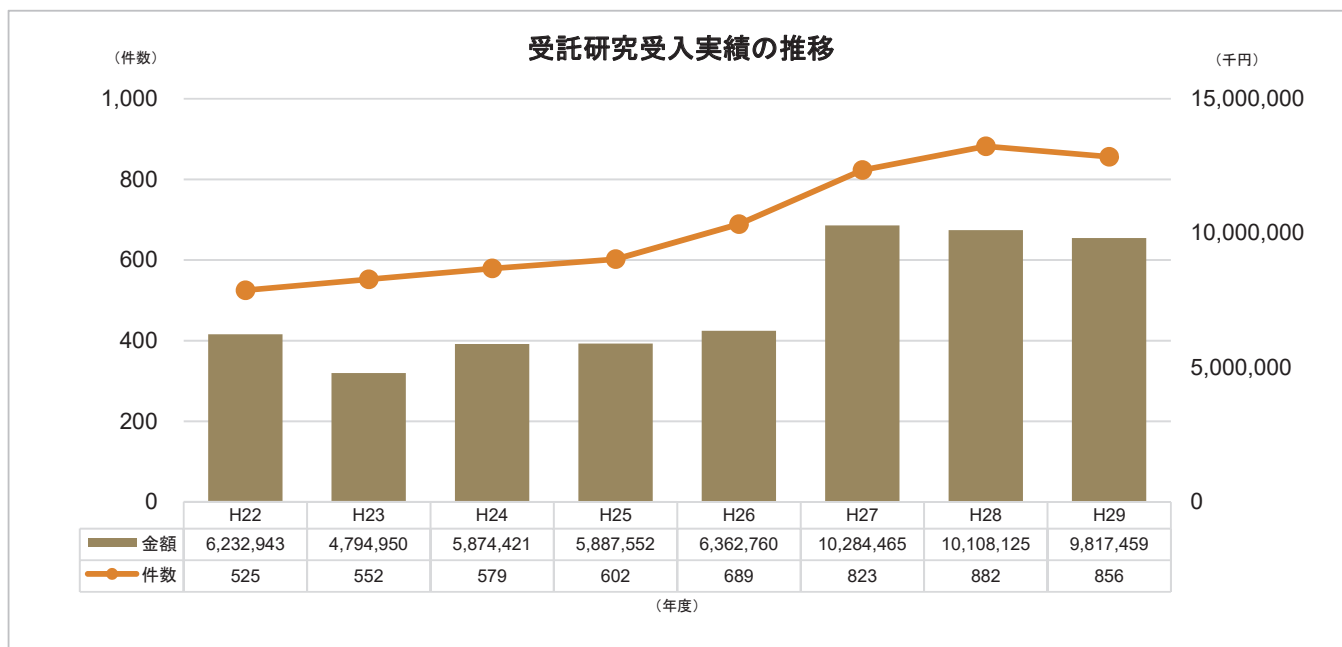
※出典:九州大学概要

## 11-2. 受託研究の状況

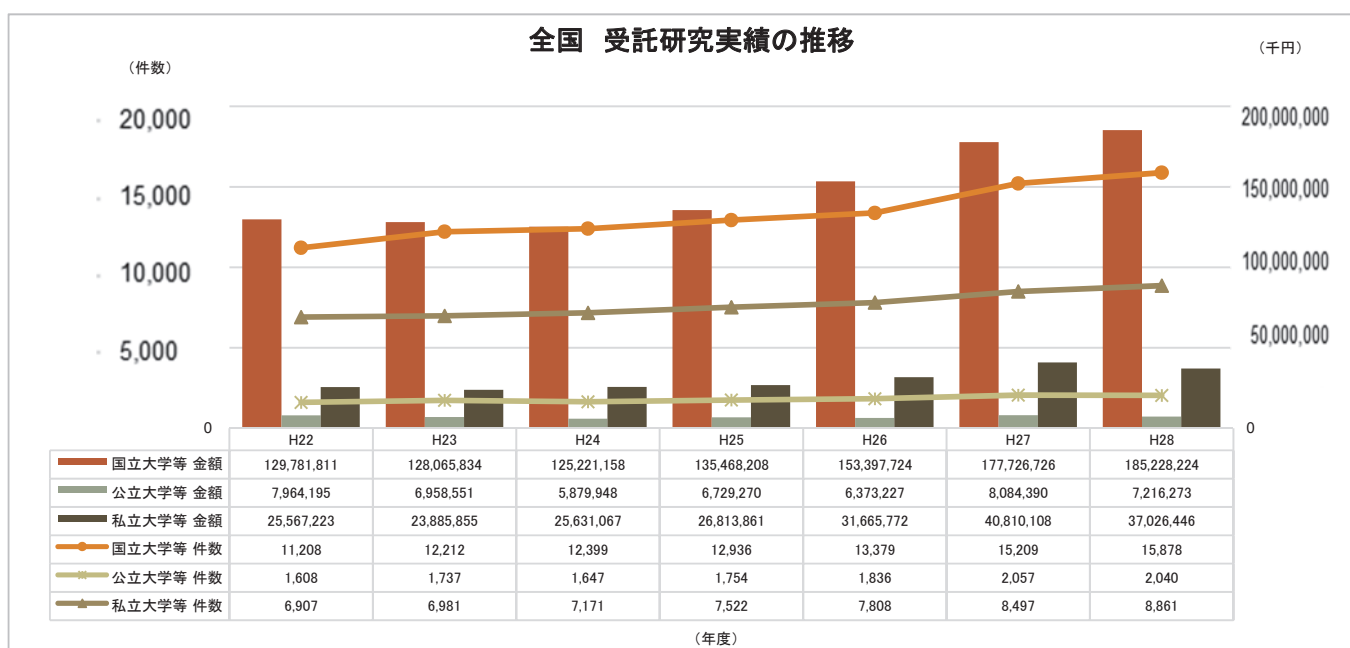
### 11-2-1. 受託研究実績の推移

本学は増加傾向にあり、近年は100億円を超えている。

#### ◆九州大学◆



#### ◆全国◆



#### ※出典

- ・本学: 研究戦略データ集(学術研究・産学官連携本部 研究戦略推進グループ、学術研究推進支援グループ)
- ・全国: 「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

## 11-2-1. 受託研究実績の推移(つづき)

### ◆他大学との比較◆

【民間企業からの受託研究実施件数  
(全国 国公立大学間)】

【民間企業からの受託研究費受入額  
(全国 国公立大学間)】

【民間企業からの受託研究に伴う1件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】

(単位:千円)

(単位:千円)

順位	大学名	件数
1	近畿大	257
2	立命館大	248
3	慶應義塾大	198
3	日本大	198
5	東京大	161
6	早稲田大	155
7	拓殖大	140
8	東京都市大	135
9	九州大	130
10	大阪大	126

(2016)

順位	大学名	受入額
1	慶應義塾大	794,778
2	早稲田大	410,824
3	日本大	363,175
4	九州大	354,642
5	京都大	346,276
6	近畿大	321,724
7	大阪大	305,307
8	立命館大	304,576
9	神戸大	282,314
10	東京大	273,608

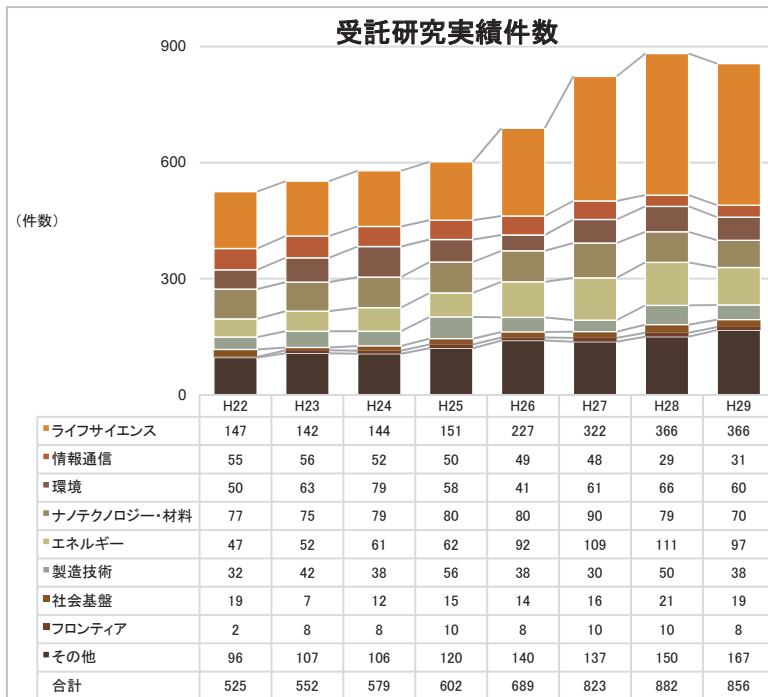
(2016)

順位	大学名	1件当たりの受入額	件数
1	国際大	9,846	16
2	北海道情報大	7,457	17
3	琉球大	6,834	30
4	中央大	5,120	11
5	和歌山県立医科大	4,923	28
6	東京女子医科大	4,855	24
7	自治医科大	4,339	40
8	慶應義塾大	4,014	198
⋮			
17	九州大	2,728	130

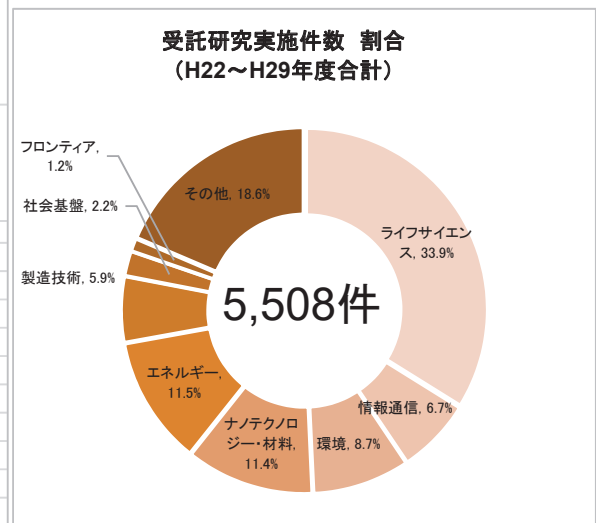
(2016)

※出典  
・文部科学省「平成28年度大学等における産学連携等実施状況について」

## 11-2-2. 受託研究実績の推移(分野別)



### ◆九州大学◆



※本調査における「受託研究」とは、大学等が民間企業等からの委託により、主として大学等のみが研究開発を行い、そのための経費が民間企業等から支弁されているものを指す。

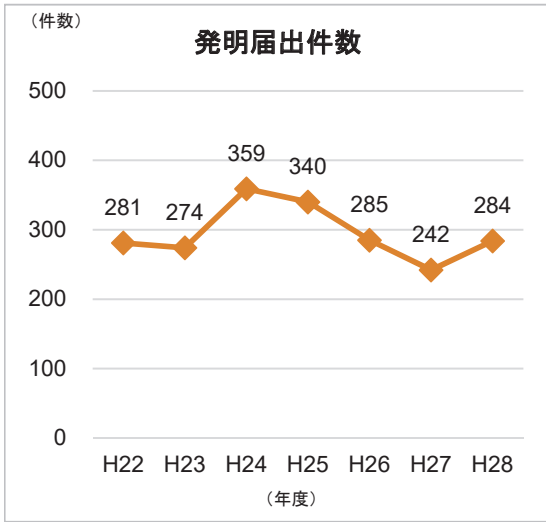
※出典:九州大学概要



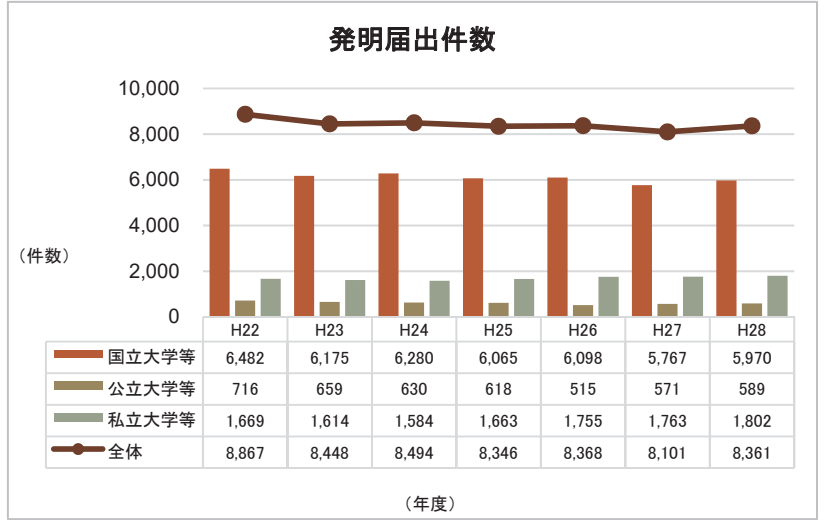
# 11-3. 知的財産関連

本学の発明届出件数、特許出願件数は横ばい傾向である。特許保有件数も毎年平均約150件ずつ増加している。

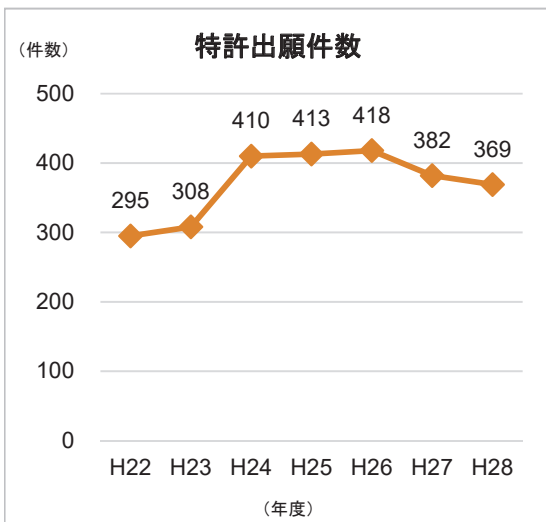
## ◆九州大学◆



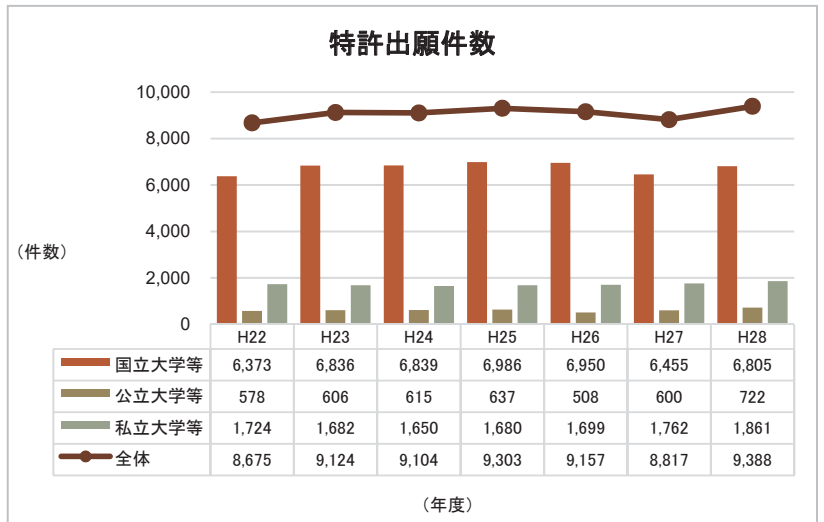
## ◆全国◆



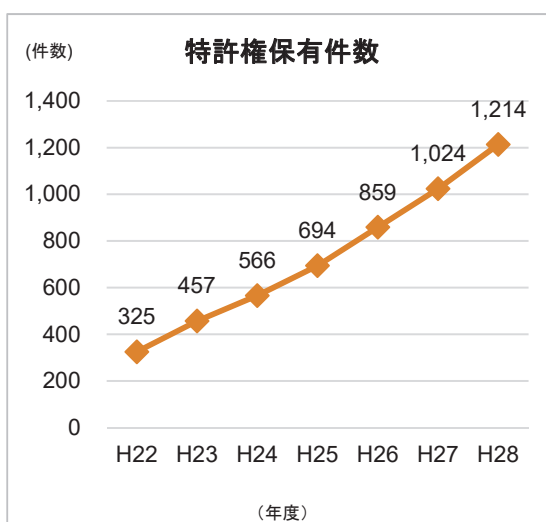
## ◆九州大学◆



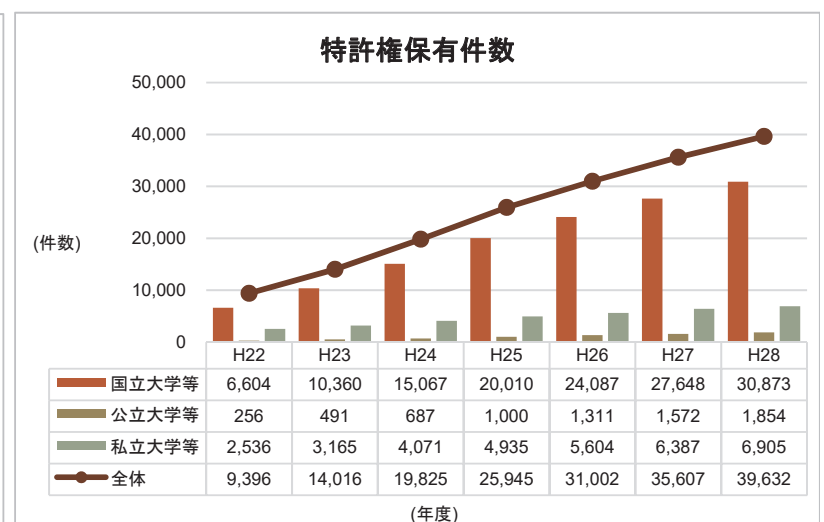
## ◆全国◆



## ◆九州大学◆



## ◆全国◆

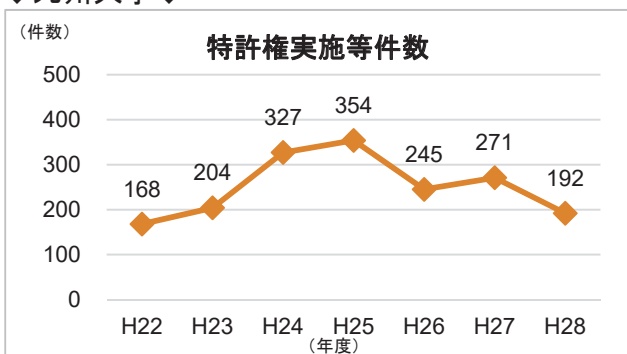


※出典: 文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」

### 11-3. 知的財産関連(つづき)

全国的に特許権実施等件数・収入、大学発ベンチャーの創出件数は近年増加傾向にある。本学では特許権実施等収入が、平成27年度に大きく飛躍した。

#### ◆九州大学◆

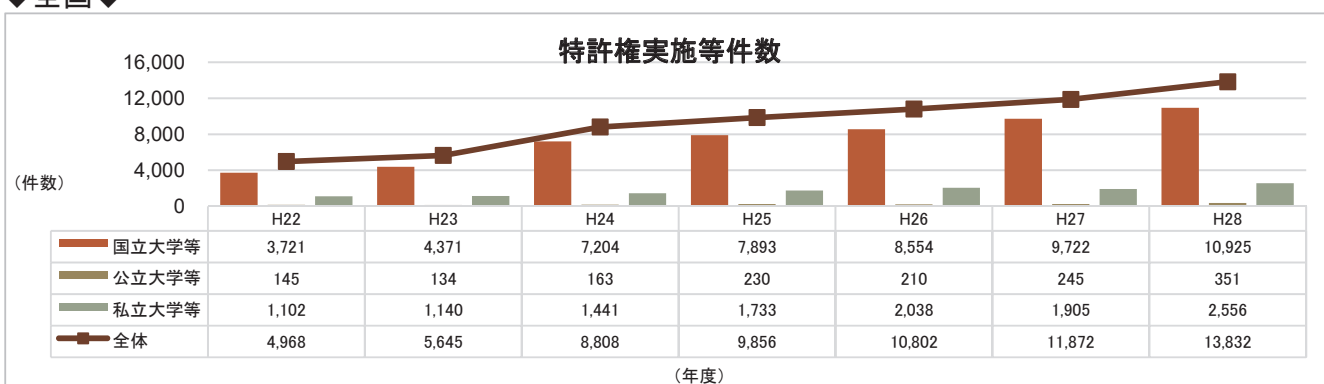


【特許権実施等件数(外国分を含む)】

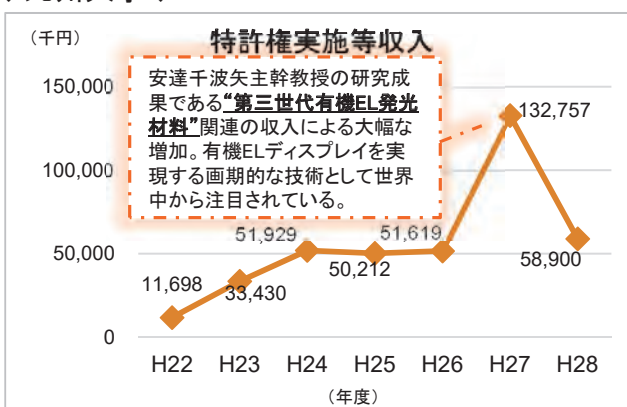
順位	大学名	件数
1	東京大	2,880
2	京都大	1,135
3	関東学院大	886
4	大阪大	782
5	東京工業大	641
6	北海道大	587
7	名古屋大	404
8	東北大	379
...	...	...
17	九州大	192

(2016)

#### ◆全国◆



#### ◆九州大学◆



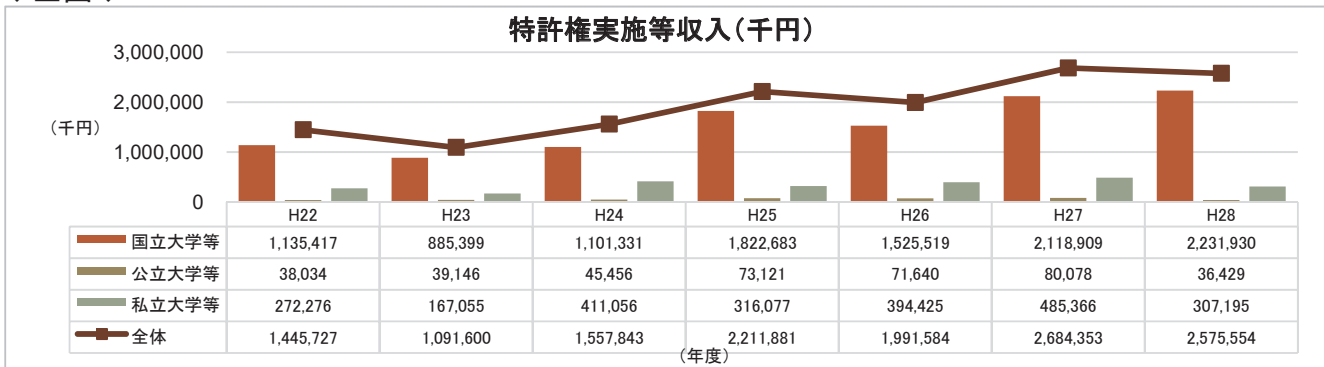
【特許権実施等収入(外国分を含む)】

(単位:千円)

順位	大学名	収入額
1	東京大	717,651
2	京都大	459,908
3	日本大	118,803
4	大阪大	118,665
5	東北大	105,325
6	徳島大	100,527
7	名古屋大	82,822
8	岡山大	59,811
9	東京工業大	59,473
10	九州大	58,900

(2016)

#### ◆全国◆

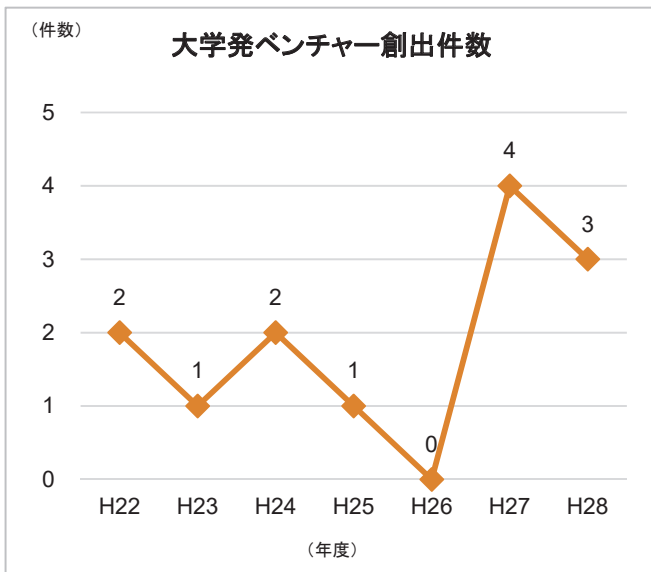


・本調査において、「特許権実施等件数」、「特許権実施等収入額」とは、実施許諾又は譲渡した特許権(「特許を受ける権利」の段階のものも含む。)の数、収入額を指す。

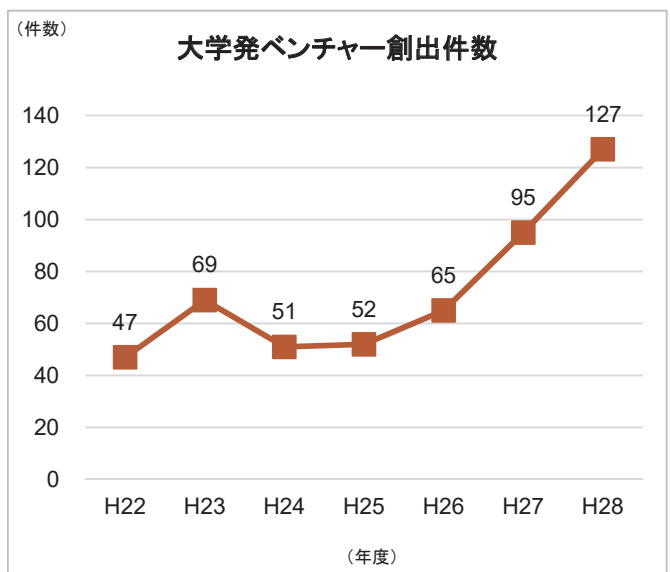
※出典: 文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」

### 11-3. 知的財産関連(つづき)

#### ◆九州大学◆



#### ◆全国◆



※出典  
・本学、全国:「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

#### ◆他大学との比較◆

【ランニングロイヤリティ収入があった特許件数】

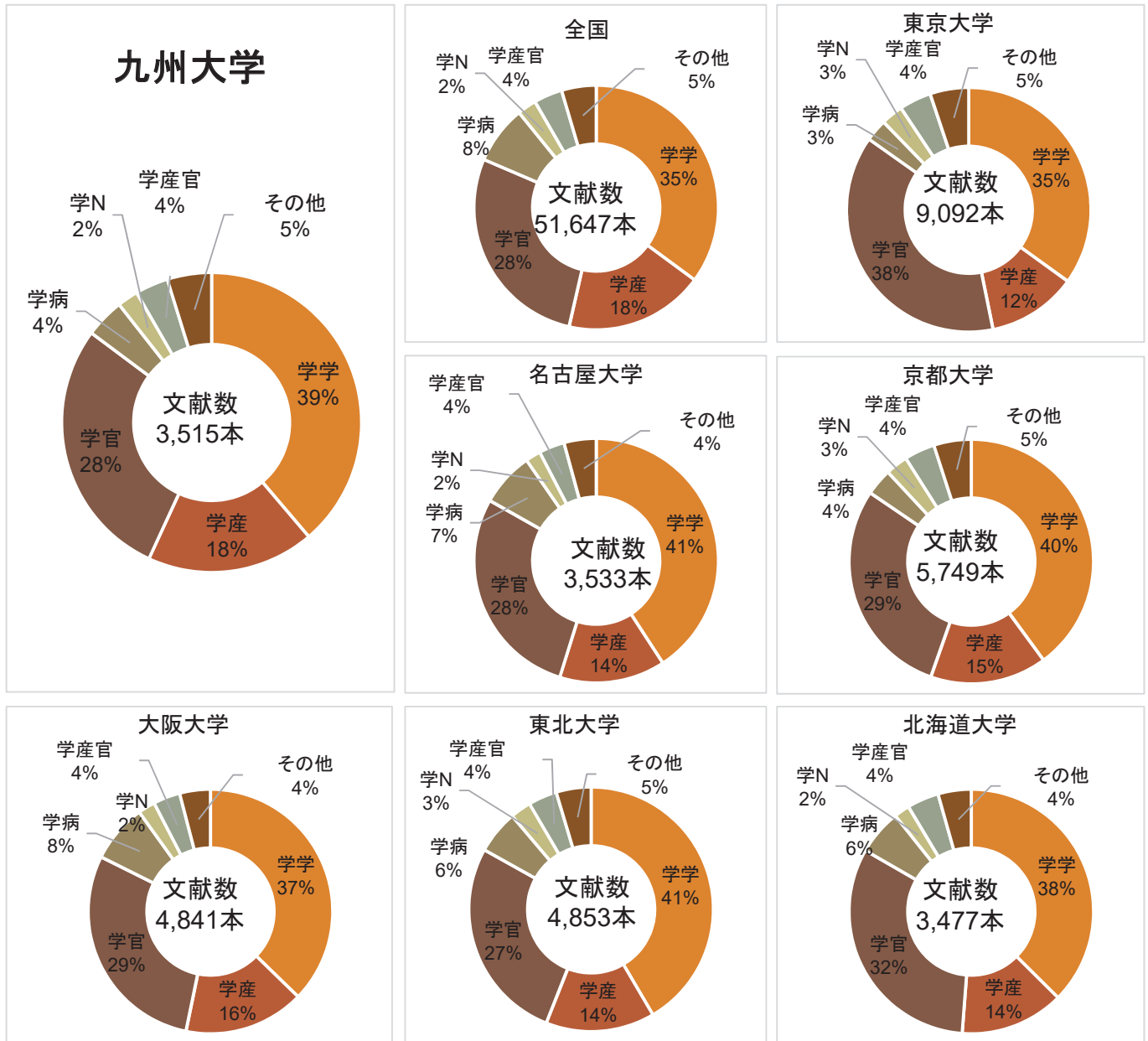
順位	大学名	件数
1	東北大	149
2	東京大	137
3	九州大	126
4	豊橋技術科学大	123
5	静岡大	117
6	東京工業大	108
7	金沢大	101
8	京都大	93
8	筑波大	93
10	大阪大	88

(2016)

※出典: 文部科学省「平成28年度大学等における産学連携等実施状況について」

## 11-4. 共著関係から見る産学官連携状況

共著相手期間を本学と他大学で比較してみると、学学連携の比率がやや高いが、ほぼ全国平均と同等比率であることがわかる。



グラフ中の機関区分は、次の6区分である

機関区分	対象の機関
学産	大学(短大を含む) <sup>注1)</sup> 、大学共同利用機関、国立高等専門学校 注1) 附属病院を含む
学官	民間企業
学病	国の機関、特殊法人・独立行政法人、地方公共団体の機関
N	医療機関
他	非営利団体
	上記以外

・JSTが収集しデータベース化している予稿集・会議録を対象とする

※出典：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術振興プラットフォーム「共著関係からみる産学官連携パターン」(H23)より、発行年を2011年、分野は全分野を選択し、対象大学は、北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京大、大阪大、九州大を選択し抽出したデータを使用したもの。  
 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)ホームページ：<https://jipsti.jst.go.jp/foresight/dataranking/sangakukan/pattern/>

## 11-5. 地方公共団体関係機関との共著文献数

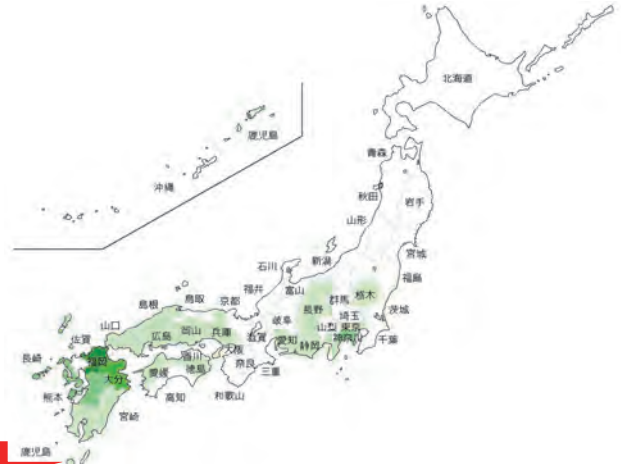
本学と公設試験研究機関などの地方公共団体の機関との共著関係に着目し、その連携度合いを日本地図上に表したものである。

地方公共団体の機関と共著している文献を都道府県別に集計することにより、大学が「地域のハブ」とどのくらい連携しているかを捉えている。

10年間で共著文献数は、90本から170本へと約2倍に、共著した都道府県は、19都県から31都府県と増えており、地方公共団体との連携課は確実に進んでいることがわかる。

H13

順位	都道府県名	文献数	割合
1	福岡県	57	63.3%
2	大分県	7	7.8%
3	神奈川県	4	4.4%
4	長崎県	3	3.3%
4	熊本県	3	3.3%
6	島根県	2	2.2%
6	鹿児島県	2	2.2%
他	12都県	12	13.4%
本学計		90	
(全文献数)		4,479	



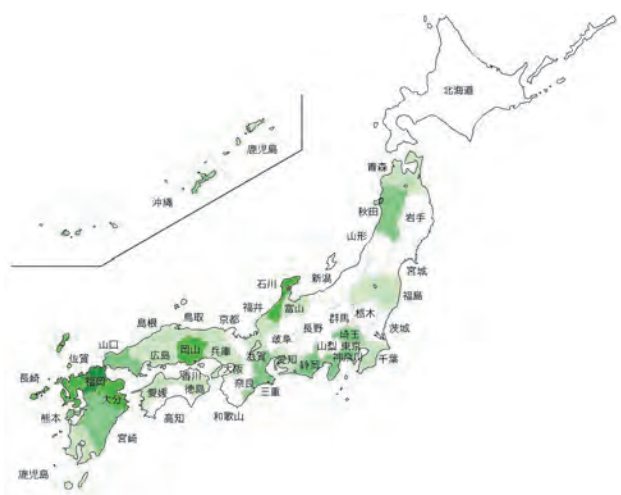
H18

順位	都道府県名	文献数	割合
1	福岡県	78	59.5%
2	熊本県	7	5.3%
3	愛知県	5	3.8%
3	宮崎県	5	3.8%
5	長崎県	4	3.1%
6	神奈川県	3	2.3%
6	佐賀県	3	2.3%
6	大分県	3	2.3%
6	鹿児島県	3	2.3%
他	13都道府県	20	15.3%
本学計		131	
(全文献数)		8,133	



H23

順位	都道府県名	文献数	割合
1	福岡県	63	37.1%
2	佐賀県	14	8.2%
3	大分県	10	5.9%
4	長崎県	9	5.3%
5	石川県	7	4.1%
5	岡山県	7	4.1%
7	宮崎県	5	2.9%
8	秋田県	4	2.4%
8	埼玉県	4	2.4%
8	静岡県	4	2.4%
8	山口県	4	2.4%
8	熊本県	4	2.4%
8	沖縄県	4	2.4%
他	18都府県	31	18.3%
本学計		170	
(全文献数)		8,285	

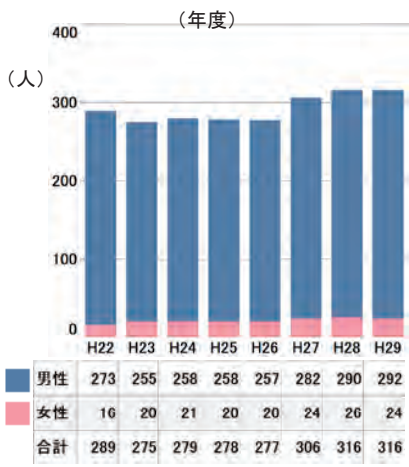


出典：科学技術振興機構（JST）「地域との連携（各県の共著関係）」、「地域との連携（対象文献数）」

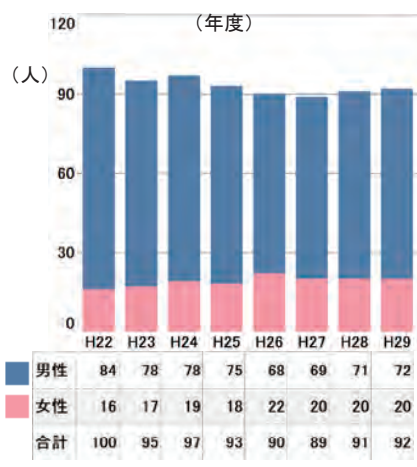
## 12. 附属病院

### 12-1. 医師数等

#### 常勤医師数

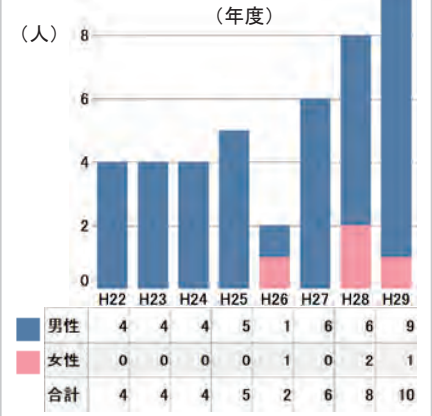


#### 常勤歯科医師数

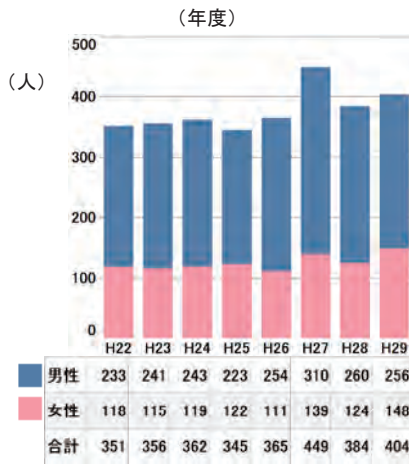


#### その他の常勤教員数

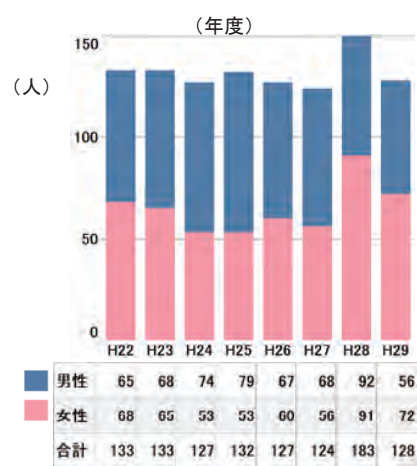
(日本の医師・歯科医師免許を持たない教員)



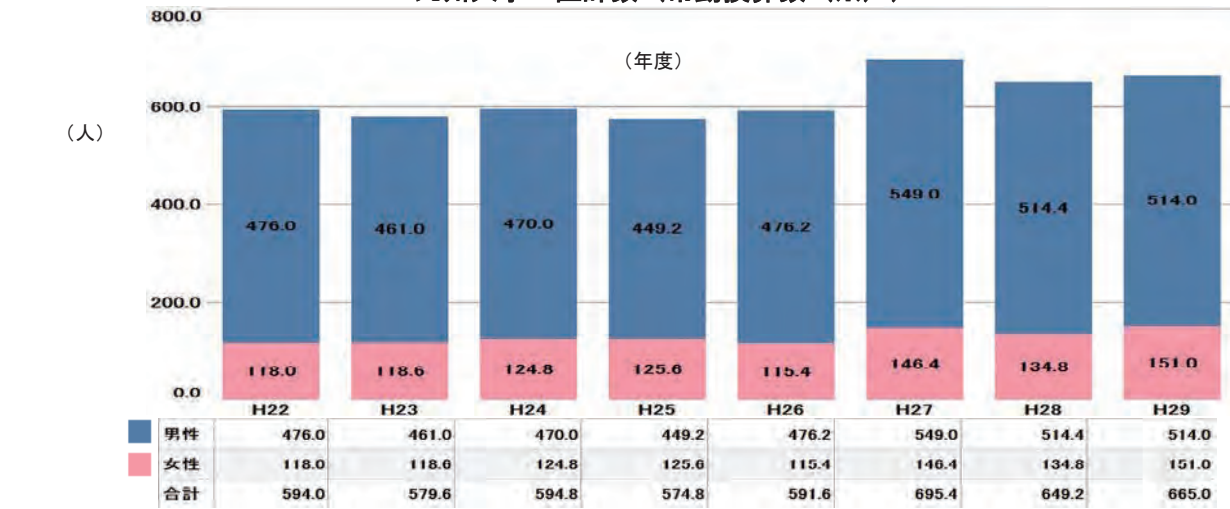
#### 非常勤医師数



#### 非常勤歯科医師数



#### 九州大学 医師数 (常勤換算数 (※))



- ・学部帰属及び病院帰属、任期なし及び任期ありの全てを含む。
- ・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。
- ・常勤換算数(※) = 常勤職員の人数 + (非常勤職員の勤務時間 ÷ 常勤職員が勤務すべき時間)

出典：病院資料（診療組織）調査票より（※別府病院を含まない）

## 12-2. 看護職員等



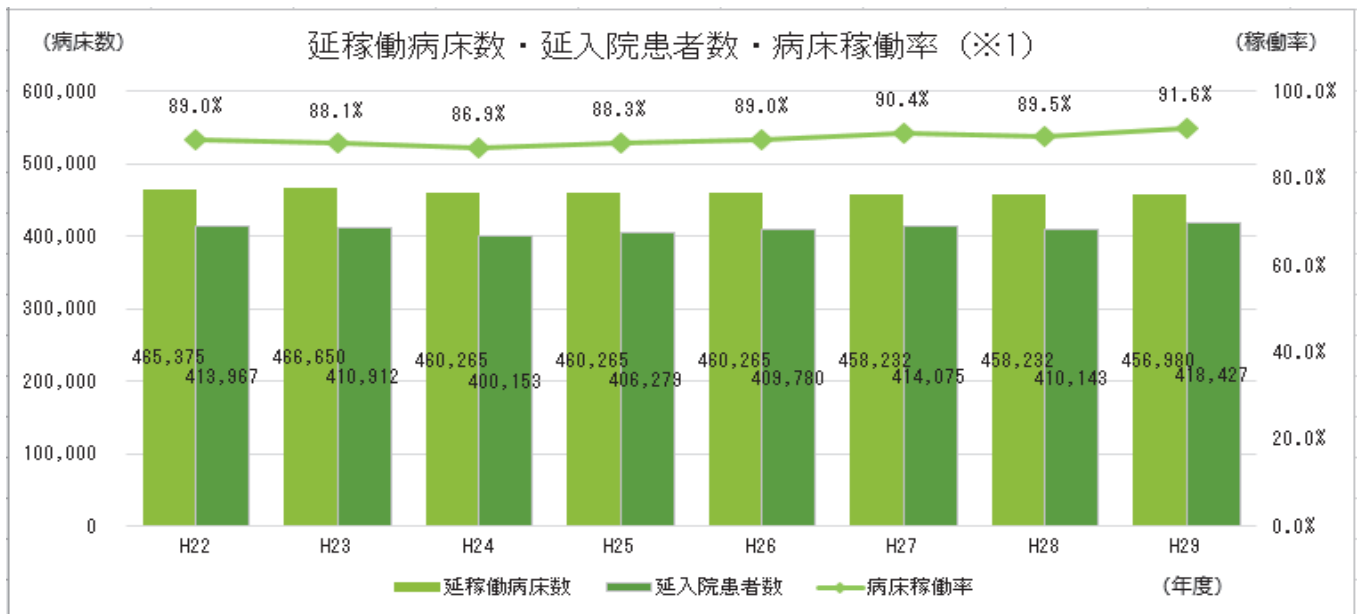
・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。

・常勤換算数（※）＝ 常勤職員の数 ＋ （非常勤職員の勤務時間 ÷ 常勤職員が勤務すべき時間）

※出典：病院資料（診療組織）調査票より（※別府病院を含まない）

## 12-3. 病床稼働率

### ◆九州大学◆

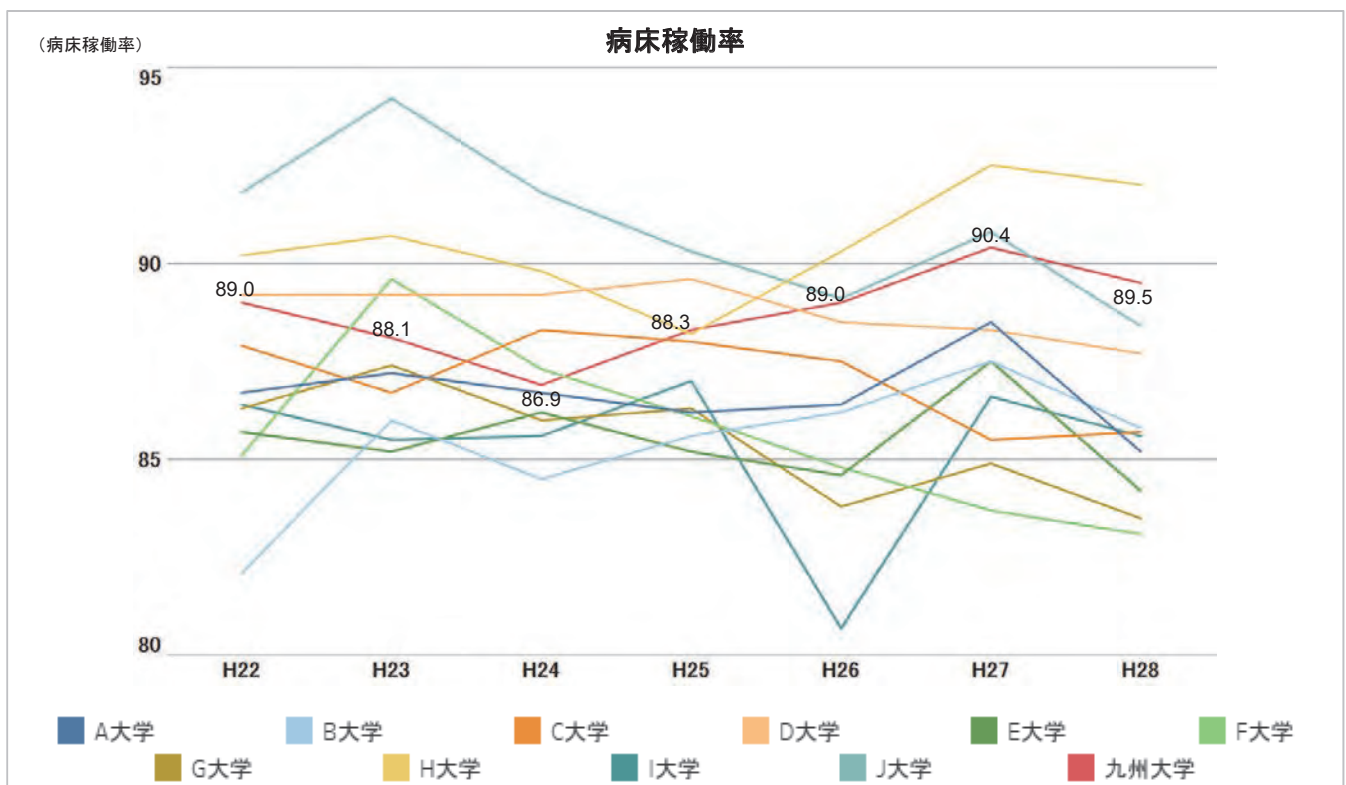


(※1) 病床稼働率=延入院患者数/延稼働病床数\*100

・病床稼働率とは、病院の病床(ベッド)がどの程度効率的に稼働しているかを示す指標である。100%に近いほど空き病床が無い状態で利用されていることになり、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。

※出典：病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)

### ◆他大学病院◆



・本院(センターや研究所付属病院は含まない)のみの比較。

・全国の国立大学のうち、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校のうちから、附属病院を有する大学間で比較。

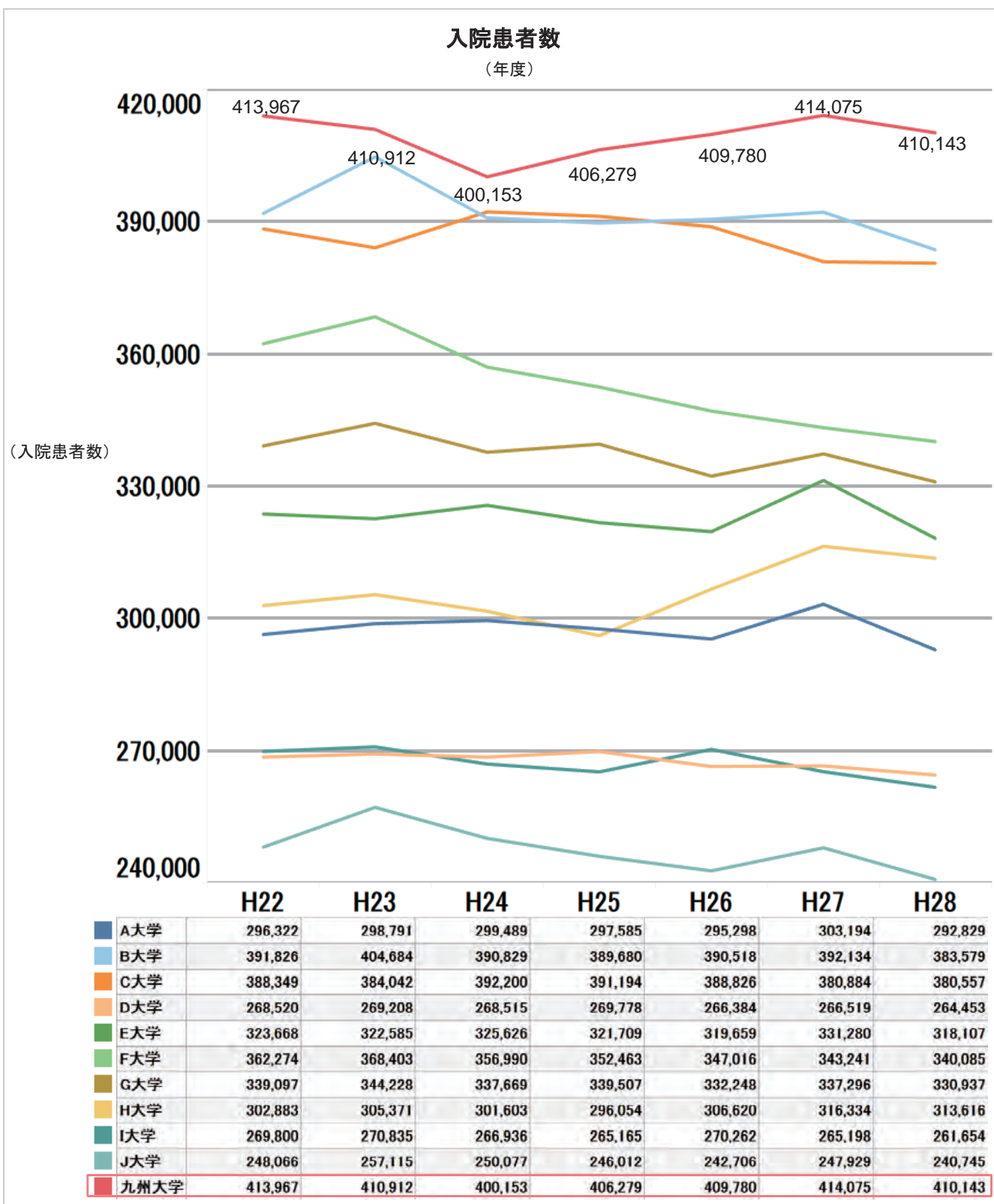
出典：病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)



## 12-4. 患者数と手術件数の推移

### 12-4-1. 患者数と手術件数の推移(入院患者数)

◆九州大学・他大学病院◆

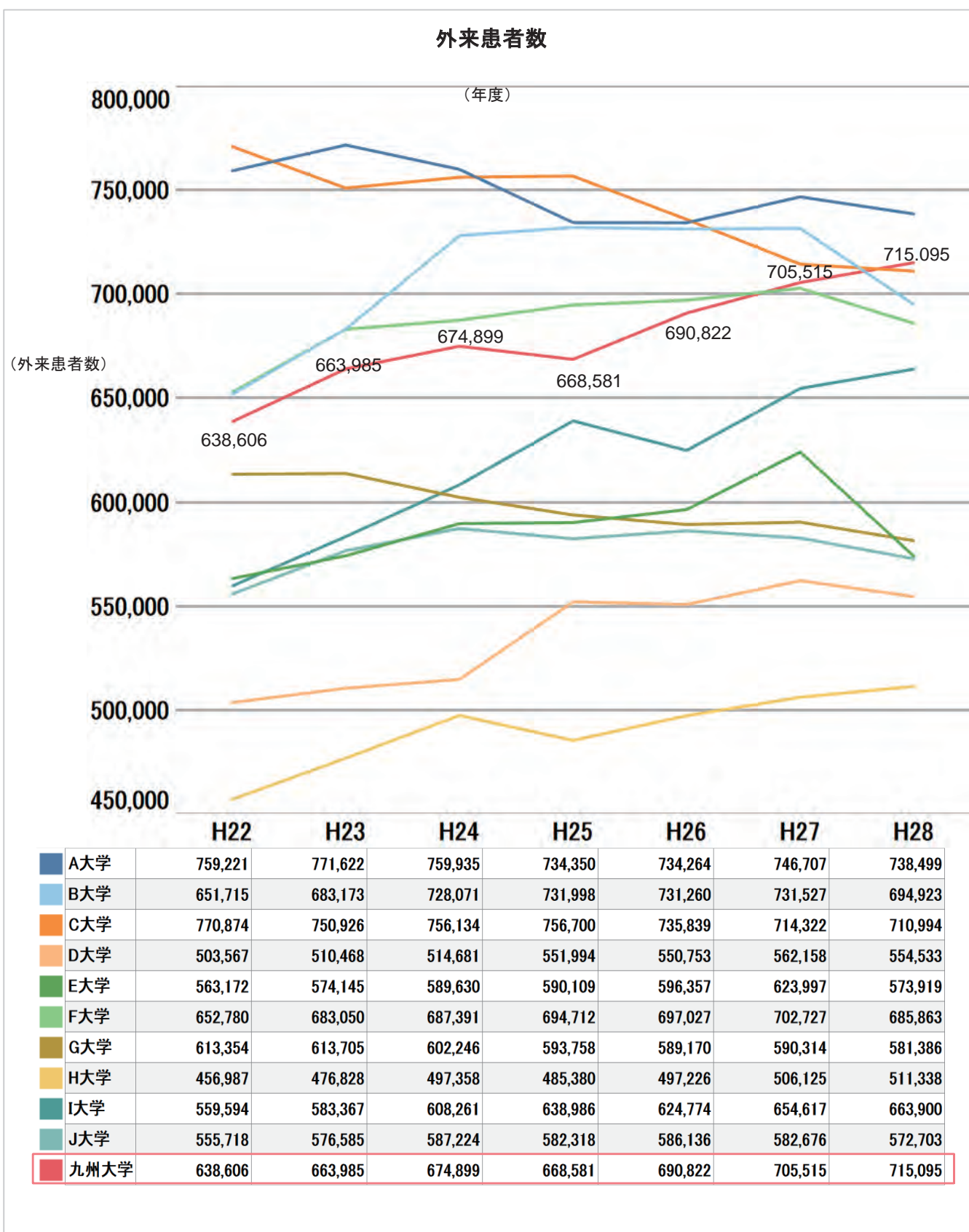


・本院(センターや研究所付属病院は含まない)のみの比較。  
 ・全国の国立大学のうち、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校のうちから、附属病院を有する大学間で比較。

出典:本院 病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)  
 他院 国立大学病院資料 診療データ(H22~28年度)

## 12-4-2. 患者数と手術件数の推移(外来患者数)

◆九州大学・他大学病院◆

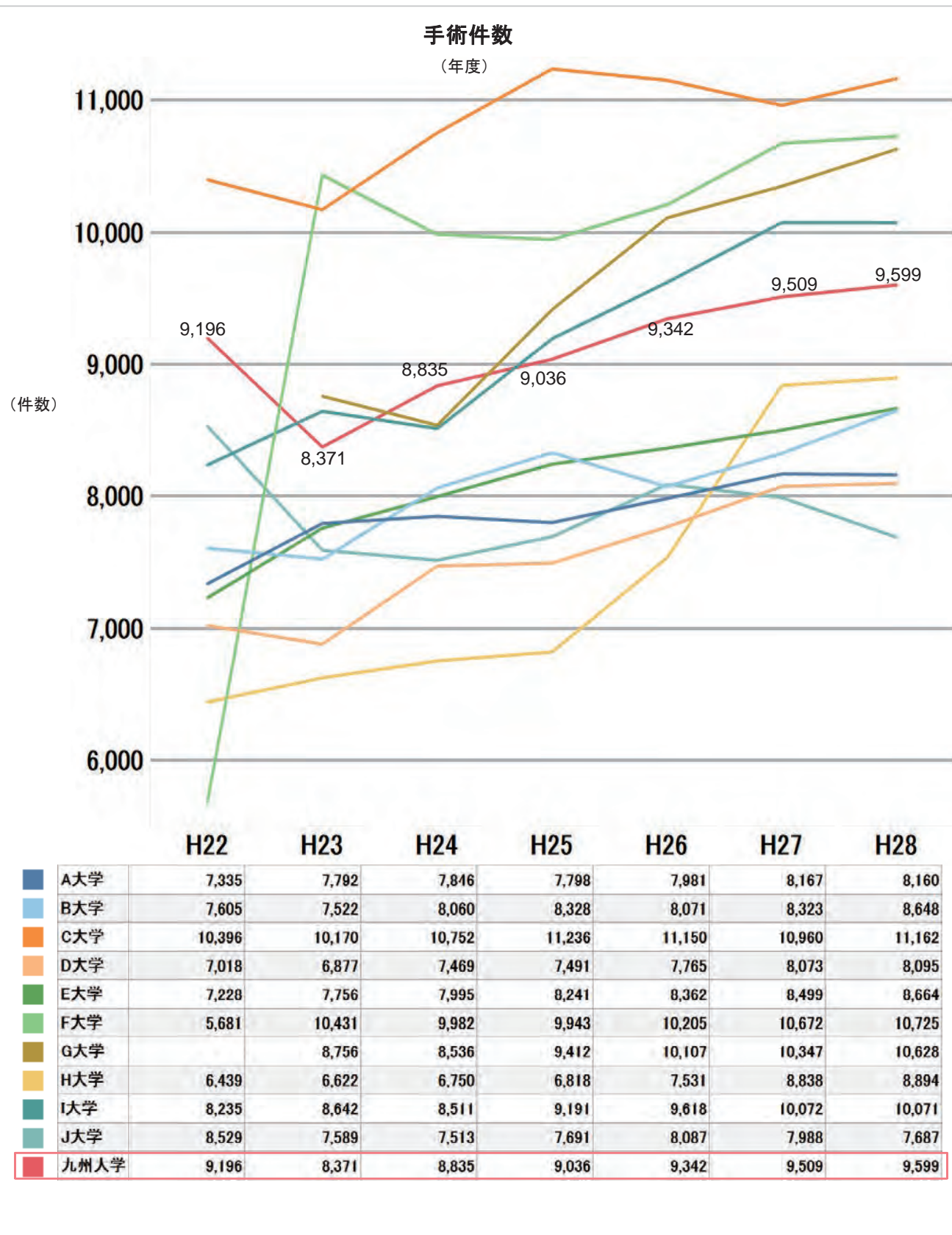


・本院(センターや研究所付属病院は含まない)のみの比較。  
 ・全国の国立大学のうち、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校のうちから、附属病院を有する大学間で比較。

出典: 本院 病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)  
 他院 国立大学病院資料 診療データ(H22~28年度)

### 12-4-3. 患者数と手術件数の推移(手術件数)

◆九州大学・他大学病院◆

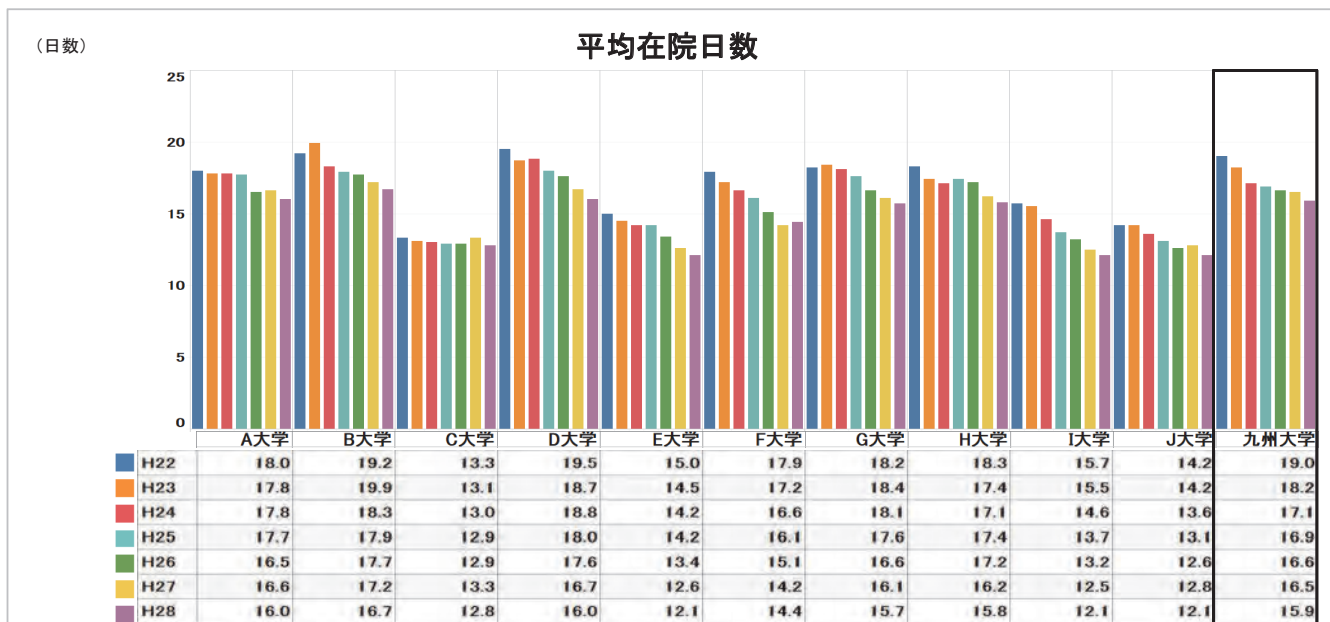


・本院(センターや研究所付属病院は含まない)のみの比較。  
 ・全国の国立大学のうち、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校のうちから、附属病院を有する大学間で比較。

出典: 本院 病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)  
 他院 国立大学病院資料 診療データ(H22~28年度)

## 12-5. 平均在院日数の推移

### ◆九州大学・他大学病院◆

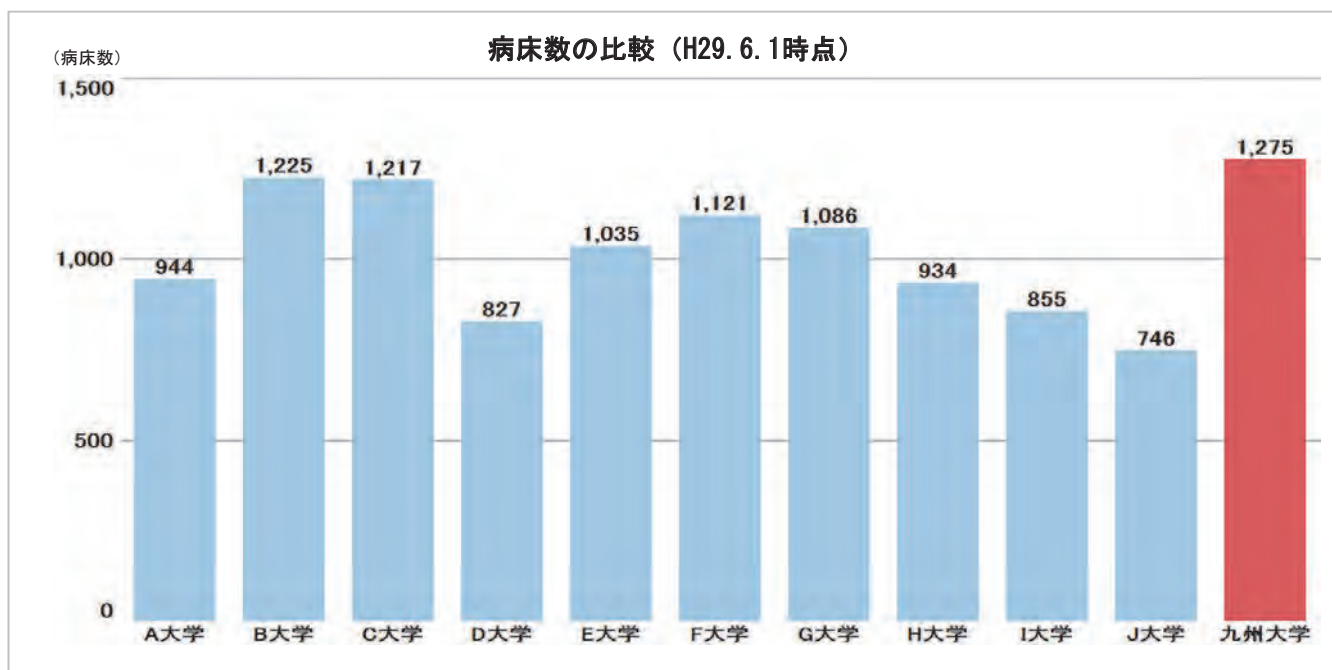


- ・本院(センターや研究所付属病院は含まない)のみの比較。
- ・全国の国立大学のうち、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校のうちから、附属病院を有する大学間で比較。
- ・平均在院日数とは、病院全体で一人一人の患者が何日間入院しているかを示す指標である。質の保証と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるため、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。患者の重症度や疾病により入院日数は異なるため、単純比較できないことに留意。

出典:本院 病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)  
 他院 国立大学病院資料 診療データ(H22~28年度)

## 12-6. 病床数の比較

### ◆九州大学・他大学病院◆



- ・本院(センターや研究所付属病院は含まない)のみの比較。
- ・全国の国立大学のうち、学部入学定員の上位10校と大学院入学定員の多い上位10校のうちから、附属病院を有する大学間で比較。

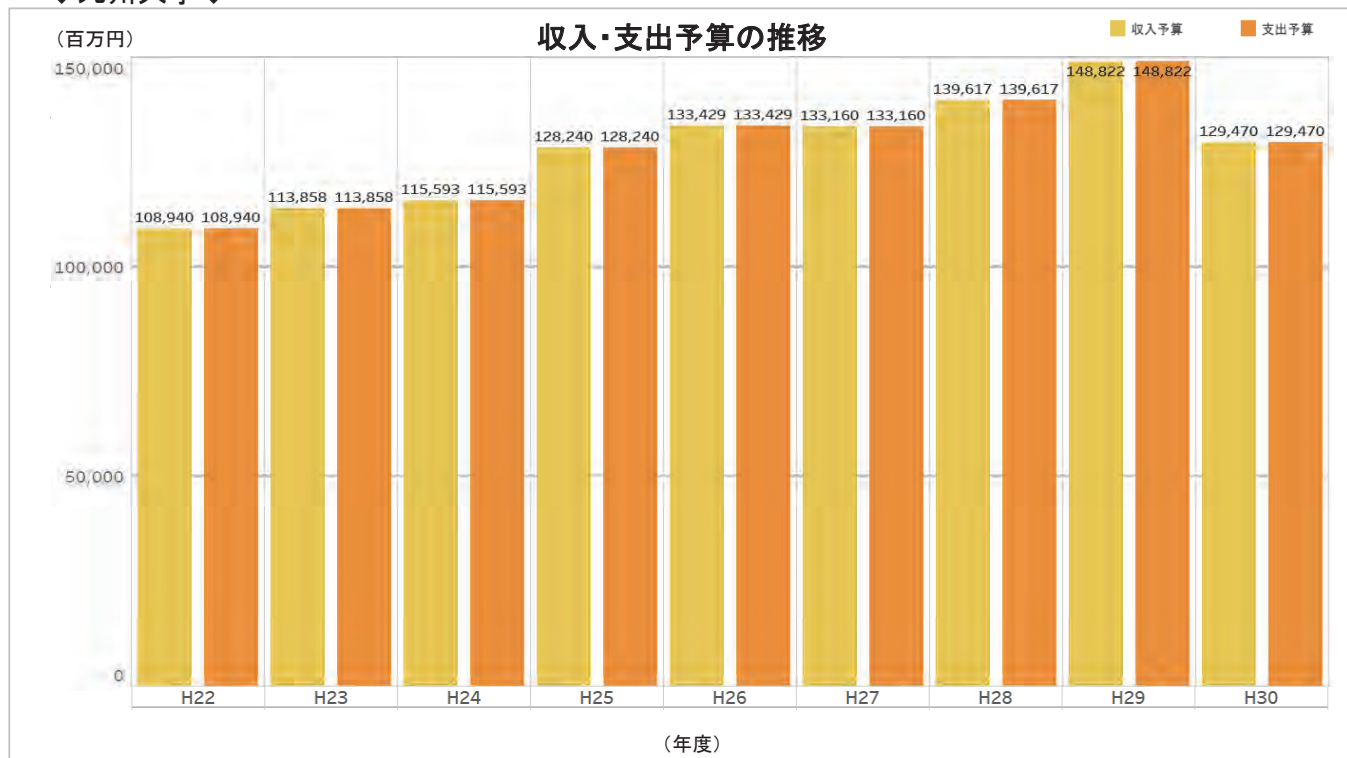
出典:本院 病院資料(診療組織)調査票より(※別府病院を含まない)  
 他院 国立大学病院資料 診療データ(H22~28年度)

# 13. 収入・支出

## 13-1. 収入・支出予算

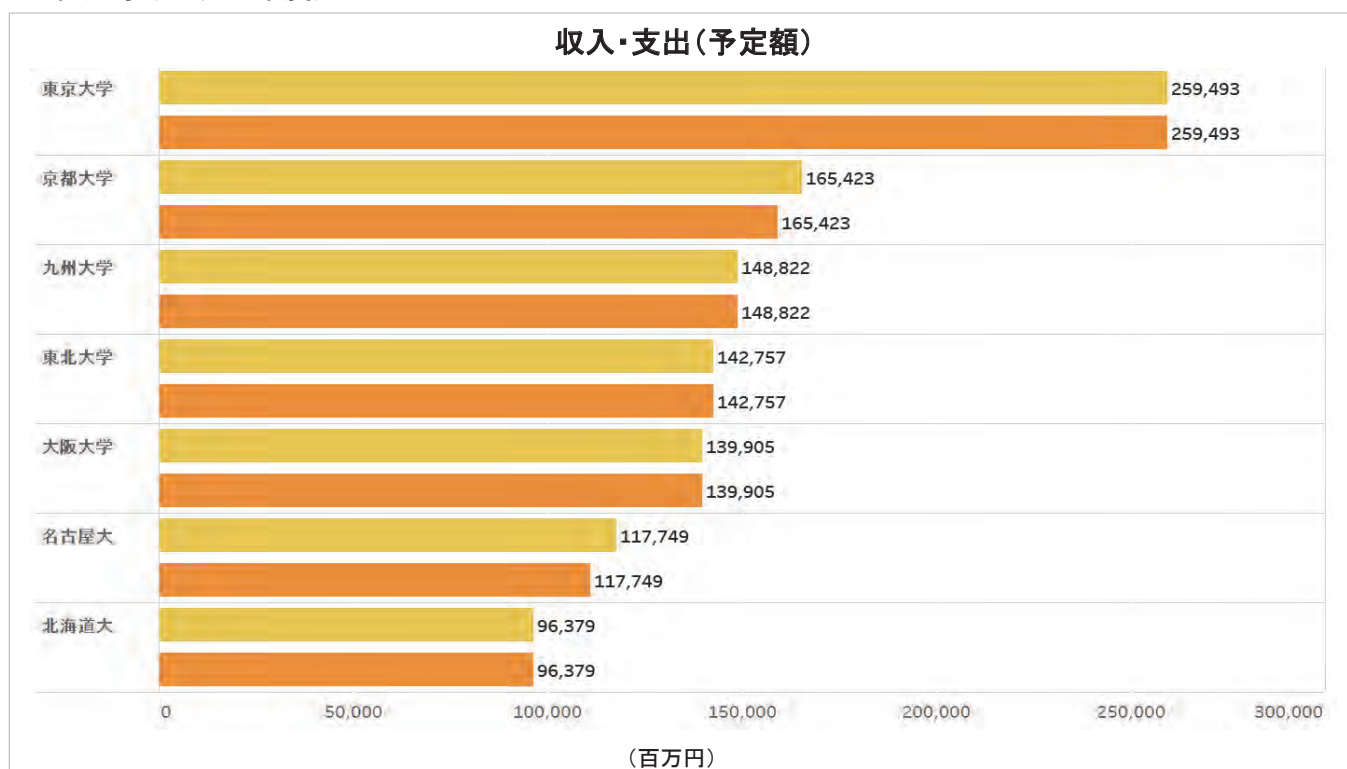
収入及び支出予算額は、キャンパス移転の進捗に伴い増加傾向にあるが、H30年度は長期借入金収入が減少した。

### ◆九州大学◆



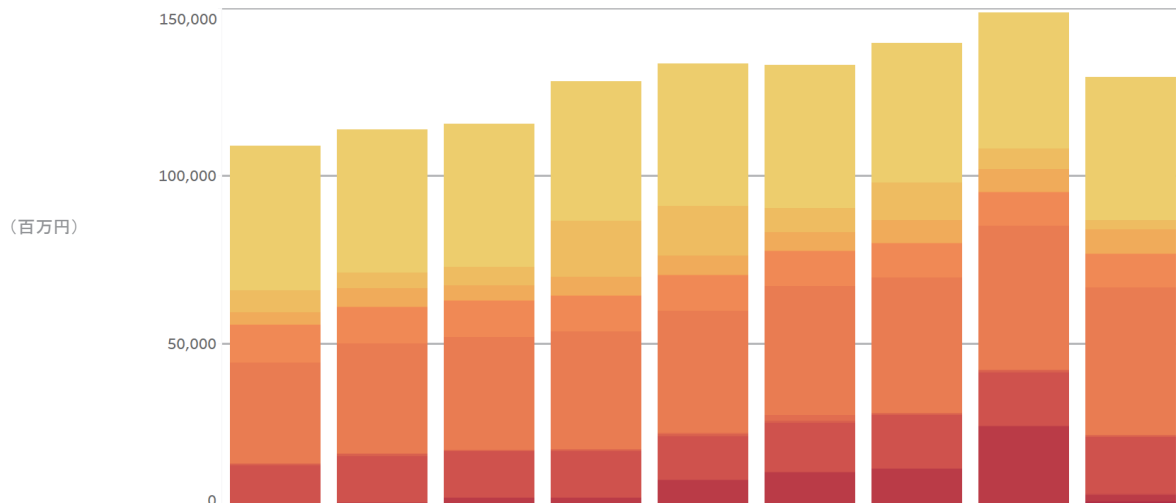
※出典:九州大学概要

### ◆他大学(平成29年度)◆



※出典:各大学 大学概要(2017年度)

## 13-2. 収入予算額の推移

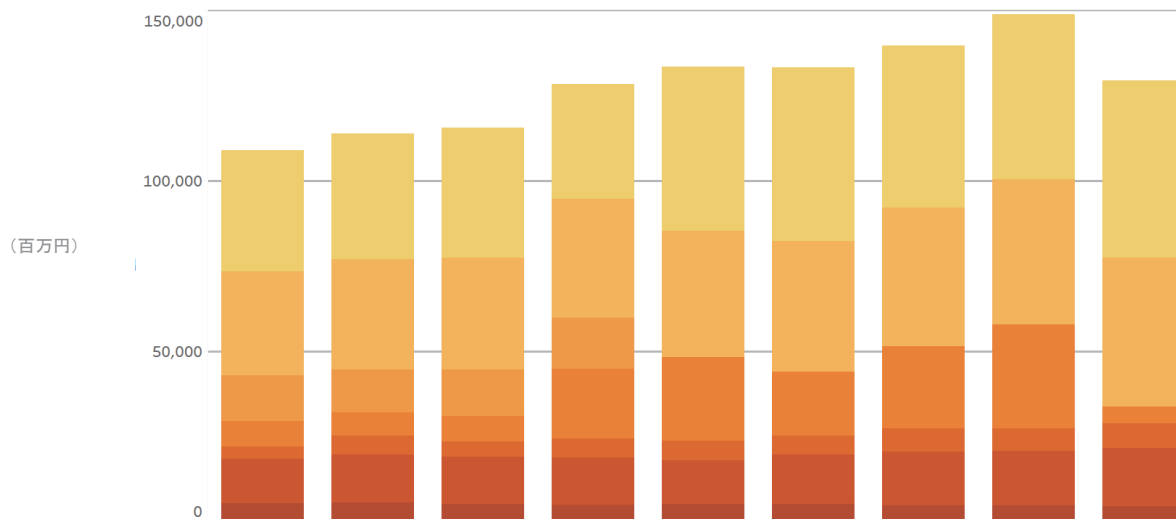


	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
運営費交付金	43,146	42,863	42,847	41,755	42,537	42,915	41,666	40,705	42,733
施設整備費補助金	6,543	4,504	5,377	16,756	14,769	7,173	11,224	6,101	2,810
補助金等収入	3,591	5,562	4,566	5,507	5,719	5,446	6,776	6,729	7,176
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金※	137	107	107	107	107	107	107	73	73
自己収入(授業料及び入学検定料収入)	11,333	10,856	10,846	10,672	10,566	10,548	10,320	10,246	9,982
自己収入(附属病院収入)	30,050	32,869	33,596	35,015	36,508	38,430	40,229	42,850	43,986
自己収入(財産処分収入)	17	259	4	100	437	1,767	20	209	12
自己収入(雑収入)	494	524	524	552	511	640	662	660	736
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	12,971	13,870	13,727	13,798	12,895	14,530	15,849	15,938	16,979
引当金取崩			179	160	166	149	161	191	222
長期借入金収入	658	2,344	1,959	3,378	9,123	9,692	12,602	24,075	1,907
目的積立金取崩		100	1,861	440	101	1,758		1,045	2,850
合計	108,940	113,858	115,593	128,240	133,429	133,155	139,616	148,822	129,470

・平成28年度より「国立大学財務・経営センター」は「大学改革支援・学位授与機構」へ名称変更

・百万円未満は切り捨てのため、合計額は不一致

## 13-3. 支出予算額の推移

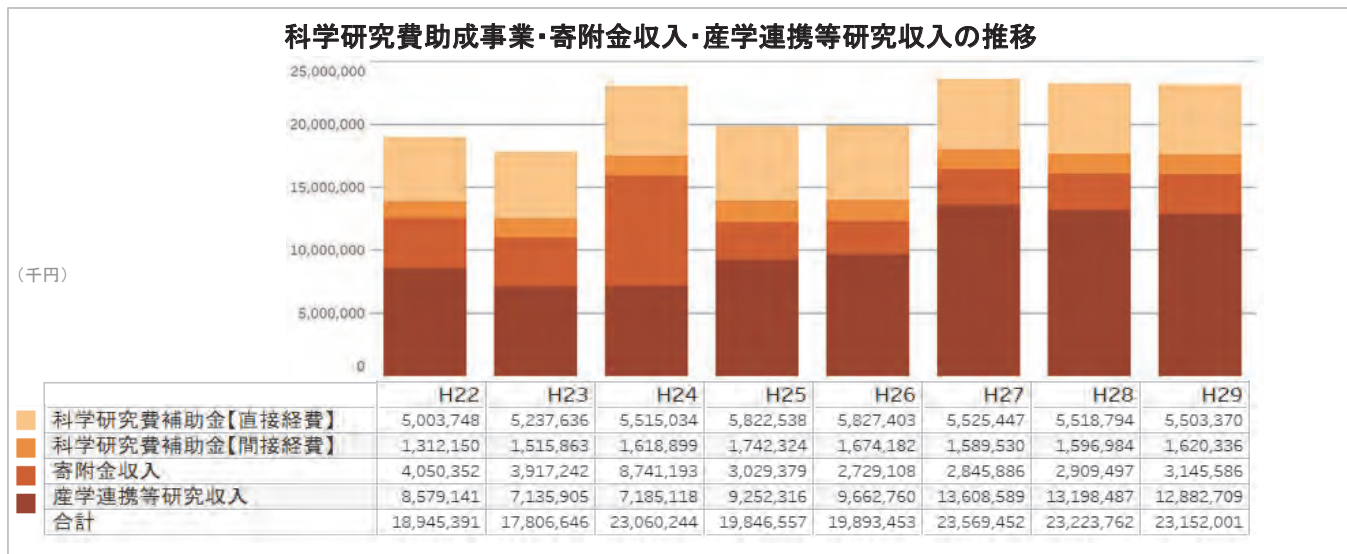


	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
業務費(教育研究費)	35,395	36,440	37,828	33,181	47,729	50,505	47,259	48,132	51,798
業務費(診療経費)	30,492	32,692	32,961	35,142	37,171	38,464	40,729	42,745	43,762
一般管理費	13,368	12,333	13,565	14,920					
施設整備費	7,338	6,955	7,443	20,341	24,436	18,739	23,933	30,249	4,791
補助金等	3,591	5,562	4,566	5,507	5,719	5,446	6,776	6,729	7,176
産学連携等研究費及び寄附金事業費等	12,971	13,870	13,727	13,798	12,895	14,530	15,849	15,938	16,979
長期借入金償還金	5,770	5,870	5,501	5,351	5,479	5,472	5,070	5,029	4,962
国立大学財務・経営センター施設納付金	15	136	2						
合計	108,940	113,858	115,593	128,240	133,429	133,156	139,616	148,822	129,470

・百万円未満は切り捨てのため、合計額は不一致

※出典:九州大学概要

## 13-4. 科学研究費助成事業・寄附金収入・産学連携等研究収入の推移

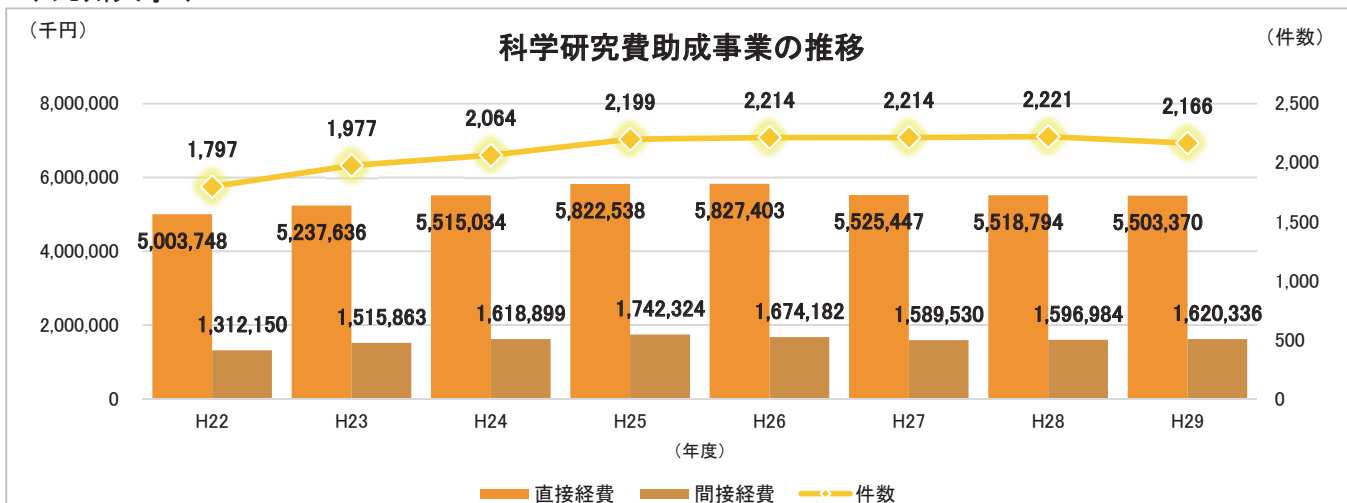


※出典：九州大学概要

## 13-5. 科学研究費助成事業

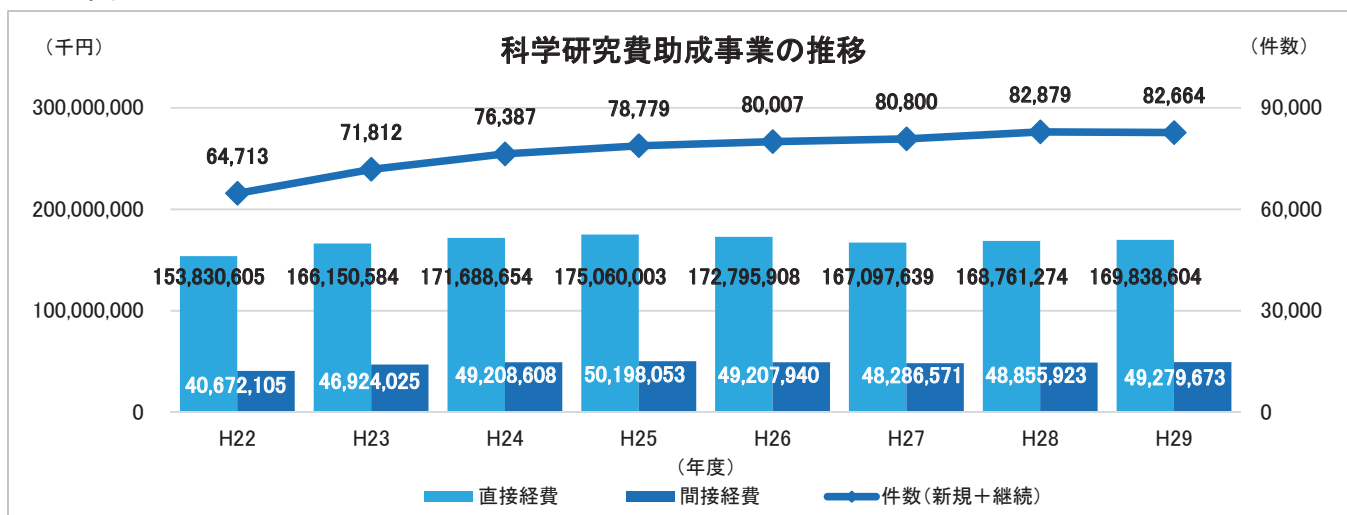
### 13-5-1. 科学研究費助成事業の推移

◆九州大学◆



※出典：九州大学概要

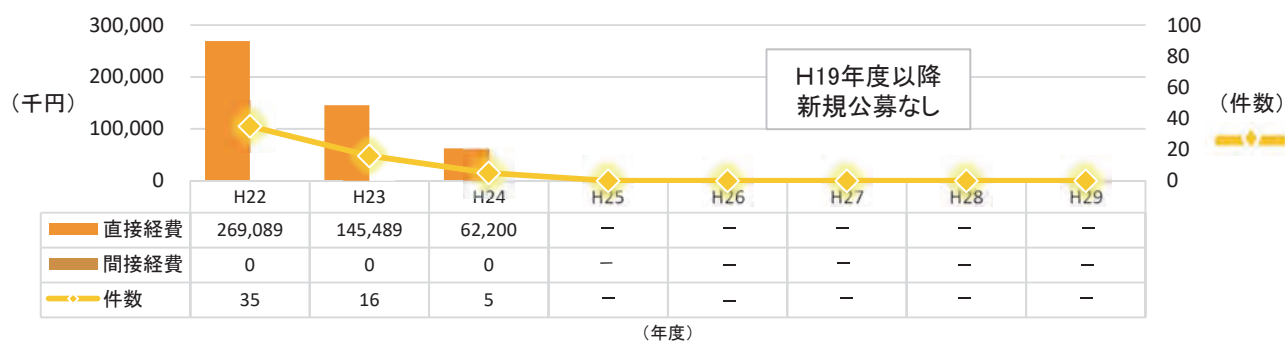
◆全国◆



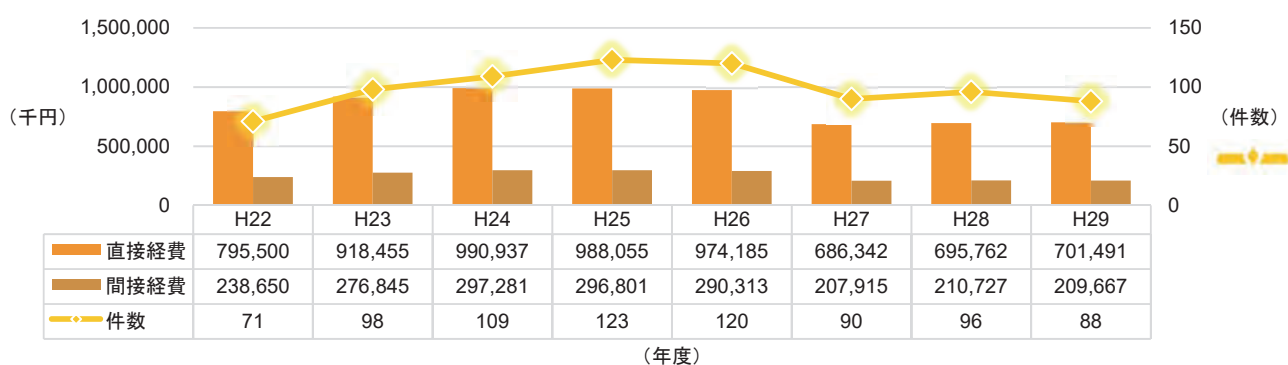
※出典：日本学術振興会 科研費データ「科研費の配分状況」(各年度)

## 13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)

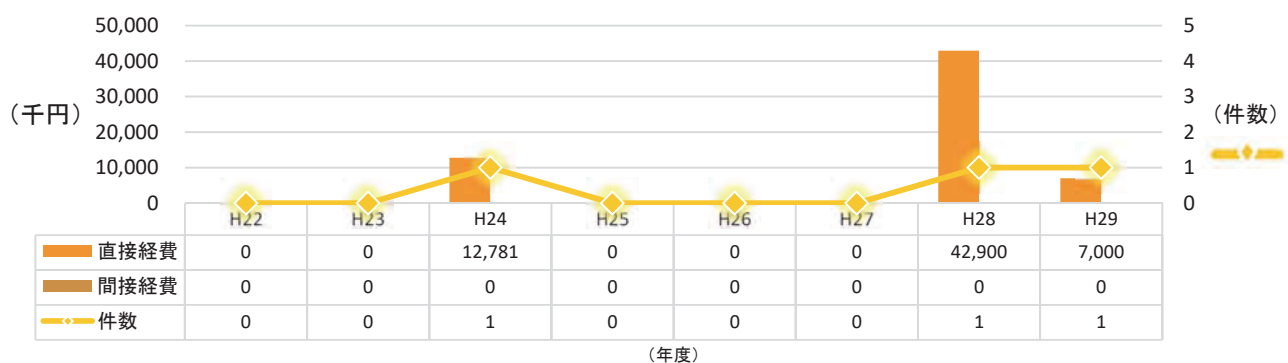
### 特定領域研究



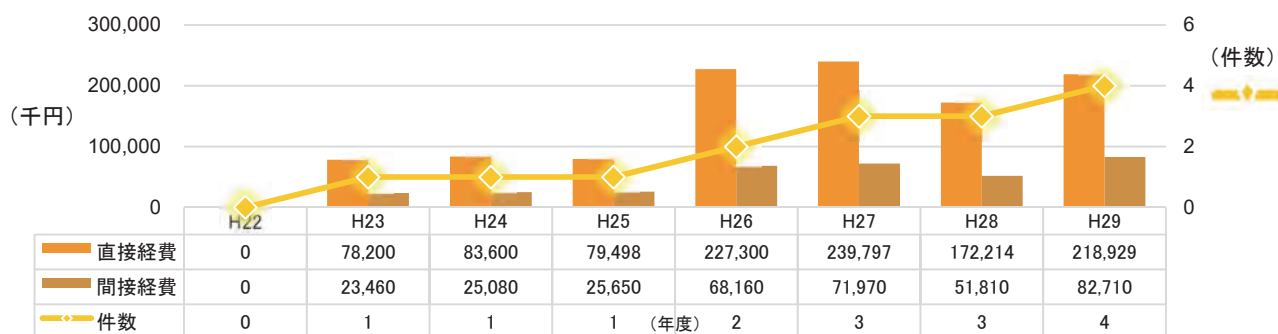
### 新学術領域研究



### 特別研究促進費



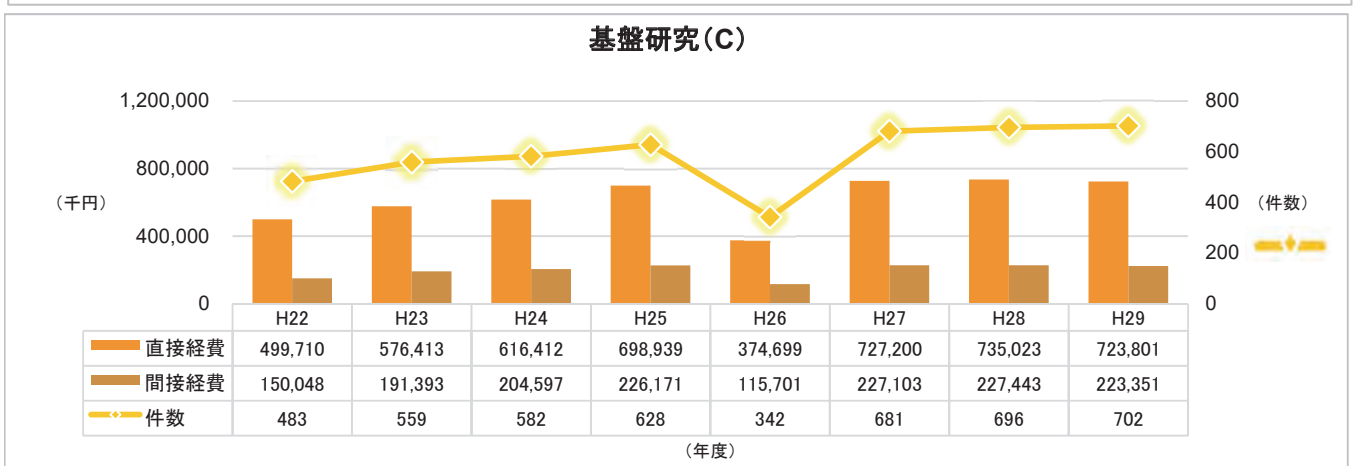
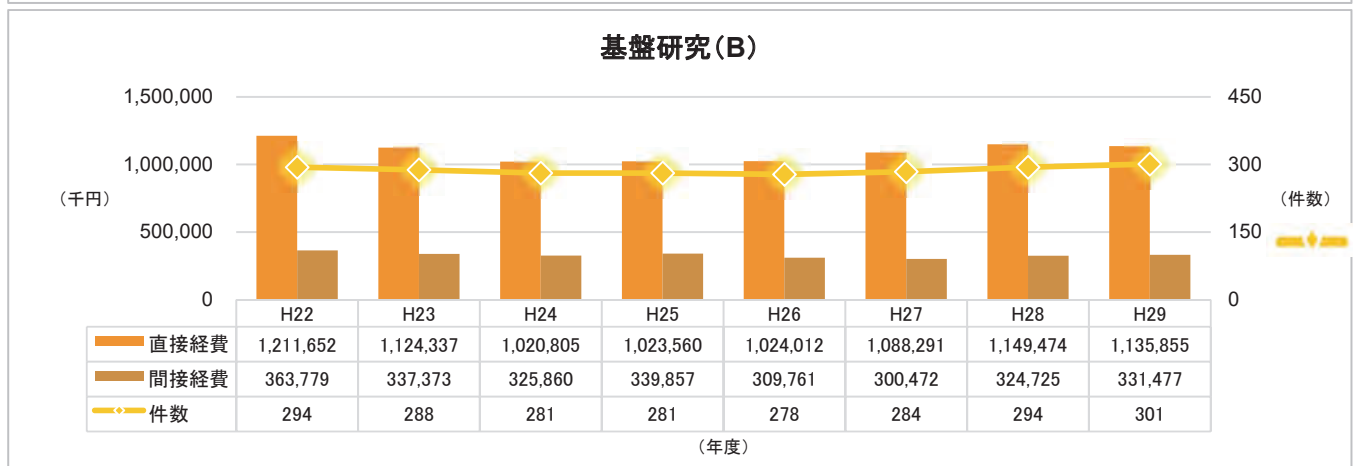
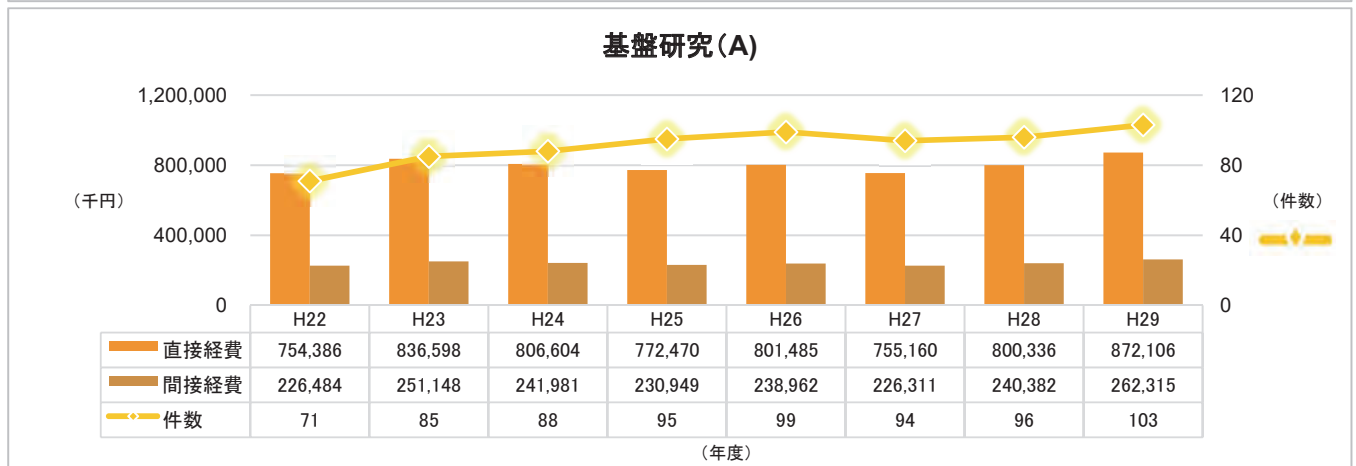
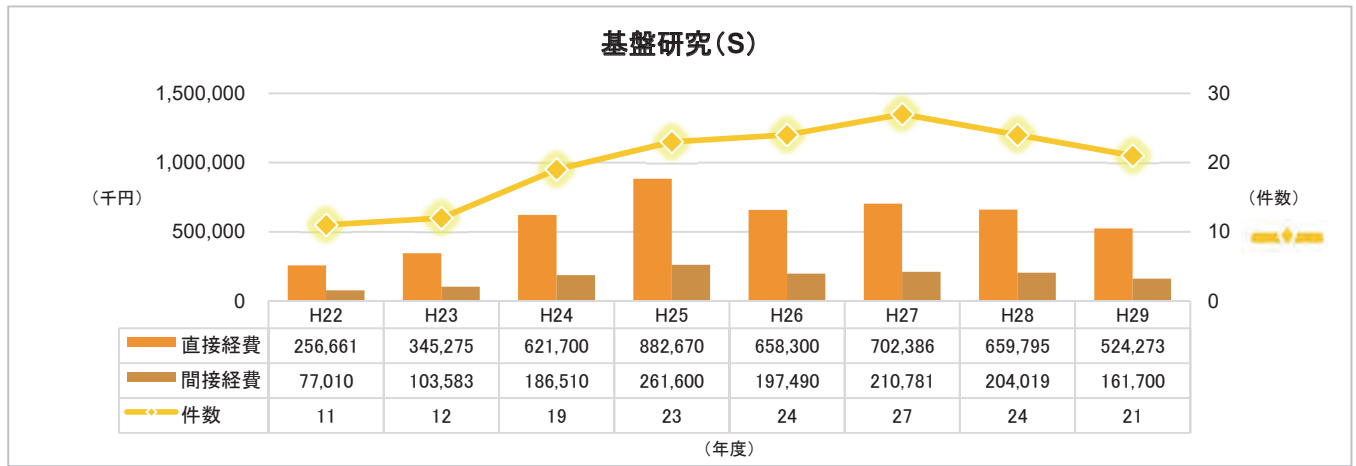
### 特別推進研究



※出典:九州大学概要



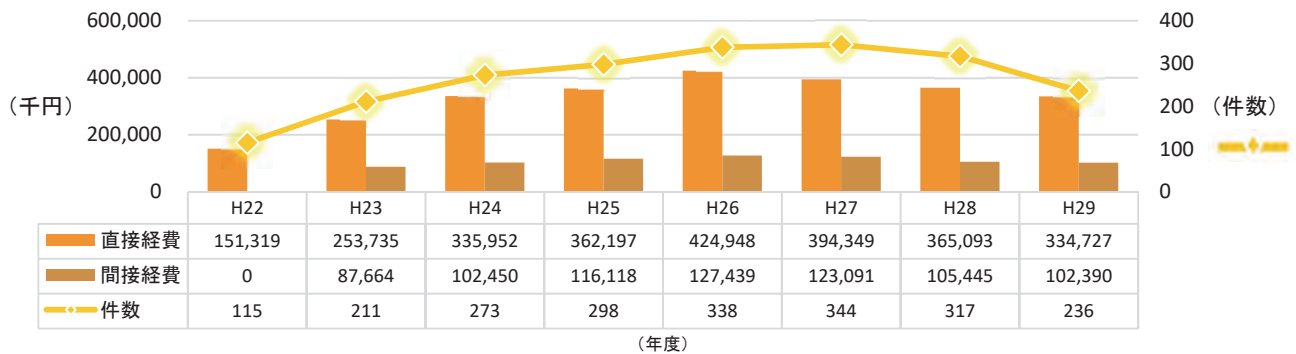
13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



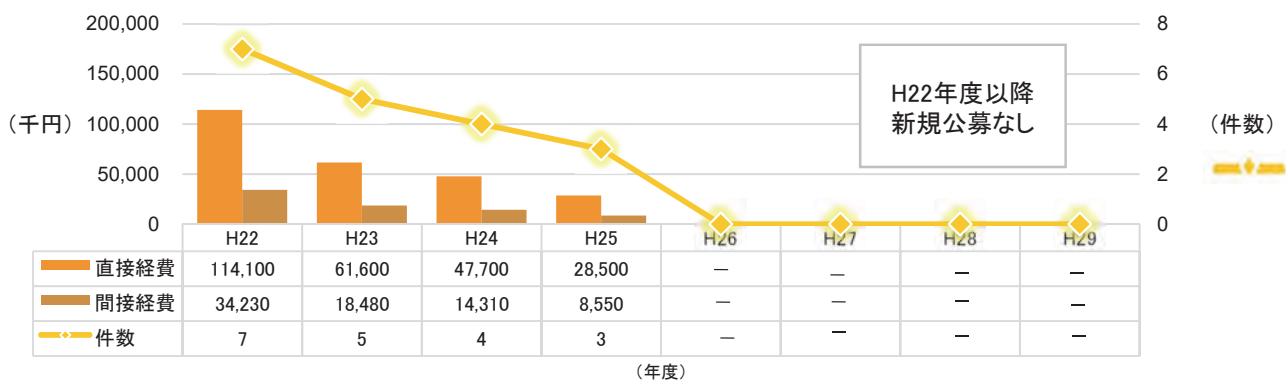
※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)

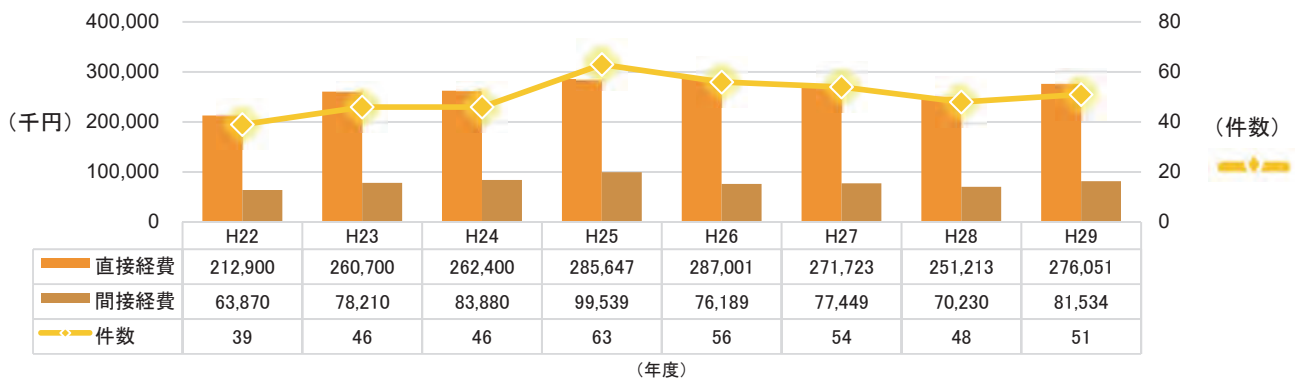
挑戦的萌芽研究



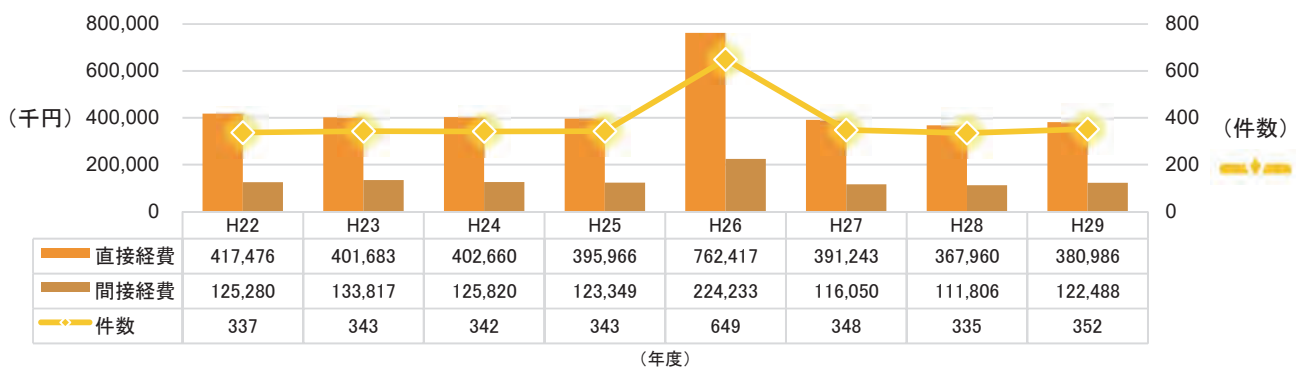
若手研究(S)



若手研究(A)

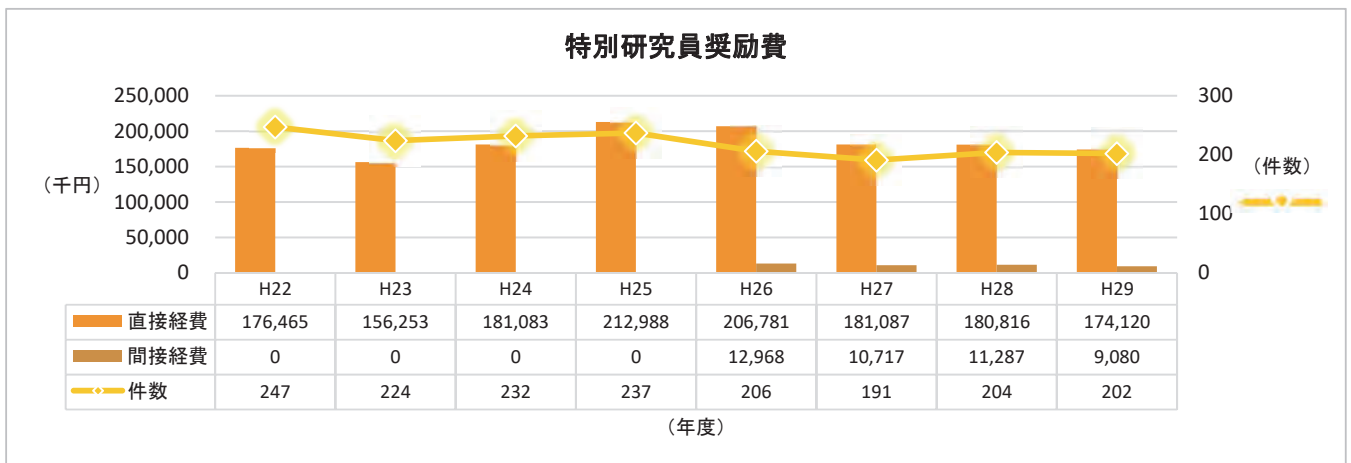
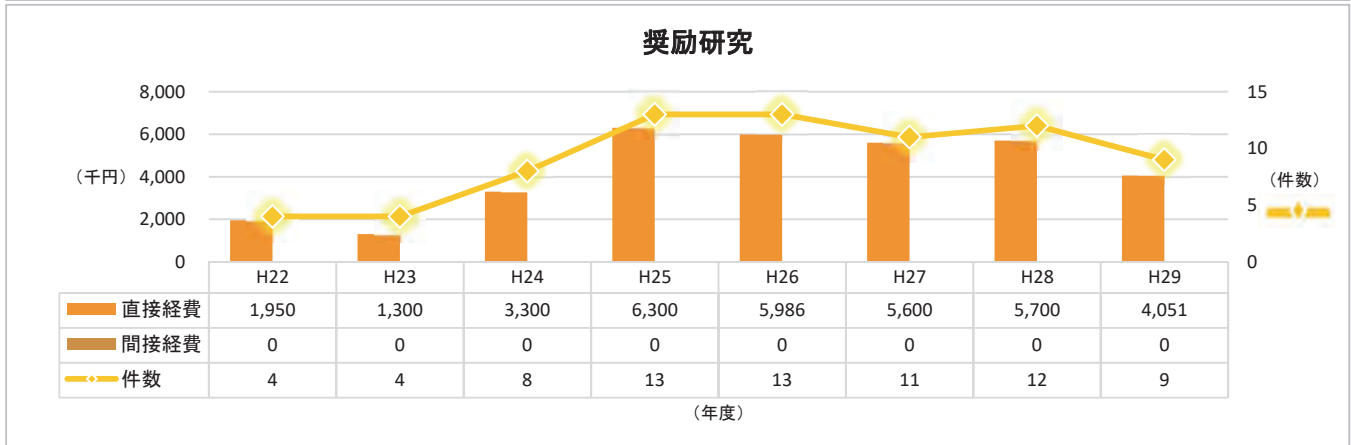
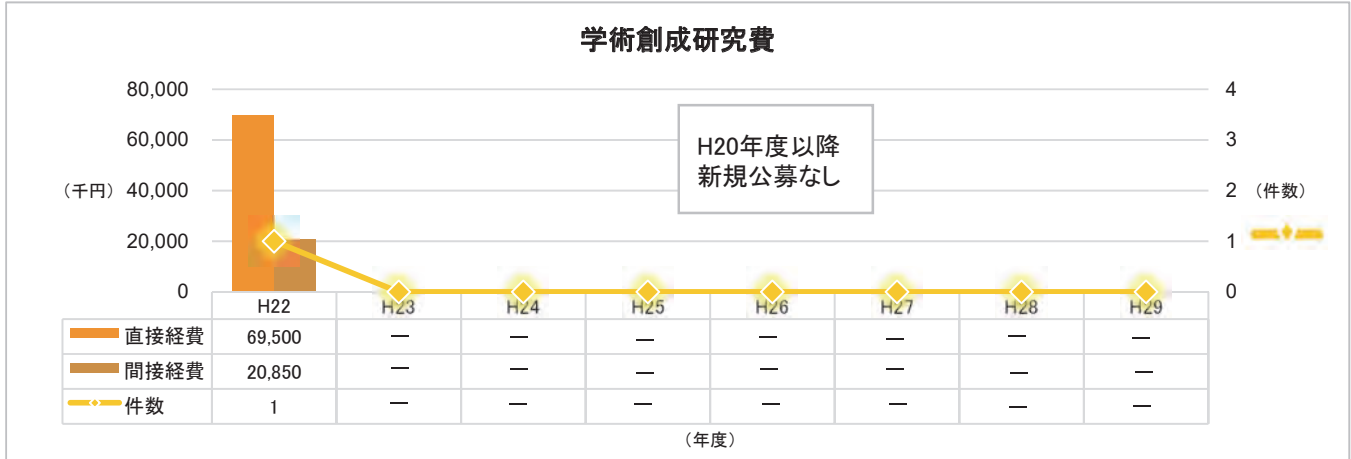
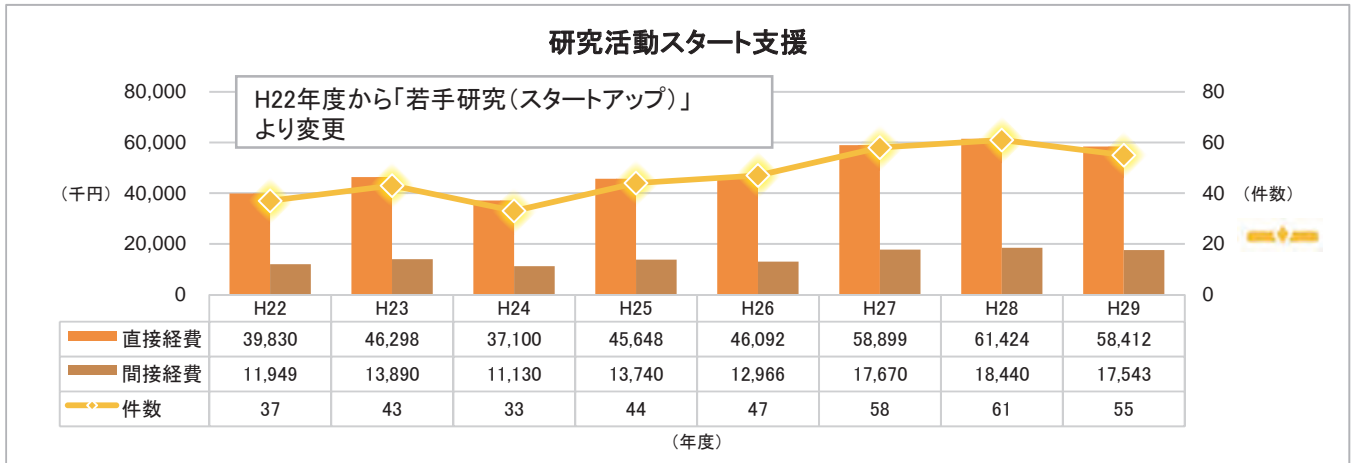


若手研究(B)



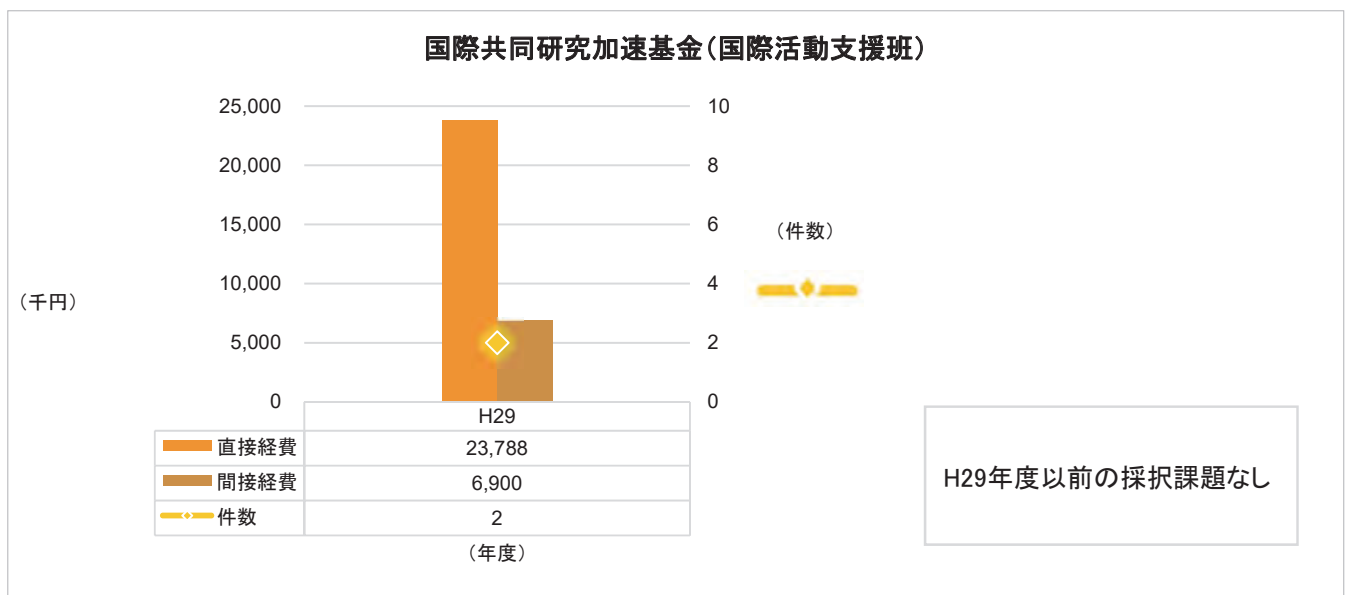
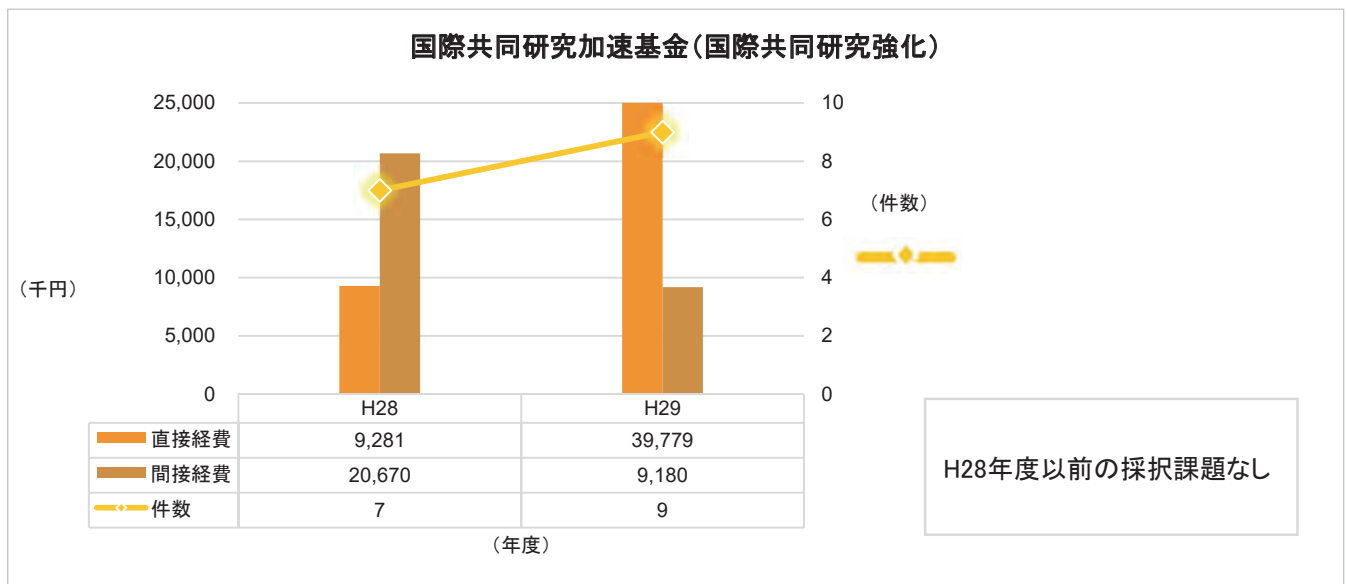
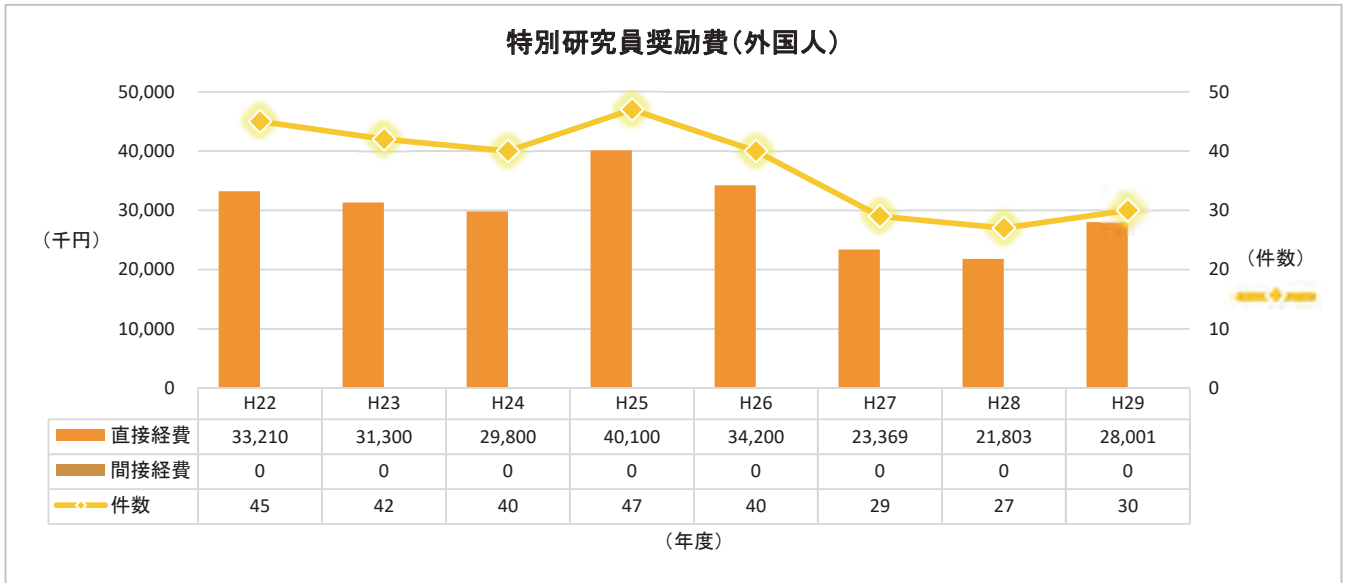
※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



※出典:九州大学概要

### 13-5-3. 科学研究費助成事業の比較(各大学)

平成29年度科学研究費採択について、採択機関1,300機関中、採択件数の多い10機関で、各項目の順位付けを行った。

#### ◆新規+継続◆

【採択件数】

順位	機関名	件数
1	東京大	3,787
2	京都大	2,948
3	大阪大	2,511
4	東北大	2,428
5	九州大	1,908
6	名古屋大	1,773
7	北海道大	1,649
8	筑波大	1,248
9	神戸大	1,145
10	広島大	1,105

【女性比率】

順位	機関名	比率(%)
1	筑波大	20.1%
2	広島大	17.2%
3	神戸大	16.1%
4	名古屋大	15.2%
5	北海道大	15.0%
6	東京大	14.0%
7	九州大	13.9%
8	大阪大	13.3%
9	東北大	12.9%
10	京都大	12.1%

【若手比率】

順位	機関名	比率(%)
1	東京大	36.9%
2	東北大	32.8%
3	大阪大	32.6%
4	九州大	30.5%
5	北海道大	30.0%
6	京都大	29.5%
7	名古屋大	28.7%
8	神戸大	27.0%
9	筑波大	26.1%
10	広島大	25.5%

【配分額】

順位	機関名	配分額 (千円)	間接経費 (千円)	合計 (千円)
1	東京大	16,853,926	5,056,178	21,910,104
2	京都大	10,377,850	3,113,355	13,491,205
3	大阪大	8,260,295	2,478,089	10,738,384
4	東北大	7,536,750	2,261,025	9,797,775
5	名古屋大	5,674,900	1,702,470	7,377,370
6	九州大	5,620,634	1,686,190	7,306,824
7	北海道大	4,757,400	1,427,220	6,184,620
8	筑波大	3,170,445	951,134	4,121,579
9	神戸大	2,332,900	699,870	3,032,770
10	広島大	2,042,654	612,796	2,655,450

#### ◆新規◆

【採択件数】

順位	機関名	新規件数
1	東京大	1,301
2	京都大	982
3	東北大	847
4	大阪大	845
5	九州大	674
6	名古屋大	586
7	北海道大	563
8	筑波大	409
9	広島大	407
10	神戸大	373

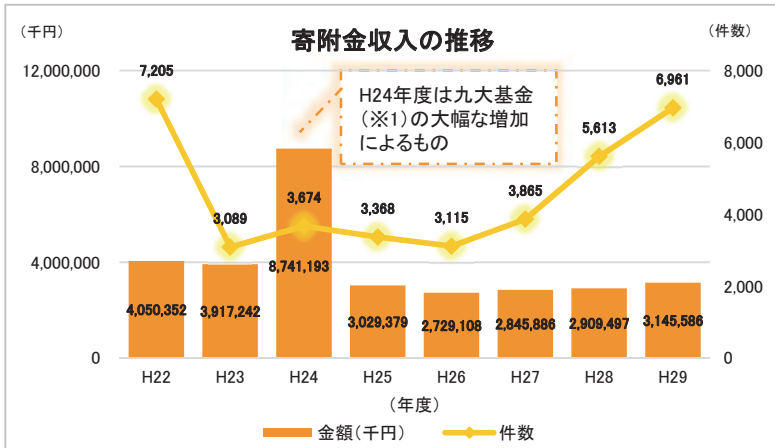
【新規採択率】

順位	機関名	新規採択率(%)
1	東京大	35.4%
2	京都大	34.7%
3	名古屋大	31.7%
4	大阪大	30.4%
5	東北大	29.8%
6	広島大	28.9%
7	北海道大	28.5%
7	筑波大	28.5%
9	九州大	28.2%
10	神戸大	28.0%

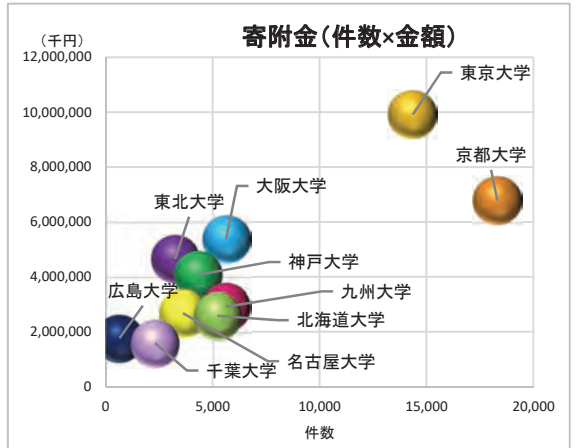
※出典：日本学術振興会HP 研究機関別採択件数・配分額一覧より

## 13-6. 寄附金収入の推移

### ◆九州大学◆



### ◆他大学(平成28年度)◆



#### (※1)九大基金

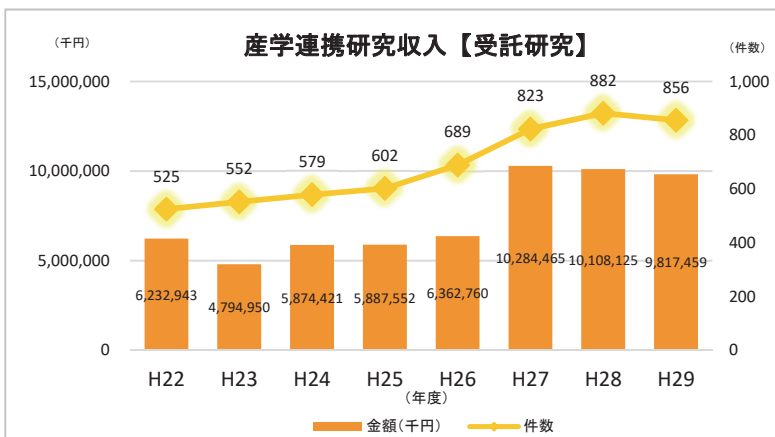
百周年記念事業募金でご寄附いただいたご厚志を柱として創設したものです。本基金は、九州大学が、世界そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、本学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的としています。

九大基金HP: <http://kikin.kyushu-u.ac.jp/index.php>

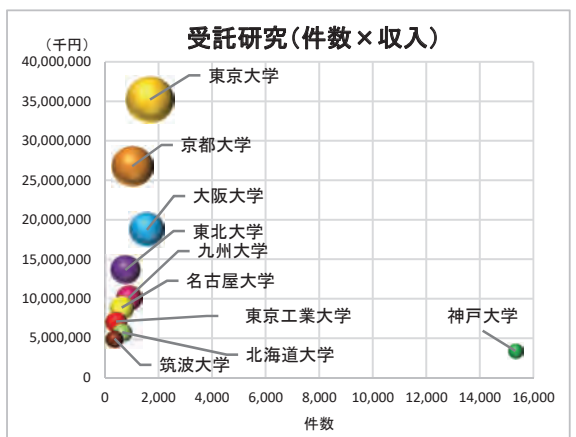
## 13-7. 産学連携研究収入の推移

### 13-7-1. 産学連携研究収入の推移(受託研究)

#### ◆九州大学◆

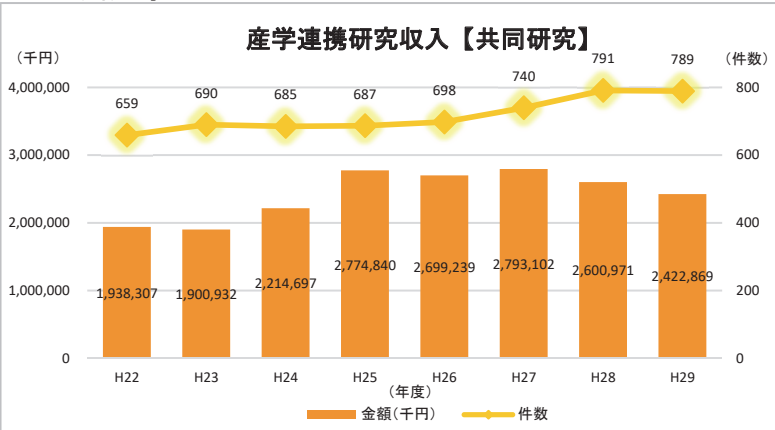


#### ◆他大学(平成28年度)◆

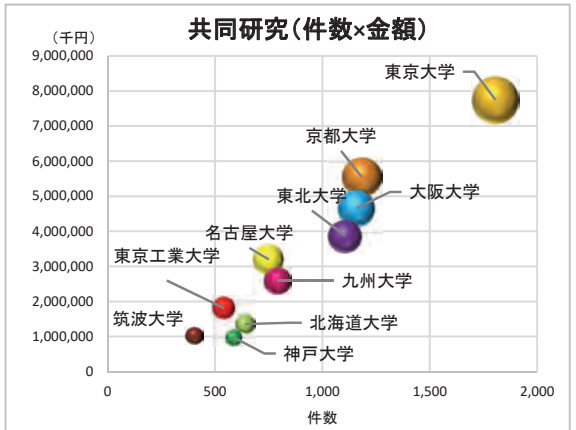


### 13-7-2. 産学連携研究収入の推移(共同研究)

#### ◆九州大学◆



#### ◆他大学(平成28年度)◆



・学部入学定員数上位10校と大学院入学定員数上位10校を「14大」と定義し、14大学間での順位付けを行い、うち上位10校で比較を行った。  
 「14大」...北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

※出典

・本学:九州大学概要 ・他大学:各大学 大学概要(2017)

# 14. 研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

## 14-1. 研究プログラム採択状況

### 【平成22年度新規採択分】

#### ■世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)

拠点名	拠点長	期間(予定)
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所	PETROS SOFRONIS	平成22年度～平成31年度

#### ■科学技術システム改革事業(旧科学技術振興調整費事業)によるプログラム

プログラム名	課題名	総括責任者	期間
戦略的環境リーダー育成拠点形成	「東アジア環境ストラテジスト育成プログラム」	総長 有川 節夫	平成22年度～平成26年度
健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム	「迷走神経刺激による心不全治療の最適化」	総長 有川 節夫	平成22年度～平成26年度
国際共同研究の推進	「革新的褐炭・バイオマス改質技術の科学基盤」	先導物質化学研究所教授 林 潤一郎	平成22年度～平成24年度

#### ■最先端・次世代研究開発支援プログラム

プログラム名	総括責任者	期間
グラフェンの成長制御と加工プロセスを通じたカーボンエレクトロニクスへの展開	先導物質化学研究所准教授 吾郷 浩樹	平成22年度～平成25年度
動的共有結合化学的アプローチによる完全自己修復性高分子材料の創製	先導物質化学研究所准教授 大塚 英幸	平成22年度～平成25年度
ジオメテイクスによる環境材料の創成	工学研究院教授 笹木 圭子	平成22年度～平成25年度
数値モデルによる大気エアロゾルの環境負荷に関する評価および予測の高精度化	応用力学研究所准教授 竹村 俊彦	平成22年度～平成25年度
高品質立方晶窒化ホウ素が拓く高温高出力エレクトロニクス	総合理工学研究院准教授 堤井 君元	平成22年度～平成25年度
反応速度の壁を突破する炭素資源の低温迅速ガス化	先導物質化学研究所教授 林 潤一郎	平成22年度～平成25年度
プラズマニック結晶ナノアンテナ構造による革新的なバイオ計測	先導物質化学研究所教授 玉田 薫	平成22年度～平成25年度
スーパー分子プローブを用いた次世代生体分子イメージング	稲盛フロンティア研究センター教授 山東 信介	平成22年度～平成25年度
タンパク質品質管理に関わるジスルフィド結合形成・開裂因子の分子基盤	生体防御医学研究所准教授 稲葉 謙次	平成22年度～平成25年度
ゲノムリプログラミングにおけるクロマチン修飾制御機構の解明	生体防御医学研究所助教 東田 裕一	平成22年度～平成25年度
ミクログリア転写因子IRF8を切り口にした慢性疼痛メカニズムの解明	薬学研究院准教授 津田 誠	平成22年度～平成25年度
癌の再発・転移に関与するnon-coding RNAの同定とその機序解明	大学病院准教授 三森 功士	平成22年度～平成25年度
新たな結核菌受容体を介する生体防御機構の解明と宿主の免疫賦活に向けた新戦略	生体防御医学研究所教授 山崎 晶	平成22年度～平成25年度

### 【平成23年度新規採択分】

#### ■科学技術システム改革事業(旧科学技術振興調整費事業)によるプログラム

プログラム名	総括責任者	期間
テニュアトラック普及・定着事業	総長 久保 千春	平成23年度～平成28年度

### 【平成24年度新規採択分】

#### ■橋渡し研究加速ネットワークプログラム

研究領域	研究総括	期間
創造的次世代医療実現化を担うAROの構築	医学研究院教授 中西 洋一	平成24年度～平成28年度

#### ■研究拠点形成費等補助金(若手研究者養成費)

事業名	実施責任者	期間
卓越した大学院拠点形成費補助金	理事・副学長 藤木 幸夫	平成24年度～平成25年度

#### ■研究支援体制整備事業費補助金

事業名	機構長	期間
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	理事・副学長 藤木 幸夫	平成24年度～平成26年度

※出典:九州大学概要

## 14-1. 研究プログラム採択状況(つづき)

### 【平成25年度新規採択分】

#### ■科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究支援事業(ERATO型研究)

プロジェクト名	研究総括	期間
安達分子エキシトン工学プロジェクト	最先端有機光エレクトロニクス研究センター長 安達 千波矢	平成25年度～平成31年度

#### ■研究大学強化促進費補助金

事業名	総括責任者	期間
研究大学強化促進事業	総長 久保 千春	平成25年度～平成34年度

#### ■革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)

拠点名	総括責任者	期間
共進化社会システム創成拠点:ヒト/モノ・エネルギー・情報のモビリティによる多様で持続的な社会の構築	是久 洋一	平成25年度～平成28年度

### 【平成26年度新規採択分】

プロジェクト名	総括責任者	期間
九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター 特命教授 谷川 徹	平成26年度～平成28年度

### 【平成26年度新規採択分】

#### ■グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)

プログラム名	総括責任者	期間
九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター 特命教授 谷川 徹	平成26年度～平成28年度

### 【平成27年度新規採択分】

#### ■研究支援体制整備事業費補助金

事業名	機構長	期間
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	理事・副学長 若山 正人	平成27年度～平成28年度 (平成24年度～平成26年度)

#### ■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ	総長 久保 千春	平成27年度～平成32年度

### 【平成28年度新規採択分】

#### ■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
卓越研究員事業	総長 久保 千春	平成28年度～平成32年度

### 【平成29年度新規採択分】

#### ■橋渡し研究戦略的推進プログラム

事業課題名	機構長	期間
地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発	医学研究院 教授 中西 洋一	平成29年度～平成33年度

#### ■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT) 多様性と創造的協働に基づくアントレプレナー育成プログラム (IDEA:Innovation x Diversity xEntrepreneurship Education Alliance)	学術研究・産学官連携本部 総括企画調整グループ 教授 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター長 谷口 博文	平成29年度～平成33年度

※出典:九州大学概要



## 14-2. 教育プログラム採択状況

### 【平成22年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
戦略的環境リーダー育成拠点形成	東アジア環境研究機構	東アジア環境ストラテジスト育成プログラム	平成22年度～平成26年度

### 【平成23年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
大学の世界展開力強化事業	総合理工学府	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	平成23年度～平成27年度
チーム医療推進のための大学病院職員の 人材養成システムの確立	病院	先進的チーム医療の推進とその安全性確立	平成23年度～平成27年度
政策立案人材育成等 拠点形成事業費補助事業	科学技術イノベーション政 策教育研究センター	科学技術イノベーション政策における 「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点整 備事業	平成23年度～平成37年度

### 【平成24年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
次世代科学者育成プログラム	理学部	エクセレント・スチューデント・イン・サイエンス育成プ ロジェクト(ESSP)－九州大学理学部次世代科学 者育成プログラム－	平成24年度
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	医学系学府、薬学府	九州がんプロ養成基盤推進プラン	平成24年度～平成28年度
医学部・大学病院の教育研究活性化及び 地域・へき地医療人材の確保	病院	九州大学医学部・大学病院の教育研究活性化及び 地域・へき地医療人材の確保事業	平成24年度～平成28年度
大学の世界展開力強化事業	工学府	地球資源工学グローバル人材育成のための学部・ 大学院ビルドアップ協働教育プログラム	平成24年度～平成28年度
大学の世界展開力強化事業	法学府	スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによ る普遍性と多様性の均衡を目指して	平成24年度～平成28年度
大学間連携共同教育推進事業	システム情報科学府	未来像を自ら描く電気エネルギー分野における実践 的人材の育成	平成24年度～平成28年度
経済社会の発展を牽引するグローバル人 材育成支援	農学部	国際的視野を持ったアグリバイオリダーの育成プ ログラム	平成24年度～平成28年度
博士課程教育リーディングプログラム	総合理工学府、工学府	グリーンアジア国際戦略プログラム	平成24年度～平成30年度
博士課程教育リーディングプログラム	工学府、理学府、システ ム情報科学府	分子システムデバイス国際研究リーダー養成およ び国際教育研究拠点形成	平成24年度～平成30年度
国立大学改革推進事業(総合支援型)	全学	基幹教育の構築による新たな学士課程教育モデル の提起	平成24年度～平成29年度

### 【平成25年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
国際原子力人材育成イニシアティブ事業 「機関横断的な人材育成事業」	工学府	「総合的原子力人材育成カリキュラムの開発～計算 機シミュレーションを活用した実績的原子力実験・演 習プログラムの整備～」	平成25年度～平成27年度
成長分野等における中核的専門人材養成 の戦略的推進事業	人間環境学研究院	中核的専門人材育成のためのグローバル・コンソー シアム等	平成25年度～平成27年度
先進的医療イノベーション人材養成事業 (未来医療研究人材養成拠点形成事業)	医学研究院	イノベーションを推進する国際的人材の育成	平成25年度～平成29年度
先進的医療イノベーション人材養成事業 (未来医療研究人材養成拠点形成事業)	病院	地域包括医療に邁進する総合診療医育成	平成25年度～平成29年度
博士課程教育リーディングプログラム	全学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	平成25年度～平成31年度

※出典：九州大学概要

## 14-2. 教育プログラム採択状況(つづき)

### 【平成26年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
グローバルサイエンスキャンパス	理学部、工学部、芸術工学部、農学部	世界に羽ばたく未来創成科学者育成プロジェクト	平成26年度～平成29年度
課題解決型高度医療人材養成プログラム	医学部	実践能力強化型チーム医療加速プログラム	平成26年度～平成30年度
スーパーグローバル大学創成支援	全学	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成(SHARE-Q)	平成26年度～平成35年度

### 【平成27年度新規採択分】

なし

### 【平成28年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
大学の世界展開力強化事業	総合理工学府	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム -ダブルディグリープログラムの高度化と定着・恒常化-	平成28年度～平成32年度
大学の世界展開力強化事業	人間環境学府	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	平成28年度～平成32年度
教育関係共同利用拠点	基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点	平成28年度～平成30年度

### 【平成29年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
先進的医療イノベーション人材育成事業	医学系学府、薬学府	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン	平成29年度～平成33年度
原子力人材育成等推進事業	工学研究院	多角的思考力の養成と規制を加味した九州大学原子力カリキュラムの充実	平成29年度～平成33年度

※出典：九州大学概要





国立大学法人九州大学  
企画部企画課分析係  
I R (インスティテューショナル・リサーチ) 室

〒819-0395 福岡市西区元岡744  
TEL 092-802-2145